

市川市地域福祉計画策定のための
アンケート調査報告書

令和4年12月
市川市

目次

1. 調査の概要	1
① 調査実施の目的	3
② 調査の設計	3
③ 配布・回収	4
④ 前回の調査設計との違い	4
⑤ 報告書を利用するにあたって	5
2. 主な調査結果	7
① 地域との関わりについて	9
② 防災について	13
3. 調査結果の詳細／市民（Web 回答）	15
① 性別	17
② 年齢	18
③ 居住地区	20
④ 市内在住歴	22
⑤ 家族構成	24
⑥ 子どもや高齢者の有無	27
⑦ 介護が必要な家族の有無	28
⑧ 就労の有無	29
⑨ 自身の介護や支援の必要性	31
⑩ 介護や支援サービスを利用していない理由	33
⑪ 近所づきあいの程度	35
⑫ 日常生活での困り事・不安事	40
⑬ 日常生活での困り事・不安事の解決方法	41
⑭ 地域ケアシステムの認知度	42
⑮ 生活上の問題で相談したいときの相談相手	44
⑯ 地域の生活課題についての住民同士の支え合いや助け合い	47
⑰ 地域で気がかりな人の有無	50
⑱ 地域で気がかりな人	51
⑲ 気がかりな人へ行っている支援	54
⑳ 自治会の加入状況	55
㉑ 自治会の加入方法	59
㉒ 自治会に加入していない理由	61

⑳	地域活動への参加状況	62
㉑	参加したことのある地域活動.....	66
㉒	地域活動への参加にあたり気になること.....	68
㉓	地域福祉活動への参加	70
㉔	地域福祉活動の課題.....	71
㉕	地域活動により多くの人が参加できるようにするために必要なこと	72
㉖	地域福祉の充実のため市が優先的に取り組むべきこと	75
㉗	地域や民間の団体・事業者等が積極的に取り組むべきこと.....	77
㉘	地震や台風等の災害時の避難で不安に感じること	79
㉙	地震や災害に備えた日頃の対策.....	81
㉚	災害対策としての地域での備え	83
㉛	災害時避難・救助のための名簿作成への参加意向	84
㉜	災害時や日常生活に支障がある際の声かけや簡単な援助の依頼意向.....	86
㉝	避難行動要支援者名簿作成に関する意識	90
㉞	地域共生社会に向け市が力を入れて取り組むべきこと	92
4.	調査結果の詳細／市民（紙回答）	95
①	性別	97
②	年齢	97
③	居住地区	98
④	市内在住歴.....	100
⑤	家族構成	102
⑥	子どもや高齢者の有無	104
⑦	介護が必要な家族の有無	105
⑧	就労の有無	107
⑨	自身の介護や支援の必要性	110
⑩	介護や支援サービスを利用していない理由	112
⑪	近所づきあいの程度	114
⑫	日常生活での困り事・不安事	117
⑬	日常生活での困り事・不安事の解決方法	120
⑭	地域ケアシステムの認知度.....	122
⑮	生活上の問題で相談したいときの相談相手.....	124
⑯	地域の生活課題についての住民同士の支え合いや助け合い.....	125
⑰	地域で気がかりな人の有無	127
⑱	地域で気がかりな人	128

⑱	気がかりな人へ行っている支援.....	129
⑲	自治会の加入状況.....	130
⑳	自治会の加入方法.....	133
㉑	自治会に加入していない理由.....	135
㉒	地域活動への参加状況.....	136
㉓	参加したことのある地域活動.....	140
㉔	地域活動への参加にあたり気になること.....	142
㉕	地域福祉活動への参加.....	144
㉖	地域福祉活動の課題.....	145
㉗	地域活動により多くの人に参加できるようにするために必要なこと.....	146
㉘	地域福祉の充実のため市が優先的に取り組むべきこと.....	150
㉙	地域や民間の団体・事業者等が積極的に取り組むべきこと.....	152
㉚	地震や台風等の災害時の避難で不安に感じること.....	154
㉛	地震や災害に備えた日頃の対策.....	157
㉜	災害対策としての地域での備え.....	160
㉝	災害時避難・救助のための名簿作成への参加意向.....	162
㉞	災害時や日常生活に支障がある際の声かけや簡単な援助の依頼意向.....	165
㉟	避難行動要支援者名簿作成に関する意識.....	169
㊱	地域共生社会に向け市が力を入れて取り組むべきこと.....	172
5.	調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人.....	175
①	団体名.....	177
②	所在地区.....	178
③	活動区域.....	180
④	団体の種類.....	182
⑤	活動の場.....	183
⑥	団体と市との関係性.....	184
⑦	取り組んでいる活動内容.....	185
⑧	講演会やイベント開催時の使用場所.....	187
⑨	コロナ禍による困難や課題.....	188
⑩	コロナ禍での活動実施への工夫.....	189
⑪	地域住民からの相談内容.....	191
⑫	相談を受けた場合の対応.....	192
⑬	地域での活動等の際の連携団体.....	193
⑭	機関誌（紙）・会報の発行状況.....	194

⑮	活動内容などの情報発信	195
⑯	活動を行う上での問題点・課題	196
⑰	今後、福祉活動を活性化していくために、特に必要なこと	197
⑱	地域で福祉活動を進めるうえでの行政に対する要望・期待	199
⑲	地域ケアシステムの認知度	201
⑳	地域ケアシステムの活動への関与意向	203
㉑	地域ケアシステムの活動への関与意向の理由	205
㉒	地域ケアシステムが関わる会議への参加の有無	207
㉓	地域ケアシステムの周知に必要な取り組み	209
㉔	コミュニティワーカー配置の認知状況	212
㉕	地域ケアシステムでやってもらいたいこと	214
㉖	以前と比べた自身の活動区域における地域福祉の変化	217
㉗	以前と比べて活動地域において推進された地域福祉	220
㉘	「避難行動要支援者」に関連した活動への参加協力	222
㉙	災害時における助け合いのために必要な日常的取り組み	224
㉚	地域福祉の充実のため市が優先的に取り組むべきこと	227
㉛	地域や民間の団体・事業者等が積極的に取り組むべきこと	229
㉜	地域で支えあう仕組みづくりのため必要なもの	231
㉝	地域福祉を推進する地域の人材（担い手）を増やすために必要なこと	232
㉞	地域共生社会に向け市が力を入れて取り組むべきこと	233
㉟	課題・問題を抱えた市民発見への協力	235
6.	調査結果の詳細／民生委員・児童委員	237
①	性別	239
②	年齢	240
③	活動・所属地区	242
④	活動年数	244
⑤	1か月の活動日数	246
⑥	活動を通じて良かったこと	248
⑦	活動で大変なこと、困っていること	249
⑧	相談を受ける経路	250
⑨	地域での活動等の際の連携団体	251
⑩	担当地区で困っている人の把握	252
⑪	担当地区での課題	254
⑫	活動をする中で抱えている課題	255

⑬	個別相談・支援や見守り（安否確認）活動での悩みや課題	257
⑭	今後、活動を活性化していくために、特に必要なこと	259
⑮	活動を行うにあたり、地域住民の中の協力者の必要性	261
⑯	協力者に適当な方	264
⑰	地域での理解	266
⑱	住民や関係機関に対して PR を行っているとき	269
⑲	住民への情報提供	271
⑳	地域で活動を進めるうえでの行政に対する要望・期待	273
㉑	地域ケアシステムの認知度	275
㉒	地域ケアシステムの活動への関与意向	277
㉓	地域ケアシステムの活動への関与意向の理由	279
㉔	地域ケアシステムの会議への参加有無	286
㉕	地域ケアシステムの会議に参加して、今後充実させた方がよいと思う活動	288
㉖	地域ケアシステムの周知に必要な取り組み	291
㉗	コミュニティワーカー配置の認知状況	294
㉘	地域ケアシステムでやってもらいたいこと	296
㉙	以前と比べた自身の活動地区における地域福祉の変化	298
㉚	以前と比べて活動地域において推進された地域福祉	301
㉛	コロナ禍で、集まって活動するための工夫	303
㉜	コロナ禍で、集まらずに活動するための工夫	306
㉝	「避難行動要支援者」に関連した活動への参加協力	309
㉞	災害時における助け合いのために必要な日常的取り組み	311
㉟	地域福祉活動活性化のための取り組みへの参加	314
㊱	参加している取り組み	316
㊲	地域福祉を推進する地域の人材（担い手）を増やすために必要なこと	318
㊳	地域福祉の充実のため市が優先的に取り組むべきこと	320
㊴	地域や民間の団体・事業者等が積極的に取り組むべきこと	322
㊵	地域共生社会に向け市が力を入れて取り組むべきこと	324
㊶	課題・問題を抱えた市民発見への協力	326
7.	調査結果の詳細／福祉委員	329
①	性別	331
②	年齢	332
③	活動・所属地区	334
④	活動年数	336

⑤	出身母体	338
⑥	福祉委員の活動として意識しているもの	339
⑦	行政への相談や手助けの有無	340
⑧	地域での活動等の際の連携団体	341
⑨	担当地区で困っている人の把握	342
⑩	担当地域での課題	343
⑪	活動をする中で抱えている課題	344
⑫	今後、活動を活性化していくために、特に必要なこと	345
⑬	地域で支えあう仕組みづくりのため必要なもの	346
⑭	地域福祉を推進する地域の人材（担い手）を増やすために必要なこと	348
⑮	地域ケアシステムの重要性	349
⑯	地域ケアシステムとはどのようなものか	351
⑰	コミュニティワーカーに期待する支援内容	358
⑱	地域ケアシステムで今後重視すべきこと	360
⑲	以前と比べた自身の活動区域における地域福祉の変化	362
⑳	以前と比べて活動地域において推進された地域福祉	365
㉑	地域住民による地域福祉活動の課題	367
㉒	地域福祉活動への参加者を増やすのに必要なこと	369
㉓	コロナ禍で、集まって活動するための工夫	371
㉔	コロナ禍で、集まらずに活動するための工夫	375
㉕	地域福祉の充実のため市が優先的に取り組むべきこと	378
㉖	地域や民間の団体・事業者等が積極的に取り組むべきこと	380
㉗	地域共生社会に向け市が力を入れて取り組むべきこと	382
㉘	課題・問題を抱えた市民発見への協力	384
8.	ボランティア団体・NPO 法人、民生委員・児童委員、福祉委員の比較	387

1. 調査の概要

① 調査実施の目的

今回の「市民意向調査(令和4年度)」は、市民等の視点から見た地域福祉に対する意識・ニーズの基本動向を把握・分析するとともに、そこから導き出される課題を整理し、「第5期市川市地域福祉計画」策定及び今後の施策展開に資することを目的に実施した。

② 調査の設計

本調査は、以下の対象者に対し、調査を実施した。

対象	項目	内容
①市民(Web 回答)	抽出方法	市内在住の市民
	調査方法	Web 回答 【調査時期:令和4年8月～9月】
	対象者数	—
②市民(紙回答)	抽出方法	市内在住の65歳以上の市民を無作為抽出
	調査方法	郵送配布—郵送回収 【調査時期:令和4年9月】
	対象者数	300人
③ボランティア団体・NPO法人	抽出方法	市川市ボランティア協会会員及び市内の千葉県認証NPO法人(保健・医療・福祉又は子どもの健全育成に関連のある団体)
	調査方法	郵送配布—郵送回収、Web 回答 【調査時期:令和4年9月】
	対象者数	123団体
④民生委員・児童委員	抽出方法	市川市において民生委員・児童委員を務めている方
	調査方法	8月の地区民生委員児童委員協議会の各地区の会長に説明し、9月の地区民生委員児童委員協議会で配布。10月の地区民生委員児童委員協議会の際に回収(Web 回答も可) 【調査時期:令和4年9月～10月】
	対象者数	460人(全員)
⑤福祉委員	抽出方法	市川市において福祉委員を務めている方
	調査方法	「相談員会議」等。地区における会議の際に配布する等、地区において個別に配布・回収方法を工夫して実施(Web 回答も可) 【調査時期:令和4年9月～10月】
	対象者数	690人(全員)

※①市民(Web 回答)と②市民(紙回答)の設問は全て同じ。

1.調査の概要

③ 配布・回収

調査種別	配布数	有効回収数	有効回収率
①市民(Web 回答)	-	681	-
②市民(紙回答)	300	148	49.3%
③ボランティア団体・NPO 法人	123	63	51.2%
④民生委員・児童委員	460	426	92.6%
⑤福祉委員	690	331	48.0%

※有効回答率は小数点第2位を四捨五入したもの。

④ 前回の調査設計との違い

平成28年度は、以下の方法で調査を実施した。今回の調査結果と異なる部分があるので、比較するにあたっては注意されたい。

調査種別	項目	内容
①市民	抽出方法	市内在住の20歳以上65歳未満の方から無作為抽出
	調査方法	郵送配布－郵送回収 【調査時期:平成28年11月】
	対象者数	800人【有効回収数(率):316(39.5%)】
②市民(紙回答)	抽出方法	市内在住の65歳以上の方から無作為抽出
	調査方法	郵送配布－郵送回収 【調査時期:平成28年11月】
	対象者数	700人【有効回収数(率):461(65.9%)】
③ボランティア団体・NPO 法人	抽出方法	市民活動団体支援制度を利用している団体・法人
	調査方法	郵送配布－郵送回収 【調査時期:平成28年11月】
	対象者数	112団体【有効回収数(率):59(52.7%)】
④民生委員・児童委員	抽出方法	市川市において民生委員・児童委員を務めている方
	調査方法	10月の地区民生委員児童委員協議会の各地区の会長に説明し、11月の地区民生委員児童委員協議会で配布し、12月の地区民生委員児童委員協議会の際に回収 【調査時期:平成28年11月～12月】
	対象者数	全員【有効回収数(率):435(-)】
⑤福祉委員	抽出方法	市川市において福祉委員を務めている方
	調査方法	「地域ケア推進連絡会」において調査票を配布、出席できなかった方については郵送で対応。回収は窓口持参又は郵送とした。 【調査時期:平成28年11月～12月】
	対象者数	全員【有効回収数(率):565(-)】

⑤ 報告書を利用するにあたって

1. 図・表中の n、件数とは以下の通りである。
2. 回答は n、件数を 100%として百分率で算出してある。小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、百分率の合計が全体を示す数値とは一致しないことがある。
3. 複数回答ができる質問では、回答比率の合計が 100%を超える。
4. 各質問において、年齢別や地区別など調査対象者の基本属性にかかわる図・表については、年齢や地区などの基本属性に「無回答」があるため、全体の示す数値と一致しないことがある。
5. グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
6. 本文中、表側に使用した項目の回答者数が少ない選択肢は誤差が大きいため、分析の対象としていない場合がある。

2. 主な調査結果

① 地域との関わりについて

■地域ケアシステムの認知度

地域ケアシステムの認知度について、「知っている」の割合は市民(Web 回答)が 10.1%、市民(紙回答)が 13.5%となっている。一方、ボランティア団体・NPO 法人では 31.7%、民生委員・児童委員では 58.5%となっている。(前回調査では市民が 5.7%、高齢者が 16.3%、ボランティア団体・NPO 法人が 40.7%、民生委員・児童委員が 68.7%)

■地域ケアシステムを市民に知ってもらうための取組み

ボランティア団体・NPO 法人、民生委員・児童委員ともに「市の広報・ホームページで紹介する」が最も多く、ボランティア団体・NPO 法人が 55.6%、民生委員・児童委員が 31.7%となっている。

コミュニティワーカーを配置していることについて知っているかを尋ねたところ、「知らない」と回答した割合は、ボランティア団体・NPO 法人では 58.7%、民生委員・児童委員では 44.1%となっている。(前回調査ではボランティア団体・NPO 法人が 55.9%、民生委員・児童委員が 21.4%)

地域ケアシステムについては、民生委員・児童委員やボランティア団体・NPO 法人における認知度は比較的高い傾向にあるが、前回調査より「知らない」が増加している。一方で、市民の認知度は低く、市の広報やホームページを活用した情報発信の強化を求める声が多かった。

また、コミュニティワーカーを配置していることを把握していない割合も多く、今後広く情報発信していくことが求められている。

■自治会の加入状況

「加入している」は市民(Web 回答)が 67.1%、市民(紙回答)が 81.1%だった。前回調査では市民が 65.2%、高齢者が 76.6%だったため、どちらも加入率は上昇している。

居住地区別にみると、市民(Web 回答)・(紙回答)は「北部(Web:79.0%、紙:85.2%)」が最も多く、「南部(Web:54.8%、紙:73.1%)」が最も少なくなっている。

市民(Web 回答)に「加入していない」理由を尋ねる設問では、「加入するきっかけ(勧誘等)が無い」が最も多く、25.8%だった。

自治会の加入率は、市民(紙回答)ほど加入者が多い傾向があり、地域ごとにばらつきもみられた。自治会をはじめとした様々な地域コミュニティの活動は、地域福祉を推進していく上での基礎となっている。本市全体において、自治会の加入率は上昇してはいるものの、引き続き自治会活動の活性化や会員確保への取組みの強化が求められる。

2.主な調査結果

■近所づきあいの程度

「困ったときにはなんでも相談し助け合える人がいる」の割合は、市民(Web 回答)が 13.7%、市民(紙回答)が 14.9%(前回調査では、市民が 8.9%、高齢者が 15.0%)、「ほとんど近所づきあいはない」の割合は、市民(Web 回答)が 18.4%、市民(紙回答)が 9.5%となっている。(前回調査では、市民が 25.6%、高齢者が 7.8%)

『ある程度近所づきあいがある(「内容によっては困ったときに相談し助け合える人がいる」+「立ち入った相談事はしないが世間話をする程度の人はいる」+「世間話などはしないが挨拶をする程度の人はいる)』と回答した人の割合は、市民(Web 回答)が 68.0%、市民(紙回答)が 75.7%となっている。(前回調査では、市民が 61.1%、高齢者が 77.0%)

■地域で気がかりな人について

「いる」と回答した市民(Web 回答)は 13.7%、市民(紙回答)は 13.5%だった。

「いる」と回答した人に対し、気がかりなのはどのような方か尋ねたところ、「本人や家族の介護で困っている」の回答が市民(Web 回答)は 46.2%、市民(紙回答)は 25.0%で最も多く、次いで「地域から孤立している」が市民(Web 回答)は 19.4%、市民(紙回答)は 15.0%となっている。

■地域の生活課題についての住民同士の支え合いや助け合い

『支えてほしい(「現在支えてもらっていることがある」+「今後は支えてほしいと思う」+「災害時等には支えてほしいと思う」+「支えてほしいが難しいと思う)』と回答した人の割合は、市民(Web 回答)が 94.0%、市民(紙回答)が 93.3%となっている。

特に、「災害時等には支えてほしいと思う」は市民(Web 回答)が 49.5%、市民(紙回答)は 54.1%で、回答した人の割合が最も多かった。一方で、「地域の人に支えてほしいと思わない」の割合は、市民(Web 回答)が 6.0%、市民(紙回答)が 4.1%にとどまっている。

■地域福祉を推進する担い手を増やすのに必要なこと

「気軽に集まれる場の設定や催し物、行事を通じて、地域の福祉活動への協力を呼び掛ける」が最も多く、ボランティア団体・NPO 法人では 50.8%、民生委員・児童委員では 65.3%、福祉委員では 73.7%となっている。

近所づきあいについては、市民（Web 回答）・（紙回答）ともに7割程度がある程度関わり合いを持っているが、市民（紙回答）では「ほとんど近所づきあいはない」との回答が、前回（平成28年）調査時の7.8%から今回9.5%に微増している（市民（Web 回答）では前回調査時の25.6%から今回18.4%へ減少）。そのため、高齢者の社会的孤立の進行が懸念される。一般的に、家族構成や生活様式の変化（核家族化、共働き世帯の増加等）による隣近所同士の交流減少や、コロナ禍によるお祭り・イベントの開催中止等により、地域の交流機会が減っていることが考えられるが、特に高齢者については筋力の低下による「閉じこもり」も懸念されるため、注意が必要である。

また、特に災害発生時などの場面では、地域での助け合いが必要と感じる声も多く（「災害時等には支えてほしいと思う」は市民（Web 回答）49.5%、市民（紙回答）54.1%）、地域住民が互いに協力し、助け合える地域社会づくりが求められている。日頃からのあいさつ・声かけ運動や見守り活動、身近な支え合い活動などを通じて、地域住民同士の繋がりを深め、住みよい地域づくりをしていく必要がある。

また、住民が地域福祉について自分事として意識を高めたり、担い手を増やしていくには、イベントや住民同士の交流の機会を設けることが重要と考える意見も多かった。

■以前と比べた地域福祉の変化について

ボランティア団体・NPO 法人、福祉委員ともに「福祉に関する情報提供が進んだ」が最も多く、ボランティア団体・NPO 法人では15.9%、福祉委員では20.2%となっている。一方、民生委員・児童委員は「進んだと思う点はない」が19.5%で最も多くなっている。

■地域や住民に対する支援活動について

「参加したことはない」は市民（Web 回答）が53.0%、市民（紙回答）56.1%となっており、ともに半数以上が未経験であるとの結果となった。

地域活動参加にあたり気になる点としては、市民（Web 回答）では「活動の情報が得にくい」が最も多く34.8%、市民（紙回答）では「特に感じない」が39.2%で最も多くなっている。

2.主な調査結果

■より多くの方が地域活動に参加するために必要なこと

市民(Web 回答)・(紙回答)ともに「市が、参加する方法についての具体的な情報を広く紹介する」が最も多く、市民(Web 回答)が 44.3%、市民(紙回答)が 36.5%となっている。

■地域福祉を充実させるために、市が優先的に取り組むべきこと

「身近な相談窓口の整備」(市民(Web 回答):29.4%、市民(紙回答):30.4%、ボランティア団体・NPO 法人:14.3%、民生委員・児童委員:35.4%、福祉委員:37.2%)や、「福祉に関する情報の提供」(市民(Web 回答):27.6%、市民(紙回答):29.7%、ボランティア団体・NPO 法人:19.0%、民生委員・児童委員:27.2%、福祉委員:31.4%)などが多くなっている。

■地域で支えあう仕組みづくりのために必要なこと

ボランティア団体・NPO 法人、福祉委員ともに「支えあう活動への参加方法を PR・確立する」が最も多く、ボランティア団体・NPO 法人では 39.7%、福祉委員では 47.7%となっている。

調査結果をみると、以前より福祉に関する情報提供は進んでいるものの、地域活動の充実のためには十分でないと感じている住民が多かった。

市が優先すべき取り組みとして挙げる意見も多く、ホームページをはじめ、SNS など様々な媒体を活用した広報など、福祉に関する情報を幅広く・効果的に発信していくことが重要となる。

また関連して、複雑かつ多様化する福祉ニーズへの対応や、地域課題の把握にあたっては、住民が身近に相談できる窓口の充実を図り、福祉に関する情報提供の促進も並行して進めていくことが求められる。

② 防災について

■日常生活での困り事・不安事

市民(Web 回答)・(紙回答)ともに「地震や台風等の自然災害」が最も多く、市民(Web 回答)は40.5%、市民(紙回答)は35.8%となっている。居住地区別でみると、「西部」が最も多く、市民(Web 回答)は46.5%、市民(紙回答)は42.9%となっている。

■災害時の対策としての地域での備えについて

市民(Web 回答)・(紙回答)ともに「災害時に支援を必要としている人の把握」が最も多く、市民(Web 回答)が55.7%、市民(紙回答)が62.8%となっている。

■災害時や日常生活に支障がある際の声かけや援助の意向について

「状況によっては頼みたい」は市民(Web 回答)が64.9%、市民(紙回答)が62.2%、「ぜひ頼みたい」は市民(Web 回答)が15.3%、市民(紙回答)が19.6%となっている。

■災害時の避難や救助のために、市役所・消防署・警察署や自治(町)会へ住所・氏名・連絡先などを事前に知らせておくことについて

「最低限の情報ならば知らせておいてもよい」は市民(Web 回答)が91.2%、市民(紙回答)は79.7%と、ともに高い割合となっている。

■名前や年齢、体の状況、家族の有無など、個人情報自治(町)会に知られることについて

災害時や日常生活に支障がある際に、自治(町)会から援助してもらうことにつき、「ぜひ頼みたい」「状況によっては頼みたい」と答えた人の中で、「最小限の情報(名前、年齢程度)ならかまわない」は市民(Web 回答)が65.6%、市民(紙回答)が68.6%、「必要な情報(体の状況のほか、生活・家族の状況など)は積極的に提供したい」は市民(Web 回答)が28.2%、市民(紙回答)が29.8%となっている。

2.主な調査結果

■災害時において助け合うために必要な、日常的な取組み

ボランティア団体・NPO 法人、民生委員・児童委員ともに「日常的な近所づきあい」が最も多く、ボランティア団体・NPO 法人が 34.9%、民生委員・児童委員が 49.8%となっている。

次いで、「救援の仕組みづくり」が、ボランティア団体・NPO 法人で 25.4%、民生委員・児童委員で 21.8%という結果となっている。

災害時には、要介護高齢者や障がい者といった支援を必要とする方々への声かけを行うなど、適切な避難の体制を作っていくことが重要となる。

調査結果をみると、近年の自然災害の頻発・激甚化を受け、住民の自然災害への不安の高まりがみられる。併せて、「避難行動要支援者」の把握についても高い意識を持っており、6割程度が把握しておくべきと考えている。また、災害時に加え、日常生活に支障がある際の援助を受けたいという声も多くなっている。

市民からは、適切な範囲であれば個人情報を知らせるのは構わない・積極的に提供したいという意見が多いため、実効性のあるネットワーク体制の確立などを通じ、地域一体となって災害時における人的被害を最小限にするための取組みを進めていく必要がある。

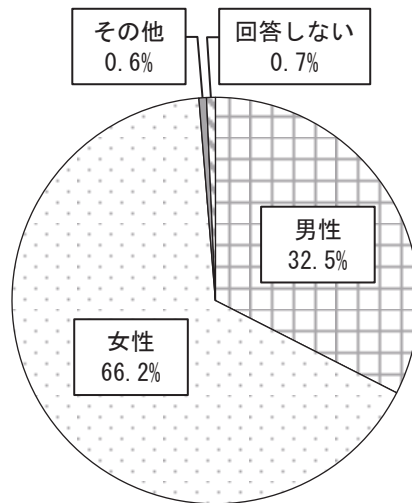
3. 調査結果の詳細／市民（Web 回答）

① 性別

問1 あなたの性別をお答えください。（○は1つだけ）

性別をみると、「男性」が 32.5%、「女性」が 66.2%、「回答しない」が 0.7%となっている。

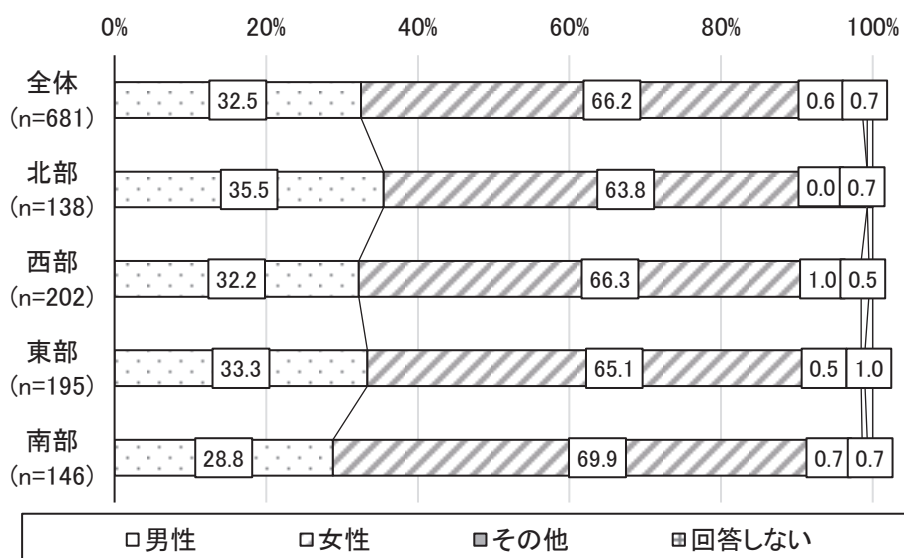
図表 1 性別



(n=681)

居住地区別にみると、「男性」は「北部(35.5%)」、「女性」は「南部(69.9%)」が最も多くなっている。

図表 2 性別(居住地区別)



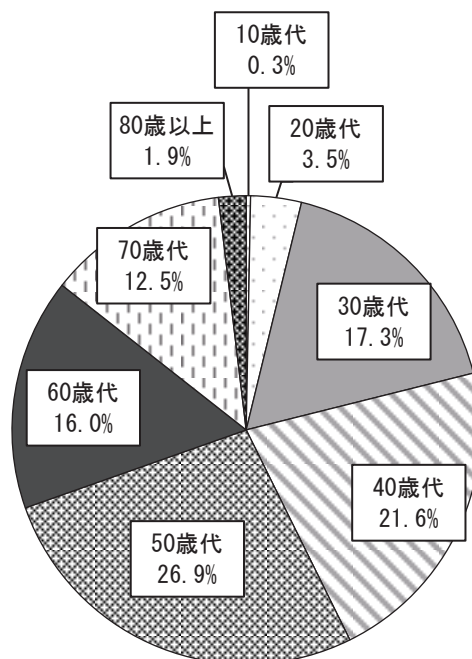
3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

② 年齢

問2 あなたの年齢をお答えください。（○は1つだけ）

年齢をみると、「50 歳代」が 26.9%、「40 歳代」が 21.6%、「30 歳代」が 17.3%となっている。

図表 3 年齢

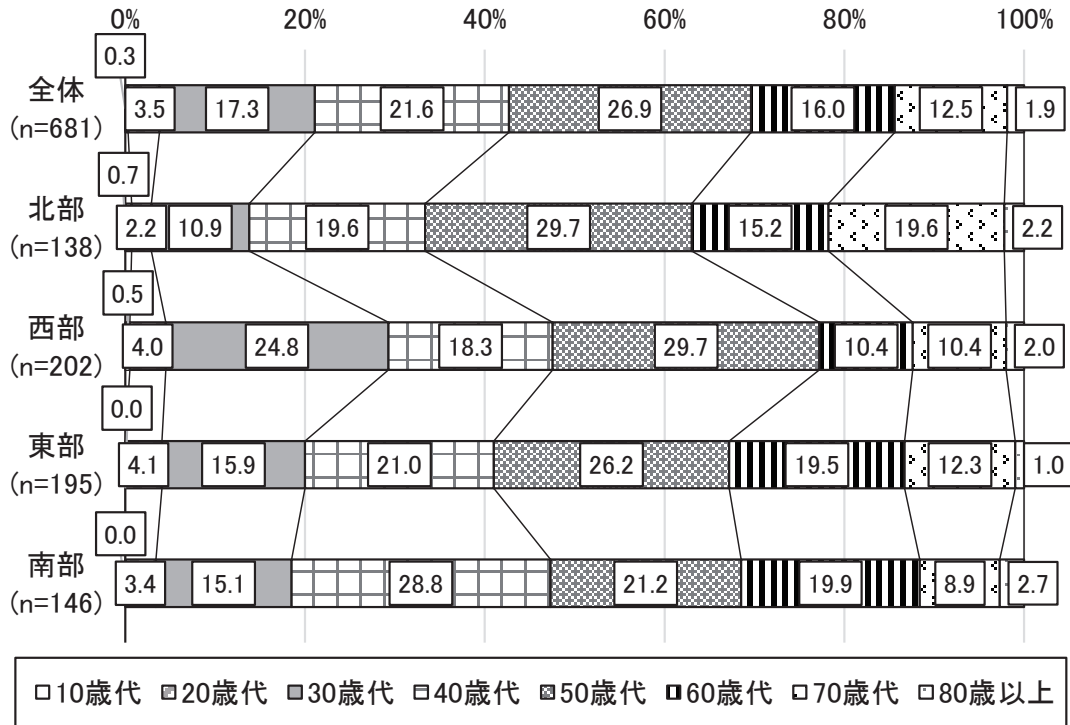


(n=681)

3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

居住地区別にみると、「50 歳代」は「北部(29.7%)」、「西部(29.7%)」、「40 歳代」は「南部(28.8%)」、「30 歳代」は「西部(24.8%)」が最も多くなっている。

図表 4 年齢(居住地区別)



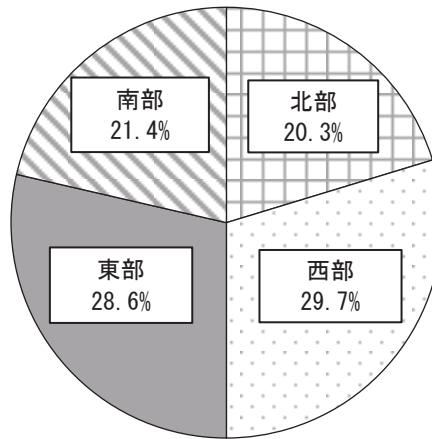
3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

③ 居住地区

問3 あなたは、現在どの地区にお住まいですか。（○は1つだけ）

居住地区をみると、「西部」が 29.7%で最も多く、以下「東部」が 28.6%、「南部」が 21.4%、「北部」が 20.3%となっている。

図表 5 居住地区(日常生活圏域別)



(n=681)

図表 6 居住地区

(%)

北部				西部				
国分	曾谷	大柏	宮久保 ・下貝塚	国府台	市川第1	市川第2	真間	菅野 ・須和田
5.9	2.8	6.9	4.7	1.3	6.2	12.5	1.3	8.4

東部			南部		
八幡	市川 東部	信篤 ・二俣	行徳	南行徳 第1	南行徳 第2
10.1	12.3	6.2	8.7	8.2	4.6

図表 7 地区の町丁

地区	地区の町丁
1. 国府台地区	国府台
2. 国分地区	国分、中国分、北国分、東国分、稲越、堀之内
3. 曾谷地区	曾谷
4. 大柏地区	大町、大野町、南大野、柏井町、奉免町
5. 宮久保・下貝塚地区	宮久保、下貝塚
6. 市川第1地区	市川、市川南(3・4丁目)、真間(1丁目)
7. 市川第2地区	市川南(1・2・5丁目)、新田、平田、大洲、大和田、東大和田、稲荷木
8. 真間地区	真間(2～5丁目)
9. 菅野・須和田地区	菅野、東菅野、須和田
10. 八幡地区	八幡、南八幡
11. 市川東部地区	北方町、本北方、北方、若宮、中山、高石神、鬼越、鬼高
12. 信篤・二俣地区	田尻、高谷、原木、二俣、二俣新町、東浜、上妙典、高谷新町
13. 行徳地区	河原、下新宿、本行徳、関ヶ島、伊勢宿、本塩、妙典、下妙典、富浜、塩焼、末広、宝、幸、加藤新田、高浜町、千鳥町
14. 南行徳第1地区	押切、湊、湊新田、香取、欠真間、相之川、広尾、新井、南行徳、島尻
15. 南行徳第2地区	行徳駅前、入船、日之出、福栄、新浜、塩浜

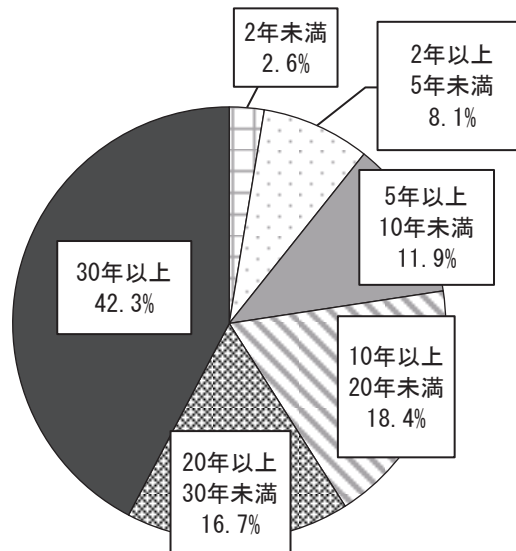
3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

④ 市内在住歴

問4 あなたは市川市に住むようになってから何年になりますか。（○は1つだけ）

市内在住歴をみると、「30年以上」が42.3%で最も多く、次いで「10年以上20年未満」が18.4%、「20年以上30年未満」が16.7%となっている。

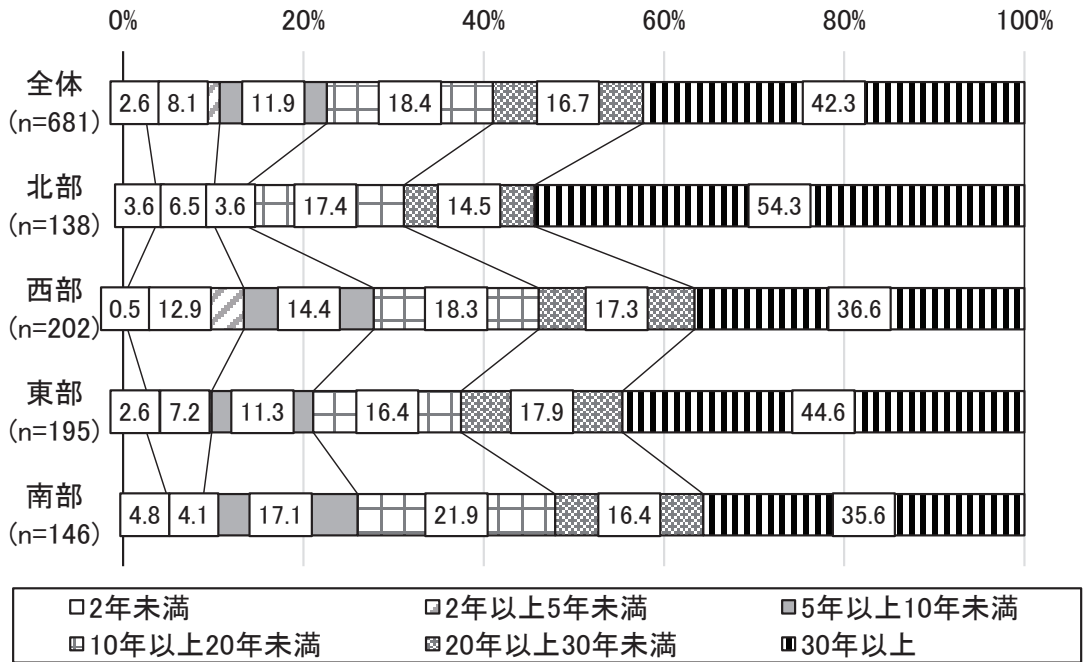
図表 8 市内在住歴



(n=681)

居住地区別にみると、「30年以上」は「北部(54.3%)」、「10年以上20年未満」は「南部(21.9%)」、「20年以上30年未満」は「東部(17.9%)」が最も多くなっている。

図表 9 市内在住歴(居住地区別)



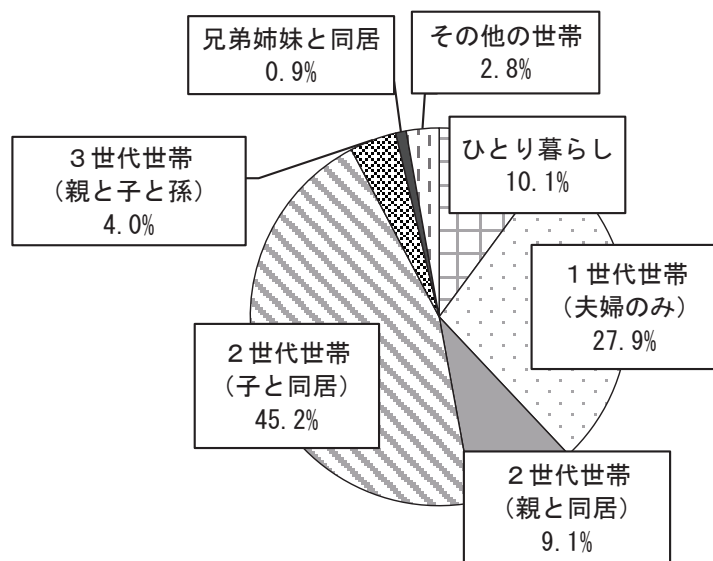
3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

⑤ 家族構成

問5 同居家族の構成をお答えください(自分も含む)。(〇は1つだけ)

家族構成をみると、「2世代世帯(子と同居)」が45.2%で最も多く、次いで「1世代世帯(夫婦のみ)」が27.9%、「ひとり暮らし」が10.1%となっている。

図表 10 家族構成

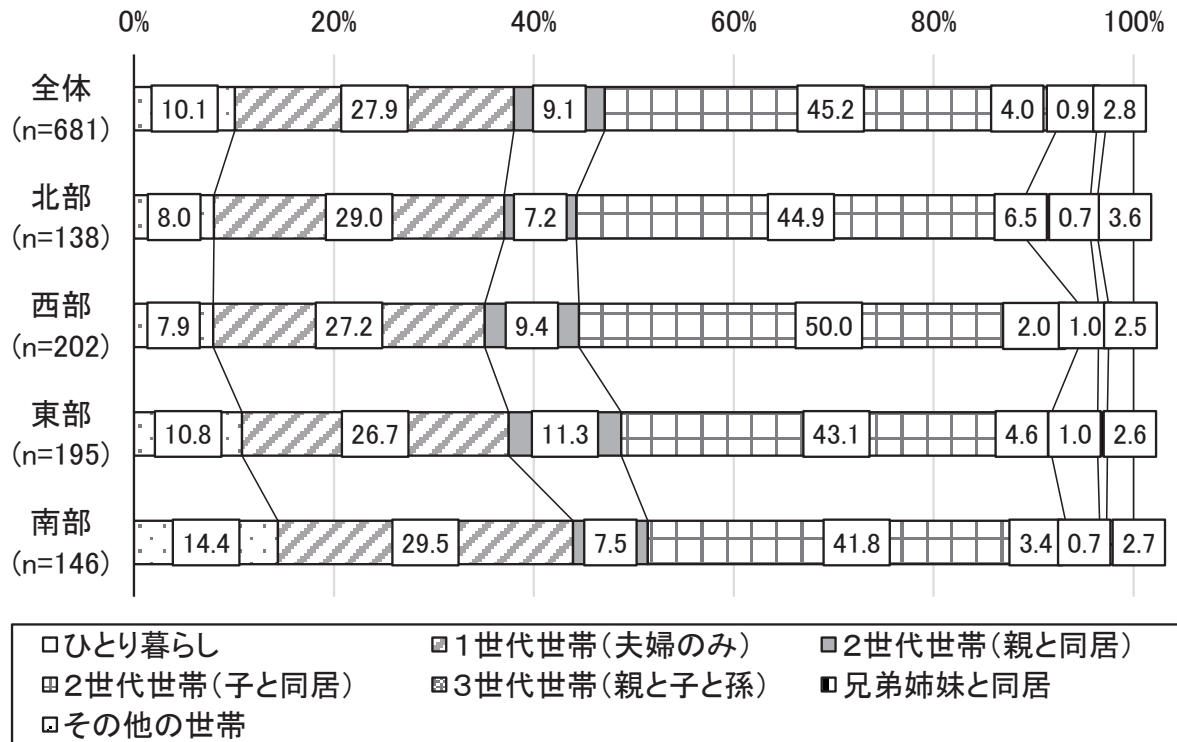


(n=681)

3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

居住地区別にみると、「2世代世帯(子と同居)」は「西部(50.0%)」、「1世代世帯(夫婦のみ)」は「南部(29.5%)」、「ひとり暮らし」は「南部(14.4%)」が最も多くなっている。

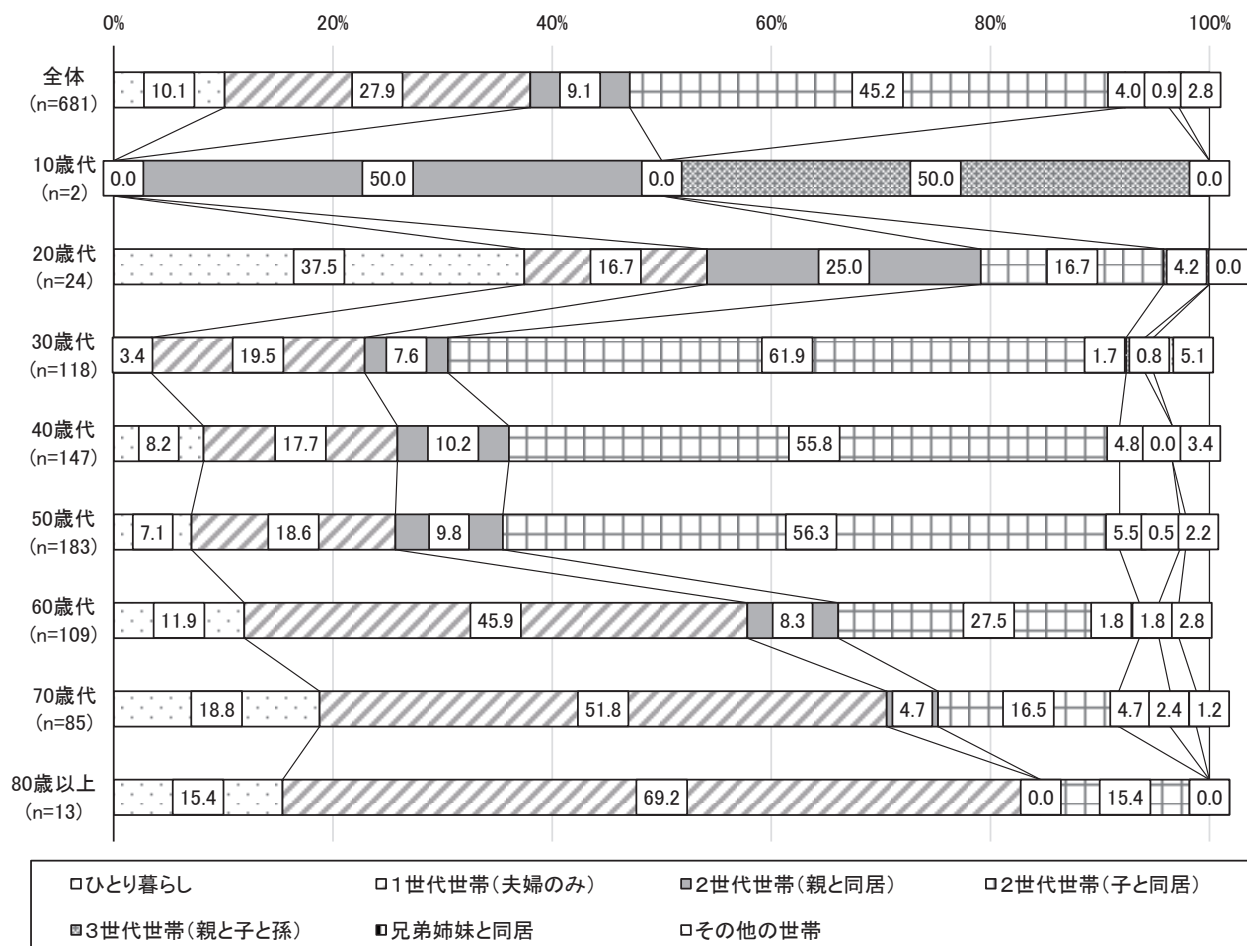
図表 11 家族構成(居住地区別)



3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

年齢別にみると、「2世代世帯(子と同居)」は「30 歳代(61.9%)」、「1世代世帯(夫婦のみ)」は「80 歳以上(69.2%)」、「ひとり暮らし」は「20 歳代(37.5%)」が最も多くなっている。

図表 12 家族構成(年齢別)

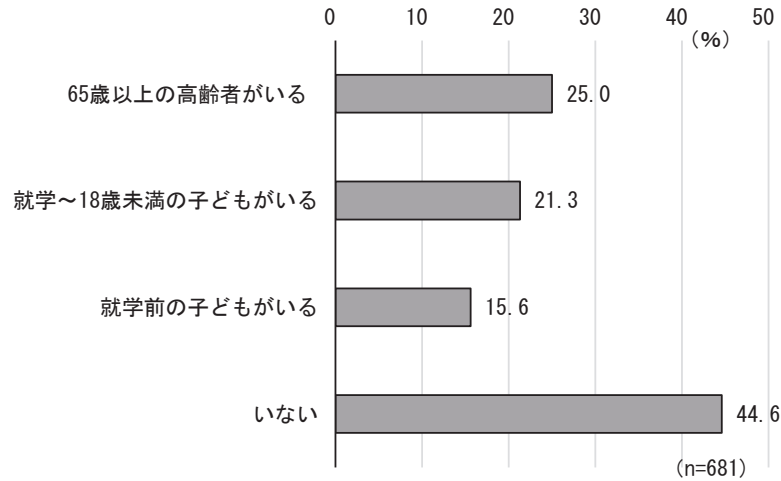


⑥ 子どもや高齢者の有無

問6 同居されているご家族に、18歳未満の子どもや65歳以上の高齢者がいますか。（あてはまるものすべてに○）

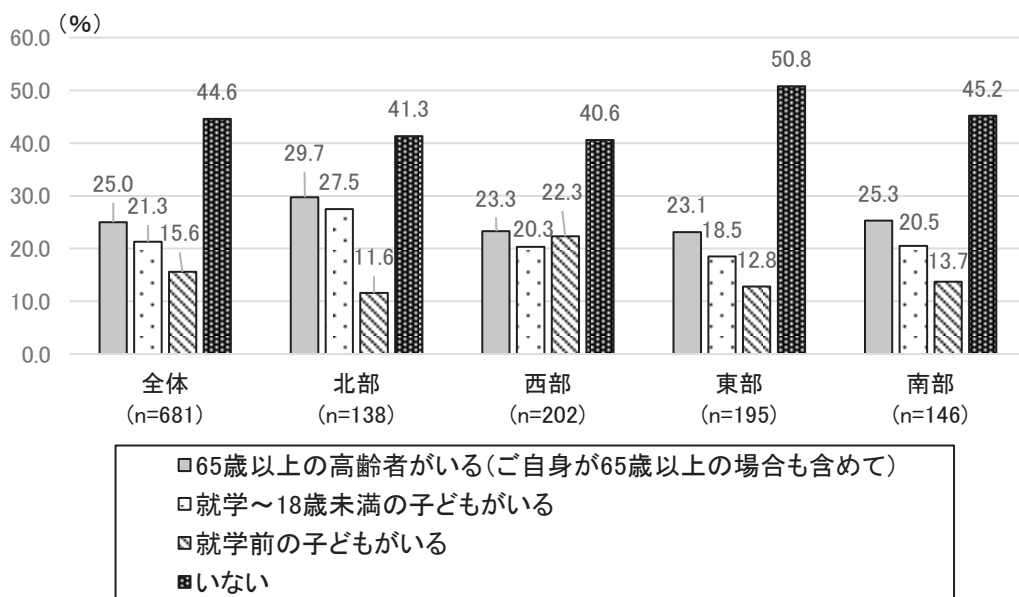
子どもや高齢者の有無をみると、「65歳以上の高齢者がいる」が25.0%、「就学～18歳未満の子どもがいる」が21.3%、「就学前の子どもがいる」が15.6%、「いない」が44.6%となっている。

図表 13 子どもや高齢者の有無



居住地区別にみると、「65歳以上の高齢者がいる」は「北部(29.7%)」、「就学～18歳未満の子どもがいる」は「北部(27.5%)」、「就学前の子どもがいる」は「西部(22.3%)」、「いない」は「東部(50.8%)」が最も多くなっている。

図表 14 子どもや高齢者の有無(居住地区別)



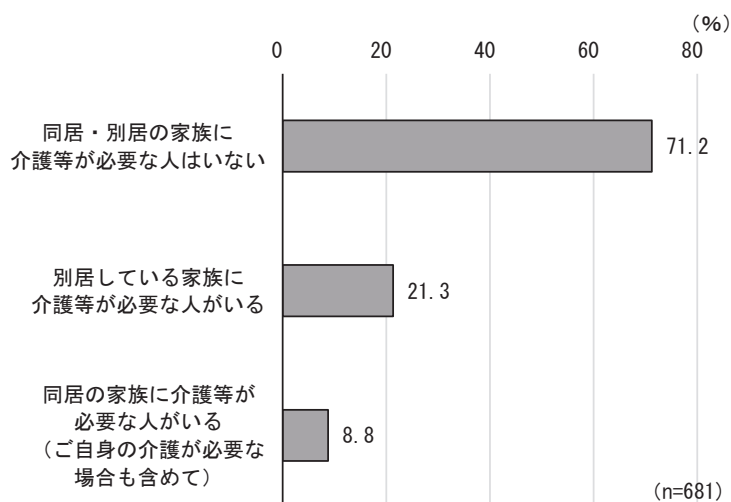
3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

⑦ 介護が必要な家族の有無

問7 同居・別居のご家族に、介護が必要な方がいますか。(あてはまるものすべてに○)

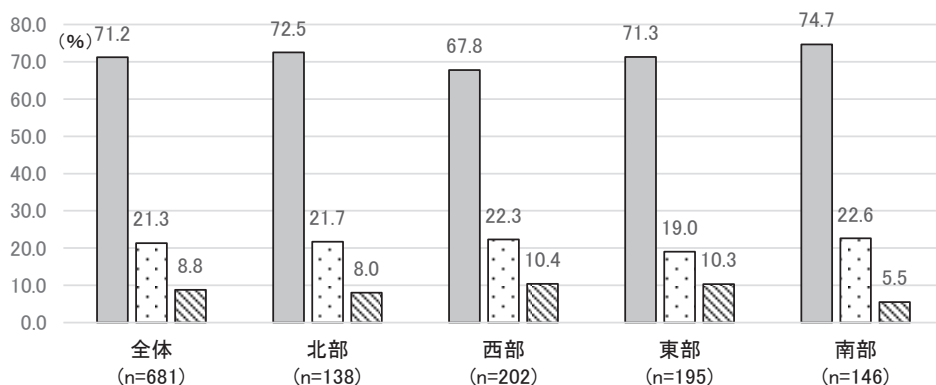
介護が必要な家族の有無をみると、「同居・別居の家族に介護等が必要な人はいない」が71.2%で最も多く、次いで「別居している家族に介護等が必要な人がある」が21.3%、「同居の家族に介護等が必要な人がある(ご自身の介護が必要な場合も含めて)」が8.8%となっている。

図表 15 介護が必要な家族の有無



居住地区別にみると、「同居・別居の家族に介護等が必要な人はいない」は「南部(74.7%)」、「別居している家族に介護等が必要な人がある」は「南部(22.6%)」、「同居の家族に介護等が必要な人がある(ご自身の介護が必要な場合も含めて)」は「西部(10.4%)」が最も多くなっている。

図表 16 介護が必要な家族の有無(居住地区別)



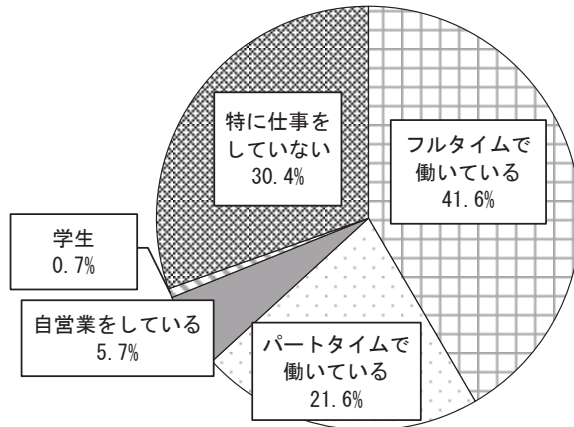
- 同居・別居の家族に介護等が必要な人はいない
- 別居している家族に介護等が必要な人がある
- ▨ 同居の家族に介護等が必要な人がある(ご自身の介護が必要な場合も含めて)

⑧ 就労の有無

問8 あなたはお仕事に就いていますか(○は1つだけ)

就労の有無をみると、「フルタイムで働いている」が41.6%で最も多く、次いで「特に仕事をしていない」が30.4%、「パートタイムで働いている」が21.6%となっている。

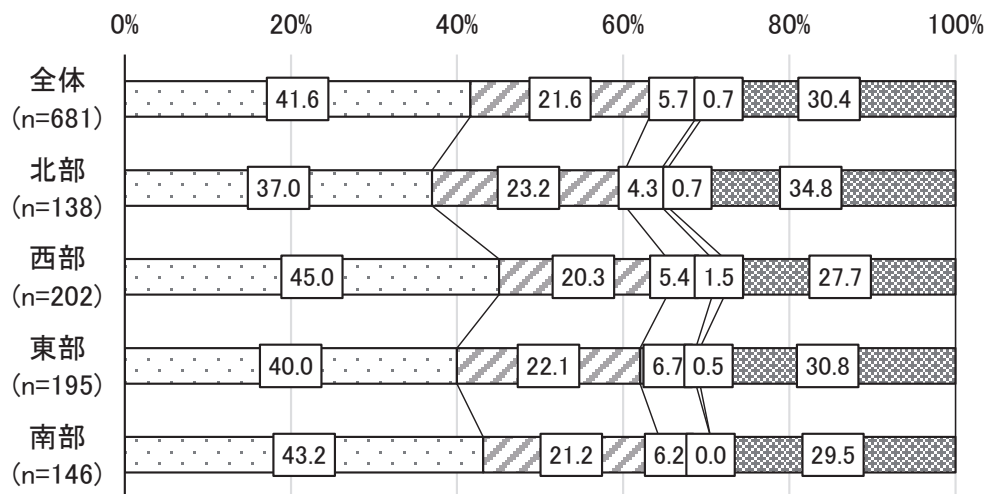
図表 17 就労の有無



(n=681)

居住地区別にみると、「フルタイムで働いている」は「西部(45.0%)」、「特に仕事をしていない」は「北部(34.8%)」、「パートタイムで働いている」は「北部(23.2%)」が最も多くなっている。

図表 18 就労の有無(居住地区別)

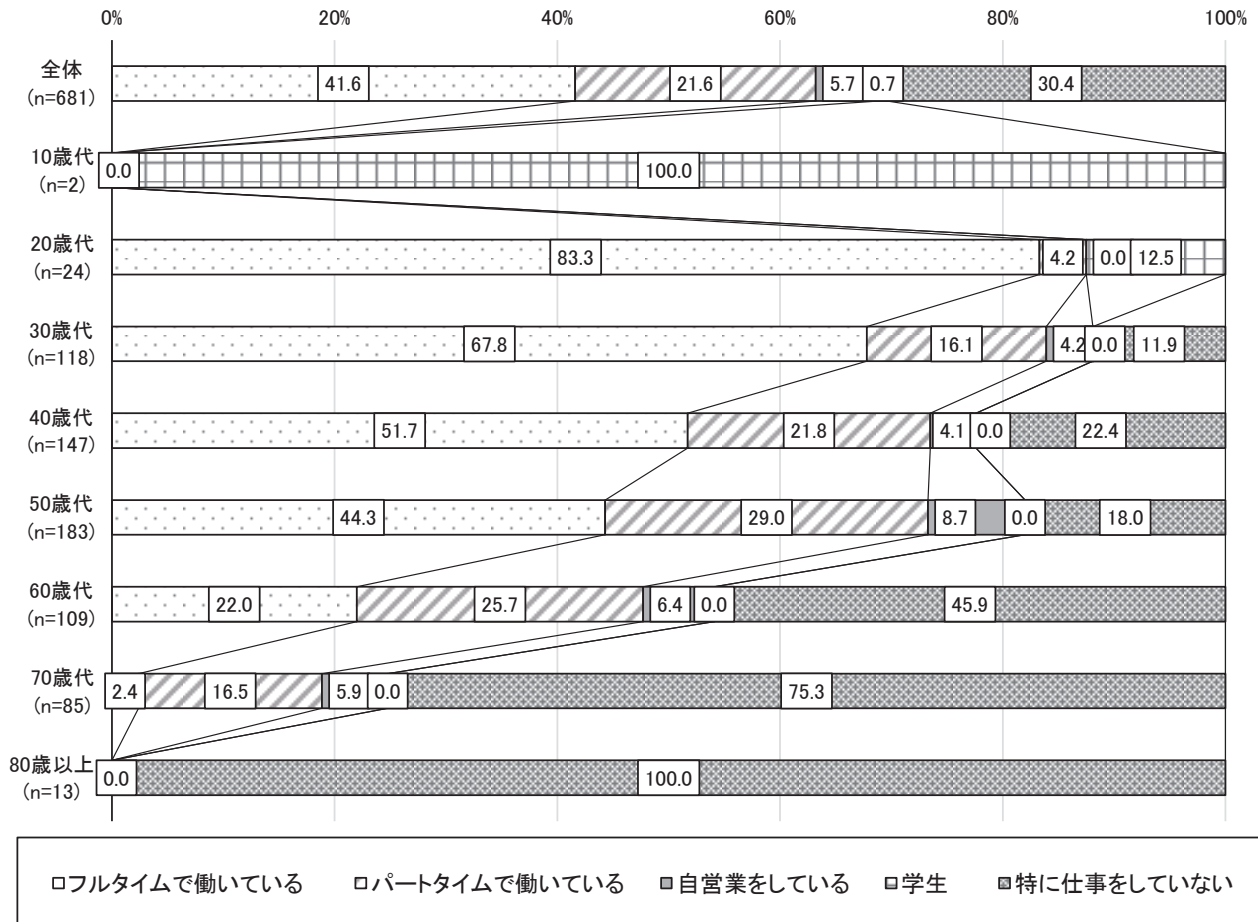


フルタイムで働いている パートタイムで働いている
自営業をしている 学生
特に仕事をしていない

3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

年齢別にみると、「フルタイムで働いている」は「20 歳代(83.3%)」、「特に仕事をしていない」は「80 歳以上(100.0%)」、「パートタイムで働いている」は「50 歳代(29.0%)」が最も多くなっている。

図表 19 就労の有無(年齢別)

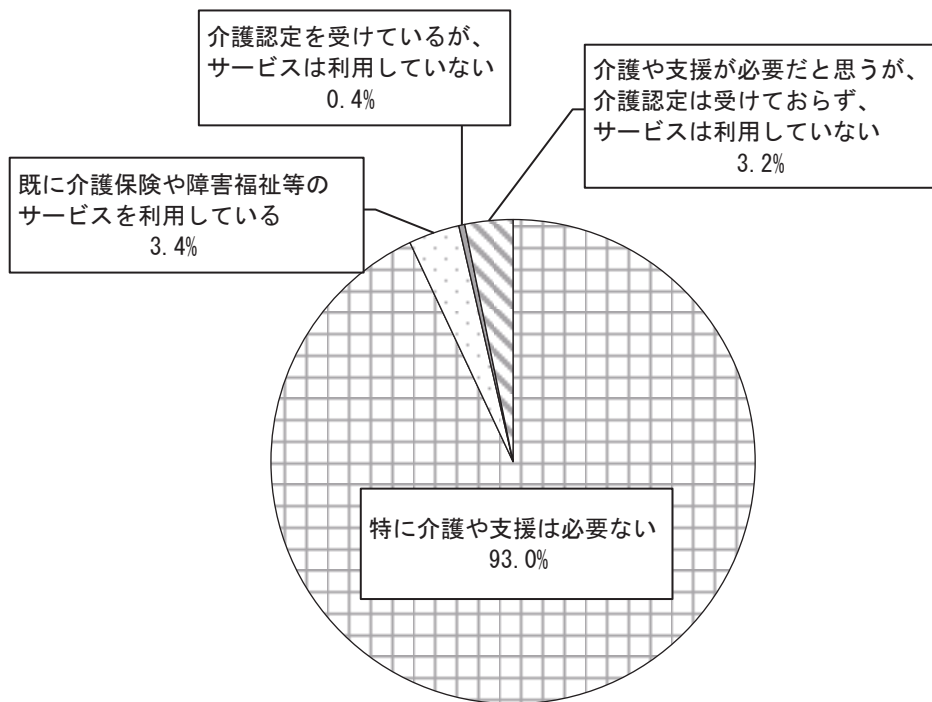


⑨ 自身の介護や支援の必要性

問9 あなたは、日常生活で介護や支援が必要ですか。（○は1つだけ）

自身の介護や支援の必要性をみると、「特に介護や支援は必要ない」が93.0%で最も多く、次いで「既に介護保険や障害福祉等のサービスを利用している」が3.4%、「介護や支援が必要だと思うが、介護認定は受けておらず、サービスは利用していない」が3.2%となっている。

図表 20 自身の介護や支援の必要性

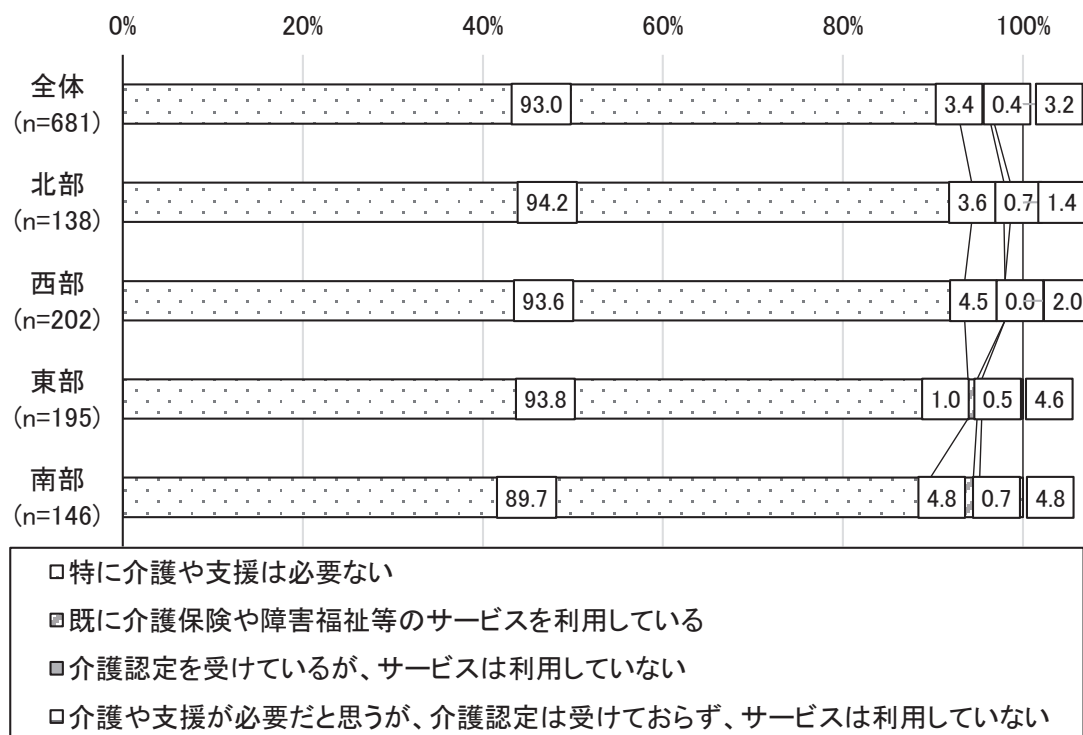


(n=681)

3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

居住地区別にみると、「特に介護や支援は必要ない」は「北部(94.2%)」、「既に介護保険や障害福祉等のサービスを利用している」は「南部(4.8%)」、「介護や支援が必要だと思うが、介護認定は受けておらず、サービスは利用していない」は「南部(4.8%)」が最も多くなっている。

図表 21 自身の介護や支援の必要性(居住地区別)



⑩ 介護や支援サービスを利用していない理由

問10 問9で「3. 介護認定を受けているが、サービスは利用していない」、「4. 介護や支援が必要だと思いが、介護認定は受けておらず、サービスは利用していない」を選択した方にお尋ねします。

サービスを利用していない理由は何ですか。（自由記載）

サービスを利用していない理由について意見を求めたところ、25件の意見が寄せられた。意見については、一回答者が複数の意見を記入している場合は、それぞれを1件として件数に加えている。主な意見を掲載しているが、主旨を尊重しながら表現をまとめるとともに誤字などを修正している。

項目別に見ると、「サービスを受ける必要が無いため(9件)」が最も多く、次いで「条件を満たせず利用できないため(5件)」、「サービスを良く知らない・手続きが面倒(4件)」が続いた。

多かった意見	件数
(ア) サービスを受ける必要が無いため	9
(イ) 条件を満たせず利用できないため	5
(ウ) サービスを良く知らない・手続きが面倒	4
(エ) その他	7
合計	25

(ア) サービスを受ける必要が無いため

主な意見
・ 今現在は、どこも悪く無いので至って健康な状態ですので特に問題は有りません。
・ まだまだだと思ふ。
・ 現在は健康であるがいずれは老いるので必ず必要となると思います。
・ 現状、身体不自由ではあるが家族も同居しており公的支援や公的サービスを受けるまでには至っていない為。
・ 今は必要としていないが、いずれ必要になるかもしれない。
・ 自分でまた動けることと、周りに同世代のお友だちなどが居ることから。
・ 必要ないから。
・ 体調が改善すれば働く事ができる。
・ 療育手帳を持っている子どもがいるが今はサービスを使わなくても生活できているため。

3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

(イ) 条件を満たせず利用できないため

主な意見
・ 期間限定で療養が必要な状態で、支援があつたら有り難いが、利用可能な支援は無い認識のため。
・ 障害、福祉サービスが必要だが受けさせてもらえてない。
・ 精神障害 3 級なので支援やサービスは受けられない。要介護 3 の義母の介助を昼間 1 人でしているので本当は助けてほしい。
・ 先のみえない病気治療中で、働きたくても働けない身ではあるが、介護を受ける該当の年齢にはあてはまらないし、まだ買い物も何とか行かれているし、家事もできるため。
・ 二人とも後期高齢者で、急に必要になった時サービスを受けられるように認定を受けた。市役所でその方が良いと助言された。

(ウ) サービスを良く知らない・手続きが面倒

主な意見
・ どのようなサービスがあるのかを知らないため。
・ 使用方法や種類がわかりにくい。手続きが多い。
・ 手続きが煩雑。
・ 知らなかったから。

(エ) その他

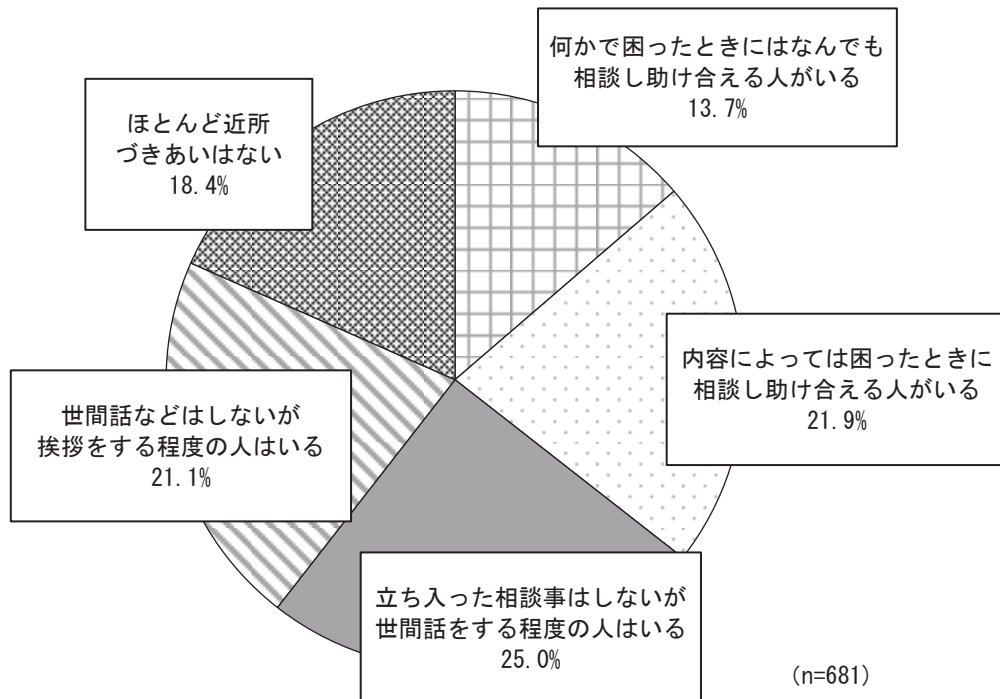
主な意見
・ 10 代から DV の父親から離れるために支援を求めても、警察、弁護士、市役所、支援団体、DV 相談…「出来ることはない」。
・ 高齢者本人の意志で拒絶している。
・ 自分は身体障がい者 2 級でできる限り自分の出来る事はやっているが、80 歳 90 歳の両親の面倒を見るのにも限界がある。
・ 親が介護認定は感染者が少ない時期にお願いして要介護 1 となりましたが、市川市は介護施設や介護福祉関係での新型コロナウイルスの感染者やクラスターが連日あり安心してお願い出来なく、本人も不安があり仕方がなく無理をして近くへ引っ越して来て通い介護を続けています。
・ 人生 100 年時代に突入し、だれもかれもが使っているのは、財政が大変である。
・ 対人恐怖症だから利用したくても出来ない。
・ 魅力的なサービスがないから。

⑪ 近所づきあいの程度

問11 近所(歩いて行ける程度の範囲)にどの程度のおつきあいの方がいますか。(〇は1つだけ)

近所づきあいの程度をみると、「立ち入った相談事はしないが世間話をする程度の人はいる」が25.0%で最も多く、次いで「内容によっては困ったときに相談し助け合える人がある」が21.9%、「世間話などはしないが挨拶をする程度の人はいる」が21.1%となっている。

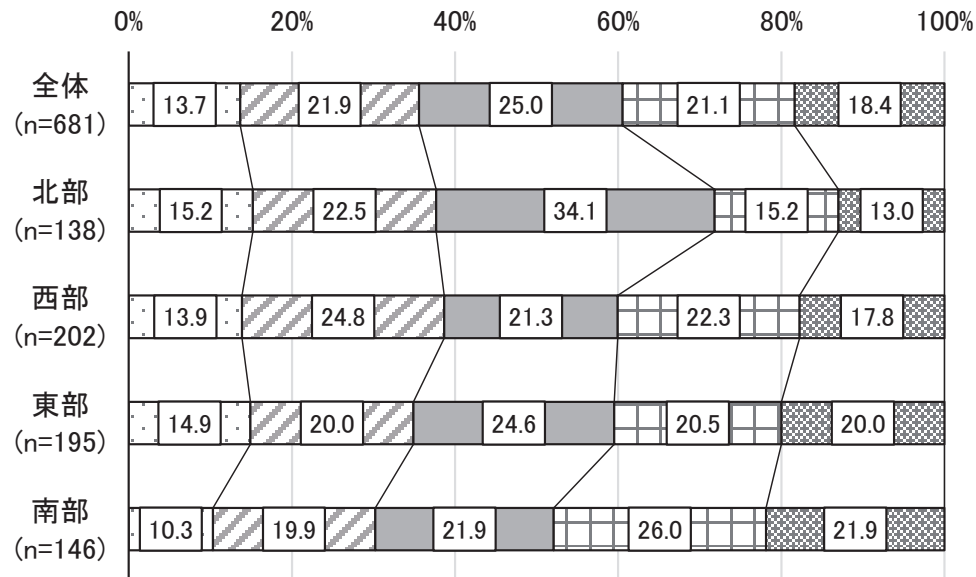
図表 22 近所付き合いの程度



3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

居住地区別にみると、「立ち入った相談事はしないが世間話をする程度の人はいる」は「北部（34.1%）」、「内容によっては困ったときに相談し助け合える人がある」は「西部（24.8%）」、「世間話などはしないが挨拶をする程度の人はいる」は「南部（26.0%）」が最も多くなっている。

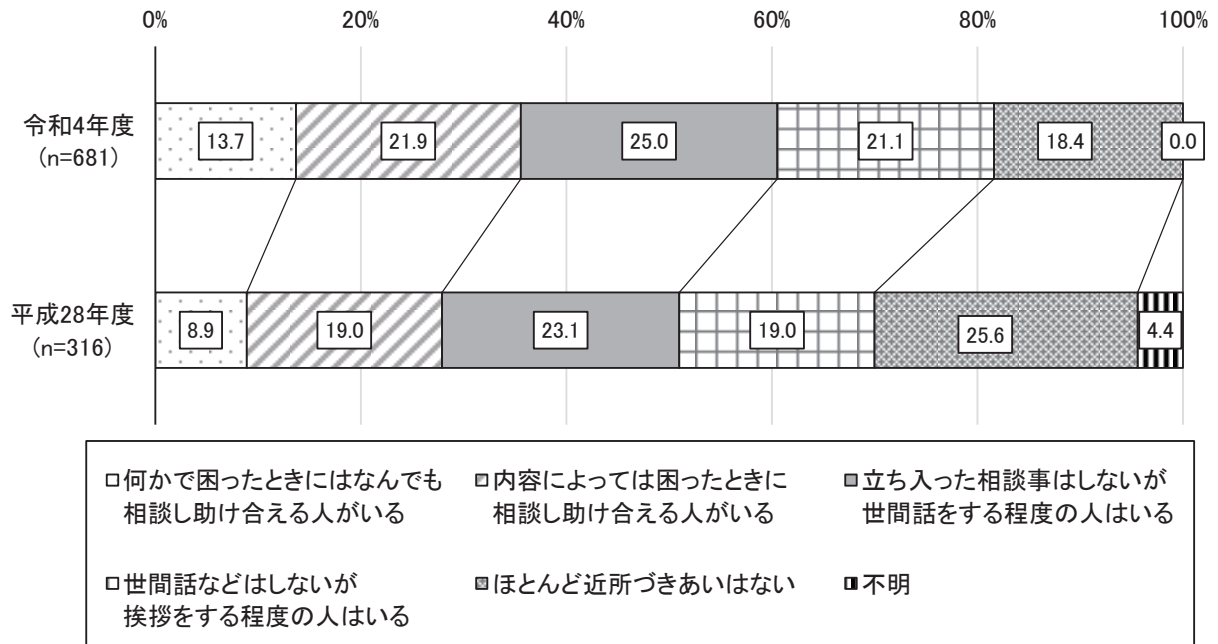
図表 23 近所づきあいの程度（居住地区別）



- 何かで困ったときにはなんでも相談し助け合える人がある
- ▨ 内容によっては困ったときに相談し助け合える人がある
- 立ち入った相談事はしないが世間話をする程度の人はいる
- ▤ 世間話などはしないが挨拶をする程度の人はいる
- ▦ ほとんど近所づきあいはない

経年で見ると、平成 28 年度の調査と比べて、「ほとんど近所づきあいはない」が減少している。

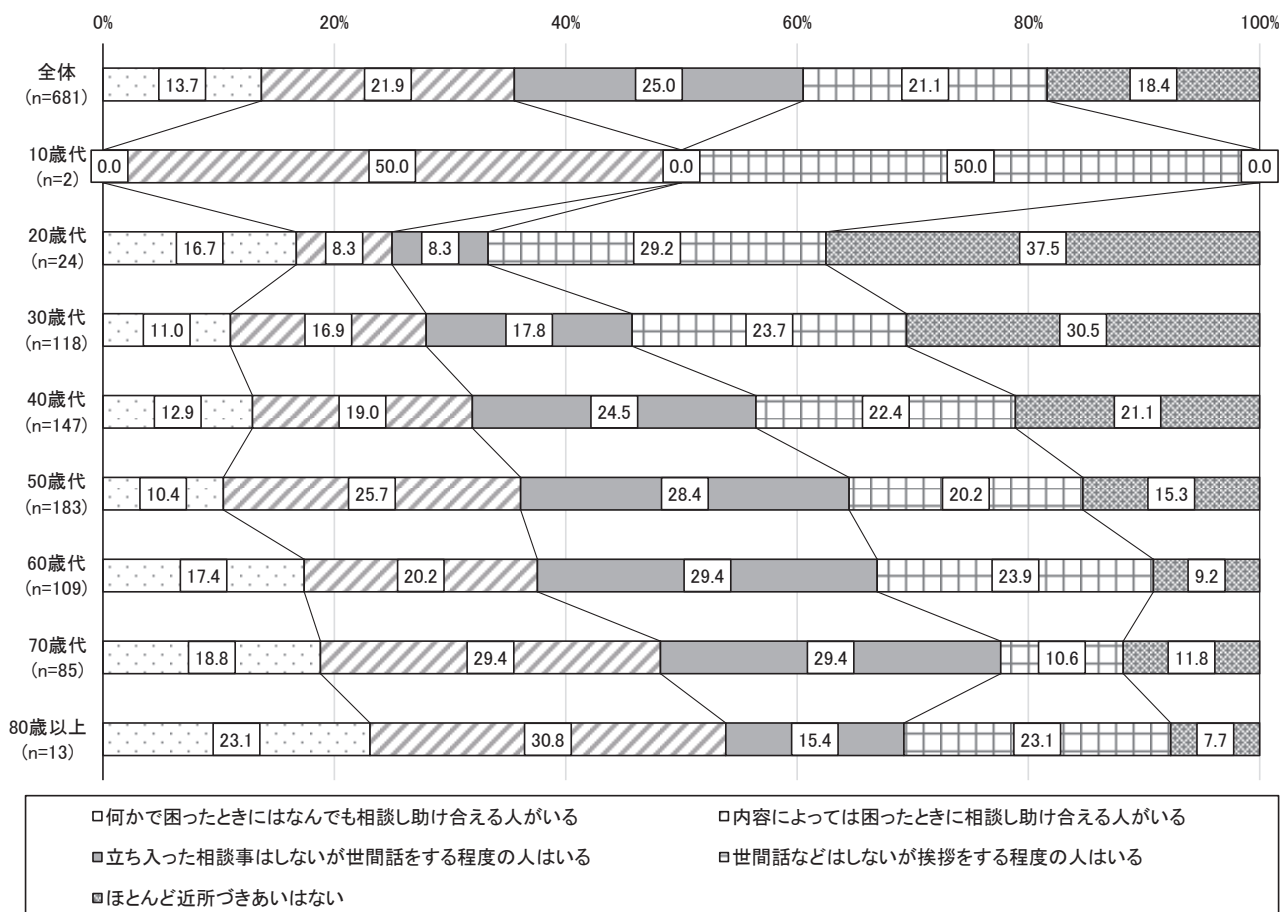
図表 24 近所づきあいの程度（経年比較）



3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

年齢別にみると、「立ち入った相談事はしないが世間話をする程度の人はいる」は「60 歳代(29.4%)」「70 歳代(29.4%)」、「内容によっては困ったときに相談し助け合える人がある」は「80 歳以上(30.8%)」、「世間話などはしないが挨拶をする程度の人はいる」は「20 歳代(29.2%)」が最も多くなっている。

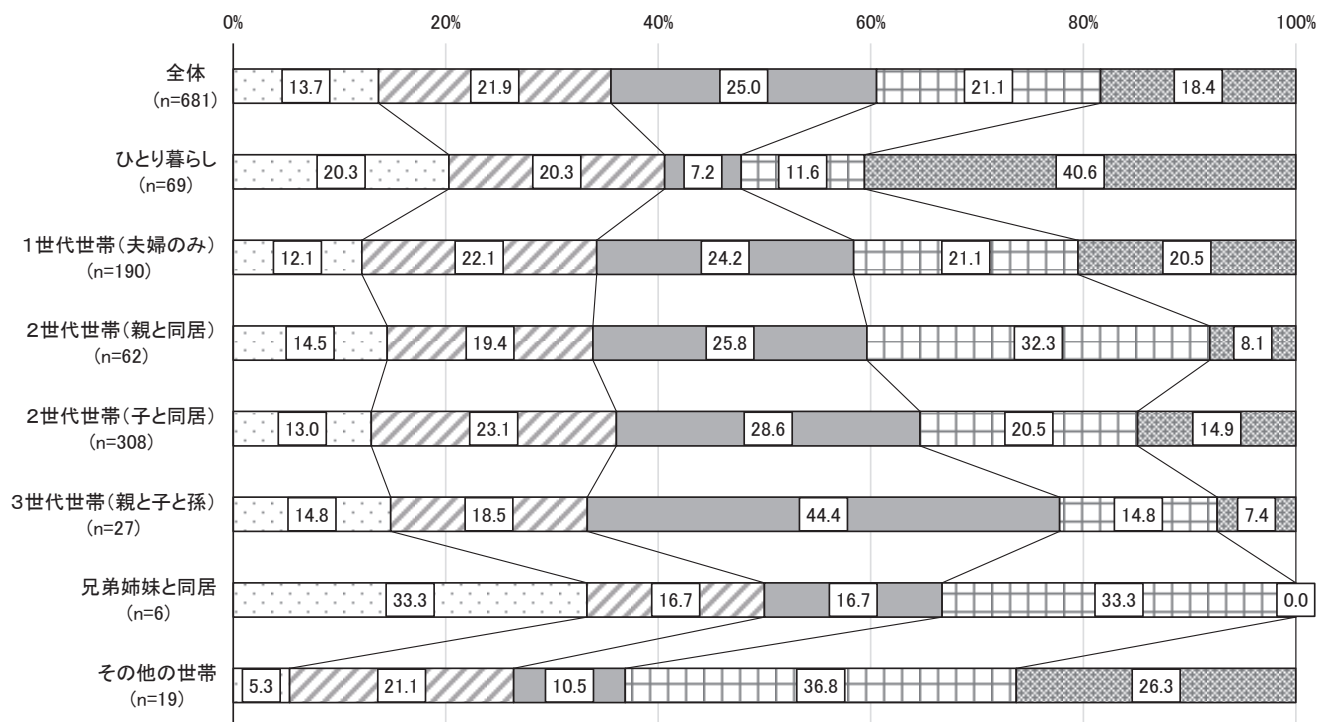
図表 25 近所づきあいの程度(年齢別)



3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

家族構成別にみると、「立ち入った相談事はしないが世間話をする程度の人はいる」は「3世代世帯（親と子と孫）（44.4%）」、「内容によっては困ったときに相談し助け合える人がある」は「2世代世帯（子と同居）（23.1%）」、「世間話などはしないが挨拶をする程度の人はいる」は「兄弟姉妹と同居（33.3%）」が最も多くなっている。

図表 26 近所づきあいの程度(家族構成別)



- 何かで困ったときにはなんでも相談し助け合える人がある
- 内容によっては困ったときに相談し助け合える人がある
- 立ち入った相談事はしないが世間話をする程度の人はいる
- 世間話などはしないが挨拶をする程度の人はいる
- ほとんど近所づきあいはない

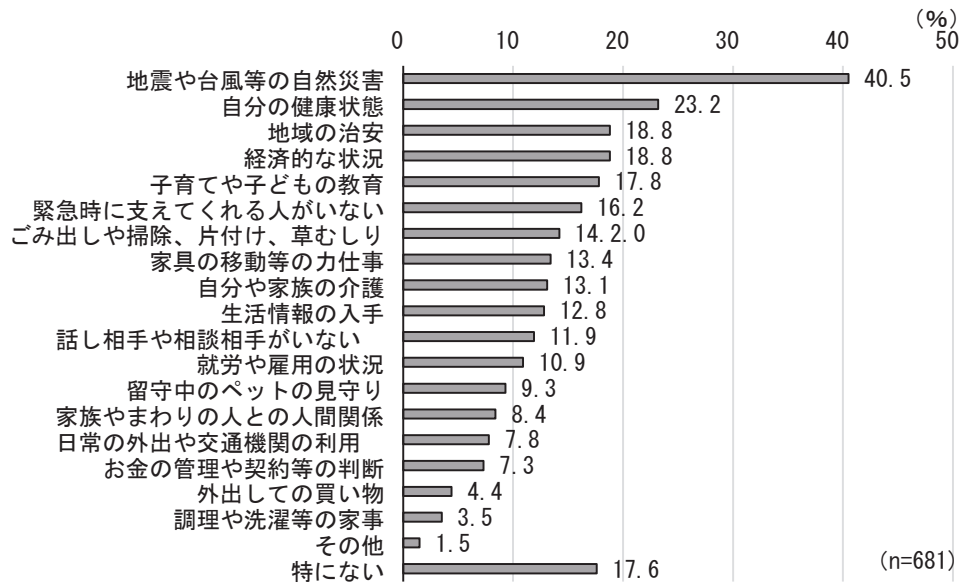
3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

⑫ 日常生活での困り事・不安事

問12 あなたは日常生活に関する以下のことで、困ったり不安に感じたりしていることがありますか。
 (あてはまるものすべてに○)

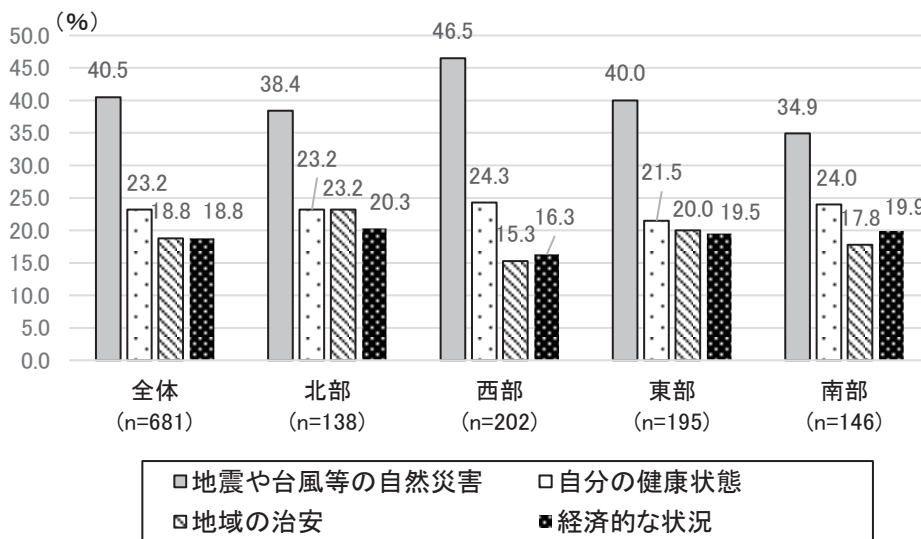
日常生活での困り事・不安事をみると、「地震や台風等の自然災害」が40.5%で最も多く、次いで「自分の健康状態」が23.2%、「地域の治安」、「経済的な状況」が18.8%となっている。

図表 27 日常生活の困り事・不安事



居住地区別にみると、「地震や台風等の自然災害」は「西部(46.5%)」、「自分の健康状態」は「西部(24.3%)」、「地域の治安」は「北部(23.2%)」、「経済的な状況」は「北部(20.3%)」が最も多くなっている。

図表 28 日常生活の困り事・不安事(居住地区別)



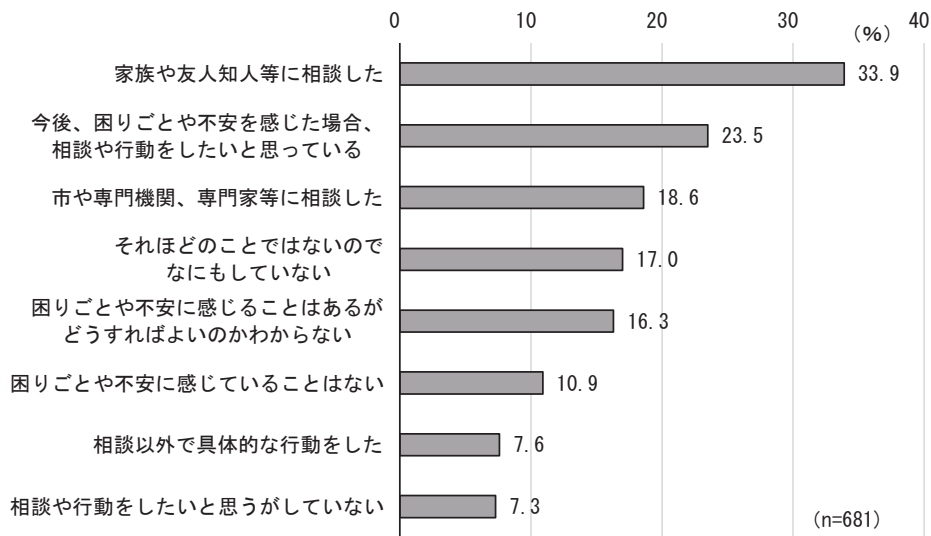
⑬ 日常生活での困り事・不安事の解決方法

問13 日常生活の困りごとや不安を解決していくため、あなたがしていること(したこと)がありますか。
 (あてはまるものすべてに○)

※ 一部の困りごとや不安に対してしている(したこと)もあげてください。

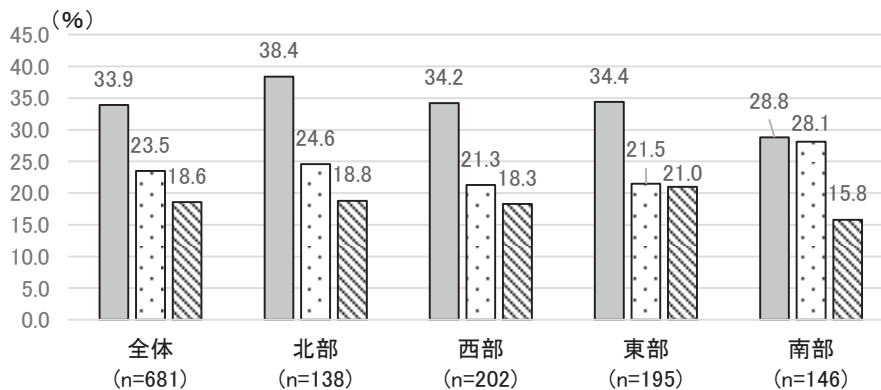
日常生活での困り事・不安事の解決方法をみると、「家族や友人知人等に相談した」が33.9%で最も多く、次いで「今後、困りごとや不安を感じた場合、相談や行動をしたいと思っている」が23.5%、「市や専門機関、専門家等に相談した」が18.6%となっている。

図表 29 日常生活での困り事・不安事の解決方法



居住地区別にみると、「家族や友人知人等に相談した」は「北部(38.4%)」、「今後、困りごとや不安を感じた場合、相談や行動をしたいと思っている」は「南部(28.1%)」、「市や専門機関、専門家等に相談した」は「東部(21.0%)」が最も多くなっている。

図表 30 日常生活での困り事・不安事の解決方法(居住地区別)



- 家族や友人知人等に相談した
- 今後、困りごとや不安を感じた場合、相談や行動をしたいと思っている
- ▨ 市や専門機関、専門家等に相談した

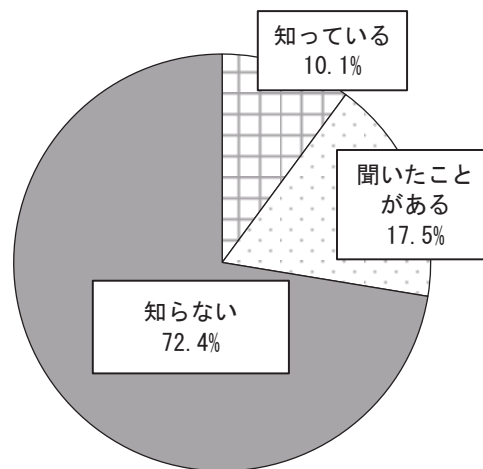
3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

⑭ 地域ケアシステムの認知度

問14 市川市では、安心して暮らし続けられる地域社会をつくるために、支え合いの地域づくり(地域ケアシステム)の取り組みを進めています。あなたは、そのことをご存知ですか。(〇は1つだけ)

地域ケアシステムの認知度をみると、「知らない」が72.4%で最も多く、次いで「聞いたことがある」が17.5%、「知っている」が10.1%となっている。

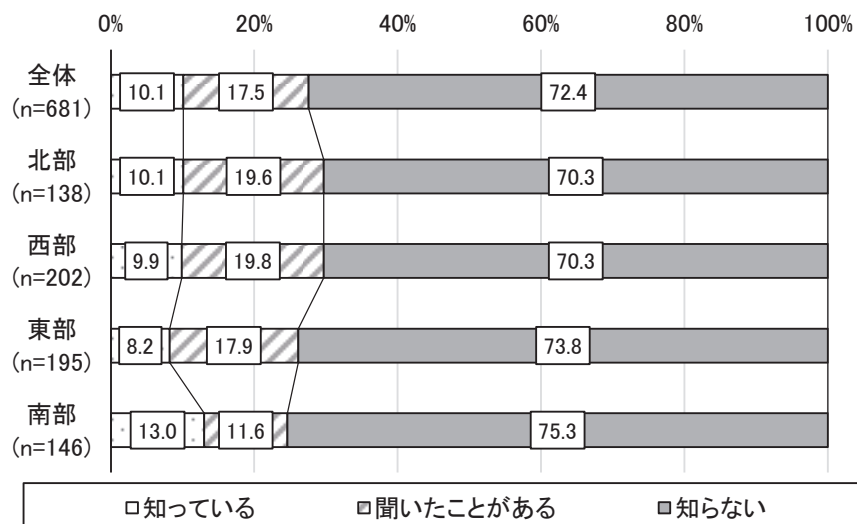
図表 31 地域ケアシステムの認知度



(n=681)

居住地区別にみると、「知らない」は「南部(75.3%)」、「聞いたことがある」は「西部(19.8%)」、「知っている」は「南部(13.0%)」が最も多くなっている。

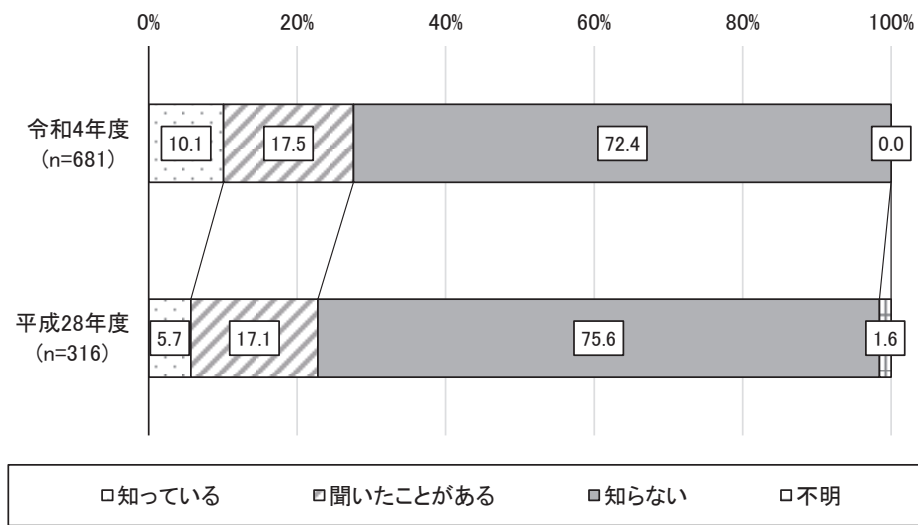
図表 32 地域ケアシステムの認知度(居住地区別)



3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

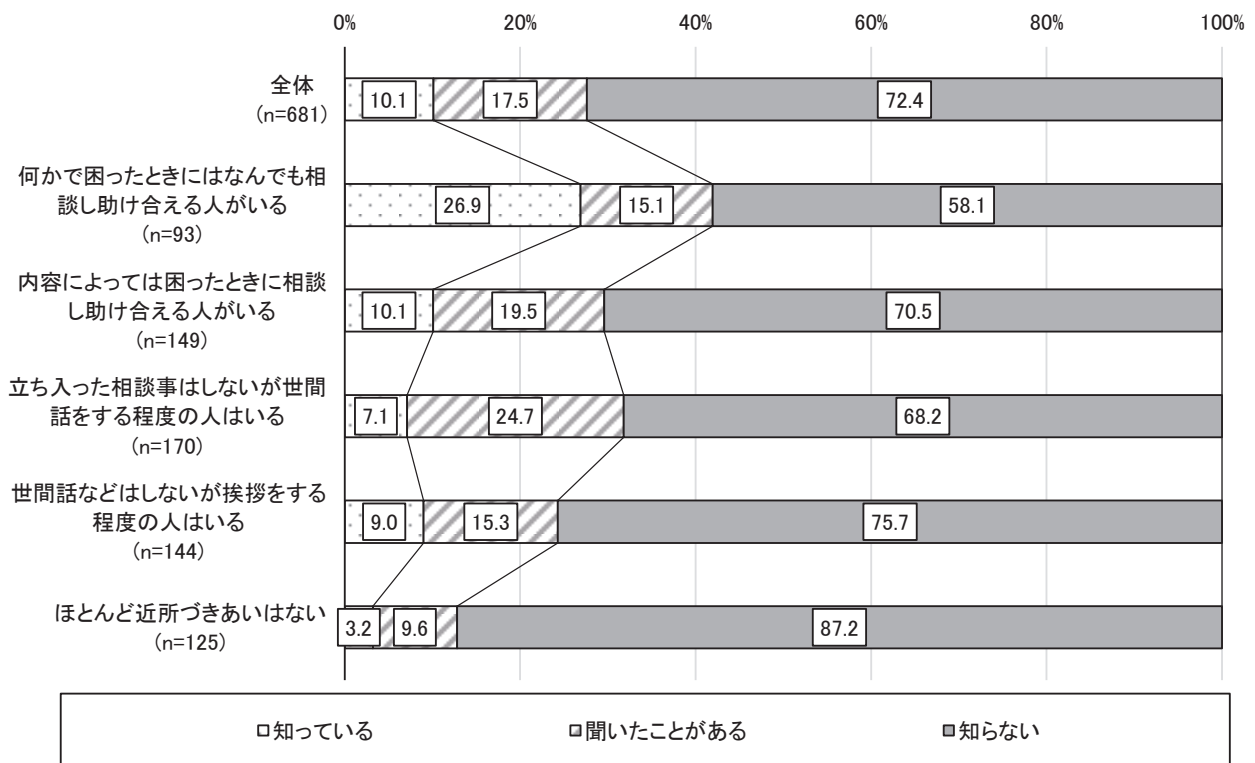
経年で見ると、平成 28 年度の調査と比べて、「知っている」「聞いたことがある」が増加し、「知らない」が減少している。

図表 33 地域ケアシステムの認知度（経年比較）



近所づきあいの程度別にみると、「知っている」は「何かで困ったときにはなんでも相談し助け合える人がいる(26.9%)」、「聞いたことがある」は「立ち入った相談事はしないが世間話をする程度の人はいる(24.7%)」、「知らない」は「ほとんど近所づきあいはない(87.2%)」が最も多くなっている。

図表 34 地域ケアシステムの認知度（近所づきあいの程度別）



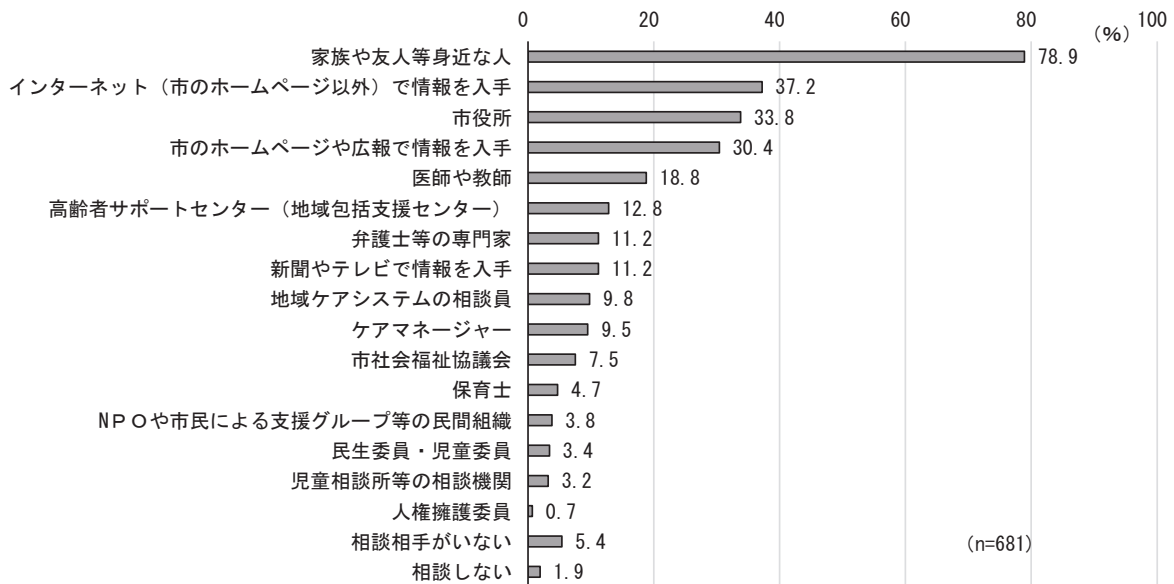
3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

⑮ 生活上の問題で相談したいときの相談相手

問15 あなたが生活上の問題で相談したいときに、どなたに相談したいですか。（あてはまるものすべてに○）

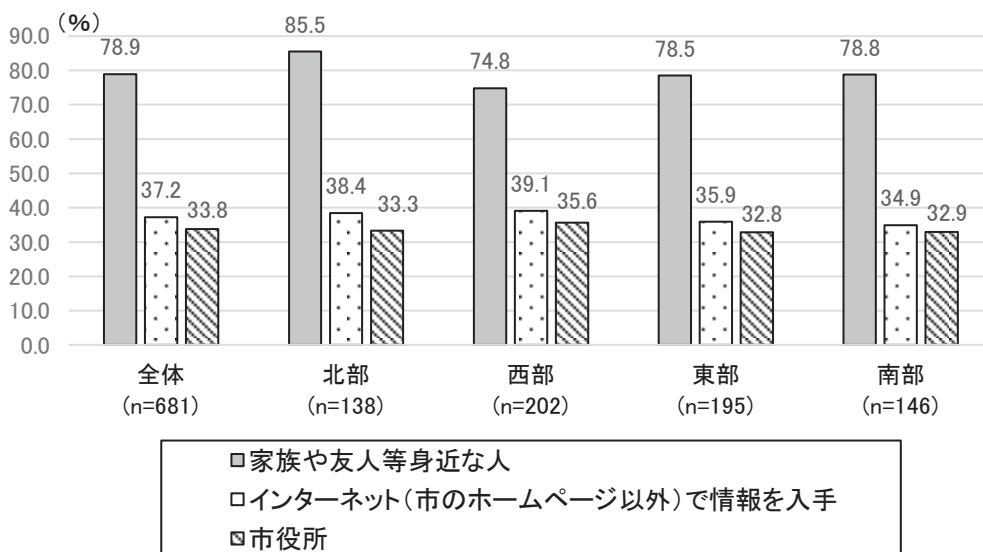
生活上の問題で相談したいときの相談相手を見ると、「家族や友人等身近な人」が78.9%で最も多く、次いで「インターネット(市のホームページ以外)で情報を入手」が37.2%、「市役所」が33.8%となっている。

図表 35 生活上の問題で相談したいときの相談相手



居住地区別にみると、「家族や友人等身近な人」は「北部(85.5%)」、「インターネット(市のホームページ以外)で情報を入手」は「西部(39.1%)」、「市役所」は「西部(35.6%)」が最も多くなっている。

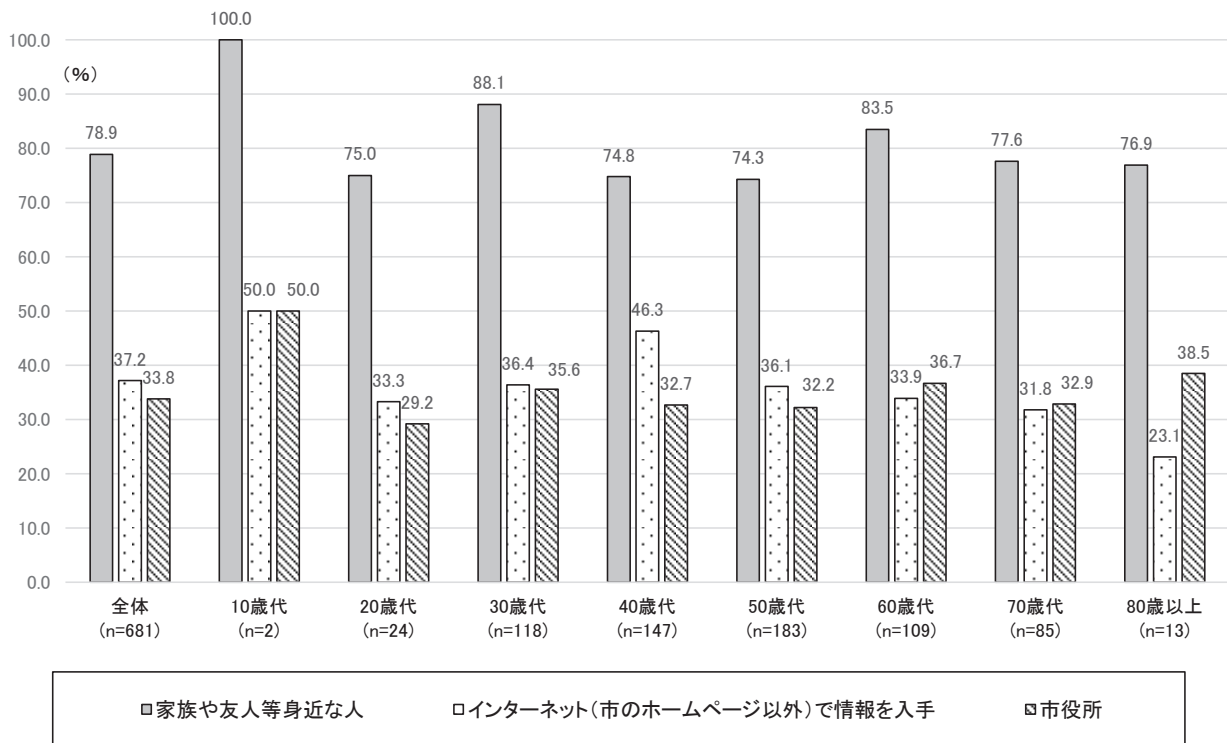
図表 36 生活上の問題で相談したいときの相談相手(居住地区別)



3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

年齢別にみると、「家族や友人等身近な人」は「30 歳代(88.1%)」、「インターネット(市のホームページ以外)で情報を入手」は「40 歳代(46.3%)」、「市役所」は「80 歳以上(38.5%)」が最も多くなっている。

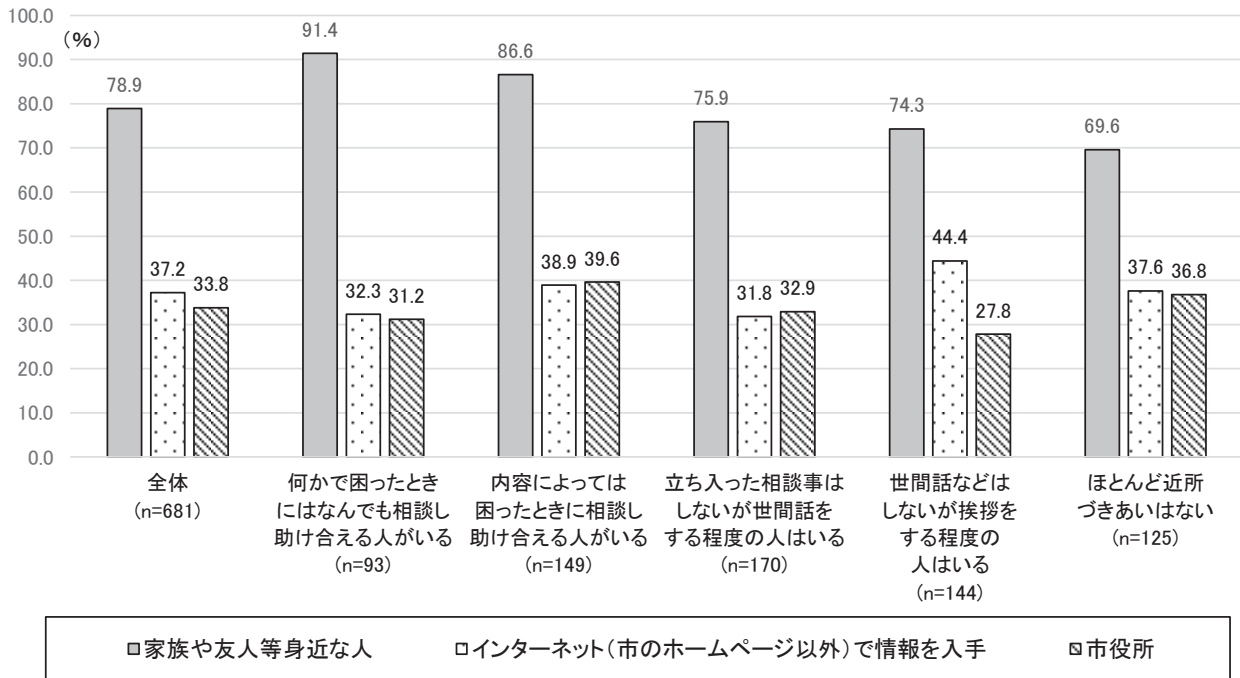
図表 37 生活上の問題で相談したいときの相談相手(年齢別)



3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

近所づきあいの程度別にみると、「家族や友人等身近な人」は「何かで困ったときにはなんでも相談し助け合える人がある(91.4%)」、「インターネット(市のホームページ以外)で情報を入手」は「世間話などはしないが挨拶をする程度の人はいる(44.4%)」、「市役所」は「内容によっては困ったときに相談し助け合える人がある(39.6%)」が最も多くなっている。

図表 38 生活上の問題で相談したいときの相談相手(近所づきあいの程度別)

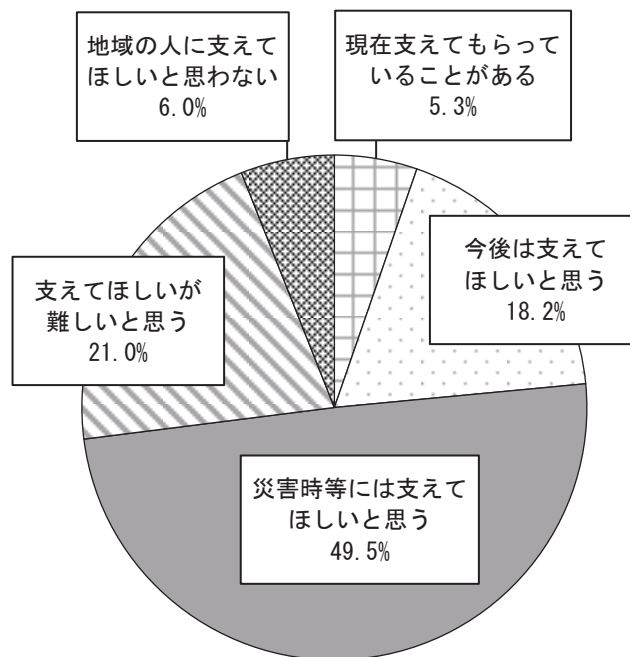


⑩ 地域の生活課題についての住民同士の支え合いや助け合い

問16 日常生活の困りごとや不安を解決するひとつの方法として、地域の人に相談する、身の周りのことを手伝ってもらするなど地域の人に支えてもらうことについて、あなたはどのように思いますか。（〇は1つだけ）

地域の生活課題についての住民同士の支え合いや助け合いをみると、「災害時等には支えてほしいと思う」が 49.5%で最も多く、次いで「支えてほしいが難しいと思う」が 21.0%、「今後は支えてほしいと思う」が 18.2%となっている。

図表 39 地域の生活課題についての住民同士の支え合いや助け合い

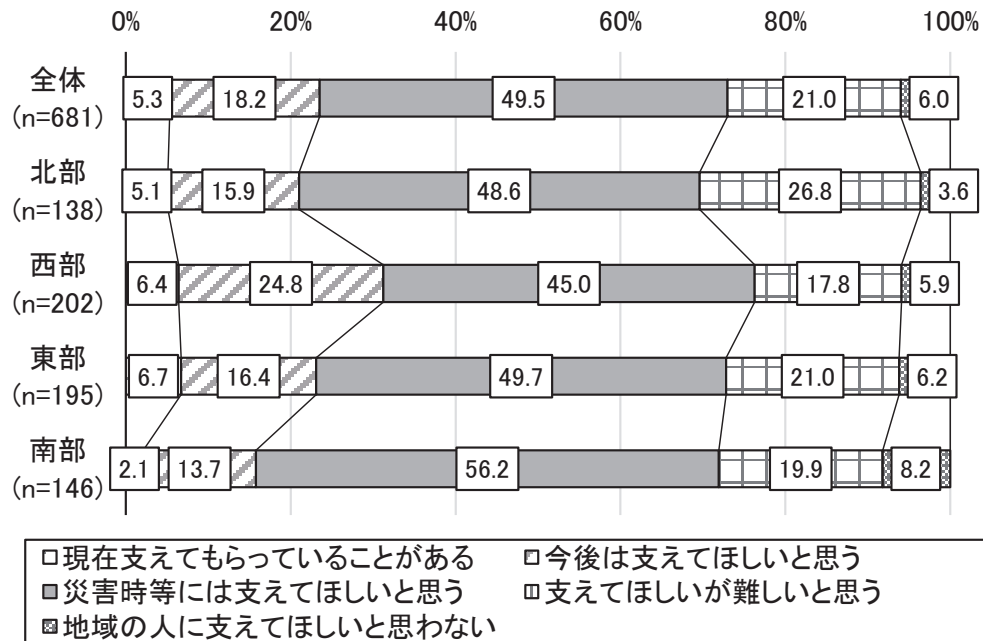


(n=681)

3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

居住地区別にみると、「災害時等には支えてほしいと思う」は「南部(56.2%)」、「支えてほしいが難しいと思う」は「北部(26.8%)」、「今後は支えてほしいと思う」は「西部(24.8%)」が最も多くなっている。

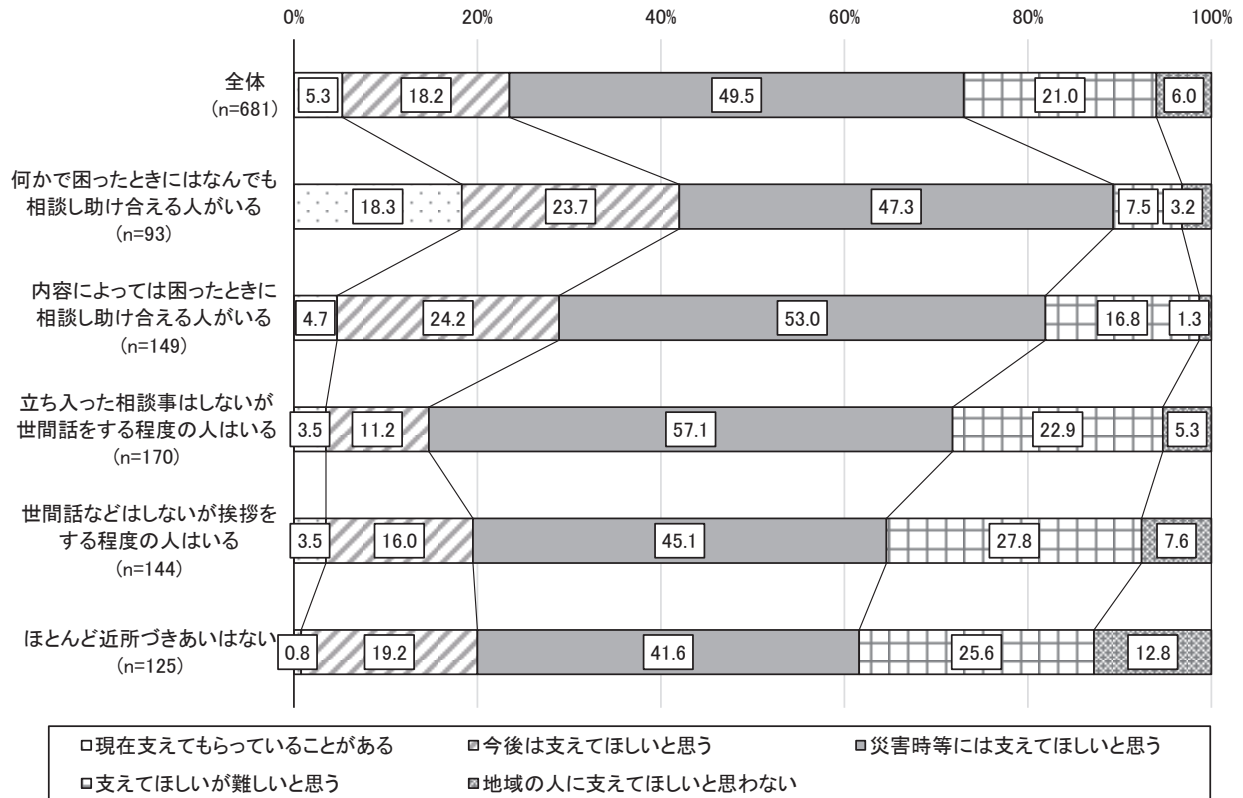
図表 40 地域の生活課題についての住民同士の支え合いや助け合い(居住地区別)



3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

近所づきあいの程度別にみると、「災害時等には支えてほしいと思う」は「立ち入った相談事はしないが世間話をする程度の人はいる(57.1%)」、「支えてほしいが難しいと思う」は「世間話などはしないが挨拶をする程度の人はいる(27.8%)」、「今後は支えてほしいと思う」は「内容によっては困ったときに相談し助け合える人がある(24.2%)」が最も多くなっている。

図表 41 地域の生活課題についての住民同士の支え合いや助け合い(近所づきあいの程度別)



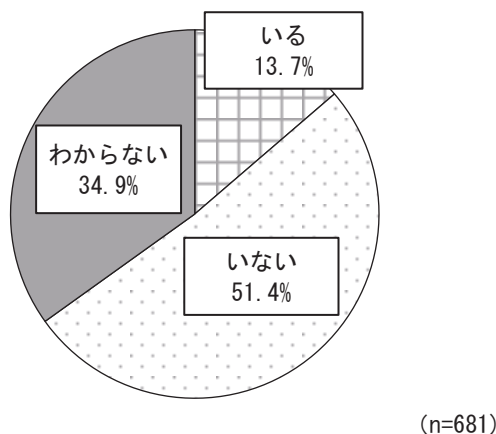
3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

⑰ 地域で気がかりな人の有無

問17 あなたの家族や親族以外で、地域で気がかりな人がいますか。（○は1つだけ）

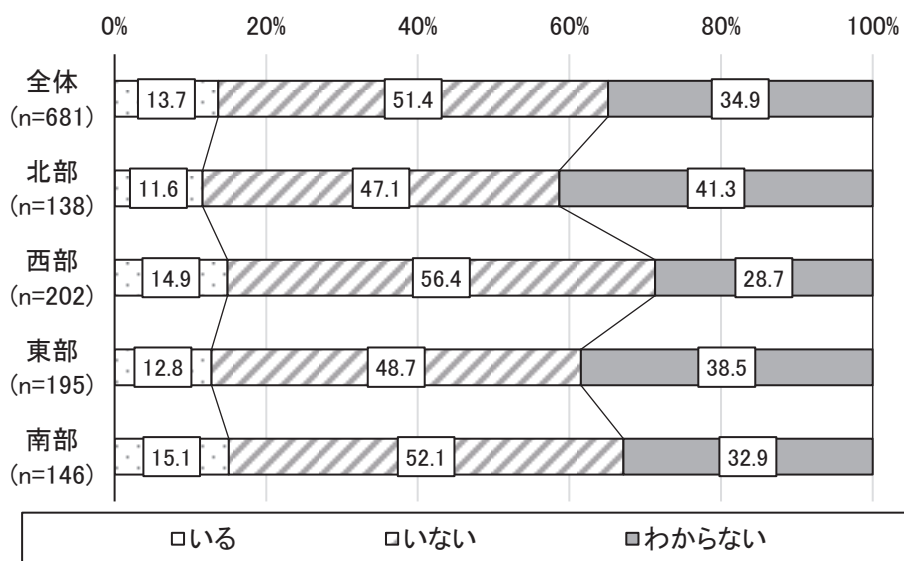
地域で気がかりな人の有無をみると、「いない」が51.4%で最も多く、次いで「わからない」が34.9%、「いる」が13.7%となっている。

図表 42 地域で気がかりな人の有無



居住地区別にみると、「いない」は「西部(56.4%)」、「わからない」は「北部(41.3%)」、「いる」は「南部(15.1%)」が最も多くなっている。

図表 43 地域で気がかりな人の有無(居住地区別)



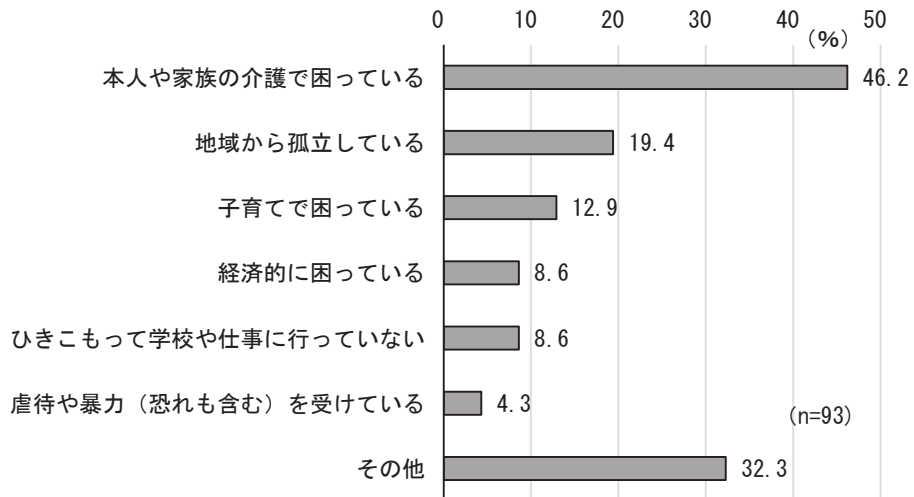
⑱ 地域で気がかりな人

問18 問17で「1. いる」を選んだ方にお尋ねします。

気がかりなのは、どのような方ですか。（あてはまるものすべてに○）

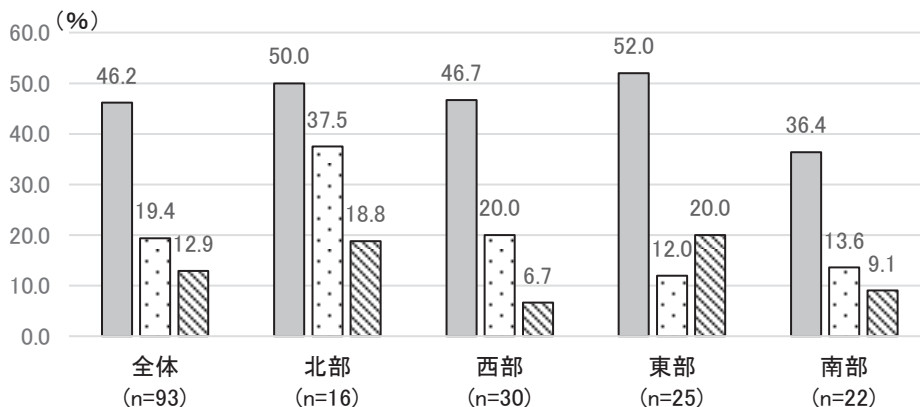
地域で気がかりな人がどのような人かをみると、「本人や家族の介護で困っている」が46.2%で最も多く、次いで「地域から孤立している」が19.4%、「子育てで困っている」が12.9%となっている。

図表 44 地域で気がかりな人



居住地区別にみると、「本人や家族の介護で困っている」は「東部(52.0%)」、「地域から孤立している」は「北部(37.5%)」、「子育てで困っている」は「東部(20.0%)」が最も多くなっている。

図表 45 地域で気がかりな人(居住地区別)

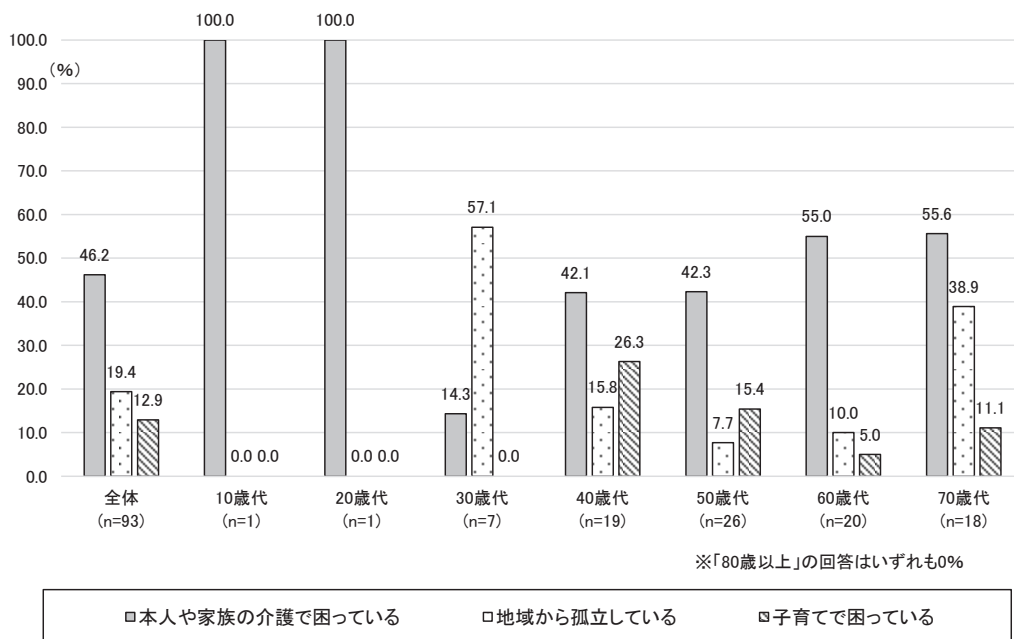


- 本人や家族の介護で困っている
- 地域から孤立している
- ▨ 子育てで困っている

3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

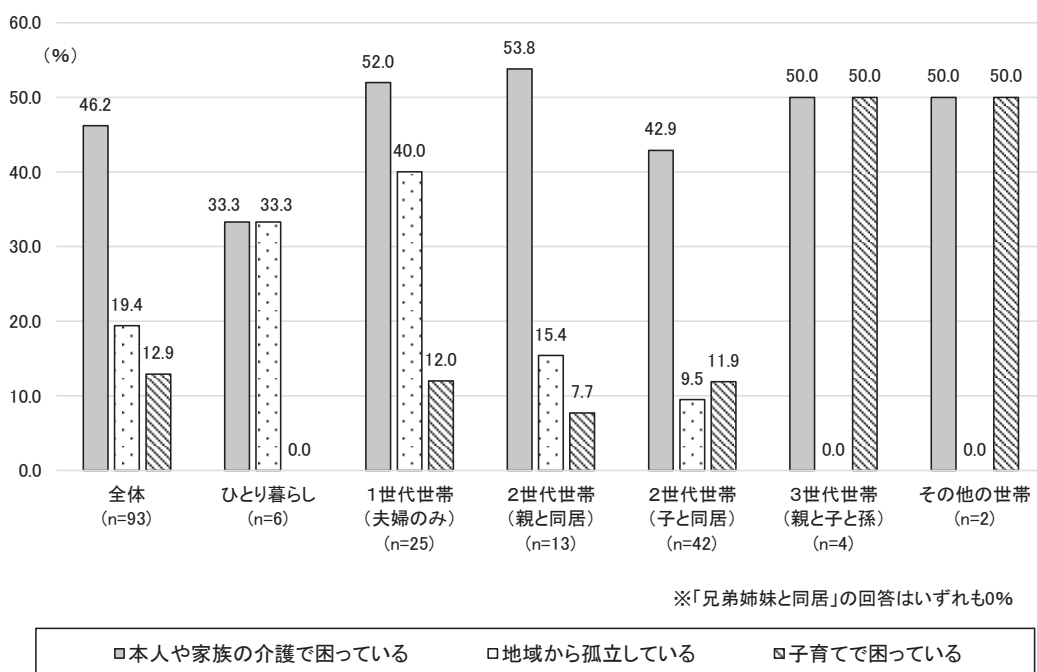
年齢別にみると、「本人や家族の介護で困っている」は「70 歳代(55.6%)」、「地域から孤立している」は「30 歳代(57.1%)」、「子育てで困っている」は「40 歳代(26.3%)」が最も多くなっている。

図表 46 地域で気がかりな人(年齢別)



家族構成別にみると、「本人や家族の介護で困っている」が「2世代世帯(親と同居)(53.8%)」で最も多く、次いで「地域から孤立している」は「1 世代世帯(夫婦のみ)(40.0%)」、「子育てで困っている」が「1 世代世帯(夫婦のみ)(12.0%)」となっている。

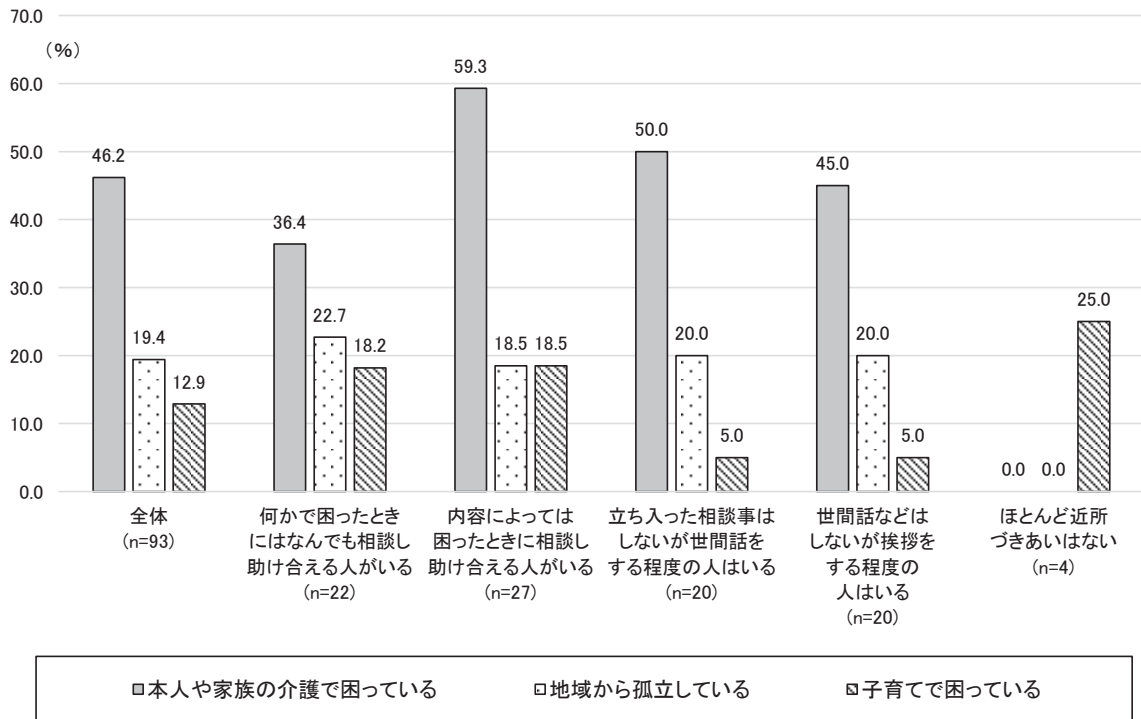
図表 47 地域で気がかりな人(家族構成別)



3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

近所づきあいの程度別にみると、「本人や家族の介護で困っている」は「内容によっては困ったときに相談し助け合える人がある(59.3%)」、「地域から孤立している」は「何かで困ったときにはなんでも相談し助け合える人がある(22.7%)」、「子育てで困っている」は「内容によっては困ったときに相談し助け合える人がある(18.5%)」が最も多くなっている。

図表 48 地域で気がかりな人(近所づきあいの程度別)



3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

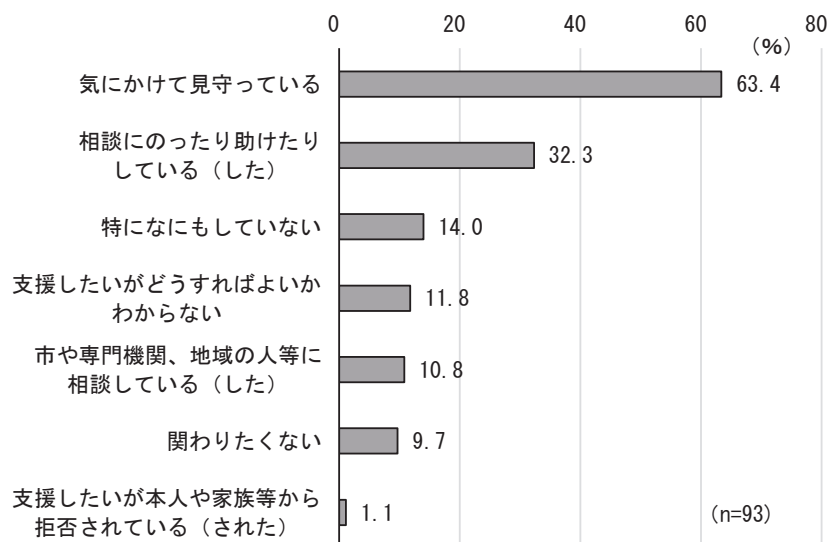
⑱ 気がかりな人へ行っている支援

問19 問17で「1. いる」を選んだ方にお尋ねします。

その人に対して、あなたはなにかをしていますか(しましたか)。(あてはまるものすべてに○)

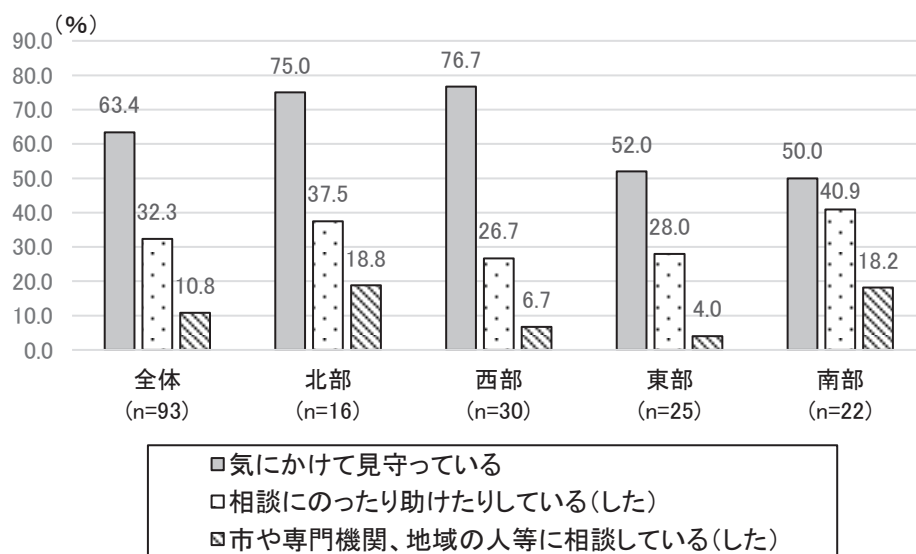
気がかりな人へ行っている支援をみると、「気にかけて見守っている」が63.4%で最も多く、次いで「相談にのったり助けたりしている(した)」が32.3%、「特になにもしていない」が14.0%となっている。

図表 49 気がかりな人へ行っている支援



居住地区別にみると、「気にかけて見守っている」は「西部(76.7%)」、「相談にのったり助けたりしている(した)」は「南部(40.9%)」、「市や専門機関、地域の人等に相談している(した)」は「北部(18.8%)」が最も多くなっている。

図表 50 気がかりな人へ行っている支援(居住地区別)

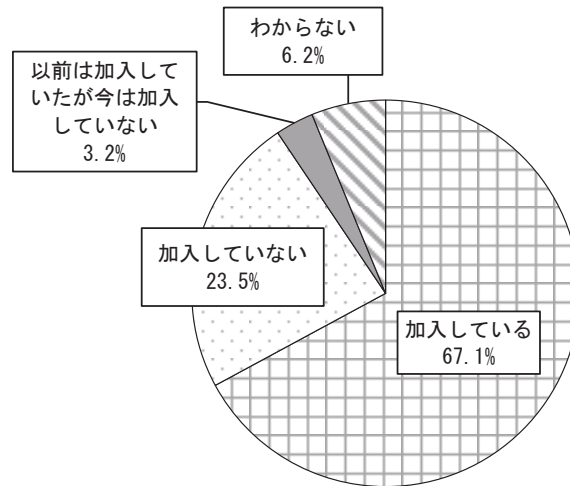


⑳ 自治会の加入状況

問20 あなたの家は自治会に加入していますか。(○は1つだけ)

自治会の加入状況を見ると、「加入している」が67.1%で最も多く、次いで「加入していない」が23.5%、「わからない」が6.2%となっている。

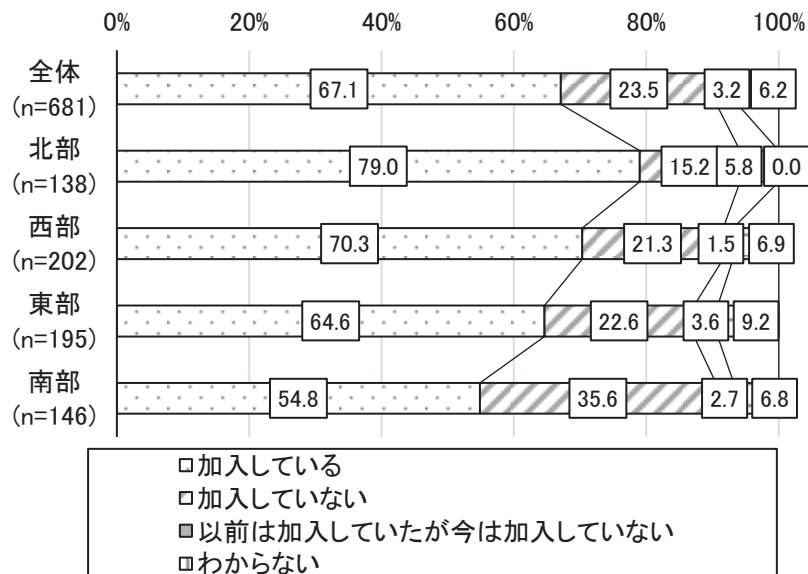
図表 51 自治会の加入状況



(n=681)

居住地区別にみると、「加入している」は「北部(79.0%)」、「加入していない」は「南部(35.6%)」が最も多くなっている。

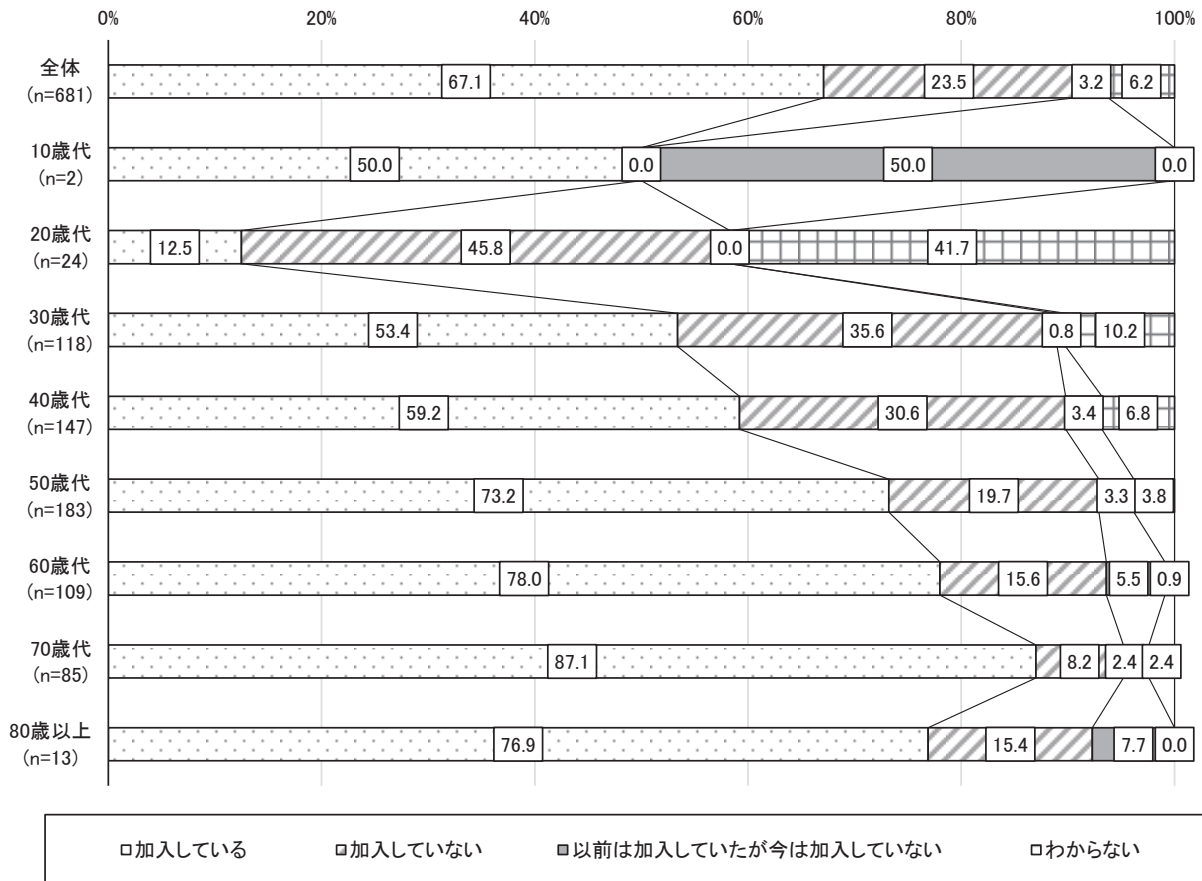
図表 52 自治会の加入状況(居住地区別)



3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

年齢別にみると、「加入している」は「70 歳代(87.1%)」、「加入していない」は「20 歳代(45.8%)」、「わからない」は「20 歳代(41.7%)」が最も多くなっている。

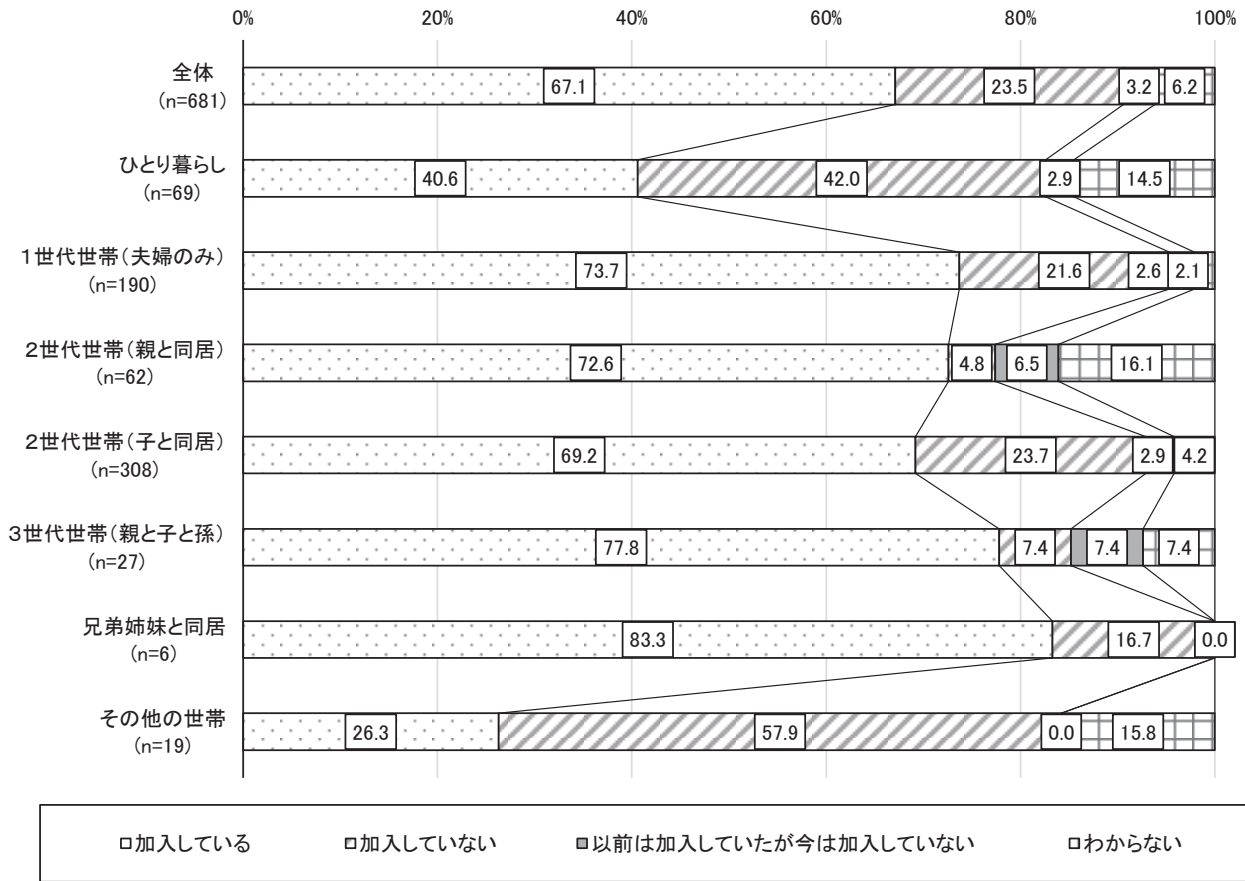
図表 53 自治会の加入状況(年齢別)



3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

家族構成別にみると、「加入している」は「兄弟姉妹と同居(83.3%)」、「加入していない」は「その他の世帯(57.9%)」、「わからない」は「2世代世帯(親と同居)(16.1%)」が最も多くなっている。

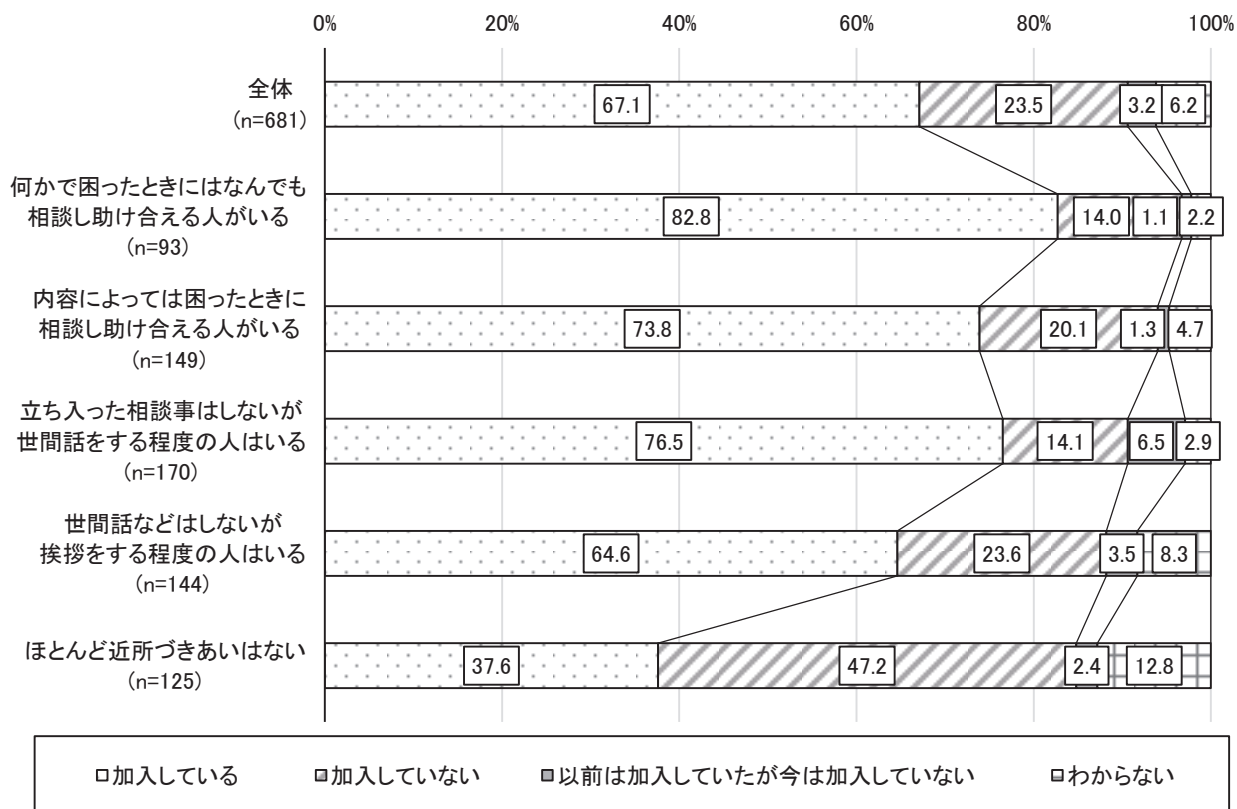
図表 54 自治会の加入状況(家族構成別)



3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

近所づきあいの程度別にみると、「加入している」は「何かで困ったときにはなんでも相談し助け合える人がある(82.8%)」、「加入していない」は「ほとんど近所づきあいはない(47.2%)」、「わからない」は「ほとんど近所づきあいはない(12.8%)」が最も多くなっている。

図表 55 自治会の加入状況(近所づきあいの程度別)



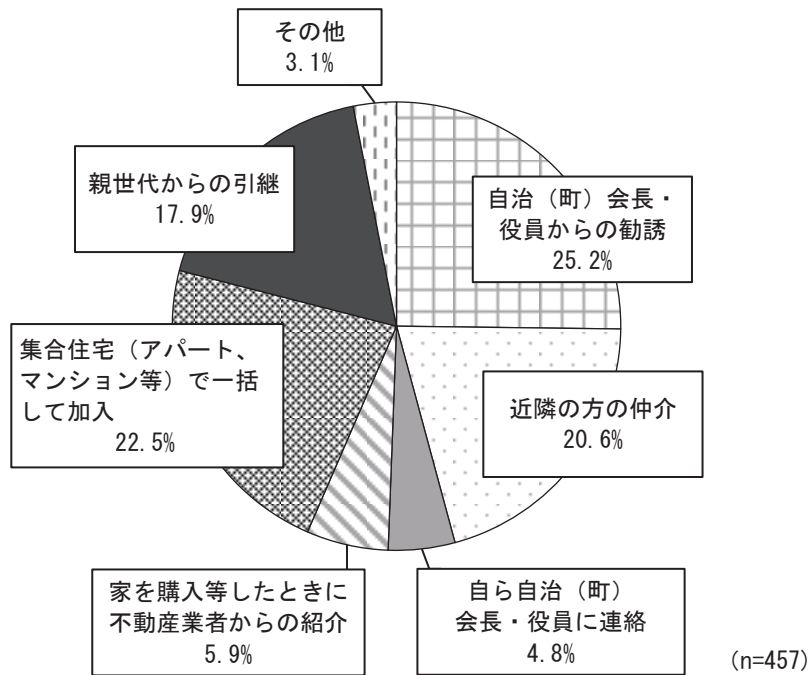
② 自治会の加入方法

問21 問20で「1. 加入している」を選んだ人にお尋ねします。

あなたは、どのような方法で自治会に加入しましたか。（〇は1つだけ）

自治会の加入方法をみると、「自治（町）会長・役員からの勧誘」が 25.2%で最も多く、次いで「集合住宅（アパート、マンション等）で一括して加入」が 22.5%、「近隣の方の仲介」が 20.6%となっている。

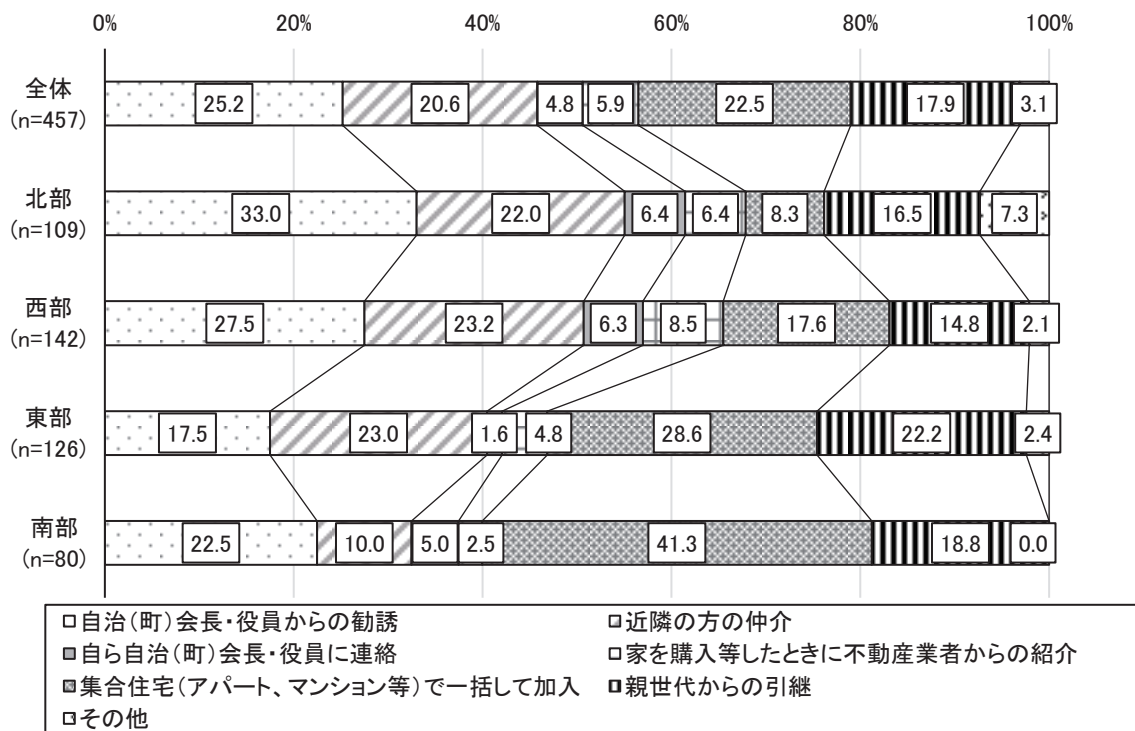
図表 56 自治会の加入方法



3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

居住地区別にみると、「自治(町)会長・役員からの勧誘」は「北部(33.0%)」、「集合住宅(アパート、マンション等)で一括して加入」は「南部(41.3%)」、「近隣の方の仲介」は「西部(23.2%)」が最も多くなっている。

図表 57 自治会の加入方法(居住地区別)



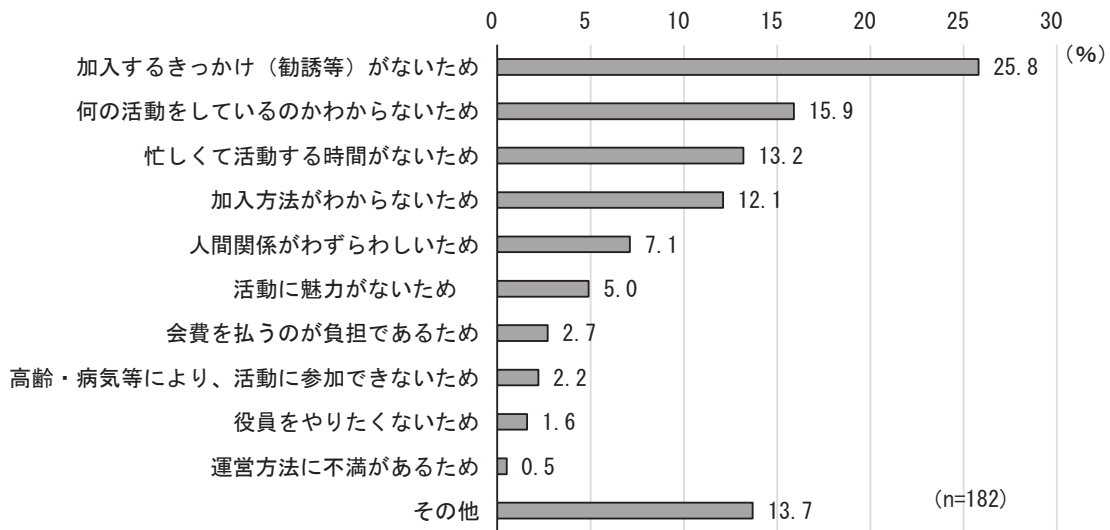
② 自治会に加入していない理由

問22 問20で「2. 加入していない」、「3. 以前は加入していたが今は加入していない」を選んだ人にお尋ねします。

あなたの家が自治会に加入していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

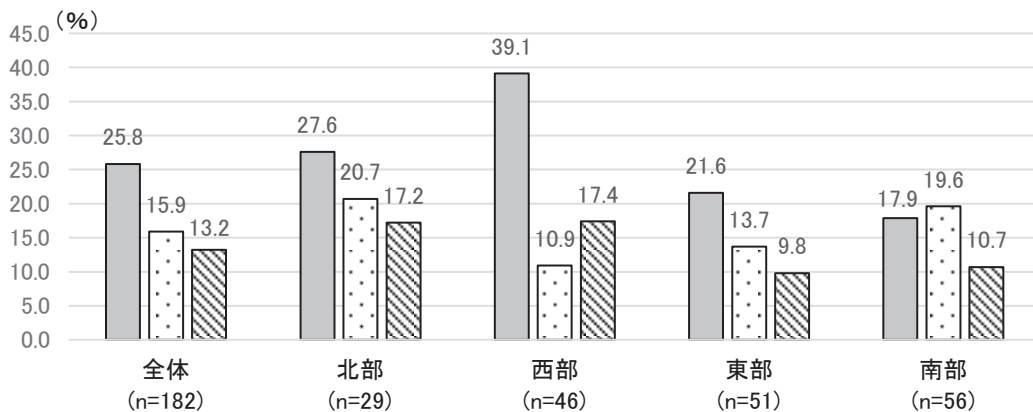
自治会に加入していない理由をみると、「加入するきっかけ（勧誘等）がないため」が25.8%で最も多く、次いで「何の活動をしているのかわからないため」が15.9%、「忙しくて活動する時間がないため」が13.2%となっている。

図表 58 自治会に加入していない理由



居住地区別にみると、「加入するきっかけ（勧誘等）がないため」は「西部(39.1%)」、「何の活動をしているのかわからないため」は「北部(20.7%)」、「忙しくて活動する時間がないため」は「西部(17.4%)」が最も多くなっている。

図表 59 自治会に加入していない理由（居住地区別）



加入するきっかけ（勧誘等）がないため
 何の活動をしているのかわからないため
 忙しくて活動する時間がないため

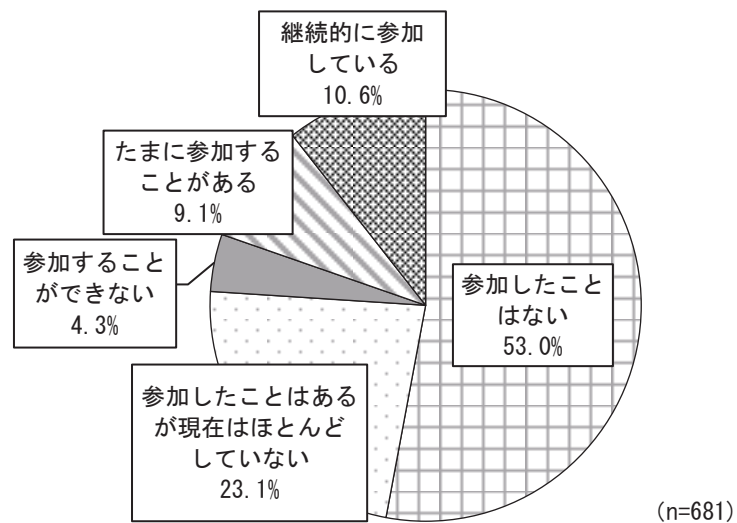
3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

③ 地域活動への参加状況

問23 あなたは、地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動等について、参加したことがありますか。（○は1つだけ）

地域活動への参加状況をみると、「参加したことはない」が53.0%で最も多く、次いで「参加したことはあるが現在はほとんどしていない」が23.1%、「継続的に参加している」が10.6%となっている。

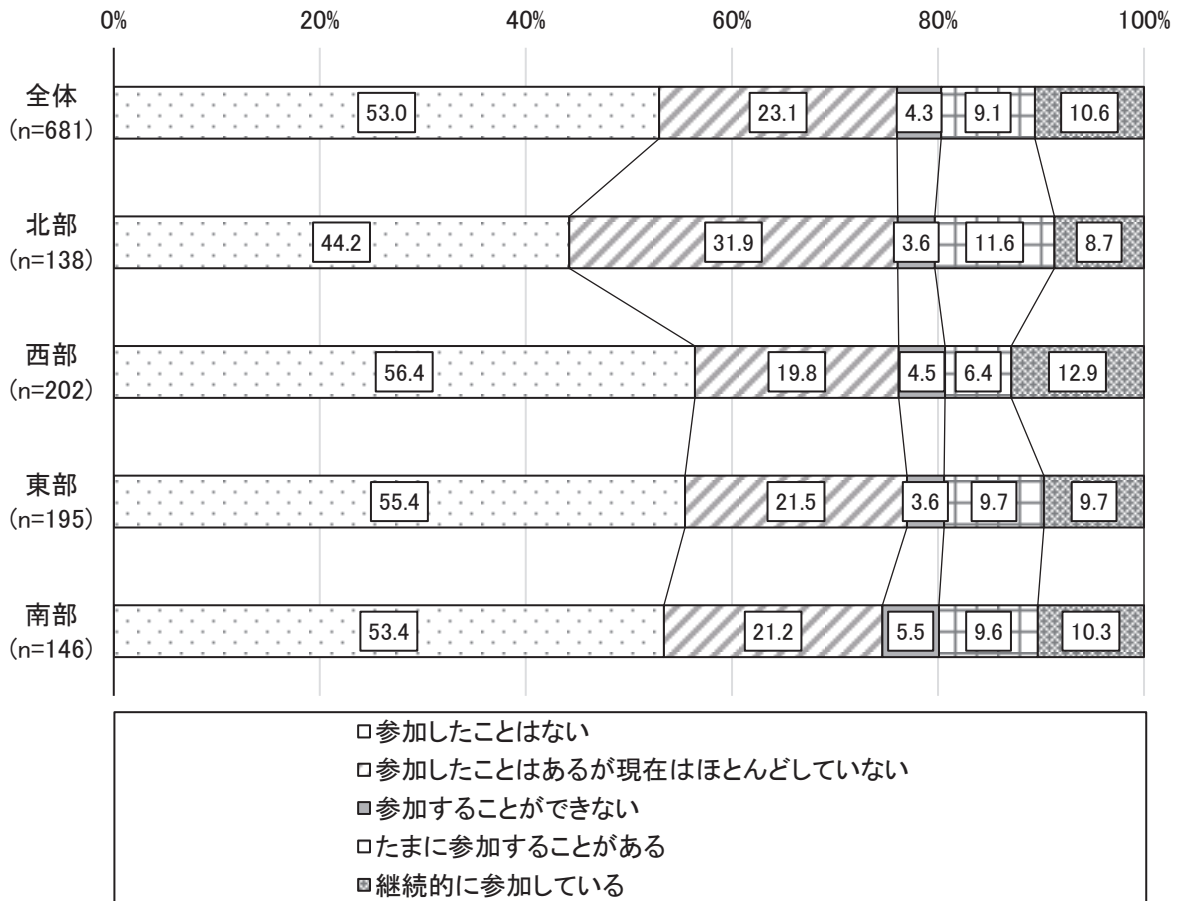
図表 60 地域活動への参加状況



3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

居住地区別にみると、「参加したことはない」は「西部(56.4%)」、「参加したことはあるが現在はほとんどしていない」は「北部(31.9%)」、「継続的に参加している」は「西部(12.9%)」が最も多くなっている。

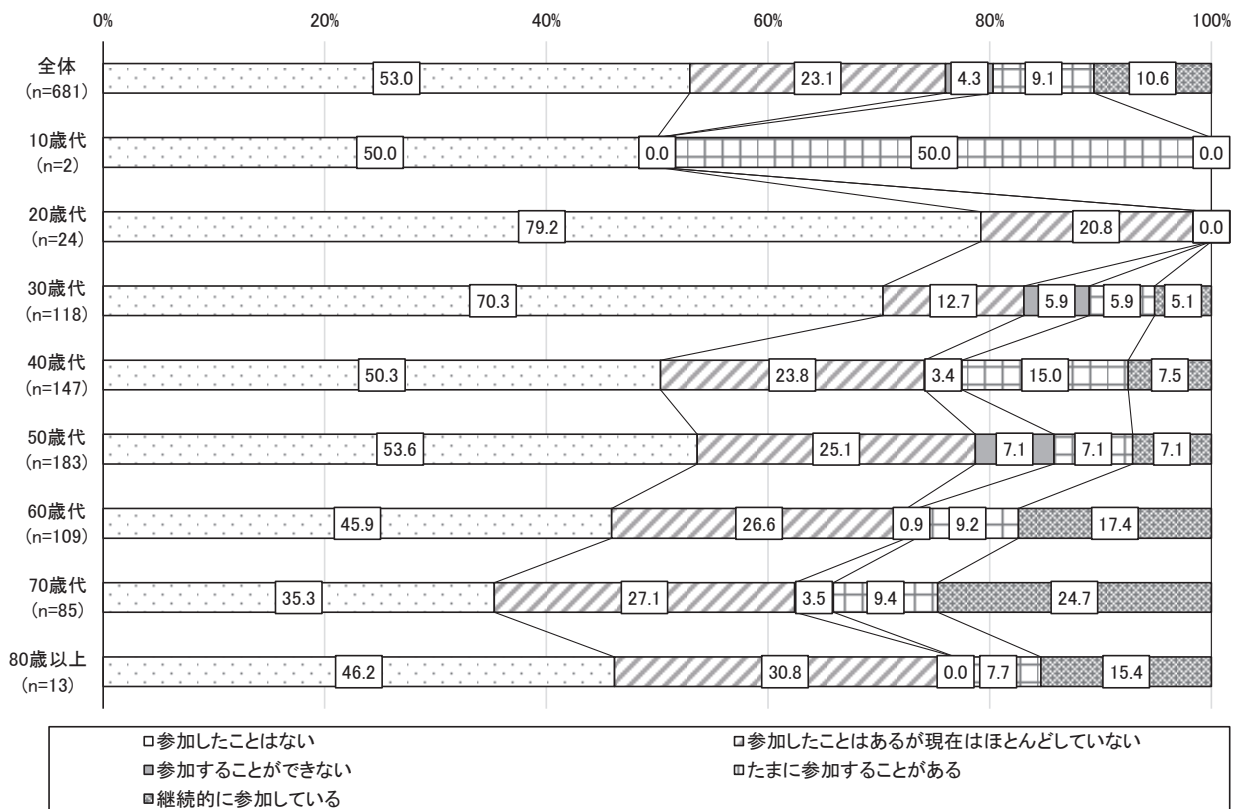
図表 61 地域活動への参加状況(居住地区別)



3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

年齢別にみると、「参加したことはない」は「20 歳代(79.2%)」、「参加したことはあるが現在はほとんどしていない」は「80 歳以上(30.8%)」、「継続的に参加している」は「70 歳代(24.7%)」が最も多くなっている。

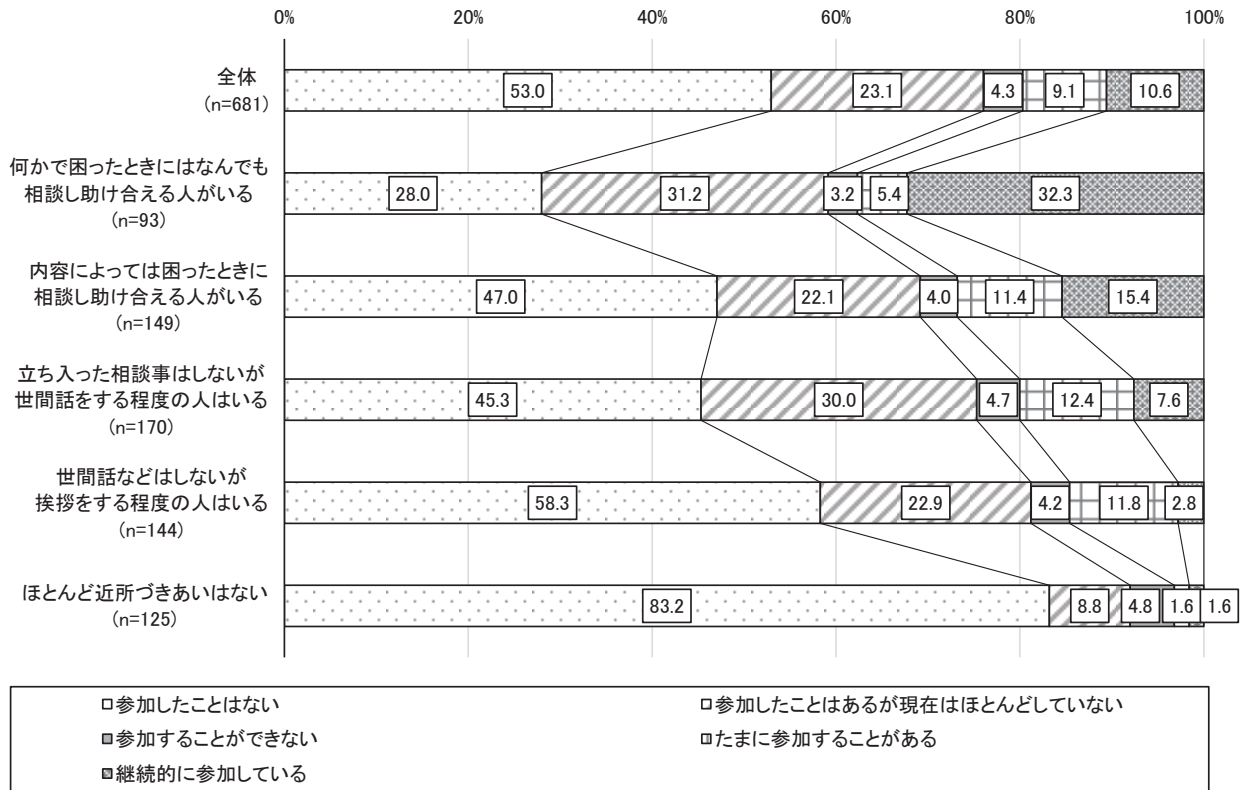
図表 62 地域活動への参加状況（年齢別）



3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

近所づきあいの程度別にみると、「参加したことはない」は「ほとんど近所づきあいはない(83.2%)」、「参加したことはあるが現在はほとんどしていない」は「立ち入った相談事はしないが世間話をする程度の人はいる(30.0%)」、「継続的に参加している」は「何かで困ったときにはなんでも相談し助け合える人がいる(32.3%)」が最も多くなっている。

図表 63 地域活動への参加状況(近所づきあいの程度別)



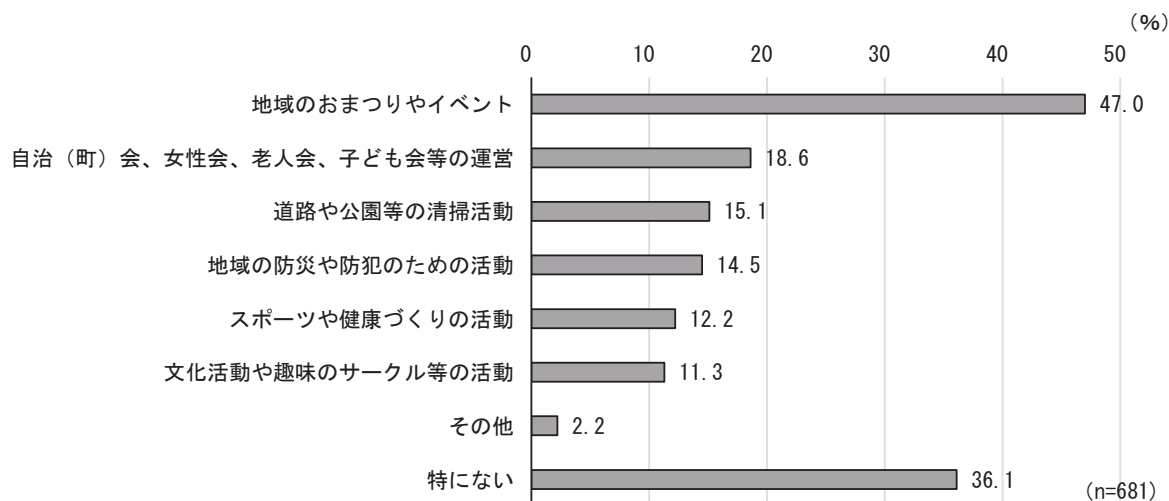
3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

㊸ 参加したことがある地域活動

問24 あなたは、お住まいの地域の次のどのような活動に参加したことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

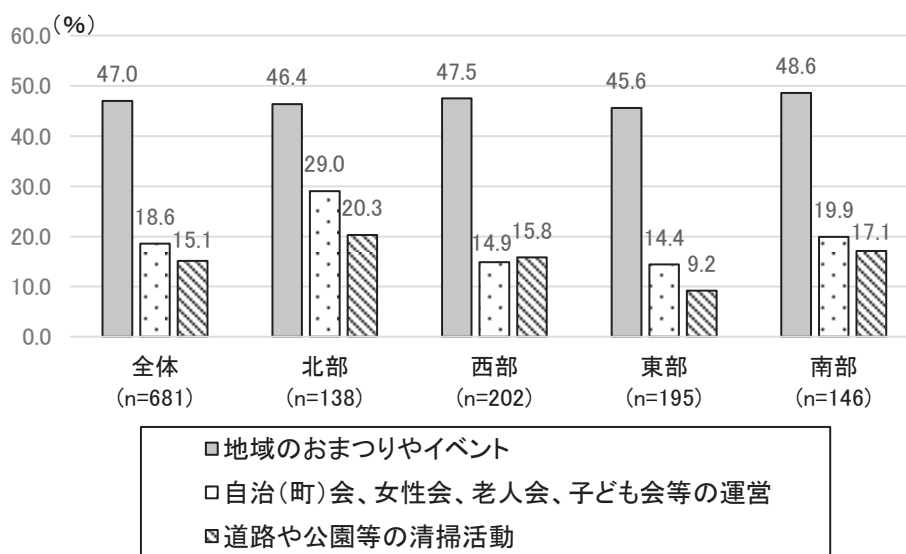
参加したことがある地域活動をみると、「地域のおまつりやイベント」が47.0%で最も多く、次いで「自治（町）会、女性会、老人会、子ども会等の運営」が18.6%、「道路や公園等の清掃活動」が15.1%となっている。

図表 64 参加したことがある地域活動



居住地区別にみると、「地域のおまつりやイベント」は「南部(48.6%)」、「自治(町)会、女性会、老人会、子ども会等の運営」は「北部(29.0%)」、「道路や公園等の清掃活動」は「北部(20.3%)」が最も多くなっている。

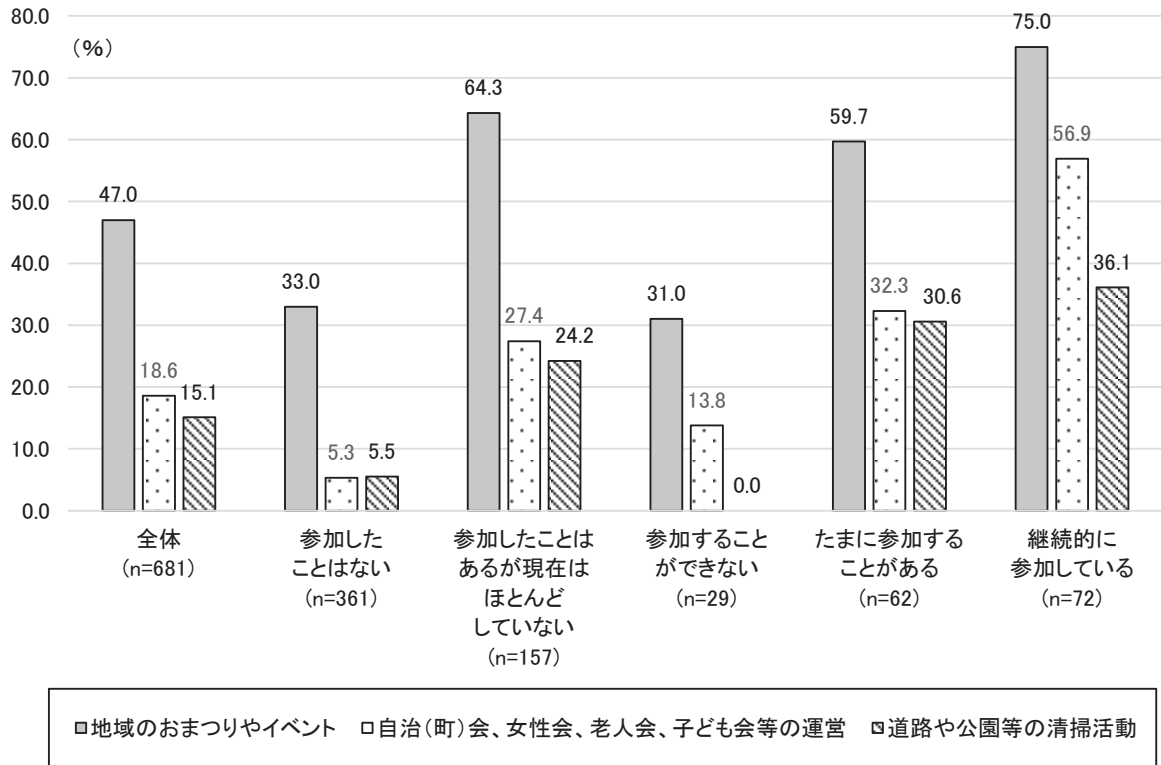
図表 65 参加したことがある地域活動(居住地区別)



3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

地域活動への参加状況別にみると、「地域のおまつりやイベント」は「継続的に参加している（75.0%）」、「自治（町）会、女性会、老人会、子ども会等の運営」は「継続的に参加している（56.9%）」、「道路や公園等の清掃活動」は「継続的に参加している（36.1%）」が最も多くなっている。

図表 66 参加したことのある地域活動（地域活動への参加状況別）



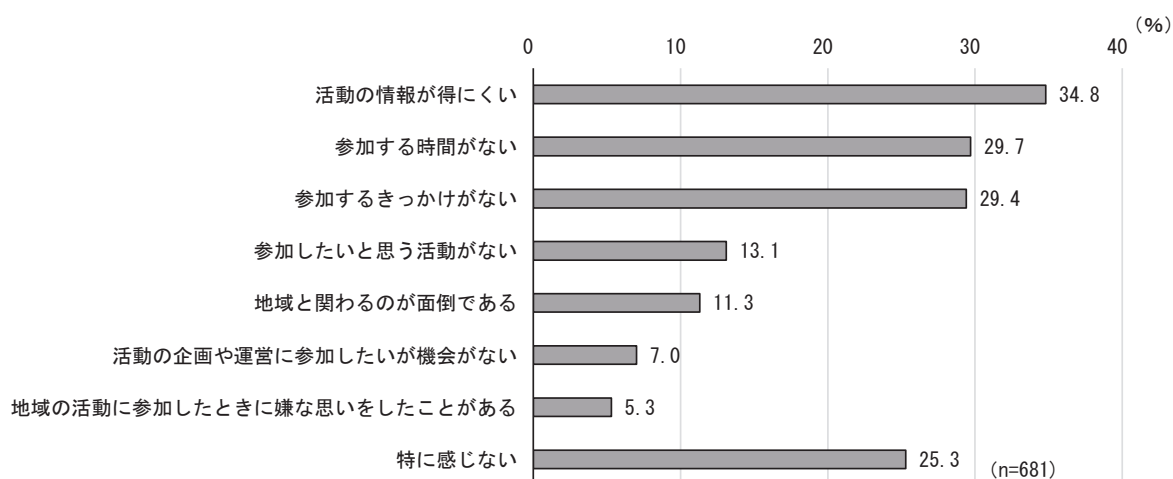
3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

㊸ 地域活動への参加にあたり気になること

問25 あなたは、地域の活動への参加について、気になることがありますか。（あてはまるものすべてに○）

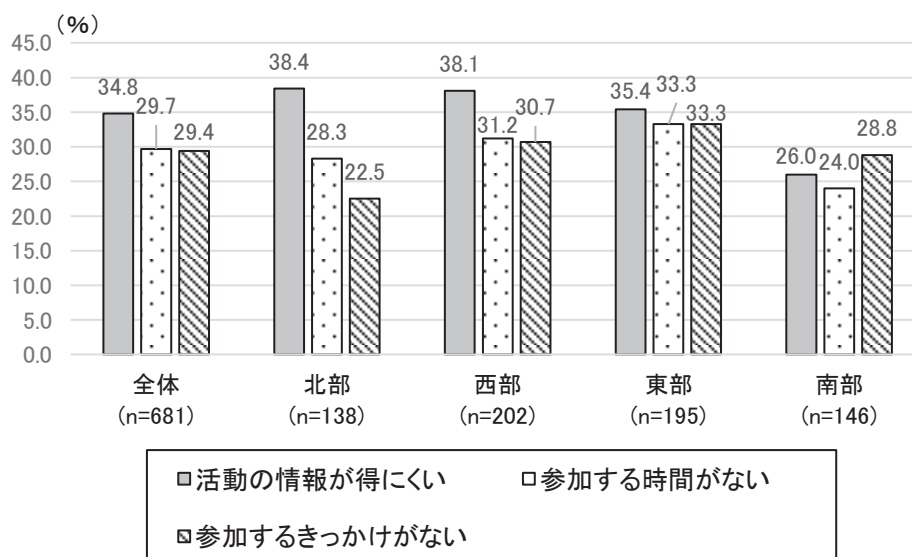
地域活動への参加にあたり気になることをみると、「活動の情報が得にくい」が34.8%で最も多く、次いで「参加する時間がない」が29.7%、「参加するきっかけがない」が29.4%となっている。

図表 67 地域活動への参加にあたり気になること



居住地区別にみると、「活動の情報が得にくい」は「北部(38.4%)」、「参加する時間がない」は「東部(33.3%)」、「参加するきっかけがない」は「東部(33.3%)」が最も多くなっている。

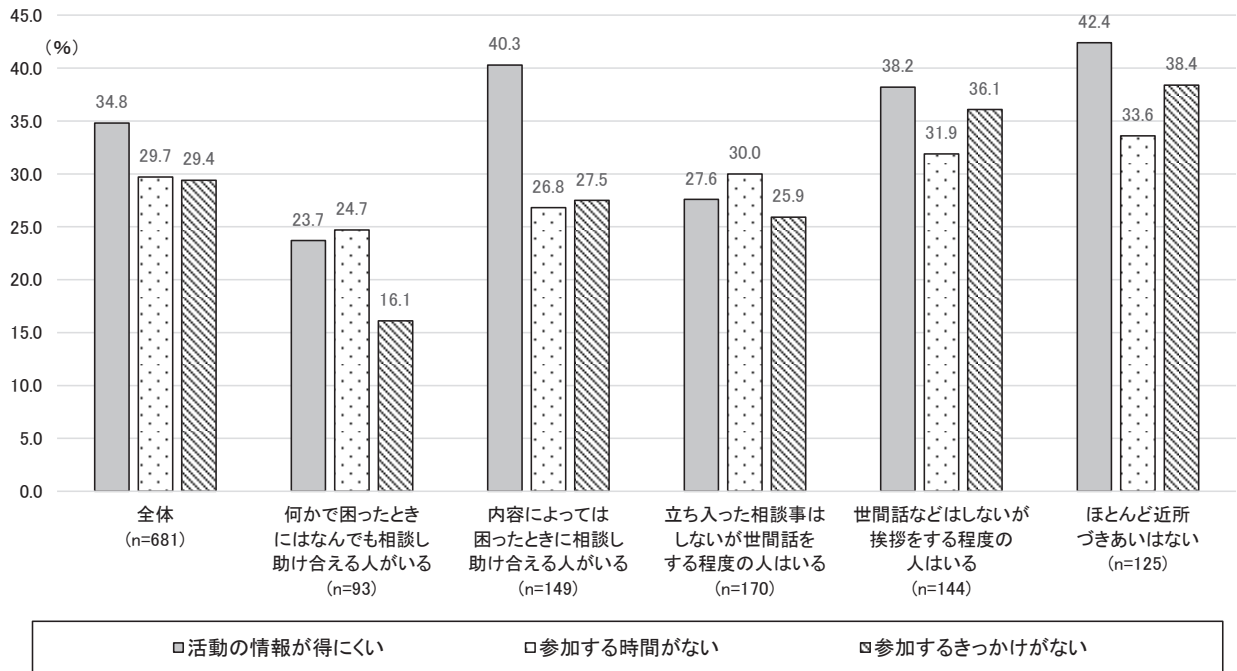
図表 68 地域活動への参加にあたり気になること(居住地区別)



3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

近所づきあいの程度別にみると、「ほとんど近所づきあいはない」が、「活動の情報が得にくい（42.4%）」「参加するきっかけがない（38.4%）」「参加する時間がない（33.6%）」の上位3項目で最も多くなっている。

図表 69 地域活動への参加にあたり気になること(近所づきあいの程度別)



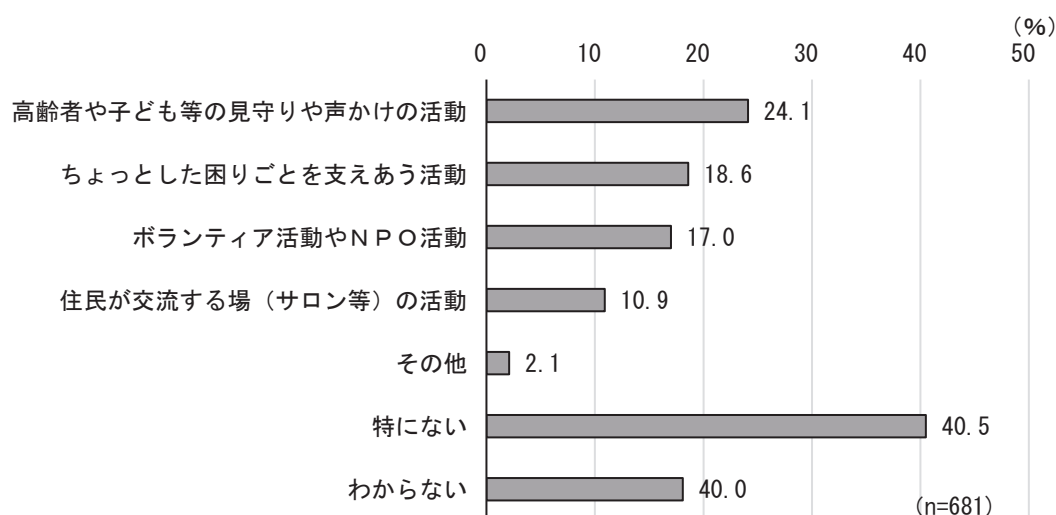
3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

㊸ 地域福祉活動への参加

問26 あなたは、広域での活動も含め、地域福祉活動に参加していますか。また、現在は参加していないが、今後参加したいと思うものがありますか。（あてはまるものすべてに○）

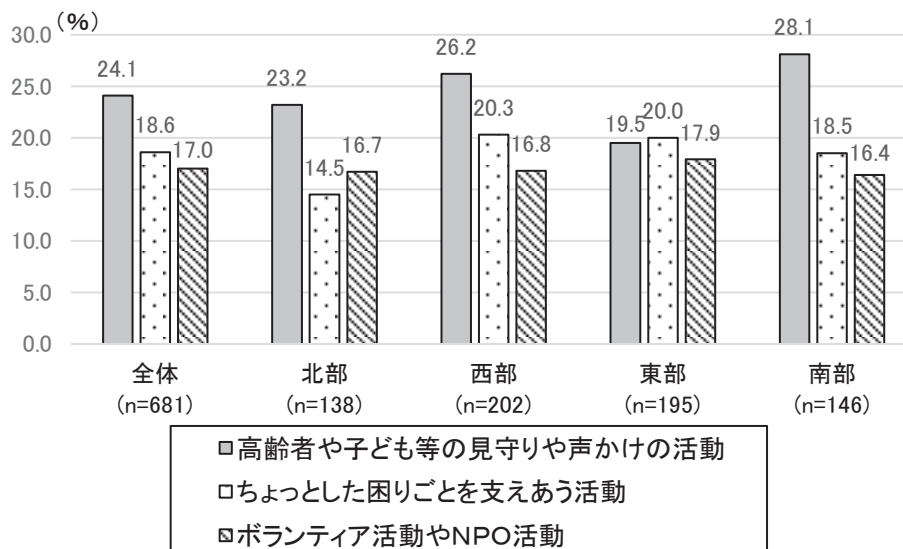
地域福祉活動への参加をみると、「高齢者や子ども等の見守りや声かけの活動」が 24.1%で最も多く、次いで「ちょっとした困りごとを支えあう活動」が 18.6%、「ボランティア活動や NPO 活動」が 17.0%となっている。

図表 70 地域福祉活動への参加



居住地区別にみると、「高齢者や子ども等の見守りや声かけの活動」は「南部(28.1%)」、「ちょっとした困りごとを支えあう活動」は「西部(20.3%)」、「ボランティア活動や NPO 活動」は「東部(17.9%)」が最も多くなっている。

図表 71 地域福祉活動への参加(居住地区別)

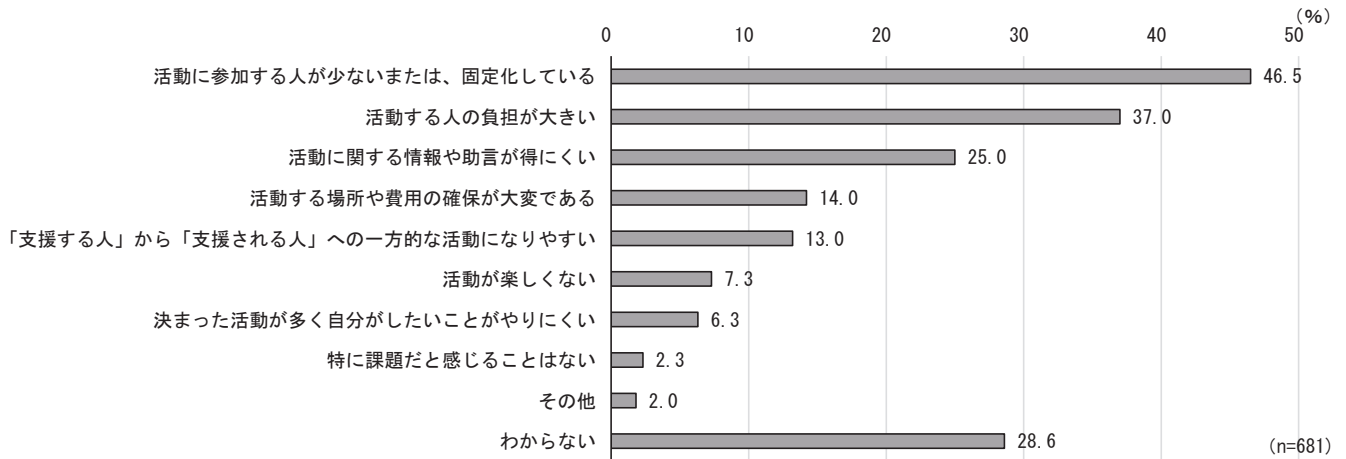


② 地域福祉活動の課題

問27 市民による地域福祉の活動について、課題だと思いませんか。（あてはまるものすべてに○）

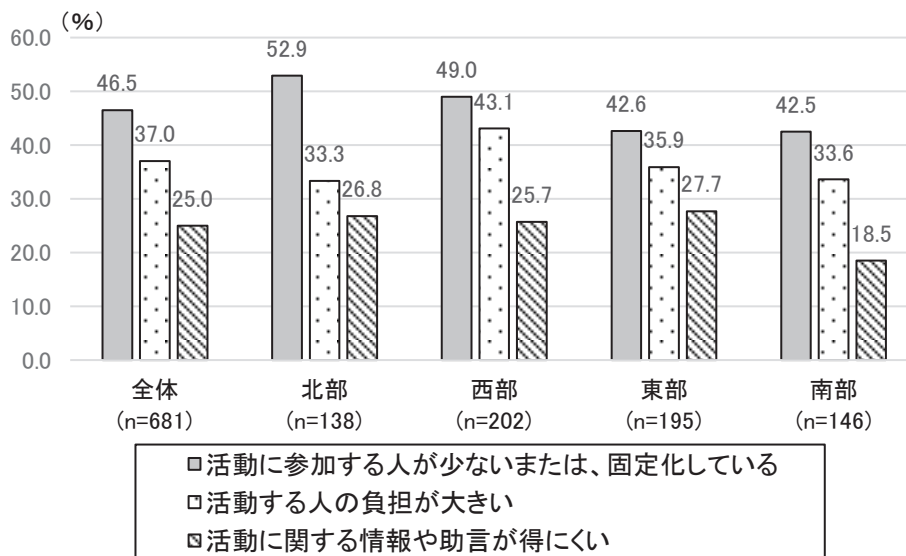
地域福祉活動の課題をみると、「活動に参加する人が少ないまたは、固定化している」が46.5%で最も多く、次いで「活動する人の負担が大きい」が37.0%、「活動に関する情報や助言が得にくい」が25.0%となっている。

図表 72 地域福祉活動の課題



居住地区別にみると、「活動に参加する人が少ないまたは、固定化している」は「北部(52.9%)」、「活動する人の負担が大きい」は「西部(43.1%)」、「活動に関する情報や助言が得にくい」は「東部(27.7%)」が最も多くなっている。

図表 73 地域福祉活動の課題(居住地区別)



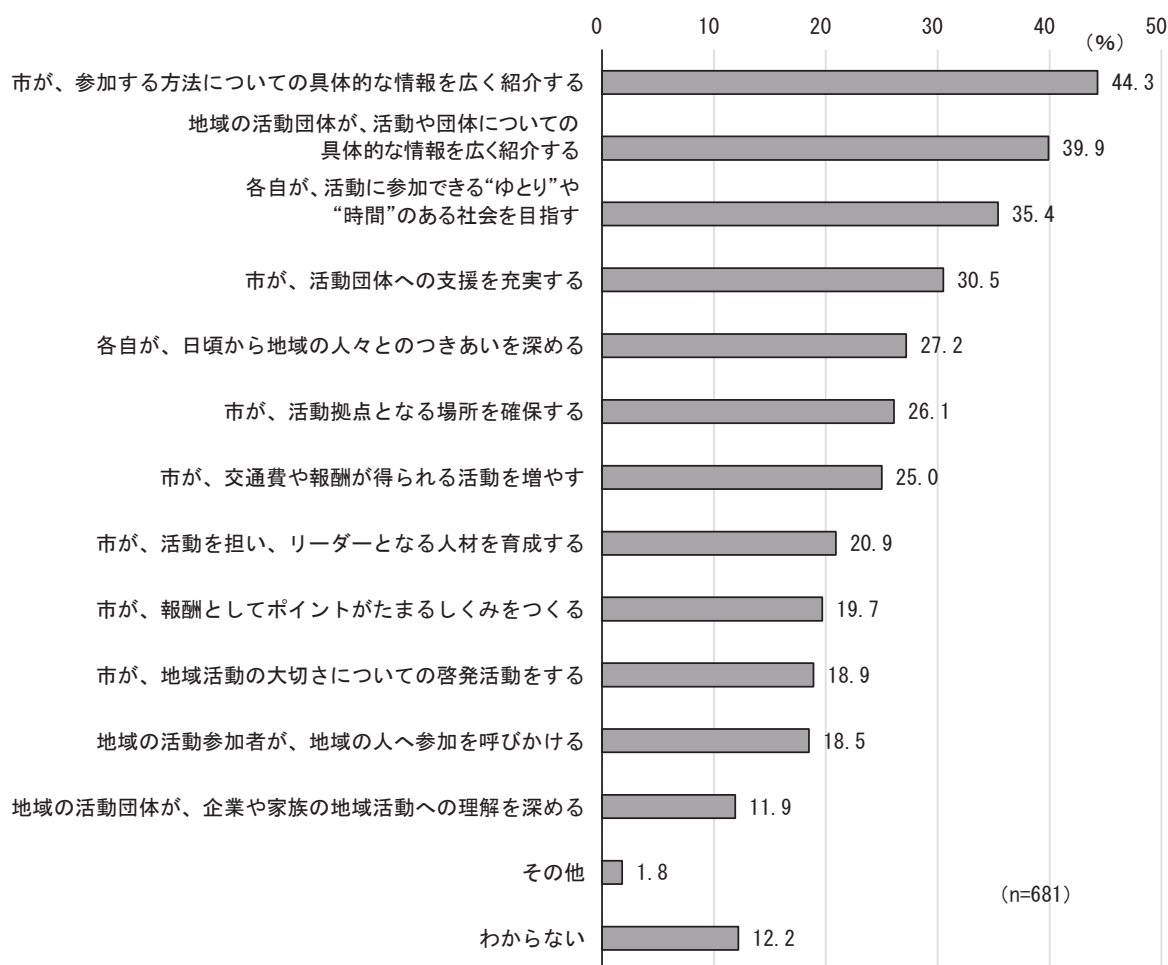
3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

㊸ 地域活動により多くの人が参加できるようにするために必要なこと

問28 あなたは、お住まいの地域の活動に、より多くの人が参加できるようにするためには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

地域活動により多くの人が参加できるようにするために必要なことをみると、「市が、参加する方法についての具体的な情報を広く紹介する」が44.3%で最も多く、次いで「地域の活動団体が、活動や団体についての具体的な情報を広く紹介する」が39.9%、「各自が、活動に参加できる“ゆとり”や“時間”のある社会を目指す」が35.4%となっている。

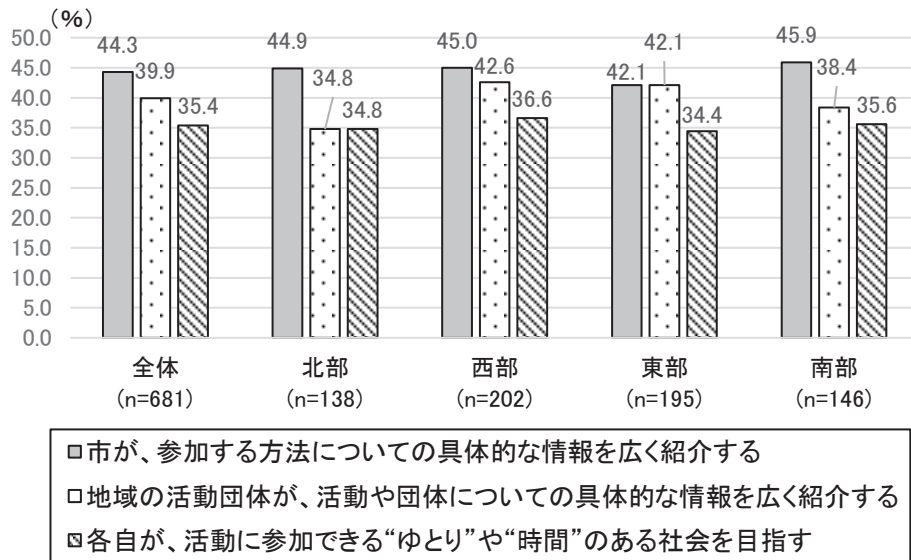
図表 74 地域活動により多くの人が参加できるようにするために必要なこと



3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

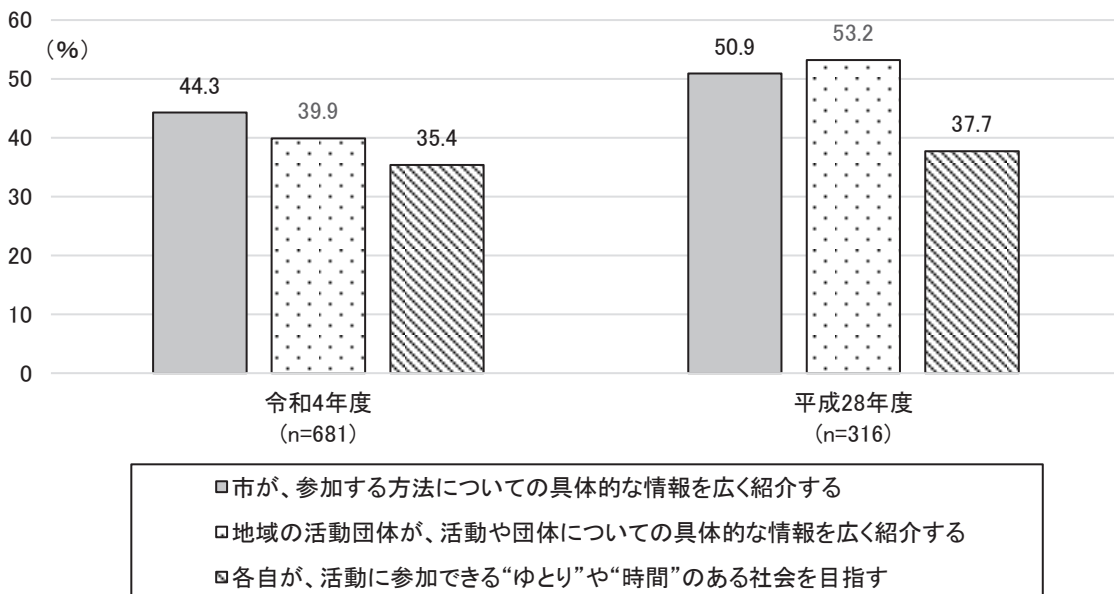
居住地区別にみると、「市が、参加する方法についての具体的な情報を広く紹介する」は「南部（45.9%）」、「地域の活動団体が、活動や団体についての具体的な情報を広く紹介する」は「西部（42.6%）」、「各自が、活動に参加できる“ゆとり”や“時間”のある社会を目指す」は「西部（36.6%）」が最も多くなっている。

図表 75 地域活動により多くの人が参加できるようにするために必要なこと（居住地区別）



経年で見ると、平成 28 年度の調査と比べて、「地域の活動団体が、活動や団体についての具体的な情報を広く紹介する」が大幅に減少している。

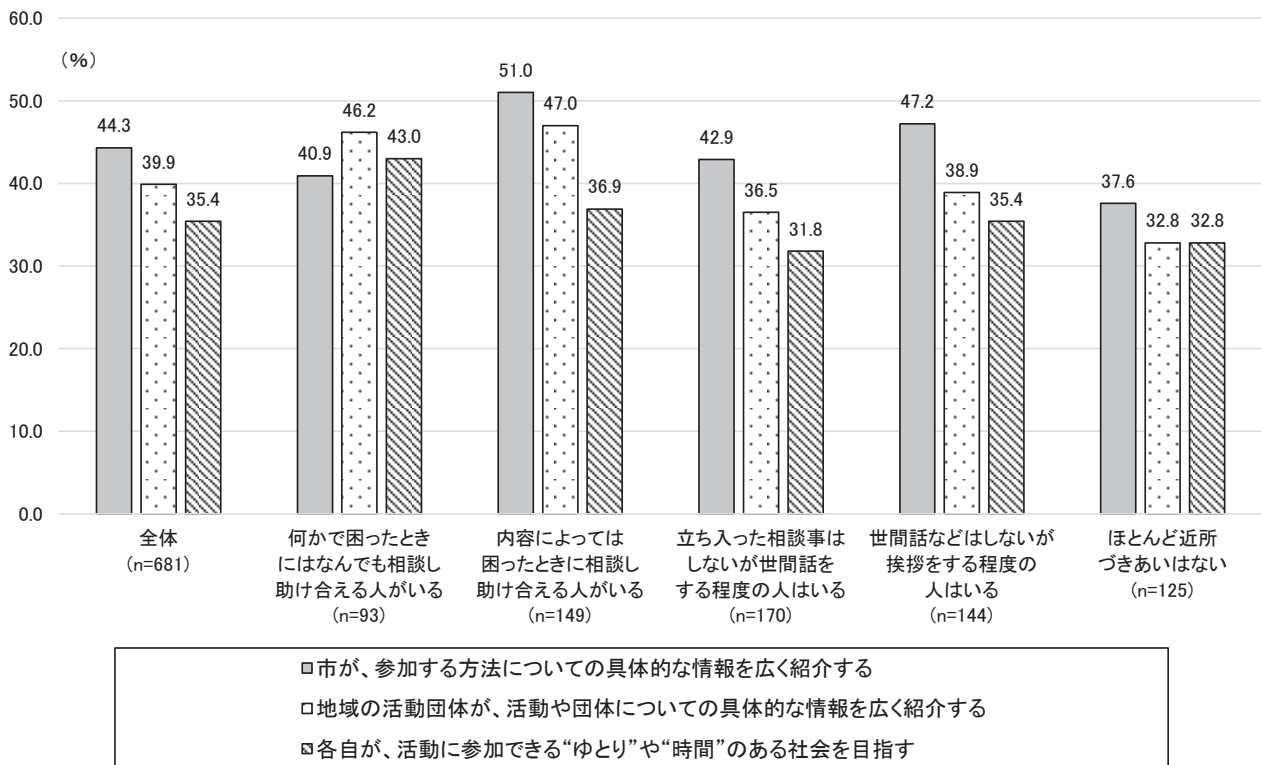
図表 76 地域活動により多くの人が参加できるようにするために必要なこと（経年比較）



3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

近所づきあいの程度別にみると、「市が、参加する方法についての具体的な情報を広く紹介する」は「内容によっては困ったときに相談し助け合える人がある(51.0%)」、「地域の活動団体が、活動や団体についての具体的な情報を広く紹介する」は「内容によっては困ったときに相談し助け合える人がある(47.0%)」、「各自が、活動に参加できる“ゆとり”や“時間”のある社会を目指す」は「何かで困ったときにはなんでも相談し助け合える人がある(43.0%)」が最も多くなっている。

図表 77 地域活動により多くの人に参加できるようにするために必要なこと(近所づきあいの程度別)

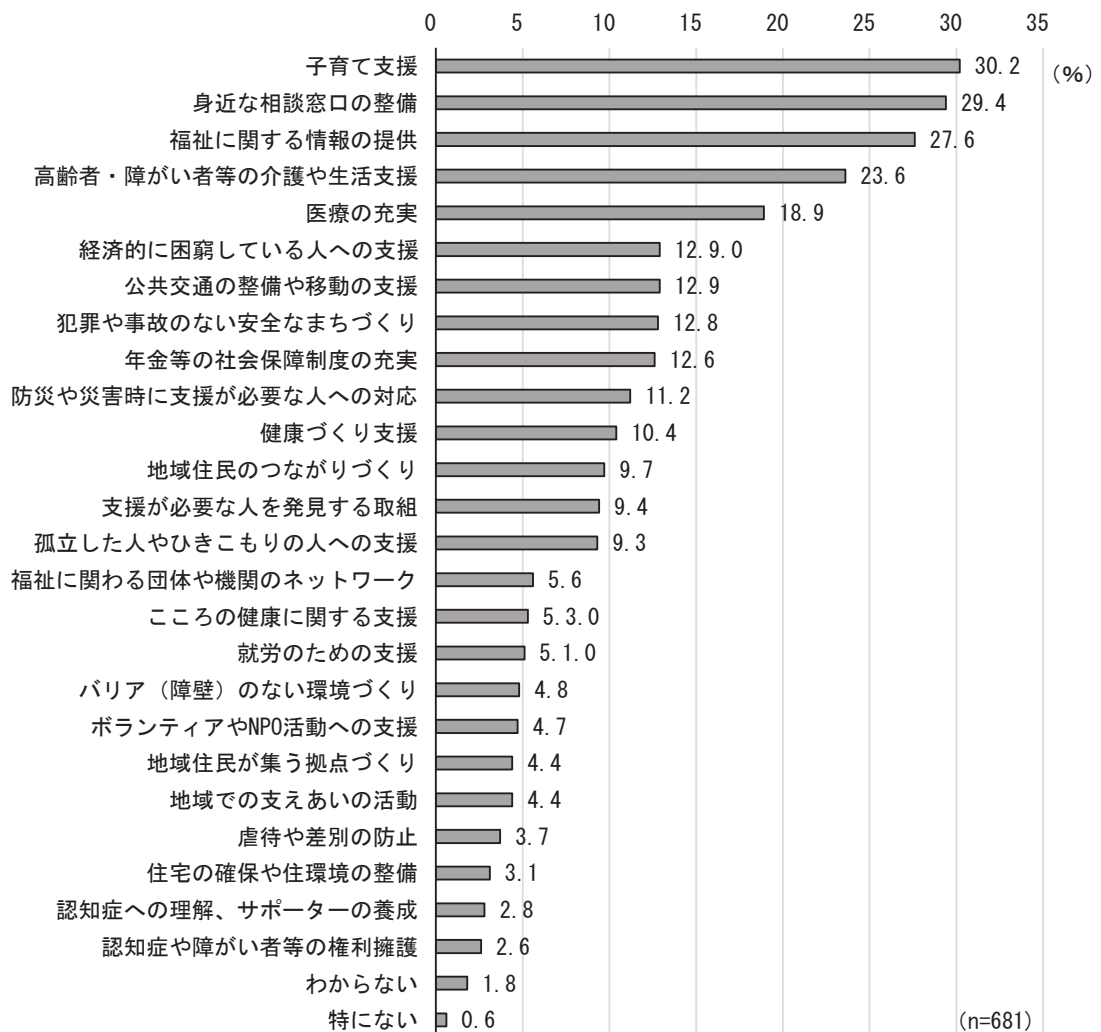


⑨ 地域福祉の充実のため市が優先的に取り組むべきこと

問29 地域福祉を充実させるために、市川市はどのようなことを特に優先的に取り組むべきだと思いますか。（〇は3つまで）

地域福祉を充実させるために、市が優先的に取り組むべきことみると、「子育て支援」が30.2%で最も多く、次いで「身近な相談窓口の整備」が29.4%、「福祉に関する情報の提供」が27.6%となっている。

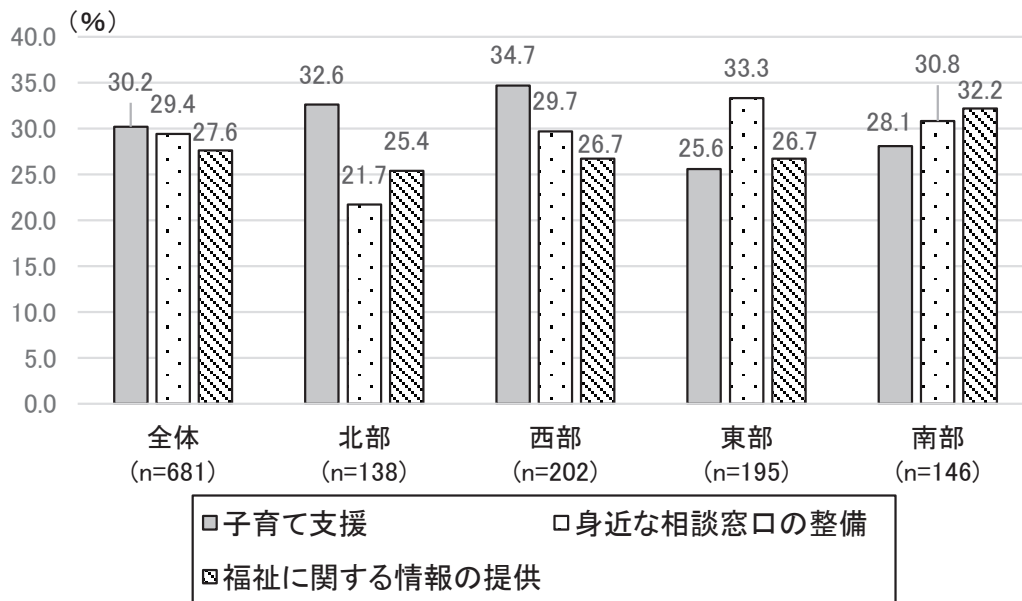
図表 78 地域福祉の充実のため市が優先的に取り組むべきこと



3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

居住地区別にみると、「子育て支援」は「西部(34.7%)」、「身近な相談窓口の整備」は「東部(33.3%)」、「福祉に関する情報の提供」は「南部(32.2%)」が最も多くなっている。

図表 79 地域福祉の充実のため市が優先的に取り組むべきこと(居住地区別)

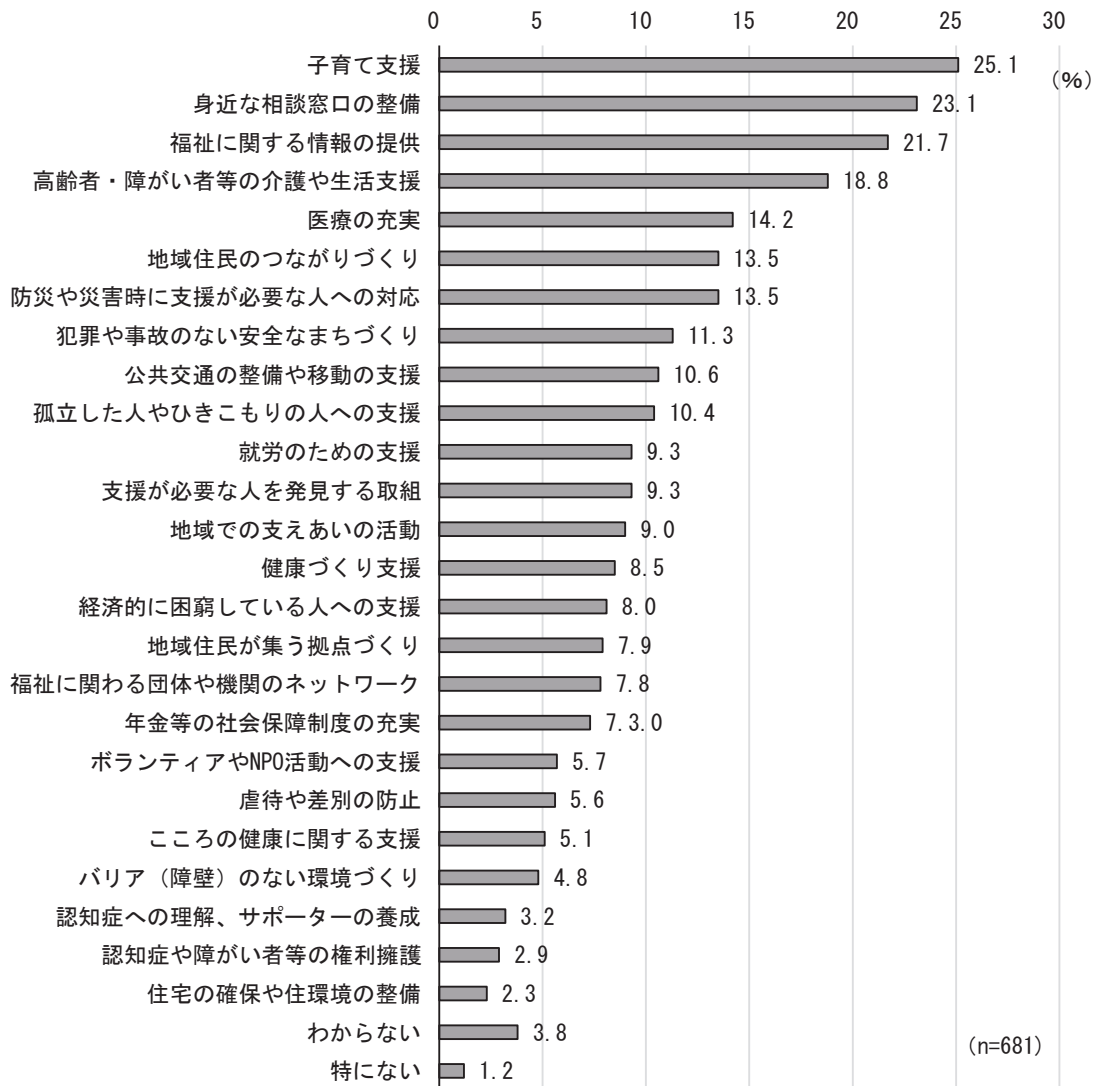


③ 地域や民間の団体・事業者等が積極的に取り組むべきこと

問30 地域や民間の団体・事業者等が積極的に取り組むべきだと思われることはありますか。（〇は3つまで）

地域や民間の団体・事業者等が積極的に取り組むべきことをみると、「子育て支援」が25.1%で最も多く、次いで「身近な相談窓口の整備」が23.1%、「福祉に関する情報の提供」が21.7%となっている。

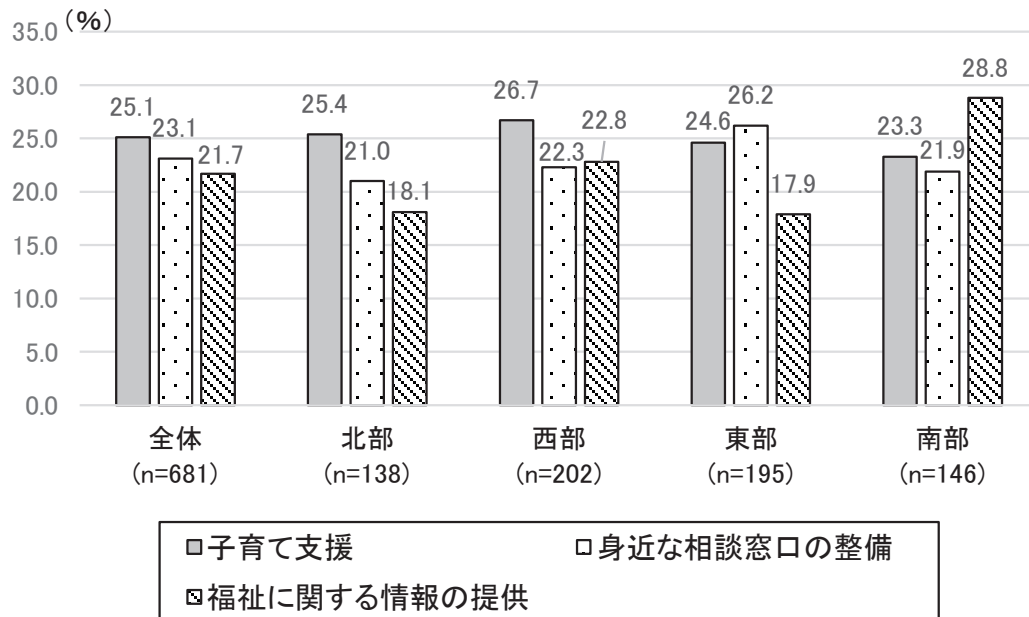
図表 80 地域や民間の団体・事業者等が積極的に取り組むべきこと



3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

居住地区別にみると、「子育て支援」は「西部(26.7%)」、「身近な相談窓口の整備」は「東部(26.2%)」、「福祉に関する情報の提供」は「南部(28.8%)」が最も多くなっている。

図表 81 地域や民間の団体・事業者等が積極的に取り組むべきこと(居住地区別)

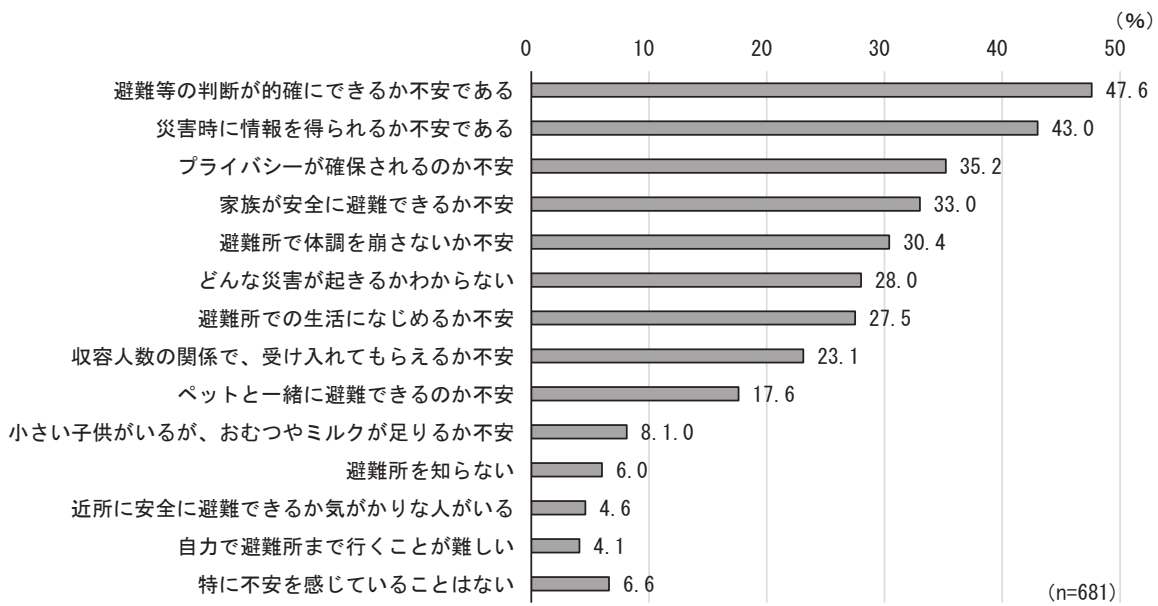


③1 地震や台風等の災害時の避難で不安に感じること

問31 あなたは、地震や台風等の災害時の避難に関して、不安を感じていることがありますか。（あてはまるものすべてに○）

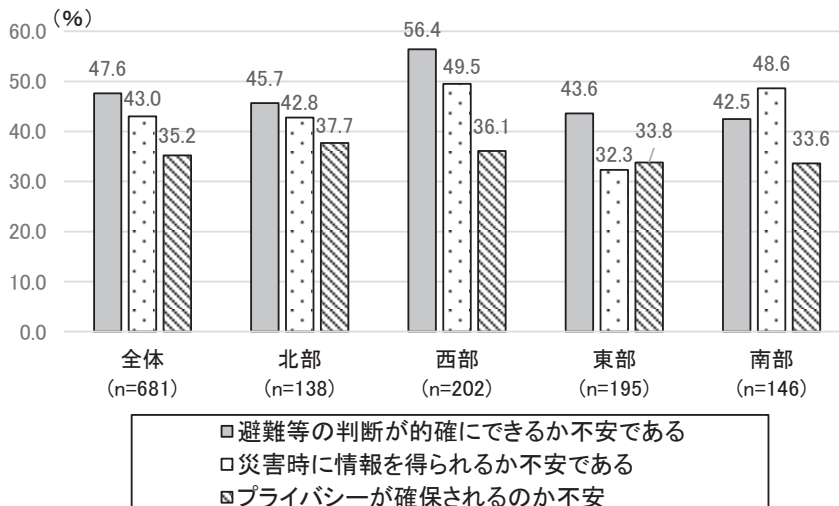
地震や台風等の災害時の避難で不安に感じることをみると、「避難時の判断が的確にできるか不安である」が47.6%で最も多く、次いで「災害時に情報を得られるか不安である」が43.0%、「プライバシーが確保されるのか不安」が35.2%となっている。

図表 82 地震や台風等の災害時の避難で不安に感じること



居住地区別にみると、「避難時の判断が的確にできるか不安である」は「西部(56.4%)」、「災害時に情報を得られるか不安である」は「西部(49.5%)」、「プライバシーが確保されるのか不安」は「北部(37.7%)」が最も多くなっている。

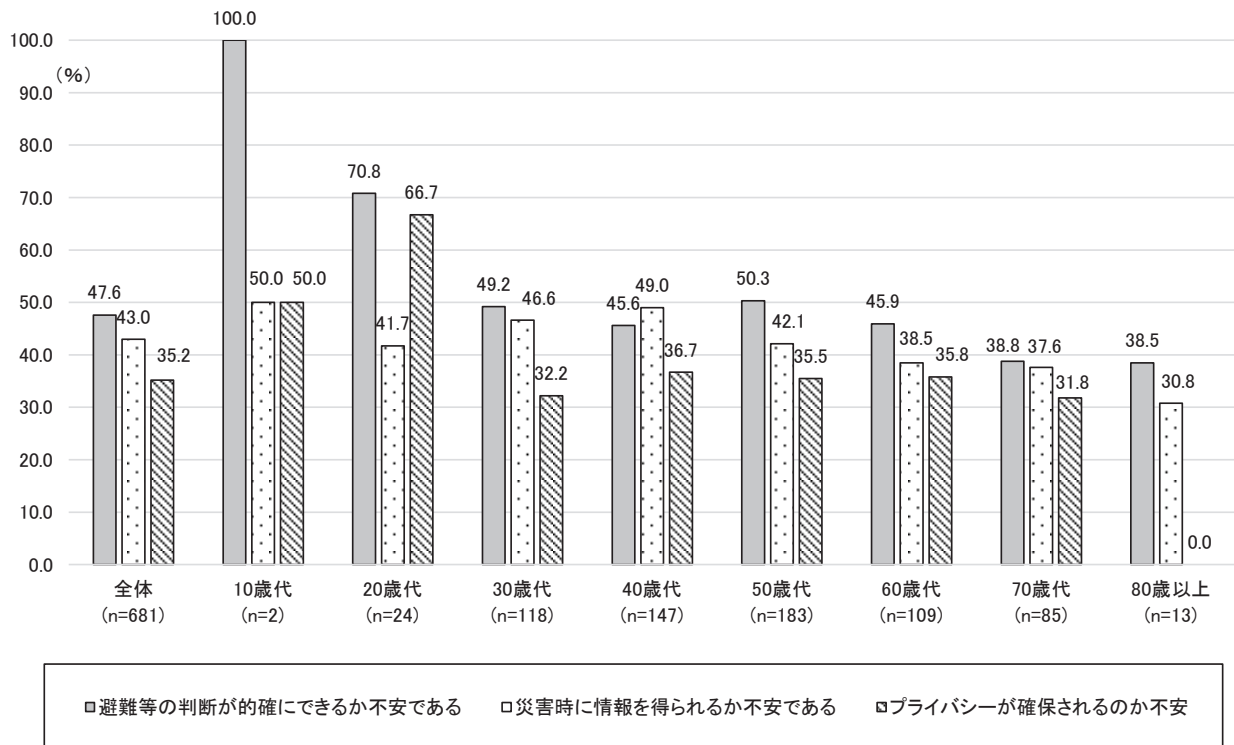
図表 83 地震や台風等の災害時の避難で不安に感じること(居住地区別)



3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

年齢別にみると、「避難等の判断が的確にできるか不安である」は「20 歳代(70.8%)」、「災害時に情報を得られるか不安である」は「40 歳代(49.0%)」、「プライバシーが確保されるのか不安」は「20 歳代(66.7%)」が最も多くなっている。

図表 84 地震や台風等の災害時の避難で不安に感じること(年齢別)

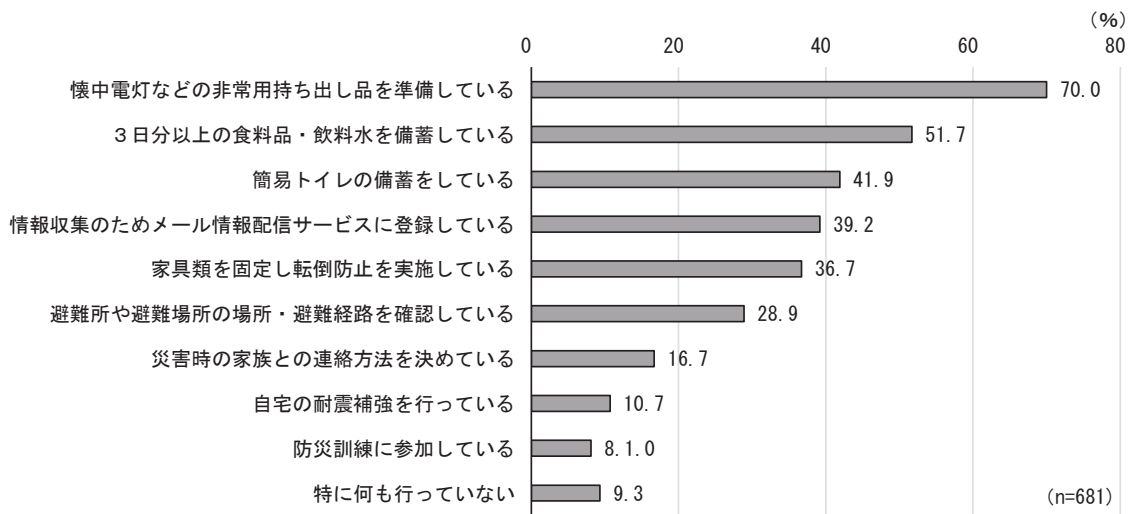


③ 地震や災害に備えた日頃の対策

問32 あなたは、地震や災害時の避難に備えて、日頃からどのような対策を行っていますか。（あてはまるものすべてに○）

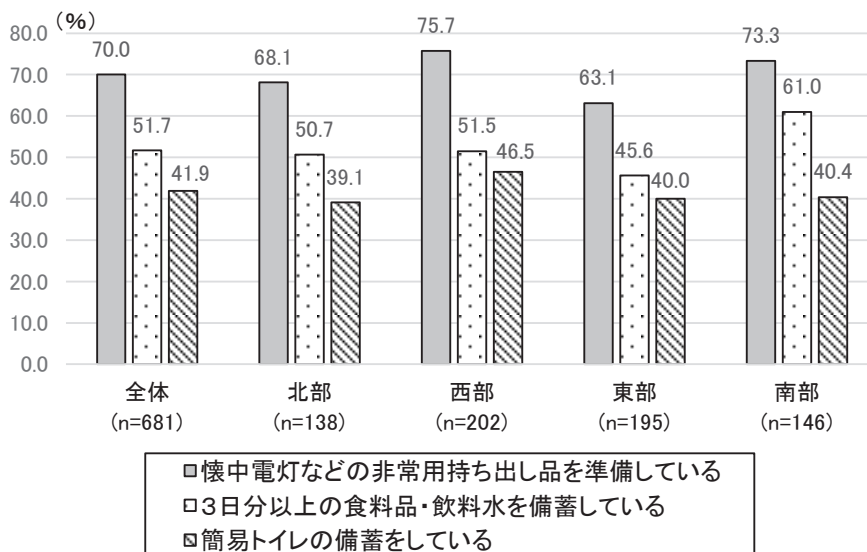
地震や災害に備えた日頃の対策をみると、「懐中電灯などの非常用持ち出し品を準備している」が70.0%で最も多く、次いで「3日分以上の食料品・飲料水を備蓄している」が51.7%、「簡易トイレの備蓄をしている」が41.9%となっている。

図表 85 地震や災害に備えた日頃の対策



居住地区別にみると、「懐中電灯などの非常用持ち出し品を準備している」は「西部(75.7%)」、「3日分以上の食料品・飲料水を備蓄している」は「南部(61.0%)」、「簡易トイレの備蓄をしている」は「西部(46.5%)」が最も多くなっている。

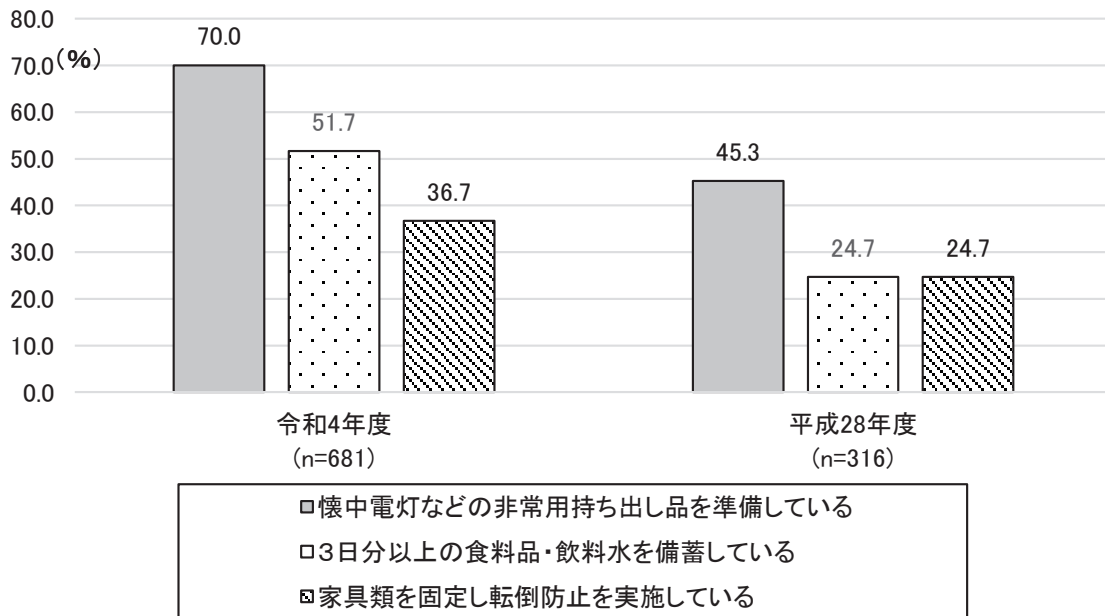
図表 86 地震や災害に備えた日頃の対策(居住地区別)



3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

経年で見ると、平成 28 年度の調査と比べて、「懐中電灯などの非常用持ち出し品を準備している」、「3日分以上の食料品・飲料水を備蓄している」「家具類を固定し転倒防止を実施している」全ての項目で増加している。

図表 87 地震や災害に備えた日頃の対策（経年比較）

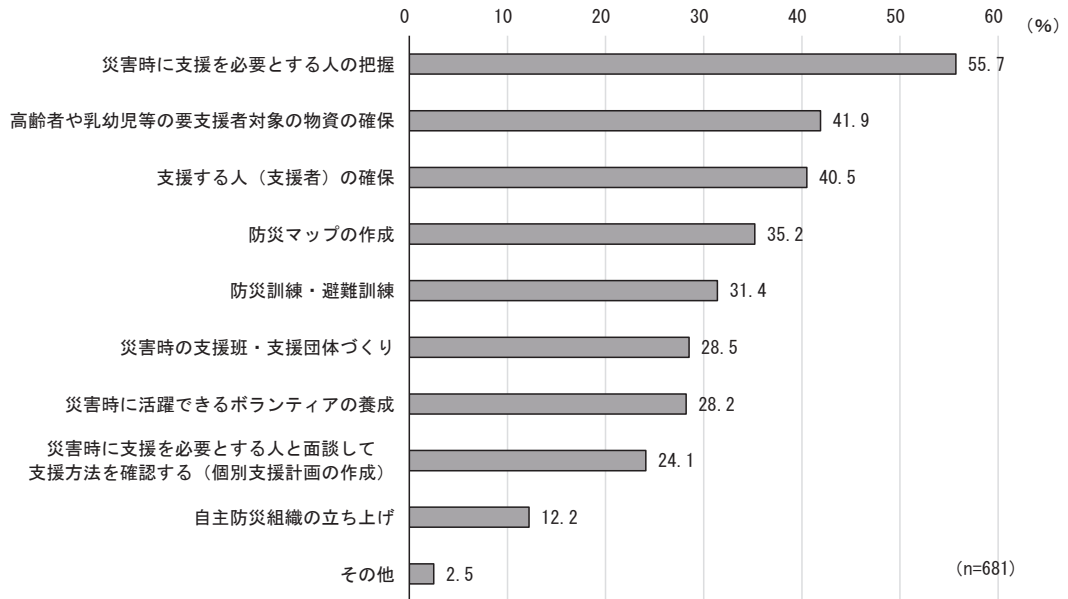


③ 災害対策としての地域での備え

問33 あなたは、災害時の対策として、地域でどのような備えをしておくことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

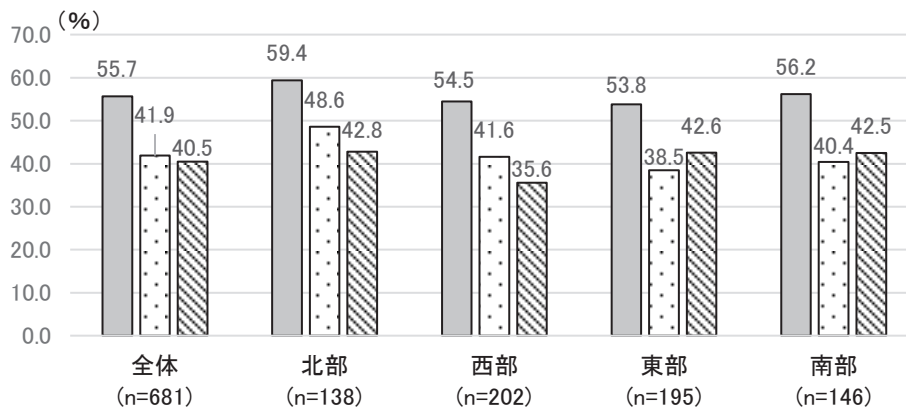
災害対策としての地域での備えをみると、「災害時に支援を必要とする人の把握」が55.7%で最も多く、次いで「高齢者や乳幼児等の要支援者対象の物資の確保」が41.9%、「支援する人（支援者）の確保」が40.5%となっている。

図表 88 災害対策としての地域での備え



居住地区別にみると、「災害時に支援を必要とする人の把握」は「北部(59.4%)」、「高齢者や乳幼児等の要支援者対象の物資の確保」は「北部(48.6%)」、「支援する人（支援者）の確保」は「北部(42.8%)」が最も多くなっている。

図表 89 災害対策としての地域での備え（居住地区別）



災害時に支援を必要とする人の把握
 高齢者や乳幼児等の要支援者対象の物資の確保
 支援する人（支援者）の確保

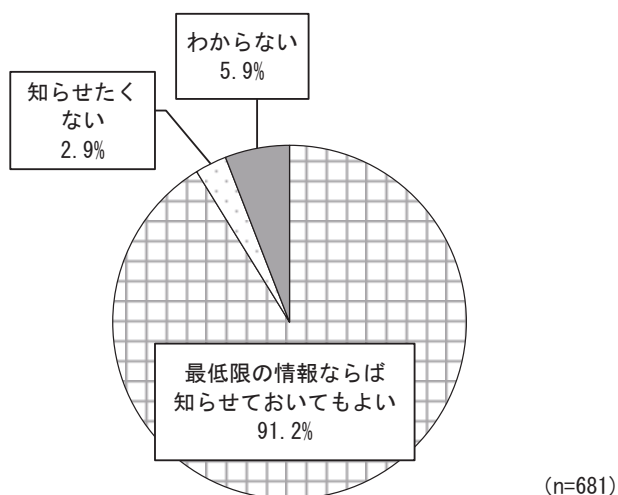
3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

③ 災害時避難・救助のための名簿作成への参加意向

問34 あなたは、災害時の避難や救助のために、市役所、消防署、警察署や自治(町)会へ、住所・氏名・連絡先などを事前に知らせておくことについて、どう思いますか。(○は1つだけ)

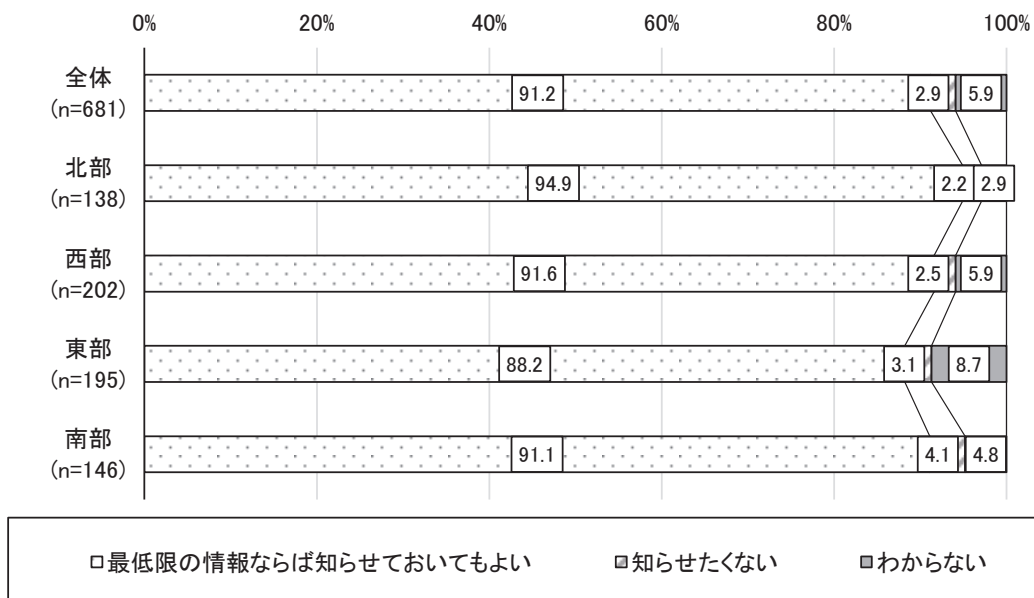
災害時避難・救助のための名簿作成への参加意向をみると、「最低限の情報ならば知らせておいてもよい」が91.2%で最も多く、「知らせたくない」が2.9%、「わからない」が5.9%となっている。

図表 90 災害時避難・救助のための名簿作成への参加意向



居住地区別にみると、「最低限の情報ならば知らせておいてもよい」は「北部(94.9%)」、「知らせたくない」は「南部(4.1%)」、「わからない」は「東部(8.7%)」が最も多くなっている。

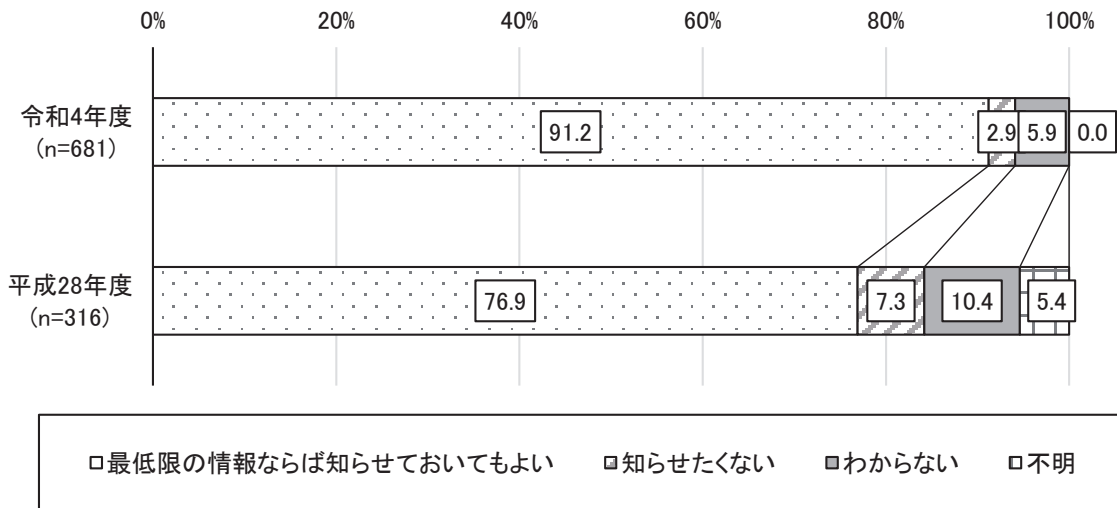
図表 91 災害時避難・救助のための名簿作成への参加意向(居住地区別)



3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

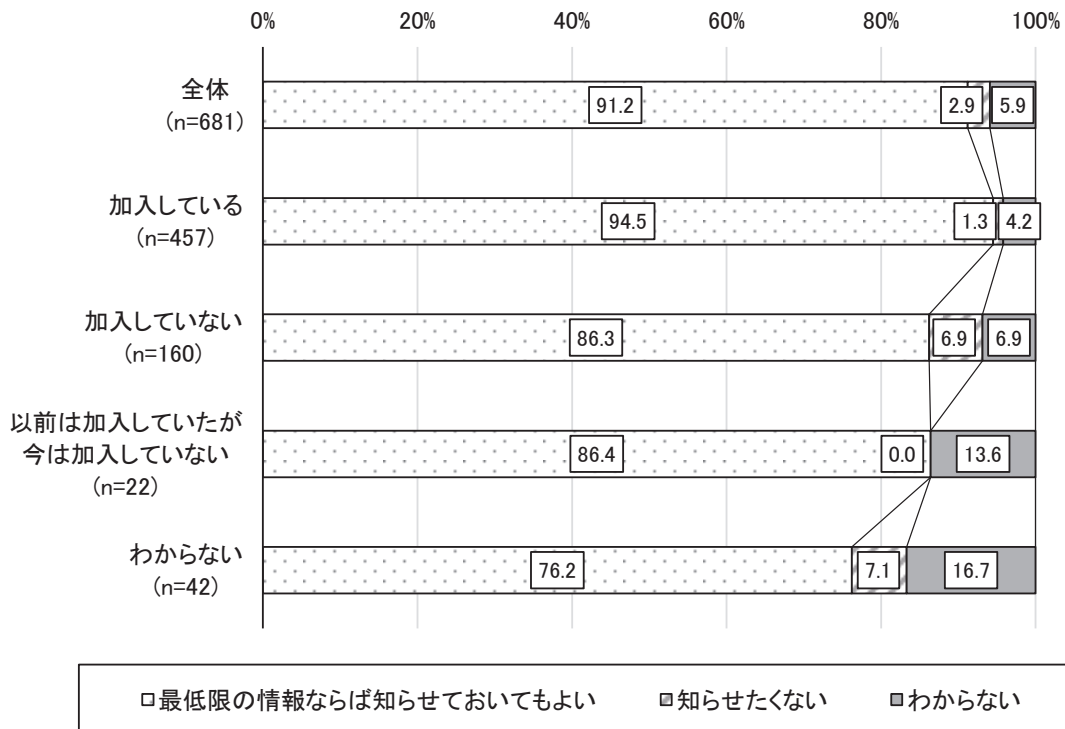
経年でみると、平成 28 年度の調査と比べて、「最低限の情報ならば知らせておいてもよい」が大きく増加しており、9 割以上を占めている。

図表 92 災害時避難・救助のための名簿作成への参加意向（経年比較）



自治会の加入状況別にみると、「最低限の情報ならば知らせておいても良い」は「加入している(94.5%)」、「知らせたくない」は「わからない(76.2%)」が最も多くなっている。

図表 93 災害時避難・救助のための名簿作成への参加意向（自治会の加入状況別）



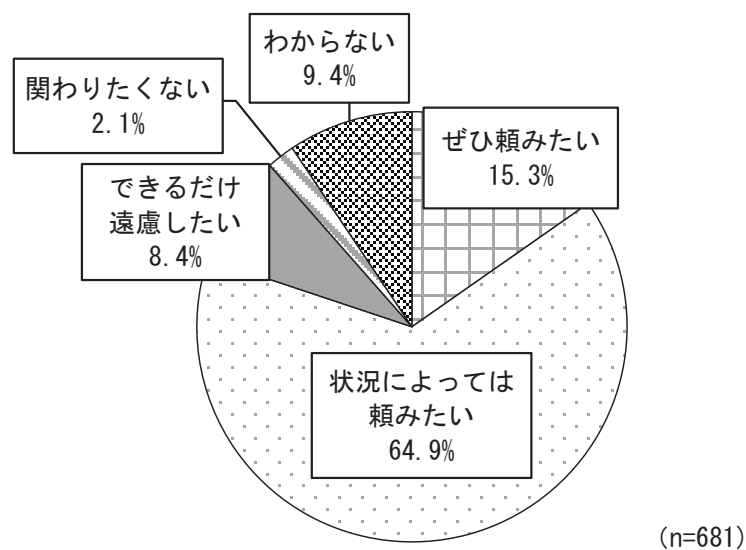
3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

㊸ 災害時や日常生活に支障がある際の声かけや簡単な援助の依頼意向

問35 住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、災害時だけでなく、日頃からの身近な地域での助け合いが大切だと言われています。災害のときや日常生活に支障があるときに、自治(町)会などによる声かけや簡単な援助をしてもらうことについてどう思いますか。(○は1つだけ)

災害時や日常生活に支障がある際の声かけや簡単な援助の依頼意向をみると、「状況によっては頼みたい」が64.9%で最も多く、次いで「ぜひ頼みたい」が15.3%、「できるだけ遠慮したい」が8.4%となっている。

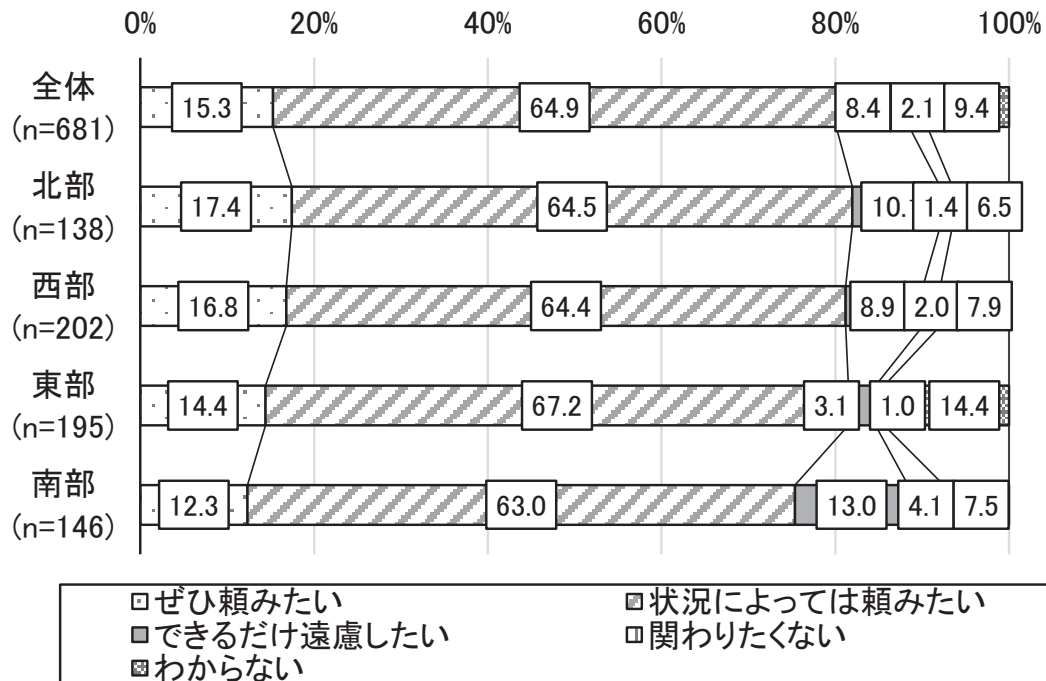
図表 94 災害時や日常生活に支障がある際の声かけや簡単な援助の依頼意向



3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

居住地区別にみると、「状況によっては頼みたい」は「東部(67.2%)」、「ぜひ頼みたい」は「北部(17.4%)」、「できるだけ遠慮したい」は「南部(13.0%)」が最も多くなっている。

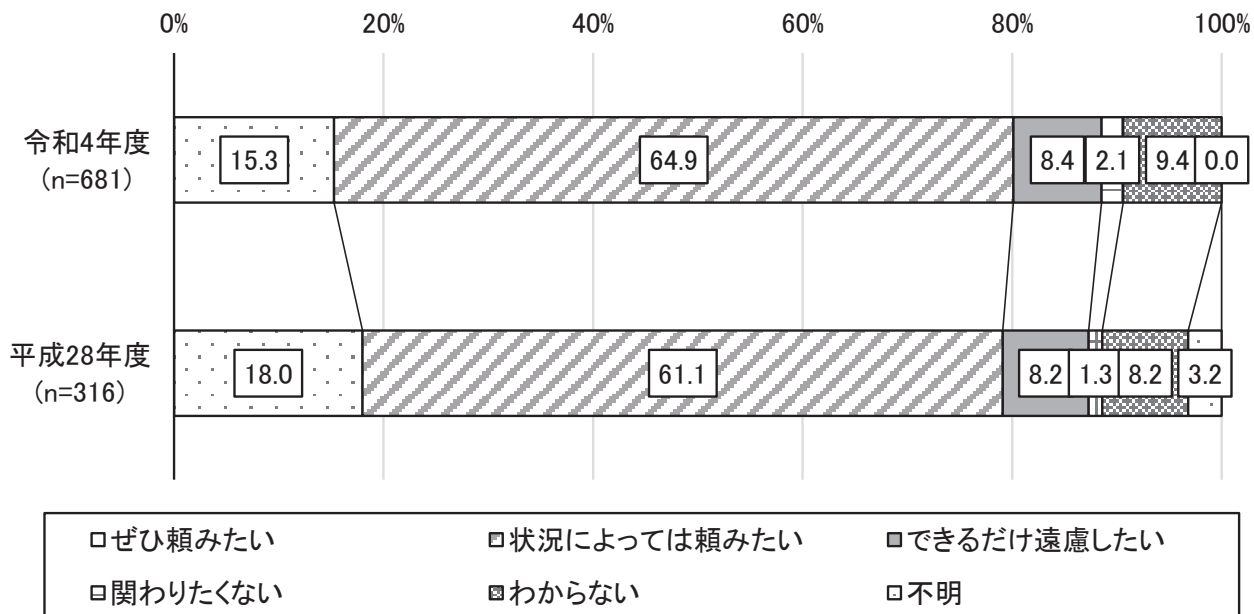
図表 95 災害時や日常生活に支障がある際の声かけや簡単な援助の依頼意向(居住地区別)



3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

経年で見ると、平成 28 年度の調査と比べて、「状況によっては頼みたい」が微増している。

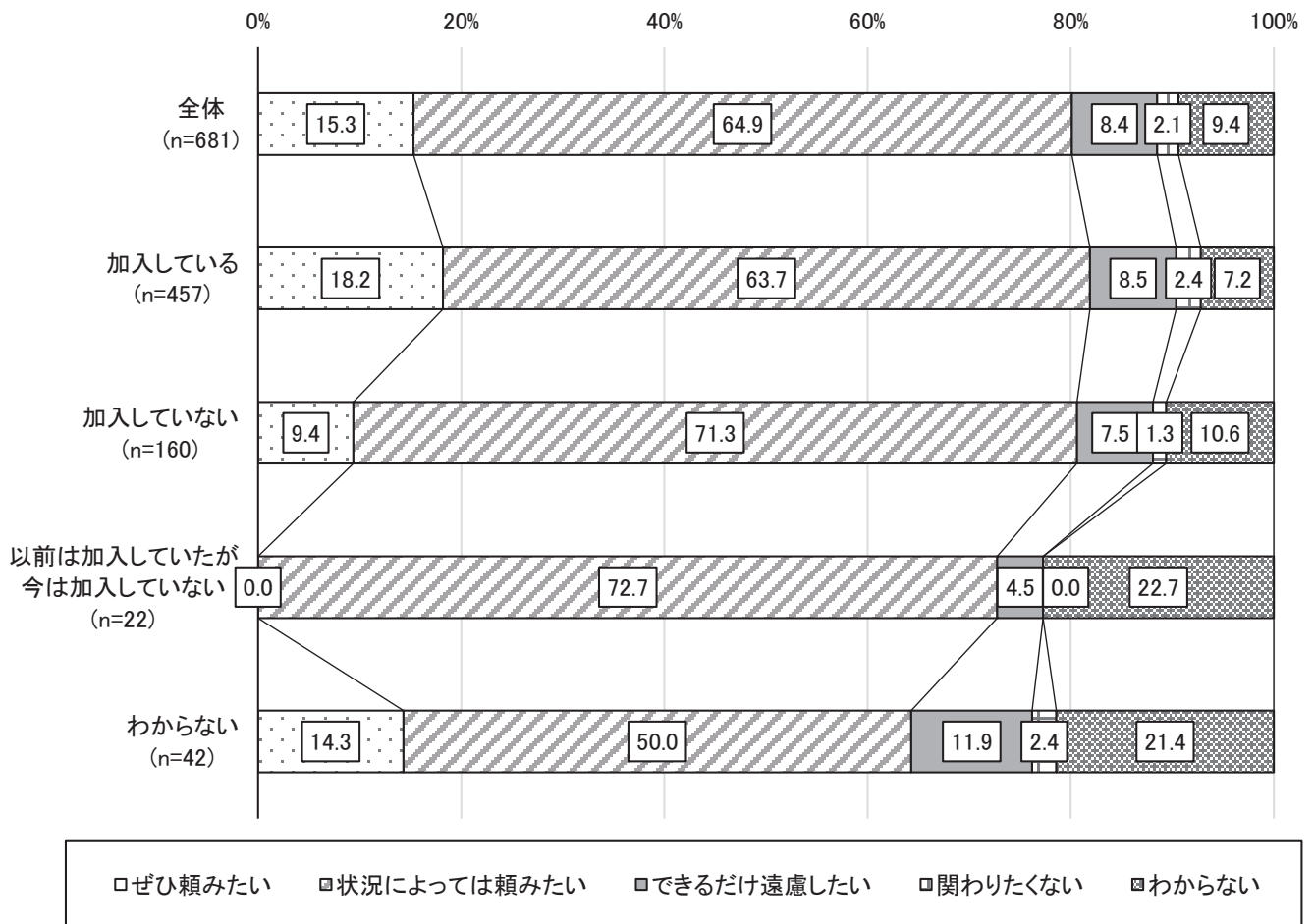
図表 96 災害時や日常生活に支障がある際の声かけや簡単な援助の依頼意向（経年比較別）



3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

自治会の加入状況別にみると、「状況によっては頼みたい」は「以前は加入していたが今は加入していない(72.7%)」、「ぜひ頼みたい」は「加入している(18.2%)」、「できるだけ遠慮したい」は「加入している(8.5%)」で最も多くなっている。

図表 97 災害時や日常生活に支障がある際の声かけや簡単な援助の依頼意向
(自治会の加入状況別)



3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

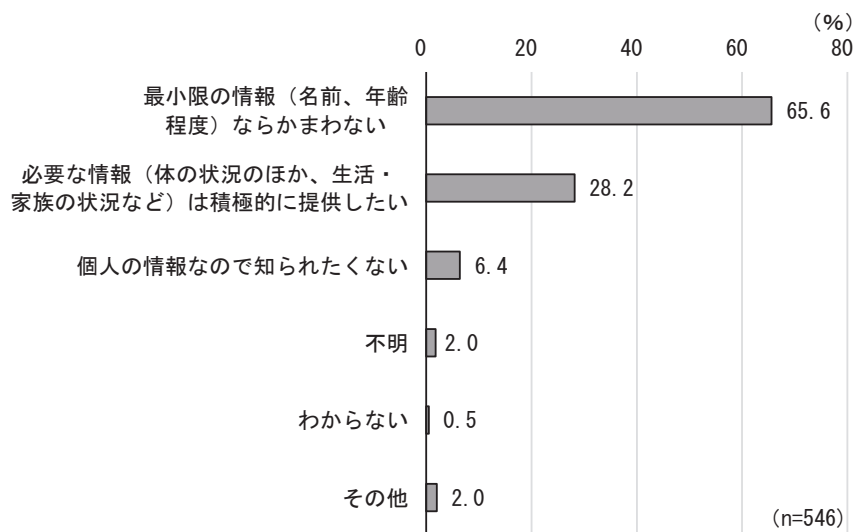
③⑥ 避難行動要支援者名簿作成に関する意識

問36 問35で「1. ぜひ頼みたい」、「2. 状況によっては頼みたい」と回答した方にお聞きます。

あなたの名前や年齢、お体の状況、ご家族の有無など個人の情報が自治(町)会などに知られることについてはどのように思いますか。(あてはまるものすべてに○)

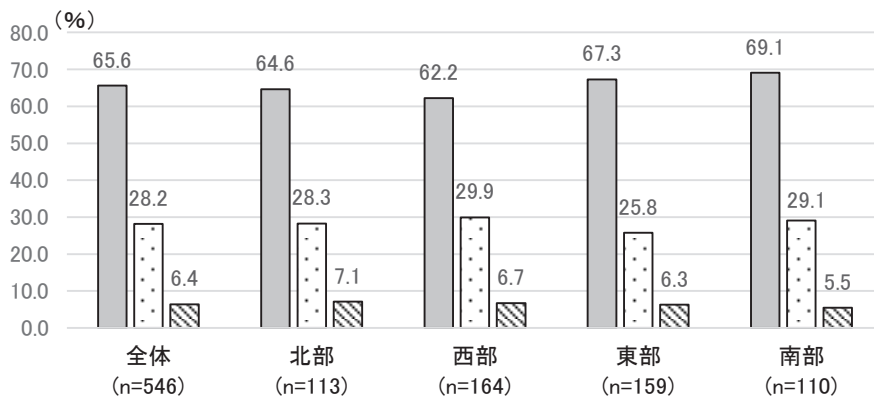
避難行動要支援者名簿作成に関する意識をみると、「最小限の情報(名前、年齢程度)ならかまわない」が65.6%で最も多く、次いで「必要な情報(体の状況のほか、生活・家族の状況など)は積極的に提供したい」が28.2%、「個人の情報なので知られたくない」が6.4%となっている。

図表 98 避難行動要支援者名簿作成に関する意識



居住地区別にみると、「最小限の情報(名前、年齢程度)ならかまわない」は「南部(69.1%)」、「必要な情報(体の状況のほか、生活・家族の状況など)は積極的に提供したい」は「西部(29.9%)」、「個人の情報なので知られたくない」は「北部(7.1%)」が最も多くなっている。

図表 99 避難行動要支援者名簿作成に関する意識(居住地区別)

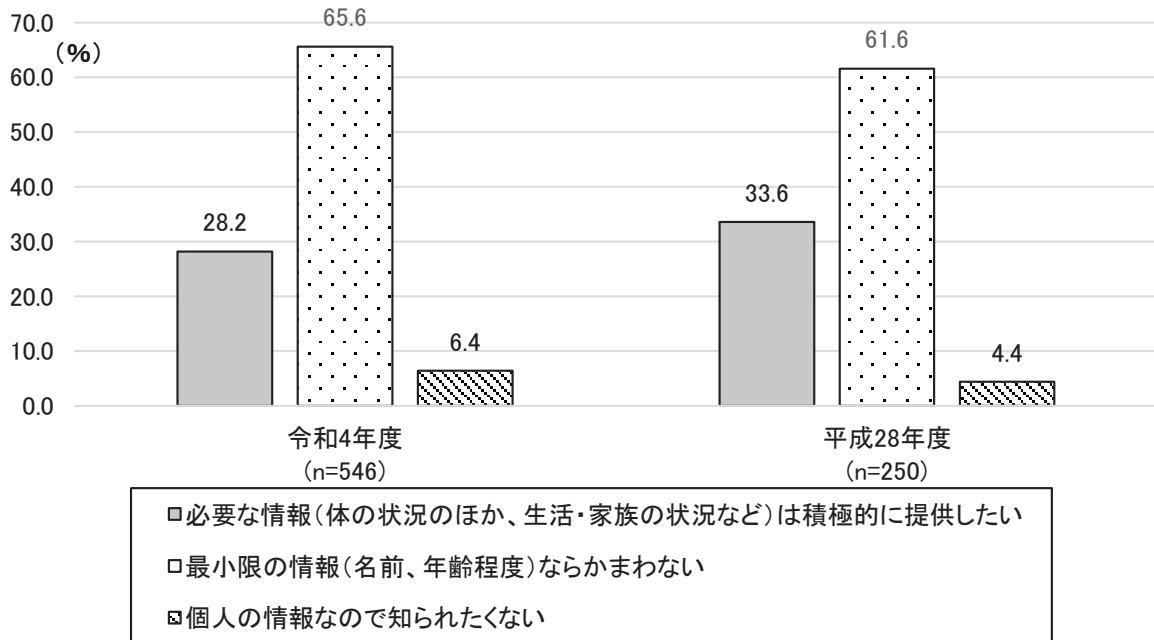


- 最小限の情報(名前、年齢程度)ならかまわない
- ▤ 必要な情報(体の状況のほか、生活・家族の状況など)は積極的に提供したい
- ▨ 個人の情報なので知られたくない

3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

経年で見ると、平成 28 年度の調査と比べて、「最小限の情報(名前、年齢程度)ならかまわない」が微増している。

図表 100 避難行動要支援者名簿作成に関する意識(経年比較)



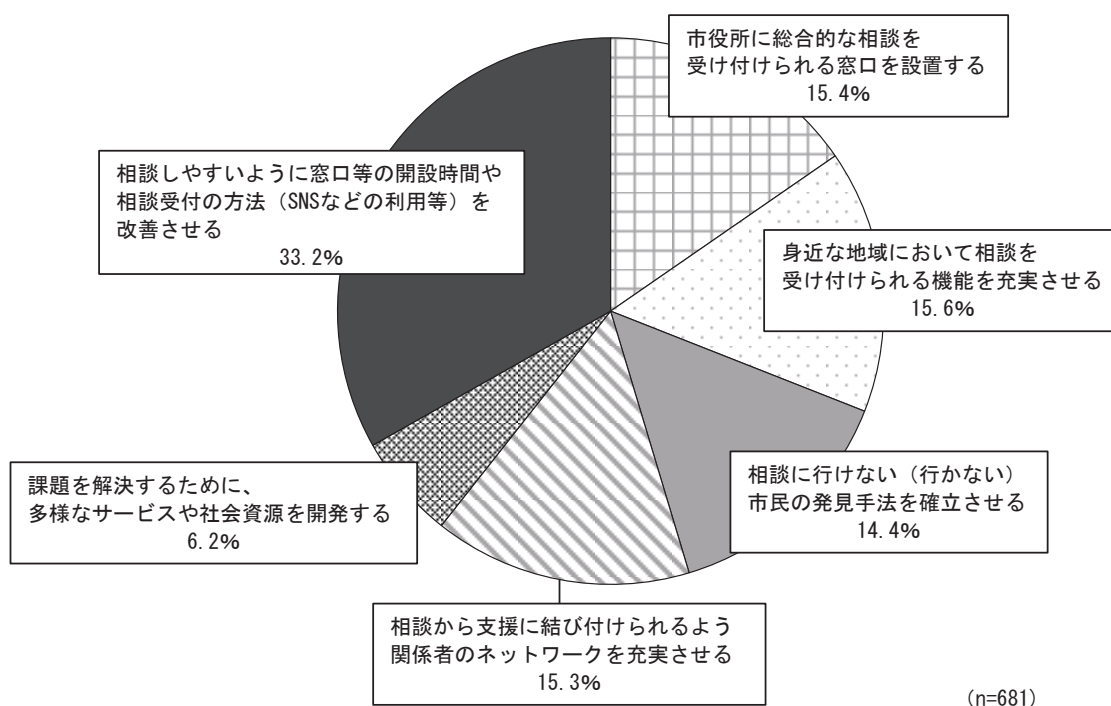
3.調査結果の詳細／市民（Web 回答）

③ 地域共生社会に向け市が力を入れて取り組むべきこと

問37 「地域共生社会」では、多様な生活課題に法制度の枠組みを超えて、横断的に対応する相談支援体制が求められますが、市川市ではこうした包括的な相談支援の仕組みを充実していくうえで、特に優先的に力を入れて取り組むべきことはどのようなことだと思いますか。（〇は1つだけ）

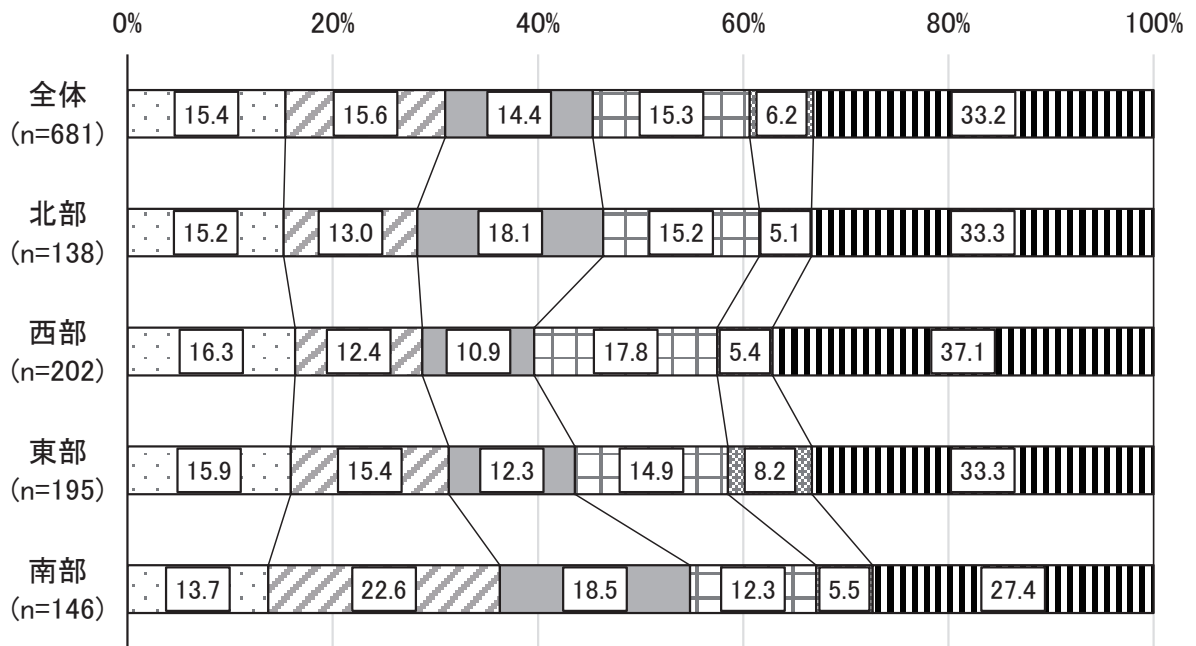
地域共生社会に向け市が力を入れて取り組むべきことをみると、「相談しやすいように窓口などの開設時間や相談受付の方法（SNSなどの利用等）を改善させる」が 33.2%で最も多く、次いで「身近な地域において相談を受け付けられる機能を充実させる」が 15.6%、「市役所に総合的な相談を受け付けられる窓口を設置する」が 15.4%となっている。

図表 101 地域共生社会に向け市が力を入れて取り組むべきこと



居住地区別にみると、「相談しやすいように窓口などの開設時間や相談受付の方法を改善させる」は「西部(37.1%)」、「身近な地域において相談を受け付けられる機能を充実させる」は「南部(22.6%)」、「市役所に総合的な相談を受け付けられる窓口を設置する」は「西部(16.3%)」、が最も多くなっている。

図表 102 地域共生社会に向け市が力を入れて取り組むべきこと(居住地区別)



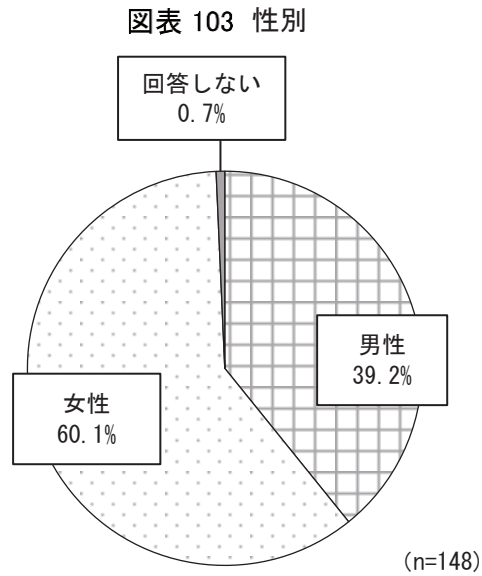
- 市役所に総合的な相談を受け付けられる窓口を設置する
- ▣身近な地域において相談を受け付けられる機能を充実させる
- 相談に行けない(行かない)市民の発見手法を確立させる
- ▤相談から支援に結び付けられるよう関係者のネットワークを充実させる
- ▨課題を解決するために、多様なサービスや社会資源を開発する
- ▩相談しやすいように窓口等の開設時間や相談受付の方法(SNSなどの利用等)を改善させる

4. 調査結果の詳細／市民（紙回答）

① 性別

問1 あなたの性別をお答えください。（○は1つだけ）

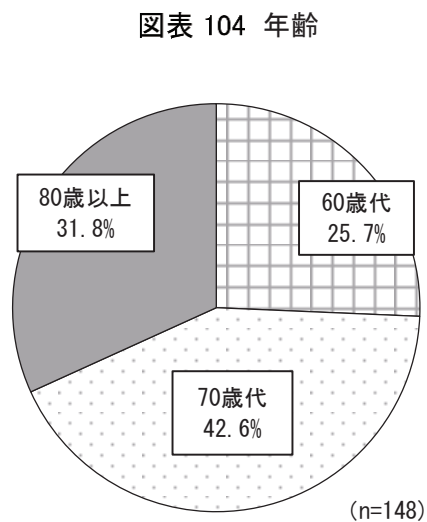
性別をみると、「男性」が 39.2%、「女性」が 60.1%、「回答しない」が 0.7%となっている。



② 年齢

問2 あなたの年齢をお答えください。（○は1つだけ）

年齢をみると、「60歳代」が 25.7%、「70歳代」が 42.6%、「80歳以上」が 31.8%となっている。



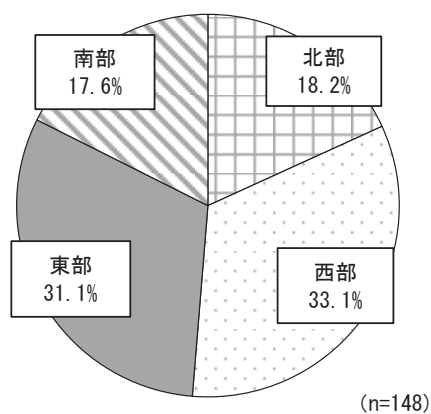
4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

③ 居住地区

問3 あなたは、現在どの地区にお住まいですか。（○は1つだけ）

居住地区をみると、「西部」が33.1%で最も多く、以下「東部」が31.1%、「北部」が18.2%、「南部」が17.6%となっている。

図表 105 居住地区(日常生活圏域別)



図表 106 居住地区

(%)

北部				西部				
国分	曾谷	大柏	宮久保 ・下貝塚	国府台	市川第1	市川第2	真間	菅野 ・須和田
1.4	7.4	7.4	2.0	3.4	6.8	14.2	2.7	6.1

東部			南部		
八幡	市川 東部	信篤 ・二俣	行徳	南行徳 第1	南行徳 第2
6.8	19.6	4.7	6.1	5.4	6.1

図表 107 地区の町丁

地区	地区の町丁
1. 国府台地区	国府台
2. 国分地区	国分、中国分、北国分、東国分、稲越、堀之内
3. 曾谷地区	曾谷
4. 大柏地区	大町、大野町、南大野、柏井町、奉免町
5. 宮久保・下貝塚地区	宮久保、下貝塚
6. 市川第1地区	市川、市川南(3・4丁目)、真間(1丁目)
7. 市川第2地区	市川南(1・2・5丁目)、新田、平田、大洲、大和田、東大和田、稲荷木
8. 真間地区	真間(2～5丁目)
9. 菅野・須和田地区	菅野、東菅野、須和田
10. 八幡地区	八幡、南八幡
11. 市川東部地区	北方町、本北方、北方、若宮、中山、高石神、鬼越、鬼高
12. 信篤・二俣地区	田尻、高谷、原木、二俣、二俣新町、東浜、上妙典、高谷新町
13. 行徳地区	河原、下新宿、本行徳、関ヶ島、伊勢宿、本塩、妙典、下妙典、富浜、塩焼、末広、宝、幸、加藤新田、高浜町、千鳥町
14. 南行徳第1地区	押切、湊、湊新田、香取、欠真間、相之川、広尾、新井、南行徳、島尻
15. 南行徳第2地区	行徳駅前、入船、日之出、福栄、新浜、塩浜

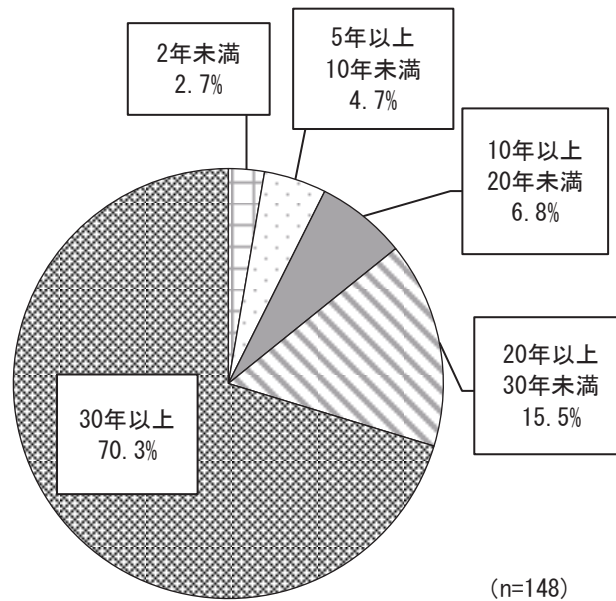
4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

④ 市内在住歴

問4 あなたは市川市に住むようになってから何年になりますか。（○は1つだけ）

市内在住歴をみると、「30年以上」が70.3%で最も多く、次いで「20年以上30年未満」が15.5%、「10年以上20年未満」が6.8%となっている。

図表 108 市内在住歴

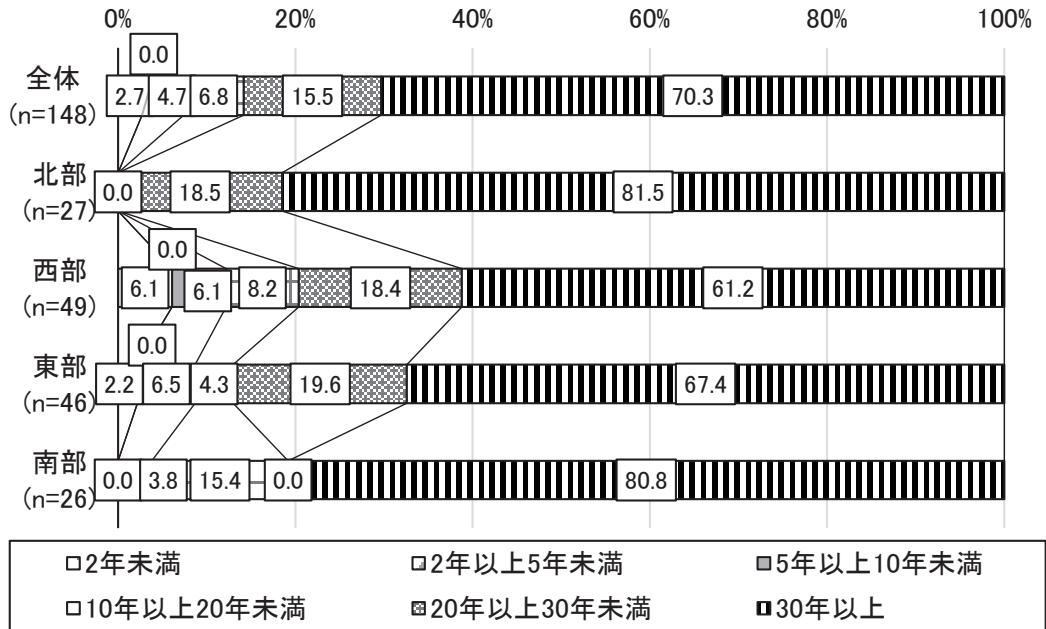


※「2年以上5年未満」の回答者はなし

4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

居住地区別にみると、「30年以上」は「北部(81.5%)」が最も多く、次いで「南部(80.8%)」、「東部(67.4%)」、「西部(61.2%)」になっている。

図表 109 市内在住歴(居住地区別)



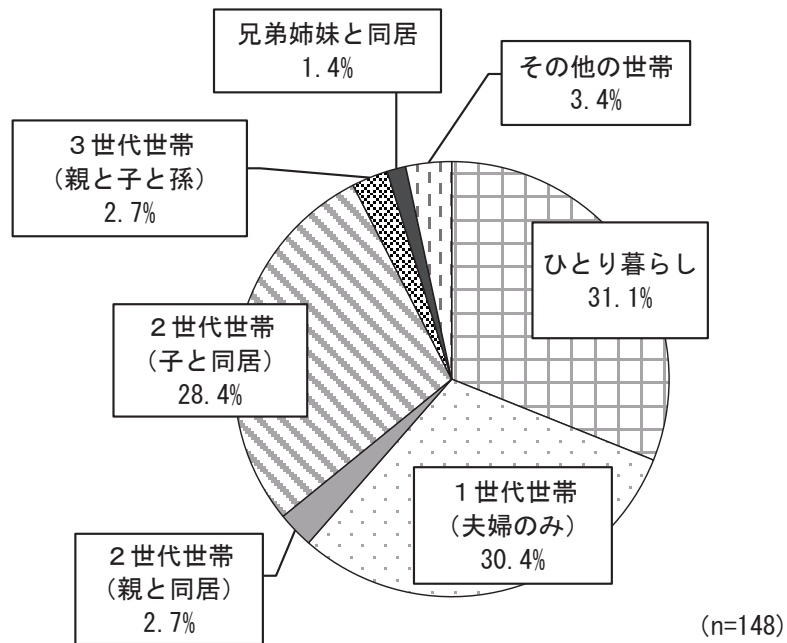
4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

⑤ 家族構成

問5 同居家族の構成をお答えください(自分も含む)。(○は1つだけ)

家族構成をみると、「ひとり暮らし」が31.1%で最も多く、次いで「1世代世帯(夫婦のみ)」が30.4%、「2世代世帯(子と同居)」が28.4%となっている。

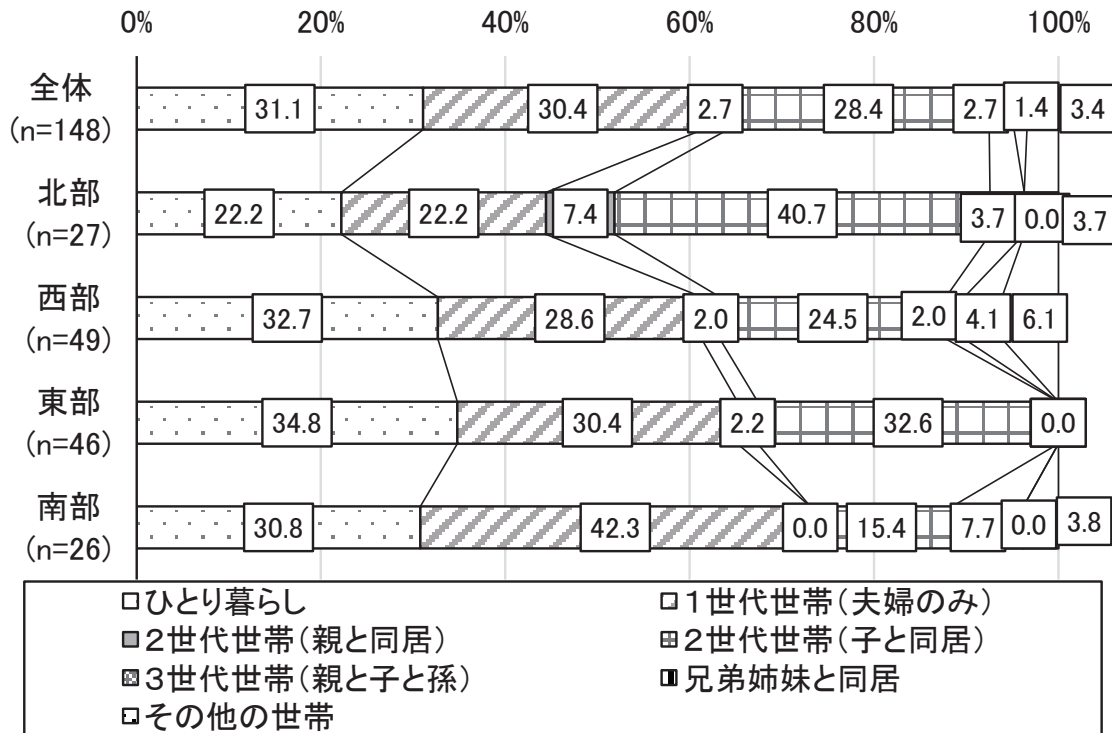
図表 110 家族構成



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

居住地区別にみると、「ひとり暮らし」は「東部(34.8%)」、「1世代世帯(夫婦のみ)」は「南部(42.3%)」、「2世代世帯(子と同居)」は「北部(40.7%)」が最も多くなっている。

図表 111 家族構成(居住地区別)



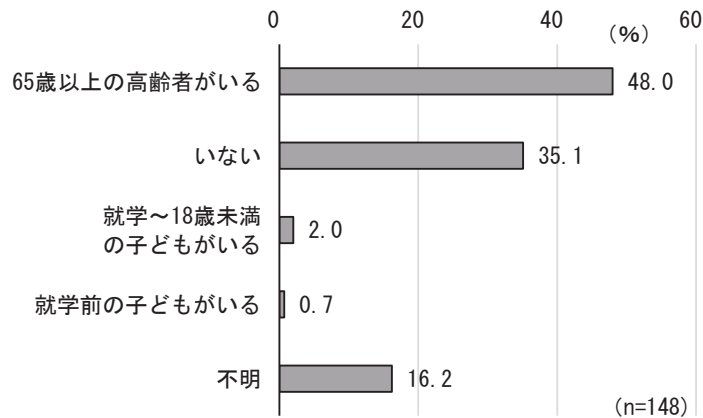
4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

⑥ 子どもや高齢者の有無

問6 同居されているご家族に、18歳未満の子どもや65歳以上の高齢者がいますか。（あてはまるものすべてに○）

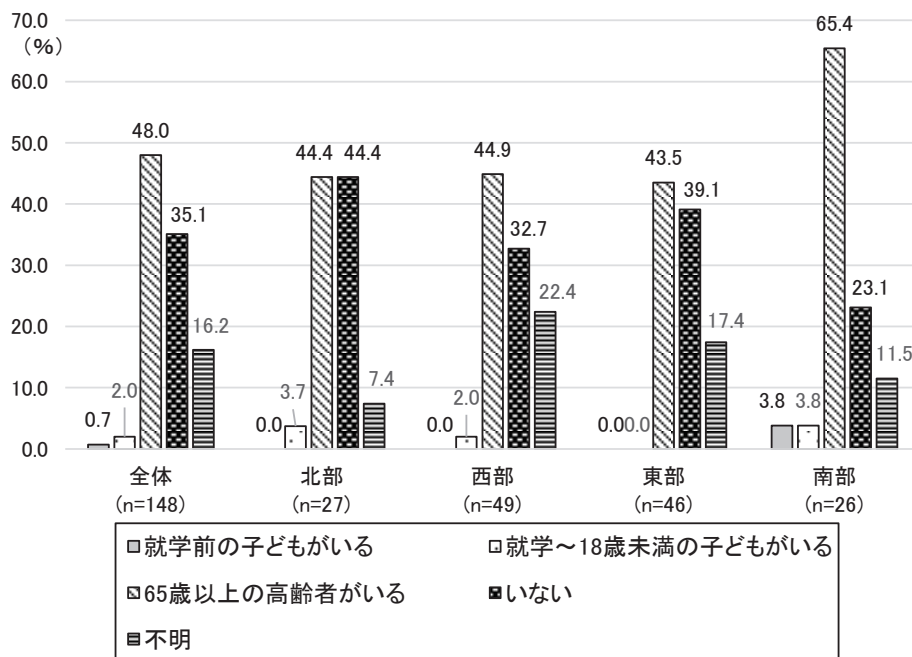
子どもや高齢者の有無をみると、「65歳以上の高齢者がいる」が48.0%で最も多く、次いで「いない」が35.1%、「就学～18歳未満の子どもがいる」が2.0%となっている。

図表 112 子どもや高齢者の有無



居住地区別にみると、「就学前の子どもがいる」、「就学～18歳未満の子どもがいる」は「南部(3.8%)」、「65歳以上の高齢者がいる」は「南部(65.4%)」、「いない」は「北部(44.4%)」が最も多くなっている。

図表 113 子どもや高齢者の有無(居住地区別)

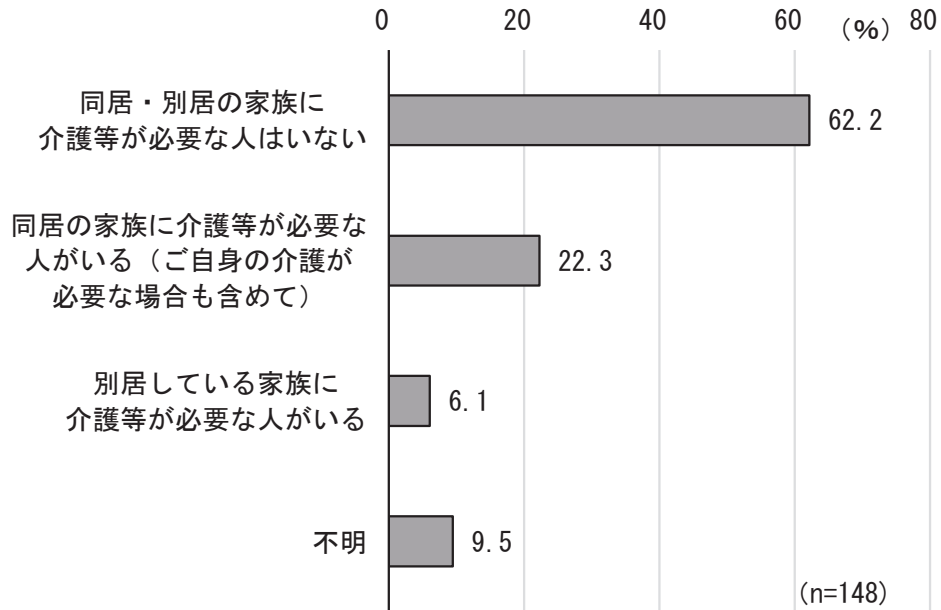


⑦ 介護が必要な家族の有無

問7 同居・別居のご家族に、介護が必要な方がいますか。(あてはまるものすべてに○)

介護が必要な家族の有無をみると、「同居・別居の家族に介護等が必要な人はいない」が62.2%で最も多く、次いで「同居の家族に介護等が必要な人がある（ご自身の介護が必要な場合も含めて）」が22.3%、「別居している家族に介護等が必要な人がある」が6.1%となっている。

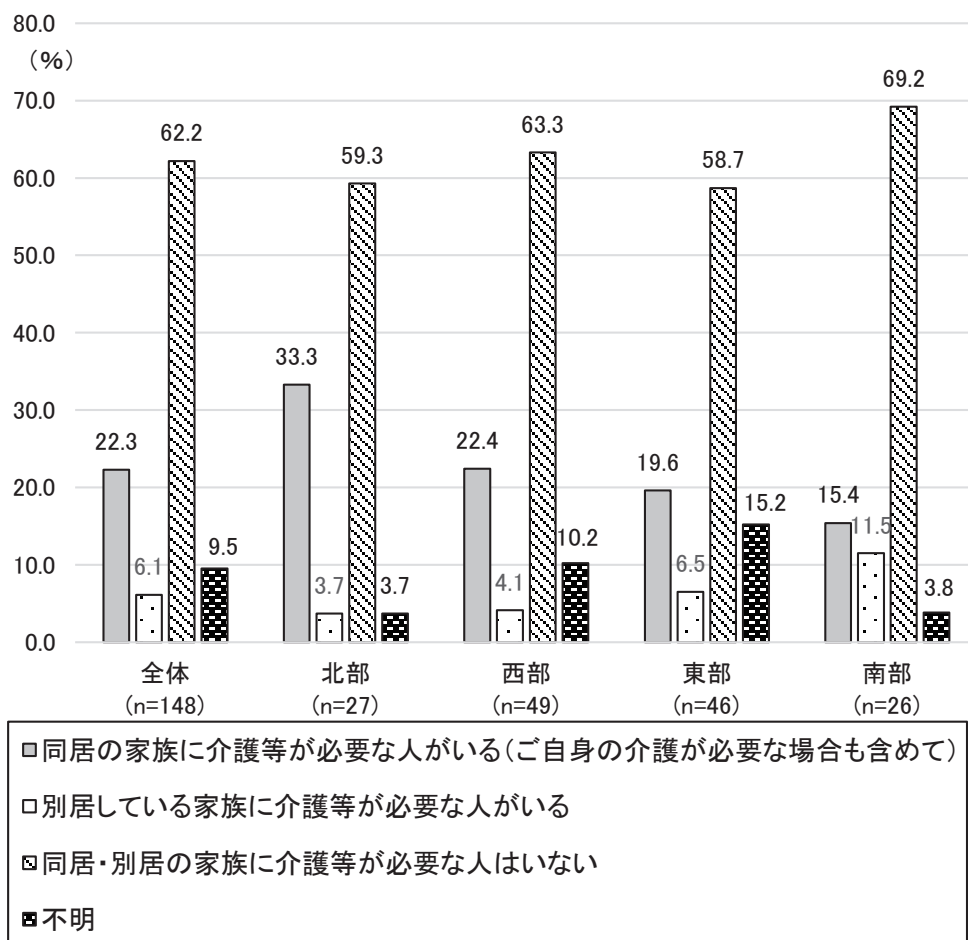
図表 114 介護が必要な家族の有無



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

居住地区別にみると、「同居の家族に介護等が必要な人がいる(ご自身の介護が必要な場合も含めて)」は「北部(33.3%)」、「別居している家族に介護等が必要な人がいる」は「南部(11.5%)」、「同居・別居の家族に介護等が必要な人はいない」は「南部(69.2%)」が最も多くなっている。

図表 115 介護が必要な家族の有無(居住地区別)

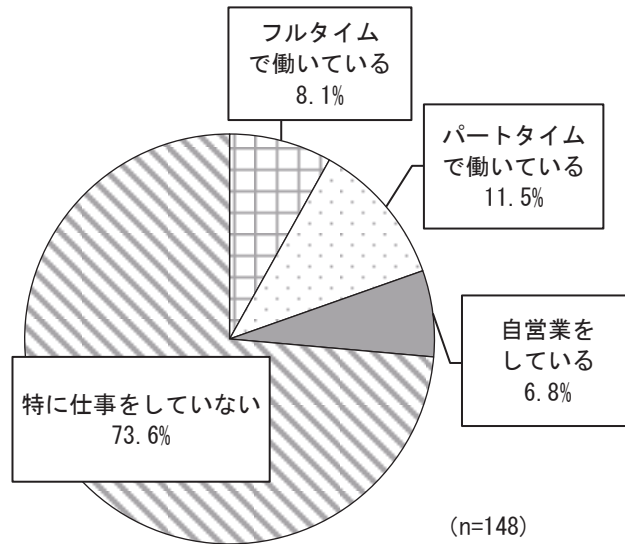


⑧ 就労の有無

問8 あなたはお仕事に就いていますか。(○は1つだけ)

就労の有無をみると、「特に仕事をしていない」が73.6%で最も多く、次いで「パートタイムで働いている」が11.5%、「フルタイムで働いている」が8.1%となっている。

図表 116 就労の有無

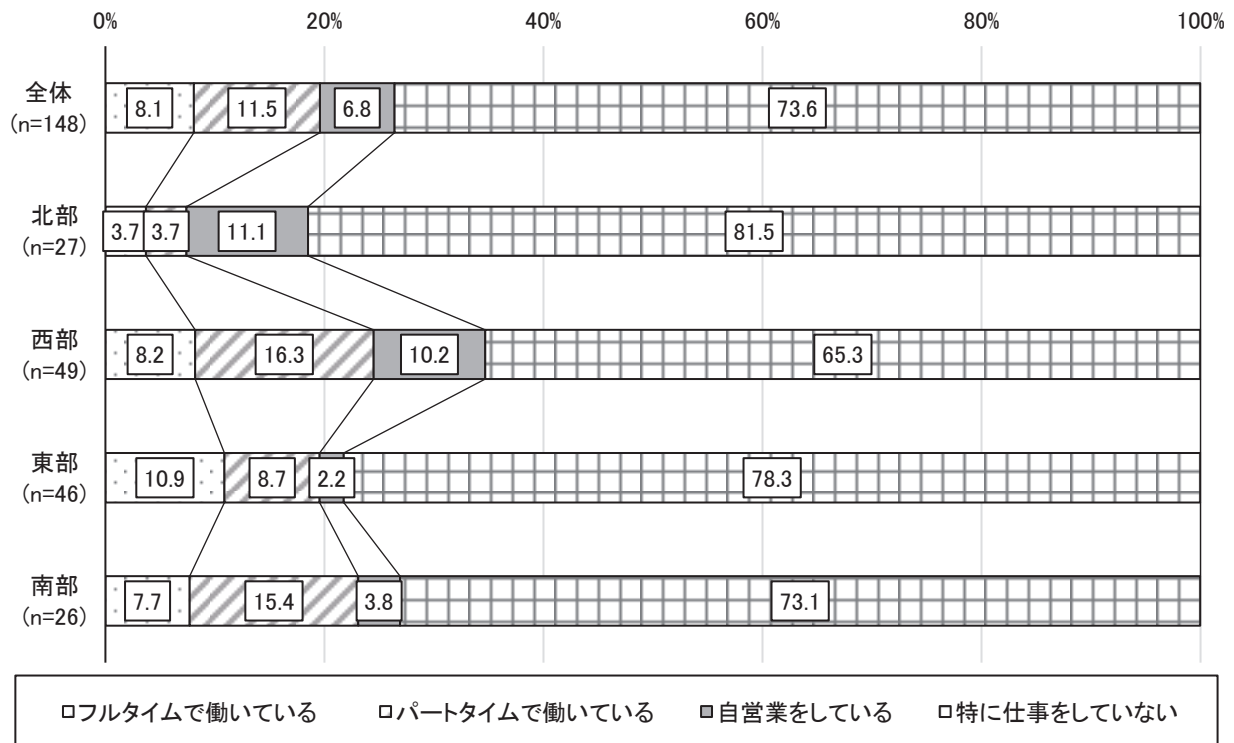


※「学生」の回答者はなし

4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

居住地区別にみると、「フルタイムで働いている」は「東部(10.9%)」、「パートタイムで働いている」は「西部(16.3%)」、「特に仕事をしていない」は「北部(81.5%)」が最も多くなっている。

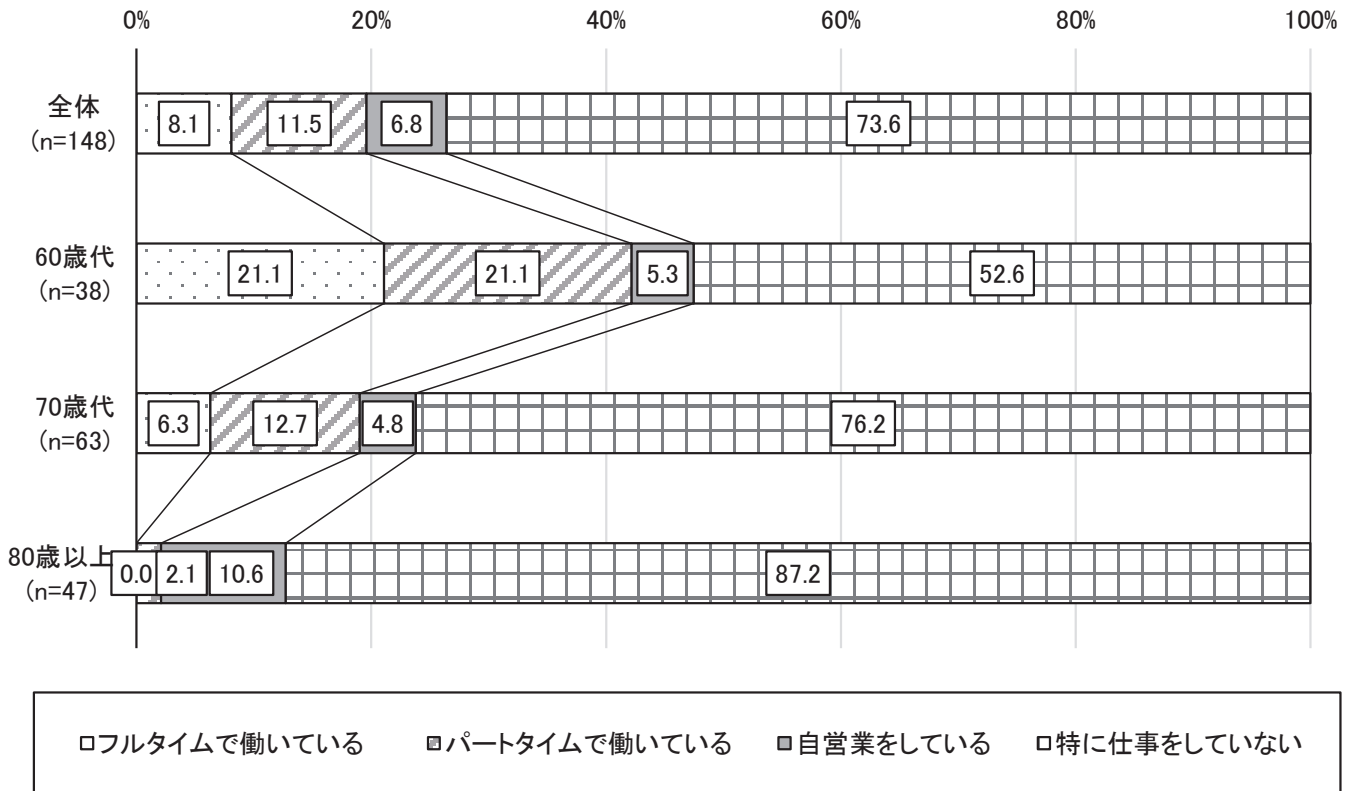
図表 117 就労の有無(居住地区別)



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

年齢別にみると、「フルタイムで働いている」は「60歳代(21.1%)」、「パートタイムで働いている」は「60歳代(21.1%)」、「特に仕事をしていない」は「80歳以上(87.2%)」が最も多くなっている。

図表 118 就労の有無(年齢別)



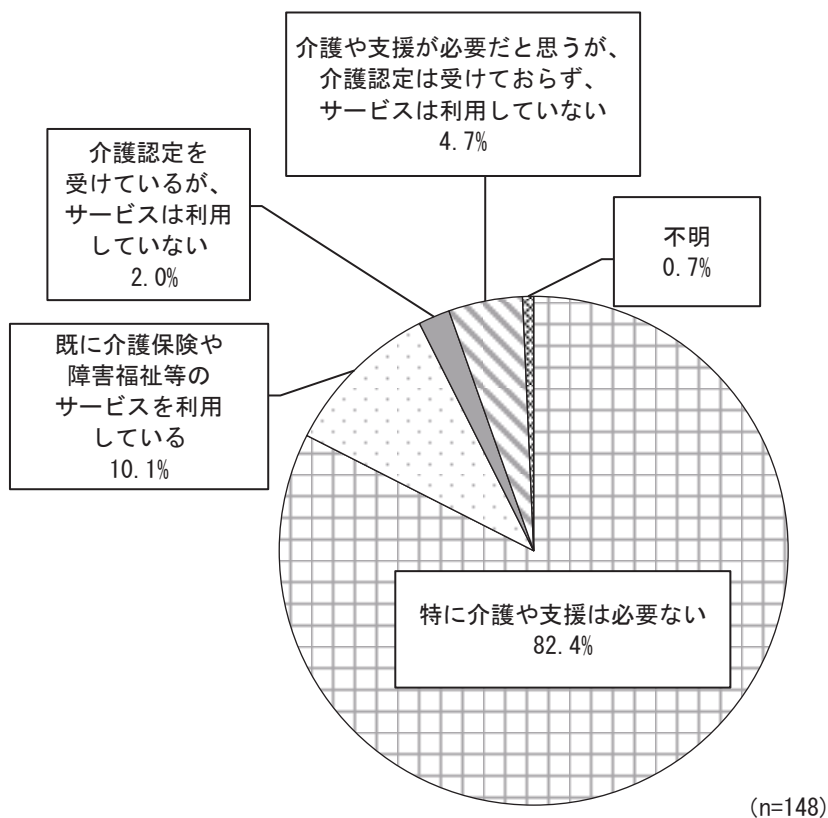
4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

⑨ 自身の介護や支援の必要性

問9 あなたは、日常生活で介護や支援が必要ですか。（○は1つだけ）

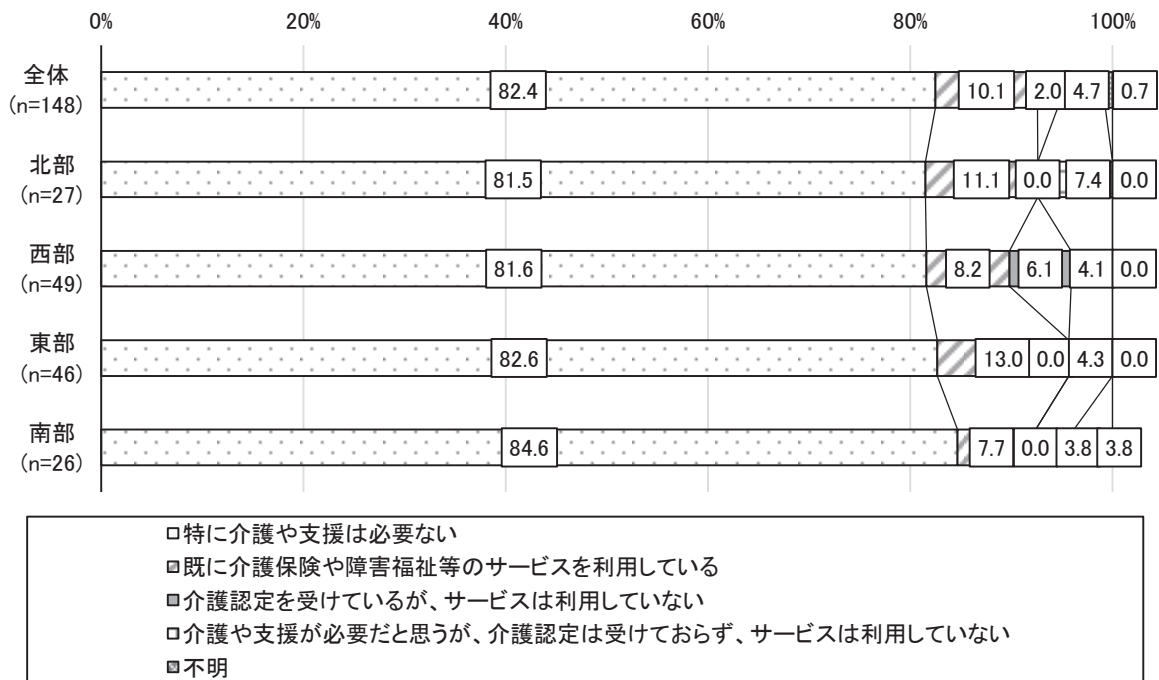
自身の介護や支援の必要性をみると、「特に介護や支援は必要ない」が82.4%で最も多く、次いで「既に介護保険や障害福祉等のサービスを利用している」が10.1%、「介護や支援が必要だと思うが、介護認定は受けておらず、サービスは利用していない」が4.7%となっている。

図表 119 自身の介護や支援の必要性



居住地区別にみると、「特に介護や支援は必要ない」は「南部(84.6%)」、「既に介護保険や障害福祉等のサービスを利用している」は「東部(13.0%)」、「介護や支援が必要だと思うが、介護認定は受けておらず、サービスは利用していない」は「北部(7.4%)」が最も多くなっている。

図表 120 自身の介護や支援の必要性(居住地区別)



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

⑩ 介護や支援サービスを利用していない理由

問10 問9で「3. 介護認定を受けているが、サービスは利用していない」、「4. 介護や支援が必要だと思いが、介護認定は受けておらず、サービスは利用していない」を選択した方にお尋ねします。

サービスを利用していない理由は何ですか。（自由記載）

サービスを利用していない理由について意見を求めたところ、15件の意見が寄せられた。意見については、一回答者が複数の意見を記入している場合は、それぞれを1件として件数に加えている。主な意見を掲載しているが、主旨を尊重しながら表現をまとめるとともに誤字などを修正している。

項目別に見ると、「サービスを受ける必要が無いため(9件)」が最も多かった。

多かった意見	件数
(ア) サービスを受ける必要が無いため	8
(イ) その他	7
合計	15

(ア) サービスを受ける必要が無いため

主な意見
・ 体調に問題はあるがどうにか日常生活は送れる日々の方が多いのでまだ利用はしていない。
・ 今は元気で必要ないから。
・ 今のところ助け合って頑張っていけるから根を上げたら利用します。
・ 二人とも健康のため。
・ 今のところ必要ない。
・ 同居家族がいるので、今のところはどうにかやっていける。
・ 未だ元気です。
・ 介護認定を受けたがその後リハビリで回復し現在は介護が不要(女)81才。男は介護の必要ない90才。

(イ) その他

主な意見
<ul style="list-style-type: none"> 何を利用すれば良いか分からない。
<ul style="list-style-type: none"> 本人が人との関わりを苦手としています。自宅の自由が何よりなのかも知れません。
<ul style="list-style-type: none"> 一度行ったがもう少しガンバレルと言われた。一度甘えたらとか、出きるだけガンバロウと思いつつもそろそろ限界？と思いつつムチ打ち趣味に心に向けバランスを取るようとガンバッテいますが。
<ul style="list-style-type: none"> デイサービスを利用している。
<ul style="list-style-type: none"> 家が狭いので家に来てほしくない。知らない人を家に入れて悪口を言われたくない。人に余り干渉されたくない。人に払う余裕なお金は持っていない。
<ul style="list-style-type: none"> 入院して戻ってきたが体調(足腰の具合)が悪いので検討中。
<ul style="list-style-type: none"> 介護・支援の現場が大変なので、それにコロナの心配もあるので。

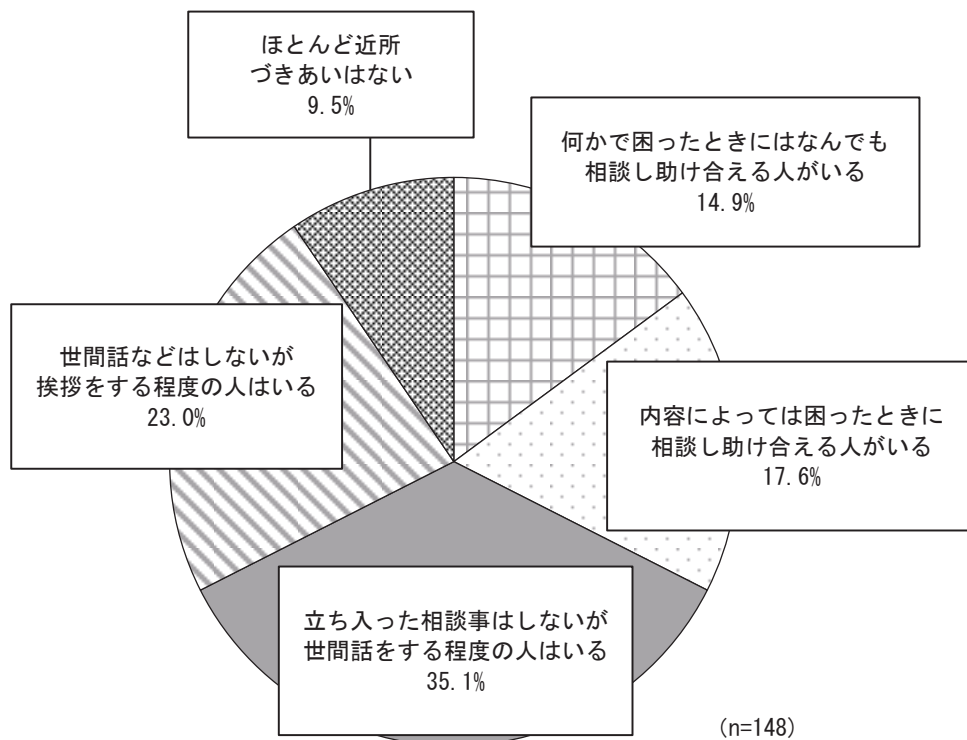
4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

⑪ 近所づきあいの程度

問11 近所(歩いて行ける程度の範囲)にどの程度のおつきあいの方がいますか。(○は1つだけ)

近所づきあいの程度をみると、「立ち入った相談事はしないが世間話をする程度の人はいる」が35.1%で最も多く、次いで「世間話などはしないが挨拶をする程度の人はいる」が23.0%、「内容によっては困ったときに相談し助け合える人がある」が17.6%となっている。

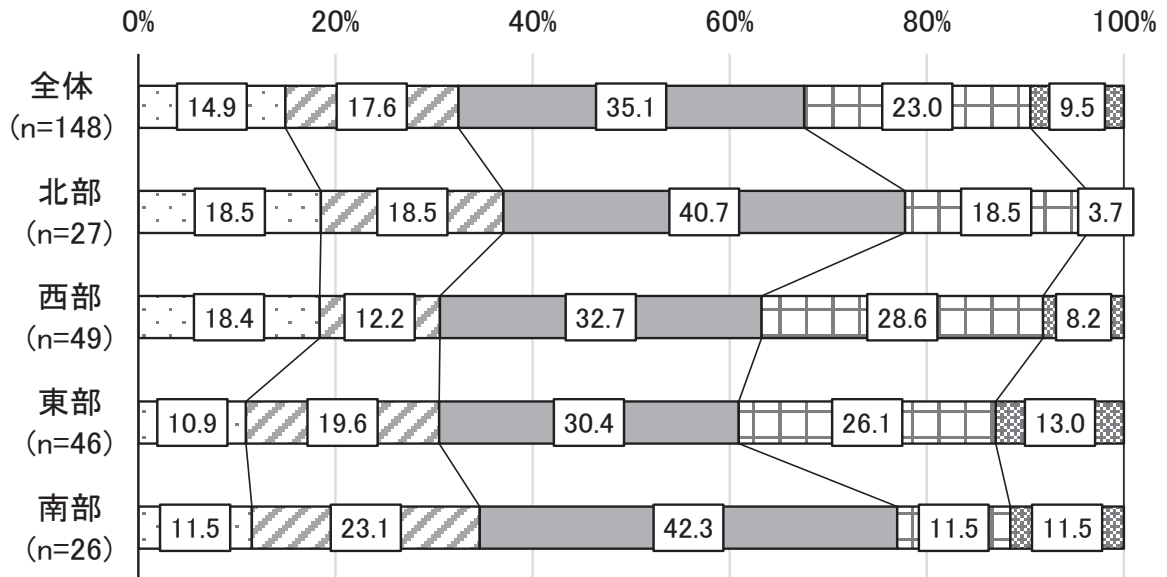
図表 121 近所づきあいの程度



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

居住地区別にみると、「何かで困ったときにはなんでも相談し助け合える人がある」は「北部（18.5%）」、「内容によっては困ったときに相談し助け合える人がある」は「南部（23.1%）」、「立ち入った相談事はしないが世間話をする程度の人はいる」は「南部（42.3%）」が最も多くなっている。

図表 122 近所づきあいの程度(居住地区別)

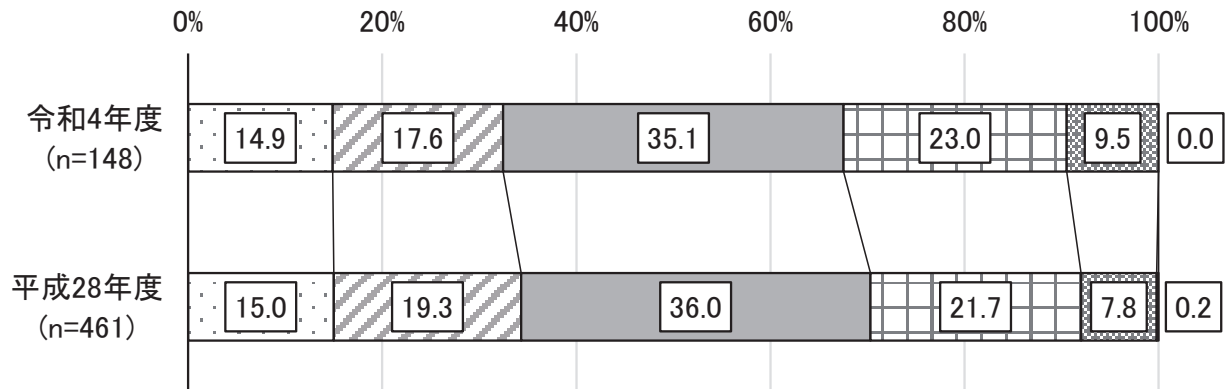


- 何かで困ったときにはなんでも相談し助け合える人がある
- 内容によっては困ったときに相談し助け合える人がある
- 立ち入った相談事はしないが世間話をする程度の人はいる
- 世間話などはしないが挨拶をする程度の人はいる
- ほとんど近所づきあいはない

4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

経年でみると、平成 28 年度の調査と比べて、「内容によっては困ったときに相談し助け合える人がいる」が減少し、「ほとんど近所づきあいはない」が増加している。

図表 123 近所づきあいの程度(経年比較)



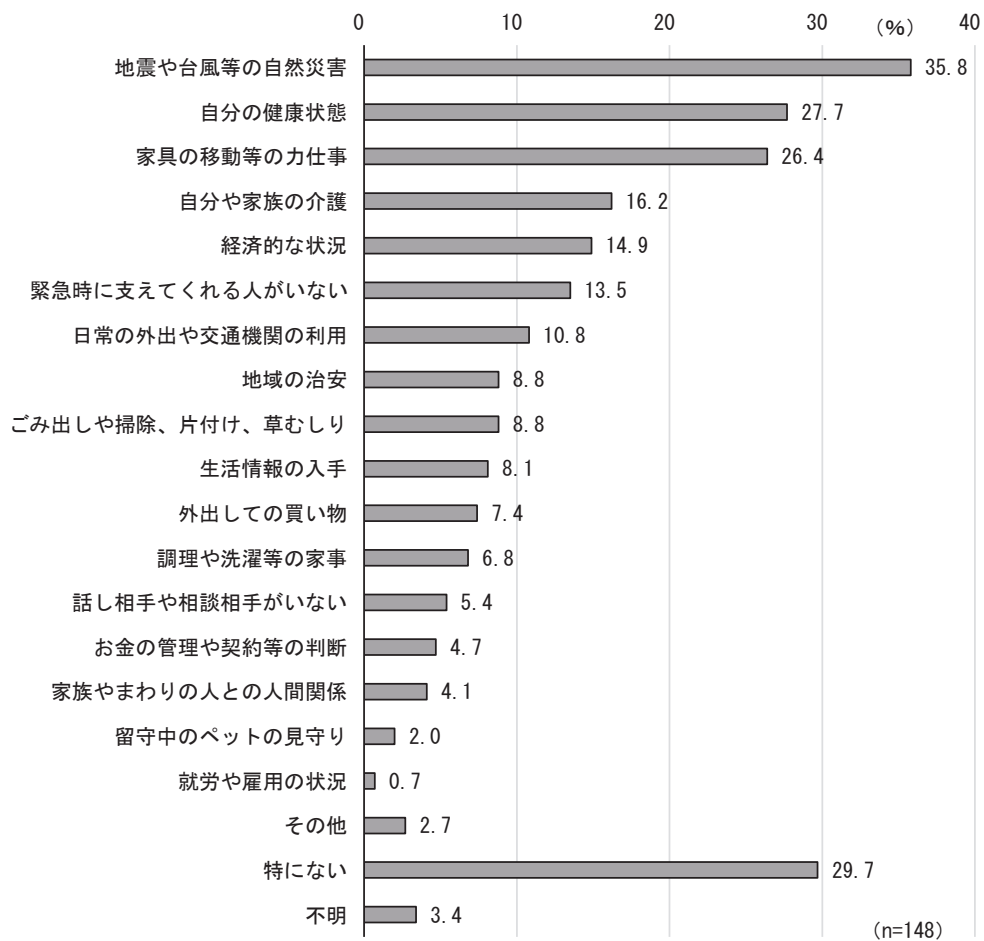
- 何かで困ったときにはなんでも相談し助け合える人がいる
- 内容によっては困ったときに相談し助け合える人がいる
- 立ち入った相談事はしないが世間話をする程度の人はい
- 世間話などはしないが挨拶をする程度の人はい
- ほとんど近所づきあいはない
- 無回答

⑫ 日常生活での困り事・不安事

問12 あなたは日常生活に関する以下のことで、困ったり不安に感じたりしていることがありますか。
 (あてはまるものすべてに○)

日常生活での困り事・不安事をみると、「地震や台風等の自然災害」が35.8%で最も多く、次いで「自分の健康状態」が27.7%、「家具の移動等の力仕事」が26.4%となっている。

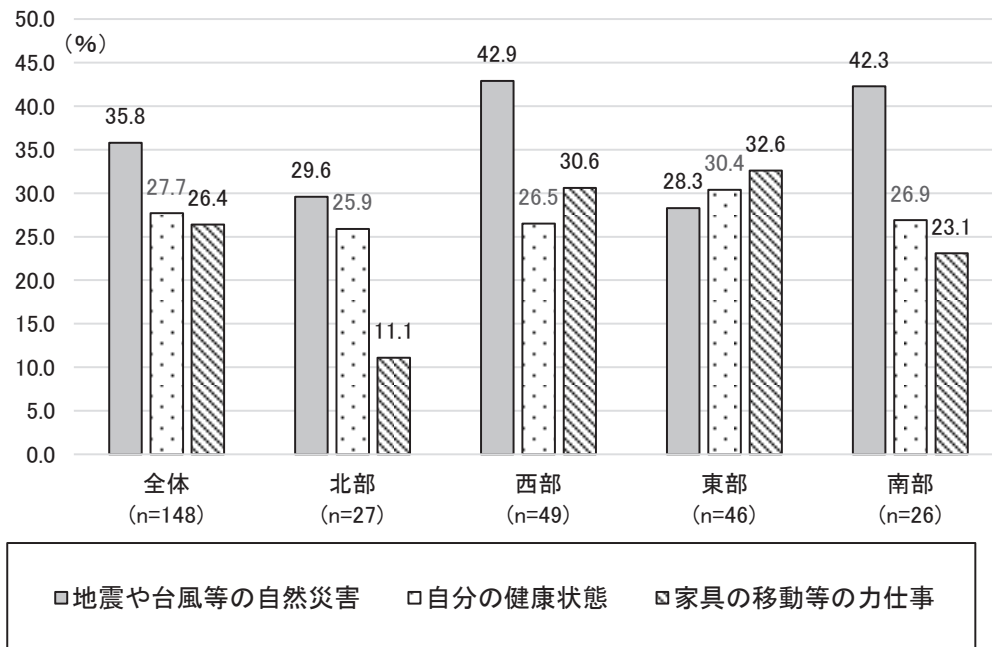
図表 124 日常生活での困り事・不安事



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

居住地区別にみると、「地震や台風等の自然災害」は「西部(42.9%)」、「自分の健康状態」は「東部(30.4%)」、「家具の移動等の力仕事」は「東部(32.6%)」が最も多くなっている。

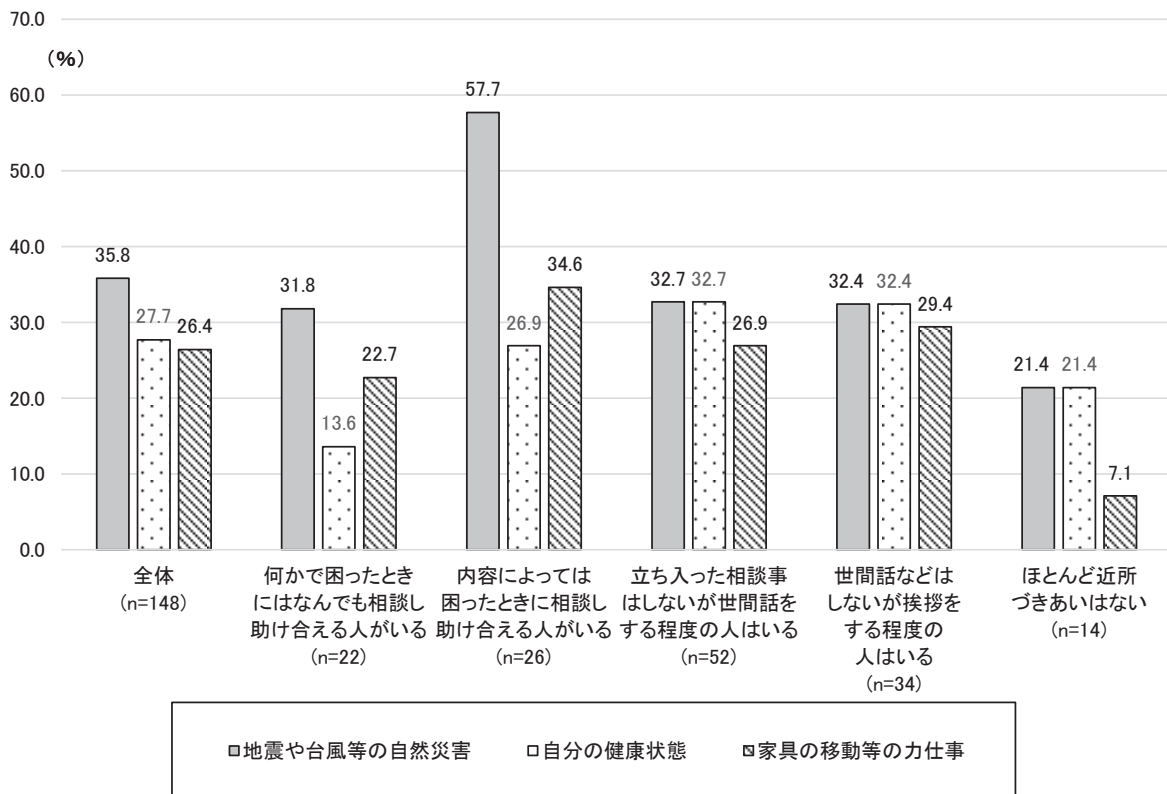
図表 125 日常生活での困り事・不安事(居住地区別)



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

近所づきあいの程度別にみると、「地震や台風等の自然災害」は「内容によっては困ったときに相談し助け合える人がいる(57.7%)」、「自分の健康状態」は「立ち入った相談事はしないが世間話をする程度の人はいらる(32.7%)」、「家具の移動等の力仕事」は「内容によっては困ったときに相談し助け合える人がいる(34.6%)」が最も多くなっている。

図表 126 日常生活での困り事・不安事(近所づきあいの程度別)



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

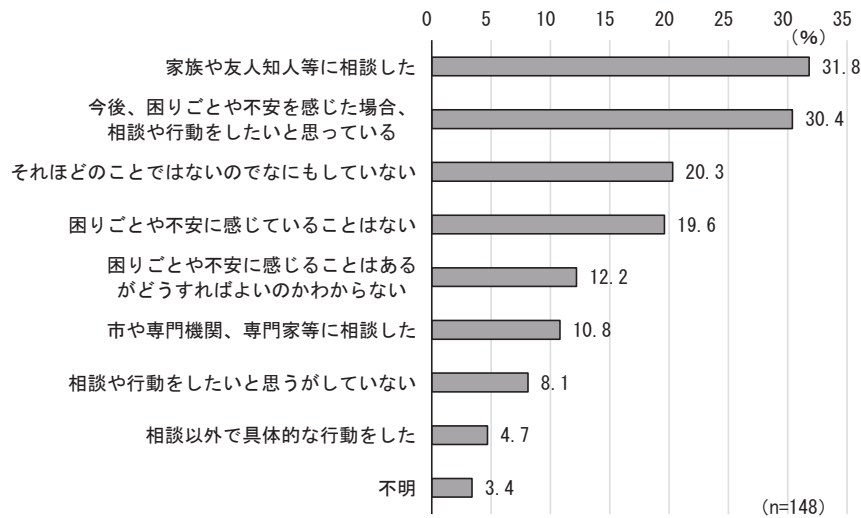
⑬ 日常生活での困り事・不安事の解決方法

問13 日常生活の困りごとや不安を解決していくため、あなたがしていること(したこと)がありますか。
(あてはまるものすべてに○)

※ 一部の困りごとや不安に対してしている(したこと)もあげてください。

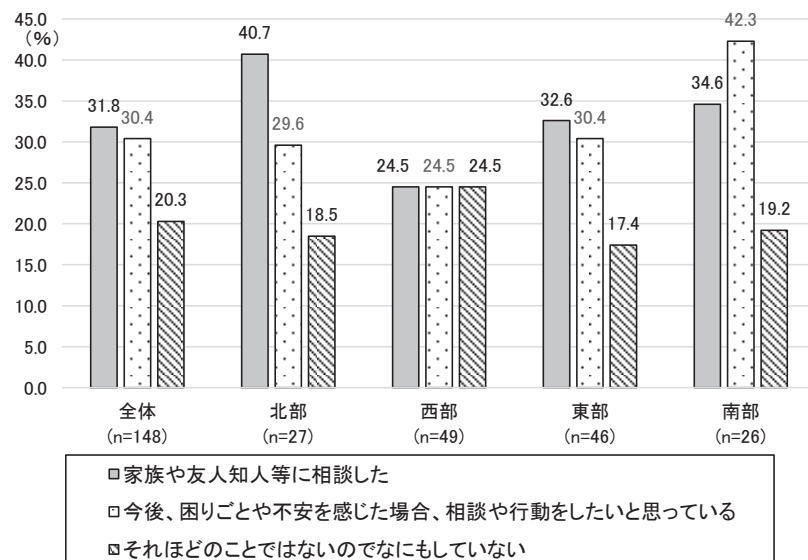
日常生活での困り事・不安事の解決方法をみると、「家族や友人知人等に相談した」が31.8%で最も多く、次いで「今後、困りごとや不安を感じた場合、相談や行動をしたいと思っている」が30.4%、「それほどのことではないのでなにもしていない」が20.3%となっている。

図表 127 日常生活での困り事・不安事の解決方法



居住地区別にみると、「家族や友人知人等に相談した」は「北部(40.7%)」、「今後、困りごとや不安を感じた場合、相談や行動をしたいと思っている」は「南部(42.3%)」、「それほどのことではないのでなにもしていない」は「西部(24.5%)」が最も多くなっている。

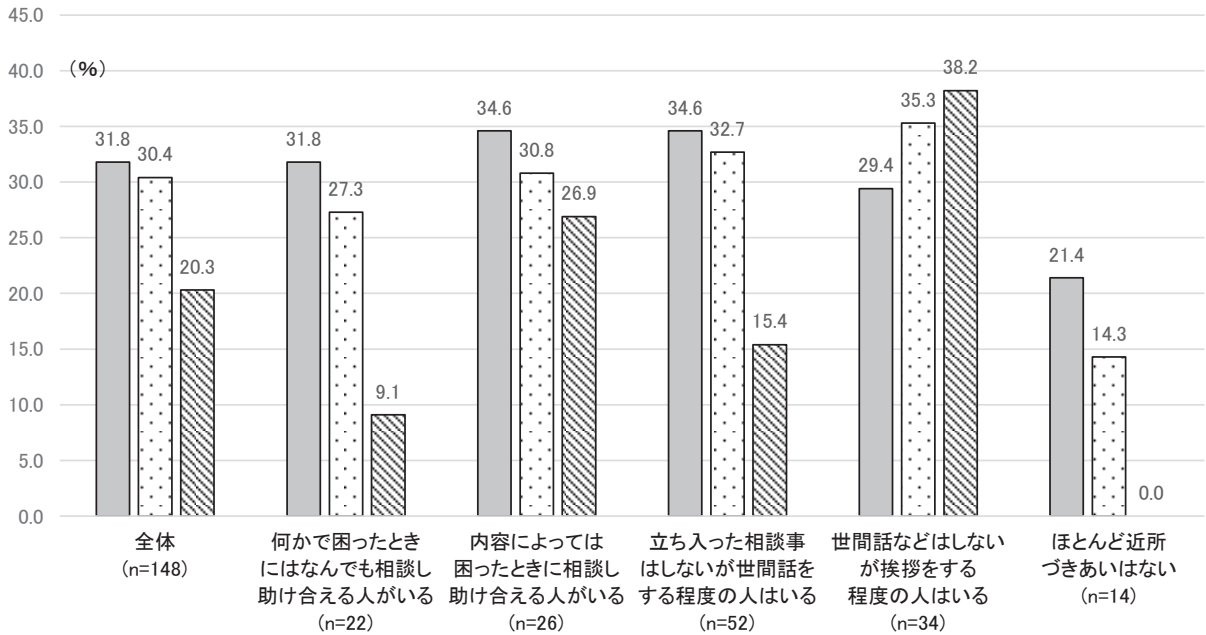
図表 128 日常生活での困り事・不安事の解決方法(居住地区別)



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

近所づきあいの程度別にみると、「家族や友人知人等に相談した」は「内容によっては困ったときに相談し助け合える人がいる(34.6%)」「立ち入った相談事はしないが世間話をする程度の人はいる(34.6%)」、「今後、困りごとや不安を感じた場合、相談や行動をしたいと思っている」は「世間話などはしないが挨拶をする程度の人はいる(35.3%)」、「それほどのことではないのでなにもしていない」は「世間話などはしないが挨拶をする程度の人はいる(38.2%)」が最も多くなっている。

図表 129 日常生活での困り事・不安事の解決方法(近所づきあいの程度別)



- 家族や友人知人等に相談した
- 今後、困りごとや不安を感じた場合、相談や行動をしたいと思っている
- それほどのことではないのでなにもしていない

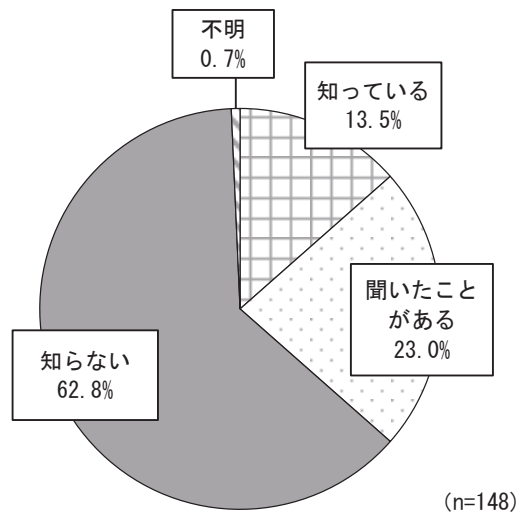
4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

⑭ 地域ケアシステムの認知度

問14 市川市では、安心して暮らし続けられる地域社会をつくるために、支え合いの地域づくり(地域ケアシステム)の取り組みを進めています。あなたは、そのことをご存知ですか。(〇は1つだけ)

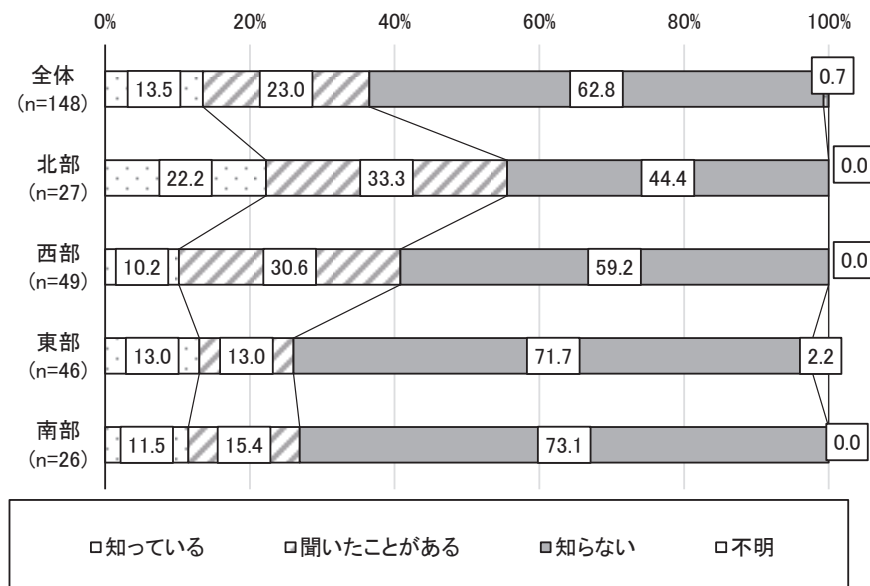
地域ケアシステムの認知度をみると、「知らない」が62.8%で最も多くなっている。次いで、「聞いたことがある」が23.0%、「知っている」が13.5%となっている。

図表 130 地域ケアシステム認知度



居住地区別にみると、「知っている」は「北部(22.2%)」、「聞いたことがある」は「北部(33.3%)」、「知らない」は「南部(73.1%)」が最も多くなっている。

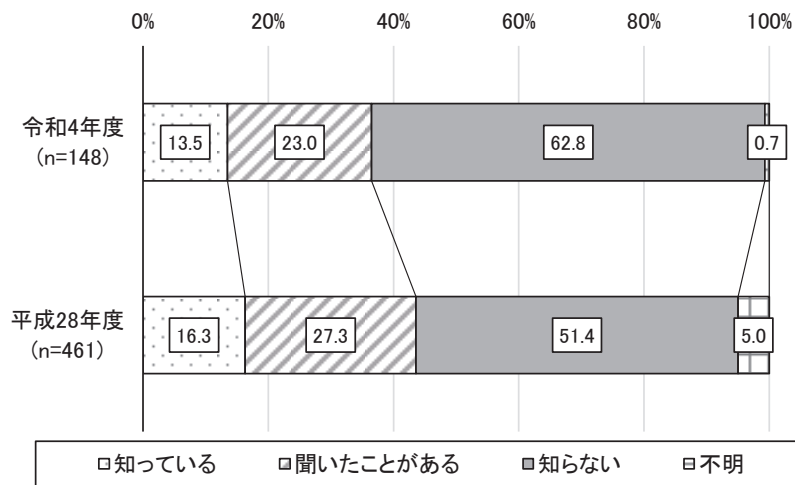
図表 131 地域ケアシステム認知度(居住地区別)



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

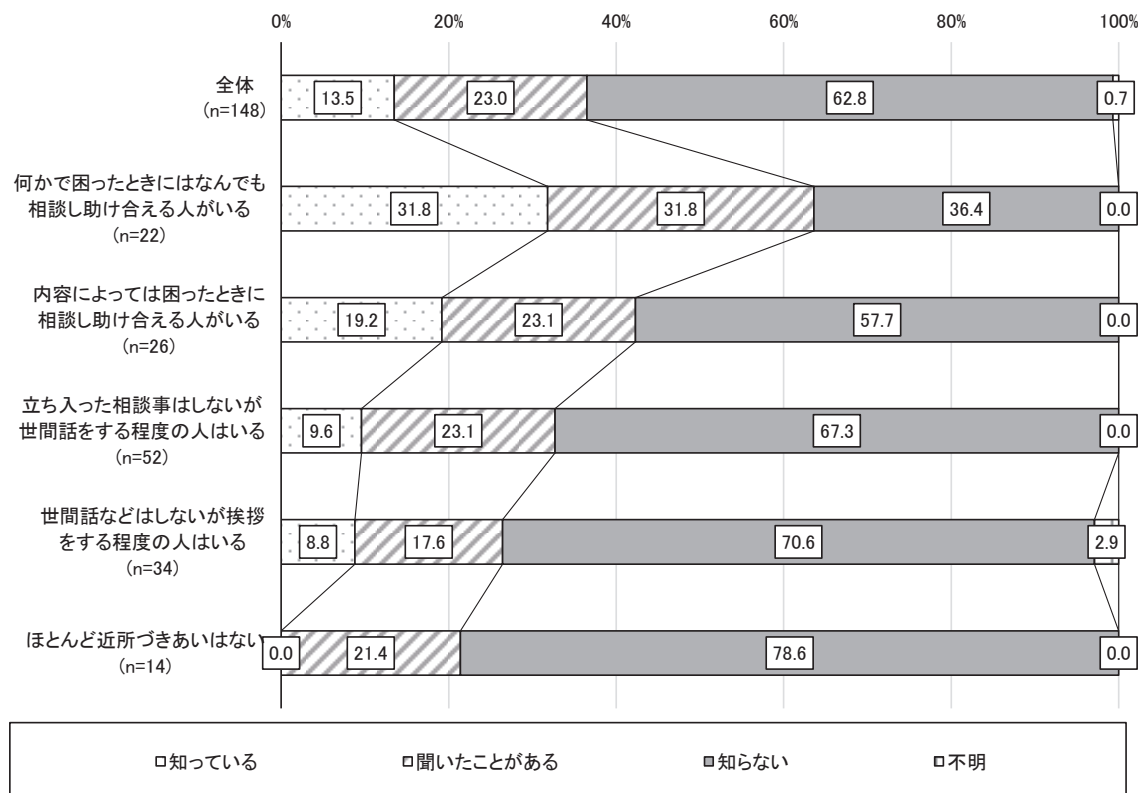
経年でみると、平成 28 年度の調査と比べて、「知っている」「聞いたことがある」が減少し、「知らない」が増加している。

図表 132 地域ケアシステム認知度（経年比較）



近所づきあいの程度別にみると、「知っている」は「何かで困ったときにはなんでも相談し助け合える人がいる(31.8%)」、「聞いたことがある」は「何かで困ったときにはなんでも相談し助け合える人がいる(31.8%)」、「知らない」は「ほとんど近所づきあいはない(78.6%)」が最も高くなっている。

図表 133 地域ケアシステム認知度（近所づきあいの程度別）



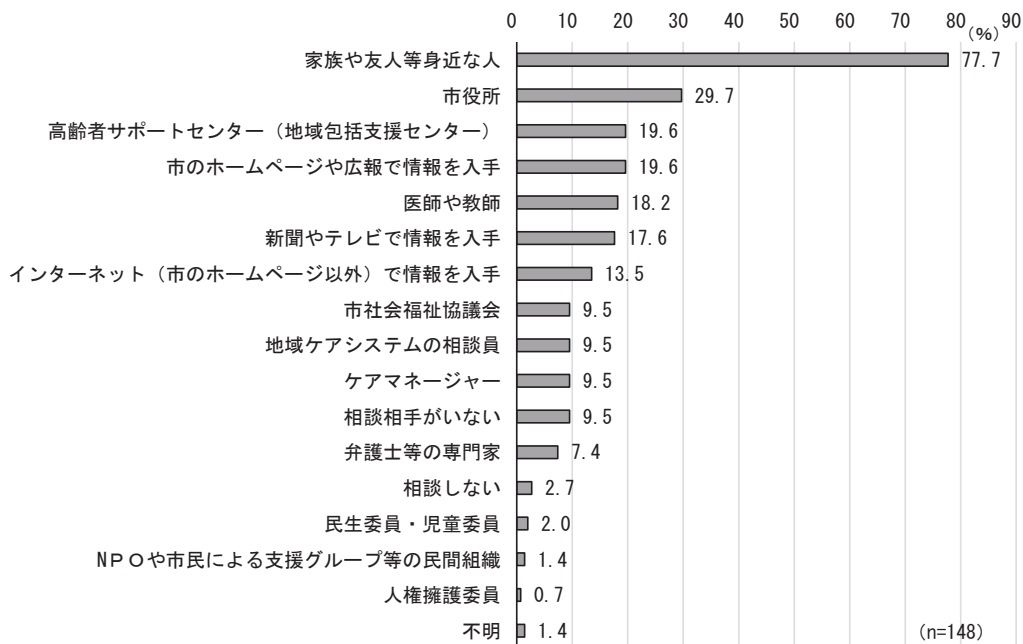
4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

⑮ 生活上の問題で相談したいときの相談相手

問15 あなたが生活上の問題で相談したいときに、どなたに相談したいですか。（あてはまるものすべてに○）

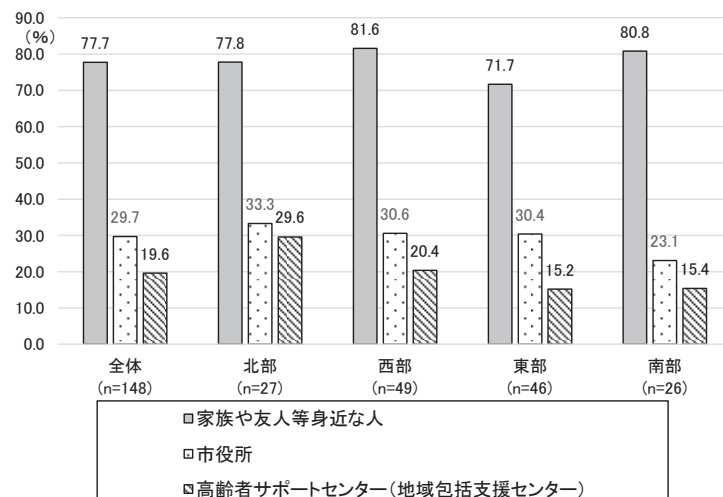
生活上の問題で相談したいときの相談相手を見ると、「家族や友人等身近な人」が77.7%で最も多くなっている。次いで「市役所」が29.7%、「高齢者サポートセンター（地域包括支援センター）」と「市のホームページや広報で情報入手」が19.6%となっている。

図表 134 生活上の問題で相談したいときの相談相手



居住地区別にみると、「家族や友人等身近な人」は「西部(81.6%)」、「市役所」は「北部(33.3%)」、「高齢者サポートセンター（地域包括支援センター）」は「北部(29.6%)」が最も多くなっている。

図表 135 生活上の問題で相談したいときの相談相手（居住地区別）

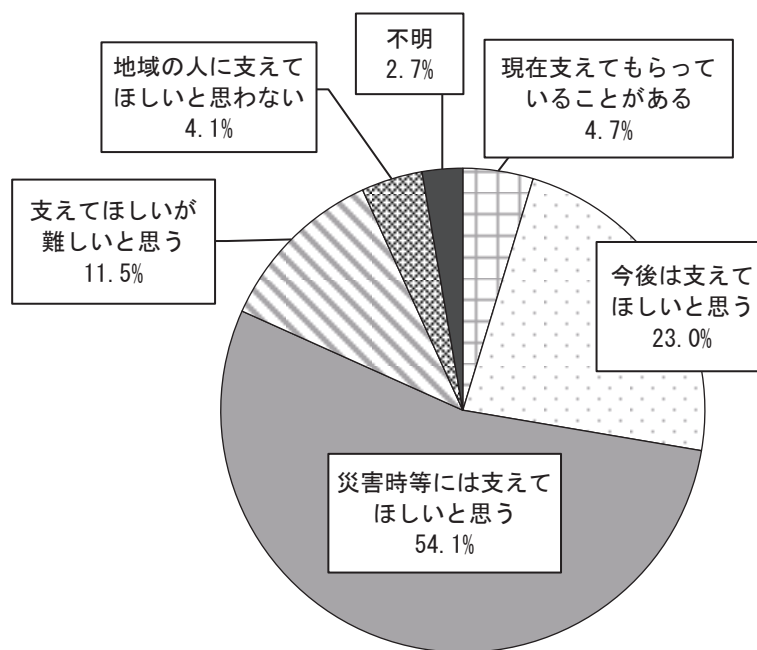


⑩ 地域の生活課題についての住民同士の支え合いや助け合い

問16 日常生活の困りごとや不安を解決するひとつの方法として、地域の人に相談する、身の周りのことを手伝ってもらするなど地域の人に支えてもらうことについて、あなたはどのように思いますか。（○は1つだけ）

地域の生活課題についての住民同士の支え合いや助け合いをみると、「災害時等には支えてほしいと思う」が54.1%で最も多く、次いで「今後は支えてほしいと思う」が23.0%、「支えてほしいが難しいと思う」が11.5%となっている。

図表 136 地域の生活課題についての住民同士の支え合いや助け合い

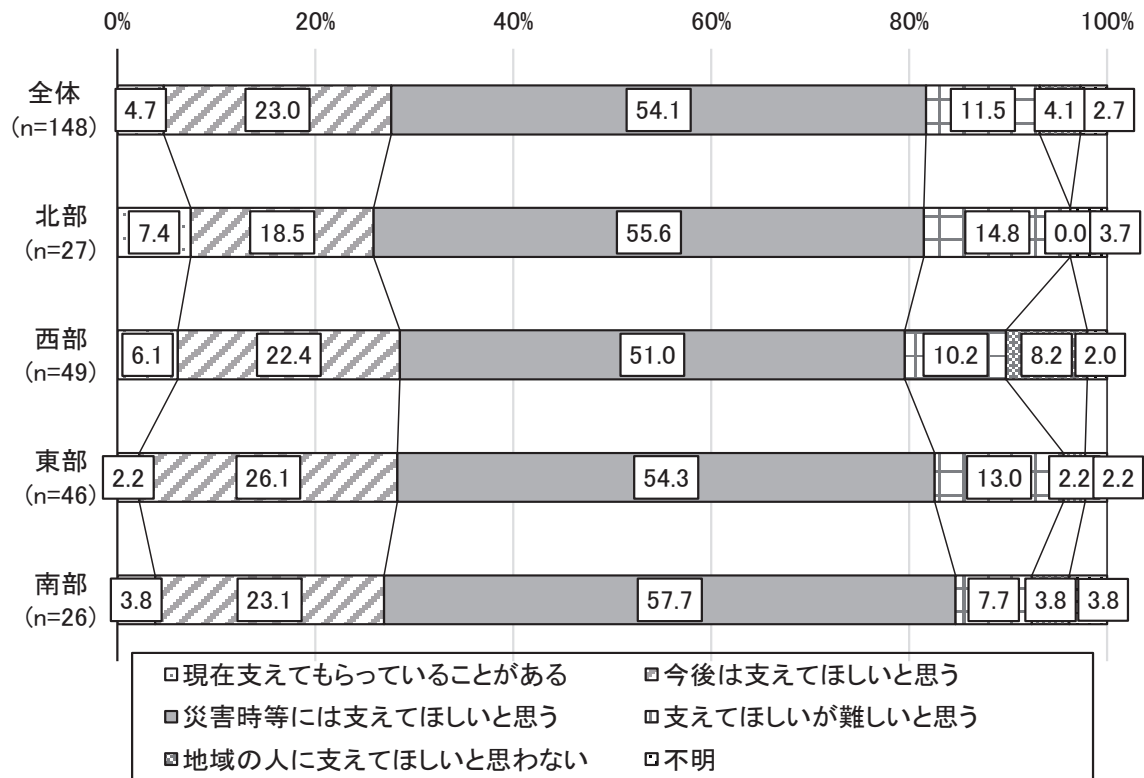


(n=148)

4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

居住地区別にみると、「現在支えてもらっていることがある」は「北部(7.4%)」、「今後は支えてほしいと思う」は「東部(26.1%)」、「災害時等には支えてほしいと思う」は「南部(57.7%)」が最も多くなっている。

図表 137 地域の生活課題についての住民同士の支え合いや助け合い(居住地区別)

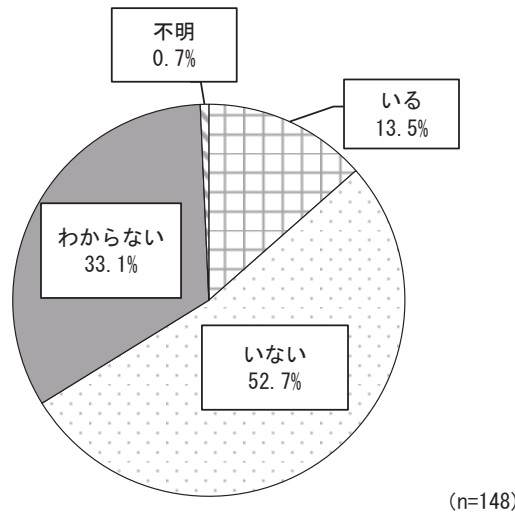


⑰ 地域で気がかりな人の有無

問17 あなたの家族や親族以外で、地域で気がかりな人がいますか。（○は1つだけ）

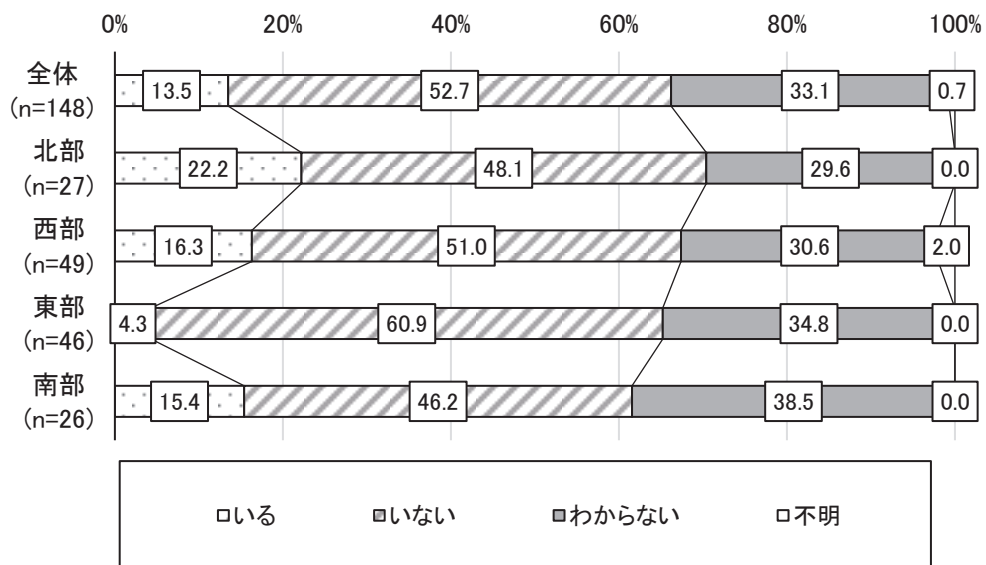
地域で気がかりな人の有無をみると、「いない」が52.7%で最も多く、以下「わからない」が33.1%、「いる」が13.5%となっている。

図表 138 地域で気がかりな人の有無



居住地区別にみると、「いる」は「北部(22.2%)」、「いない」は「東部(60.9%)」、「わからない」は「南部(38.5%)」が最も多くなっている。

図表 139 地域で気がかりな人の有無(居住地区別)



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

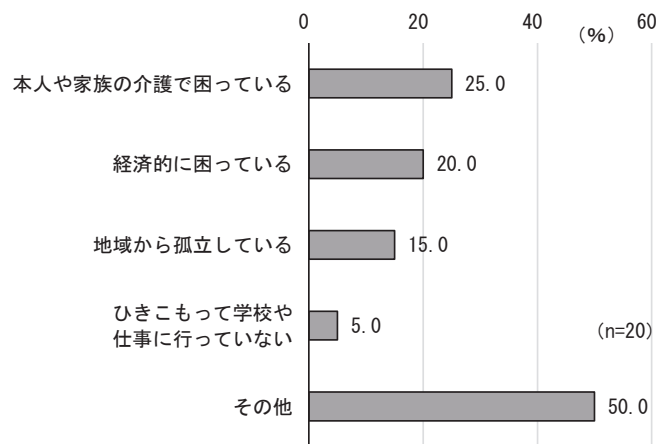
⑱ 地域で気がかりな人

問18 問17で「1. いる」を選んだ方にお尋ねします。

気がかりなのは、どのような方ですか。（あてはまるものすべてに○）

地域で気がかりな人がどのような人かをみると、「本人や家族の介護で困っている」が25.0%で最も多く、次いで「経済的に困っている」が20.0%、「地域から孤立している」が15.0%となっている。

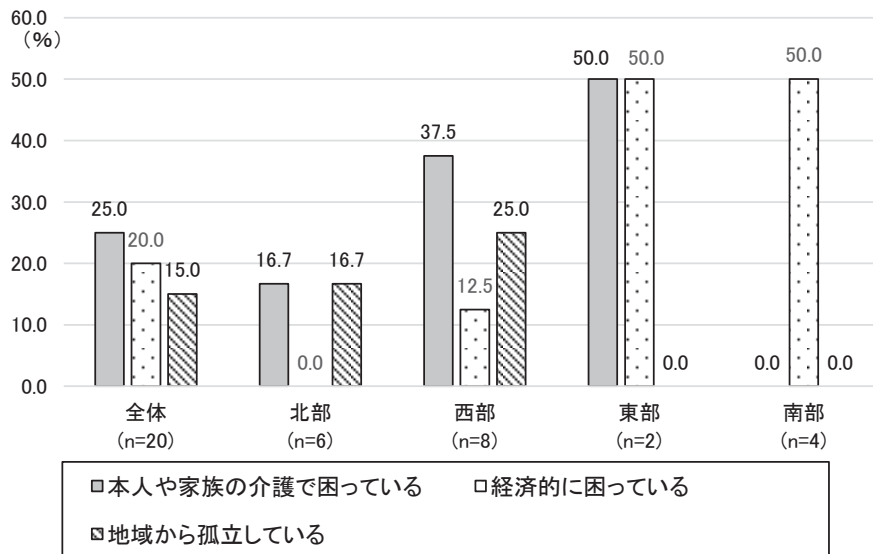
図表 140 地域で気がかりな人



※「子育てで困っている」、「虐待や暴力(恐れも含む)を受けている」の回答者はなし

居住地区別にみると、「本人や家族の介護で困っている」は「東部(50.0%)」、「経済的に困っている」は「東部(50.0%)」「南部(50.0%)」、「地域から孤立している」は「西部(25.0%)」が最も多くなっている。

図表 141 地域で気がかりな人(居住地区別)



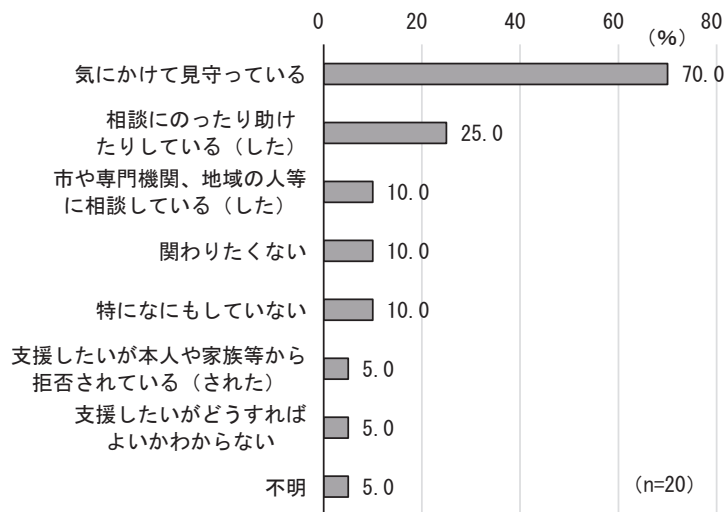
⑭ 気がかりな人へ行っている支援

問19 問17で「1. いる」を選んだ方にお尋ねします。

その人に対して、あなたはなにかをしていますか(しましたか)。(あてはまるものすべてに○)

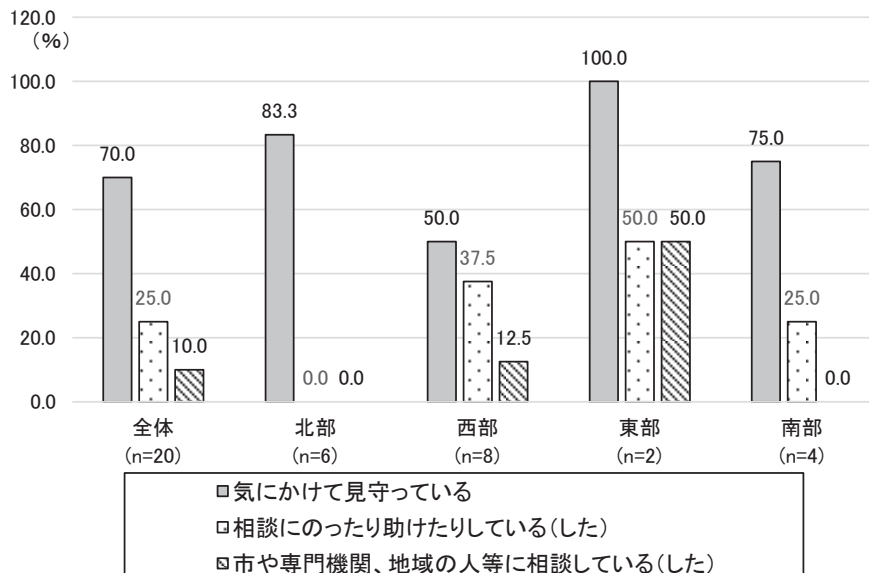
気がかりな人へ行っている支援をみると、「気にかけて見守っている」が70.0%で最も多く、次いで「相談にのったり助けたりしている(した)」が25.0%、「市の専門機関、地域の人等に相談している(した)」「関わりたくない」「特に何もしていない」が10.0%となっている。

図表 142 気がかりな人へ行っている支援



居住地区別にみると、「気にかけて見守っている」は「東部(100.0%)」、「相談にのったり助けたりしている(した)」は「東部(50.0%)」、「市や専門機関、地域の人等に相談している(した)」は「東部(50.0%)」が最も多くなっている。

図表 143 気がかりな人へ行っている支援(居住地区別)



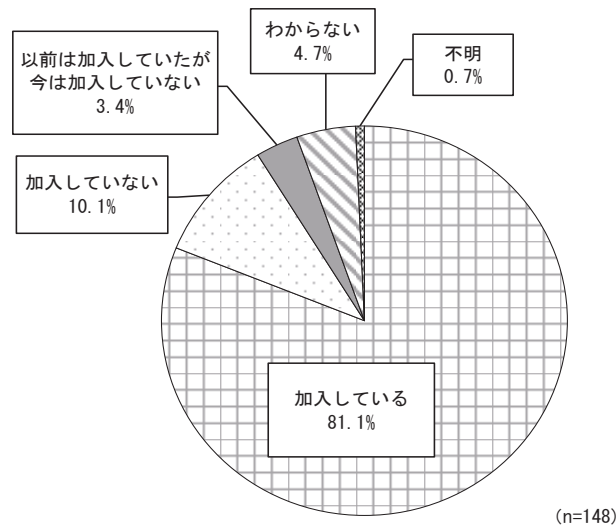
4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

⑳ 自治会の加入状況

問20 あなたの家は自治会に加入していますか。（○は1つだけ）

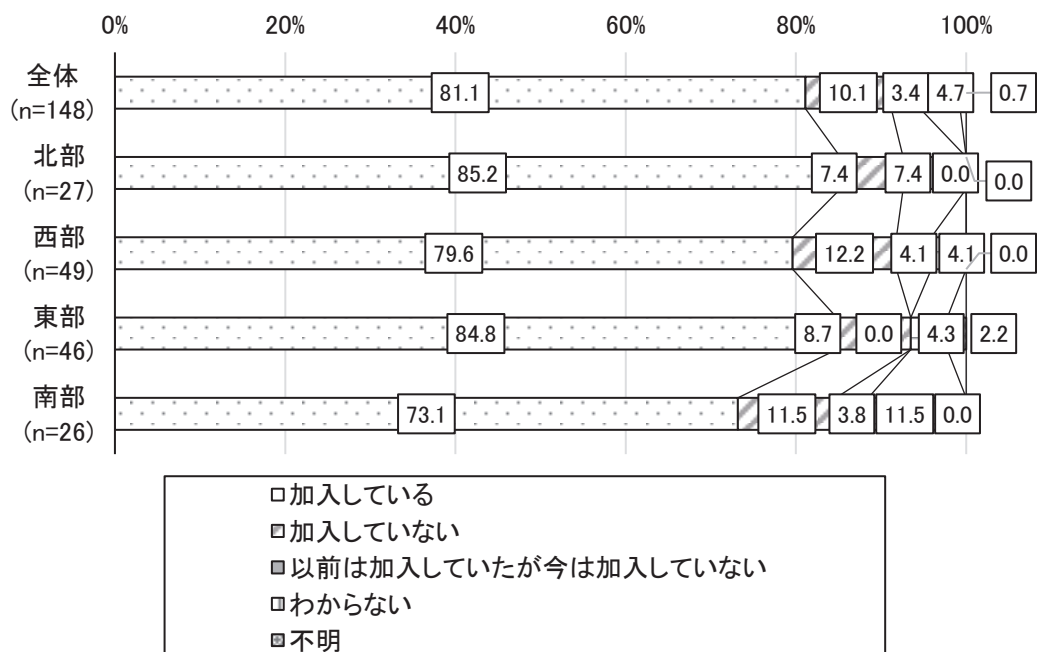
自治会の加入状況を見ると、「加入している」が81.1%で最も多く、次いで「加入していない」が10.1%、「以前は加入していたが今は加入していない」が3.4%となっている。

図表 144 自治会の加入状況



居住地区別にみると、「加入している」は「北部(85.2%)」、「加入していない」は「西部(12.2%)」、「以前は加入していたが今は加入していない」は「北部(7.4%)」が最も多くなっている。

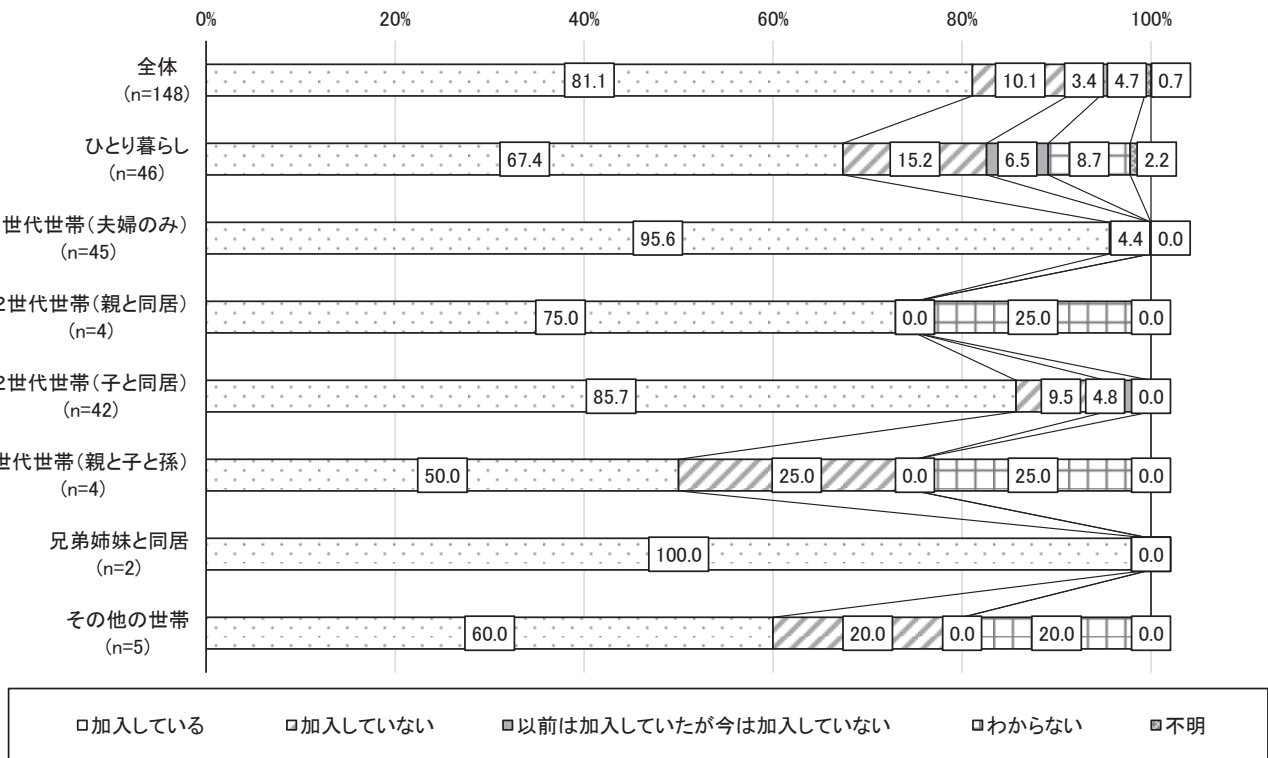
図表 145 自治会の加入状況(居住地区別)



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

家族構成別にみると、「加入している」は「1世代世帯(夫婦のみ) (95.6%)」、「加入していない」は「3世代世帯(親と子と孫) (25.0%)」、「以前は加入していたが今は加入していない」は「ひとり暮らし(6.5%)」が最も多くなっている。

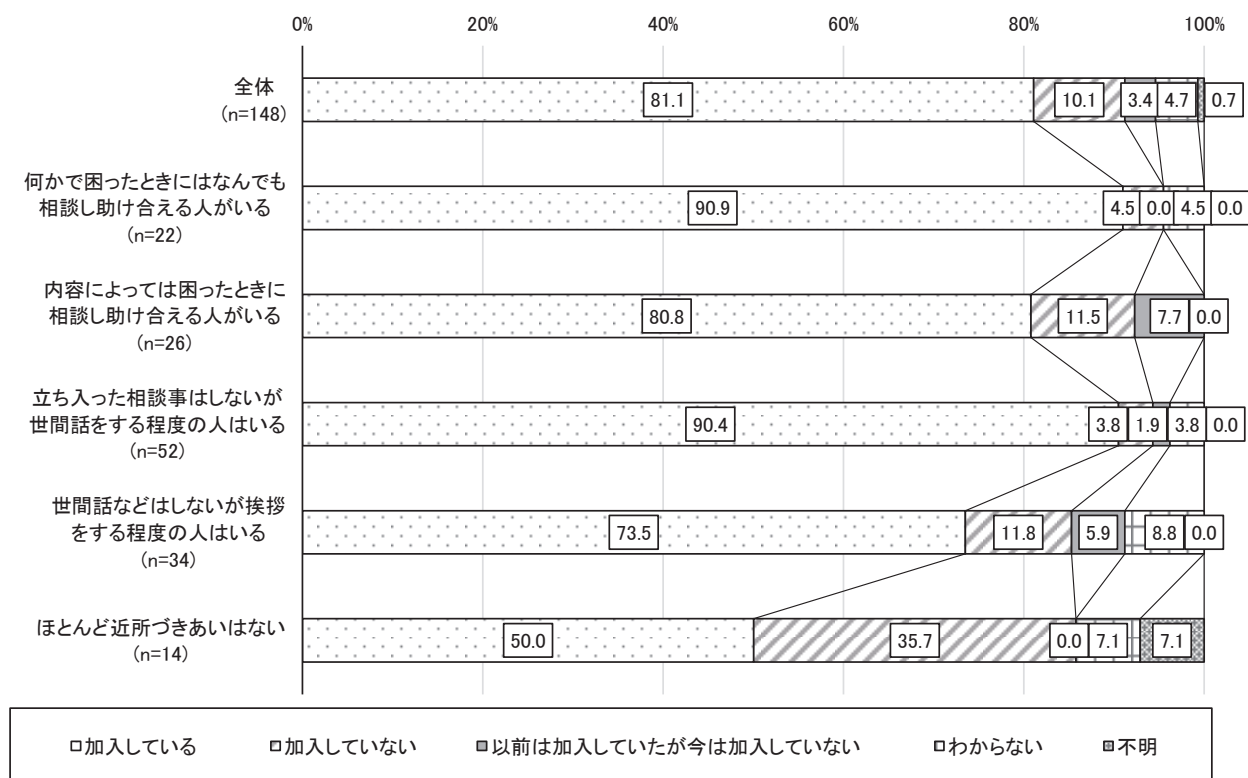
図表 146 自治会の加入状況(家族構成別)



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

近所づきあいの程度別にみると、「加入している」は「何かで困ったときにはなんでも相談し助け合える人がある(90.9%)」、「加入していない」は「ほとんど近所づきあいはない(35.7%)」、「以前は加入していたが今は加入していない」は「内容によっては困ったときに相談し助け合える人がある(7.7%)」が最も多くなっている。

図表 147 自治会の加入状況(近所づきあいの程度別)



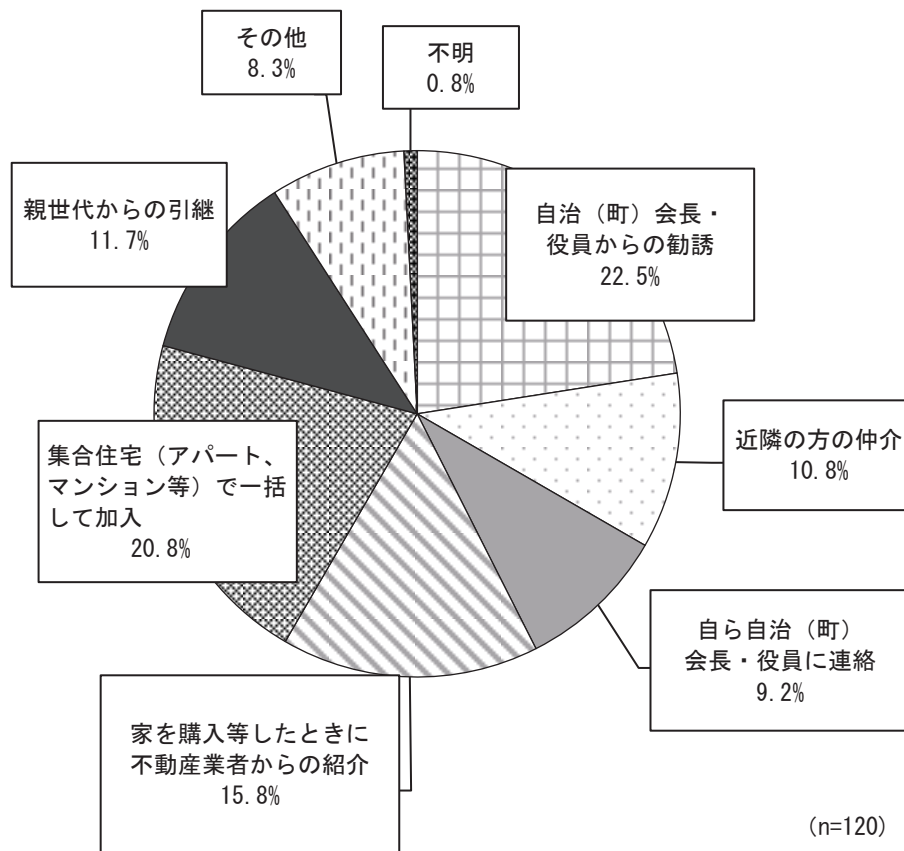
② 自治会の加入方法

問21 問20で「1. 加入している」を選んだ人にお尋ねします。

あなたは、どのような方法で自治会に加入しましたか。（〇は1つだけ）

自治会の加入方法をみると、「自治(町)会長・役員からの勧誘」が22.5%で最も多く、次いで「集合住宅(アパート、マンション等)で一括して加入」が20.8%、「家を購入等したときに不動産業者からの紹介」が15.8%となっている。

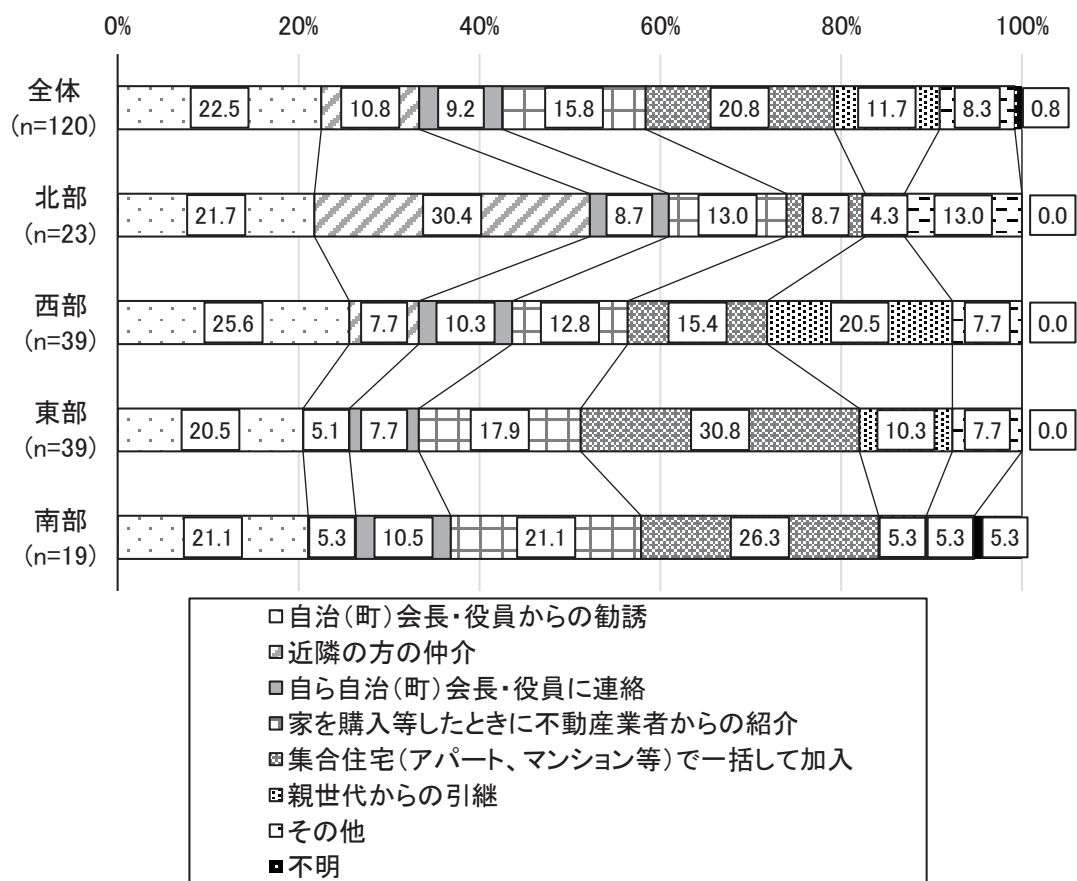
図表 148 自治会の加入方法



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

居住地区別にみると、「自治(町)会長・役員からの勧誘」は「西部(25.6%)」、「近隣の方の仲介」は「北部(30.4%)」、「自ら自治(町)会長・役員に連絡」は「南部(10.5%)」が最も多くなっている。

図表 149 自治会の加入方法(居住地区別)



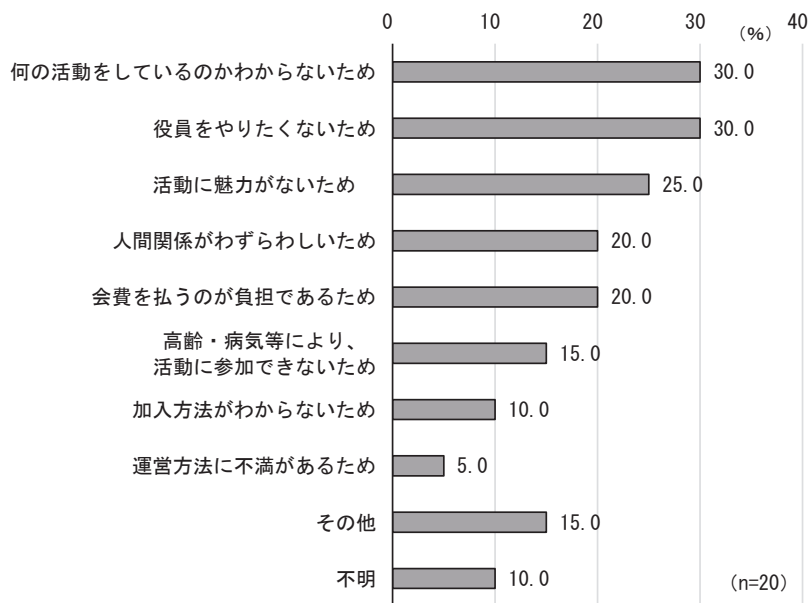
② 自治会に加入していない理由

問20で「2. 加入していない」、「3. 以前は加入していたが今は加入していない」を選んだ人にお尋ねします。

問22 あなたの家が自治会に加入していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

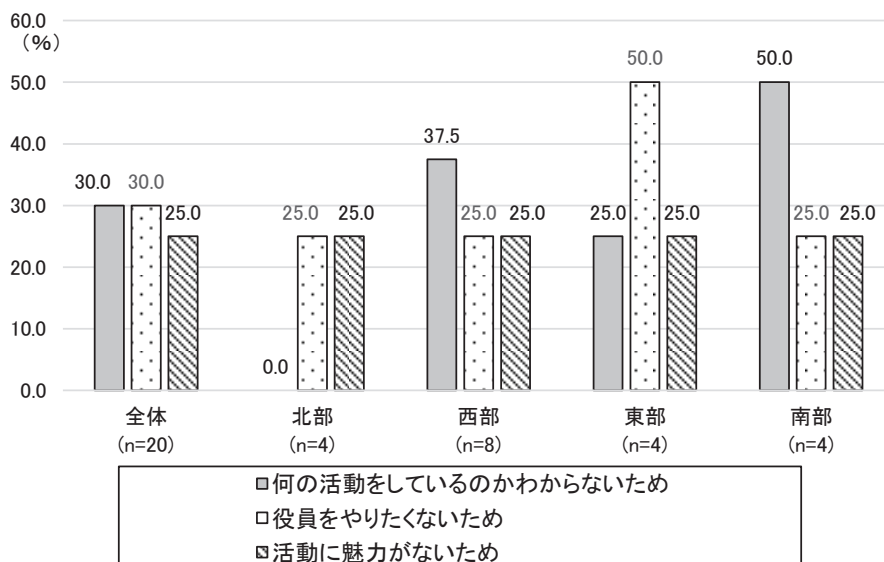
自治会に加入していない理由をみると、「何の活動をしているのかわからないため」と「役員をやりたくないため」が30.0%で最も多く、次いで「活動に魅力がないため」が25.0%となっている。

図表 150 自治会に加入していない理由



居住地区別にみると、「何の活動をしているのかわからないため」は「南部(50.0%)」、「役員をやりたくないため」は「東部(50.0%)」が最も多くなっている。

図表 151 自治会に加入していない理由(居住地区別)



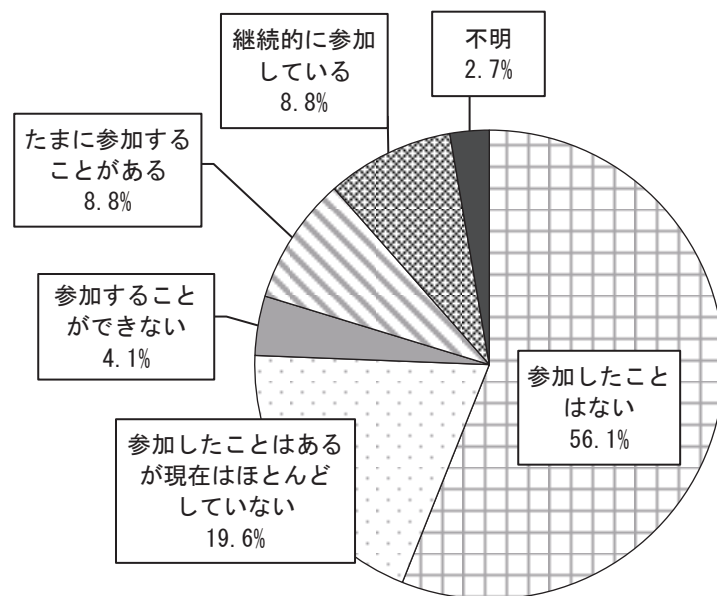
4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

③ 地域活動への参加状況

問23 あなたは、地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動等について、参加したことがありますか。（○は1つだけ）

地域活動への参加状況をみると、「参加したことはない」が56.1%で最も多く、次いで「参加したことはあるが現在はほとんどしていない」が19.6%となっている。「たまに参加することがある」と「継続的に参加している」が8.8%となっている。

図表 152 地域活動への参加状況

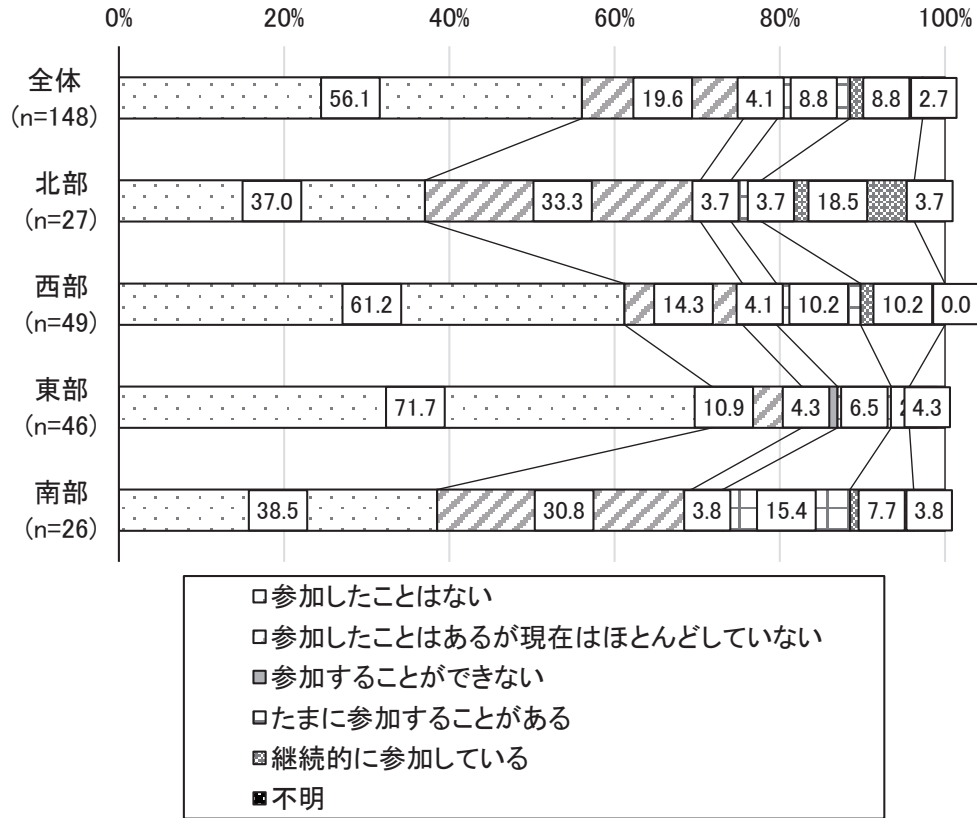


(n=148)

4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

居住地区別にみると、「参加したことはない」は「東部(71.7%)」、「参加したことはあるが現在はほとんどしていない」は「北部(33.3%)」、「参加することができない」は「東部(4.3%)」が最も多くなっている。

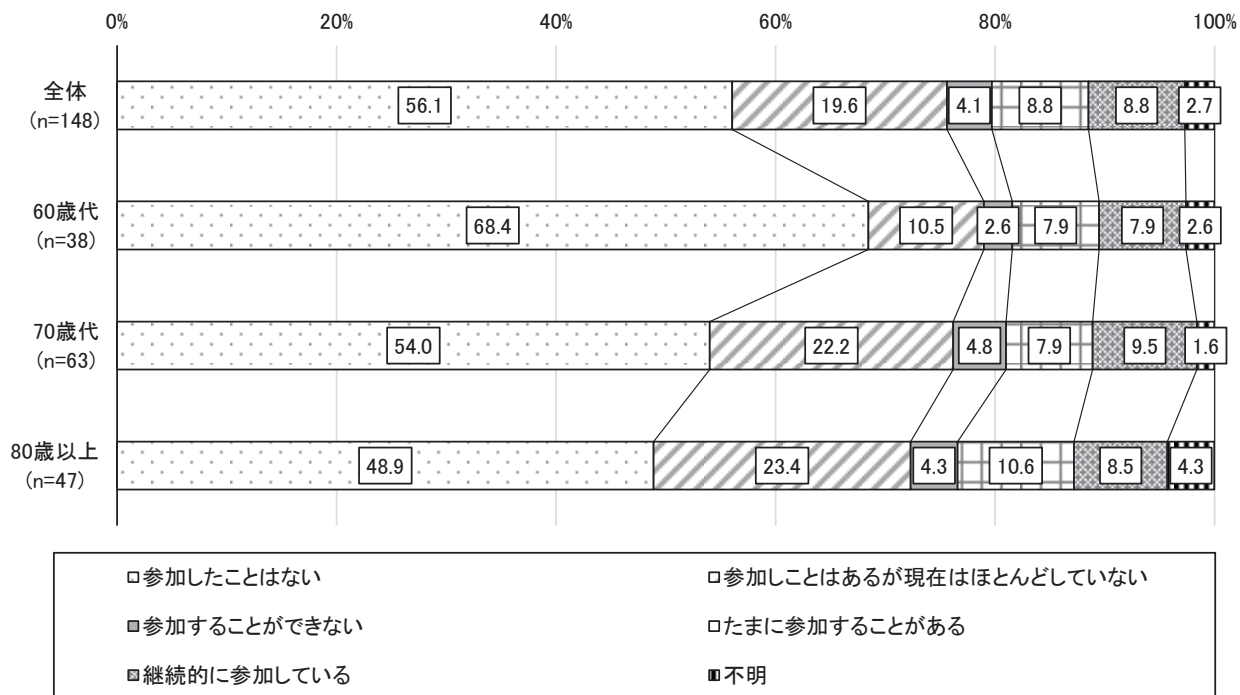
図表 153 地域活動への参加状況(居住地区別)



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

年齢別にみると、「参加したことはない」は「60歳代(68.4%)」、「参加したことはあるが現在はほとんどしていない」は「80歳以上(23.4%)」、「たまに参加することがある」は「80歳以上(10.6%)」、「継続的に参加している」は「70歳代(9.5%)」が最も多くなっている。

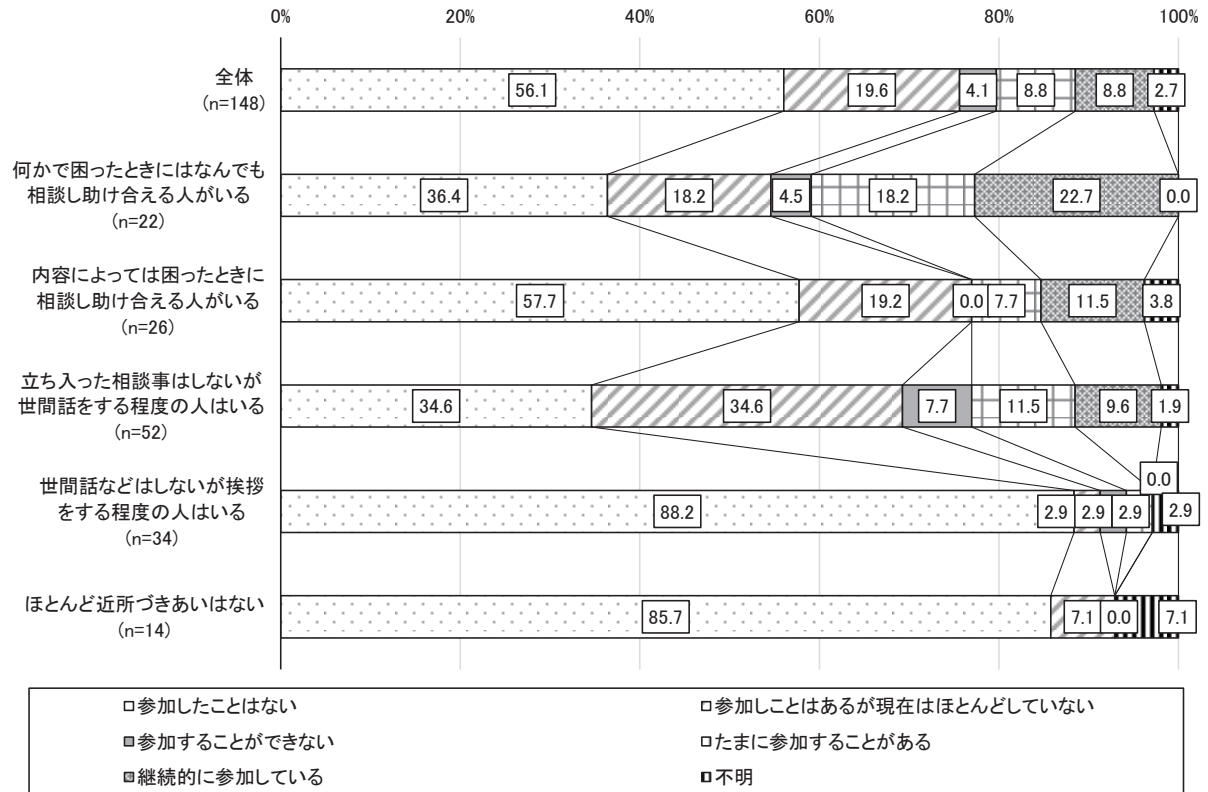
図表 154地域活動への参加状況(年齢別)



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

近所づきあいの程度別にみると、「参加したことはない」は「世間話などはしないが挨拶をする程度の人はいる(88.2%)」、「参加したことはあるが現在はほとんどしていない」は「立ち入った相談事はしないが世間話をする程度の人はいる(34.6%)」、「たまに参加することがある」は「何かで困ったときにはなんでも相談し助け合える人がいる(18.2%)」、「継続的に参加している」は「何かで困ったときにはなんでも相談し助け合える人がいる(22.7%)」が最も多くなっている。

図表 155地域活動への参加状況(近所づきあいの程度別)



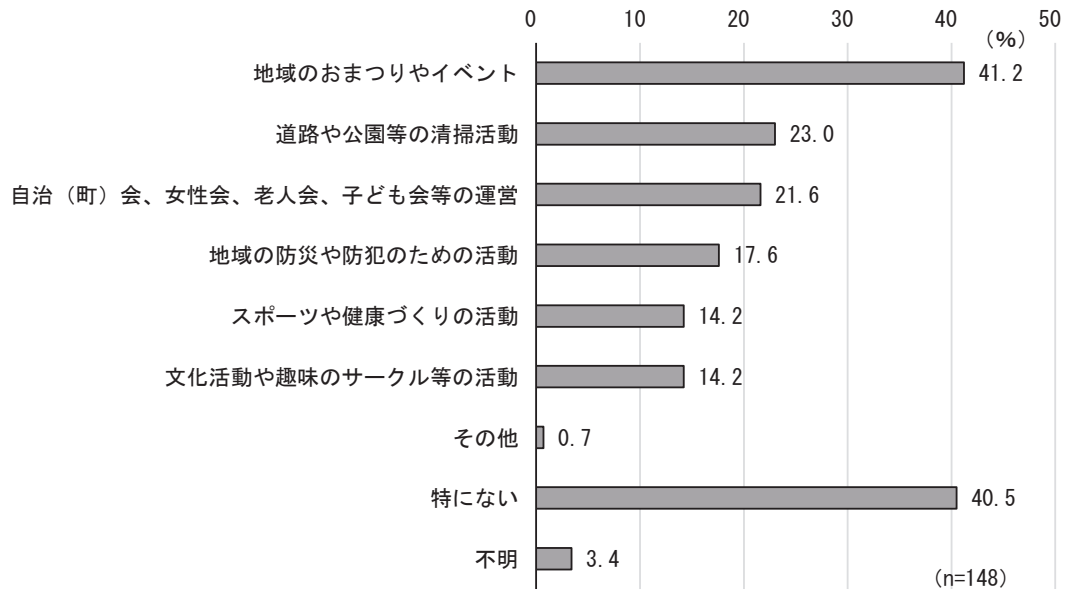
4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

④ 参加したことがある地域活動

問24 あなたは、お住まいの地域の次のどのような活動に参加したことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

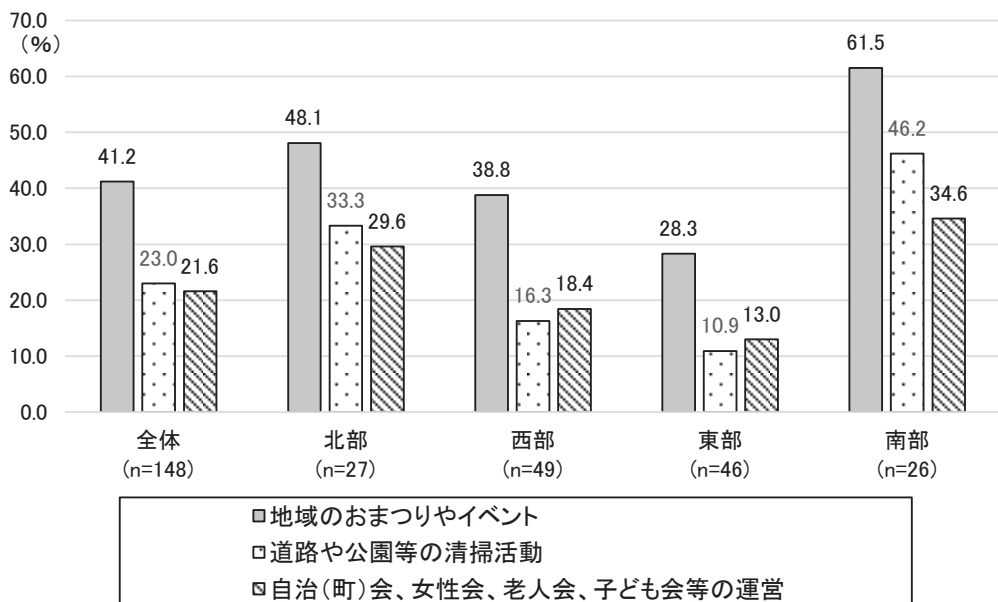
参加したことがある地域活動をみると、「地域のおまつりやイベント」が41.2%で最も多く、次いで「道路や公園等の清掃活動」が23.0%、「自治(町)会、女性会、老人会、子ども会等の運営」が21.6%となっている。

図表 156 参加したことがある地域活動



居住地区別にみると、「地域のおまつりやイベント」は「南部(61.5%)」、「道路や公園等の清掃活動」は「南部(46.2%)」、「自治(町)会、女性会、老人会、子ども会等の運営」は「南部(34.6%)」が最も多くなっている。

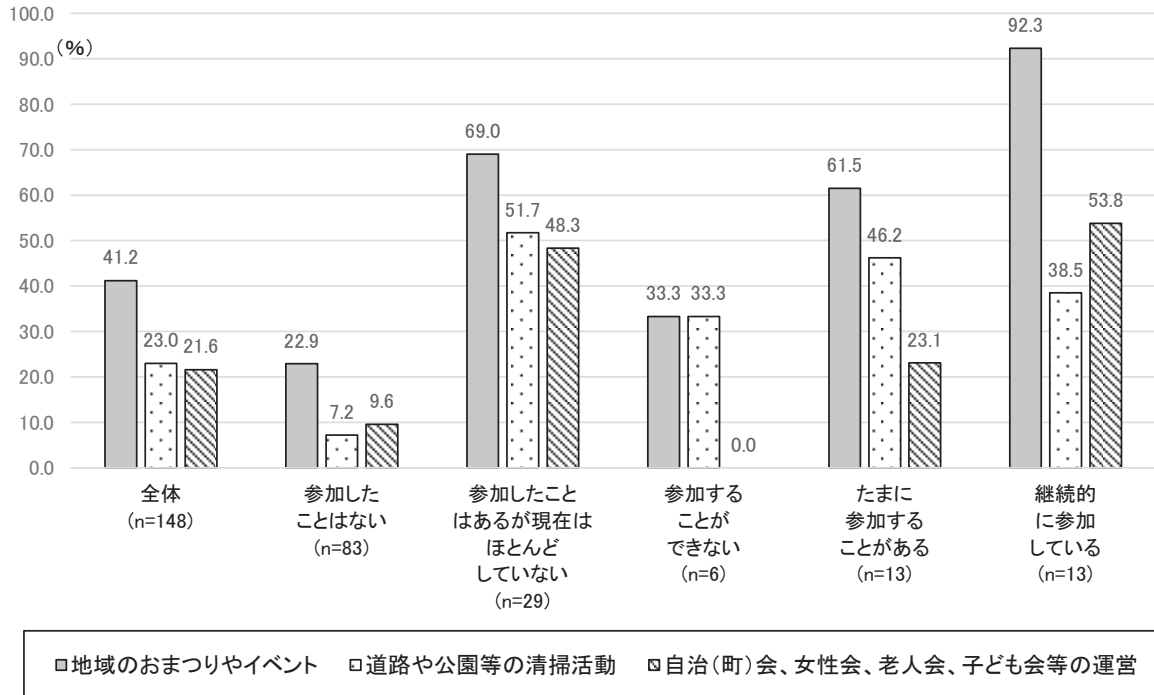
図表 157 参加したことがある地域活動(居住地区別)



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

地域活動への参加状況別にみると、「地域のおまつりやイベント」は「継続的に参加している（92.3%）」、「道路や公園等の清掃活動」は「参加したことはあるが現在はほとんどしていない（51.7%）」、「自治（町）会、女性会、老人会、子ども会等の運営」は「継続的に参加している（53.8%）」が最も多くなっている。

図表 158 参加したことがある地域活動（地域活動への参加状況別）



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

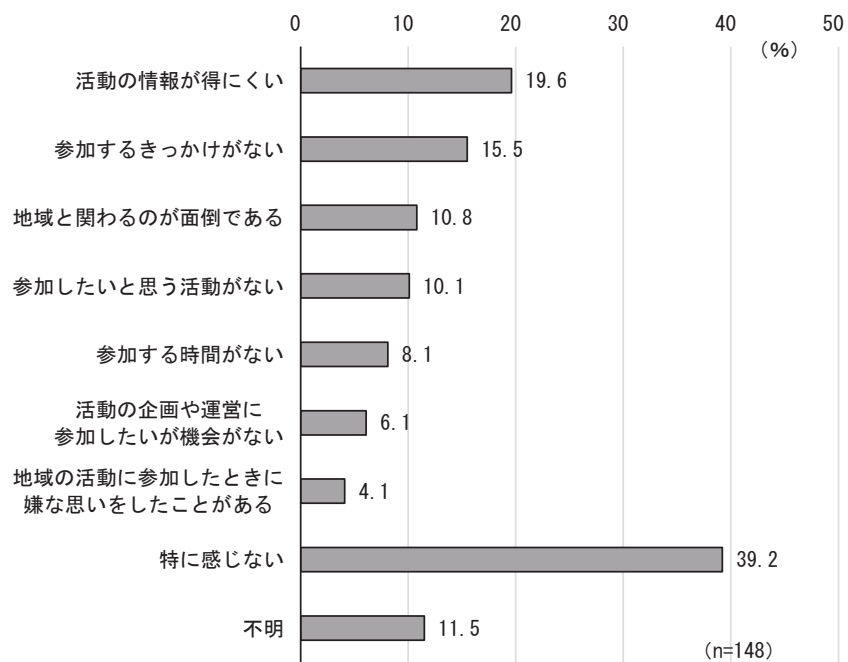
㊸ 地域活動への参加にあたり気になること

問25 あなたは、地域の活動への参加について、気になることがありますか。

（あてはまるものすべてに○）

地域活動への参加にあたり気になることをみると、「活動の情報が得にくい」が19.6%で最も多く、次いで「参加するきっかけがない」が15.5%、「地域と関わるのが面倒である」が10.8%となっている。

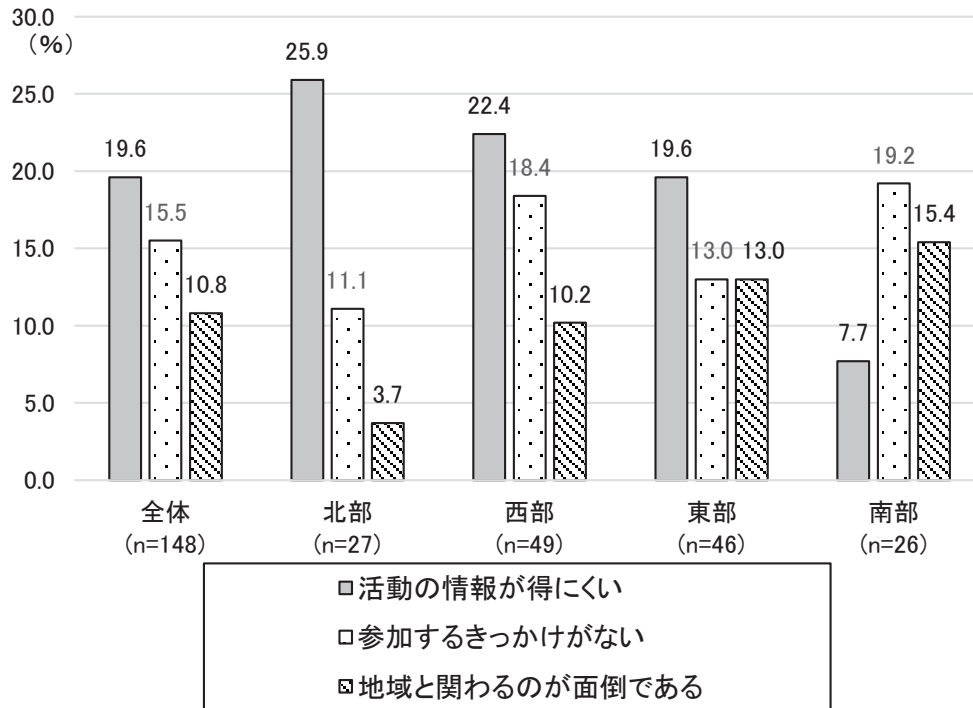
図表 159 地域活動への参加にあたり気になること



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

居住地区別にみると、「活動の情報が得にくい」は「北部(25.9%)」、「参加するきっかけがない」は「南部(19.2%)」、「地域と関わるのが面倒である」は「南部(15.4%)」が最も多くなっている。

図表 160 地域活動への参加にあたり気になること(居住地区別)



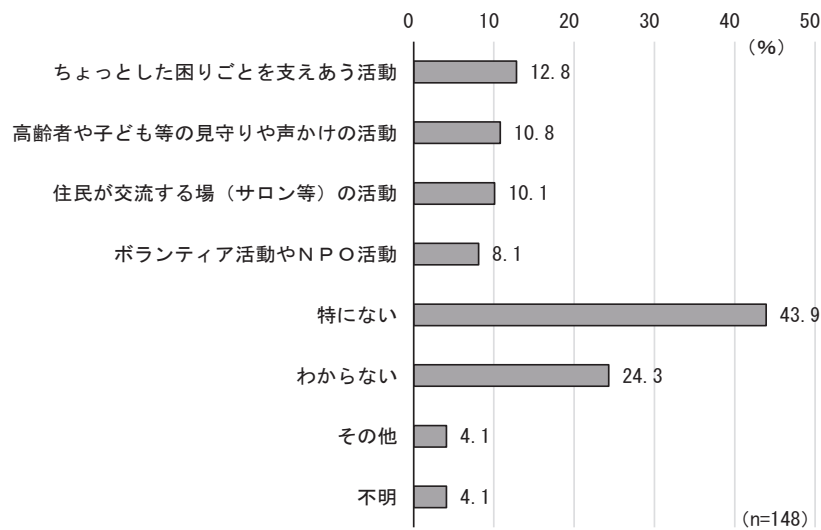
4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

㊸ 地域福祉活動への参加

問26 あなたは、広域での活動も含め、地域福祉活動に参加していますか。また、現在は参加してなくて、今後参加したいと思うものがありますか。（あてはまるものすべてに○）

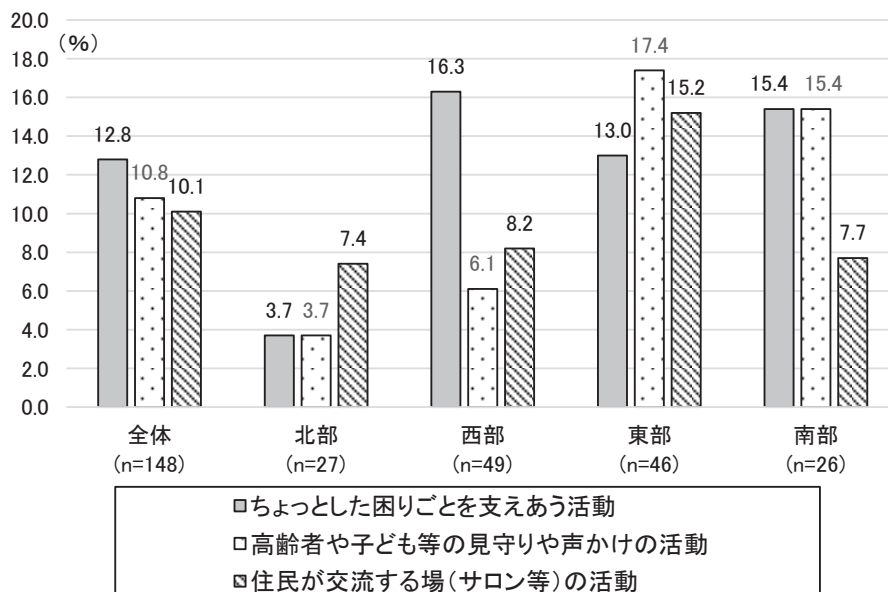
地域福祉活動への参加をみると、「ちょっとした困りごとを支えあう活動」が12.8%で最も多く、次いで「高齢者や子ども等の見守りや声かけの活動」が10.8%、「住民が交流する場(サロン等)の活動」が10.1%となっている。

図表 161 地域福祉活動への参加



居住地区別にみると、「ちょっとした困りごとを支えあう活動」は「西部(16.3%)」、「高齢者や子ども等の見守りや声かけの活動」は「東部(17.4%)」、「住民が交流する場(サロン等)の活動」は「東部(15.2%)」が最も多くなっている。

図表 162 地域福祉活動への参加(居住地区別)



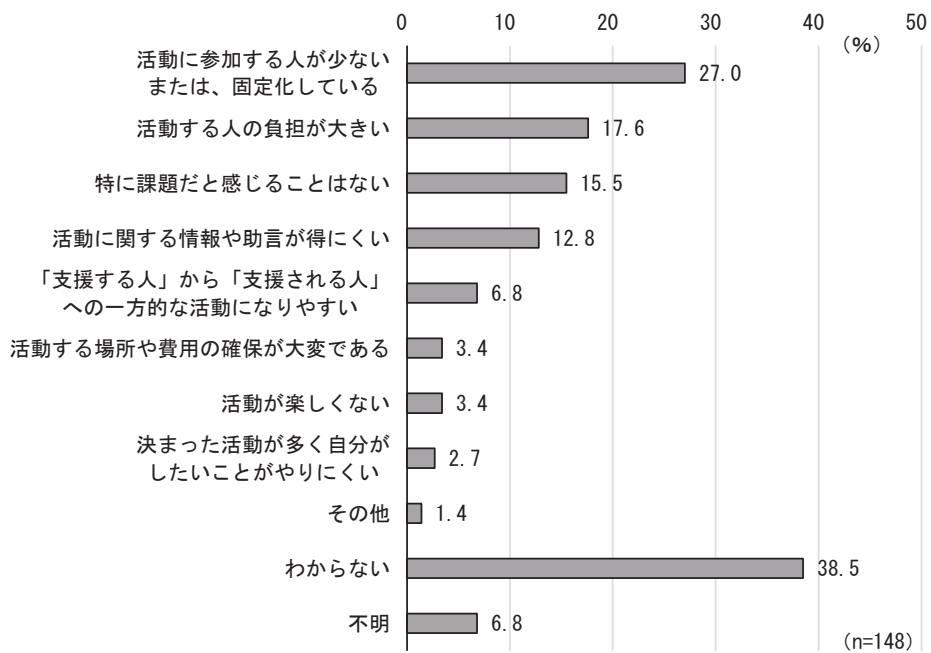
② 地域福祉活動の課題

問27 市民による地域福祉の活動について、課題だと思いませんか。

（あてはまるものすべてに○）

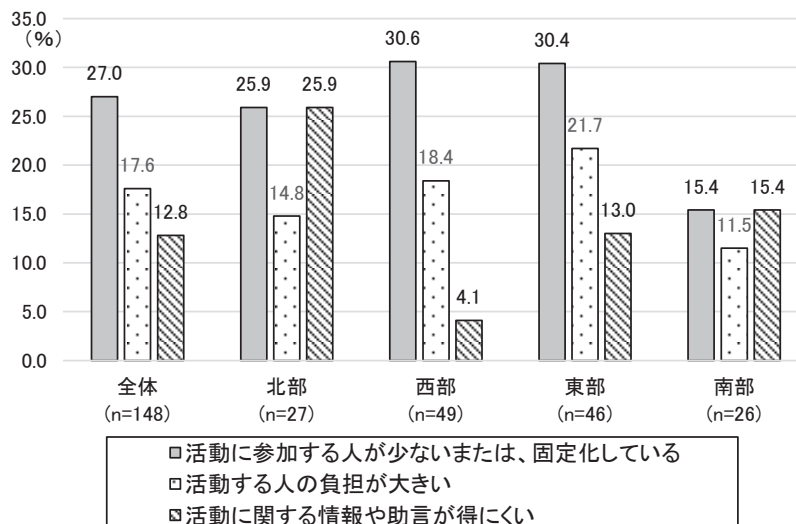
地域福祉活動の課題をみると、「活動に参加する人が少ないまたは、固定化している」が27.0%で最も多く、次いで「活動する人の負担が大きい」が17.6%、「特に課題だと感じることはない」が15.5%となっている。

図表 163 地域福祉活動の課題



居住地区別にみると、「活動に参加する人が少ないまたは、固定化している」は「西部(30.6%)」、「活動する人の負担が大きい」は「東部(21.7%)」、「活動に関する情報や助言が得にくい」は「北部(25.9%)」が最も多くなっている。

図表 164 地域福祉活動の課題(居住地区別)



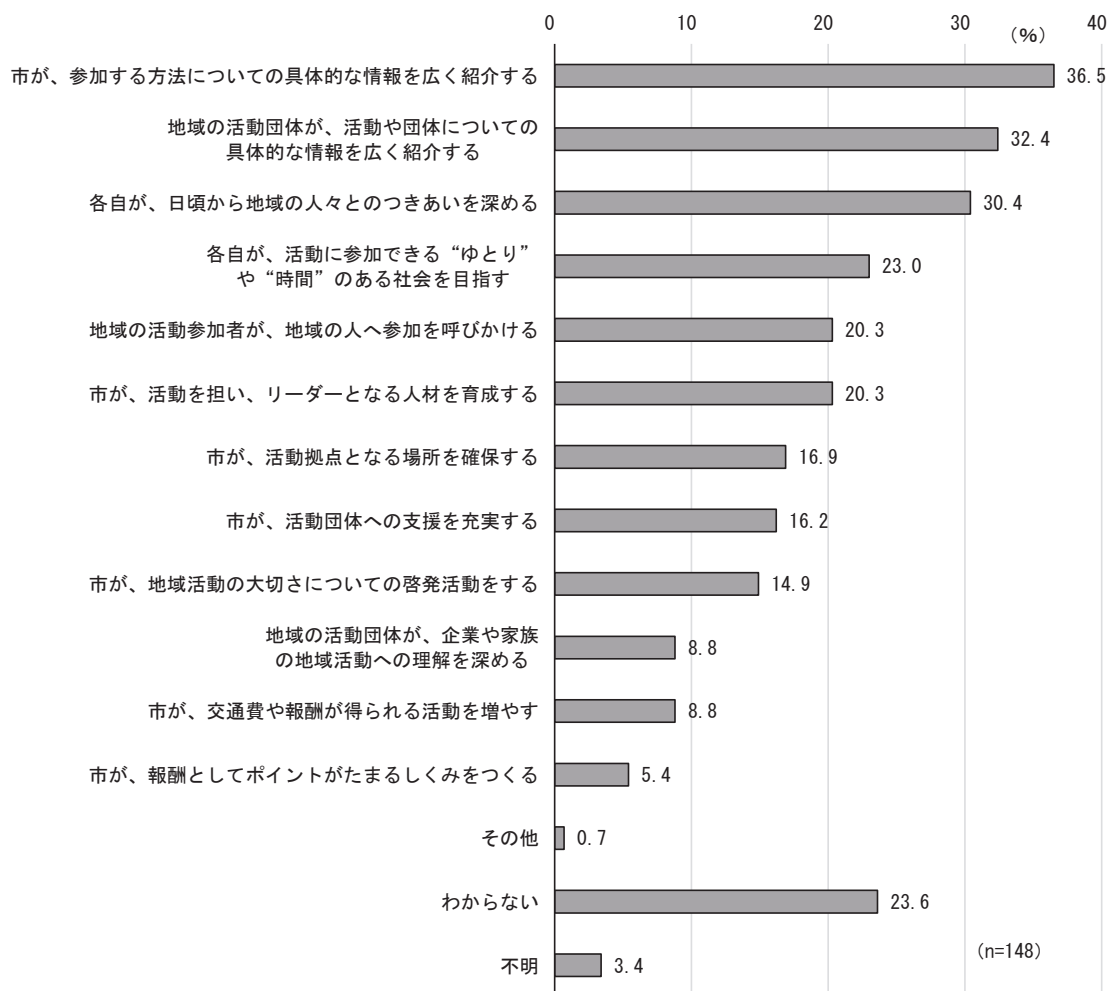
4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

㊸ 地域活動により多くの人が参加できるようにするために必要なこと

問28 あなたは、お住まいの地域の活動に、より多くの人が参加できるようにするためには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

地域活動により多くの人が参加できるようにするために必要なことをみると、「市が、参加する方法についての具体的な情報を広く紹介する」が36.5%で最も多く、次いで「地域の活動団体が、活動や団体についての具体的な情報を広く紹介する」が32.4%、「各自が、日頃から地域の人々とのつきあいを深める」が30.4%となっている。

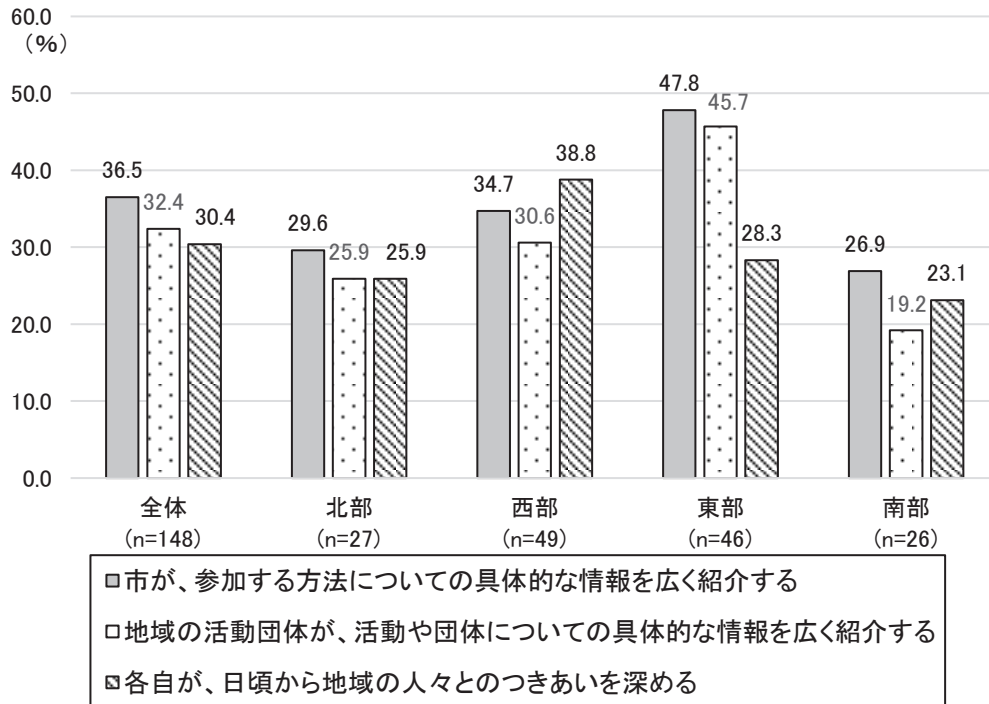
図表 165 地域活動により多くの人が参加できるようにするために必要なこと



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

居住地区別にみると、「市が、参加する方法についての具体的な情報を広く紹介する」は「東部（47.8%）」、「地域の活動団体が、活動や団体についての具体的な情報を広く紹介する」は「東部（45.7%）」、「各自が、日頃から地域の人々とのつきあいを深める」は「西部（38.8%）」が最も多くなっている。

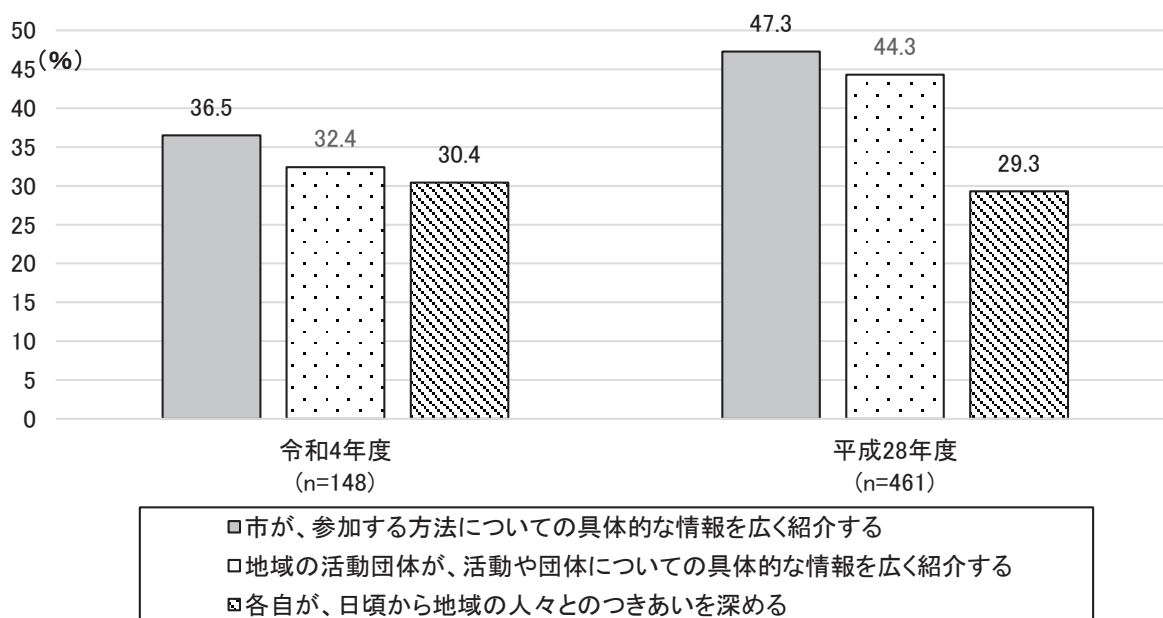
図表 166 地域活動により多くの人が参加できるようにするために必要なこと（居住地区別）



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

経年でみると、「各自が、日頃から地域の人々とのつきあいを深める」が微増しており、「市が、参加する方法についての具体的な情報を広く紹介する」、「地域の活動団体が、活動や団体についての具体的な情報を広く紹介する」は減少している。

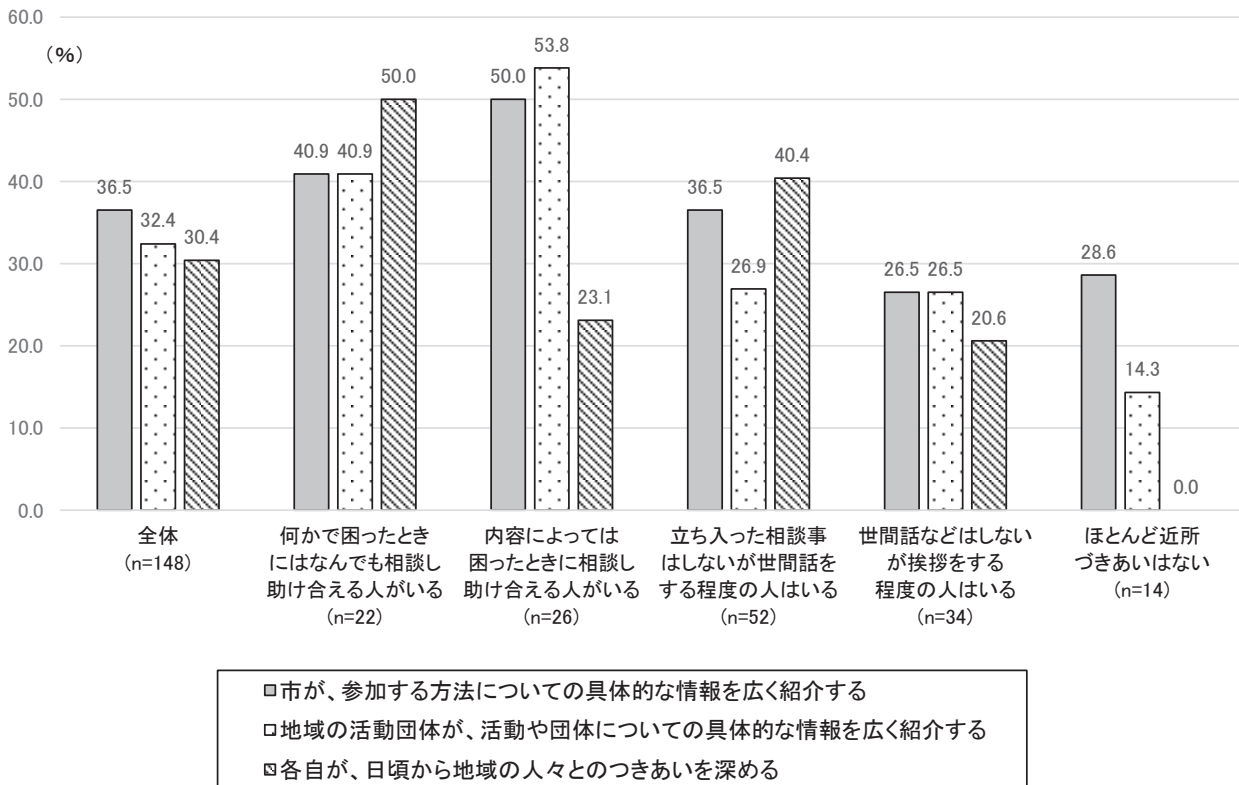
図表 167 地域活動により多くの人が参加できるようにするために必要なこと(経年比較)



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

近所づきあいの程度別にみると、「市が、参加する方法についての具体的な情報を広く紹介する」は「内容によっては困ったときに相談し助け合える人がある(50.0%)」、「地域の活動団体が、活動や団体についての具体的な情報を広く紹介する」は「内容によっては困ったときに相談し助け合える人がある(53.8%)」、「各自が、日頃から地域の人々とのつきあいを深める」は「何かで困ったときにはなんでも相談し助け合える人がある(50.0%)」が最も高くなっている。

図表 168 地域活動により多くの人が参加できるようにするために必要なこと(近所づきあいの程度別)



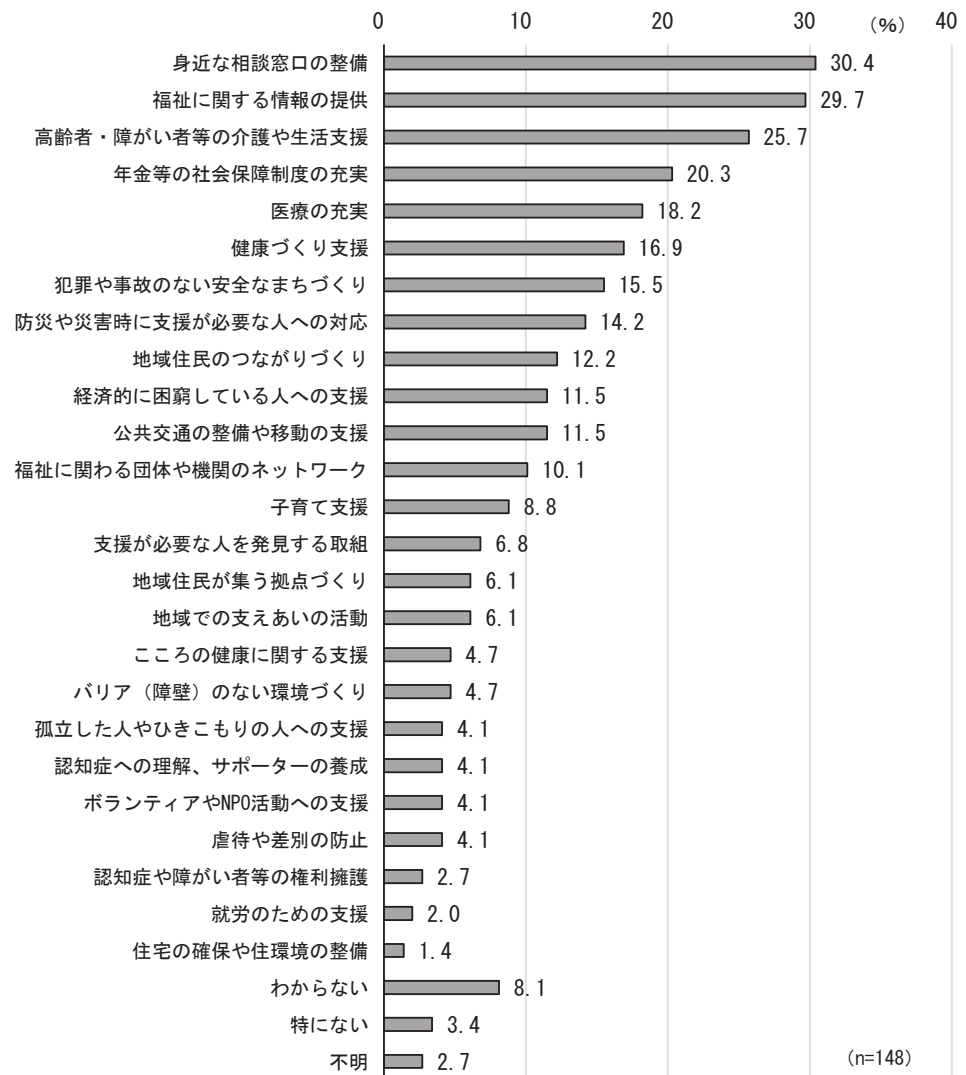
4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

㊸ 地域福祉の充実のため市が優先的に取り組むべきこと

問29 地域福祉を充実させるために、市川市はどのようなことを特に優先的に取り組むべきだと思いますか。（〇は3つまで）

地域福祉を充実させるために、市が優先的に取り組むべきことをみると、「身近な相談窓口の整備」が30.4%で最も多く、次いで「福祉に関する情報の提供」が29.7%、「高齢者・障がい者等の介護や生活支援」が25.7%となっている。

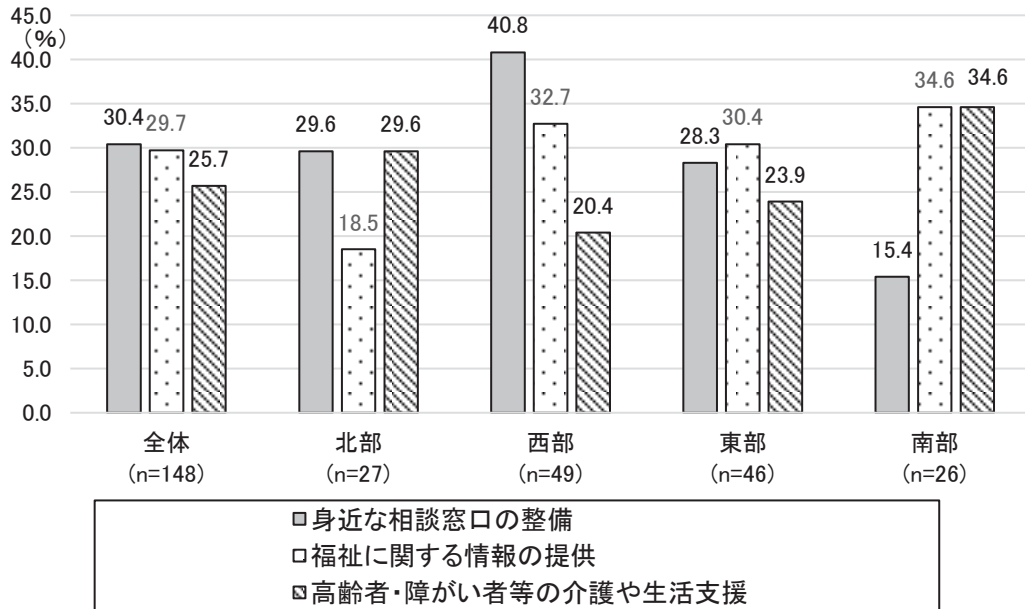
図表 169 地域福祉の充実のため市が優先的に取り組むべきこと



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

居住地区別にみると、「身近な相談窓口の整備」は「西部(40.8%)」、「福祉に関する情報の提供」は「南部(34.6%)」、「高齢者・障がい者等の介護や生活支援」は「南部(34.6%)」が最も多くなっている。

図表 170 地域福祉の充実のため市が優先的に取り組むべきこと(居住地区別)



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

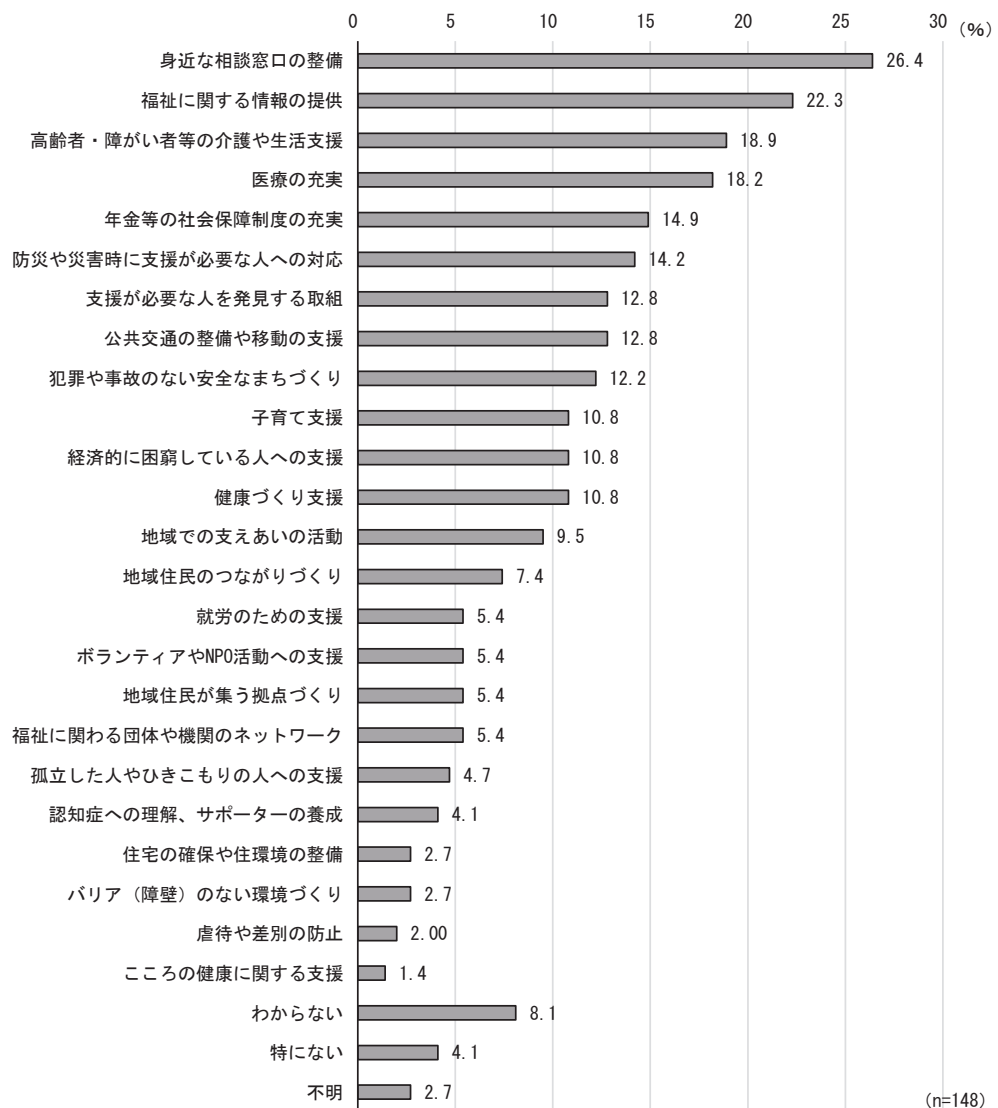
③ 地域や民間の団体・事業者等が積極的に取り組むべきこと

問30 地域や民間の団体・事業者等が積極的に取り組むべきだと思われることはありますか。

（〇は3つまで）

地域や民間の団体・事業者等が積極的に取り組むべきことをみると、「身近な相談窓口の整備」が26.4%で最も多く、次いで「福祉に関する情報の提供」が22.3%、「高齢者・障がい者等の介護や生活支援」が18.9%となっている。

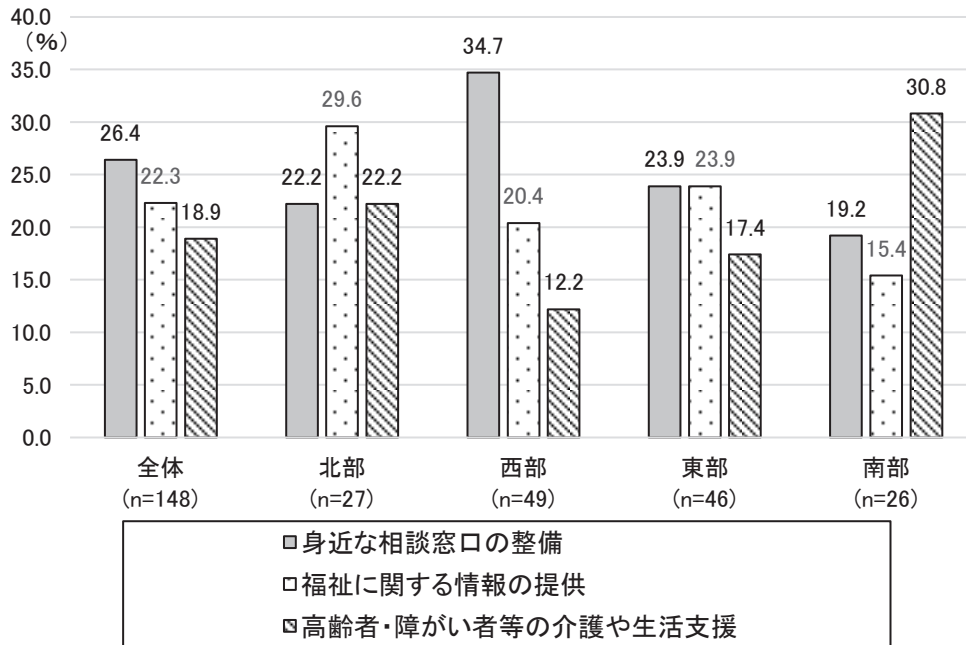
図表 171 地域や民間の団体・事業者等が積極的に取り組むべきこと



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

居住地区別にみると、「身近な相談窓口の整備」は「西部(34.7%)」、「福祉に関する情報の提供」は「北部(29.6%)」、「高齢者・障がい者等の介護や生活支援」は「南部(30.8%)」が最も多くなっている。

図表 172 地域や民間の団体・事業者等が積極的に取り組むべきこと(居住地区別)



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

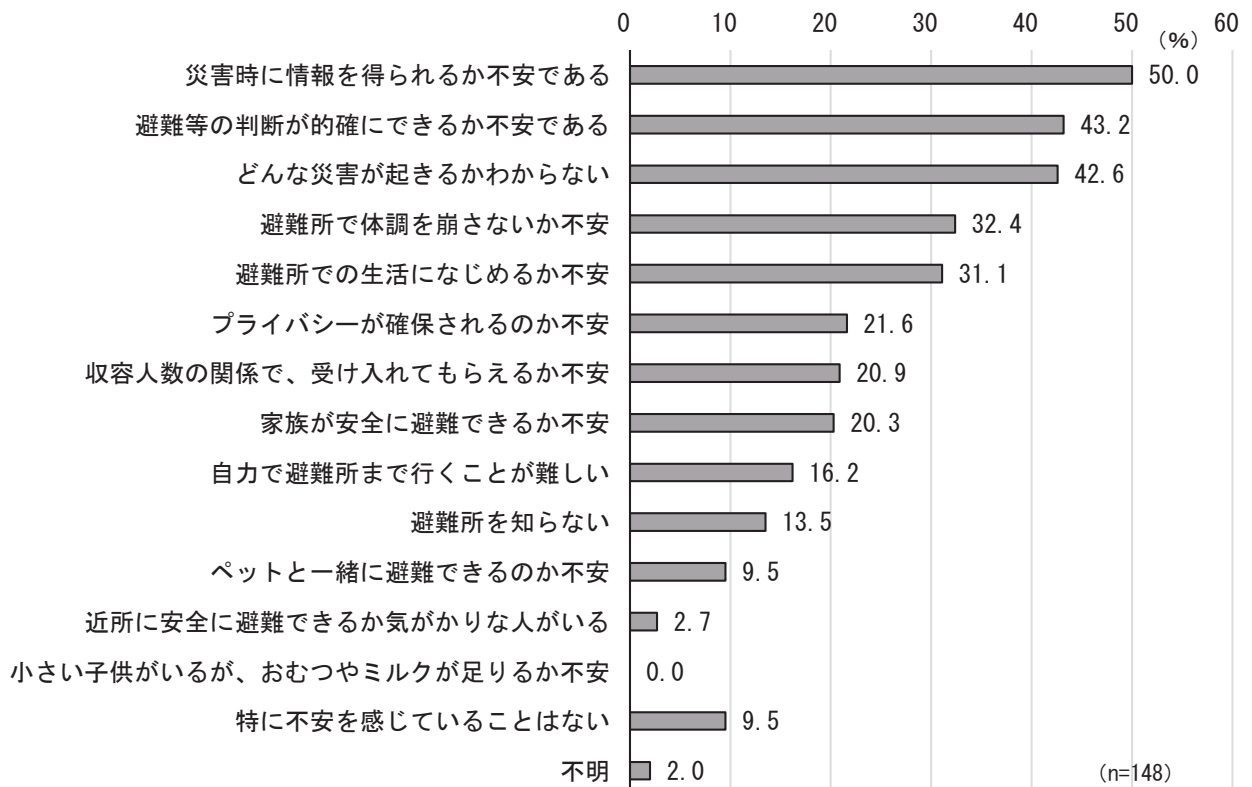
③ 地震や台風等の災害時の避難で不安に感じること

問31 あなたは、地震や台風等の災害時の避難に関して、不安を感じていることがありますか。

（あてはまるものすべてに○）

地震や台風等の災害時の避難で不安を感じることをみると、「災害時に情報を得られるか不安である」が50.0%で最も多く、次いで「避難等の判断が的確にできるか不安である」が43.2%、「どんな災害が起きかわからない」が42.6%となっている。

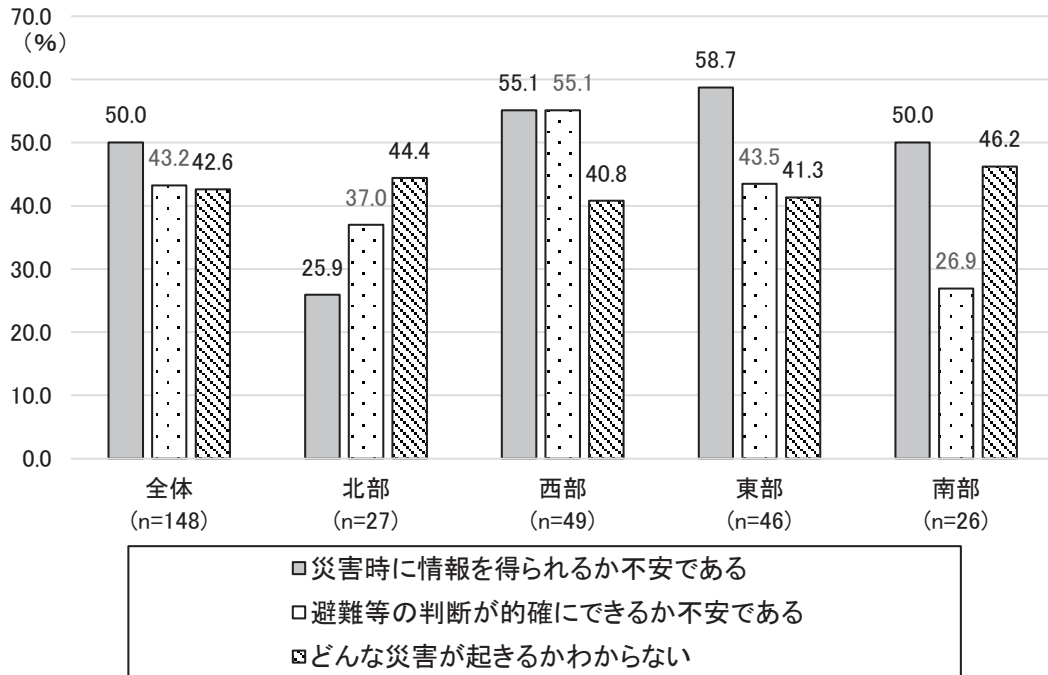
図表 173 地震や台風等の災害時の避難で不安に感じること



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

居住地区別にみると、「災害時に情報を得られるか不安である」は「東部(58.7%)」、「避難等の判断が的確にできるか不安である」は「西部(55.1%)」、「どんな災害が起きるかわからない」は「南部(46.2%)」が最も多くなっている。

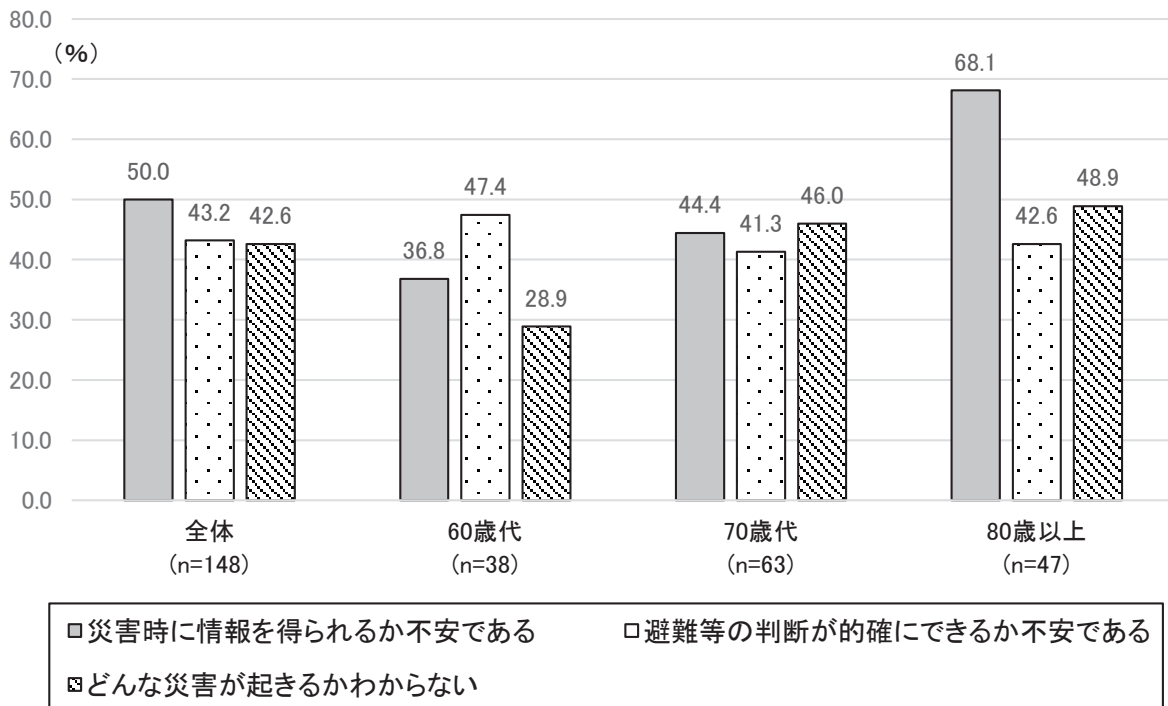
図表 174 地震や台風等の災害時の避難で不安に感じること(居住地区別)



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

年齢別にみると、「災害時に情報を得られるか不安である」は「80歳以上(68.1%)」、「避難等の判断が的確にできるか不安である」は「60歳代(47.4%)」、「どんな災害が起きるかわからない」は「80歳以上(48.9%)」が最も高くなっている。

図表 175 地震や台風等の災害時の避難で不安に感じること(年齢別)



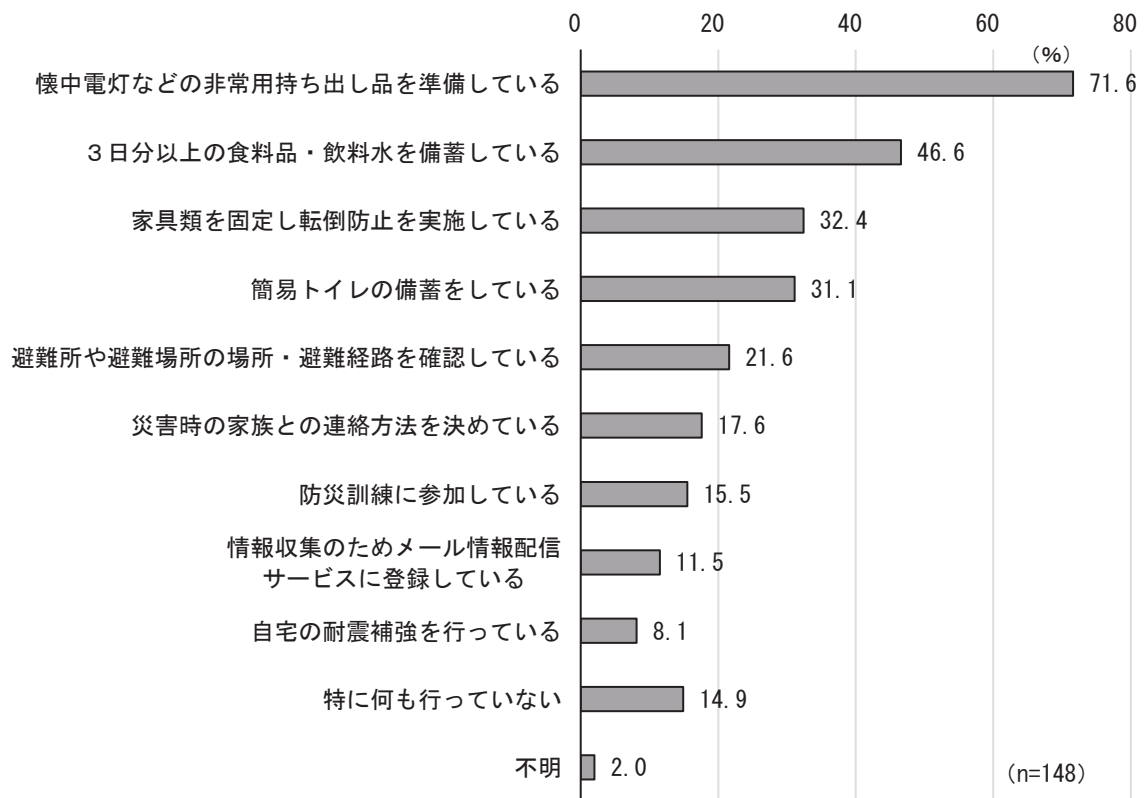
② 地震や災害に備えた日頃の対策

問32 あなたは、地震や災害時の避難に備えて、日頃からどのような対策を行っていますか。

（あてはまるものすべてに○）

地震や災害に備えた日頃の対策をみると、「懐中電灯などの非常用持ち出し品を準備している」が71.6%で最も多く、次いで「3日分以上の食料品・飲料水を備蓄している」が46.6%、「家具類を固定し転倒防止を実施している」が32.4%となっている。

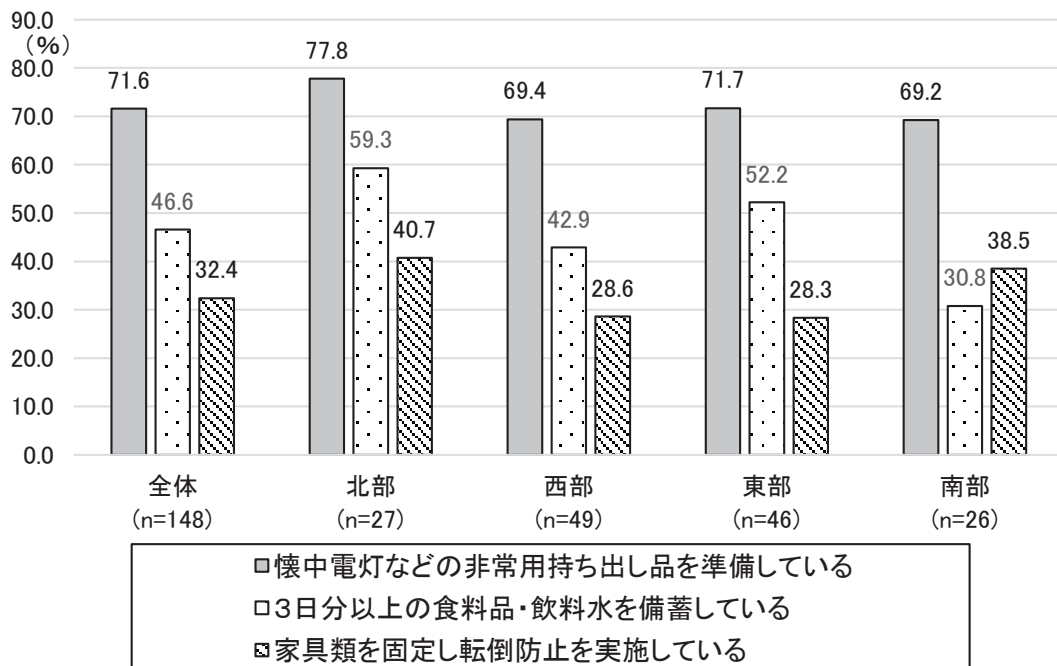
図表 176 地震や災害に備えた日頃の対策



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

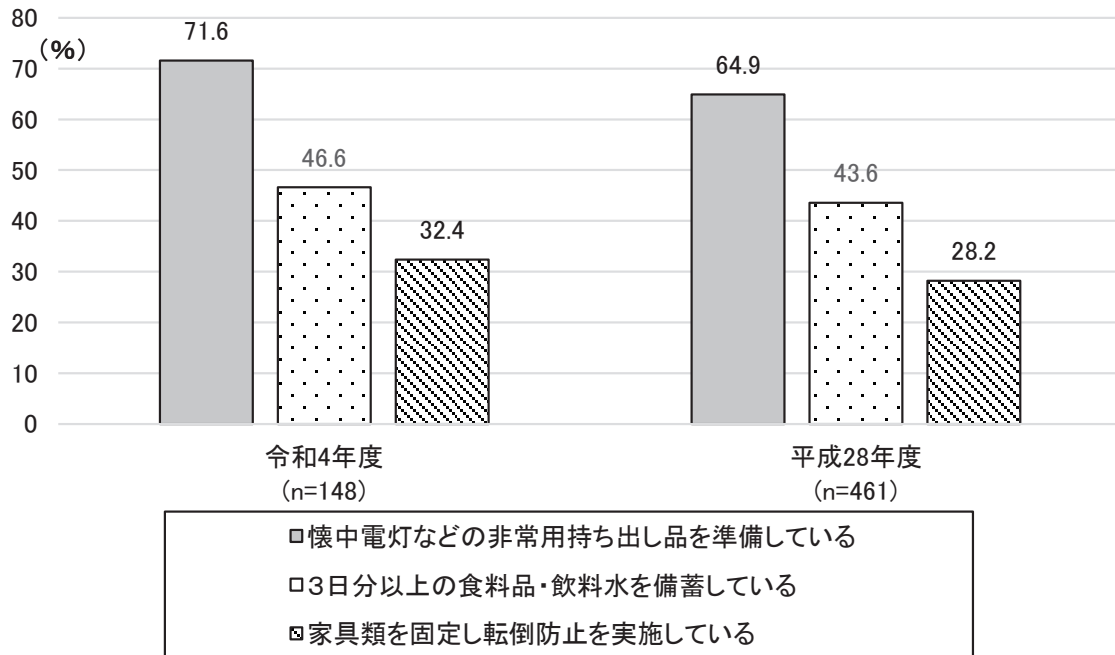
居住地区別にみると、「懐中電灯などの非常用持ち出し品を準備している」は「北部(77.8%)」、「3日分以上の食料品・飲料水を備蓄している」は「北部(59.3%)」、「家具類を固定し転倒防止を実施している」は「北部(40.7%)」が最も多くなっている。

図表 177 地震や災害に備えた日頃の対策(居住地区別)



経年でみると、平成 28 年度の調査と比べて、全ての項目が増加している。

図表 178 地震や災害に備えた日頃の対策（経年比較）



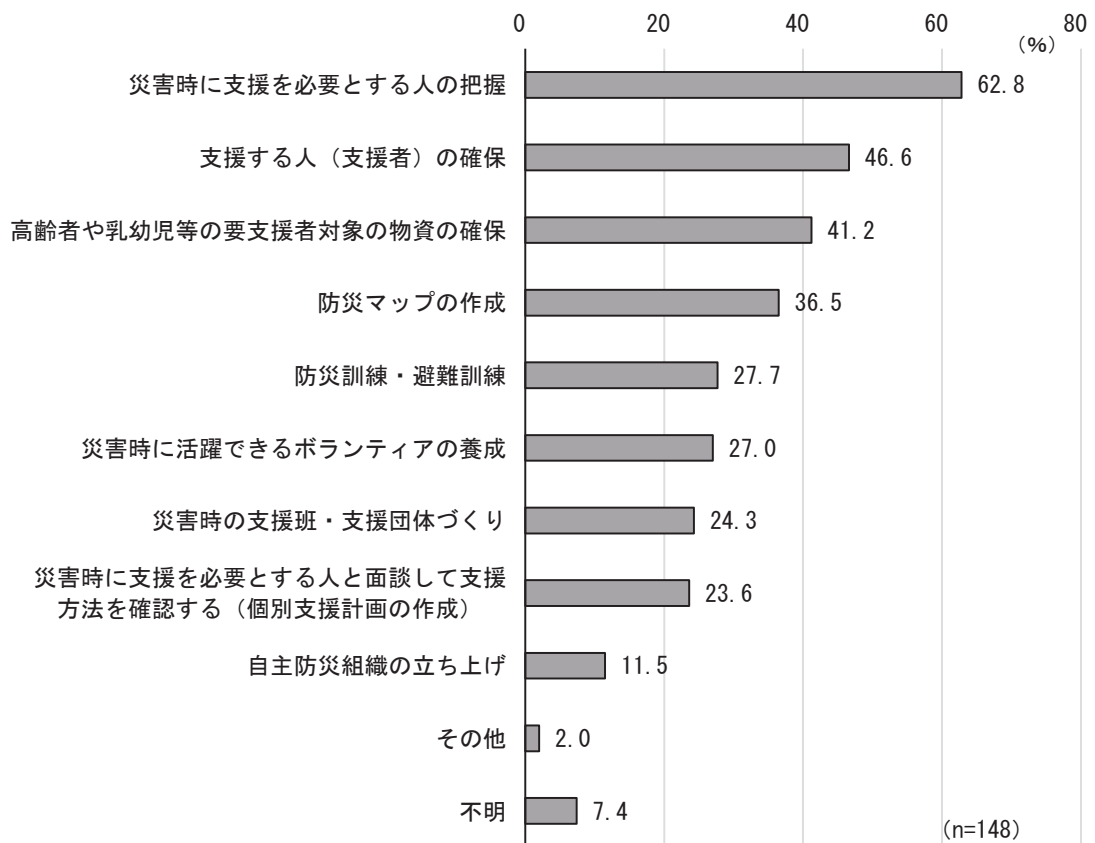
4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

③ 災害対策としての地域での備え

問33 あなたは、災害時の対策として、地域でどのような備えをしておくことが必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

災害対策としての地域での備えをみると、「災害時に支援を必要とする人の把握」が62.8%で最も多く、次いで「支援する人(支援者)の確保」が46.6%、「高齢者や乳幼児等の要支援者対象の物資の確保」が41.2%となっている。

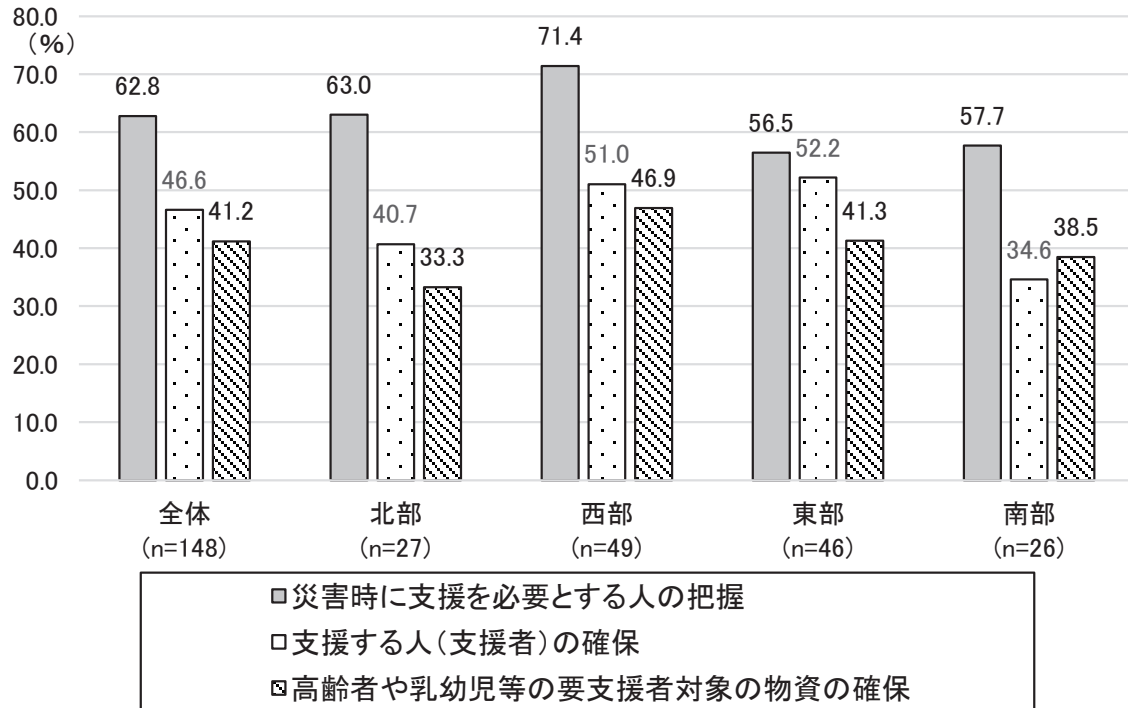
図表 179 災害対策としての地域での備え



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

居住地区別にみると、「災害時に支援を必要とする人の把握」は「西部(71.4%)」、「支援する人(支援者)の確保」は「東部(52.2%)」、「高齢者や乳幼児等の要支援者対象の物資の確保」は「西部(46.9%)」が最も多くなっている。

図表 180 災害対策としての地域での備え(居住地区別)



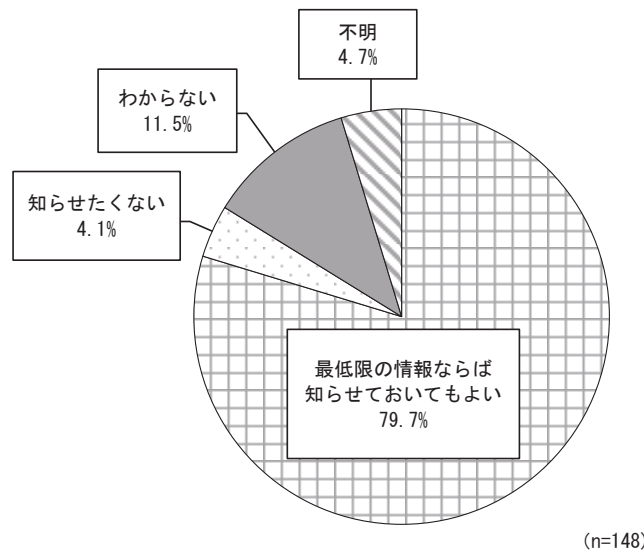
4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

③ 災害時避難・救助のための名簿作成への参加意向

問34 あなたは、災害時の避難や救助のために、市役所、消防署、警察署や自治(町)会へ、住所・氏名・連絡先などを事前に知らせておくことについて、どう思いますか。(○は1つだけ)

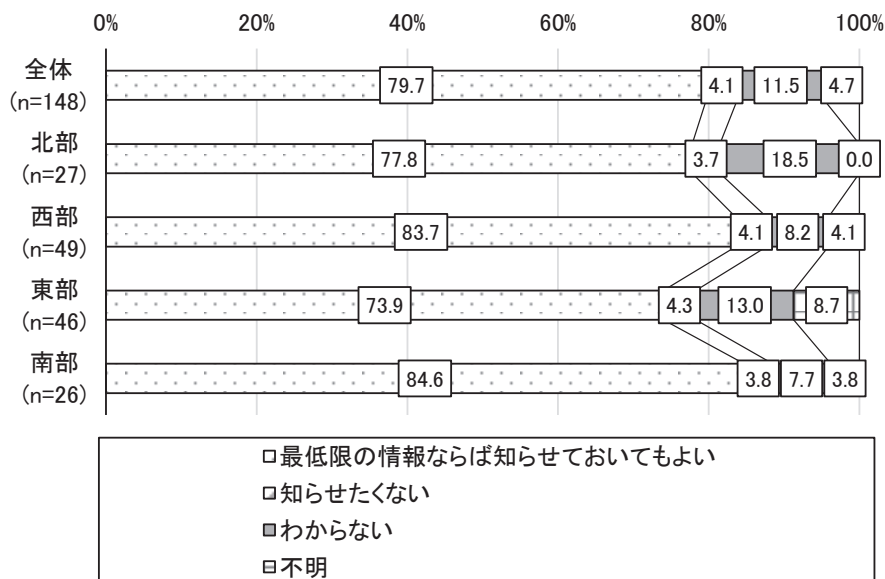
災害時避難・救助のための名簿作成への参加意向をみると、「最低限の情報ならば知らせておいてもよい」が79.7%で最も多く、次いで「わからない」が11.5%、「知らせたくない」が4.1%となっている。

図表 181 災害時避難・救助のための名簿作成への参加意向



居住地区別にみると、「最低限の情報ならば知らせておいてもよい」は「南部(84.6%)」、「知らせたくない」は「東部(4.3%)」、「わからない」は「北部(18.5%)」が最も多くなっている。

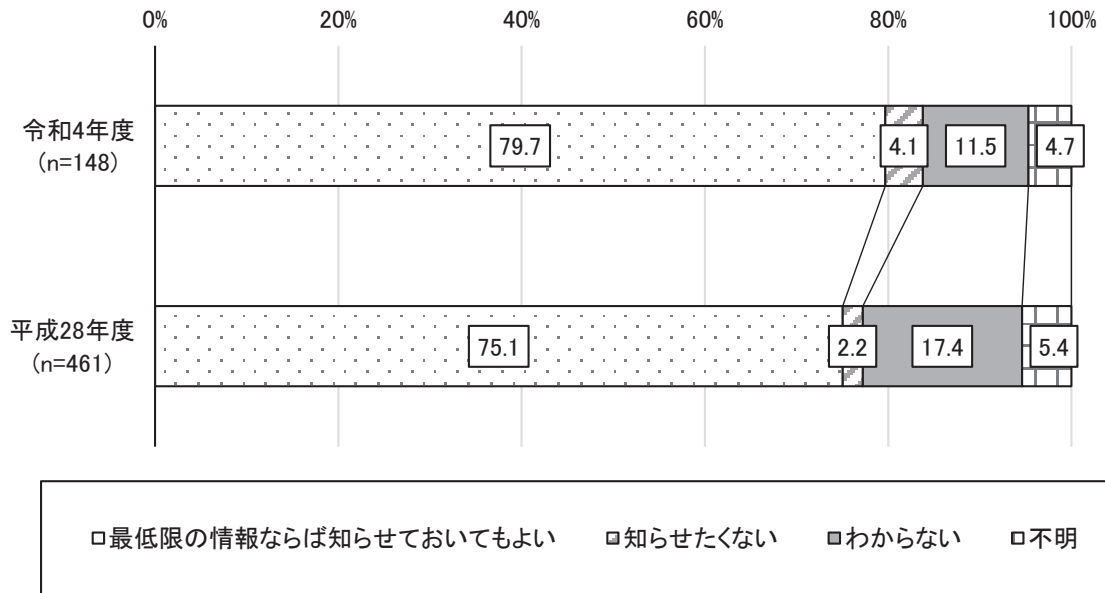
図表 182 災害時避難・救助のための名簿作成への参加意向(居住地区別)



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

経年でみると、平成 28 年度の調査と比べて、「最低限の情報ならば知らせておいてもよい」が増加している。

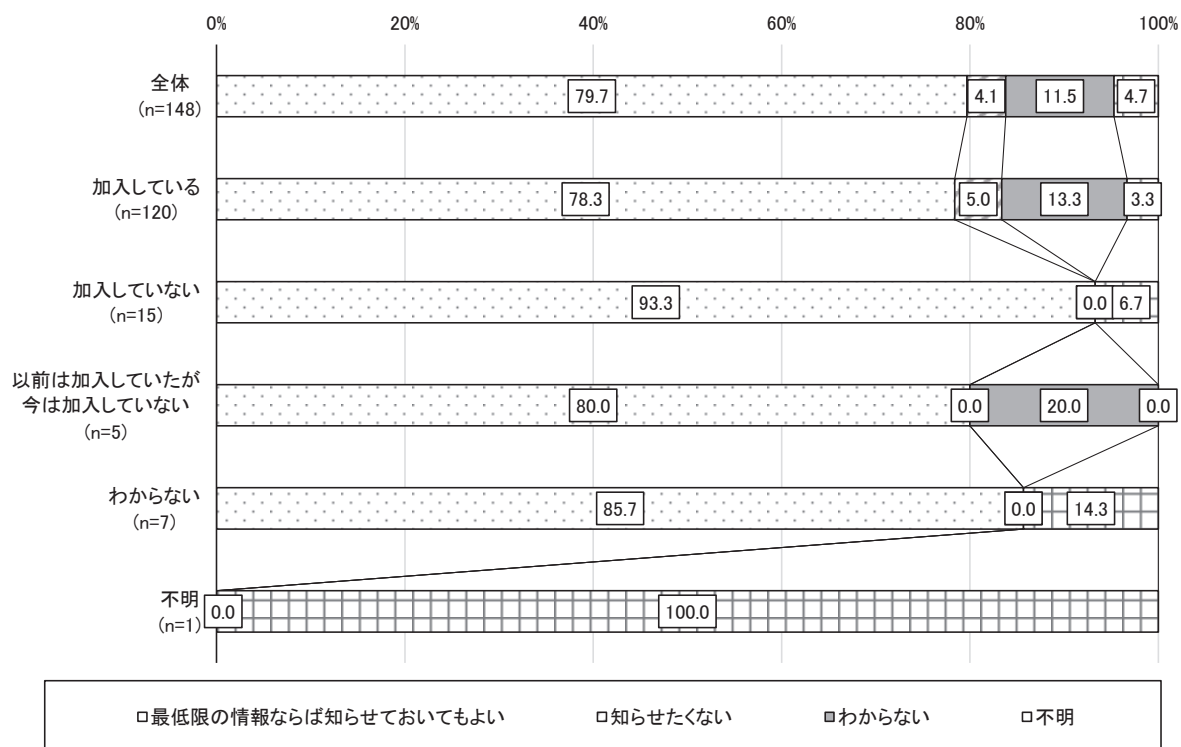
図表 183 災害時避難・救助のための名簿作成への参加意向（経年比較）



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

自治会の加入状況別にみると、「最低限の情報ならば知らせておいても良い」は「加入していない（93.3%）」、「知らせたくない」は「加入している（5.0%）」、「わからない」は「以前は加入していたが今は加入していない（20.0%）」が最も多くなっている。

図表 184災害時避難・救助のための名簿作成への参加意向（自治会の加入状況別）

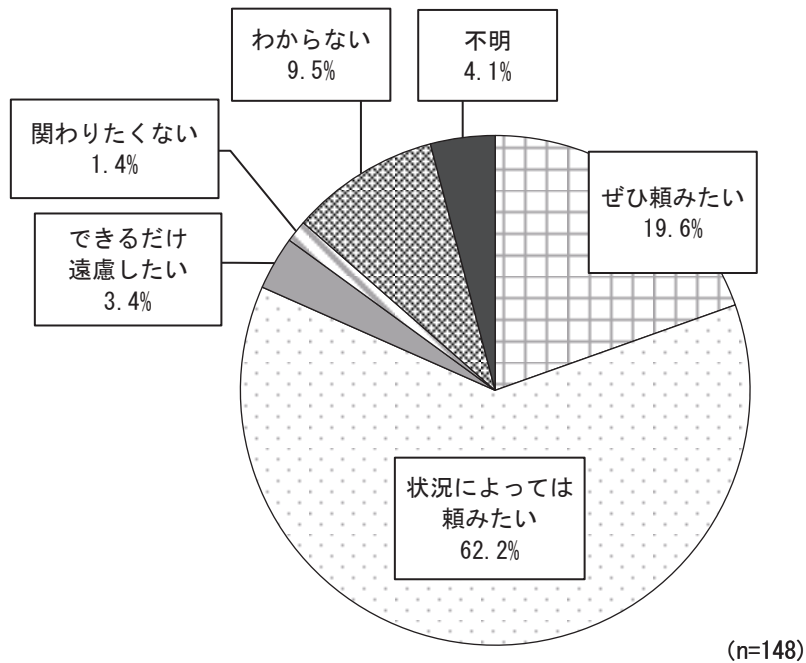


③ 災害時や日常生活に支障がある際の声かけや簡単な援助の依頼意向

問35 住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、災害時だけでなく、日頃からの身近な地域での助け合いが大切だと言われています。災害のときや日常生活に支障があるときに、自治(町)会などによる声かけや簡単な援助をしてもらうことについてどう思いますか。(〇は1つだけ)

災害時や日常生活に支障がある際の声かけや簡単な援助の依頼意向をみると、「状況によっては頼みたい」が62.2%で最も多く、次いで「ぜひ頼みたい」が19.6%、「できるだけ遠慮したい」が3.4%となっている。

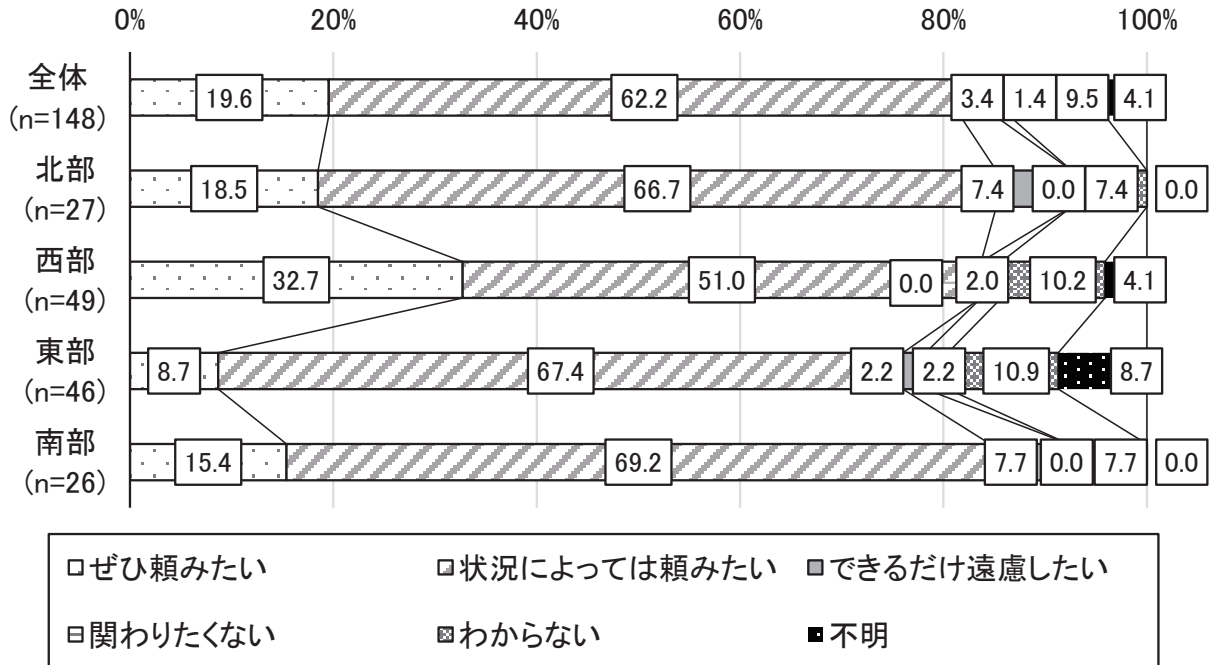
図表 185 災害時や日常生活に支障がある際の声かけや簡単な援助の依頼意向



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

居住地区別にみると、「ぜひ頼みたい」は「西部(32.7%)」、「状況によっては頼みたい」は「南部(69.2%)」、「できるだけ遠慮したい」は「南部(7.7%)」が最も多くなっている。

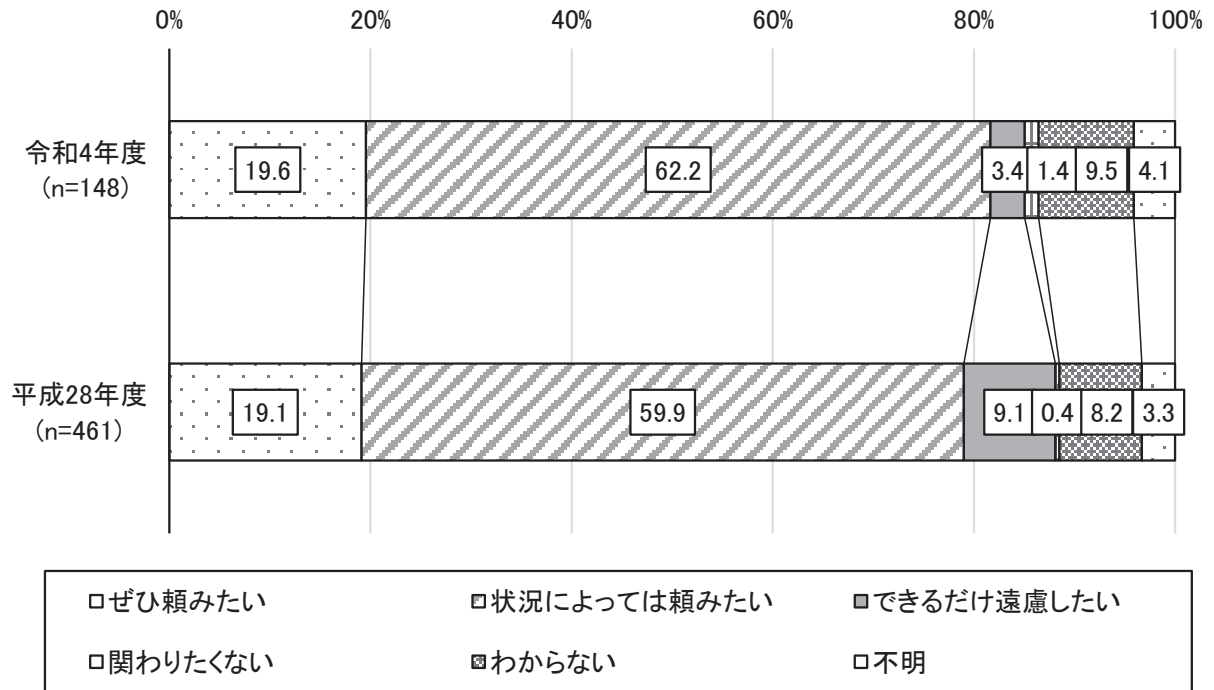
図表 186 災害時や日常生活に支障がある際の声かけや簡単な援助の依頼意向(居住地区別)



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

経年でみると、「ぜひ頼みたい」、「状況によっては頼みたい」は増加し、「できるだけ遠慮したい」は減少している。

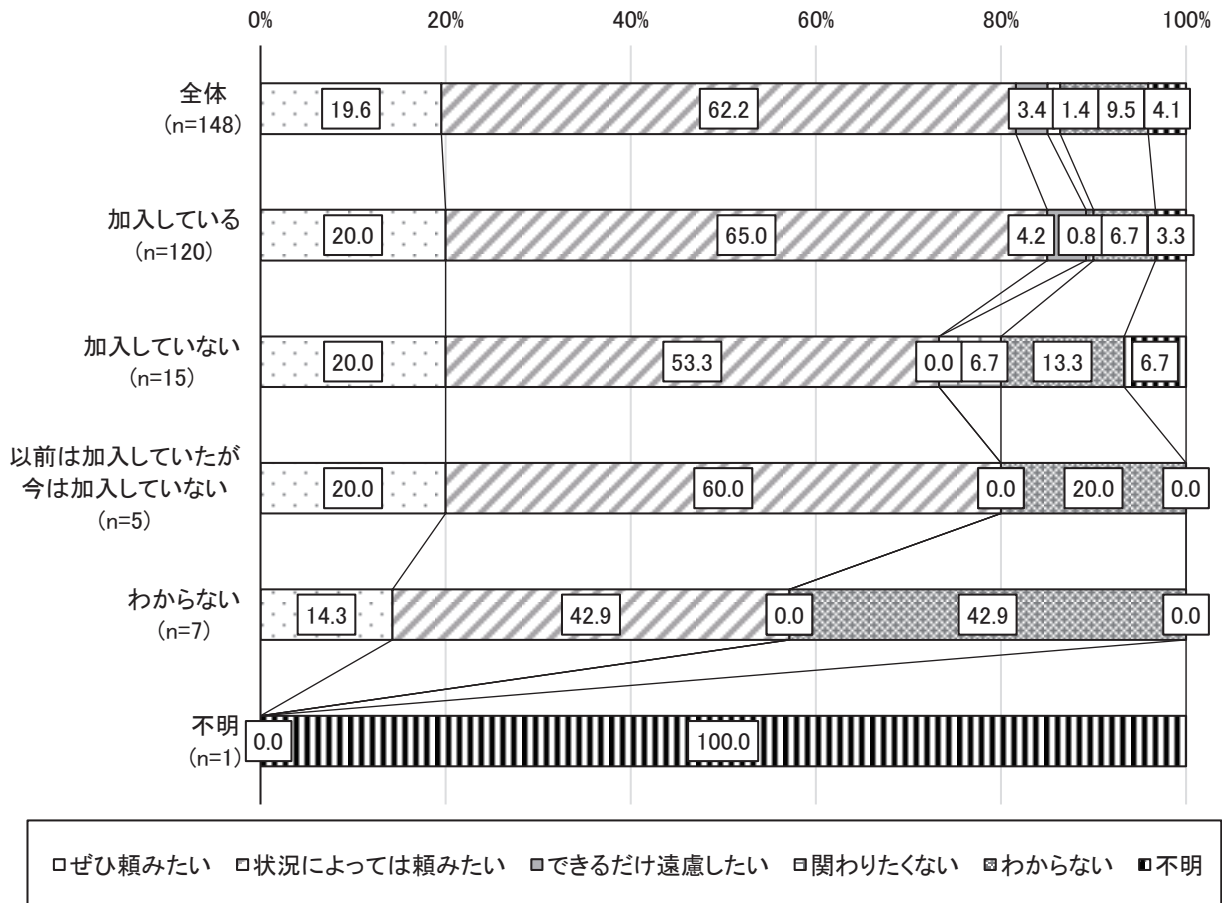
図表 187 災害時や日常生活に支障がある際の声かけや簡単な援助の依頼意向（経年比較）



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

自治会の加入状況別にみると、「状況によっては頼みたい」は「加入している(65.0%)」、「ぜひ頼みたい」は「加入している」、「加入していない」、「以前は加入していたが今は加入していない」が20.0%、「できるだけ遠慮したい」は「加入している(4.2%)」で最も多くなっている。

図表 188 災害時や日常生活に支障がある際の声かけや簡単な援助の依頼意向
(自治会の加入状況別)



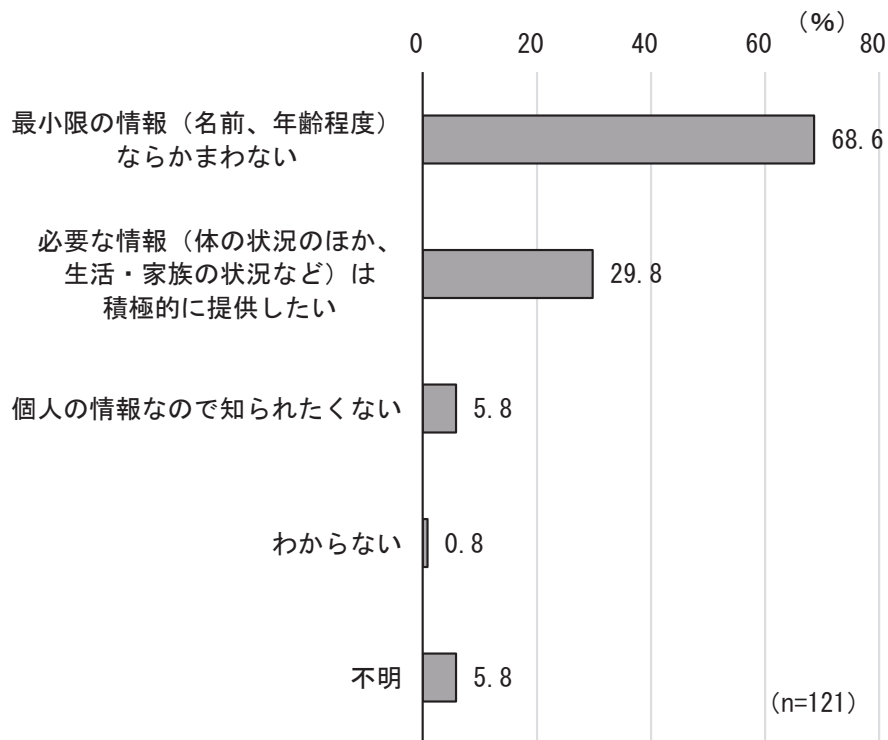
③ 避難行動要支援者名簿作成に関する意識

問35で「1. ぜひ頼みたい」、「2. 状況によっては頼みたい」と回答した方にお聞きします。

問36 あなたの名前や年齢、お体の状況、ご家族の有無など個人の情報が自治(町)会などに知られることについてはどのように思いますか。(あてはまるものすべてに○)

避難行動要支援者名簿作成に関する意識をみると、「最小限の情報(名前、年齢程度)ならかまわない」が68.6%で最も多く、次いで「必要な情報(体の状況のほか、生活・家族の状況など)は積極的に提供したい」が29.8%、「個人の情報なので知られたくない」が5.8%となっている。

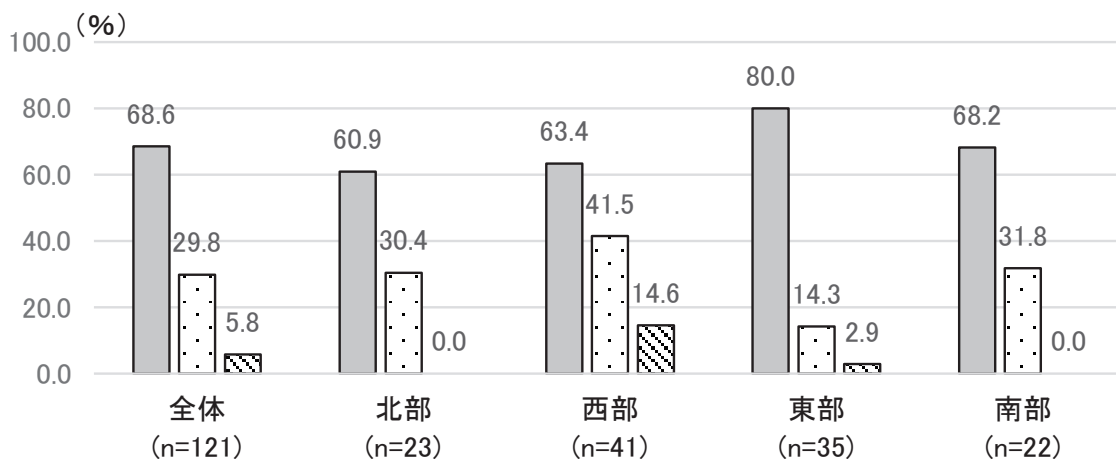
図表 189 避難行動要支援者名簿作成に関する意識



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

居住地区別にみると、「最小限の情報(名前、年齢程度)ならかまわない」は「東部(80.0%)」、「必要な情報(体の状況のほか、生活・家族の状況など)は積極的に提供したい」は「西部(41.5%)」、「個人の情報なので知られたくない」は「西部(14.6%)」が最も多くなっている。

図表 190 避難行動要支援者名簿作成に関する意識(居住地区別)

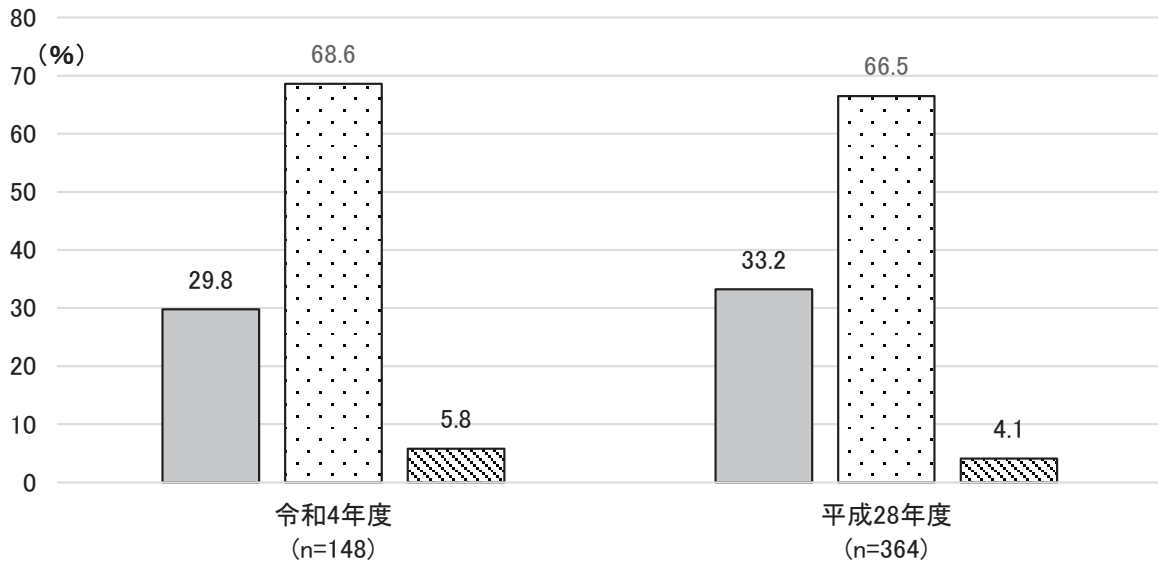


- 最小限の情報(名前、年齢程度)ならかまわない
- 必要な情報(体の状況のほか、生活・家族の状況など)は積極的に提供したい
- ▣ 個人の情報なので知られたくない

4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

経年でみると、「最小限の情報(名前、年齢程度)ならかまわない」、「個人の情報なので知られたくない」は微増している。

図表 191 避難行動要支援者名簿作成に関する意識(経年比較)



- 必要な情報(体の状況のほか、生活・家族の状況など)は積極的に提供したい
- 最小限の情報(名前、年齢程度)ならかまわない
- ▣ 個人の情報なので知られたくない

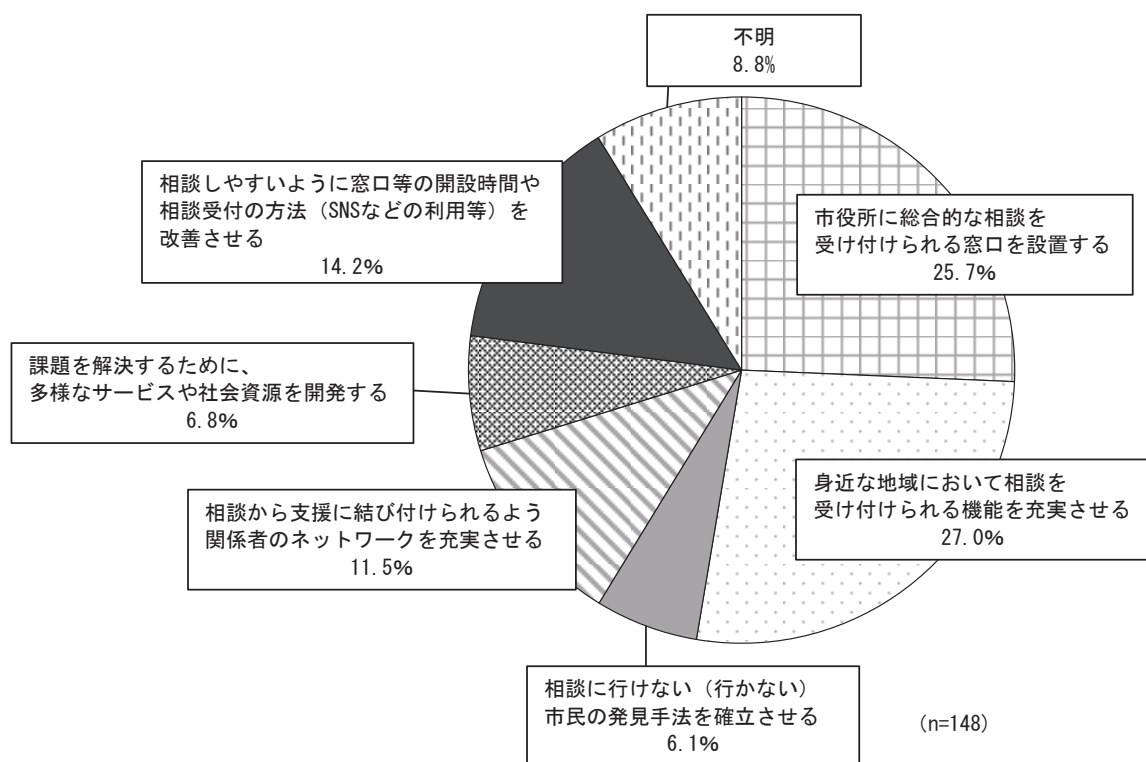
4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

③ 地域共生社会に向け市が力を入れて取り組むべきこと

問37 「地域共生社会」では、多様な生活課題に法制度の枠組みを超えて、横断的に対応する相談支援体制が求められますが、市川市ではこうした包括的な相談支援の仕組みを充実していくうえで、特に優先的に力を入れて取り組むべきことはどのようなことだと思いますか。（〇は1つだけ）

地域共生社会に向け市が力を入れて取り組むべきことをみると、「身近な地域において相談を受け付けられる機能を充実させる」が27.0%で最も多く、次いで「市役所に総合的な相談を受け付けられる窓口を設置する」が25.7%、「相談しやすいように窓口等の開設時間や相談受付の方法（SNSなどの利用等）を改善させる」が14.2%となっている。

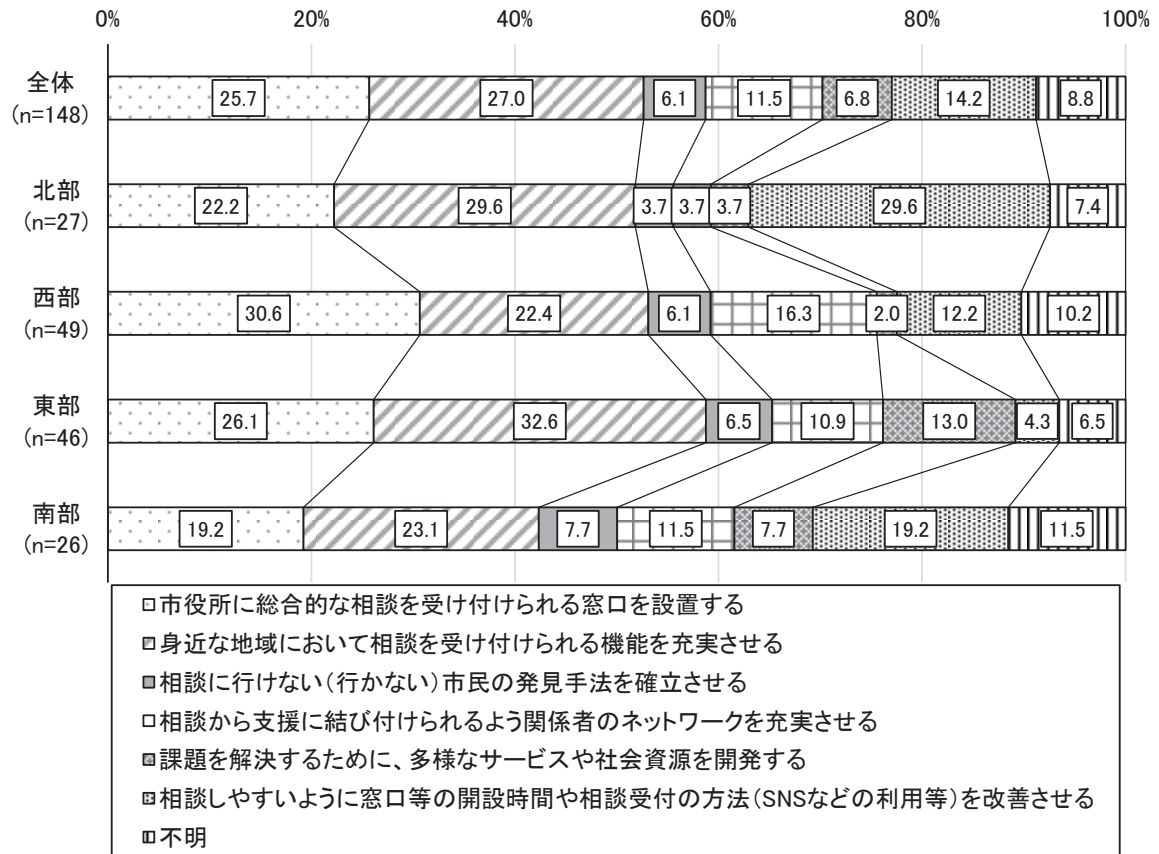
図表 192 地域共生社会に向け市が力を入れて取り組むべきこと



4.調査結果の詳細／市民（紙回答）

居住地区別にみると、「市役所に総合的な相談を受け付けられる窓口を設置する」は「西部（30.6%）」、「身近な地域において相談を受け付けられる機能を充実させる」は「東部（32.6%）」、「相談に行けない（行かない）市民の発見手法を確立させる」は「南部（7.7%）」が最も多くなっている。

図表 193 地域共生社会に向け市が力を入れて取り組むべきこと(居住地区別)



5. 調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人

① 団体名

問1 貴団体名をお書きください。

NPO 法人 日本和運動開発協会、特定非営利活動法人 タンポポ、ナルク市川生きがづくりの会、特定非営利活動法人 自立支援推進機構、NPO 法人 市民後見センターちば、NPO 市川子ども文化ステーション中央地区、バディーズ（国際交流ボランティアグループ）、特定非営利活動法人 ココ COKOR ねっと、特定非営利活動法人 日本心療内科学会、日本-ボリビア医療友好協会、アクティブシニア市川、のぼらの会、まつぼっくりの会、市川市ユースホステル協会、東葛市川福祉会、点訳ビーアイ（丸山公子）、南行徳ヒューマンサークル、特定非営利活動法人 アート・空の会、健楽道、NPO 法人 LDDyslexia センター、なのはな奉仕会、健康都市活動支援機構、心のふいれあいボランティア「フレンズ」、ねこ藩、みんなのサンタ、特定非営利活動法人 郷の会 オリーブの家、特定非営利活動法人 アジア教育開発研究所、特定非営利活動法人 ホップ、手話サークル 汐風、認定 NPO 法人 市川市ユネスコ協会、特定非営利活動法人 生活困窮・ホームレス自立支援 ガンバの会、ウエスタン・マジッククラブ市川、子育てサポーター アンティ・マミー、NPO 法人 G2プロジェクト、食ボランティア かすみ草、NPO 法人 ダイバーシティ工房、いちかわ市民文化ネットワーク、特定非営利活動法人 Re-Linkie、特定非営利活動法人 コミュニティやすらぎ、特定非営利活動法人 市川ことばの会、市川子ども文化ステーション 北地区、行徳芝桜の会、キルト・ビー、鼓由、NPO 法人 子育て・教育支援センターピア、プラスムジークシュベルマー、スマイル、市川 BBS の会、特定非営利活動法人いちかわ子育てネットワーク、NPO 法人 歌のボランティア・いちかわシャンテ、NPO 法人 市川子どもの外遊びの会、市川にオオムラサキを生息させる会、アンサンブル市川、特定非営利活動法人チアイースト、特定非営利活動法人地域精神保健福祉機構、特定非営利活動法人警察犬災害救助犬育成支援団体、傾聴ボランティアサークル「うさぎの耳」、NPO 法人 Village、特定非営利活動法人ほっとハート、特定非営利活動法人キャリアサポートネットワーク

(順不同)

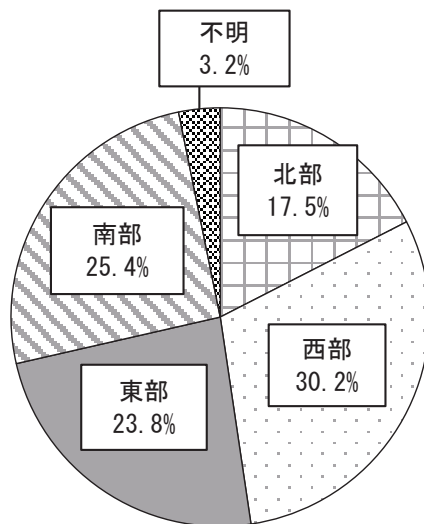
5.調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人

② 所在地区

問2 貴団体の所在地はどこですか。(〇は1つだけ)

所在地区をみると、「西部」が30.2%で最も多く、次いで「南部」が25.4%、「東部」が23.8%、「北部」が17.5%となっている。

図表 194 所在地区(地域別)



(n=63)

図表 195 所在地区

(%)

北部				西部				
国分	曾谷	大柏	宮久保 ・下貝塚	国府台	市川第1	市川第2	真間	菅野 ・須和田
11.1	1.6	3.2	1.6	1.6	12.7	11.1	0.0	4.8

東部			南部		
八幡	市川 東部	信篤 ・二俣	行徳	南行徳 第1	南行徳 第2
11.1	12.7	0.0	9.5	9.5	6.3

図表 196 地区の町丁

地区	地区の町丁
1. 国府台地区	国府台
2. 国分地区	国分、中国分、北国分、東国分、稲越、堀之内
3. 曾谷地区	曾谷
4. 大柏地区	大町、大野町、南大野、柏井町、奉免町
5. 宮久保・下貝塚地区	宮久保、下貝塚
6. 市川第1地区	市川、市川南(3・4丁目)、真間(1丁目)
7. 市川第2地区	市川南(1・2・5丁目)、新田、平田、大洲、大和田、東大和田、稲荷木
8. 真間地区	真間(2～5丁目)
9. 菅野・須和田地区	菅野、東菅野、須和田
10. 八幡地区	八幡、南八幡
11. 市川東部地区	北方町、本北方、北方、若宮、中山、高石神、鬼越、鬼高
12. 信篤・二俣地区	田尻、高谷、原木、二俣、二俣新町、東浜、上妙典、高谷新町
13. 行徳地区	河原、下新宿、本行徳、関ヶ島、伊勢宿、本塩、妙典、下妙典、富浜、塩焼、末広、宝、幸、加藤新田、高浜町、千鳥町
14. 南行徳第1地区	押切、湊、湊新田、香取、欠真間、相之川、広尾、新井、南行徳、島尻
15. 南行徳第2地区	行徳駅前、入船、日之出、福栄、新浜、塩浜

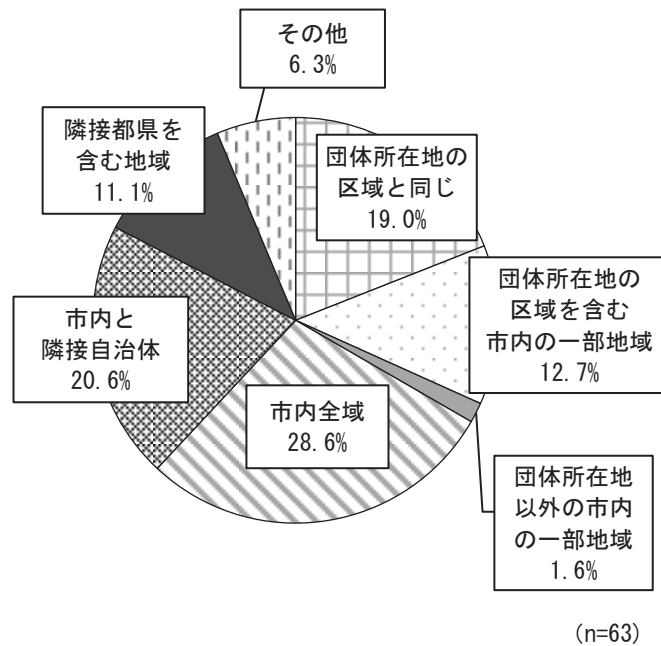
5.調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人

③ 活動区域

問3 貴団体の活動区域はどこですか。

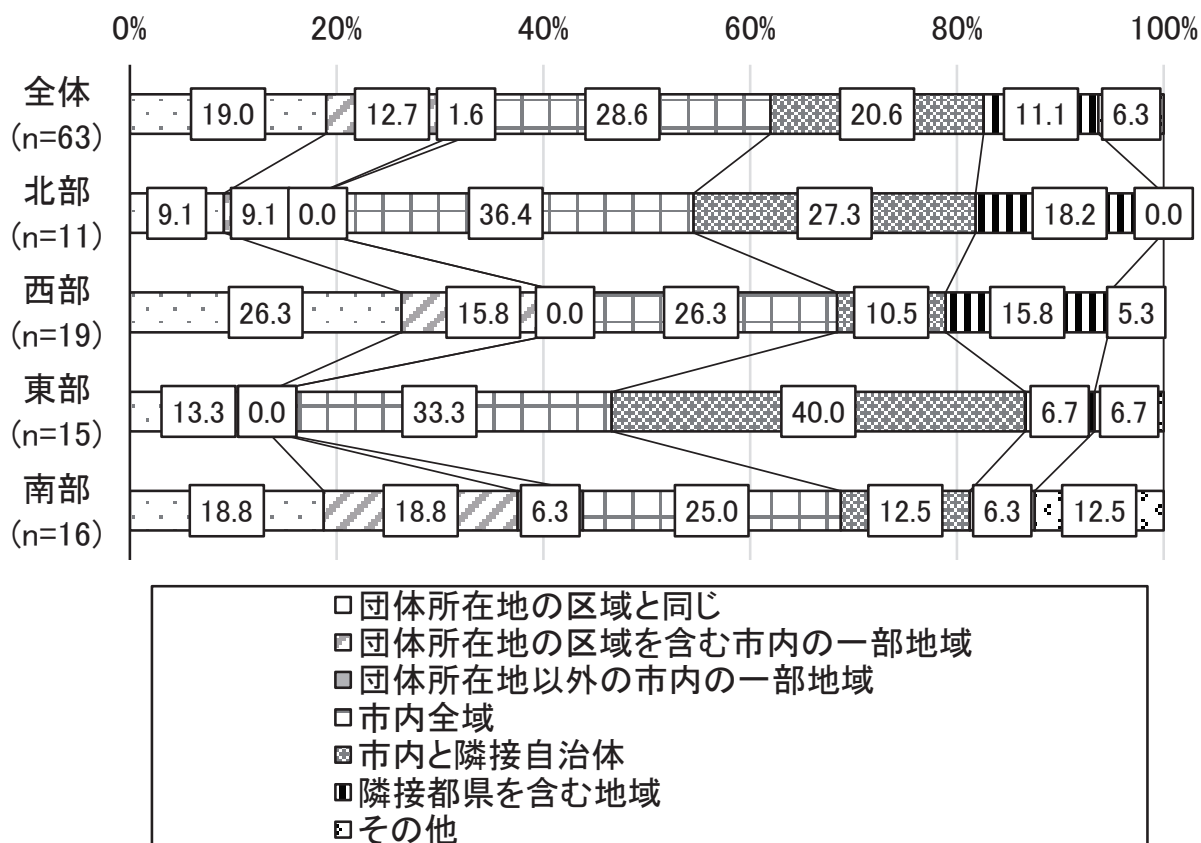
活動区域をみると、「市内全域」が 28.6%で最も多く、次いで「市内と隣接自治体」が 20.6%、「団体所在地の区域と同じ」が 19.0%となっている。

図表 197 活動区域



所在地別に見ると、「市内全域」は「北部(36.4%)」、「市内と隣接自治体」は「東部(40.0%)」、「団体所在地の区域と同じ」は「西部(26.3%)」が最も多くなっている。

図表 198 活動区域(所在地別)



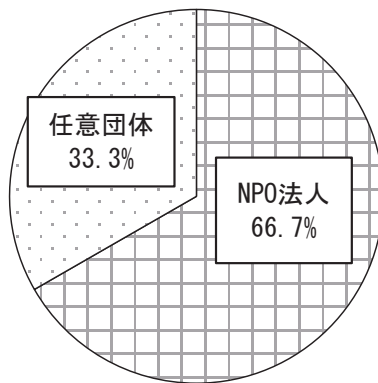
5.調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人

④ 団体の種類

問4 貴団体は次のどれにあたりますか。(○は1つだけ)

団体の種類をみると、「NPO 法人」が 66.7%、「任意団体」が 33.3%となっている。

図表 199 団体の種類

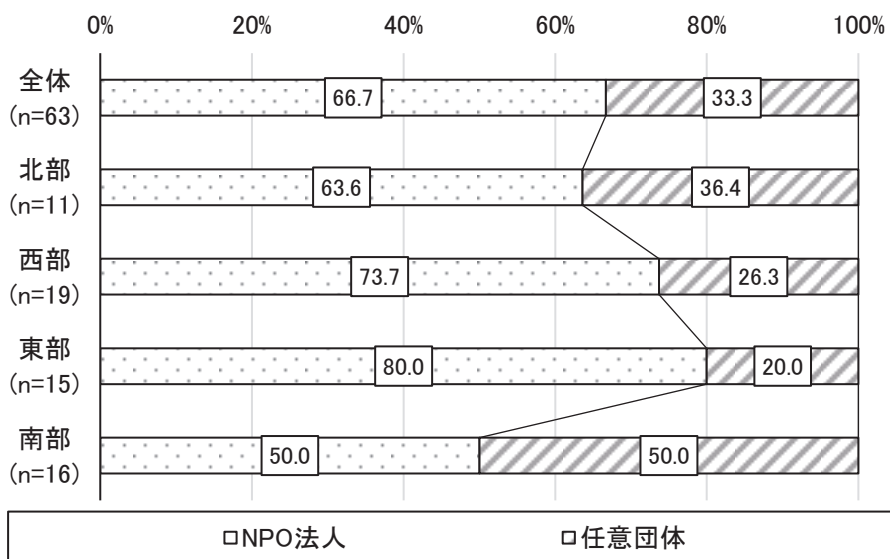


(n=63)

※「社団法人」、「財団法人」の回答者はなし

所在地別に見ると、「NPO 法人」は「東部(80.0%)」、「任意団体」は「南部(50.0%)」が最も多くなっている。

図表 200 団体の種類(所在地別)

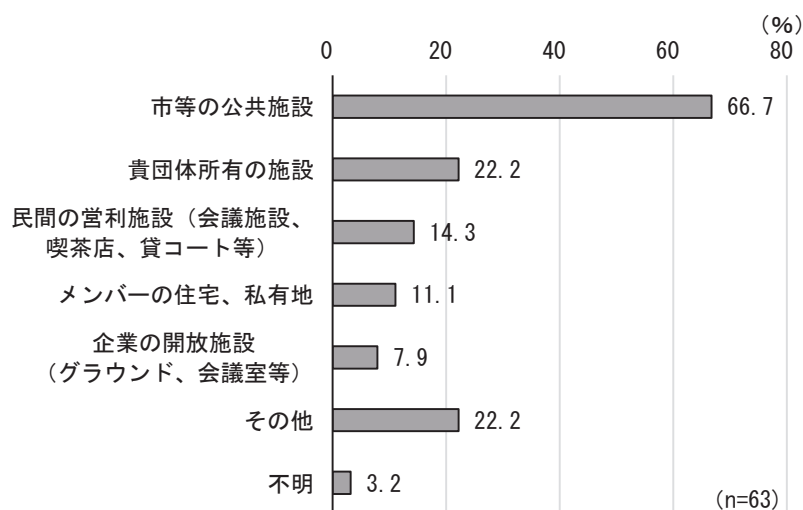


⑤ 活動の場

問5 貴団体の活動の場として、どのような施設を利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

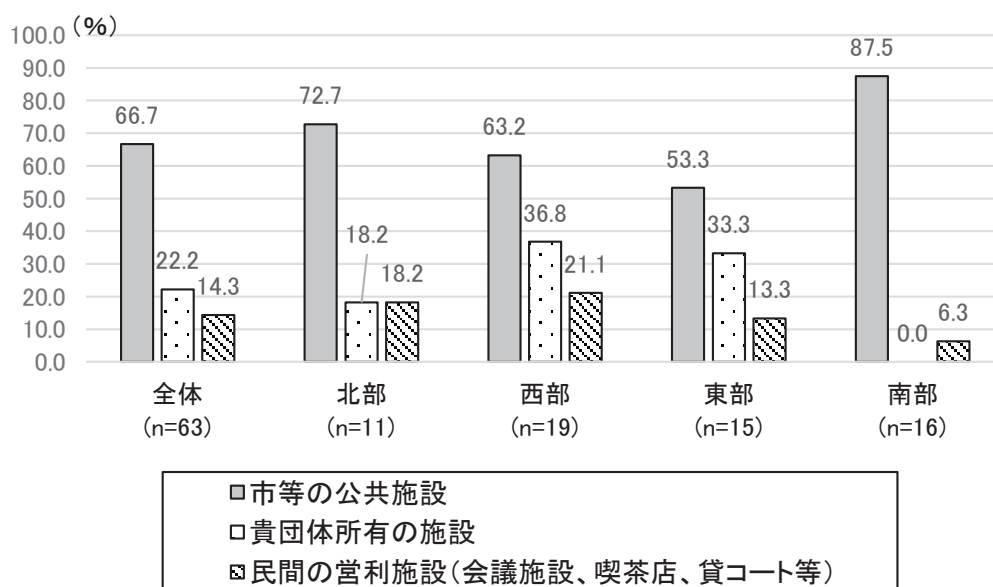
活動の場をみると、「市等の公共施設」が66.7%で最も多く、次いで「貴団体所有の施設」が22.2%、「民間の営利施設(会議施設、喫茶店、貸コート等)」が14.3%となっている。

図表 201 活動の場



所在地区別にみると、「市等の公共施設」は「南部(87.5%)」、「貴団体所有の施設」は「西部(36.8%)」、「民間の営利施設(会議施設、喫茶店、貸コート等)」は「西部(21.1%)」が最も多くなっている。

図表 202 活動の場(所在地区別)



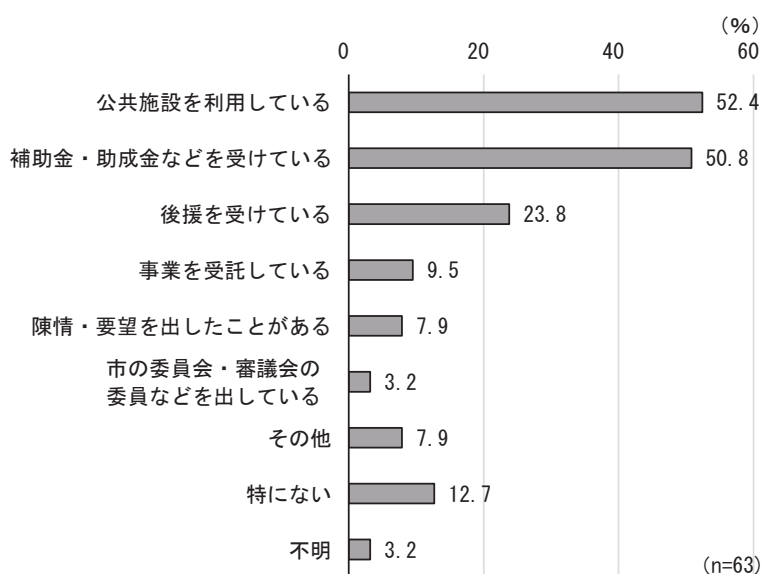
5.調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人

⑥ 団体と市との関係性

問6 貴団体は、活動上、市とどのような関係にありますか。(あてはまるものすべてに○)

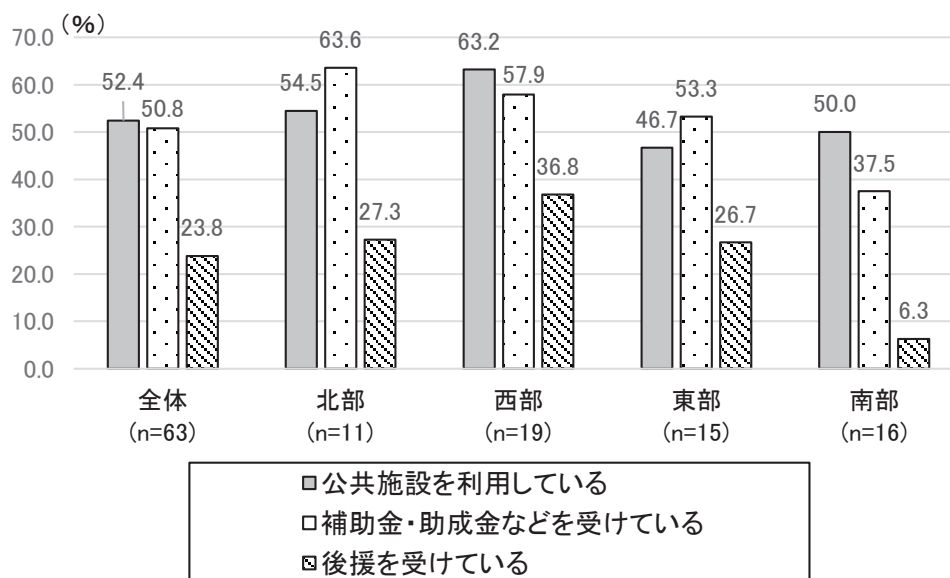
団体と市との関係性をみると、「公共施設を利用している」が52.4%で最も多く、次いで「補助金・助成金などを受けている」が50.8%、「後援を受けている」が23.8%となっている。

図表 203 団体と市との関係性



所在地区別にみると、「公共施設を利用している」は「西部(63.2%)」、「補助金・助成金などを受けている」は「北部(63.6%)」、「後援を受けている」は「西部(36.8%)」が最も多くなっている。

図表 204 団体と市との関係性(所在地区別)

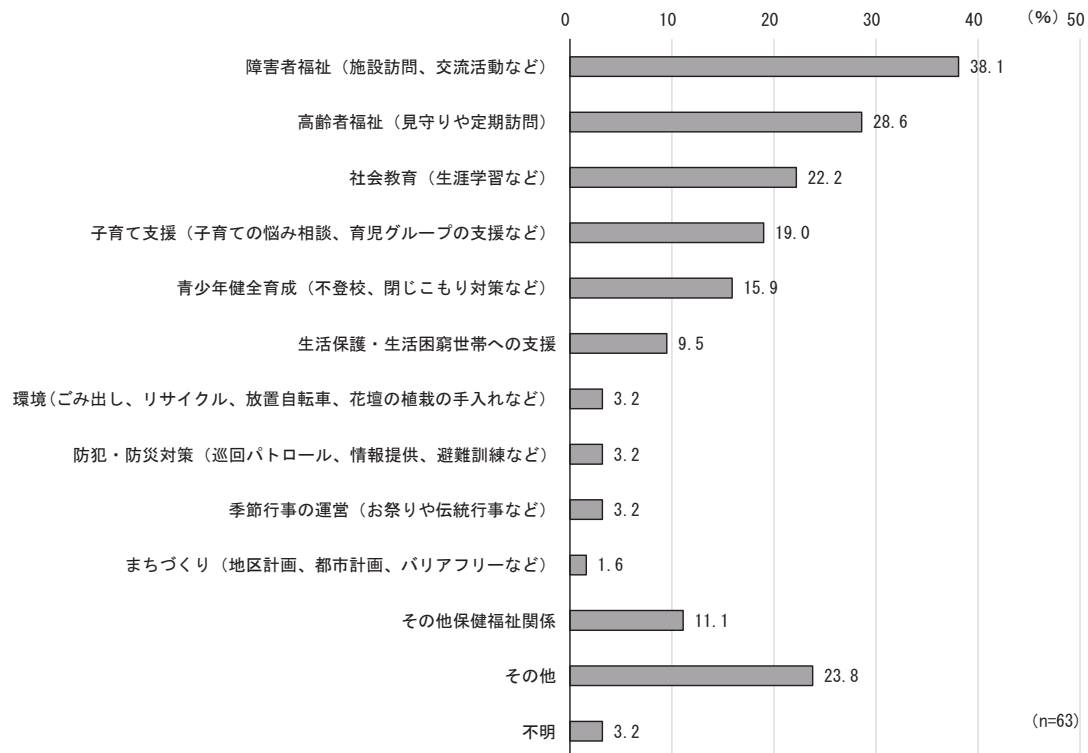


⑦ 取り組んでいる活動内容

問7 貴団体が取り組んでいる地域での福祉活動等は何分野ですか。(あてはまるものすべてに○)

取り組んでいる活動内容をみると、「障害者福祉(施設訪問、交流活動など)」が38.1%で最も多く、次いで「高齢者福祉(見守りや定期訪問)」が28.6%、「社会教育(生涯学習など)」が22.2%となっている。

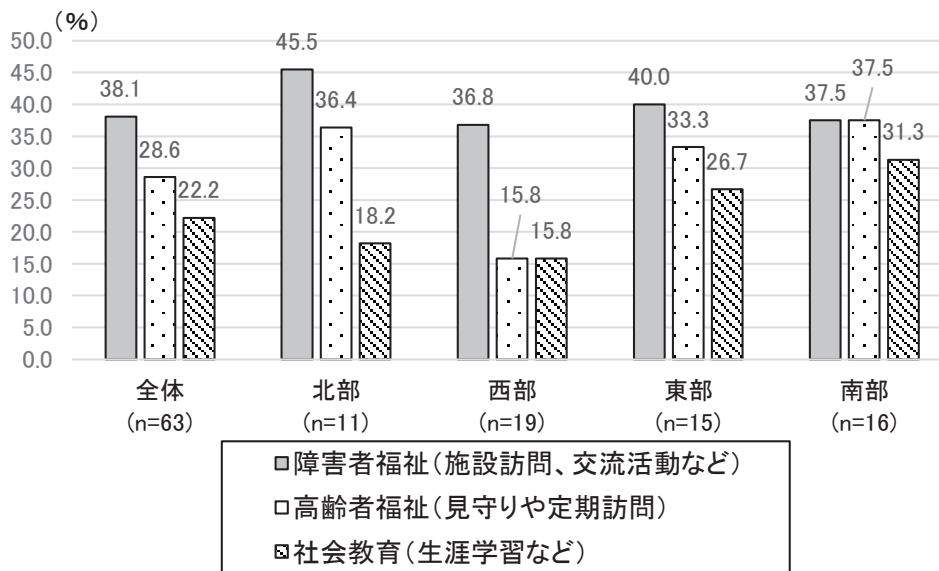
図表 205 取り組んでいる活動内容



5.調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人

所在地区別にみると、「障害者福祉(施設訪問、交流活動など)」は「北部(45.5%)」、「高齢者福祉(見守りや定期訪問)」は「南部(37.5%)」、「社会教育(生涯学習など)」は「南部(31.3%)」が最も多くなっている。

図表 206 取り組んでいる活動内容(所在地区別)

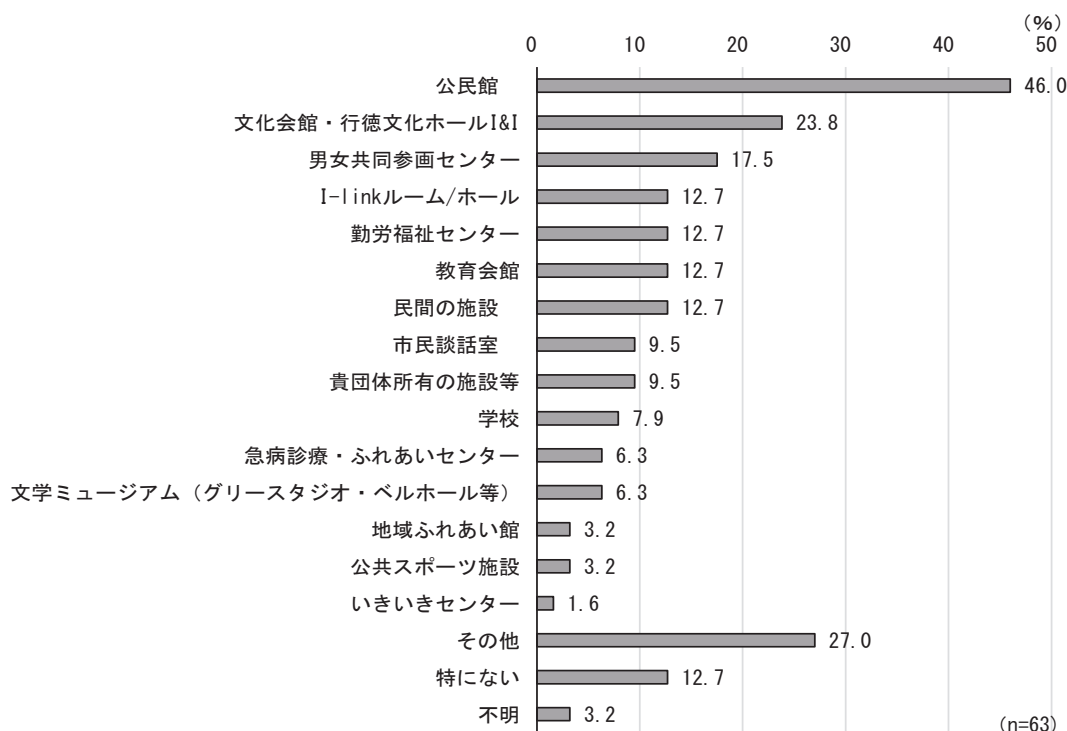


⑧ 講演会やイベント開催時の使用場所

問8 貴団体は、講演会やイベントなどを開催するとき、主にどのような場所を使用していますか。(あてはまるものすべてに○)

講演会やイベント開催時の使用場所をみると、「公民館」が46.0%で最も多く、次いで「文化会館・行徳文化ホール I&I」が23.8%、「男女共同参画センター」が17.5%となっている。

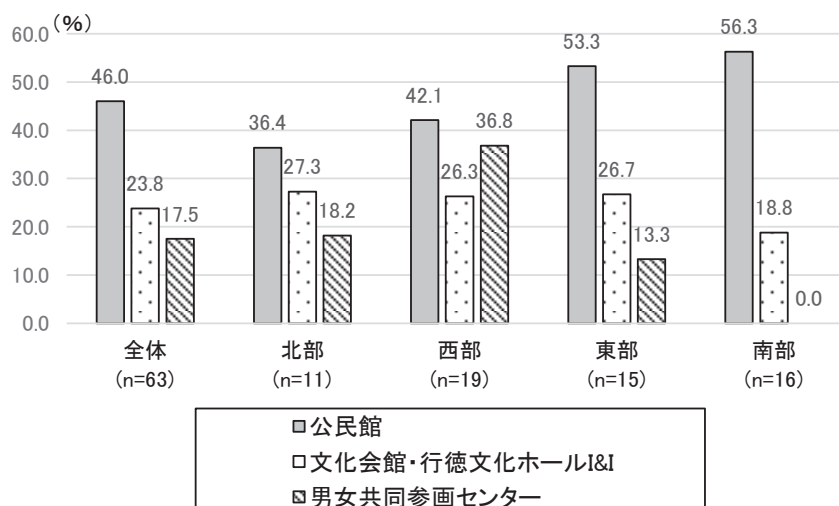
図表 207 講演会やイベント開催時の使用場所



※「文化施設(芳澤ガーデンギャラリー・木内ギャラリー等)」の回答者はなし

所在地別に見ると、「公民館」は「南部(56.3%)」、「文化会館・行徳文化ホール I&I」は「北部(27.3%)」、「男女共同参画センター」は「西部(36.8%)」が最も多くなっている。

図表 208 講演会やイベント開催時の使用場所(所在地別)



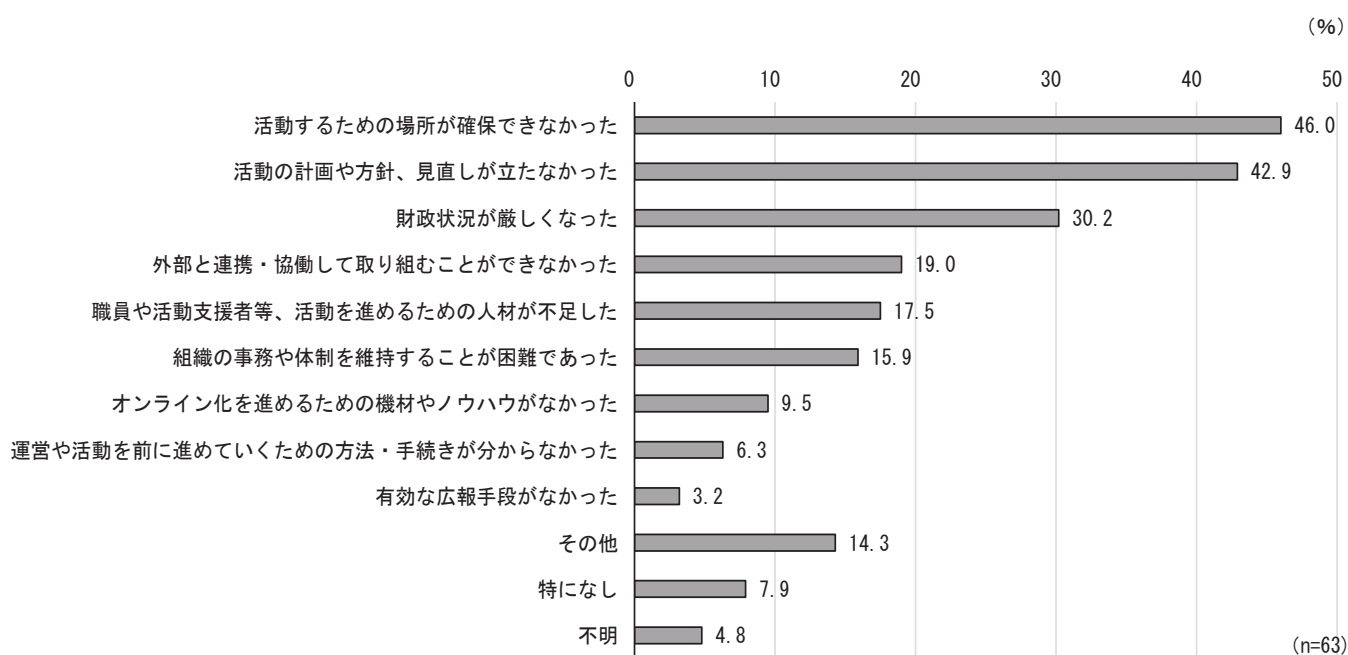
5.調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人

⑨ コロナ禍による困難や課題

問9 コロナ禍において、どのような困難や課題が生じたか。(あてはまるものすべてに○)

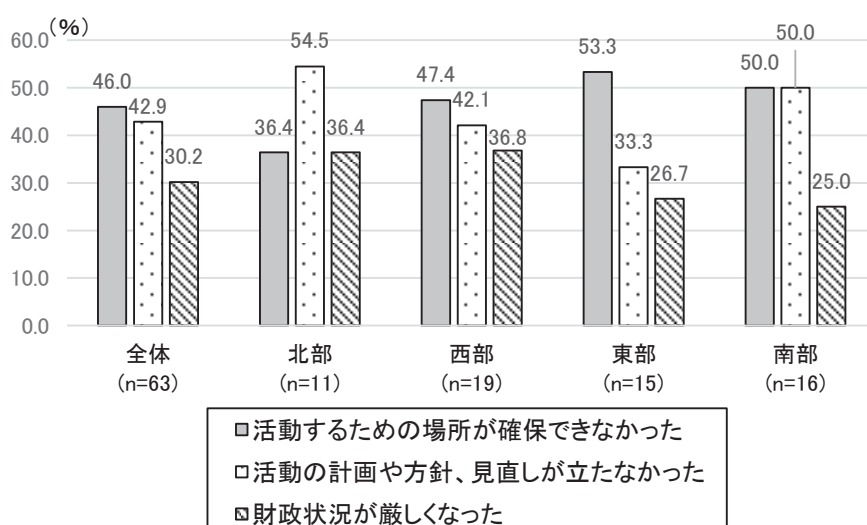
コロナ禍による困難や課題をみると、「活動するための場所が確保できなかった」が46.0%で最も多く、次いで「活動の計画や方針、見直しが立たなかった」が42.9%、「財政状況が厳しくなった」が30.2%となっている。

図表 209 コロナ禍による困難や課題



所在地区別にみると、「活動するための場所が確保できなかった」は「東部(53.3%)」、「活動の計画や方針、見直しが立たなかった」は「北部(54.5%)」、「財政状況が厳しくなった」は「西部(36.8%)」が最も多くなっている。

図表 210 コロナ禍による困難や課題(所在地区別)



⑩ コロナ禍での活動実施への工夫

問10 コロナ禍において実施した、会員（職員）を「集めて活動を行う工夫」や「集めずに活動を行う工夫」があれば具体的に教えてください。（自由記入）

コロナ禍において、会員（職員）を「集めて活動を行う工夫」や「集めずに活動を行う工夫」について意見を求めたところ、実際に行った取組みとしては34件の意見が寄せられた。意見については、一回答者が複数の意見を記入している場合は、それぞれを1件として件数に加えている。主な意見を掲載しているが、主旨を尊重しながら表現をまとめるとともに誤字などを修正している。

項目別に見ると、「オンライン（ZOOM、e-ラーニング等）を活用（18件）」が最も多く、次いで「感染対策をした上での活動実施（10件）」、「書面やDVD・電話等の活用（3件）」が続いた。

多かった意見	件数
(ア) オンライン（ZOOM、e-ラーニング等）を活用	18
(イ) 感染対策をした上での活動実施	10
(ウ) 書面やDVD・電話等の活用	3
(エ) その他	3
合計	34

(ア) オンライン（ZOOM、e-ラーニング等）を活用

主な意見
・ zoom によるミーティングや研修等。
・ zoom による会議、稽古。
・ zoom を活用。
・ zoom 会議、zoom 企画。
・ オンラインイベントの開催。
・ オンラインでの活動。
・ オンラインでの活動、休みにした。
・ オンラインを利用した。
・ オンライン会議。
・ スタッフ会議はオンラインで実施することにした。
・ 会員の中から有志でオンライン会合を試験的に行う取り組みが起こった。
・ 会議・研修のリモート参加、e-ラーニングの導入。
・ 会議はオンラインで行った。
・ 活動参加者を集めた方法→オンラインで活動を行い SNS で参加者を募った。高齢者施設に訪問していた活動をオンラインになる配信活動にシフトさせた。
・ 個別の学習支援ではオンライン授業の実施。職員間のコミュニケーションや会議でのzoom利用。

5.調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人

<ul style="list-style-type: none"> ・ 集めずに・・・zoomなどのオンライン会議をした。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 総会、理事会などzoomで行った。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 対面での活動を控えるため、オンライン会議、オンラインの学術大会、定期総会、メールを使用して会員へ配信など。

(イ) 感染対策をした上での活動実施

主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公園清掃なので他の人と離れて清掃をしていた為、2021年には再開していました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館で一番広い部屋を借り、ソーシャルディスタンスを確保できるようにした。活動内容を見直した(できる活動への内容変更)。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館を借り、コロナ対策をし会議を実施。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者入所施設での具体的な傾聴活動は面接できず休止せざるを得なかったが、月例の学習会は広い会議室が確保できた時は継続して実施した。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 集める:体調管理の徹底。換気等、会場設営に注意。参加者の感染拡大防止への意識向上。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数での開所や、室内では人の間にアクリル板を置き活動する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍の外出制限の中で生じたストレスを発散するため体制に気を付けながら、調理教育等を開催して交流をはかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館が使用可能な時は出来るだけマジック研究会を実施。発表の機会がないためモチベーションに難あり。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 短時間労働にした。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 集めて・・・人数を少なく。

(ウ) 書面や DVD・電話等の活用

主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問活動と同内容を収録し、DVDを作成(会員を集めて活動)、訪問の代替として施設等に配付(集めずに活動)した。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 総会を行わず資料を郵送して書面決済。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 電話で声かけ(会員が高齢なため)。

(エ) その他

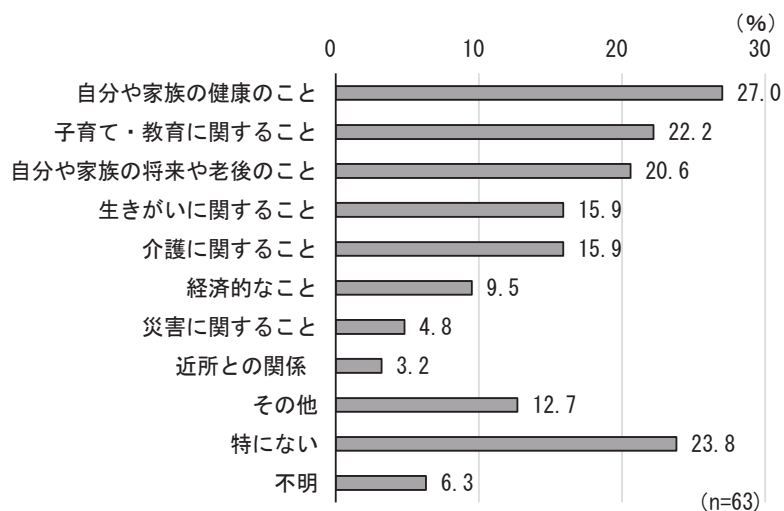
主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナがおさまり自由に活動出来るようになるまで全ての活動を中止した。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の内容や目的上、会員が集まらなると活動できないため、活動自体出来なかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政は処罰を先に思考し建設的では無いため、指導や処罰ではなく「どうしたら成功するか」の観点で肯定的且つ建設的な発想を持って対応して欲しい。

⑪ 地域住民からの相談内容

問11 貴団体では、地域の住民の方から、どのような内容の相談を受けたことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

地域住民からの相談内容をみると「自分や家族の健康のこと」が27.0%で最も多く、次いで「子育て・教育に関すること」が22.2%、「自分や家族の将来や老後のこと」が20.6%となっている。

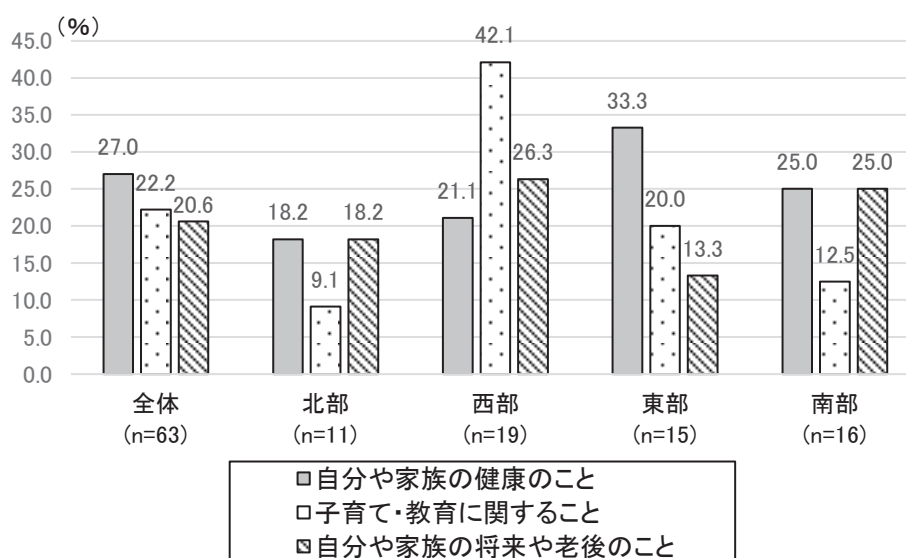
図表 211 地域住民からの相談内容



※「地域の治安に関すること」の回答者はなし

所在地別に見ると、「自分や家族の健康のこと」は「東部(33.3%)」、「子育て・教育に関すること」は「西部(42.1%)」、「自分や家族の将来や老後のこと」は「西部(26.3%)」が最も多くなっている。

図表 212 地域住民からの相談内容(所在地別)



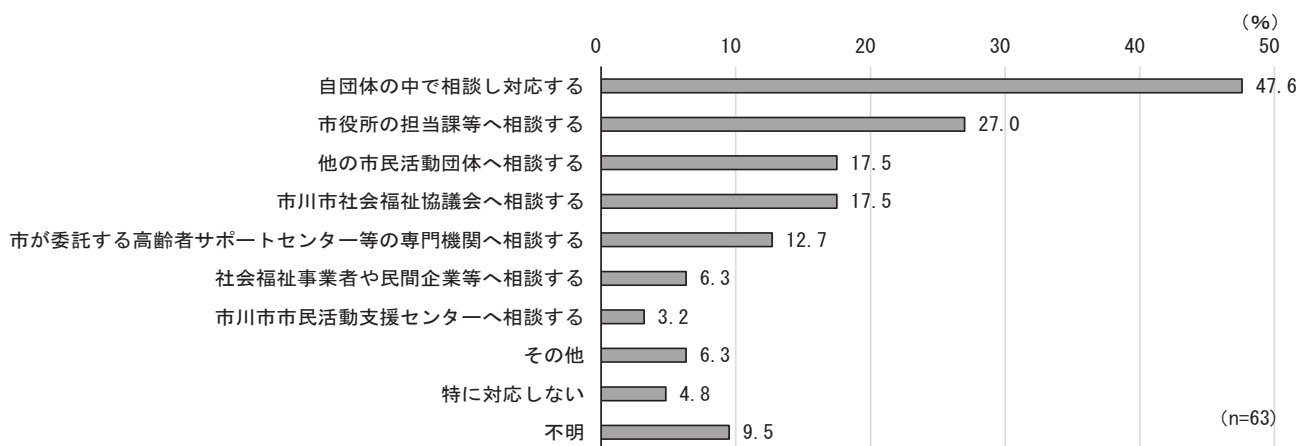
5.調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人

⑫ 相談を受けた場合の対応

問12 コロナ禍に限らず、関わる地域や対象者等から相談を受けた場合、どのように対応していますか。(あてはまるものすべてに○)

相談を受けた場合の対応をみると、「自団体の中で相談し対応する」が47.6%で最も多く、次いで「市役所の担当課等へ相談する」が27.0%、「他の市民活動団体へ相談する」、「市川市社会福祉協議会へ相談する」が17.5%となっている。

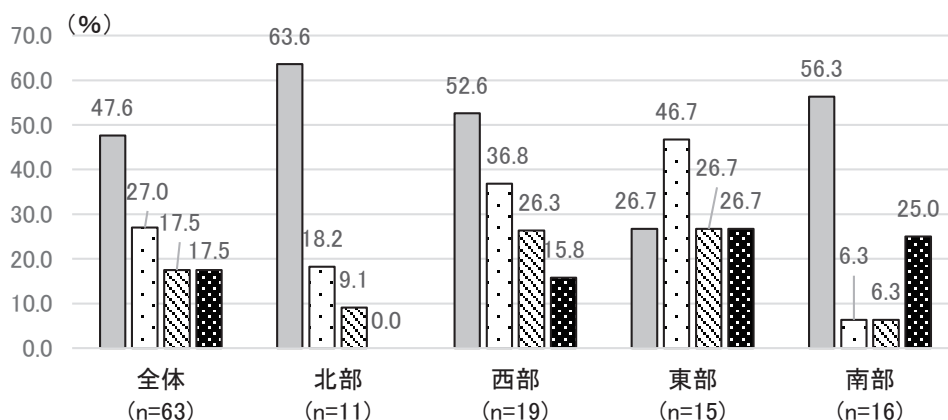
図表 213 相談を受けた場合の対応



※「地区社会福祉協議会へ相談する」の回答者はなし

所在地区別にみると、「自団体の中で相談し対応する」は「北部(63.6%)」、「市役所の担当課等へ相談する」は「東部(46.7%)」、「他の市民活動団体へ相談する」、「市川市社会福祉協議会へ相談する」は「東部(26.7%)」が最も多くなっている。

図表 214 相談を受けた場合の対応(所在地区別)



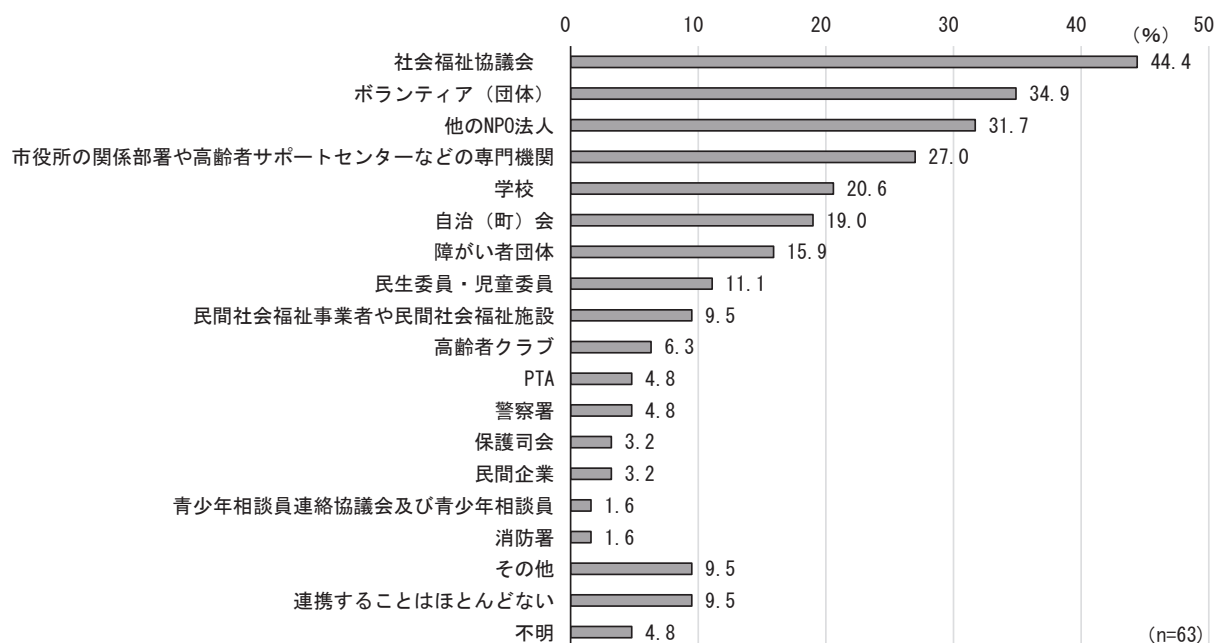
- 自団体の中で相談し対応する
- 市役所の担当課等へ相談する
- ▨ 他の市民活動団体へ相談する
- 市川市社会福祉協議会へ相談する

⑬ 地域での活動等の際の連携団体

問13 貴団体では、地域での活動等の際に、どのような団体と連携して活動されていますか。(あてはまるものすべてに○)

地域での活動等の際の連携団体をみると、「社会福祉協議会」が44.4%で最も多く、次いで「ボランティア(団体)」が34.9%、「他のNPO法人」が31.7%となっている。

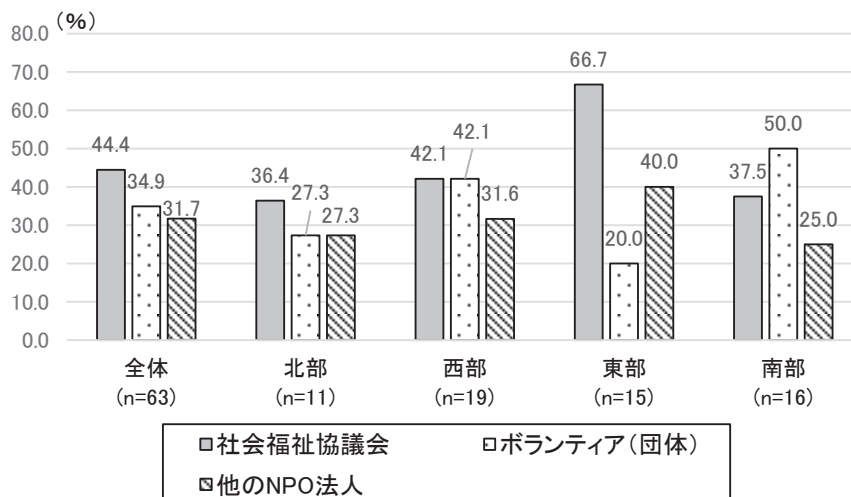
図表 215 地域での活動等の際の連携団体



※「商店会」の回答者はなし

所在地区別にみると、「社会福祉協議会」は「東部(66.7%)」、「ボランティア(団体)」は「南部(50.0%)」、「他のNPO法人」は「東部(40.0%)」が最も多くなっている。

図表 216 地域での活動等の際の連携団体(所在地区別)



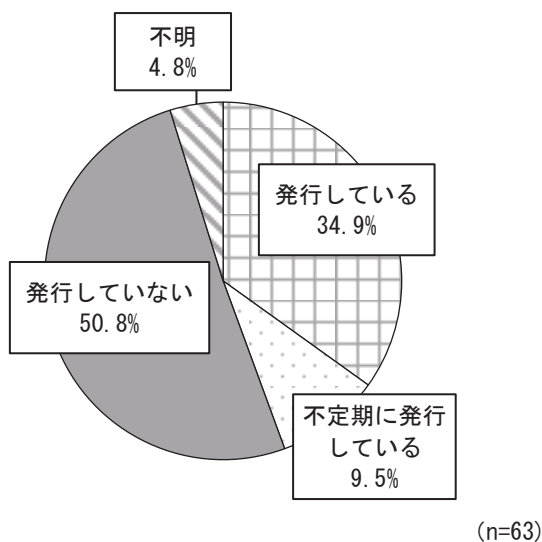
5.調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人

⑭ 機関誌（紙）・会報の発行状況

問14 貴団体は、機関誌（紙）または会報などを発行していますか。（○は1つだけ）

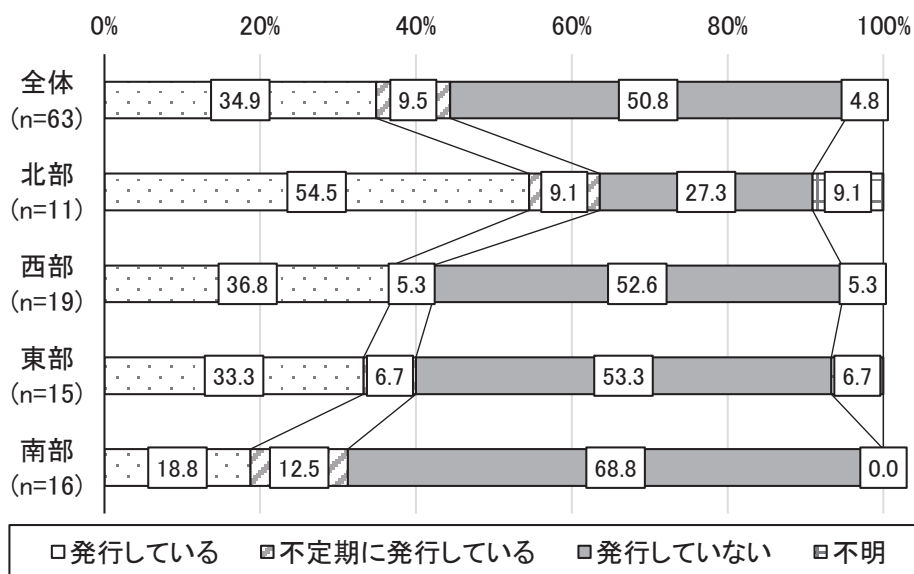
機関誌（紙）・会報の発行状況を見ると、「発行している」が 34.9%、「不定期に発行している」が 9.5%、「発行していない」が 50.8%となっている。

図表 217 機関誌（紙）・会報の発行状況



所在地別に見ると、「発行している」は「北部(54.5%)」、「不定期に発行している」は「南部(12.5%)」、「発行していない」は「南部(68.8%)」が最も多くなっている。

図表 218 機関誌（紙）・会報の発行状況（所在地別）

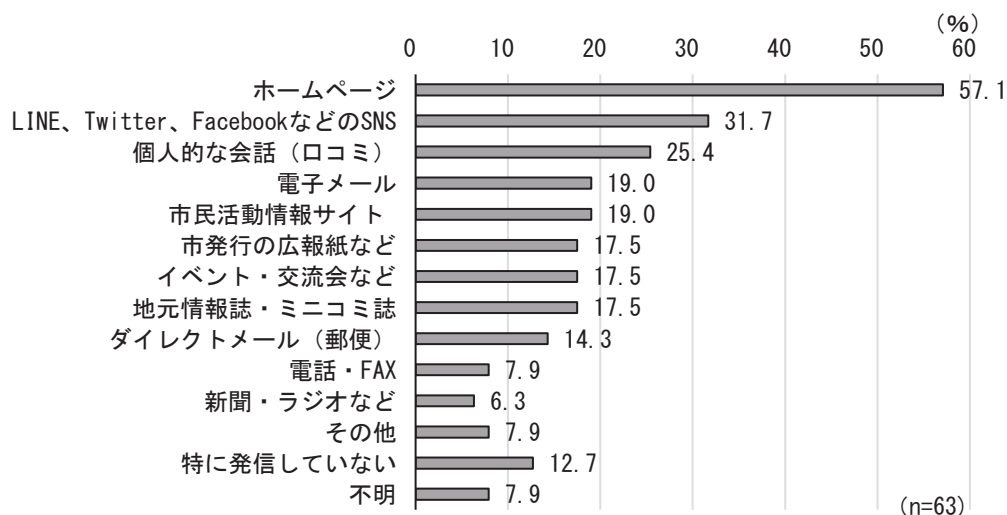


⑮ 活動内容などの情報発信

問15 貴団体は、活動内容などの情報の発信はどのように行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

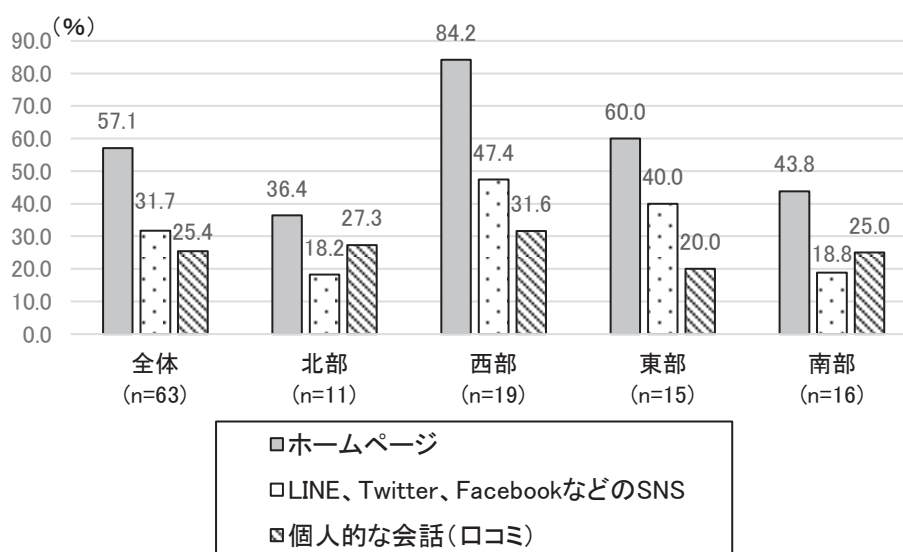
活動内容などの情報発信をみると、「ホームページ」が57.1%で最も多く、次いで「LINE、Twitter、FacebookなどのSNS」が31.7%、「個人的な会話(ロコミ)」が25.4%となっている。

図表 219 活動内容などの情報発信



所在地別に見ると、「ホームページ」は「西部(84.2%)」、「LINE、Twitter、FacebookなどのSNS」は「西部(47.4%)」、「個人的な会話(ロコミ)」は「西部(31.6%)」が最も多くなっている。

図表 220 活動内容などの情報発信(所在地別)



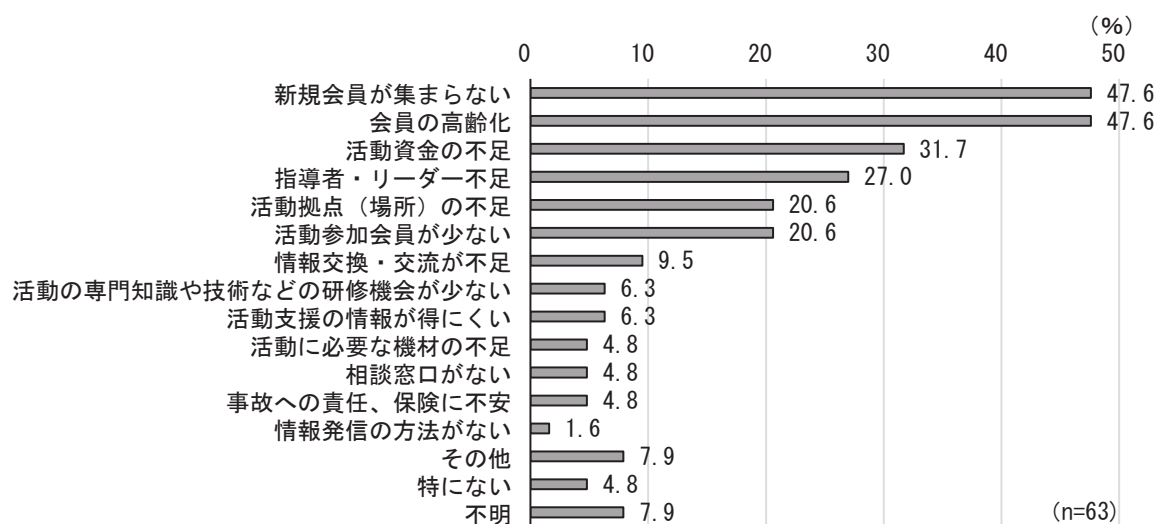
5.調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人

⑩ 活動を行う上での問題点・課題

問16 貴団体が活動を行う上での問題点・課題についてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

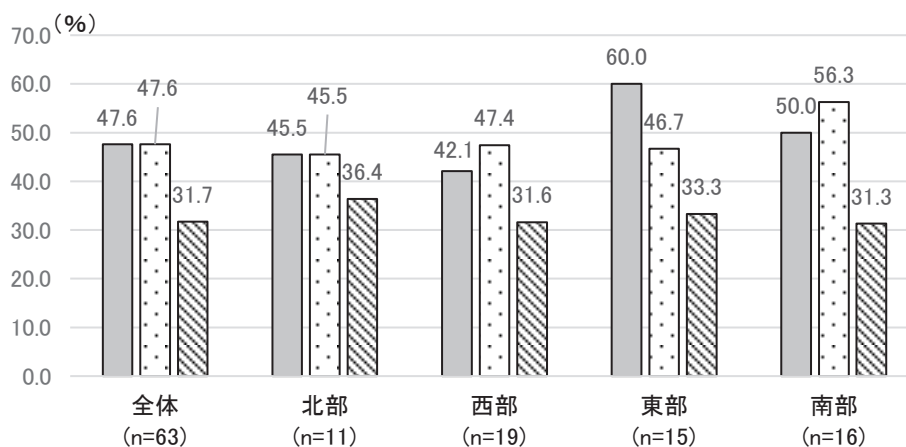
活動を行う上での問題点・課題をみると、「新規会員が集まらない」、「会員の高齢化」が47.6%で最も多く、次いで「活動資金の不足」が31.7%となっている。

図表 221 活動を行う上での問題点・課題



所在地区別にみると、「新規会員が集まらない」は「東部(60.0%)」、「会員の高齢化」は「南部(56.3%)」、「活動資金の不足」は「北部(36.4%)」が最も多くなっている。

図表 222 活動を行う上での問題点・課題(所在地区別)



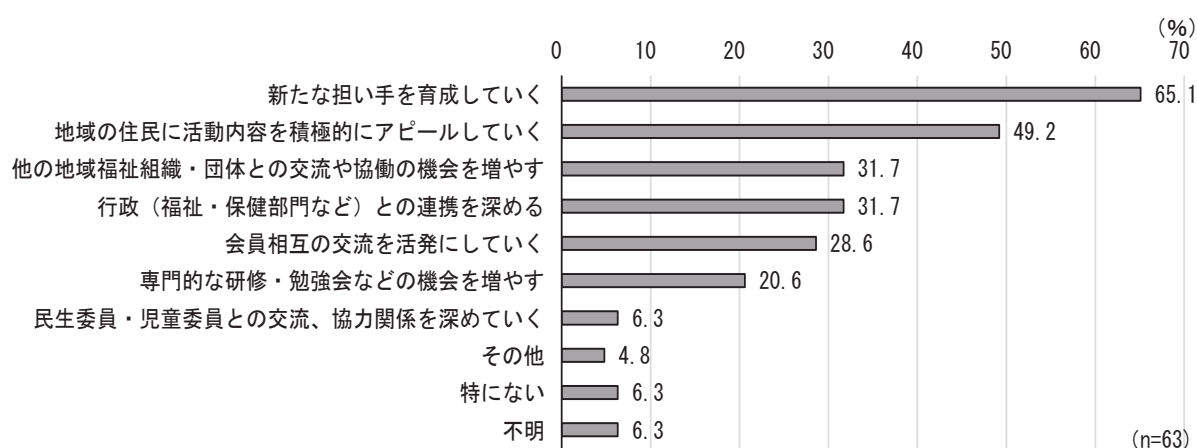
□ 新規会員が集まらない □ 会員の高齢化 □ 活動資金の不足

⑰ 今後、福祉活動を活性化していくために、特に必要なこと

問17 今後、貴団体における地域の福祉活動を活性化していくために、特に必要なことは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

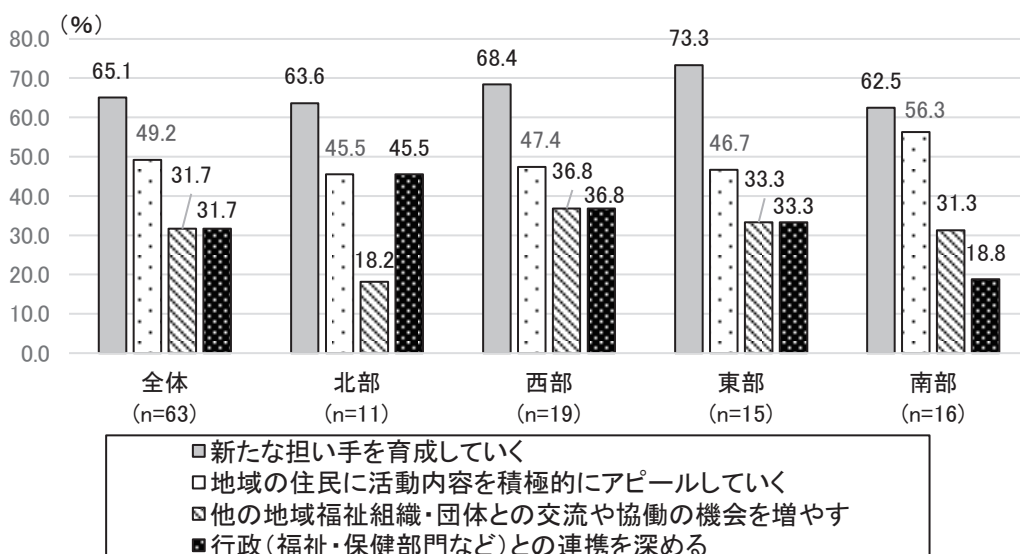
今後、福祉活動を活性化していくために、特に必要なことをみると、「新たな担い手を育成していく」が65.1%で最も多く、次いで「地域の住民に活動内容を積極的にアピールしていく」が49.2%、「他の地域福祉組織・団体との交流や協働の機会を増やす」、「行政(福祉・保健部門など)との連携を深める」が31.7%となっている。

図表 223 今後、福祉活動を活性化していくために、特に必要なこと



所在地区別にみると、「新たな担い手を育成していく」は「東部(73.3%)」、「地域の住民に活動内容を積極的にアピールしていく」は「南部(56.3%)」、「他の地域福祉組織・団体との交流や協働の機会を増やす」は「西部(36.8%)」、「行政(福祉・保健部門など)との連携を深める」は「北部(45.5%)」が最も多くなっている。

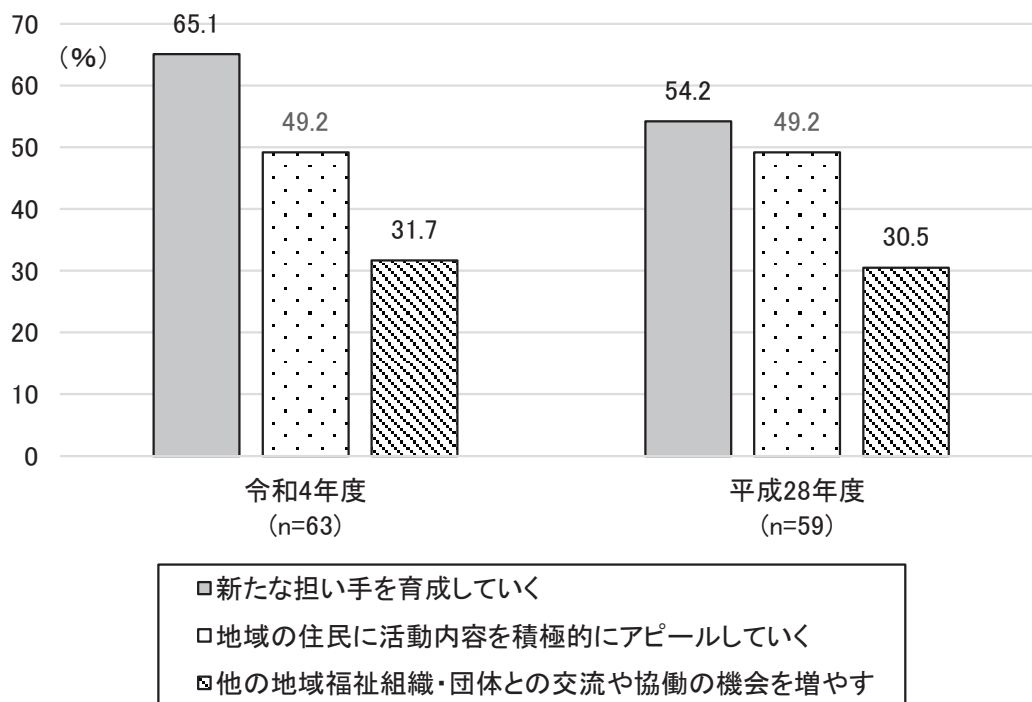
図表 224 今後、福祉活動を活性化していくために、特に必要なこと(所在地区別)



5.調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人

経年でみると、「新たな担い手を育成していく」が大きく増加している。

図表 225 今後、福祉活動を活性化していくために、特に必要なこと(経年比較)

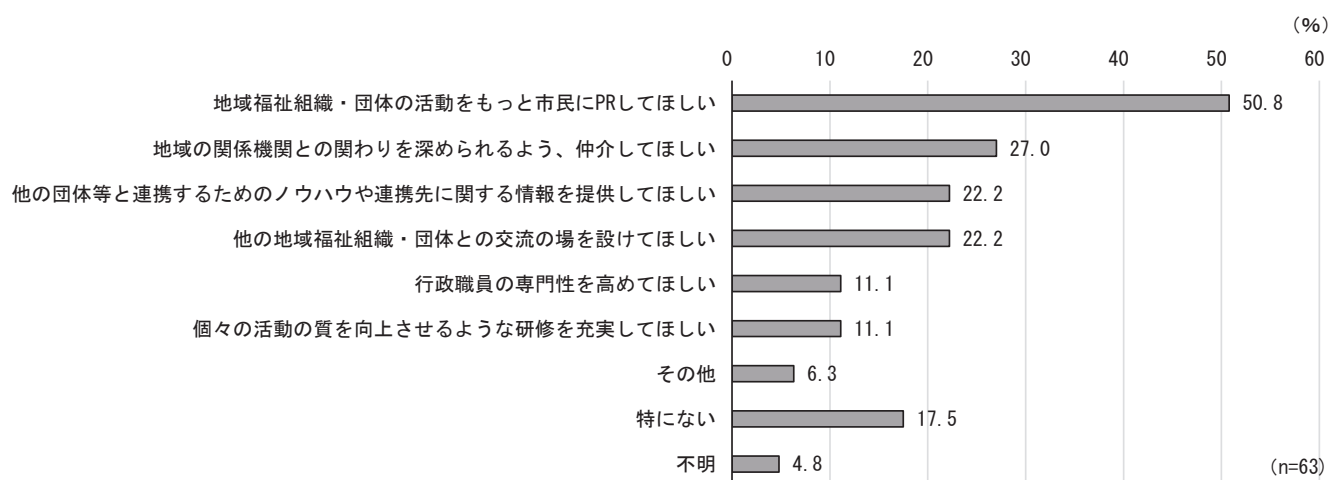


⑱ 地域で福祉活動を進めるうえでの行政に対する要望・期待

問18 貴団体が地域で福祉活動を行う上で、行政に対して特に要望することや期待することは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

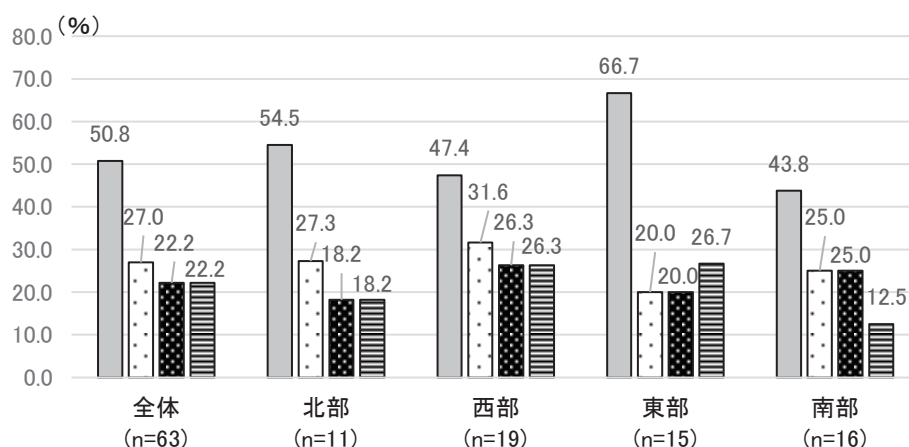
地域で福祉活動を進めるうえでの行政に対する要望・期待をみると、「地域福祉組織・団体の活動をもっと市民にPRしてほしい」が50.8%で最も多く、次いで「地域の関係機関との関わりを深められるよう、仲介してほしい」が27.0%、「他の団体等と連携するためのノウハウや連携先に関する情報を提供してほしい」、「他の地域福祉組織・団体との交流の場を設けてほしい」、「他の地域福祉組織・団体との交流の場を設けてほしい」が22.2%となっている。

図表 226 地域で福祉活動を進めるうえでの行政に対する要望・期待



所在地区別にみると、「地域福祉組織・団体の活動をもっと市民にPRしてほしい」は「東部(66.7%)」、「地域の関係機関との関わりを深められるよう、仲介してほしい」は「西部(31.6%)」、「他の団体等と連携するためのノウハウや連携先に関する情報を提供してほしい」は「西部(26.3%)」、「他の地域福祉組織・団体との交流の場を設けてほしい」は「東部(26.7%)」が最も多くなっている。

図表 227 地域で福祉活動を進めるうえでの行政に対する要望・期待(所在地区別)

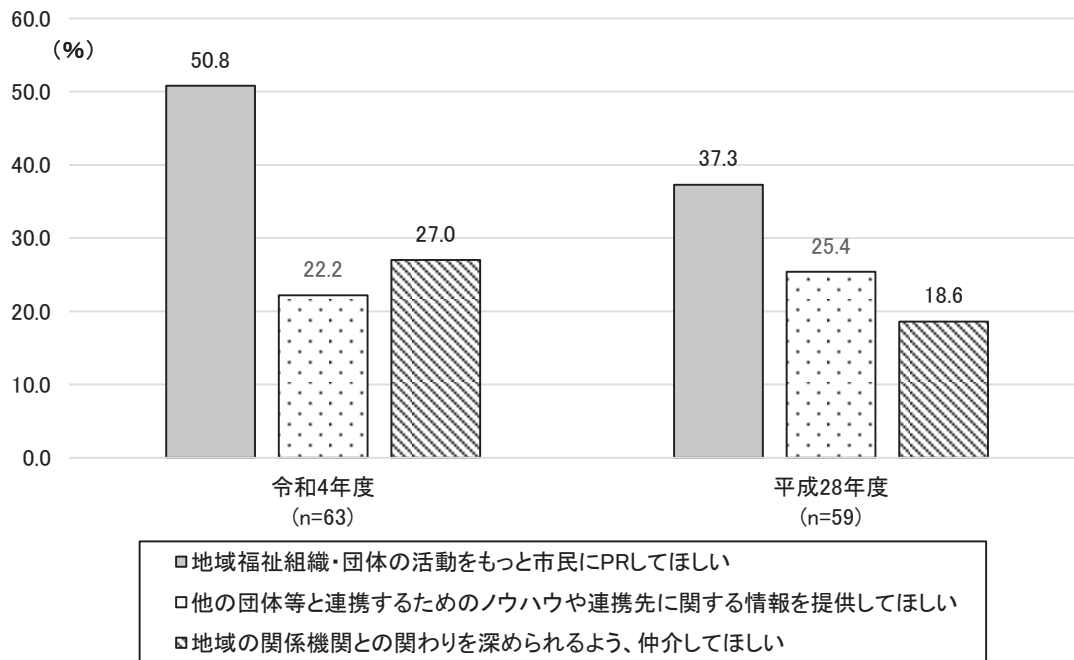


- 地域福祉組織・団体の活動をもっと市民にPRしてほしい
- 地域の関係機関との関わりを深められるよう、仲介してほしい
- 他の団体等と連携するためのノウハウや連携先に関する情報を提供してほしい
- ▨ 他の地域福祉組織・団体との交流の場を設けてほしい

5.調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人

経年でみると、「地域福祉組織・団体の活動をもっと市民にPRしてほしい」と「地域の関係機関との関わりを深められるよう、仲介してほしい」は増加している一方、「他の団体等と連携するためのノウハウや連携先に関する情報を提供してほしい」は減少している。

図表 228 地域で福祉活動を進めるうえでの行政に対する要望・期待(経年比較)

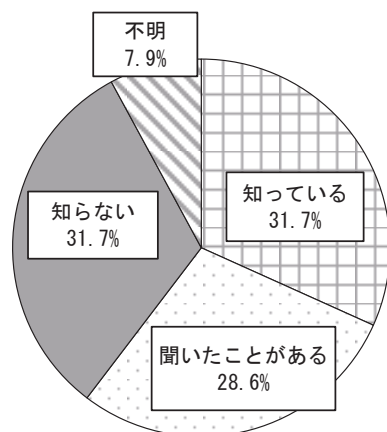


⑬ 地域ケアシステムの認知度

問19 市川市では、安心して暮らし続ける地域社会をつくるために、支えあいの地域づくり(地域ケアシステム)の取組を進めています。貴団体ではそのことをご存じですか。(〇は1つだけ)

地域ケアシステムの認知度をみると、「知っている」、「知らない」は31.7%、「聞いたことがある」が28.6%となっている。

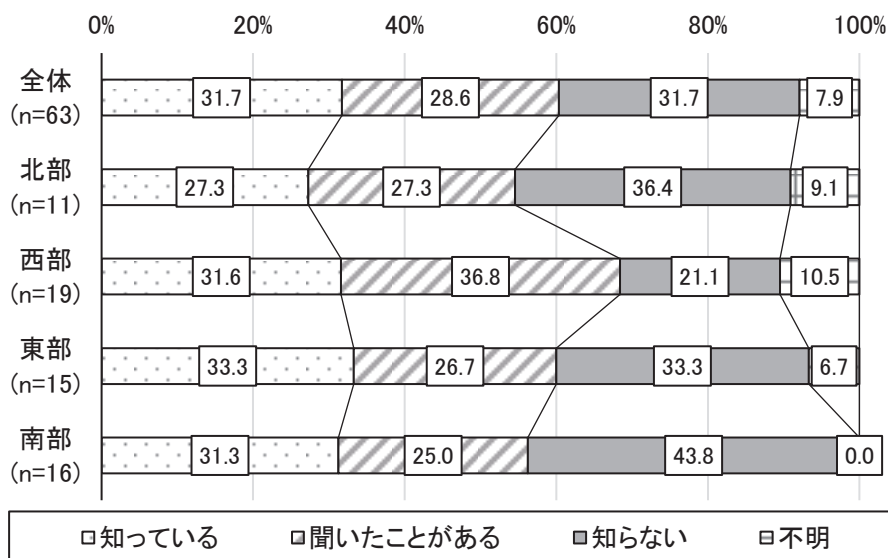
図表 229 地域ケアシステムの認知度



(n=63)

所在地別に見ると、「知っている」は「東部(33.3%)」、「聞いたことがある」は「西部(36.8%)」、「知らない」は「南部(43.8%)」が最も多くなっている。

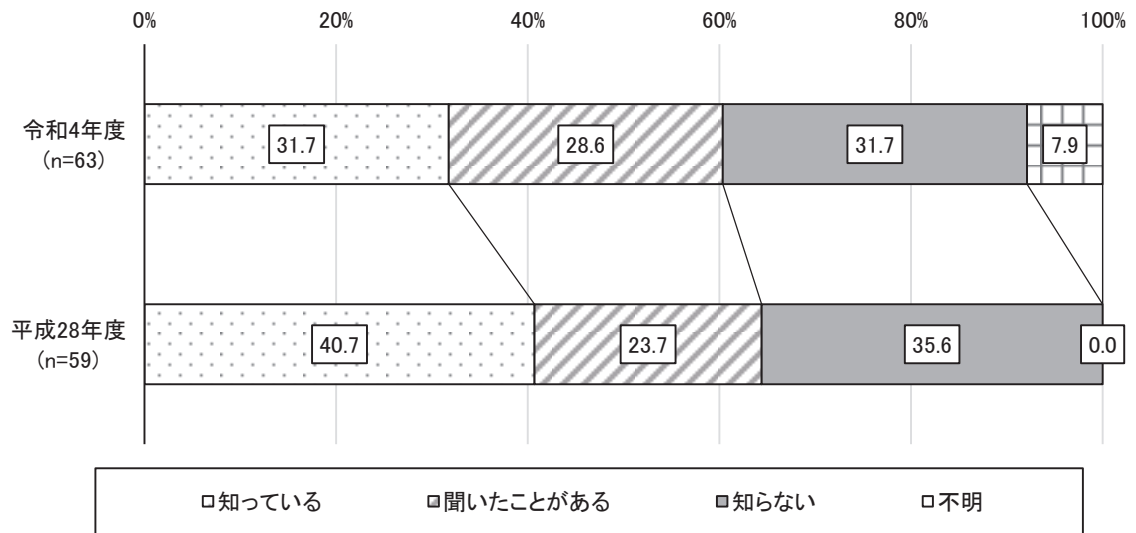
図表 230 地域ケアシステムの認知度(所在地別)



5.調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人

経年でみると、「聞いたことがある」は増加している一方、「知っている」の割合が大きく減少している。

図表 231 地域ケアシステムの認知度(経年比較)

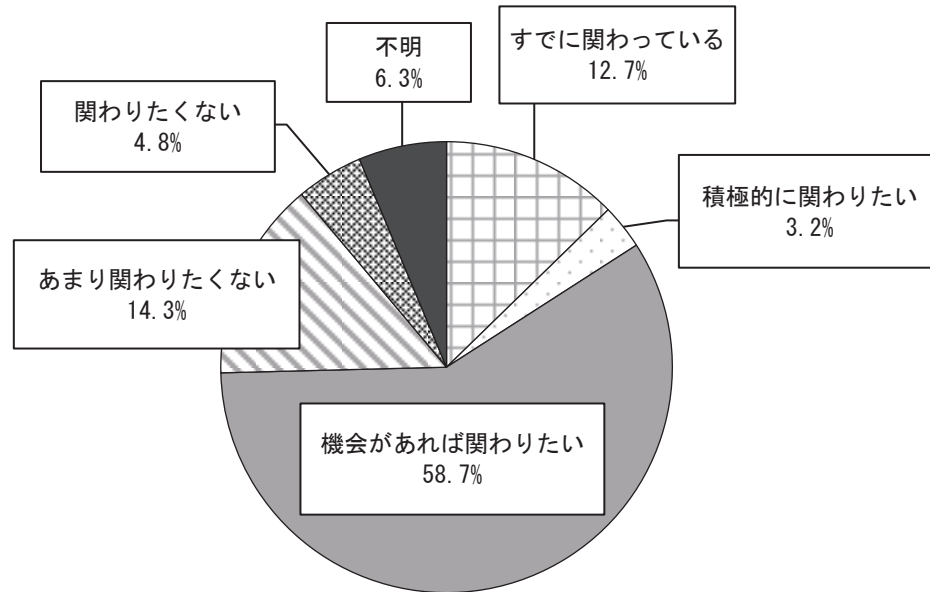


⑳ 地域ケアシステムの活動への関与意向

問20 貴団体では、今後、地域ケアシステムの活動に関わりたいと思いますか。(〇は1つだけ)

地域ケアシステムの活動への関与意向をみると、「機会があれば関わりたい」が58.7%で最も多く、次いで「あまり関わりたくない」が14.3%、「すでに関わっている」が12.7%となっている。

図表 232 地域ケアシステムの活動への関与意向

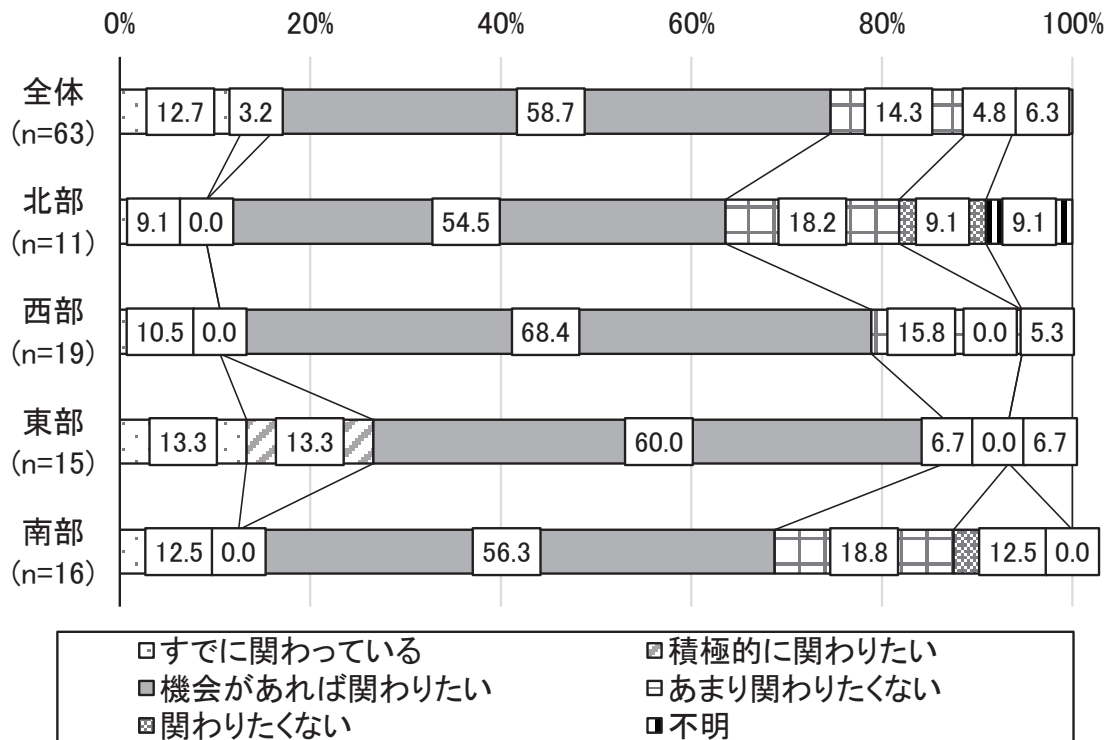


(n=63)

5.調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人

所在地別に見ると、「機会があれば関わりたい」は「西部(68.4%)」、「あまり関わりたいくない」は「南部(18.8%)」、「すでに関わっている」は「東部(13.3%)」が最も多くなっている。

図表 233 地域ケアシステムの活動への関与意向(所在地別)



② 地域ケアシステムの活動への関与意向の理由

問21 問20で「2. 積極的に関わりたい」、「3. 機会があれば関わりたい」、「4. あまり関わりたいくない」、「5. 関わりたいくない」と答えた方にお尋ねします。

問20でそう思われた理由はなんですか。(自由記入)

(ア) 「2. 積極的に関わりたい」

主な意見
<ul style="list-style-type: none"> 障がい児は年を重ねて親から離れ地域社会に入っていくのであるから支え合いの地域づくりが大切であると考えます。

(イ) 「3. 機会があれば関わりたい」

主な意見
<ul style="list-style-type: none"> 高齢者が増えている中で市のサービスや健康情報を知ってもらう機会が欲しい。 コロナ禍もあり他団体との繋がりも限られているため、もう少し外部との連携が必要と感じている。 システムを知らないのでコメントが出来ない。 どう関わればいいのかわからない。 マジックでふれあいの場と夢と元気を与えます。生きがいづくりへの貢献。 まずは地域ケアシステムを知るため。 活動が広がる可能性があるから。 活動が広がる可能性があることには前向きに取り組みたい。 活動の場所がほしい。 活動自体に自分たちの事として取り組む必要性を強く感じていない。 活動体制を整えば検討したい。 顔見知りを作っておくと何か協力することが出来た場合やりやすいと思います。 興味がある。 具体的に関わる案内がない。 孤立してしまっている外国人(女性)がもしいらっしゃる情報など知ることができれば是非参加を勧めたい。 私たちが日々相談を受ける野良猫問題には社会的弱者が当事者である、あるいはかかわっていることがよくあります。 私たちの活動と地域とあまり結びつかない。 自団体が活動できることがあればと思うから。 重要なしくみだから。 詳しく取組が分かれば。 人員不足、日程的に無理なことが多い。 声をかけられていない。

5.調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人

・ 青少年の健全育成のための活動があれば関わりたい。
・ 団体活動の性質上、どのように関わったら良いかわからない。
・ 地域ケアシステムの詳細をよく知らないため、それを学んでみたいです。その中で法人としてできることがあれば関わりたい。
・ 地域での福祉には連携が必要だから。
・ 地域活性化への協力。
・ 当協会内の人材を活用できる様ならば関わりたい。
・ 内容がよくわからない。
・ 内容を把握していないので、なんとも言えません。
・ 利用者本人及び保護者の高齢化による介護ニーズの増加。

(ウ)「4. あまり関わりたいくない」

主な意見
・ どんなシステムかわからないから。
・ 会の運営内容との接点が見出せないため。
・ 活動する会員の人手不足等。
・ 活動の場が地域にないため。
・ 事業内容がそぐわないため。
・ 自分たちの今のことで精一杯なので。
・ 自由に自分たちの考えでのびのびとやりたい。
・ 独自の事業としてやっている。狭い地域限定で行っている。

(エ)「5. 関わりたいくない」

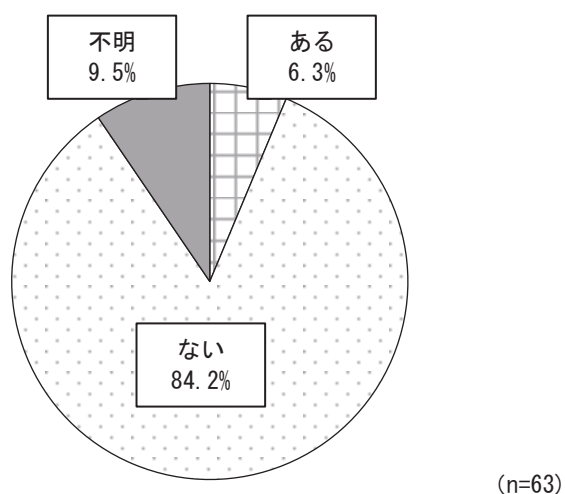
主な意見
・ 参加者の高齢化や転居により参加する人が少なくなった為解散を考えている。
・ 現在の事業を行うことが運営の条件で受託している為。

② 地域ケアシステムが関わる会議への参加の有無

問22 貴団体は地域ケアシステムが関わる会議(地域ケアシステム推進連絡会、相談員会議等)に参加したことがありますか。(○は1つだけ)

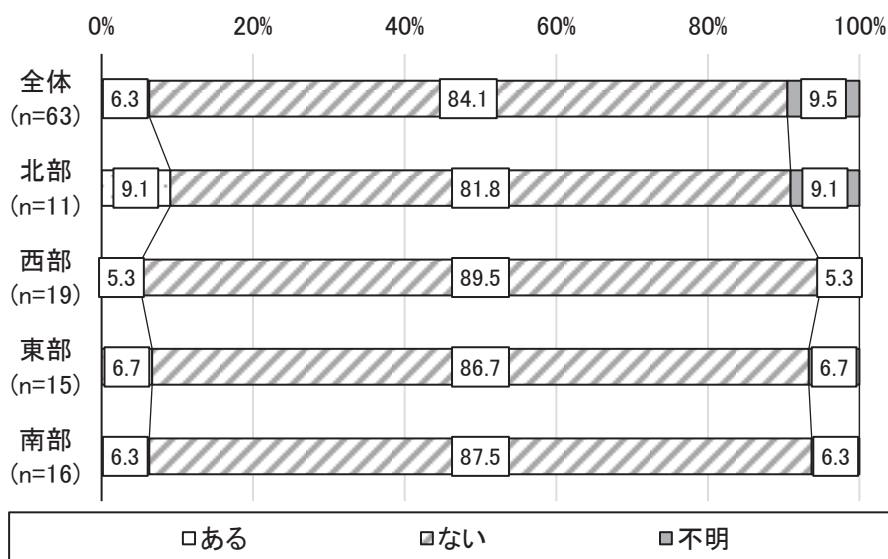
地域ケアシステムが関わる会議への参加の有無をみると、「ない」が84.2%、「ある」が6.3%となっている。

図表 234 地域ケアシステムが関わる会議への参加の有無



所在地別に見ると、「ない」は「西部(89.5%)」、「ある」は「北部(9.1%)」が最も多くなっている。

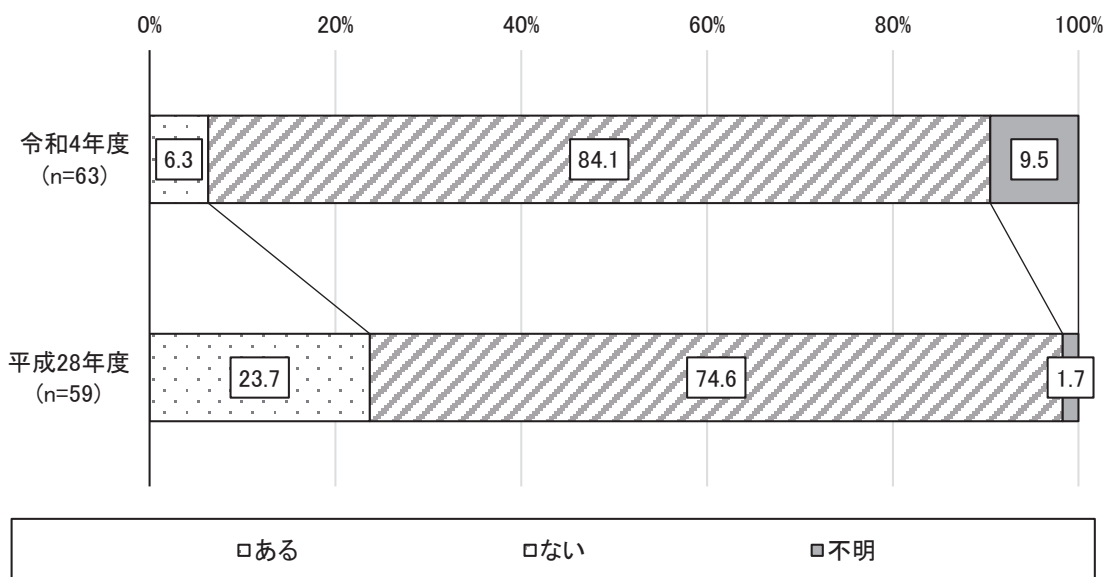
図表 235 地域ケアシステムが関わる会議への参加の有無(所在地別)



5.調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人

経年でみると、「ある」は大きく減少し、「ない」は増加している。

図表 236 地域ケアシステムが関わる会議への参加の有無(経年比較)

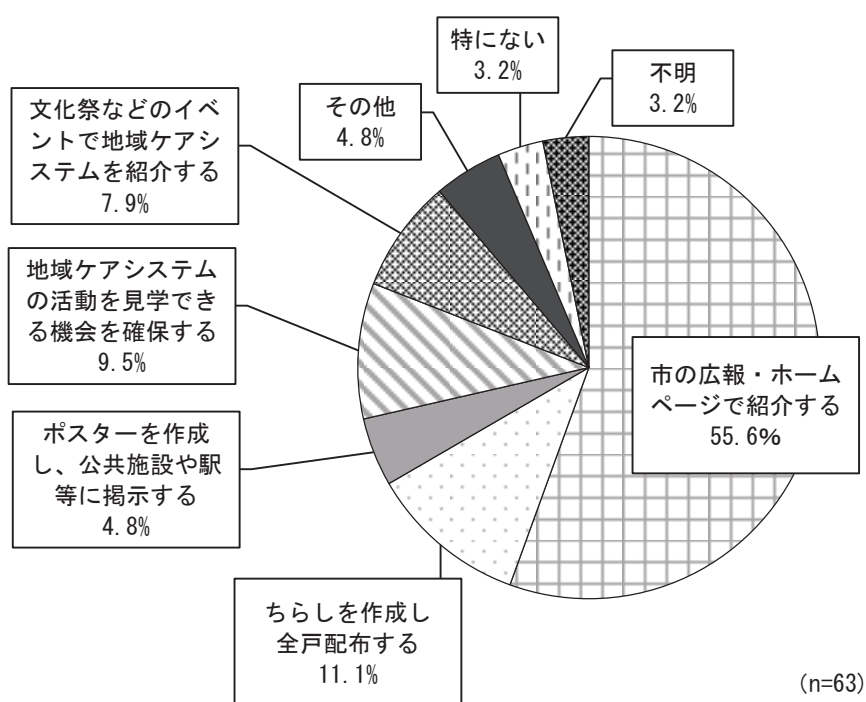


③ 地域ケアシステムの周知に必要な取り組み

問23 市川市では、地域ケアシステムについて市民の皆さんに知ってもらいたいと考えています。貴団体は、地域ケアシステムを市民の皆さんに知ってもらうにはどのような取り組みが必要だと思いますか。
(〇は1つだけ)

地域ケアシステムの周知に必要な取り組みをみると、「市の広報・ホームページで紹介する」が55.6%で最も多く、次いで「ちらしを作成し全戸配布する」が11.1%、「地域ケアシステムの活動を見学できる機会を確保する」が9.5%となっている。

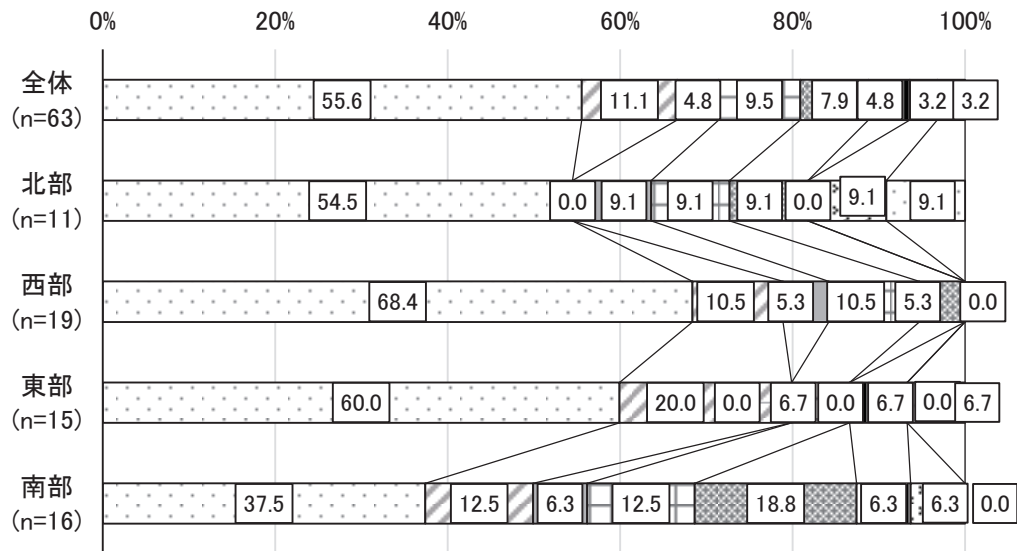
図表 237 地域ケアシステムの周知に必要な取り組み



5.調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人

所在地区別にみると、「市の広報・ホームページで紹介する」は「西部(68.4%)」、「ちらしを作成し全戸配布する」は「東部(20.0%)」、「地域ケアシステムの活動を見学できる機会を確保する」は「南部(12.5%)」が最も多くなっている。

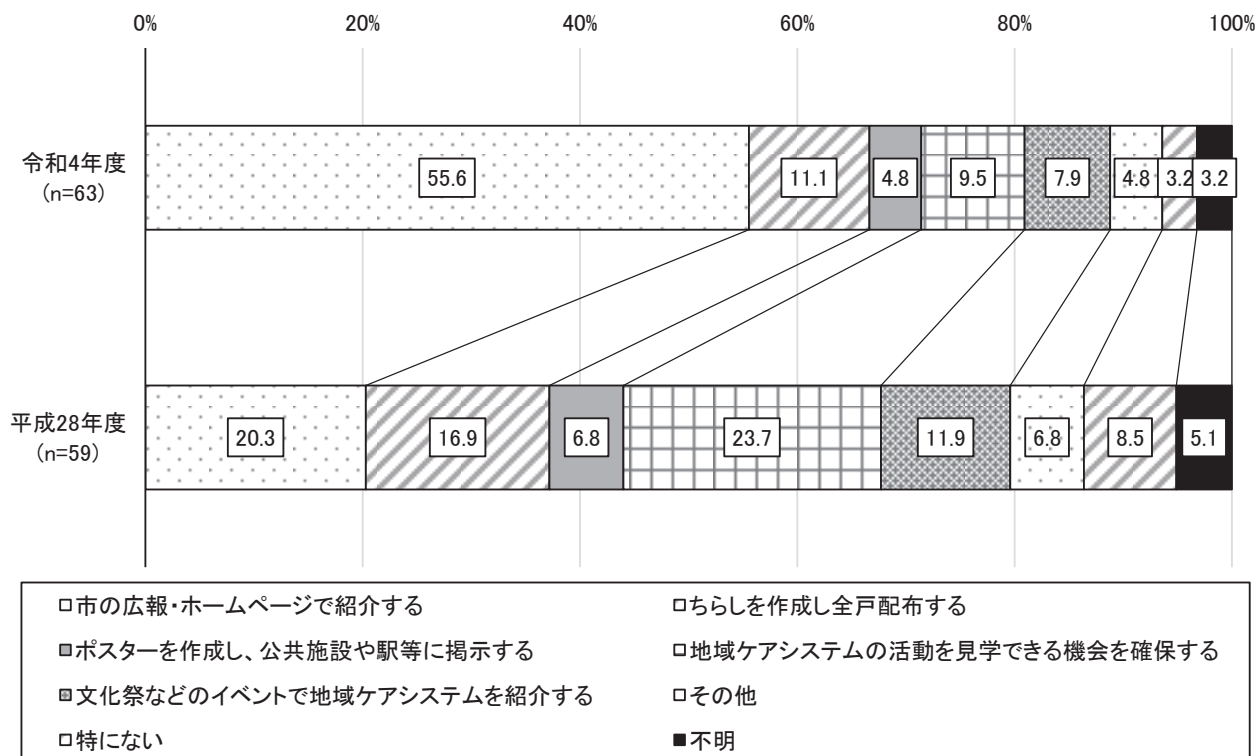
図表 238 地域ケアシステムの周知に必要な取り組み(所在地区別)



- 市の広報・ホームページで紹介する
- ちらしを作成し全戸配布する
- ポスターを作成し、公共施設や駅等に掲示する
- 地域ケアシステムの活動を見学できる機会を確保する
- 文化祭などのイベントで地域ケアシステムを紹介する
- その他
- 特にない
- 不明

経年でみると、「市の広報・ホームページで紹介する」が大きく増加している。

図表 239 地域ケアシステムの周知に必要な取り組み（経年比較）



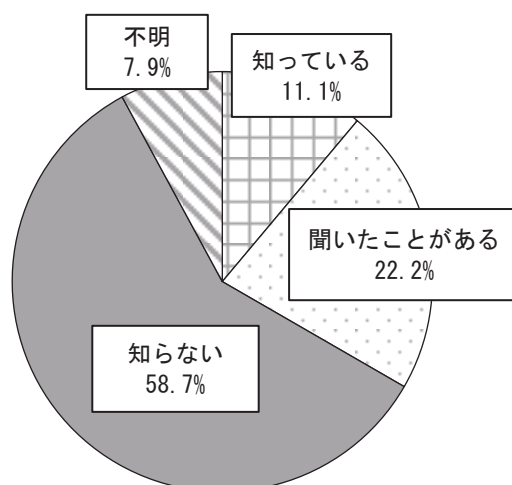
5.調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人

④ コミュニティワーカー配置の認知状況

問24 市川市では、平成17年度から地域の福祉活動をお手伝いするために、コミュニティワーカーを配置しています。貴団体は、コミュニティワーカーが配置されていることをご存じですか。(〇は1つだけ)

コミュニティワーカー配置の認知状況をみると、「知らない」が58.7%で最も多く、次いで「聞いたことがある」が22.2%、「知っている」が11.1%となっている。

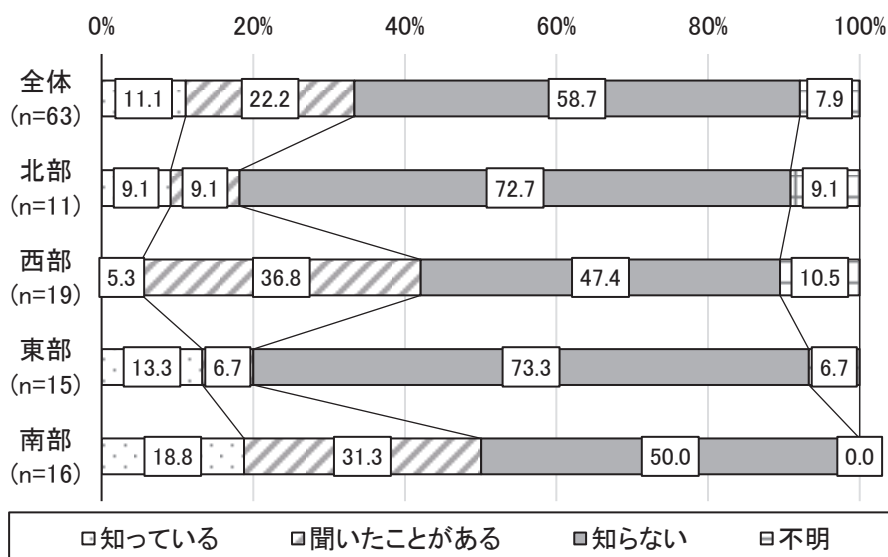
図表 240 コミュニティワーカー配置の認知状況



(n=63)

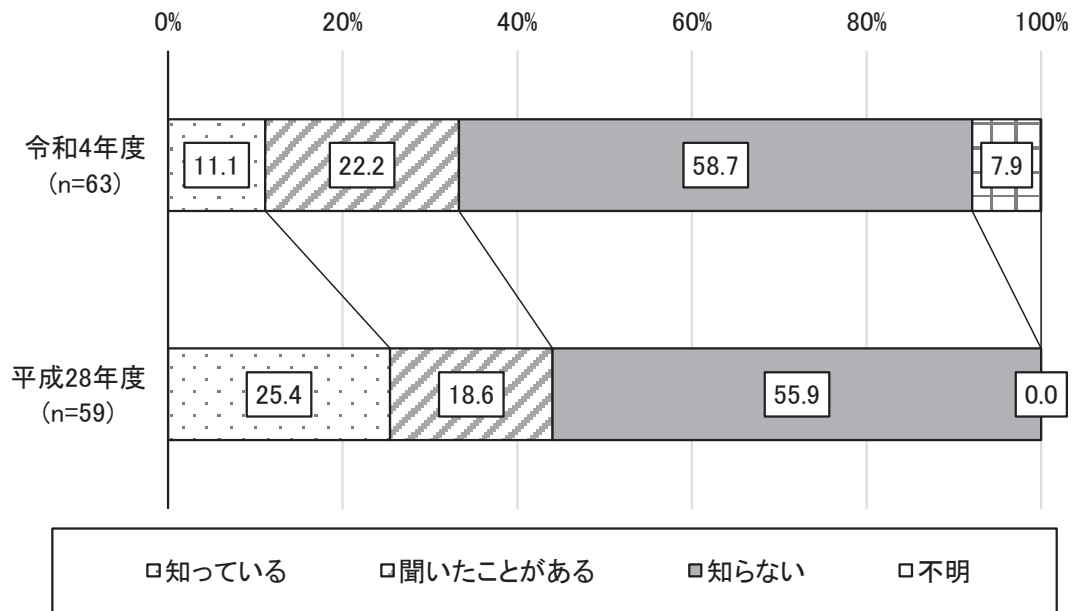
所在地区別にみると、「知っている」は「南部(18.8%)」、「聞いたことがある」は「西部(36.8%)」、「知らない」は「東部(73.3%)」が最も多くなっている。

図表 241 コミュニティワーカー配置の認知状況(所在地区別)



経年でみると、「知っている」が大幅に減少している。

図表 242 コミュニティワーカー配置の認知状況(経年比較)



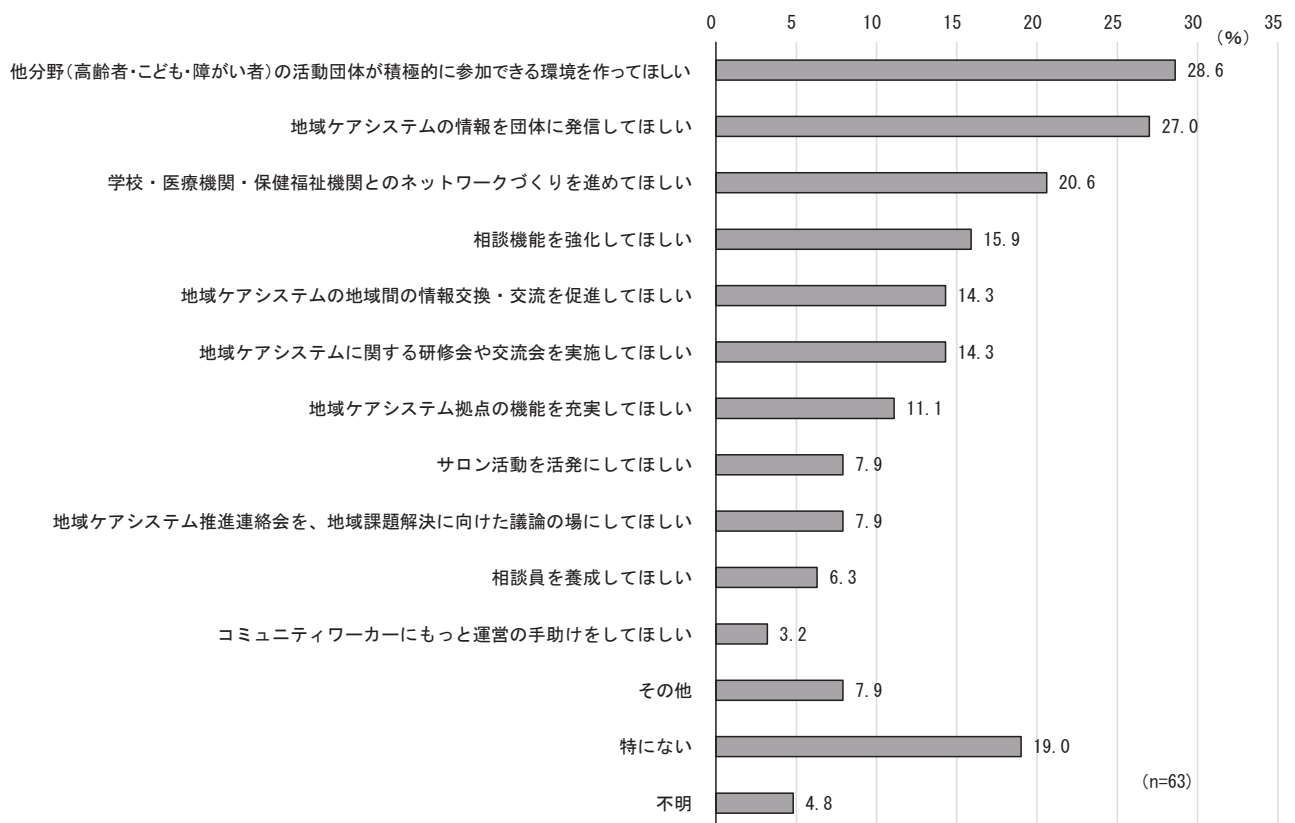
5.調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人

㊸ 地域ケアシステムでやってもらいたいこと

問25 貴団体が地域ケアシステムでやってもらいたいことはどのようなことですか。(〇は3つまで)

地域ケアシステムでやってもらいたいことをみると、「他分野(高齢者・子ども・障がい者)の活動団体が積極的に参加できる環境を作してほしい」が28.6%で最も多く、次いで「地域ケアシステムの情報を団体に発信してほしい」が27.0%、「学校・医療機関・保健福祉機関とのネットワークづくりを進めてほしい」が20.6%となっている。

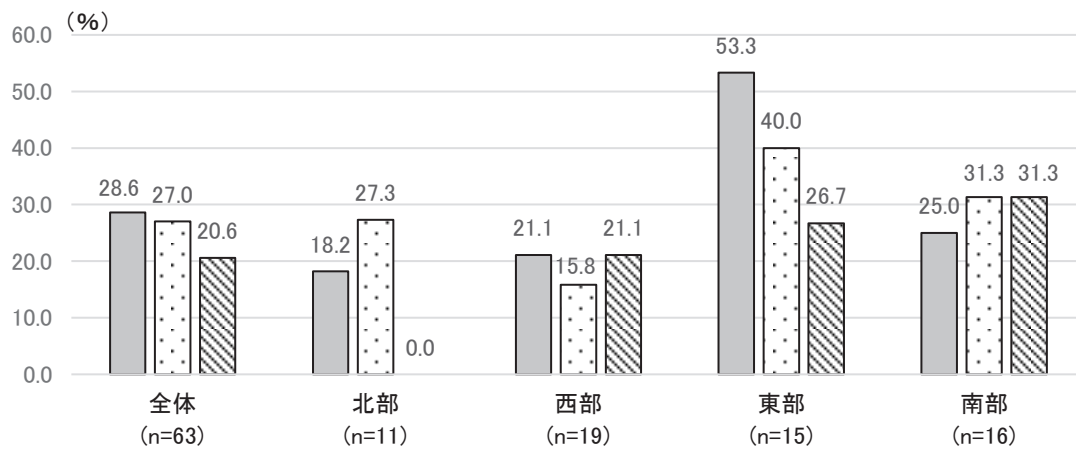
図表 243 地域ケアシステムでやってもらいたいこと



5.調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人

所在地別に見ると、「他分野(高齢者・子ども・障がい者)の活動団体が積極的に参加できる環境を作ってほしい」は「東部(53.3%)」、「地域ケアシステムの情報を団体に発信してほしい」は「東部(40.0%)」、「学校・医療機関・保健福祉機関とのネットワークづくりを進めてほしい」は「南部(31.3%)」が最も多くなっている。

図表 244 地域ケアシステムでやってもらいたいこと(所在地別)

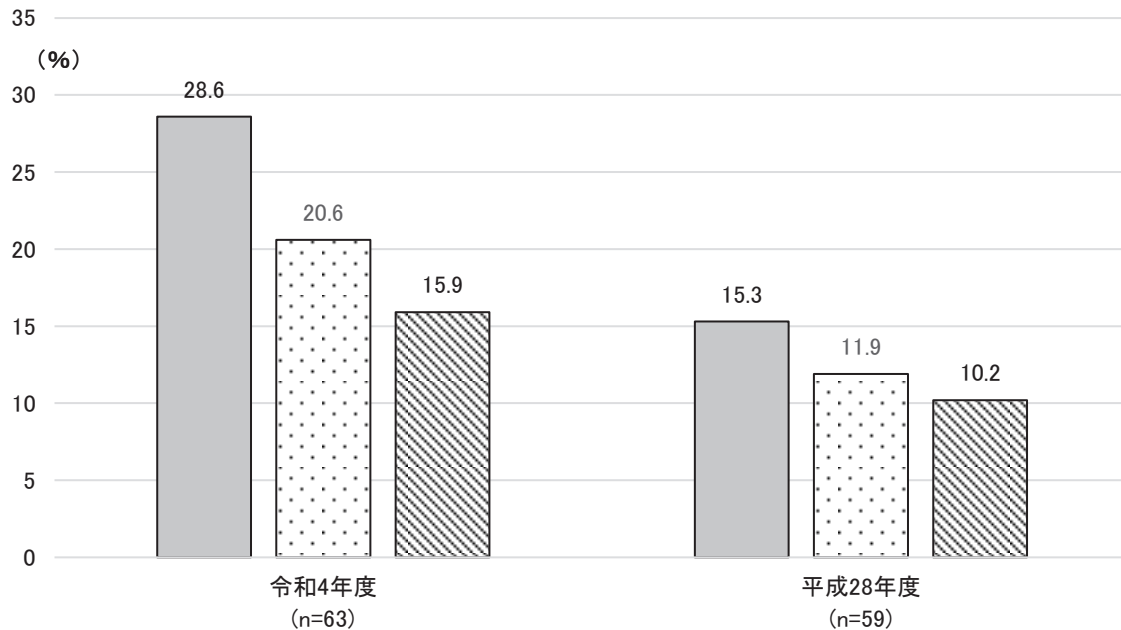


- 他分野(高齢者・子ども・障がい者)の活動団体が積極的に参加できる環境を作ってほしい
- 地域ケアシステムの情報を団体に発信してほしい
- 学校・医療機関・保健福祉機関とのネットワークづくりを進めてほしい

5.調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人

経年でみると、「他分野(高齢者・子ども・障がい者)の活動団体が積極的に参加できる環境を作ってほしい」、「学校・医療機関・保健福祉機関とのネットワークづくりを進めてほしい」、「相談機能を強化してほしい」の全ての項目が増加している。

図表 245 地域ケアシステムでやってもらいたいこと(経年比較)



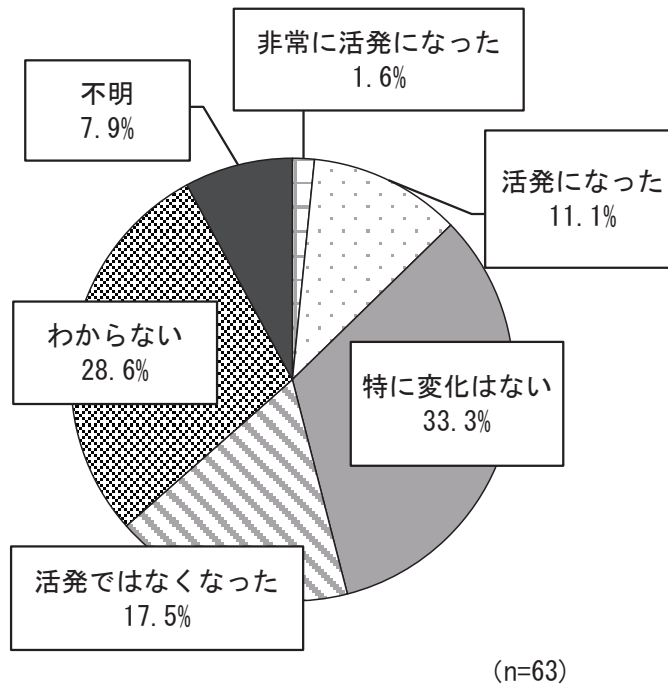
- 他分野(高齢者・子ども・障がい者)の活動団体が積極的に参加できる環境を作ってほしい
- 学校・医療機関・保健福祉機関とのネットワークづくりを進めてほしい
- 相談機能を強化してほしい

② 以前と比べた自身の活動区域における地域福祉の変化

問26 以前と比べて、ご自身の活動区域における地域の福祉活動はどのように変化したと感じますか。
(〇は1つだけ)

以前と比べた自身の活動区域における地域福祉の変化をみると、「特に変化はない」が33.3%で最も多く、次いで「わからない」が28.6%、「活発ではなくなった」が17.5%となっている。

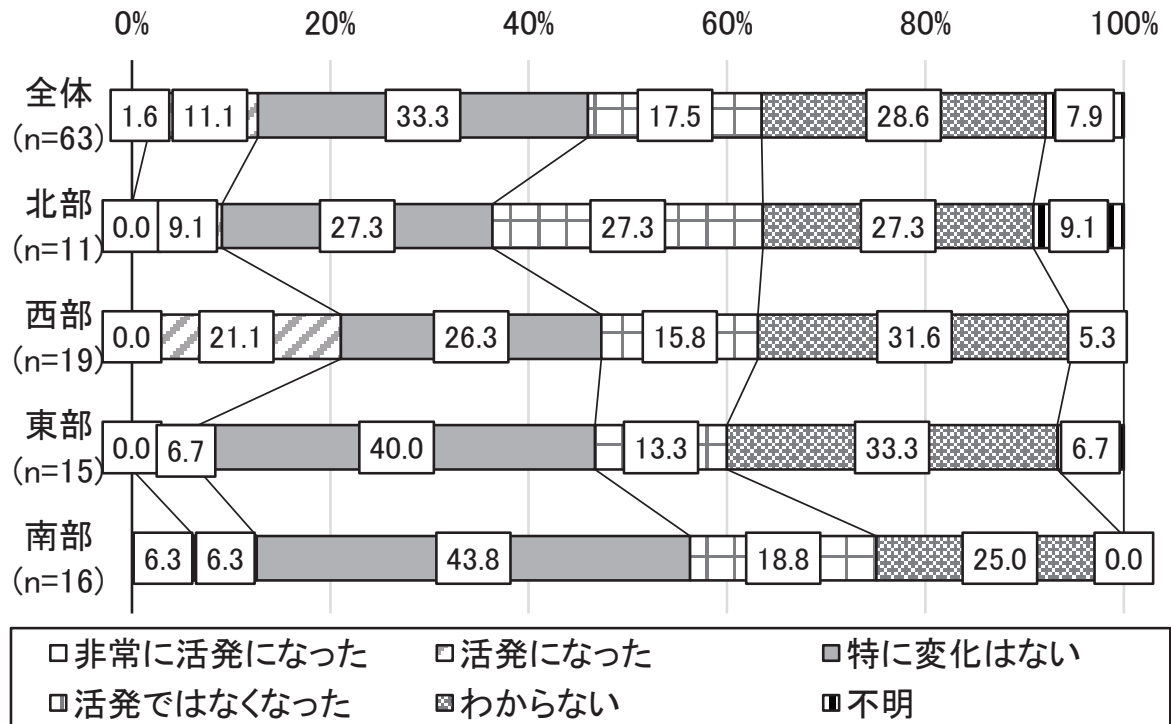
図表 246 以前と比べた自身の活動区域における地域福祉の変化



5.調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人

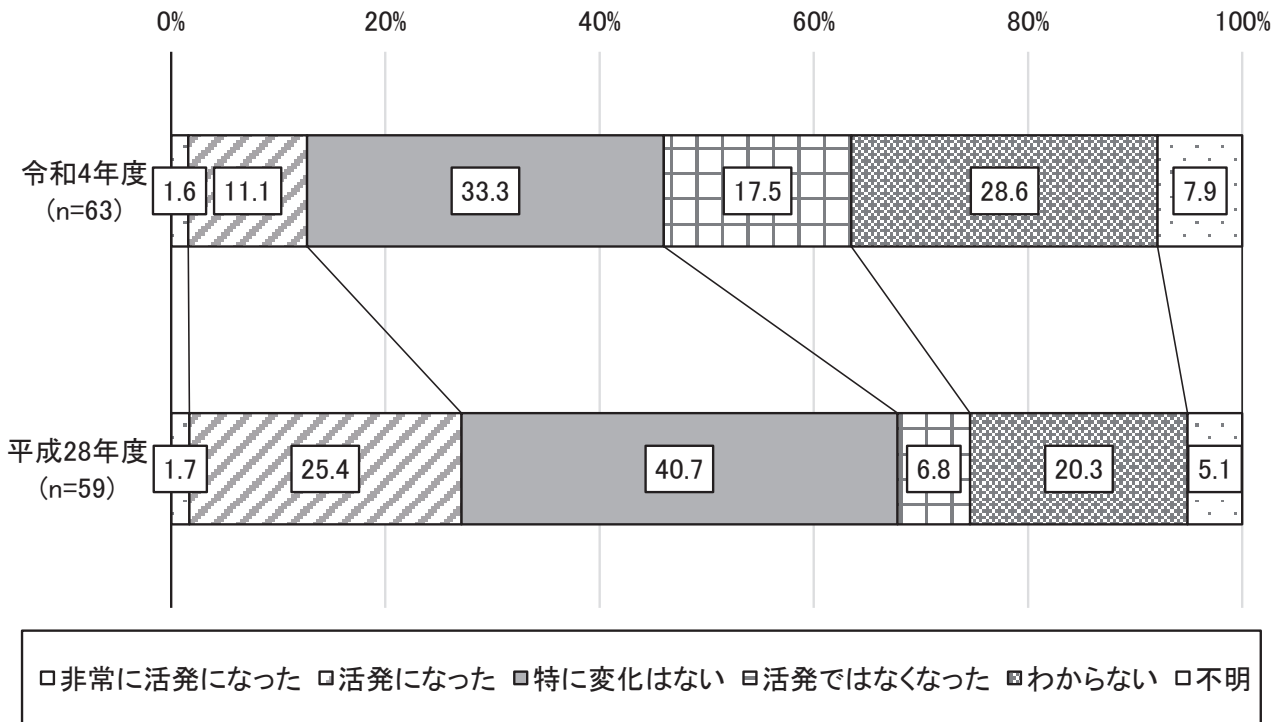
所在地区別にみると、「特に変化はない」は「南部(43.8%)」、「わからない」は「東部(33.3%)」、「活発ではなくなった」は「北部(27.3%)」が最も多くなっている。

図表 247 以前と比べた自身の活動区域における地域福祉の変化(所在地区別)



経年でみると、「活発になった」、「特に変化はない」は減少し、「活発ではなくなった」が増加している。

図表 248 以前と比べた自身の活動区域における地域福祉の変化(経年比較)



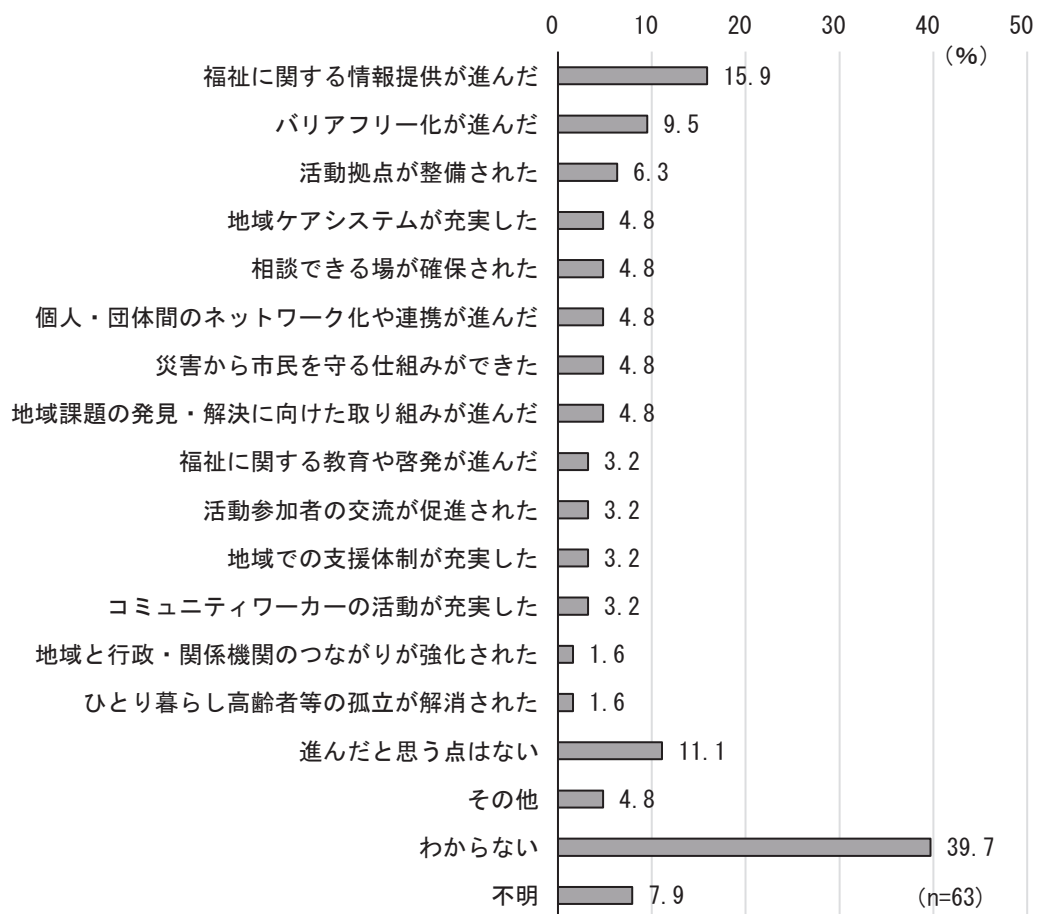
5.調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人

㊦ 以前と比べて活動地域において推進された地域福祉

問27 以前と比べて、日頃活動されている地域において、どのような点で地域の福祉活動が推進されたと思いますか。(〇は3つまで)

以前と比べて活動地域において推進された地域福祉をみると、「福祉に関する情報提供が進んだ」が15.9%、「バリアフリー化が進んだ」が9.5%、「活動拠点が整備された」が6.3%となっている。

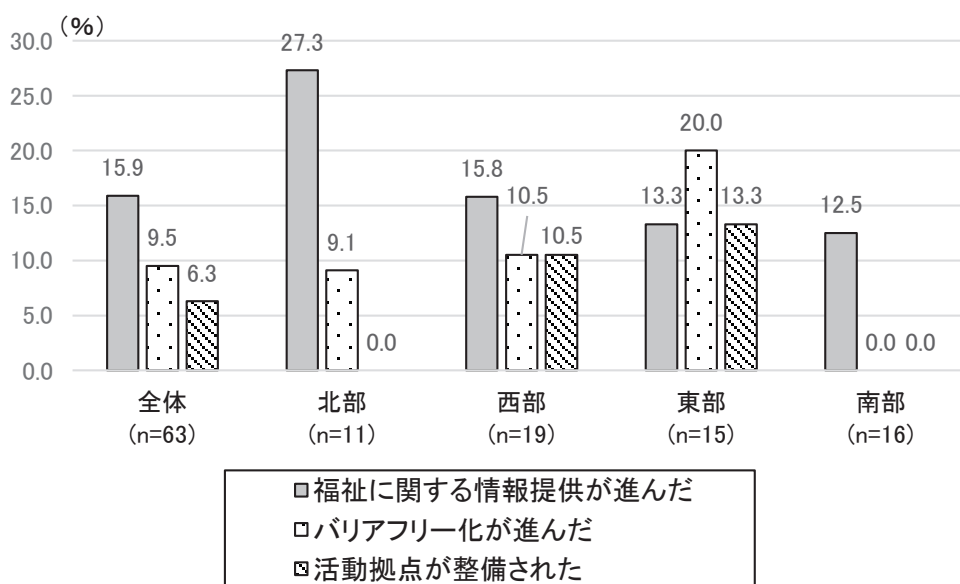
図表 249 以前と比べて活動地域において推進された地域福祉



※「地域活動の担い手が確保された」、「リーダー等の人材が育成された」の回答者はなし

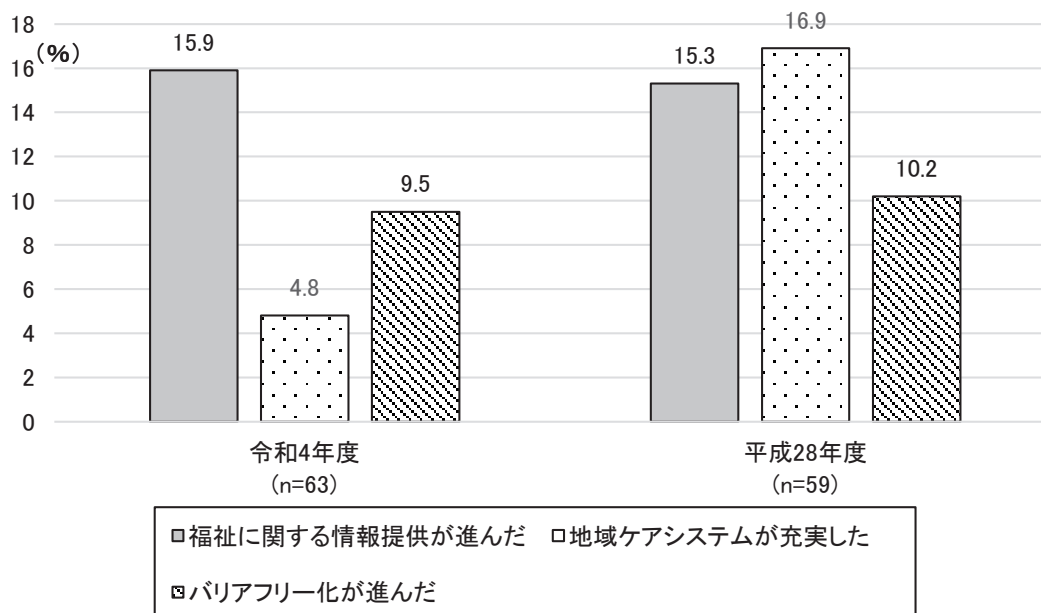
所在地別に見ると、「福祉に関する情報提供が進んだ」は「北部(27.3%)」、「バリアフリー化が進んだ」は「東部(20.0%)」、「活動拠点が整備された」は「東部(13.3%)」が最も多くなっている。

図表 250 以前と比べて活動地域において推進された地域福祉(所在地別)



経年でみると、「地域ケアシステムが充実した」が大きく減少している。

図表 251 以前と比べて活動地域において推進された地域福祉(経年比較)



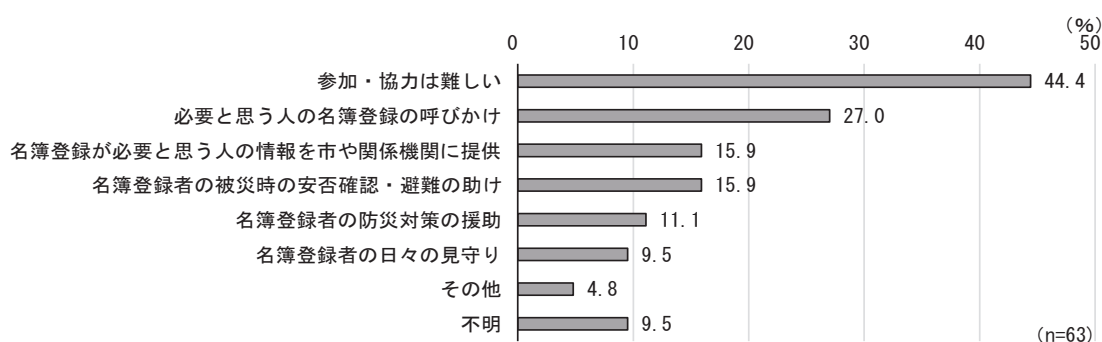
5.調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人

㊸ 「避難行動要支援者」に関連した活動への参加協力

問28 市川市では、高齢者や障がい者などの災害時に自力で安全な場所に避難することが困難ないわゆる「避難行動要支援者」の安全を守るため、地域の協力体制づくりを推進する目的として「避難行動要支援者名簿」を作成しています。貴団体は次のような援助活動にご協力いただけますか。(あてはまるものすべてに○)

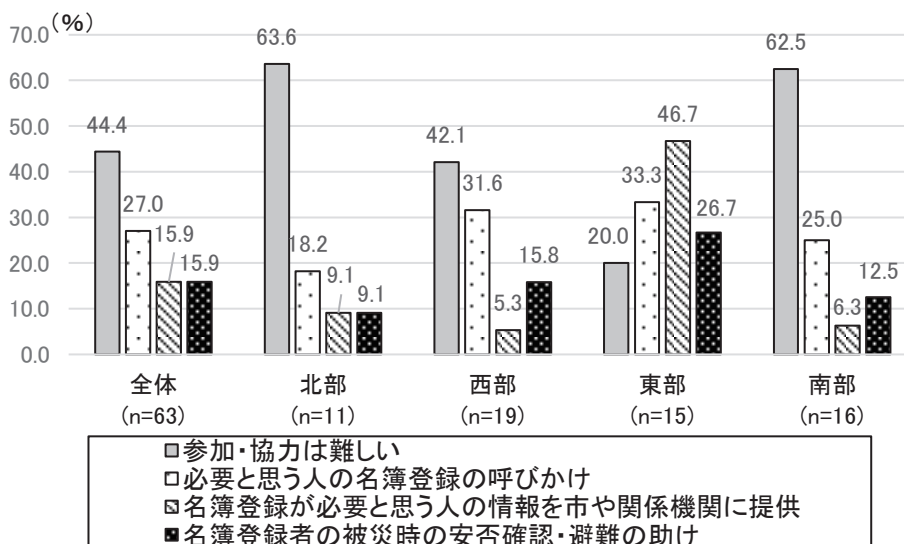
「避難行動要支援者」に関連した活動への参加協力をみると、「参加・協力は難しい」が44.4%で最も多く、次いで「必要と思う人の名簿登録の呼びかけ」が27.0%、「名簿登録が必要と思う人の情報を市や関係機関に提供」、「名簿登録者の被災時の安否確認・避難の助け」が15.9%となっている。

図表 252 「避難行動要支援者」に関連した活動への参加協力



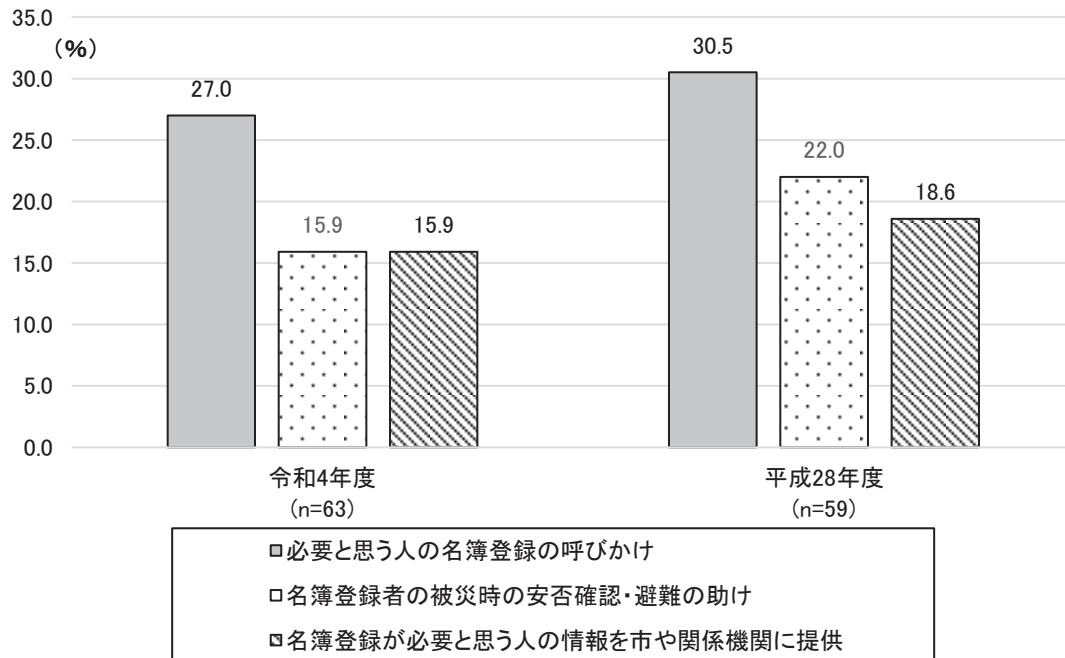
所在地区別にみると、「参加・協力は難しい」は「北部(63.6%)」、「必要と思う人の名簿登録の呼びかけ」は「東部(33.3%)」、「名簿登録が必要と思う人の情報を市や関係機関に提供」は「東部(46.7%)」、「名簿登録者の被災時の安否確認・避難の助け」は「東部(26.7%)」が最も多くなっている。

図表 253 「避難行動要支援者」に関連した活動への参加協力(所在地区別)



経年でみると、「必要と思う人の名簿登録の呼びかけ」、「名簿登録者の被災時の安否確認・避難の助け」、「名簿登録が必要と思う人の情報を市や関係機関に提供」全ての項目が減少している。

図表 254 「避難行動要支援者」に関連した活動への参加協力（経年比較）



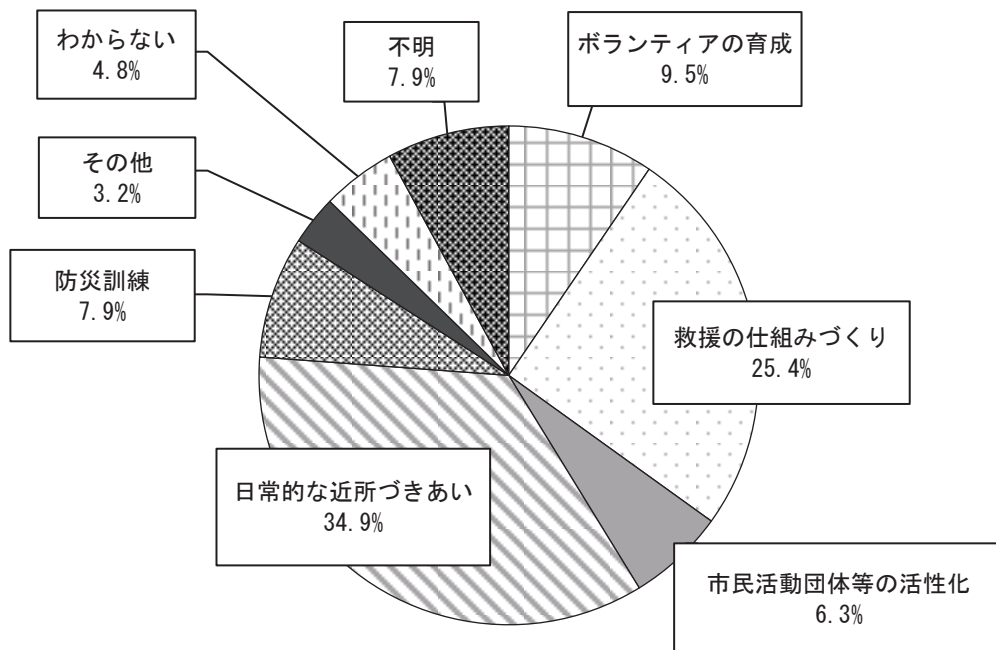
5.調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人

㊸ 災害時における助け合いのために必要な日常的取り組み

問29 災害発生直後には公的な援助はすぐに届かない場合が予想されます。災害時において、お互いを助けあうためには、日常的にどのような取り組みが必要だと思いますか。(〇は1つだけ)

災害時における助け合いのために必要な日常的取り組みをみると、「日常的な近所づきあい」が34.9%で最も多く、次いで「救援の仕組みづくり」が25.4%、「ボランティアの育成」が9.5%となっている。

図表 255 災害時における助け合いのために必要な日常的取り組み

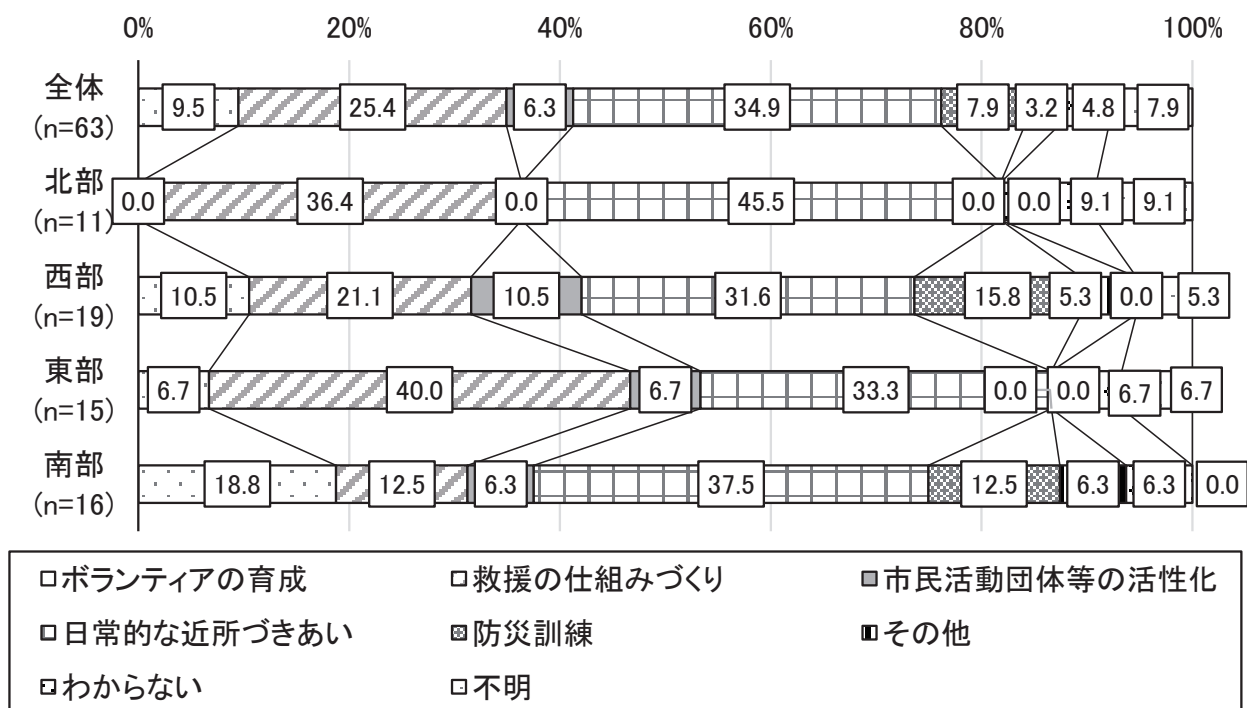


(n=63)

5.調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人

所在地別に見ると、「日常的な近所づきあい」は「北部(45.5%)」、「救援の仕組みづくり」は「東部(40.0%)」、「ボランティアの育成」は「南部(18.8%)」が最も多くなっている。

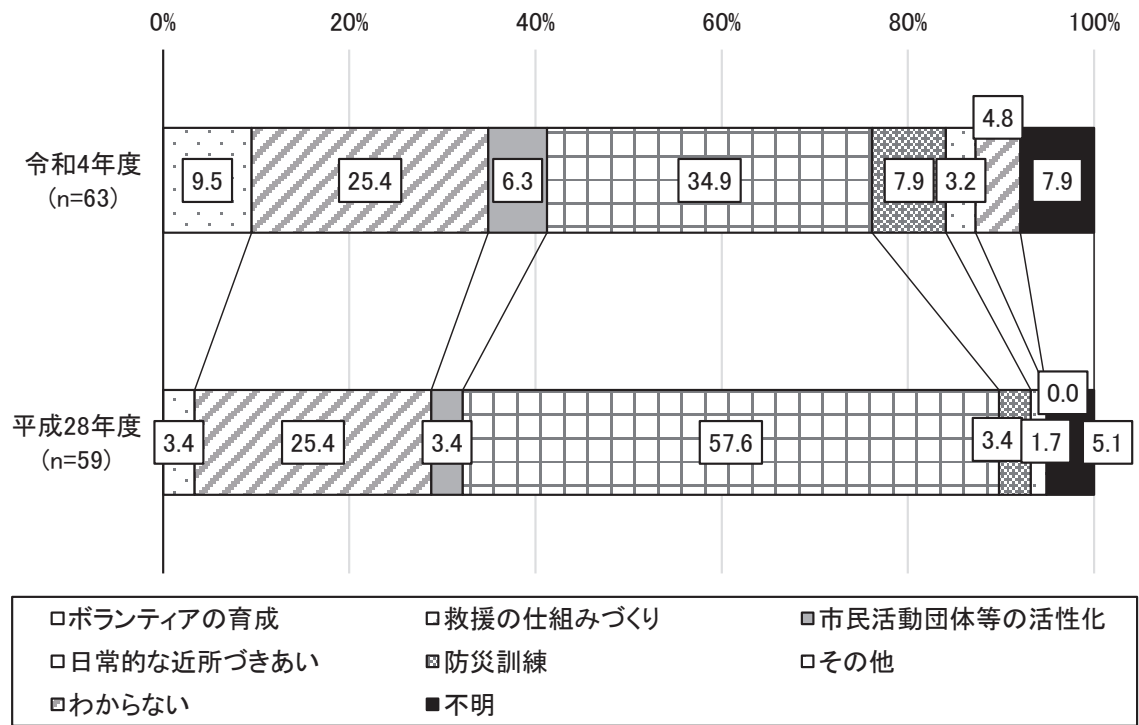
図表 256 災害時における助け合いのために必要な日常的取り組み(所在地別)



5.調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人

経年でみると、「日常的な近所づきあい」が大きく減少している。

図表 257 災害時における助け合いのために必要な日常的取り組み（経年比較）

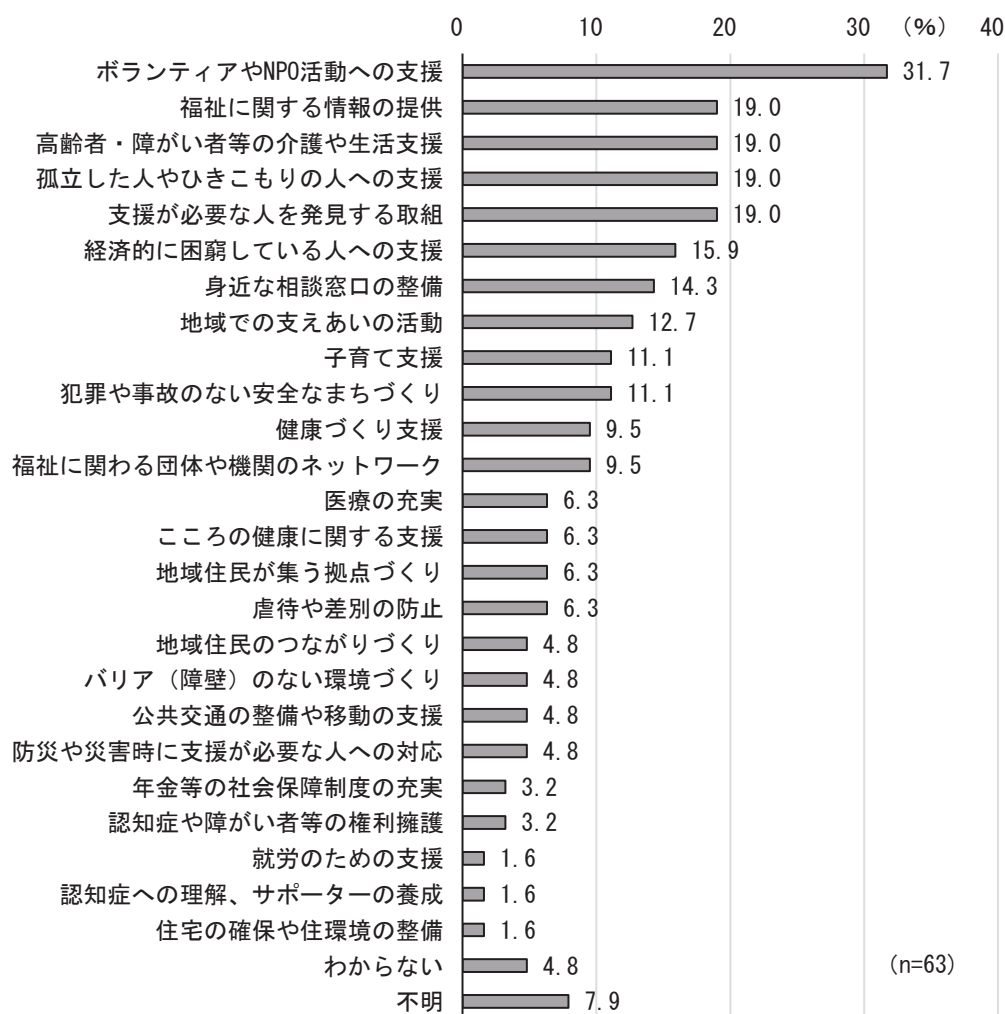


③ 地域福祉の充実のため市が優先的に取り組むべきこと

問30 地域福祉を充実させるために、市川市はどのようなことを特に優先的に取り組むべきだと思いますか。(〇は3つまで)

地域福祉を充実させるために、市が優先的に取り組むべきことをみると、「ボランティアやNPO活動への支援」が31.7%で最も多く、次いで「福祉に関する情報の提供」、「高齢者・障がい者等の介護や生活支援」、「孤立した人やひきこもりの人への支援」、「支援が必要な人を発見する取組」が19.0%となっている。

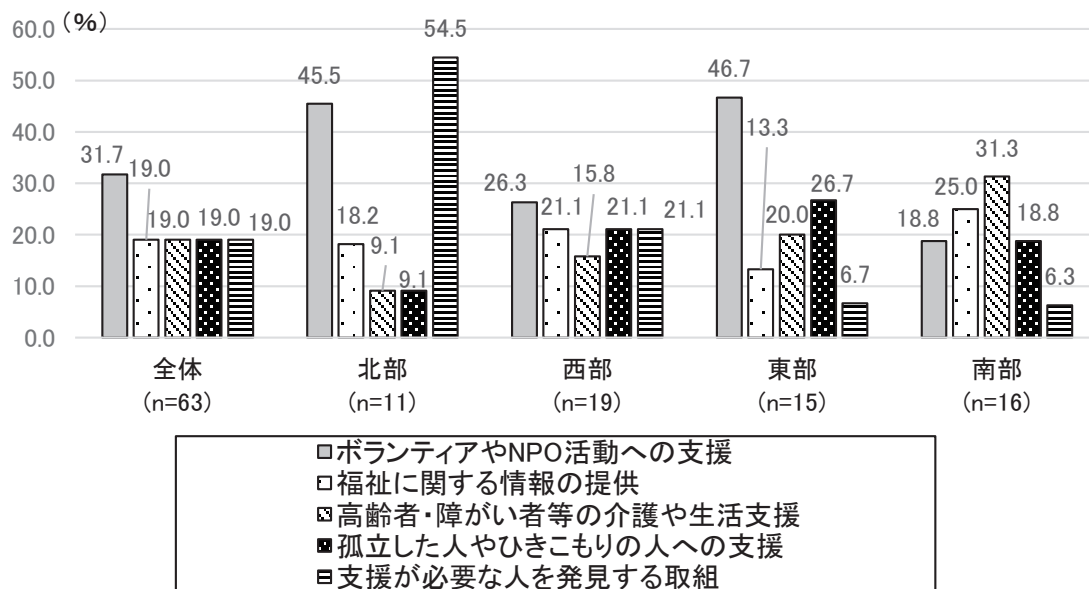
図表 258 地域福祉の充実のため市が優先的に取り組むべきこと



5.調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人

所在地別に見ると、「ボランティアやNPO活動への支援」は「東部(46.7%)」、「福祉に関する情報の提供」は「南部(25.0%)」、「高齢者・障がい者等の介護や生活支援」は「南部(31.3%)」、「孤立した人やひきこもりの人への支援」は「東部(26.7%)」、「支援が必要な人を発見する取組」は「北部(54.5%)」が最も多くなっている。

図表 259 地域福祉の充実のため市が優先的に取り組むべきこと(所在地別)

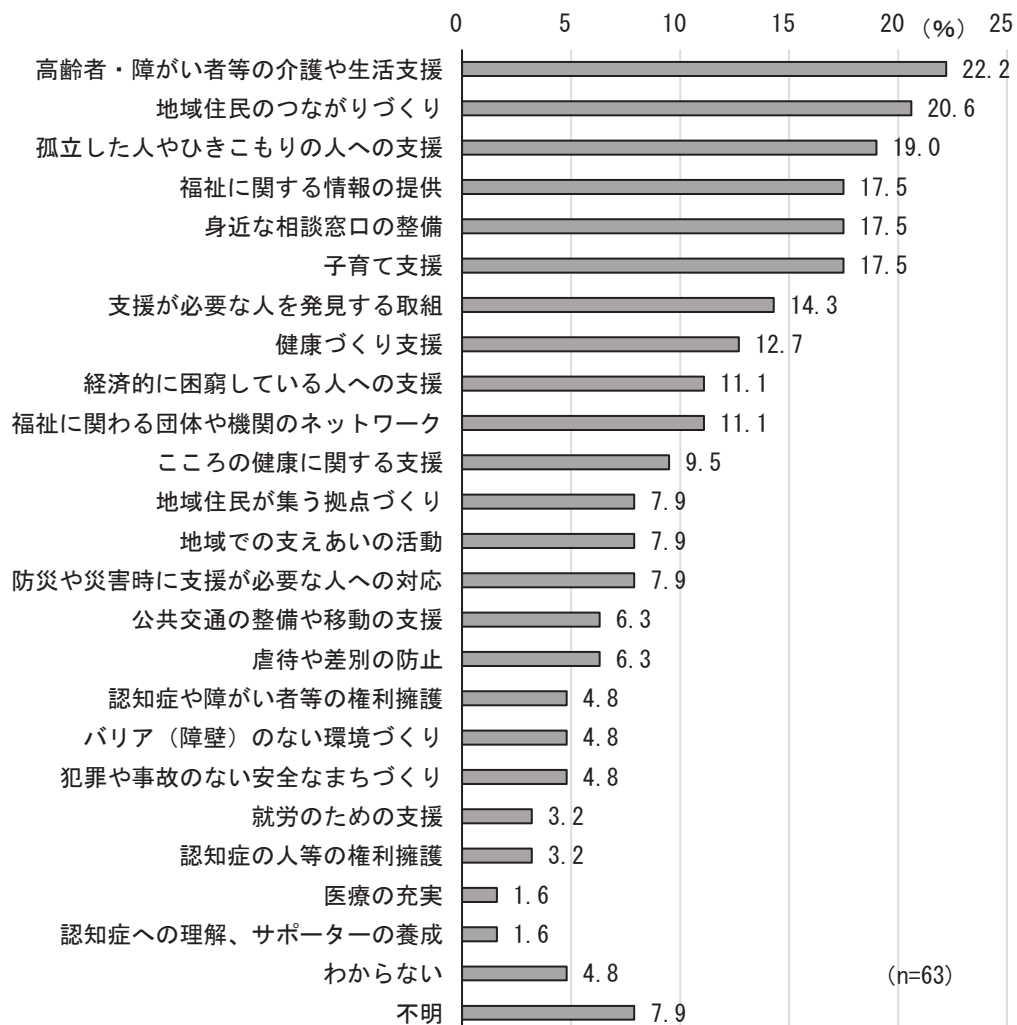


③1 地域や民間の団体・事業者等が積極的に取り組むべきこと

問31 地域や民間の団体・事業者等が積極的に取り組むべきだと思われることはありますか。(〇は3つまで)

地域や民間の団体・事業者等が積極的に取り組むべきことをみると、「高齢者・障がい者等の介護や生活支援」が22.2%で最も多く、次いで「地域住民のつながりづくり」が20.6%、「孤立した人やひきこもりの人への支援」が19.0%となっている。

図表 260 地域や民間の団体・事業者等が積極的に取り組むべきこと

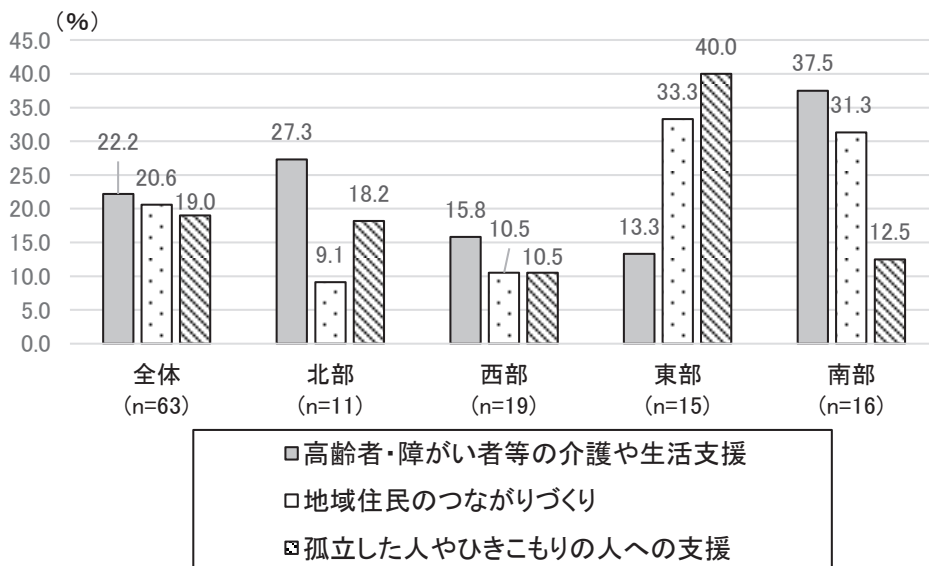


※「年金等の社会保障制度の充実」、「住宅の確保や住環境の整備」の回答者はなし

5.調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人

所在地別に見ると、「高齢者・障がい者等の介護や生活支援」は「南部(37.5%)」、「地域住民のつながりづくり」は「東部(33.3%)」、「孤立した人やひきこもりの人への支援」は「東部(40.0%)」が最も多くなっている。

図表 261 地域や民間の団体・事業者等が積極的に取り組むべきこと(所在地別)

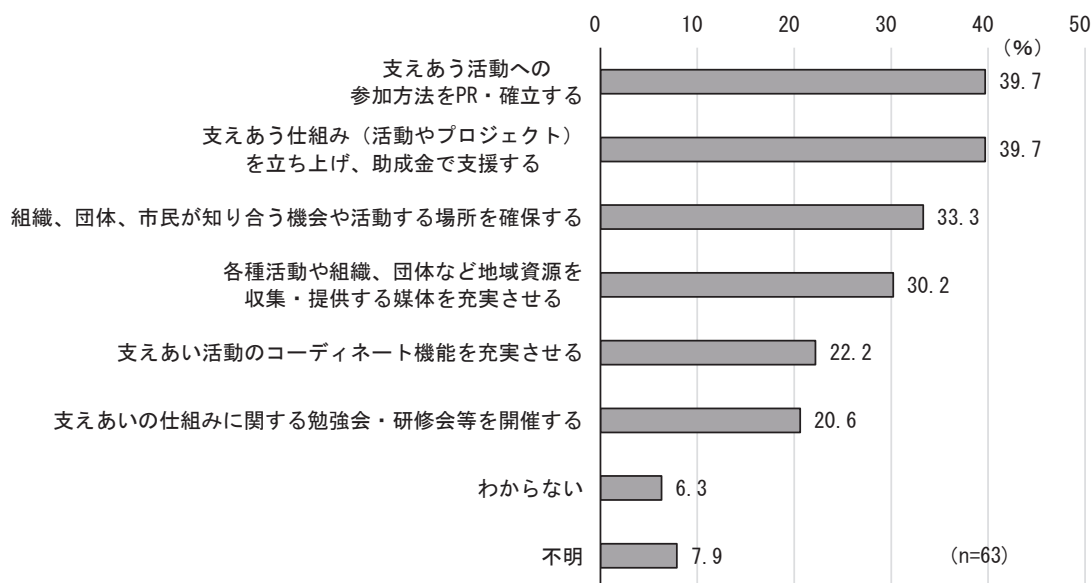


③ 地域で支えあう仕組みづくりのため必要なもの

問32 地域で支えあう仕組みづくりをするために、市川市にとって特に必要と思うものは何ですか。(〇は3つまで)

地域で支えあう仕組みづくりのため必要なものをみると、「支えあう活動への参加方法をPR・確立する」、「支えあう仕組み(活動やプロジェクト)を立ち上げ、助成金で支援する」が39.7%で最も多く、次いで「組織、団体、市民が知り合う機会や活動する場所を確保する」が33.3%となっている。

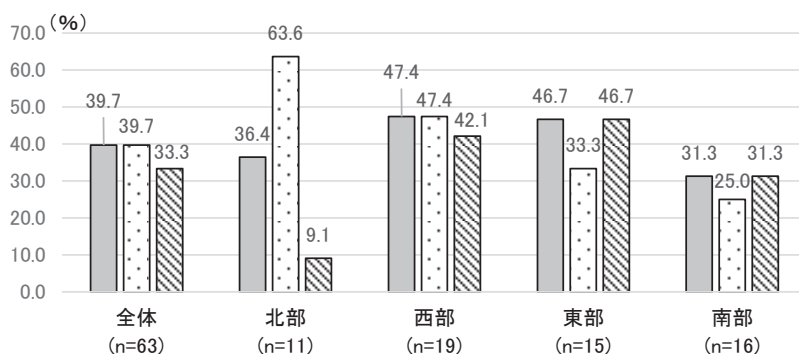
図表 262 地域で支えあう仕組みづくりのため必要なもの



※「その他」の回答者はなし

所在地別に見ると、「支えあう活動への参加方法をPR・確立する」は「西部(47.4%)」、「支えあう仕組み(活動やプロジェクト)を立ち上げ、助成金で支援する」は「北部(63.6%)」、「組織、団体、市民が知り合う機会や活動する場所を確保する」は「東部(46.7%)」が最も多くなっている。

図表 263 地域で支えあう仕組みづくりのため必要なもの(所在地別)



- 支えあう活動への参加方法をPR・確立する
- 支えあう仕組み(活動やプロジェクト)を立ち上げ、助成金で支援する
- 組織、団体、市民が知り合う機会や活動する場所を確保する

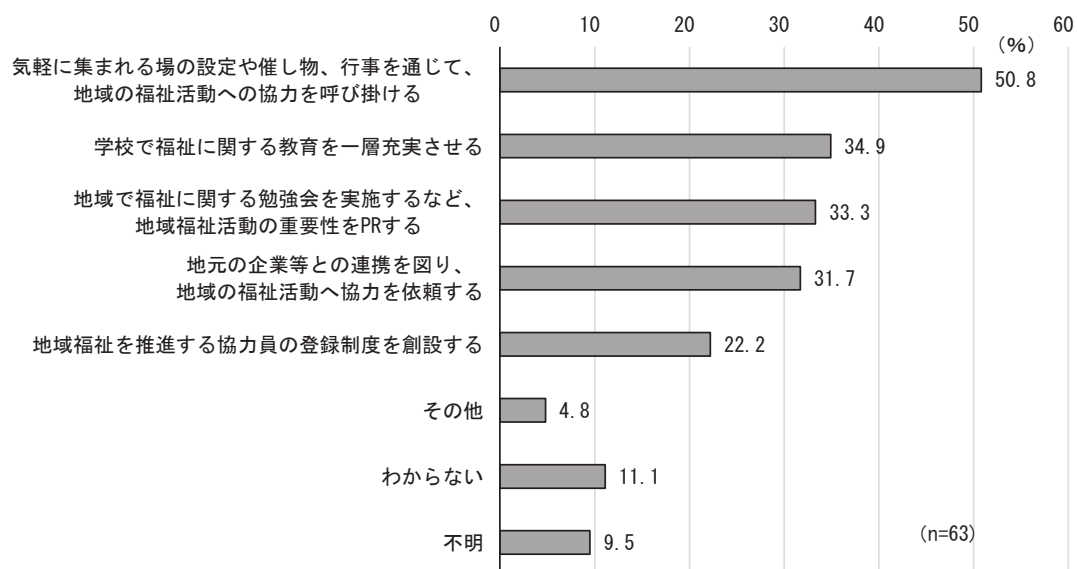
5.調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人

③ 地域福祉を推進する地域の人材（担い手）を増やすために必要なこと

問33 地域福祉を推進する地域の人材(担い手)を増やすには、どのようにしたらよいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

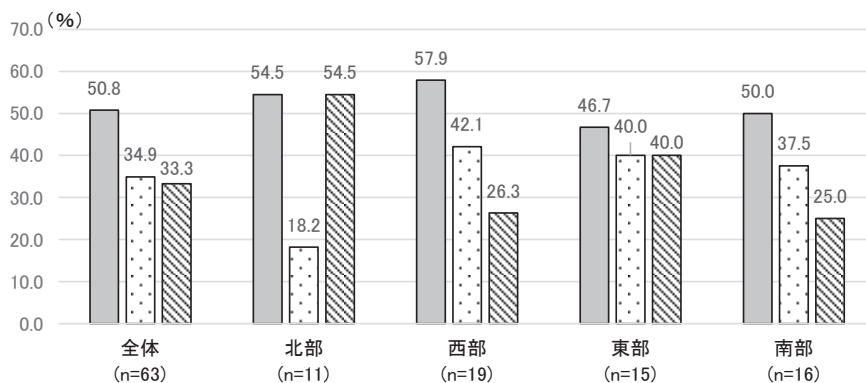
地域福祉を推進する地域の人材(担い手)を増やすために必要なことをみると、「気軽に集まれる場の設定や催し物、行事を通じて、地域の福祉活動への協力を呼び掛ける」が50.8%で最も多く、次いで「学校で福祉に関する教育を一層充実させる」が34.9%、「地域で福祉に関する勉強会を実施するなど、地域福祉活動の重要性をPRする」が33.3%となっている。

図表 264 地域福祉を推進する地域の人材(担い手)を増やすために必要なこと



所在地区別にみると、「気軽に集まれる場の設定や催し物、行事を通じて、地域の福祉活動への協力を呼び掛ける」は「西部(57.9%)」、「学校で福祉に関する教育を一層充実させる」は「西部(42.1%)」、「地域で福祉に関する勉強会を実施するなど、地域福祉活動の重要性をPRする」は「北部(54.5%)」が最も多くなっている。

図表 265 地域福祉を推進する地域の人材(担い手)を増やすために必要なこと(所在地区別)



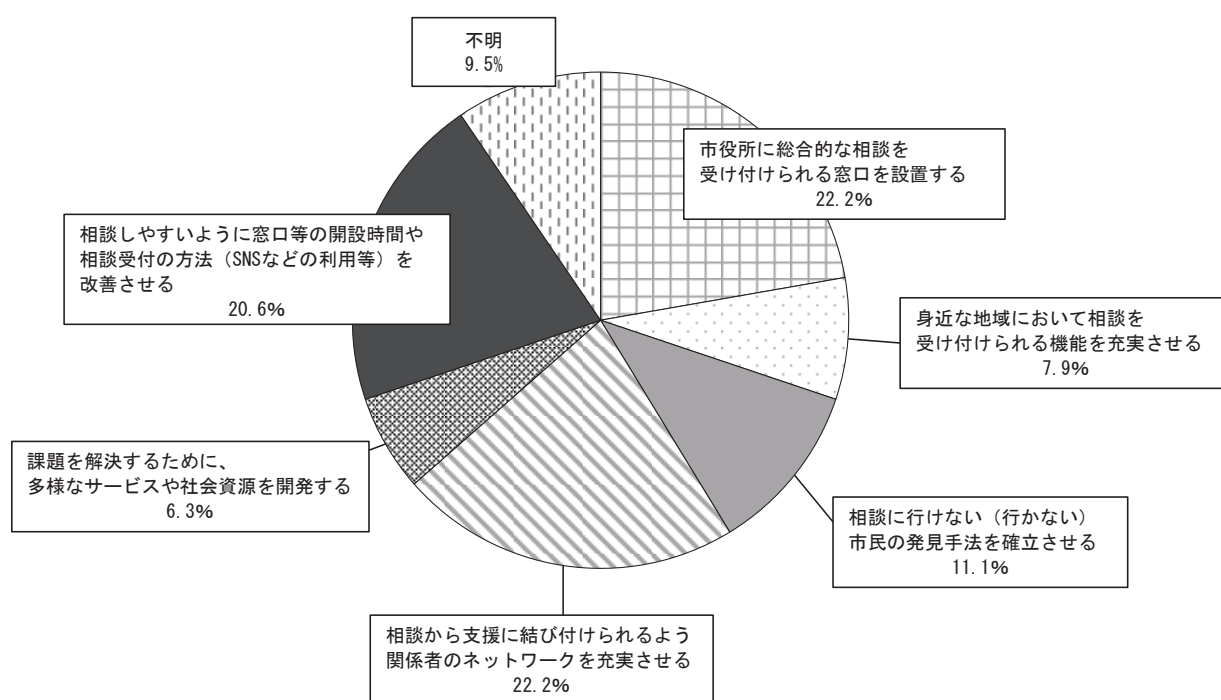
□ 気軽に集まれる場の設定や催し物、行事を通じて、地域の福祉活動への協力を呼び掛ける
□ 学校で福祉に関する教育を一層充実させる
□ 地域で福祉に関する勉強会を実施するなど、地域福祉活動の重要性をPRする

③ 地域共生社会に向け市が力を入れて取り組むべきこと

問34 「地域共生社会」では、多様な生活課題に法制度の枠組みを超えて、横断的に対応する相談支援体制が求められますが、市川市ではこうした包括的な相談支援の仕組みを充実していくうえで、特に優先的に力を入れて取り組むべきことはどのようなことだと思いますか。(〇は1つだけ)

地域共生社会に向け市が力を入れて取り組むべきことをみると、「市役所に総合的な相談を受け付けられる窓口を設置する」、「相談から支援に結び付けられるよう関係者のネットワークを充実させる」が22.2%で最も多く、次いで「相談しやすいように窓口等の開設時間や相談受付の方法(SNSなどの利用等)を改善させる」が20.6%となっている。

図表 266 地域共生社会に向け市が力を入れて取り組むべきこと

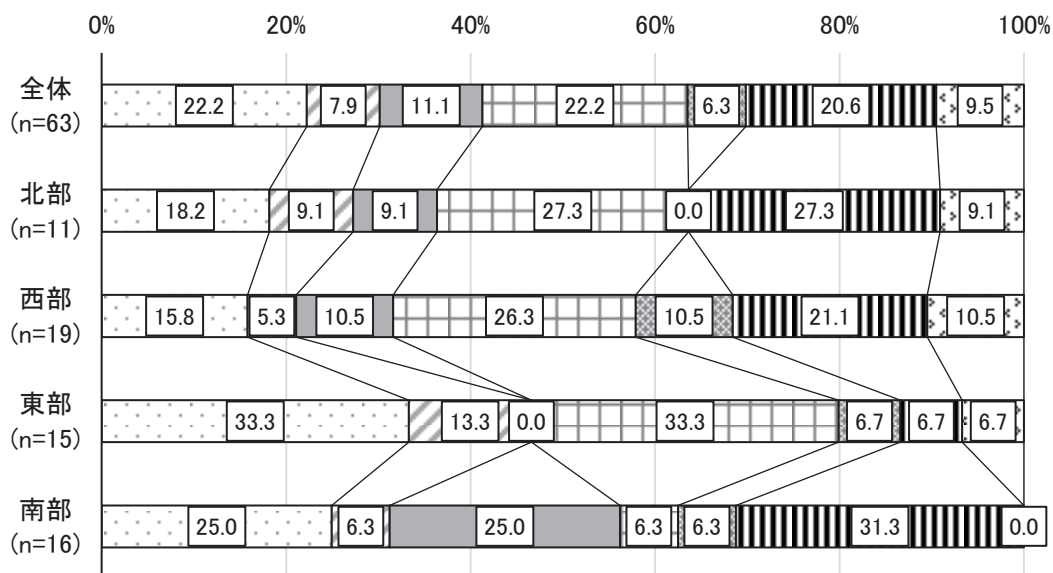


(n=63)

5.調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人

所在地区別にみると、「市役所に総合的な相談を受け付けられる窓口を設置する」、「相談から支援に結び付けられるよう関係者のネットワークを充実させる」は「東部(33.3%)」、「相談しやすいように窓口等の開設時間や相談受付の方法(SNSなどの利用等)を改善させる」は「南部(31.3%)」が最も多くなっている。

図表 267 地域共生社会に向け市が力を入れて取り組むべきこと(所在地区別)



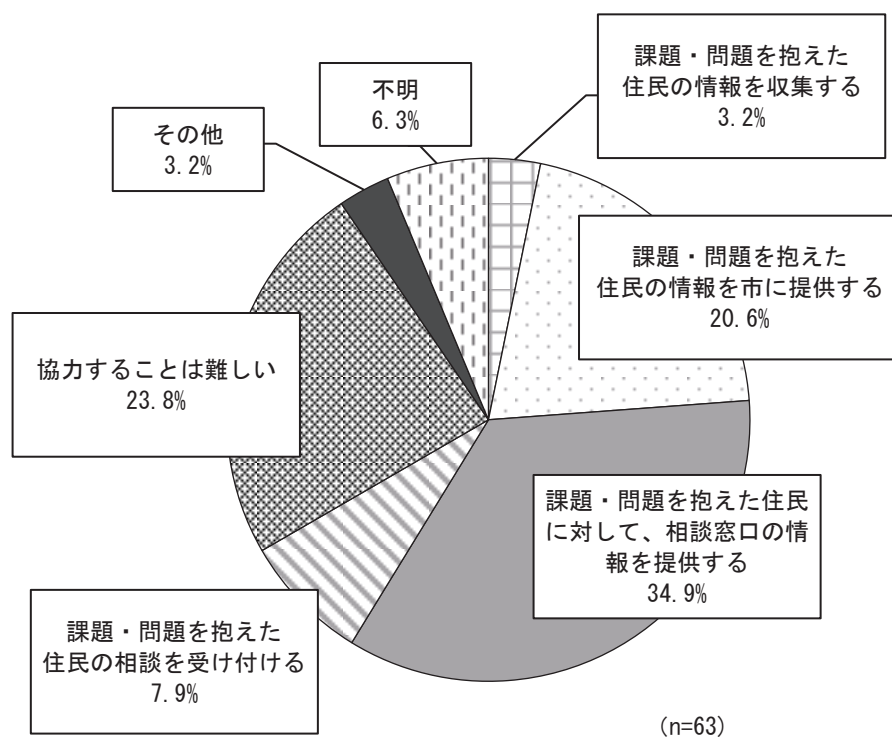
- 市役所に総合的な相談を受け付けられる窓口を設置する
- 身近な地域において相談を受け付けられる機能を充実させる
- 相談に行けない(行かない)市民の発見手法を確立させる
- 相談から支援に結び付けられるよう関係者のネットワークを充実させる
- 課題を解決するために、多様なサービスや社会資源を開発する
- 相談しやすいように窓口等の開設時間や相談受付の方法(SNSなどの利用等)を改善させる
- 不明

③⑤ 課題・問題を抱えた市民発見への協力

問35 相談支援体制を整備する中においては、課題・問題を抱えた市民を発見することも重要となります。貴団体として協力できると考えられるものは何ですか。(〇は1つだけ)

課題・問題を抱えた市民発見への協力をみると、「課題・問題を抱えた住民に対して、相談窓口の情報を提供する」が34.9%で最も多く、次いで「協力することは難しい」が23.8%、「課題・問題を抱えた住民の情報を市に提供する」が20.6%となっている。

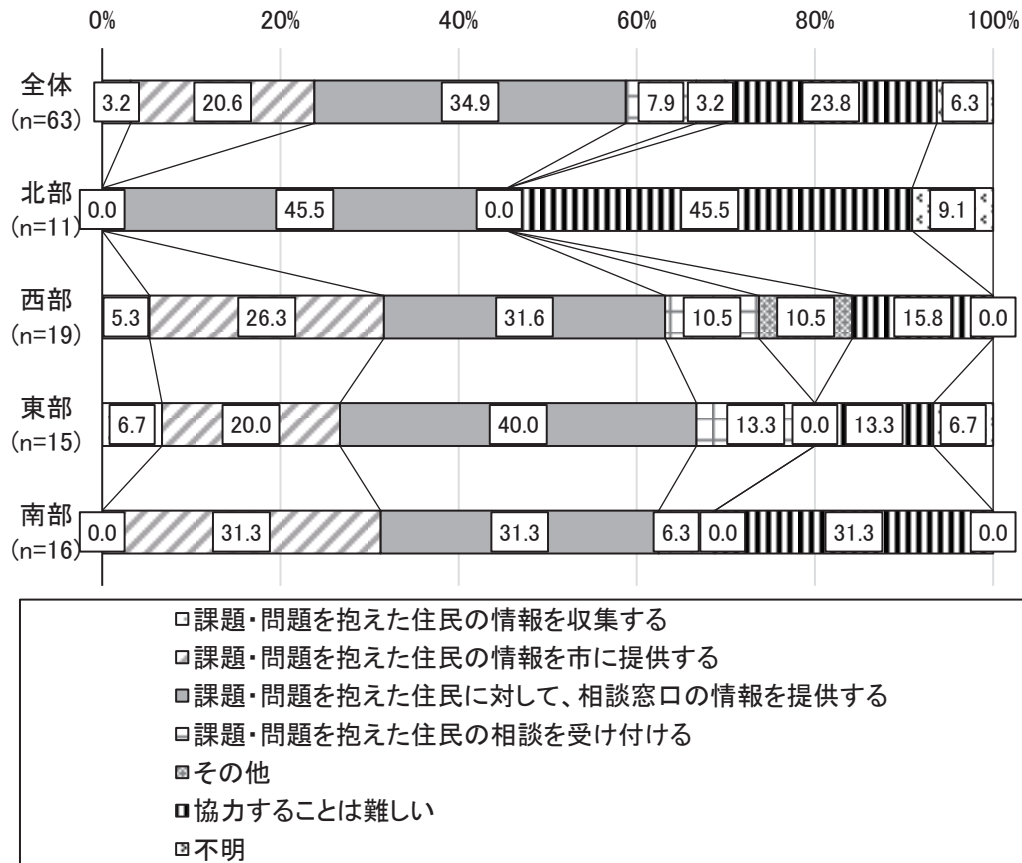
図表 268 課題・問題を抱えた市民発見への協力



5.調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO 法人

所在地区別にみると、「課題・問題を抱えた住民に対して、相談窓口の情報を提供する」、「協力することは難しい」は「北部 45.5%）」、「課題・問題を抱えた住民の情報を市に提供する」は「南部(31.3%)」が最も多くなっている。

図表 269 課題・問題を抱えた市民発見への協力(所在地区別)



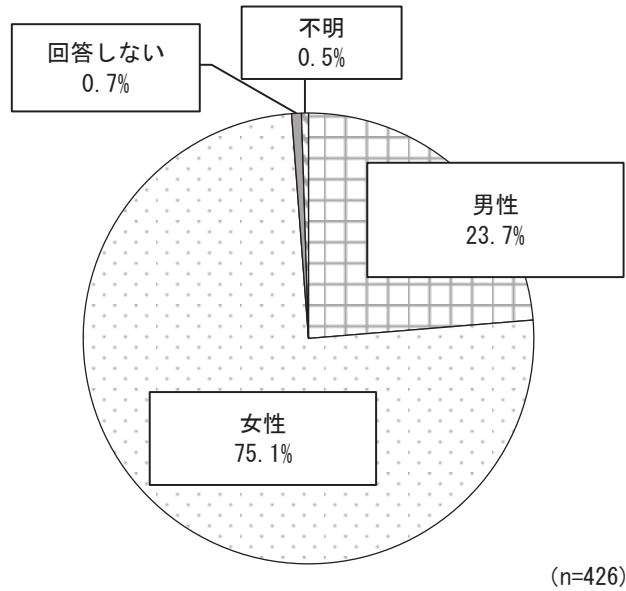
6. 調査結果の詳細／民生委員・児童委員

① 性別

問1 あなたの性別をお答えください。(〇は1つだけ)

性別をみると、「男性」が 23.7%、「女性」が 75.1%、「回答しない」が 0.7%となっている。

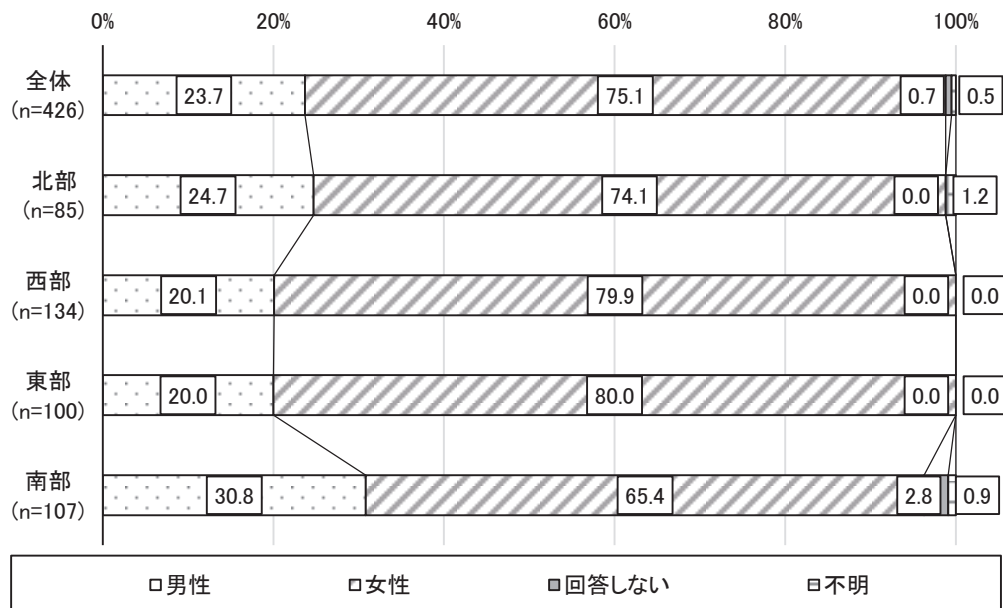
図表 270 性別



※「その他」の回答者はなし

活動・所属地区別にみると、「男性」は「南部(30.8%)」、「女性」は「東部(80.0%)」が最も多くなっている。

図表 271 性別(活動・所属地区別)



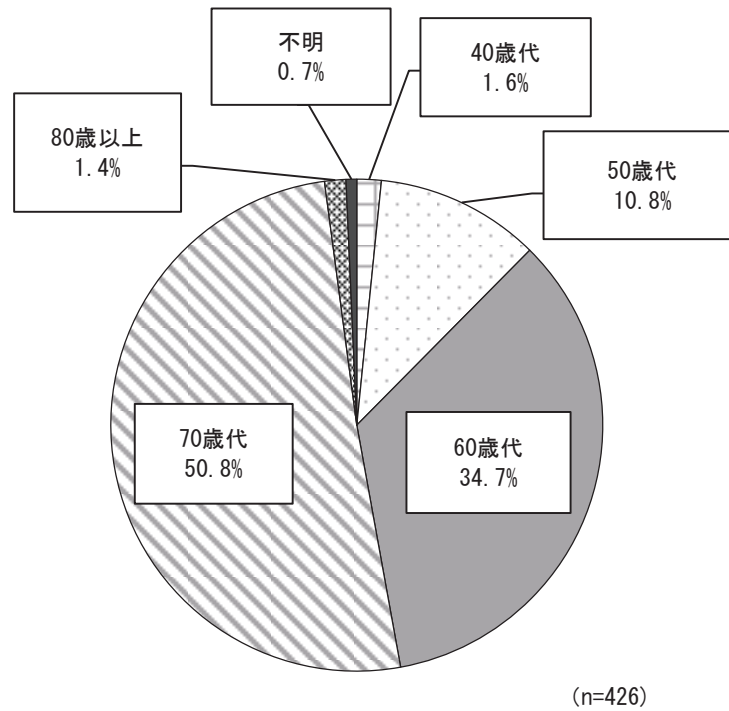
6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

② 年齢

問2 あなたの年齢をお答えください。(〇は1つだけ)

年齢をみると、「70歳代」が50.8%、「60歳代」が34.7%、「50歳代」が10.8%となっている。

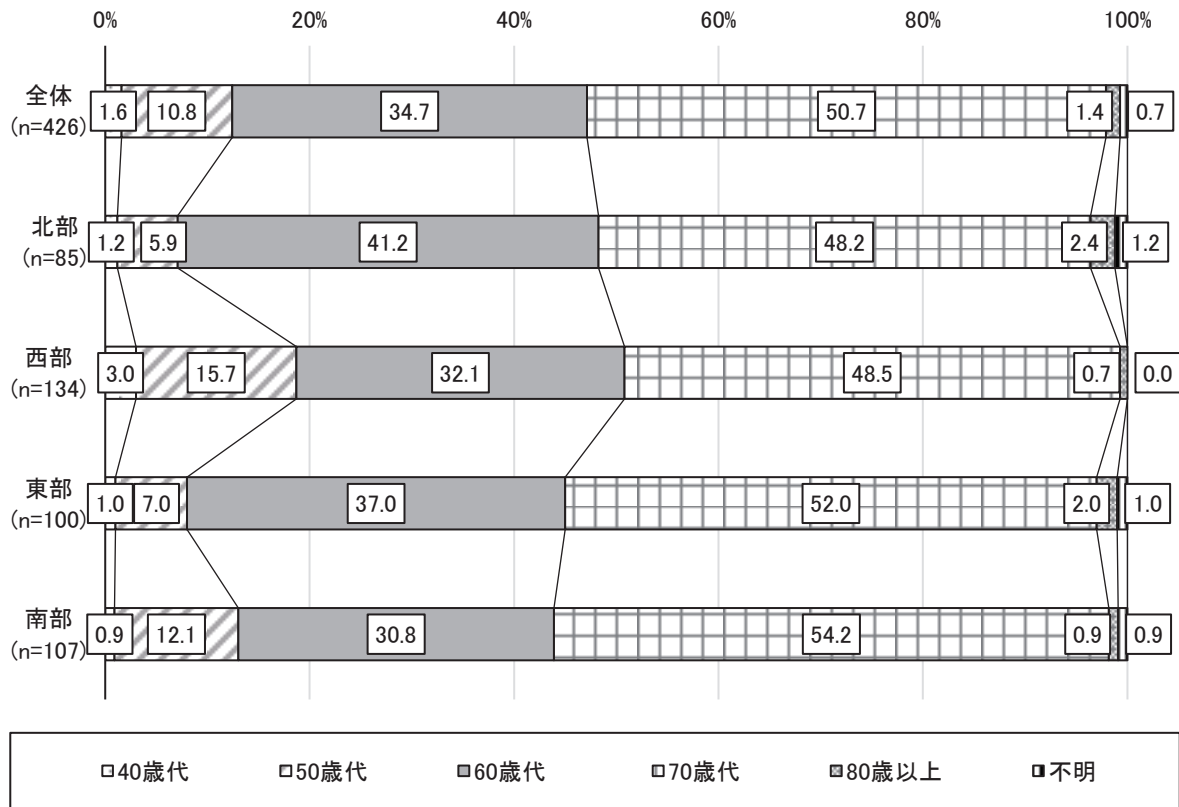
図表 272 年齢



※「39歳以下」の回答者はなし

活動・所属地区別にみると、「50歳代」は「西部(15.7%)」、「60歳代」は「北部(41.2%)」、「70歳代」は「南部(54.2%)」が最も多くなっている。

図表 273 年齢(活動・所属地区別)



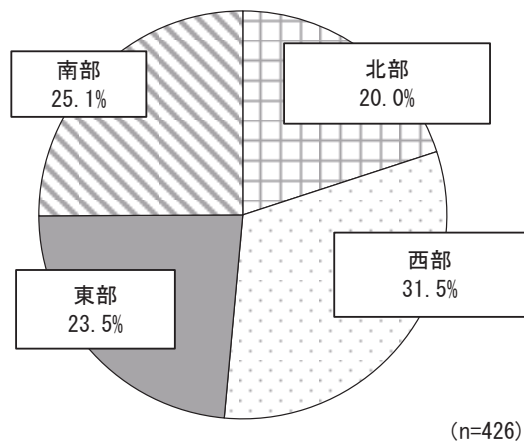
6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

③ 活動・所属地区

問3 あなたの活動する地区、もしくは、あなたの所属する地区は次のうちどれですか。(〇は1つだけ)

活動・所属地区をみると、「西部」が31.5%で最も多く、以下「南部」が25.1%、「東部」が23.5%、「北部」が20.0%となっている。

図表 274 活動・所属地区(地域別)



図表 275 活動・所属地区

(%)

北部				西部				
国分	曾谷	大柏	宮久保・下貝塚	国府台	市川第1	市川第2	真間	菅野・須和田
6.1	3.1	7.0	3.8	1.6	5.9	14.3	2.1	7.5

東部			南部		
八幡	市川東部	信篤・二俣	行徳	南行徳第1	南行徳第2
5.9	12.4	5.2	8.9	9.9	6.3

図表 276 地区の町丁

地区	地区の町丁
1. 国府台地区	国府台
2. 国分地区	国分、中国分、北国分、東国分、稲越、堀之内
3. 曾谷地区	曾谷
4. 大柏地区	大町、大野町、南大野、柏井町、奉免町
5. 宮久保・下貝塚地区	宮久保、下貝塚
6. 市川第1地区	市川、市川南(3・4丁目)、真間(1丁目)
7. 市川第2地区	市川南(1・2・5丁目)、新田、平田、大洲、大和田、東大和田、稲荷木
8. 真間地区	真間(2～5丁目)
9. 菅野・須和田地区	菅野、東菅野、須和田
10. 八幡地区	八幡、南八幡
11. 市川東部地区	北方町、本北方、北方、若宮、中山、高石神、鬼越、鬼高
12. 信篤・二俣地区	田尻、高谷、原木、二俣、二俣新町、東浜、上妙典、高谷新町
13. 行徳地区	河原、下新宿、本行徳、関ヶ島、伊勢宿、本塩、妙典、下妙典、富浜、塩焼、末広、宝、幸、加藤新田、高浜町、千鳥町
14. 南行徳第1地区	押切、湊、湊新田、香取、欠真間、相之川、広尾、新井、南行徳、島尻
15. 南行徳第2地区	行徳駅前、入船、日之出、福栄、新浜、塩浜

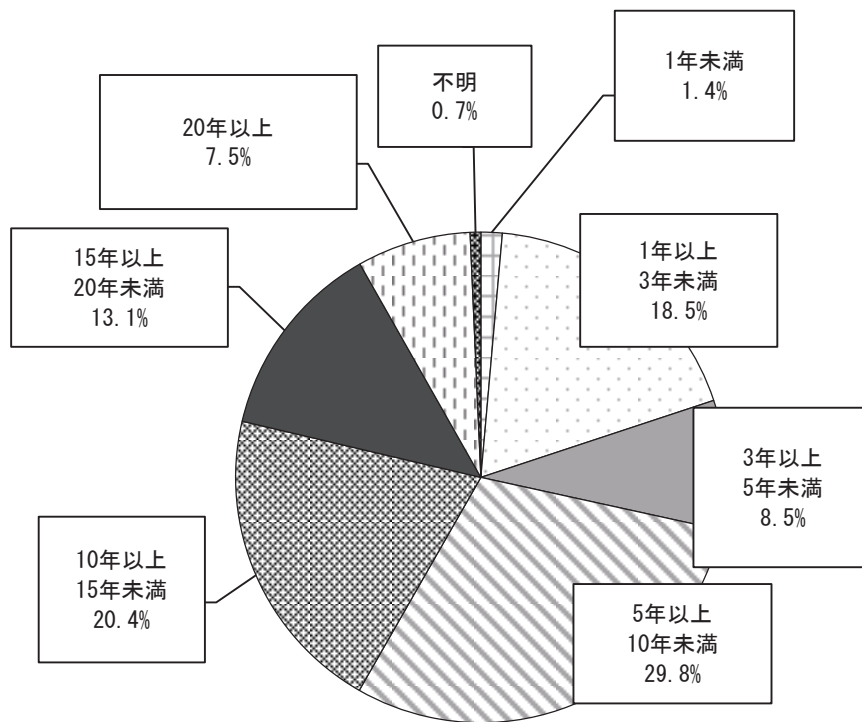
6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

④ 活動年数

問4 あなたは、民生委員・児童委員の活動をされてどのくらいになりますか。通算の年数でお答えください。(〇は1つだけ)

活動年数をみると、「5年以上 10年未満」が29.8%で最も多く、次いで「10年以上 15年未満」が20.4%、「1年以上 3年未満」が18.5%となっている。

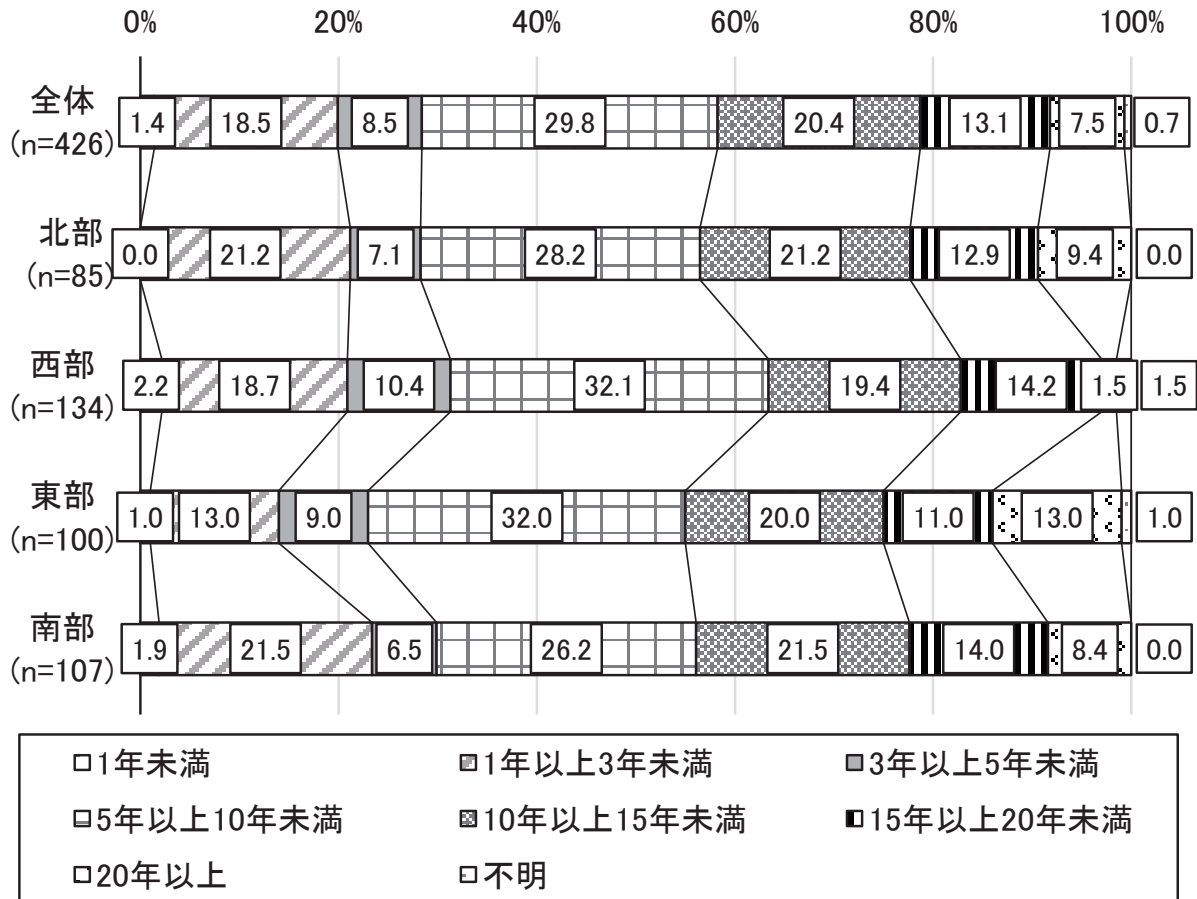
図表 277 活動年数



(n=426)

活動・所属地区別にみると、「1年以上3年未満」は「南部(21.5%)」、「3年以上5年未満」は「西部(10.4%)」、「5年以上10年未満」は「西部(32.1%)」が最も多くなっている。

図表 278 活動年数(活動・所属地区別)

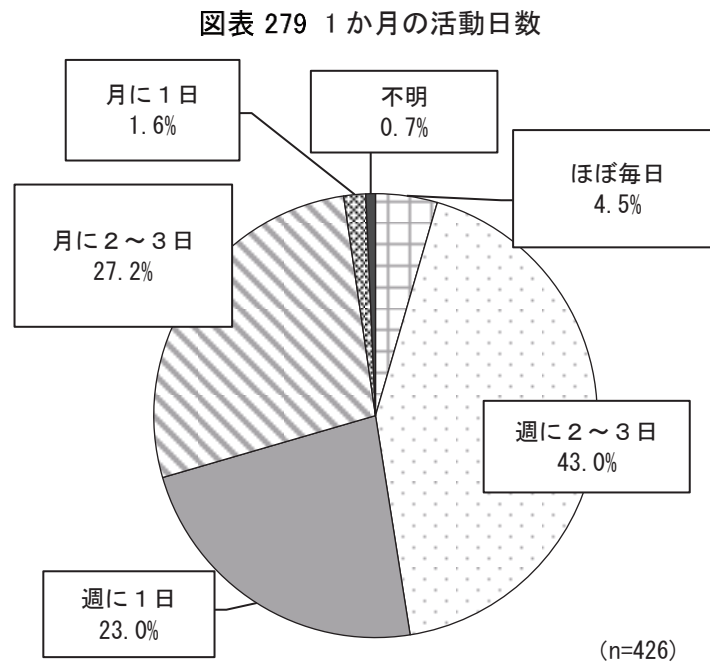


6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

⑤ 1か月の活動日数

問5 民生委員・児童委員としての1か月のおおよその活動日数をお答えください。(○は1つだけ)

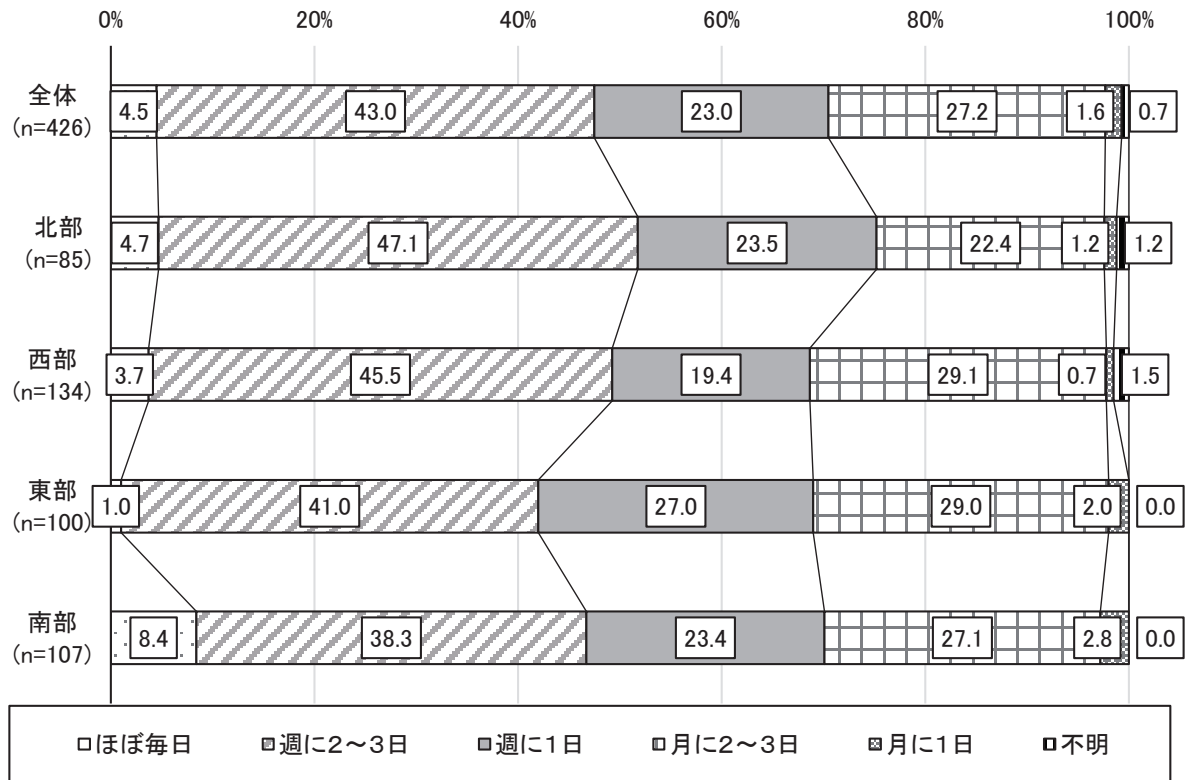
1か月の活動日数をみると、「週に2～3日」が43.0%で最も多く、次いで「月に2～3日」が27.2%、「週に1日」が23.0%となっている。



※「2, 3カ月に1日以下」の回答者はなし

活動・所属地区別にみると、「ほぼ毎日」は「南部(8.4%)」、「週に2～3日」は「北部(47.1%)」、「週に1日」は「東部(27.0%)」が最も多くなっている。

図表 280 1か月の活動日数(活動・所属地区別)



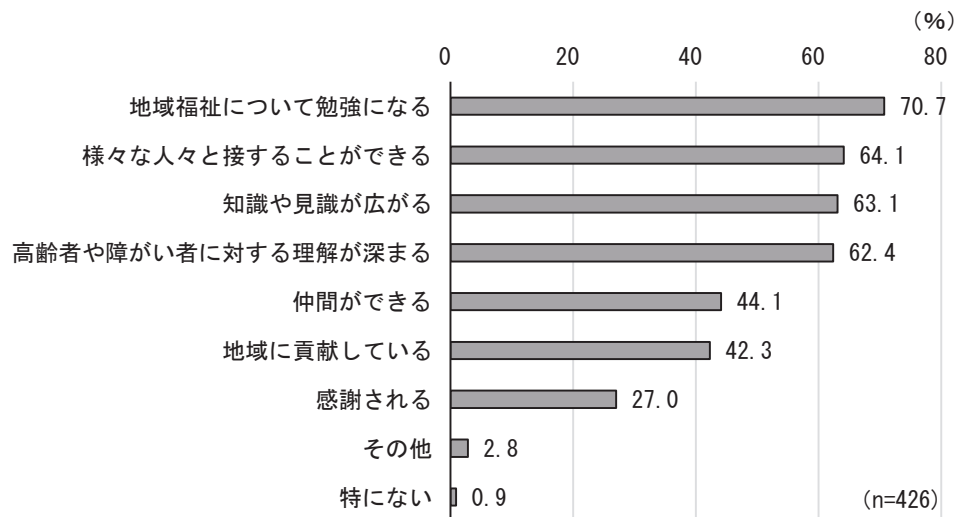
6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

⑥ 活動を通じて良かったこと

問6 民生委員・児童委員の活動を通じて良かったことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

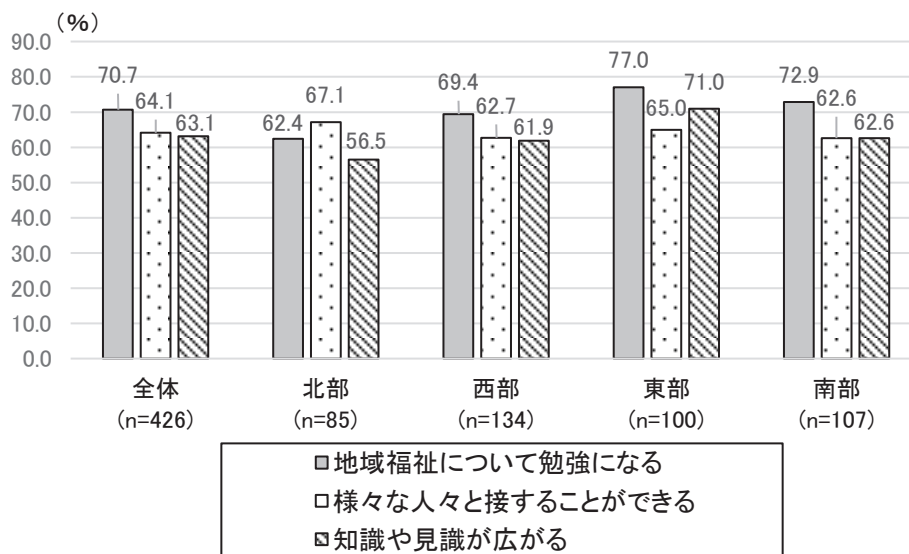
活動を通じて良かったことをみると、「地域福祉について勉強になる」が70.7%で最も多く、次いで「様々な人々と接することができる」が64.1%、「知識や見識が広がる」が63.1%となっている。

図表 281 活動を通じて良かったこと



活動・所属地区別にみると、「地域福祉について勉強になる」は「東部(77.0%)」、「様々な人々と接することができる」は「北部(67.1%)」、「知識や見識が広がる」は「東部(71.0%)」が最も多くなっている。

図表 282 活動を通じて良かったこと(活動・所属地区別)

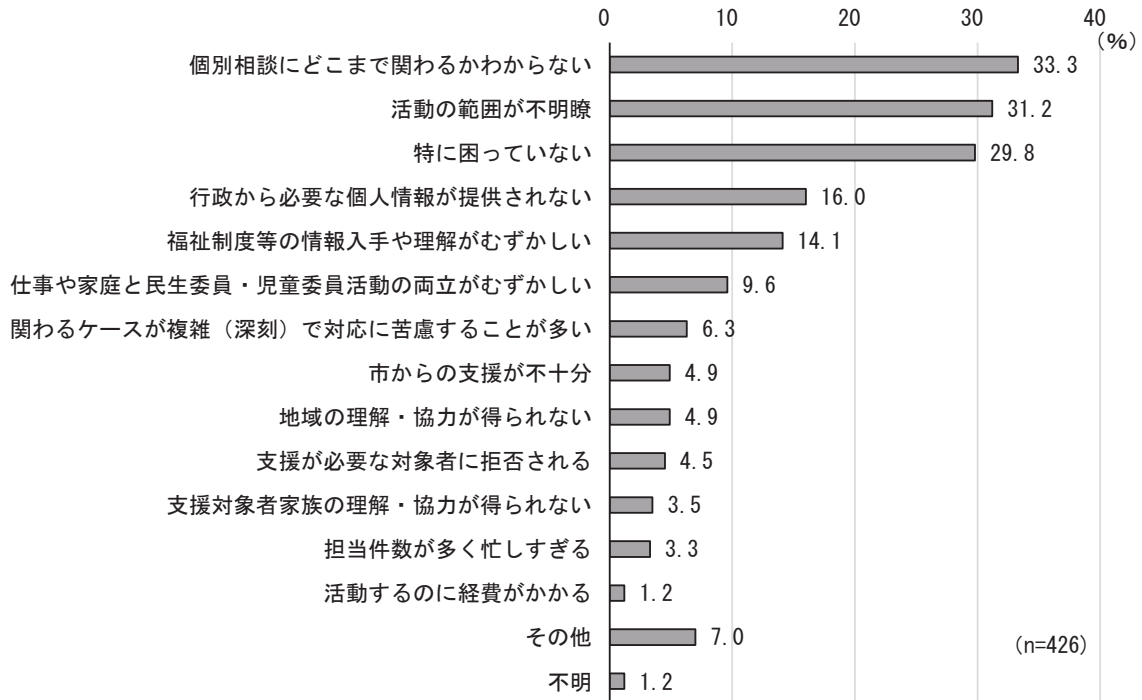


⑦ 活動で大変なこと、困っていること

問7 民生委員・児童委員の活動で大変なこと、または困っていることは何ですか。(〇は3つまで)

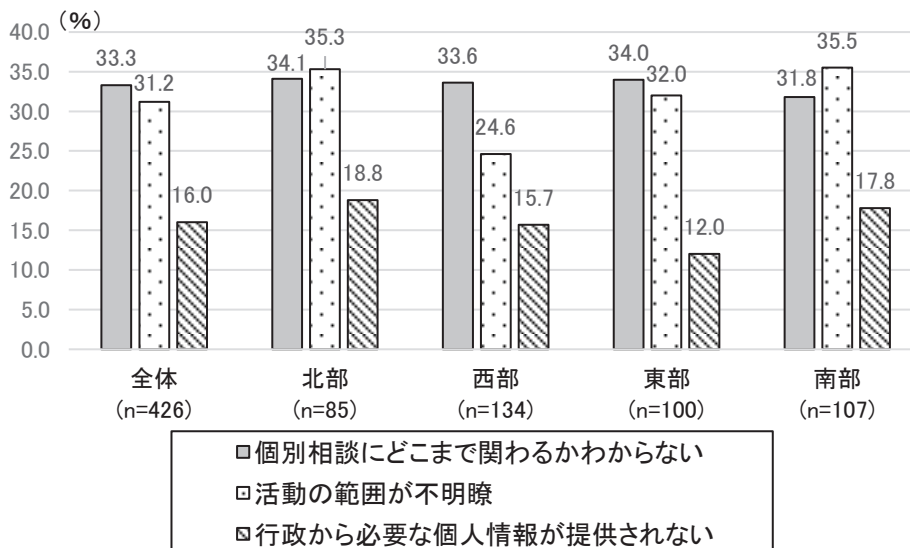
活動で大変なこと、困っていることをみると、「個別相談にどこまで関わるかわからない」が33.3%で最も多く、次いで「活動の範囲が不明瞭」が31.2%、「特に困っていない」が29.8%となっている。

図表 283 活動で大変なこと、困っていること



活動・所属地区別にみると、「個別相談にどこまで関わるかわからない」は「北部(34.1%)」、「活動の範囲が不明瞭」は「南部(35.5%)」、「行政から必要な個人情報が提供されない」は「北部(18.8%)」が最も多くなっている。

図表 284 活動で大変なこと、困っていること(活動・所属地区別)



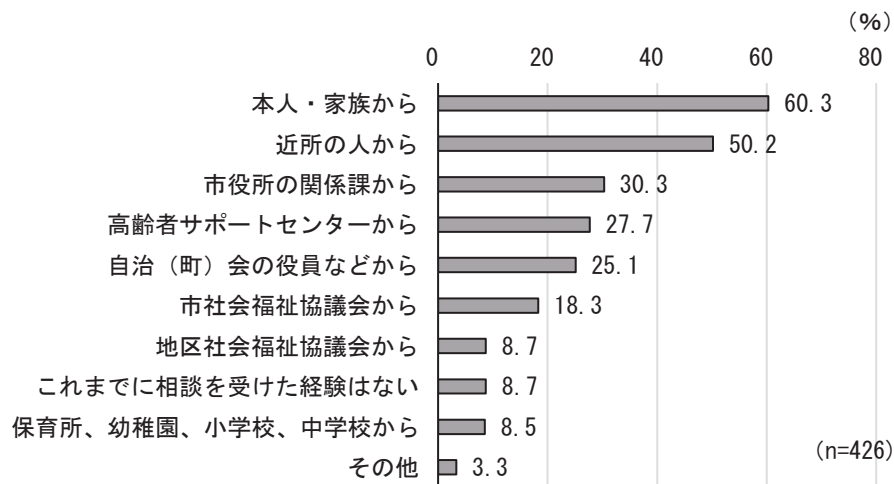
6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

⑧ 相談を受ける経路

問8 住民の困りごとの相談をどのような経路で受けていますか。(あてはまるものすべてに○)

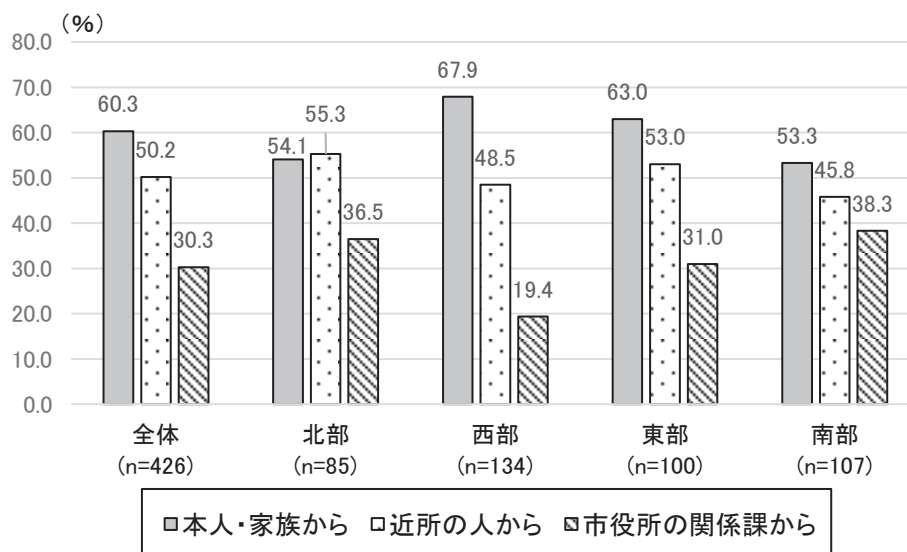
相談を受ける経路をみると、「本人・家族から」が60.3%で最も多く、次いで「近所の人から」が50.2%、「市役所の関係課から」が30.3%となっている。

図表 285 相談を受ける経路



活動・所属地区別にみると、「本人・家族から」は「西部(67.9%)」、「近所の人から」は「北部(55.3%)」、「市役所の関係課から」は「南部(38.3%)」が最も多くなっている。

図表 286 相談を受ける経路(活動・所属地区別)

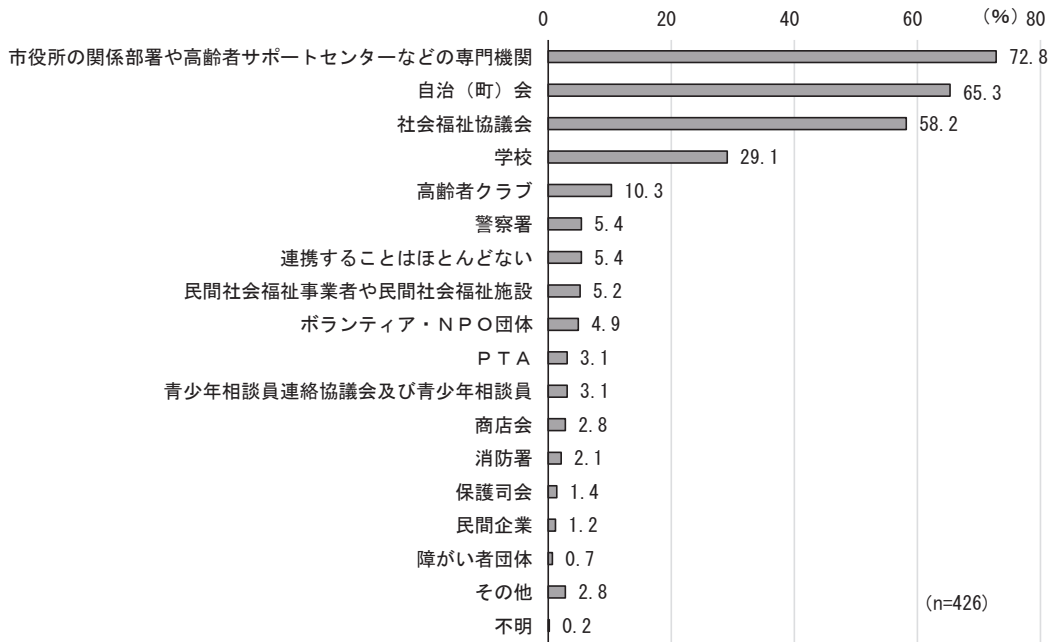


⑨ 地域での活動等の際の連携団体

問9 あなたは、地域での活動等の際に、どのような団体と連携して活動されていますか。(あてはまるものすべてに○)

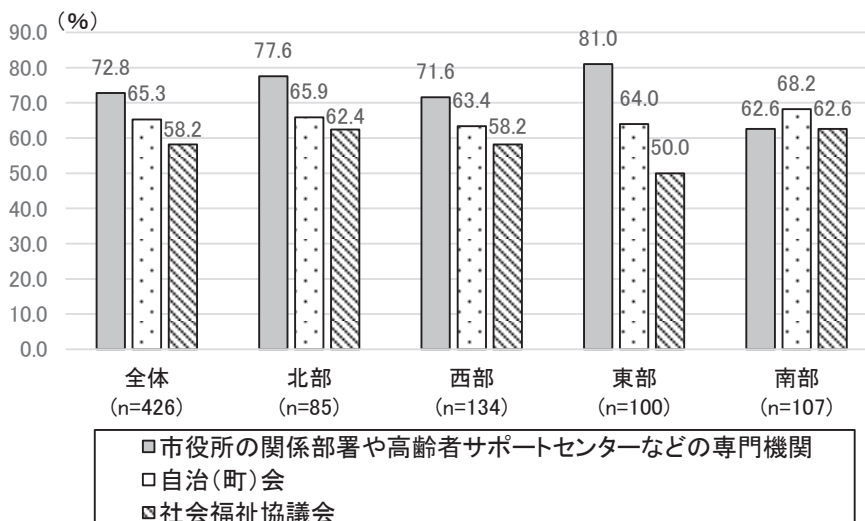
地域での活動等の際の連携団体をみると、「市役所の関係部署や高齢者サポートセンターなどの専門機関」が72.8%で最も多く、次いで「自治(町)会」が65.3%、「社会福祉協議会」が58.2%となっている。

図表 287 地域での活動等の際の連携団体



活動・所属地区別にみると、「市役所の関係部署や高齢者サポートセンターなどの専門機関」は「東部(81.0%)」、「自治(町)会」は「南部(68.2%)」、「社会福祉協議会」は「南部(62.6%)」が最も多くなっている。

図表 288 地域での活動等の際の連携団体(活動・所属地区別)



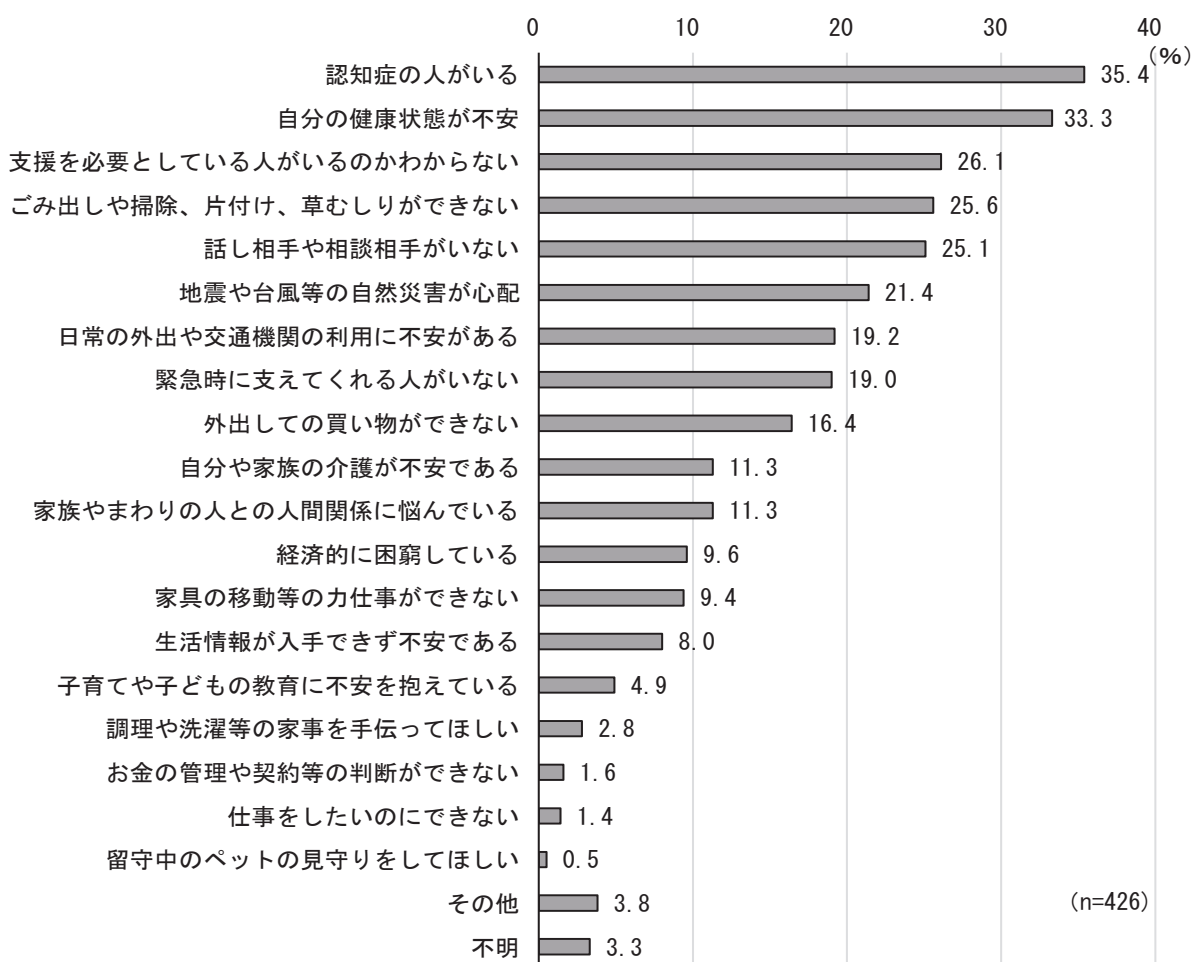
6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

⑩ 担当地区で困っている人の把握

問10 あなたの担当地区で、選択肢にあてはまる人を見たり聞いたりしたことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

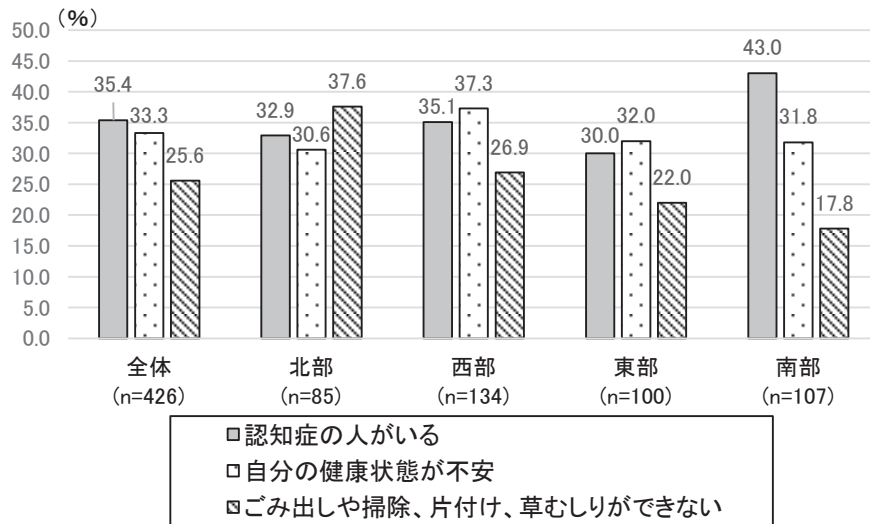
担当地区で困っている人の把握状況を見ると、「認知症の人がいる」が35.4%で最も多く、次いで「自分の健康状態が不安」が33.3%、「支援を必要としている人がいるのかわからない」が26.1%となっている。

図表 289 担当地区で困っている人の把握



活動・所属地区別にみると、「認知症の人がいる」は「南部(43.0%)」、「自分の健康状態が不安」は「西部(37.3%)」、「ごみ出しや掃除、片付け、草むしりができない」は「北部(37.6%)」が最も多くなっている。

図表 290 担当地区で困っている人の把握(活動・所属地区別)



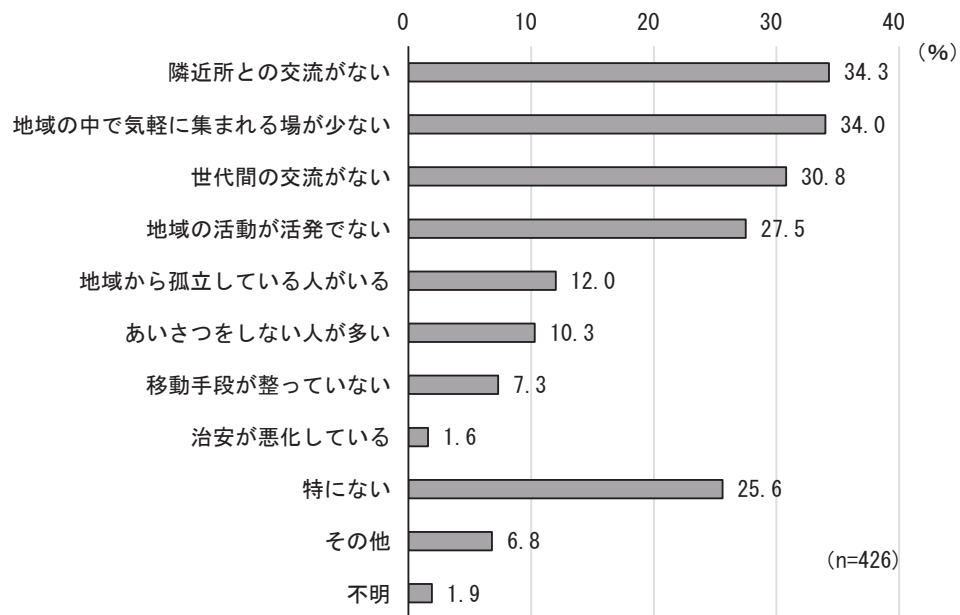
6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

⑪ 担当地区での課題

問11 現在担当している地域の中で課題に感じることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

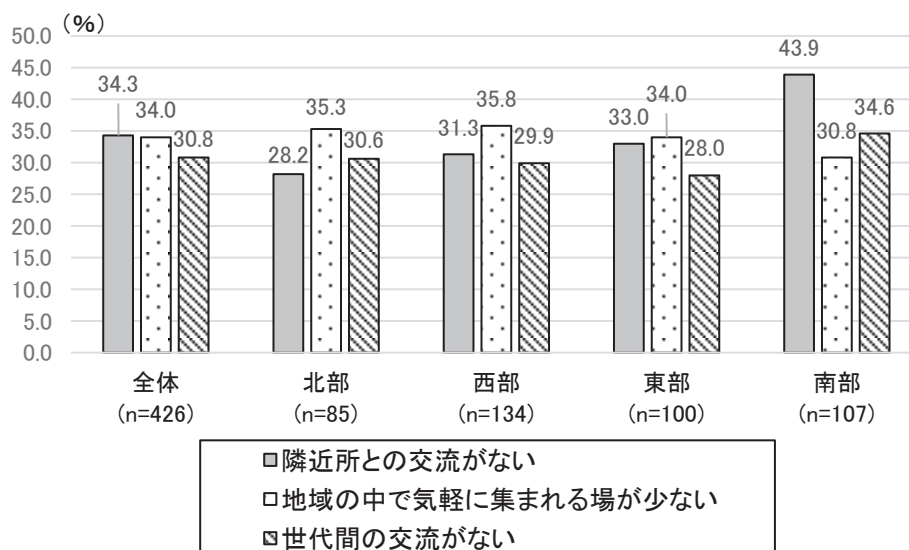
担当地区での課題をみると、「隣近所との交流がない」が34.3%で最も多く、次いで「地域の中で気軽に集まれる場が少ない」が34.0%、「世代間の交流がない」が30.8%となっている。

図表 291 担当地区での課題



活動・所属地区別にみると、「隣近所との交流がない」は「南部(43.9%)」、「地域の中で気軽に集まれる場が少ない」は「西部(35.8%)」、「世代間の交流がない」は「南部(34.6%)」が最も多くなっている。

図表 292 担当地区での課題(活動・所属地区別)

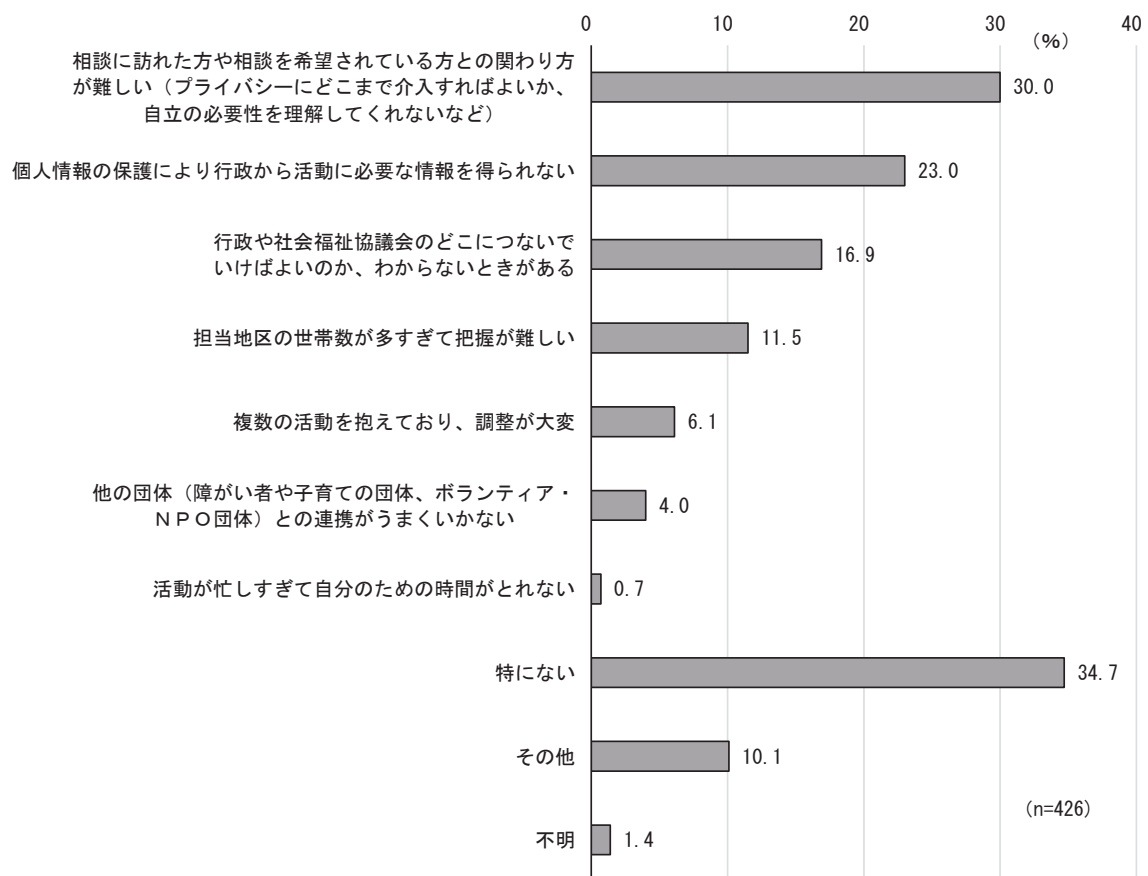


⑫ 活動をする中で抱えている課題

問12 あなたご自身が、民生委員・児童委員活動をする中で抱えている課題は何ですか。(〇は3つまで)

活動をする中で抱えている課題をみると、「相談に訪れた方や相談を希望されている方との関わり方が難しい(プライバシーにどこまで介入すればよいか、自立の必要性を理解してくれないなど)」が30.0%で最も多く、次いで「個人情報の保護により行政から活動に必要な情報を得られない」が23.0%、「行政や社会福祉協議会のどこにつないでいけばよいか、わからないときがある」が16.9%となっている。

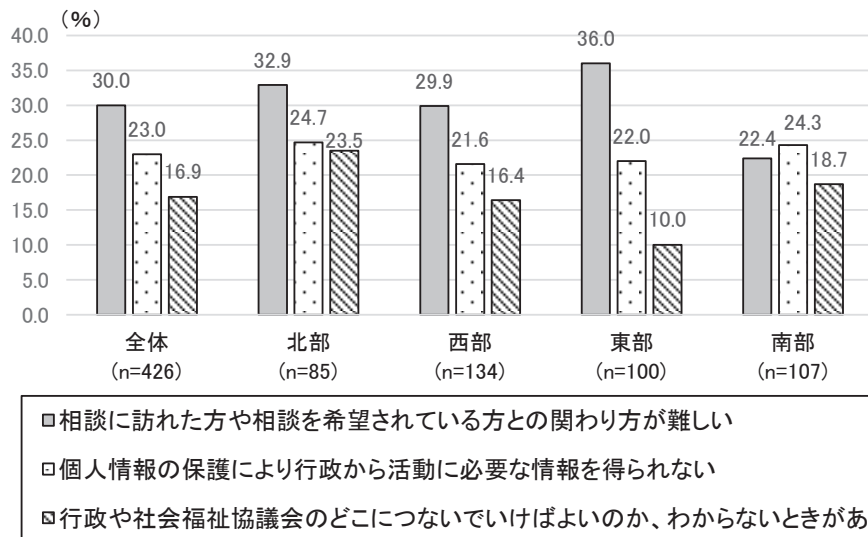
図表 293 活動をする中で抱えている課題



6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

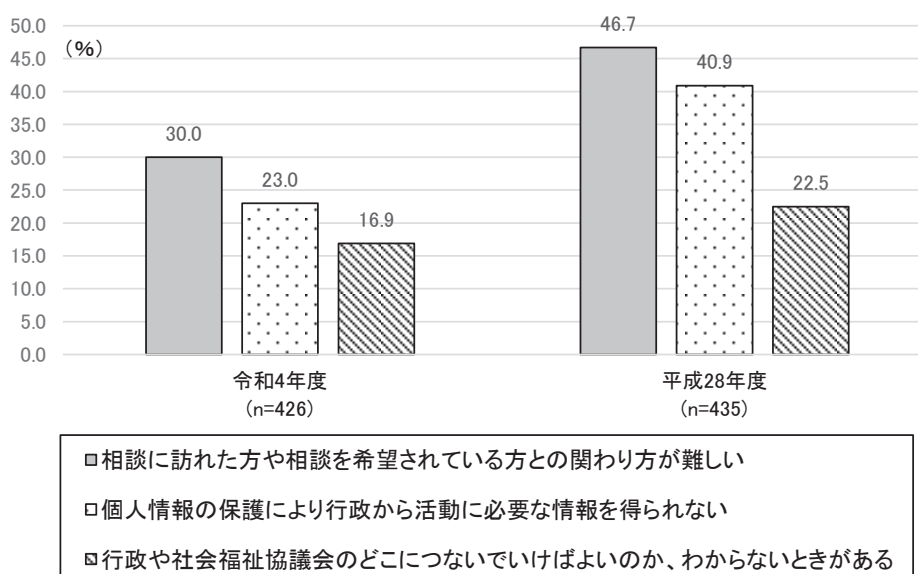
活動・所属地区別にみると、「相談に訪れた方や相談を希望されている方との関わり方が難しい(プライバシーにどこまで介入すればよいか、自立の必要性を理解してくれないなど)」は「東部(36.0%)」、「個人情報保護により行政から活動に必要な情報を得られない」は「北部(24.7%)」、「行政や社会福祉協議会のどこにつないでいけばよいか、わからないときがある」は「北部(23.5%)」が最も多くなっている。

図表 294 活動をする中で抱えている課題(活動・所属地区別)



経年でみると、「相談に訪れた方や相談を希望されている方との関わり方が難しい(プライバシーにどこまで介入すればよいか、自立の必要性を理解してくれないなど)」、「個人情報の保護により行政から活動に必要な情報を得られない」、「行政や社会福祉協議会のどこにつないでいけばよいか、わからないときがある」全ての項目が減少している。

図表 295 活動をする中で抱えている課題(経年比較)

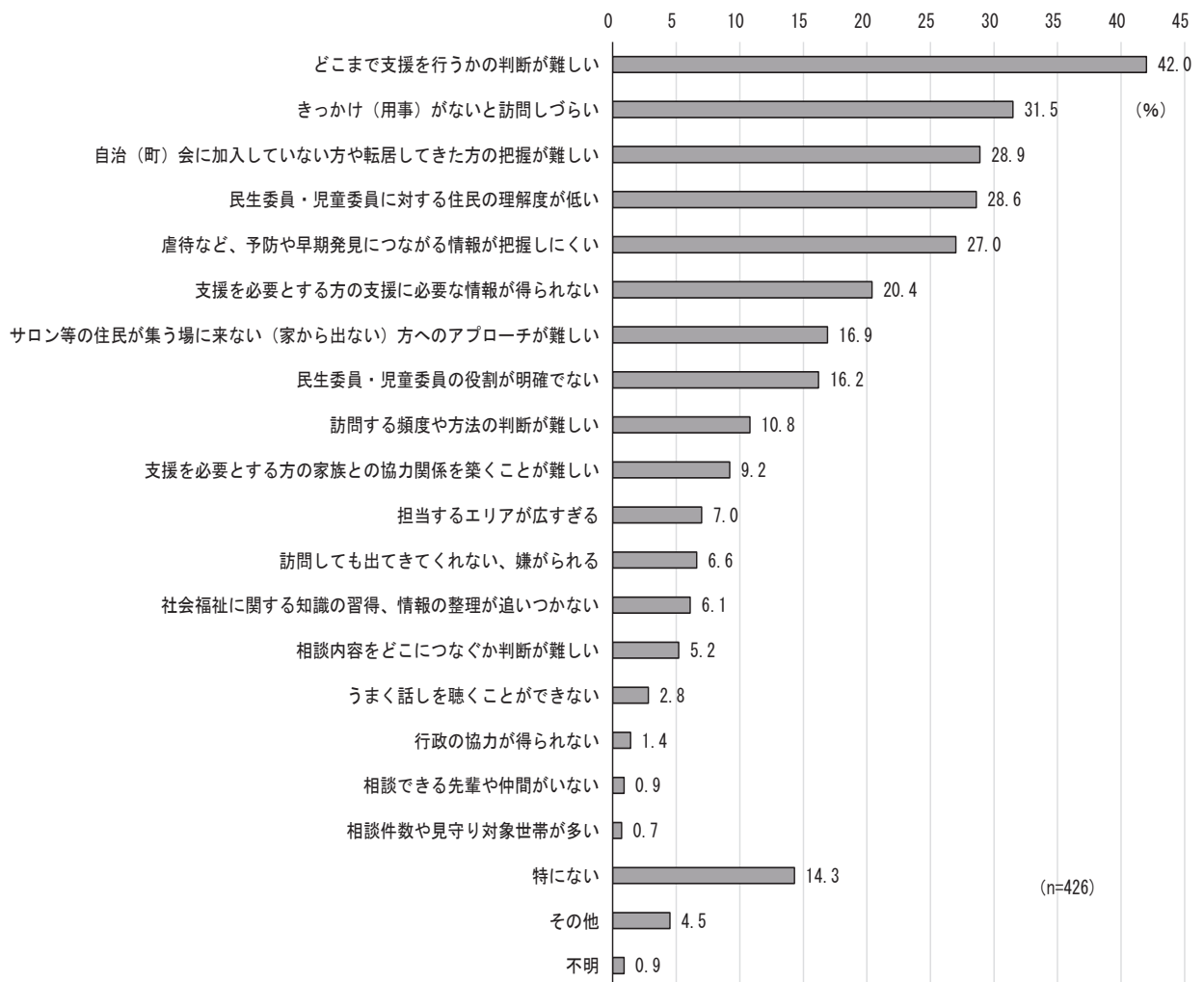


⑬ 個別相談・支援や見守り（安否確認）活動での悩みや課題

問13 個別相談・支援や見守り(安否確認)活動において、悩みや課題となっていることは何ですか。
(〇は5つまで)

個別相談・支援や見守り(安否確認)活動での悩みや課題をみると、「どこまで支援を行うかの判断が難しい」が42.0%で最も多く、次いで「きっかけ(用事)がないと訪問しづらい」が31.5%、「自治(町)会に加入していない方や転居してきた方の把握が難しい」が28.9%となっている。

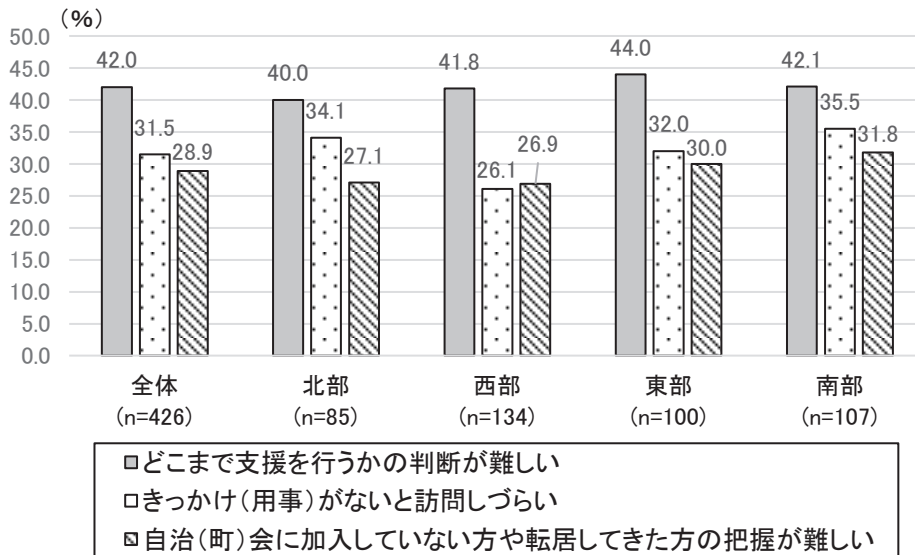
図表 296 個別相談・支援や見守り(安否確認)活動での悩みや課題



6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

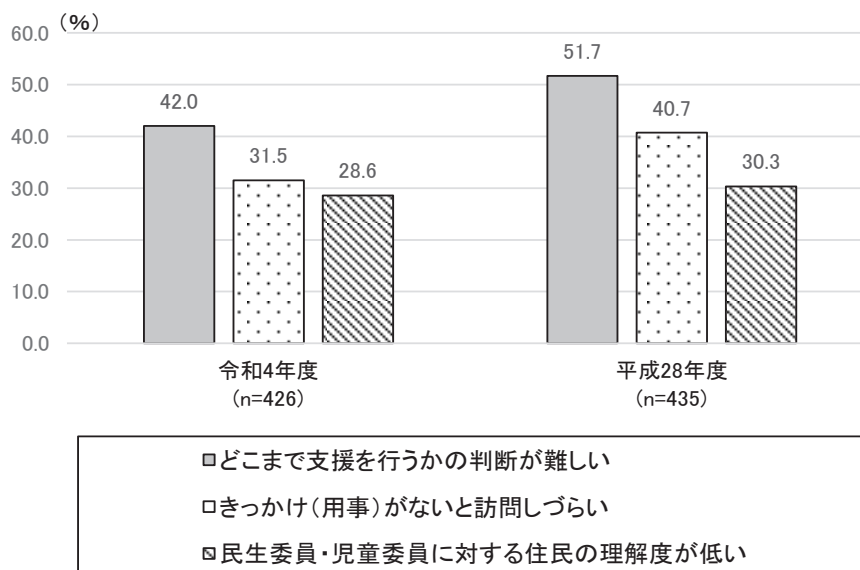
活動・所属地区別にみると、「どこまで支援を行うかの判断が難しい」は「東部(44.0%)」、「きっかけ(用事)がないと訪問しづらい」は「南部(35.5%)」、「自治(町)会に加入していない方や転居してきた方の把握が難しい」は「南部(31.8%)」が最も多くなっている。

図表 297 個別相談・支援や見守り(安否確認)活動での悩みや課題(活動・所属地区別)



経年でみると、「どこまで支援を行うかの判断が難しい」、「きっかけ(用事)がないと訪問しづらい」、「民生委員・児童委員に対する住民の理解度が低い」全ての項目が減少している。

図表 298 個別相談・支援や見守り(安否確認)活動での悩みや課題(経年比較)

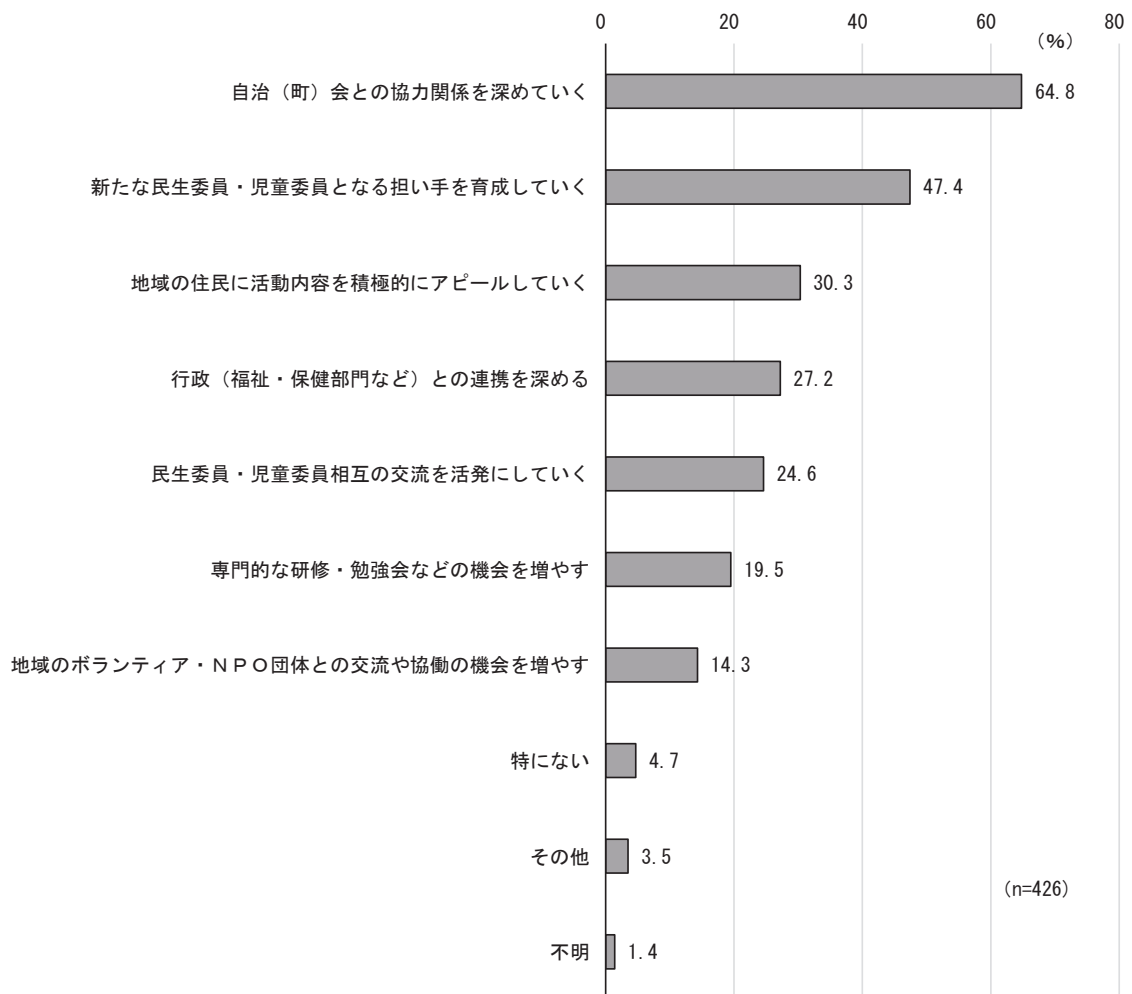


⑭ 今後、活動を活性化していくために、特に必要なこと

問14 今後、民生委員・児童委員活動を活性化していくために、特に必要なことは次のうちどれですか。
(〇は3つまで)

今後、活動を活性化していくために、特に必要なことをみると、「自治(町)会との協力関係を深めていく」が64.8%で最も多く、次いで「新たな民生委員・児童委員となる担い手を育成していく」が47.4%、「地域の住民に活動内容を積極的にアピールしていく」が30.3%となっている。

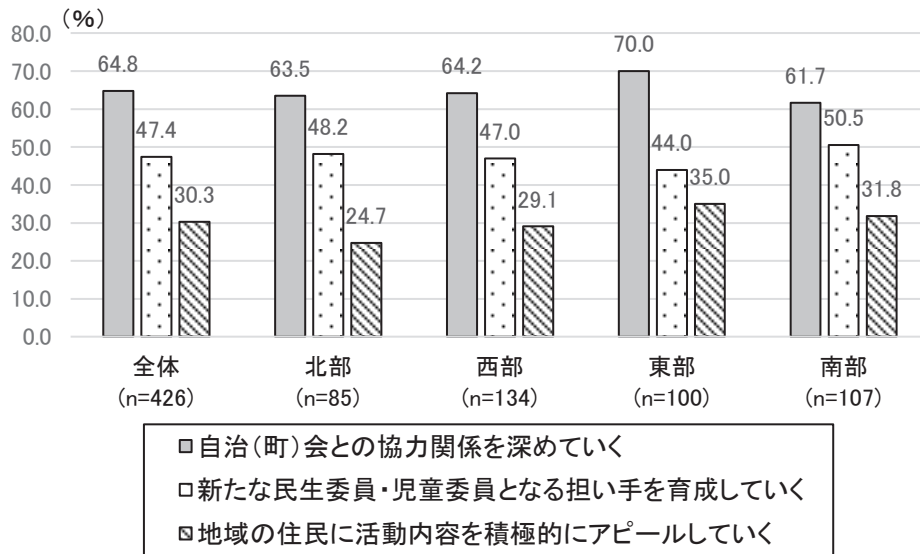
図表 299 今後、活動を活性化していくために、特に必要なこと



6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

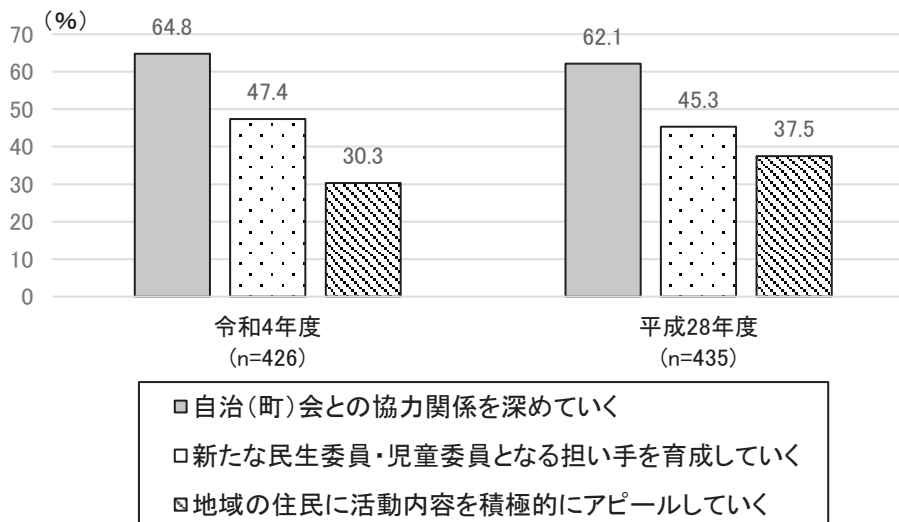
活動・所属地区別にみると、「自治(町)会との協力関係を深めていく」は「東部(70.0%)」、「新たな民生委員・児童委員となる担い手を育成していく」は「南部(50.5%)」、「地域の住民に活動内容を積極的にアピールしていく」は「東部(35.0%)」が最も多くなっている。

図表 300 今後、活動を活性化していくために、特に必要なこと(活動・所属地区別)



経年でみると、「自治(町)会との協力関係を深めていく」、「新たな民生委員・児童委員となる担い手を育成していく」は微増しており、「地域の住民に活動内容を積極的にアピールしていく」は減少している。

図表 301 今後、活動を活性化していくために、特に必要なこと(経年比較)

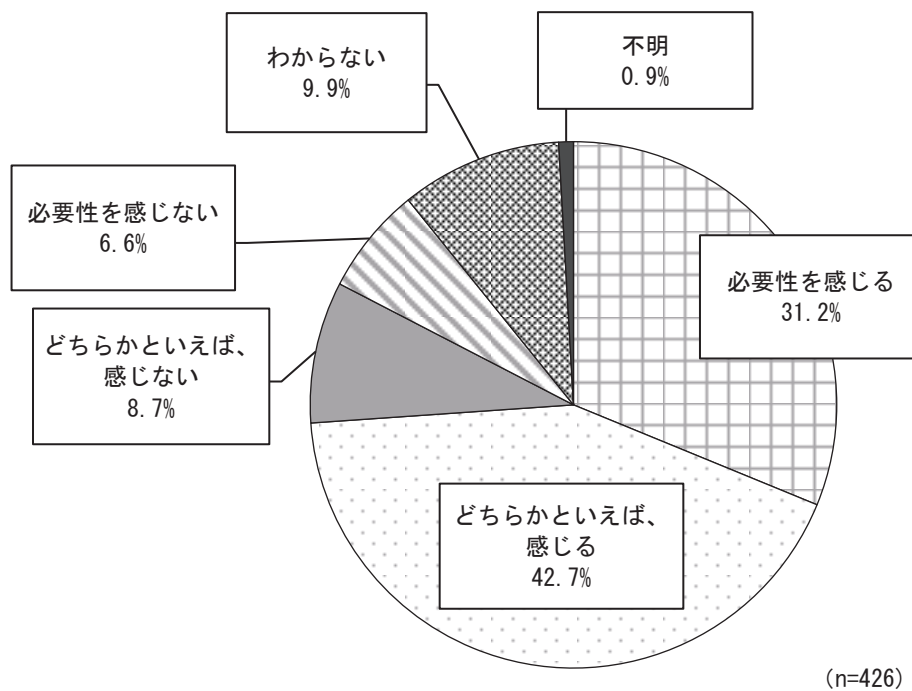


⑮ 活動を行うにあたり、地域住民の中の協力者の必要性

問15 民生委員・児童委員活動を行うにあたって、地域住民の中で協力者の必要性を感じますか。(〇は1つだけ)

活動を行うにあたり、地域住民の中の協力者の必要性をみると、「どちらかといえば、感じる」が42.7%で最も多く、次いで「必要性を感じる」が31.2%、「どちらかといえば、感じない」が8.7%となっている。

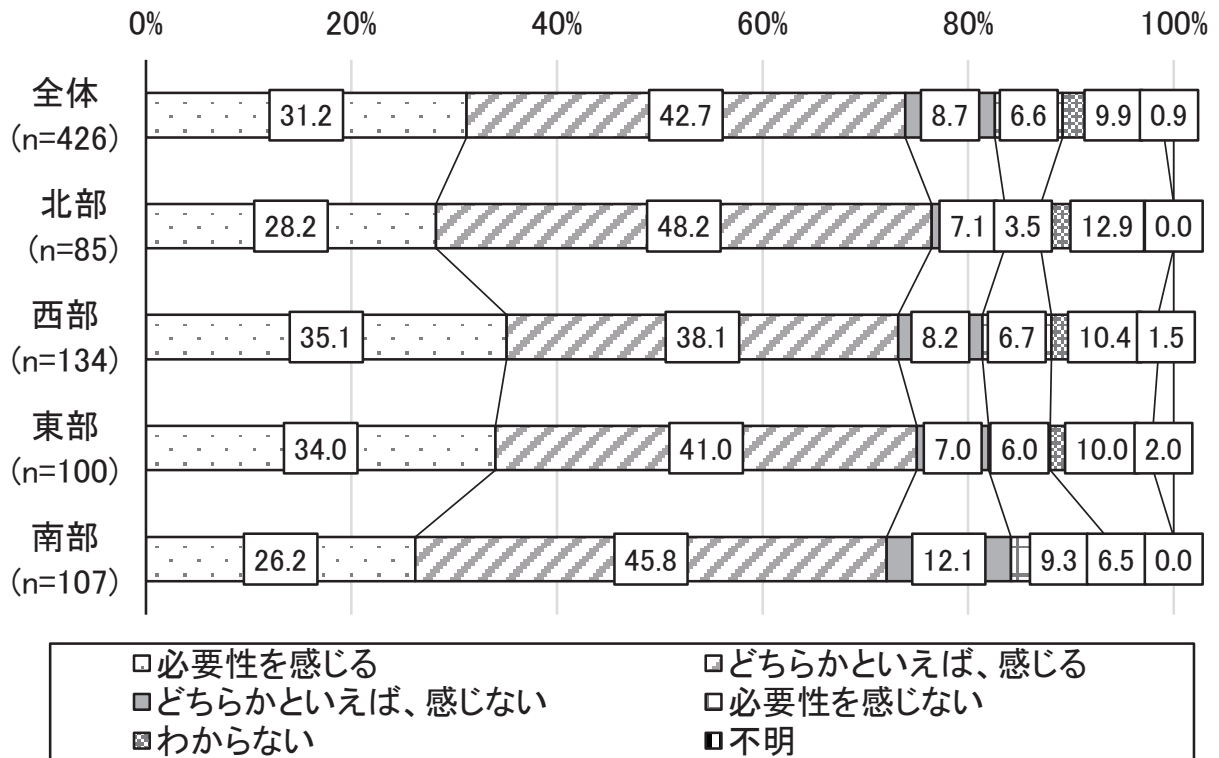
図表 302 活動を行うにあたり、地域住民の中の協力者の必要性



6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

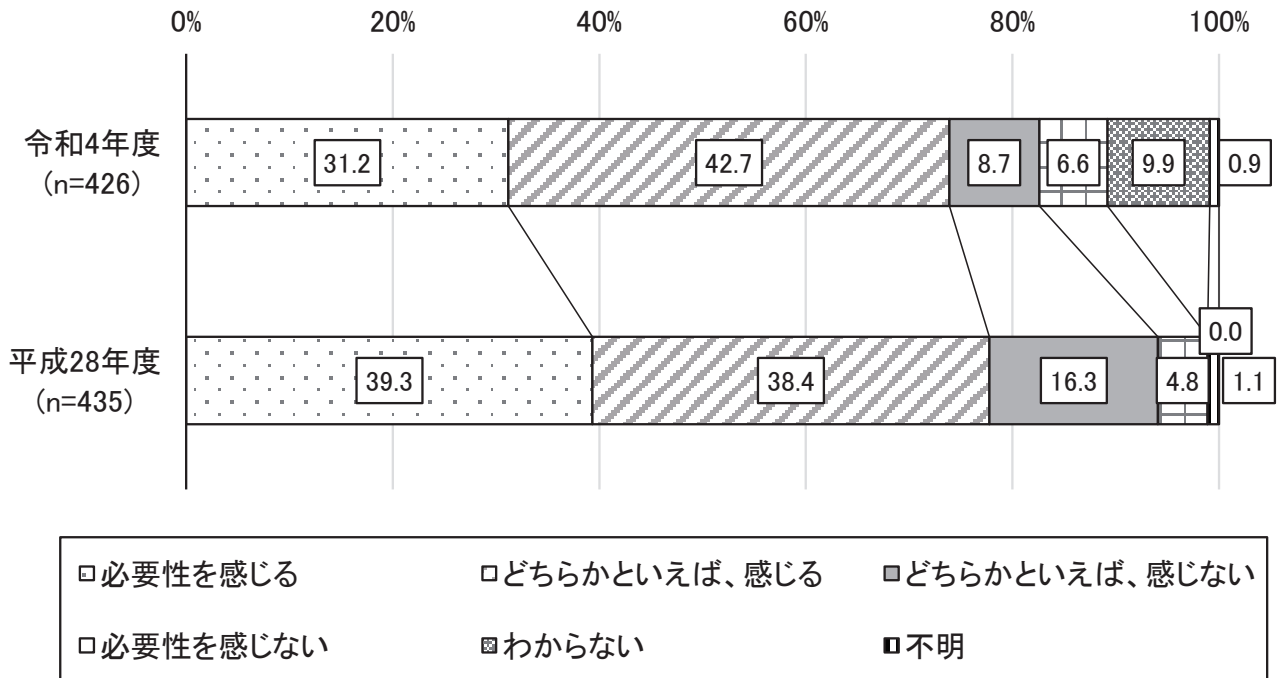
活動・所属地区別にみると、「必要性を感じる」は「西部(35.1%)」、「どちらかといえば、感じる」は「北部(48.2%)」、「どちらかといえば、感じない」は「南部(12.1%)」が最も多くなっている。

図表 303 活動を行うにあたり、地域住民の中の協力者の必要性(活動・所属地区別)



経年でみると、「どちらかといえば、感じる」は増加しており、「必要性を感じる」、「どちらかといえば、感じない」は減少している。

図表 304 活動を行うにあたり、地域住民の中の協力者の必要性(経年比較)



6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

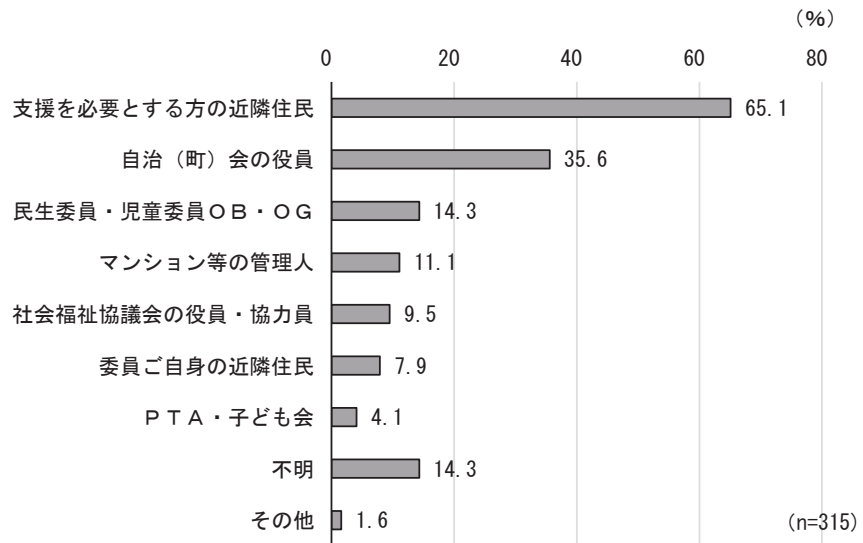
⑩ 協力者に適当な方

問15で「1. 必要性を感じる」または「2. どちらかといえば、感じる」と答えた方のみご回答下さい。

問16 その協力者に適当なのは、どのような方ですか。(○は2つまで)

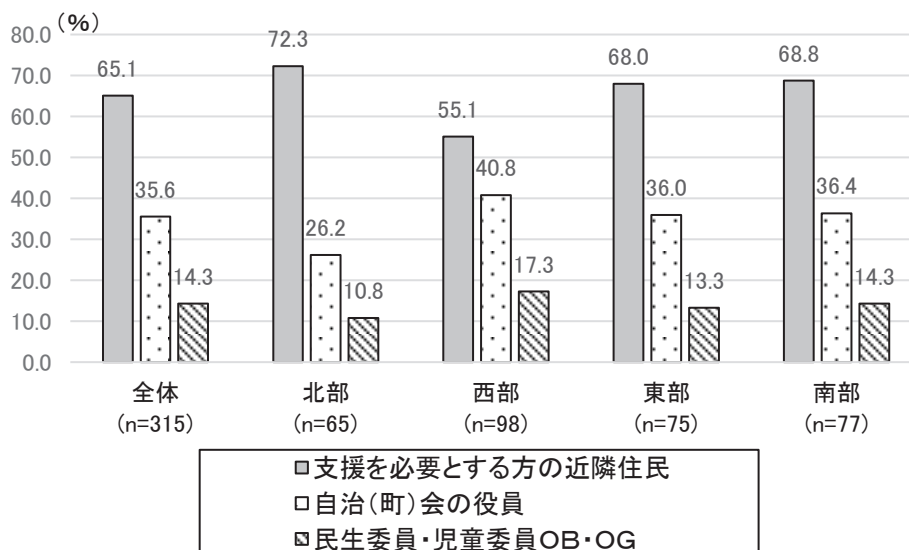
協力者に適当な方をみると、「支援を必要とする方の近隣住民」が 65.1%で最も多く、次いで「自治(町)会の役員」が 35.6%、「民生委員・児童委員OB・OG」が 14.3%となっている。

図表 305 協力者に適当な方



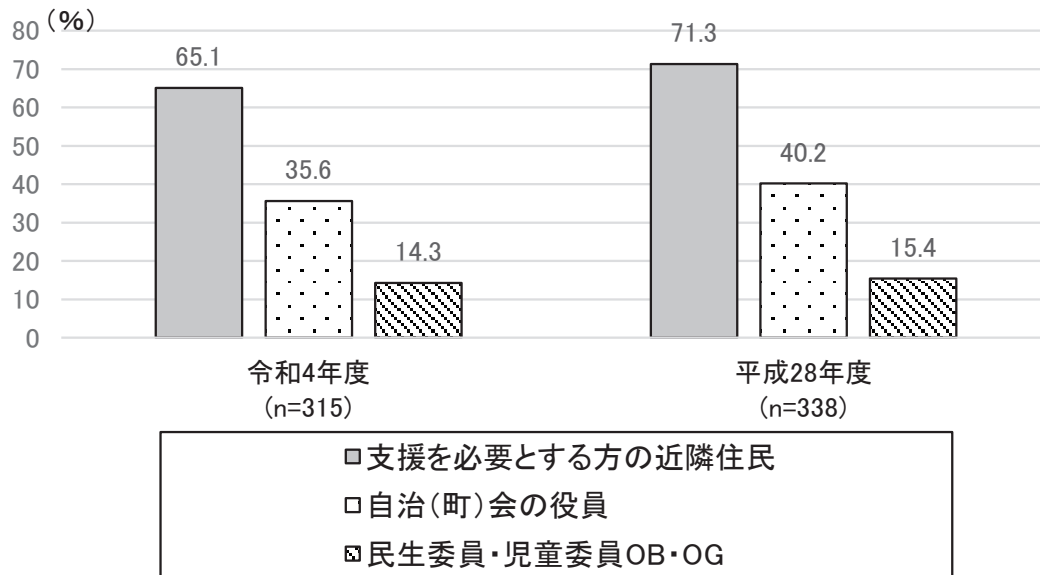
活動・所属地区別にみると、「支援を必要とする方の近隣住民」は「北部(72.3%)」、「自治(町)会の役員」は「西部(40.8%)」、「民生委員・児童委員OB・OG」は「西部(17.3%)」が最も多くなっている。

図表 306 協力者に適当な方(活動・所属地区別)



経年でみると、「支援を必要とする方の近隣住民」、「自治(町)会の役員」、「民生委員・児童委員OB・OG」の全ての項目が減少している。

図表 307 協力者に適当な方(経年比較)



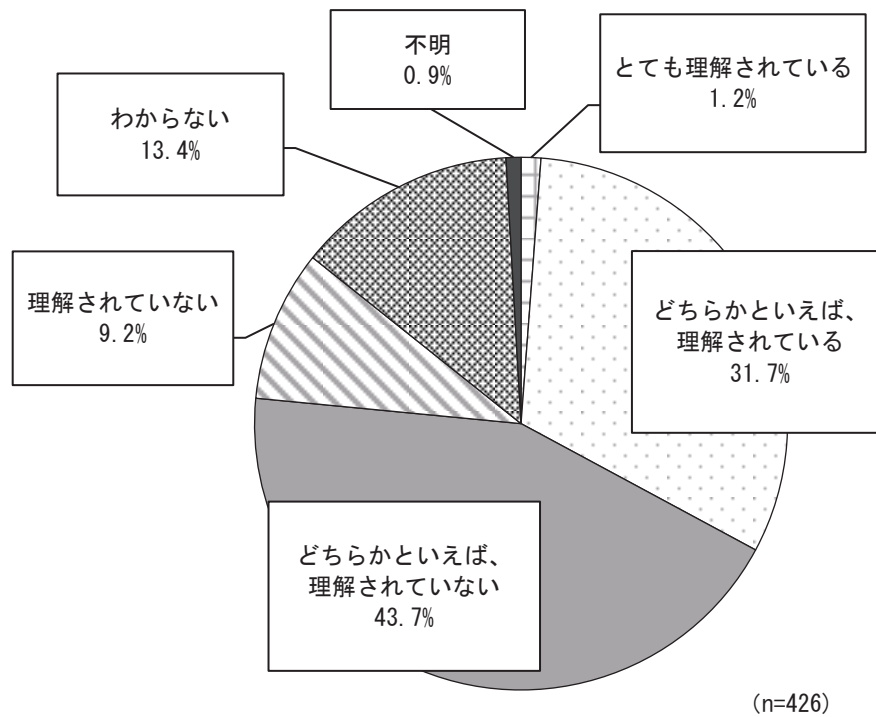
6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

⑰ 地域での理解

問17 民生委員・児童委員(又は民生委員・児童委員活動)は、地域の方にどの程度、理解されていると思いますか。(〇は1つだけ)

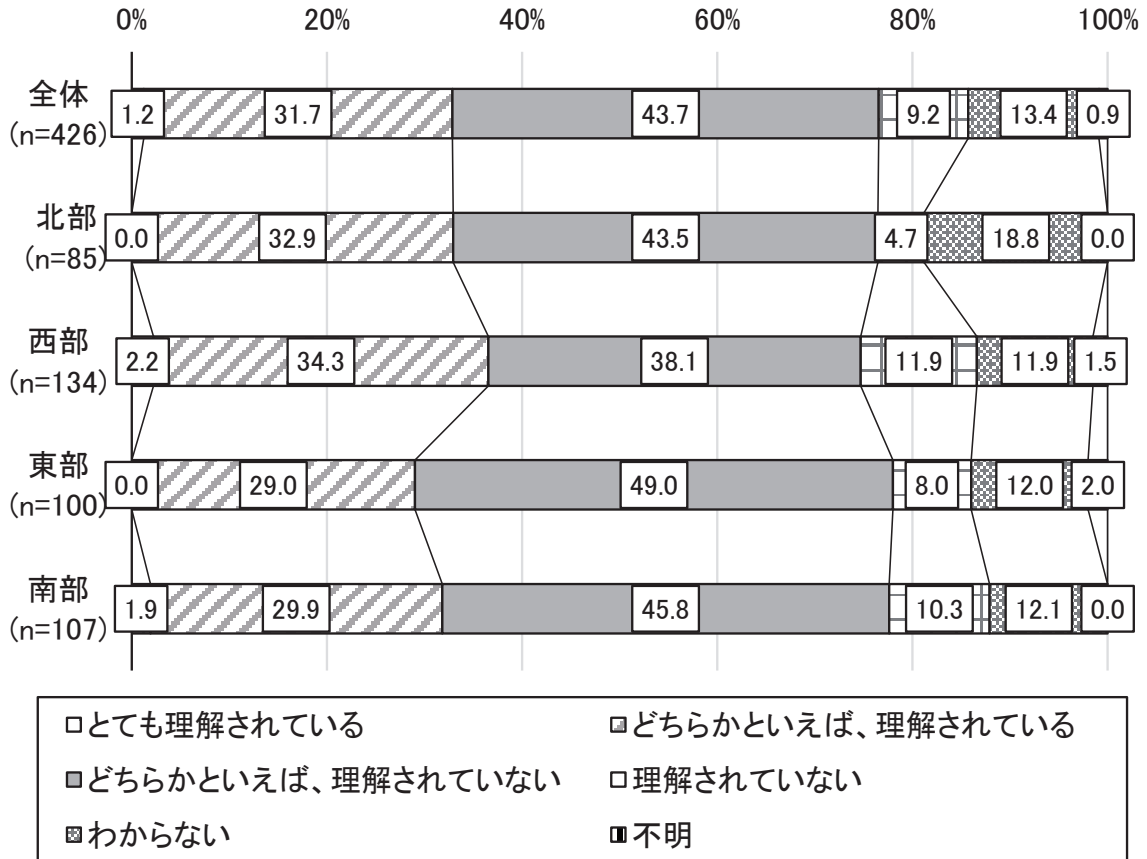
地域での理解をみると、「どちらかといえば、理解されていない」が43.7%で最も多く、次いで「どちらかといえば、理解されている」が31.7%、「理解されていない」が9.2%となっている。

図表 308 地域での理解



活動・所属地区別にみると、「とても理解されている」は「西部(2.2%)」、「どちらかといえば、理解されている」は「西部(34.3%)」、「どちらかといえば、理解されていない」は「東部(49.0%)」が最も多くなっている。

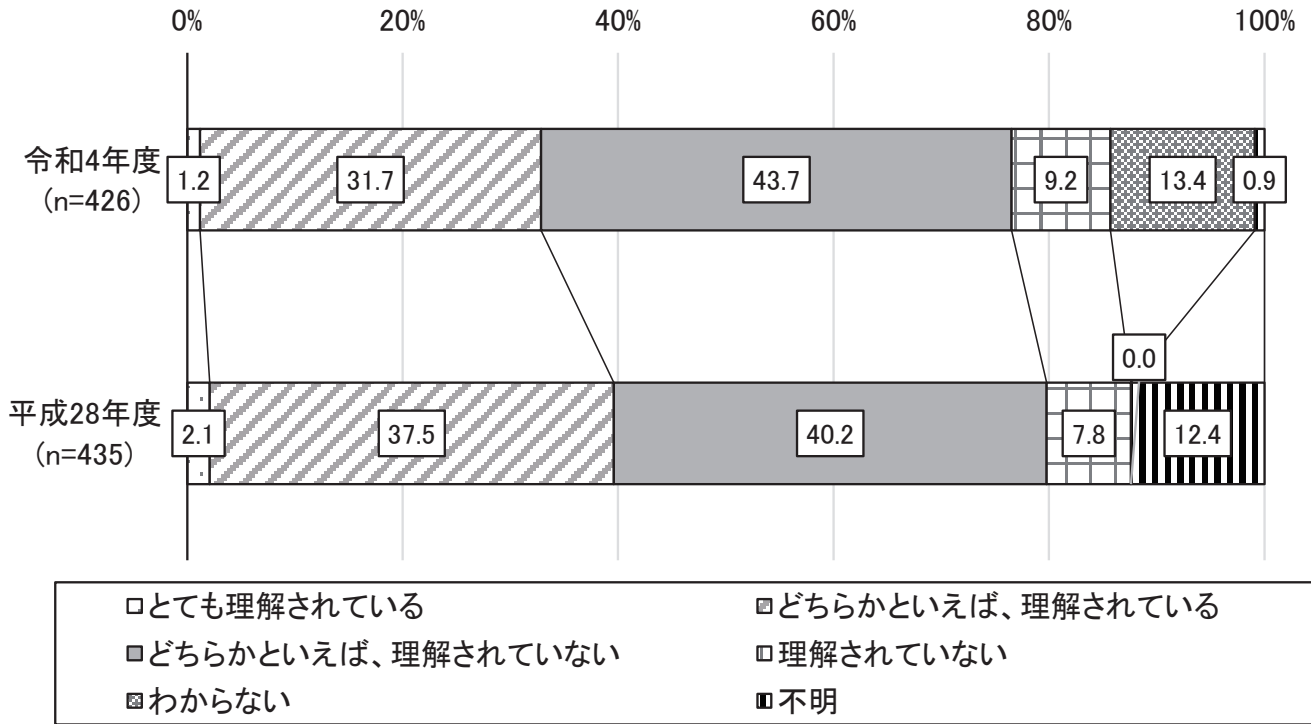
図表 309 地域での理解(活動・所属地区別)



6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

経年でみると、「とても理解されている」、「どちらかといえば、理解されている」は減少しており、「どちらかといえば、理解されていない」、「理解されていない」は増加している。

図表 310 地域での理解(経年比較)

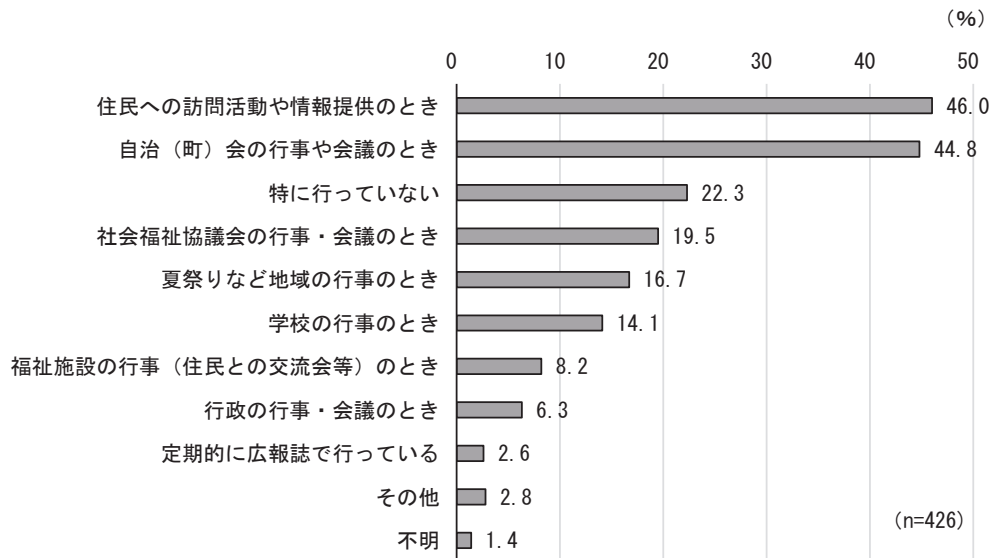


⑱ 住民や関係機関に対して PR を行っているとき

問18 住民や関係機関に対して、どのような時に民生委員・児童委員活動のPRを行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

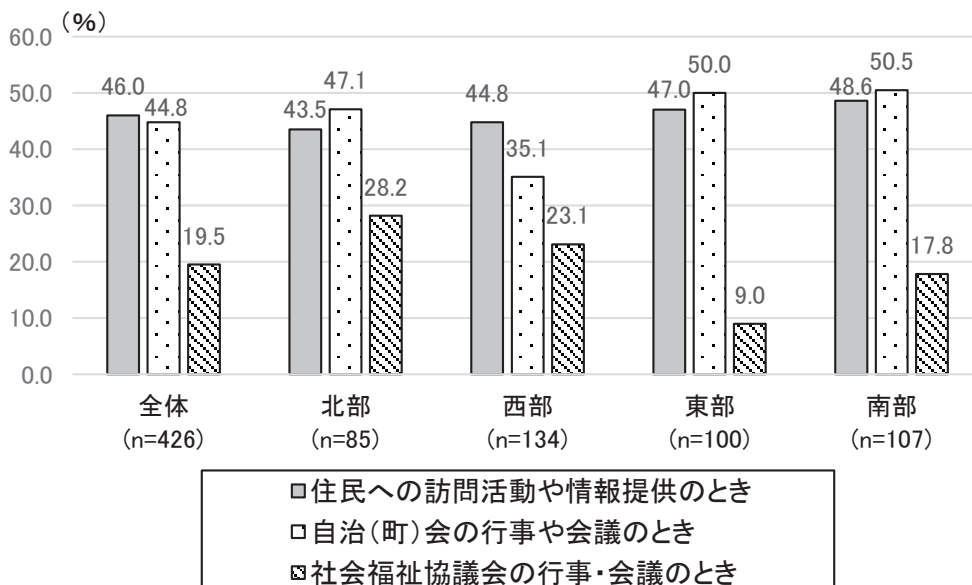
住民や関係機関に対してPRを行っているときをみると、「住民への訪問活動や情報提供のとき」が46.0%で最も多く、次いで「自治(町)会の行事や会議のとき」が44.8%、「特に行っていない」が22.3%となっている。

図表 311 住民や関係機関に対して PR を行っているとき



活動・所属地区別にみると、「住民への訪問活動や情報提供のとき」は「南部(48.6%)」、「自治(町)会の行事や会議のとき」は「南部(50.5%)」、「社会福祉協議会の行事・会議のとき」は「北部(28.2%)」が最も多くなっている。

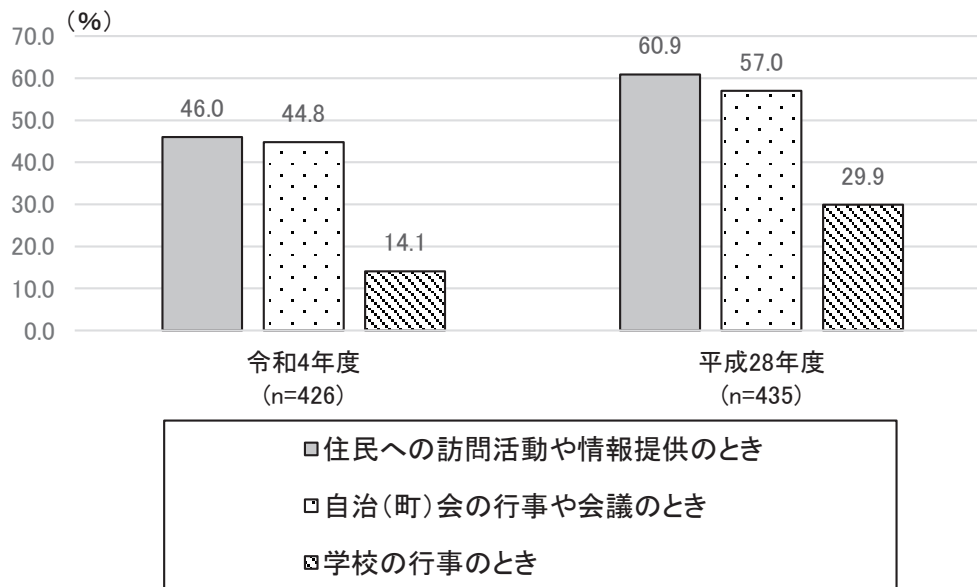
図表 312 住民や関係機関に対して PR を行っているとき(活動・所属地区別)



6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

経年でみると、「住民への訪問活動や情報提供のとき」、「自治(町)会の行事や会議のとき」、「学校の行事のとき」の全ての項目が減少している。

図表 313 住民や関係機関に対してPRを行っているとき(経年比較)

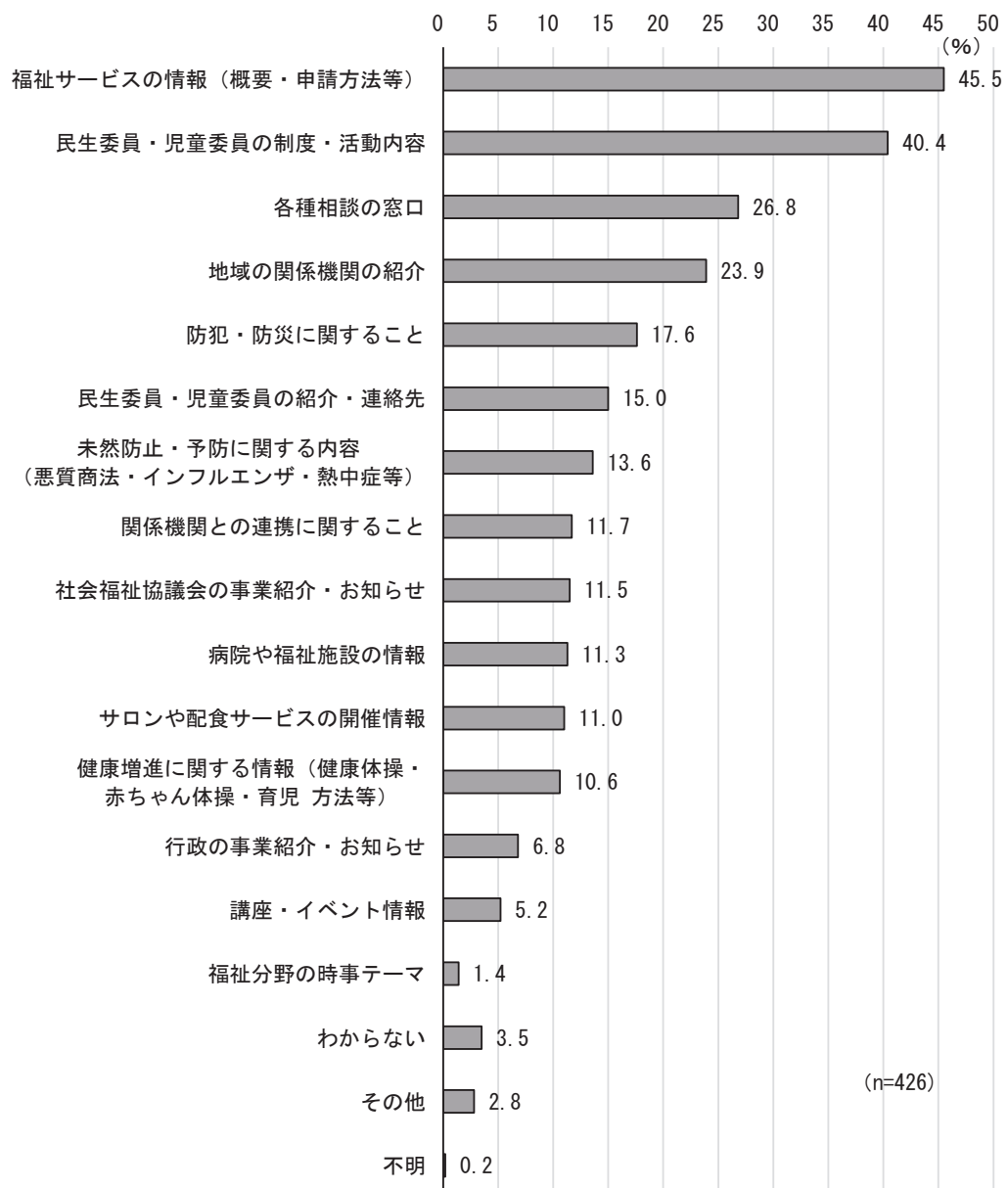


⑱ 住民への情報提供

問19 民生委員・児童委員活動において、住民の方に、今後どのような情報を提供していくべきだと思いますか。(〇は3つまで)

住民への情報提供をみると、「福祉サービスの情報(概要・申請方法等)」が45.5%で最も多く、次いで「民生委員・児童委員の制度・活動内容」が40.4%、「各種相談の窓口」が26.8%となっている。

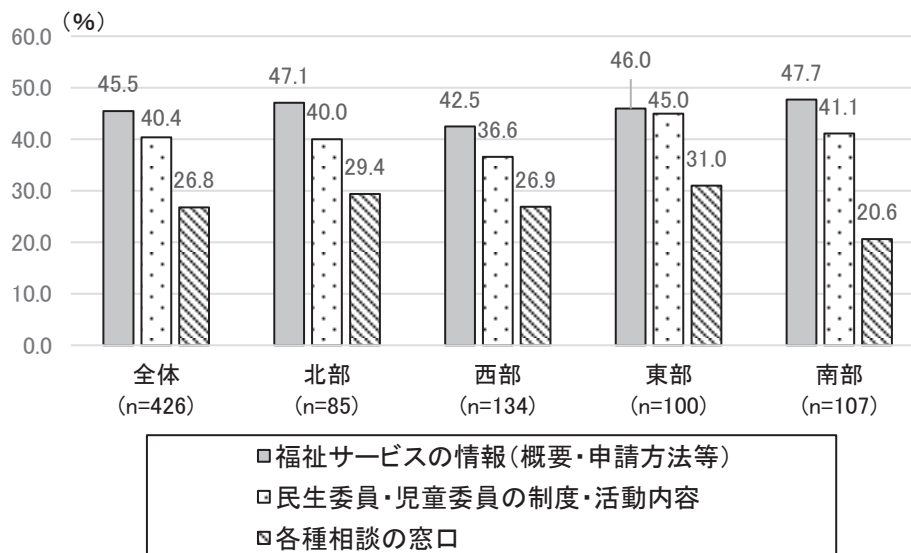
図表 314 住民への情報提供



6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

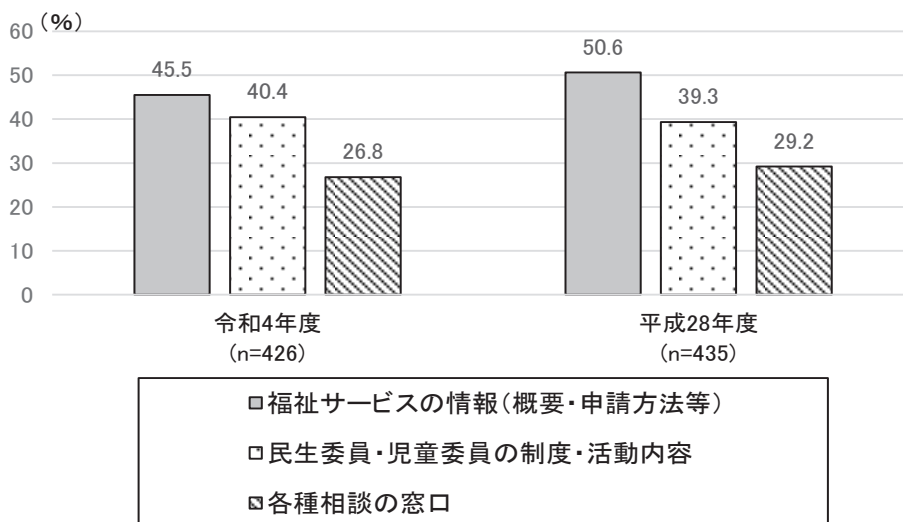
活動・所属地区別にみると、「福祉サービスの情報(概要・申請方法等)」は「南部(47.7%)」、「民生委員・児童委員の制度・活動内容」は「東部(45.0%)」、「各種相談の窓口」は「東部(31.0%)」が最も多くなっている。

図表 315 住民への情報提供(活動・所属地区別)



経年でみると、「福祉サービスの情報(概要・申請方法等)」、「各種相談の窓口」は減少しており、「民生委員・児童委員の制度・活動内容」は微増している。

図表 316 住民への情報提供(経年比較)

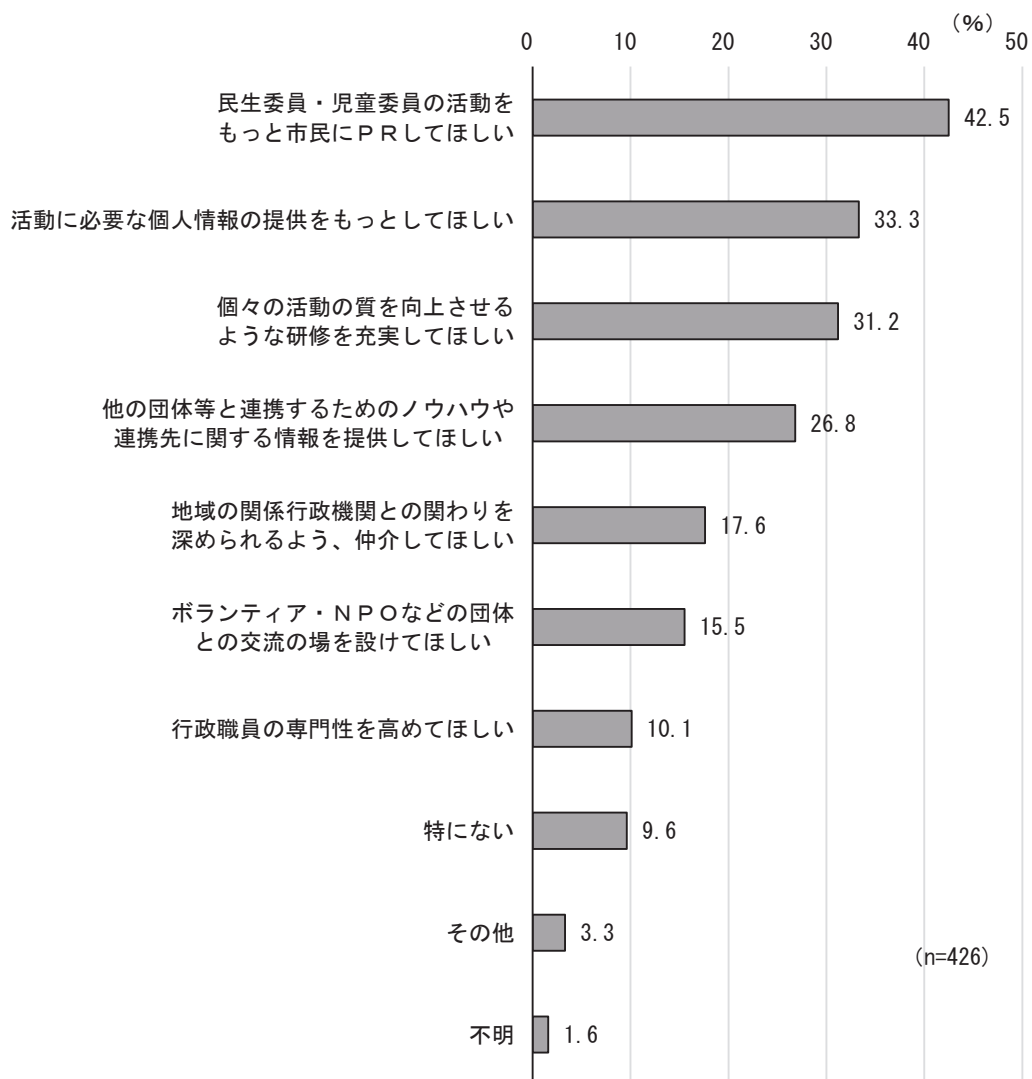


⑳ 地域で活動を進めるうえでの行政に対する要望・期待

問20 あなたが地域で活動を進めるうえで、行政に対して特に要望や期待することは何ですか。(〇は3つまで)

地域で活動を進めるうえでの行政に対する要望・期待をみると、「民生委員・児童委員の活動をもっと市民にPRしてほしい」が42.5%で最も多く、次いで「活動に必要な個人情報の提供をもっとしてほしい」が33.3%、「個々の活動の質を向上させるような研修を充実してほしい」が31.2%となっている。

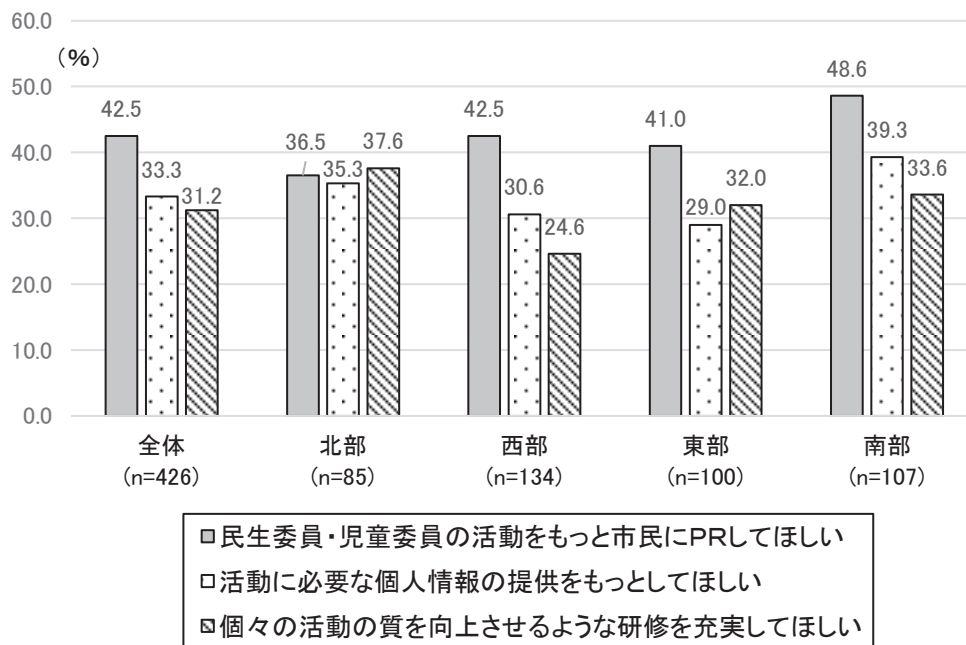
図表 317 地域で活動を進めるうえで行政に対する要望・期待



6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

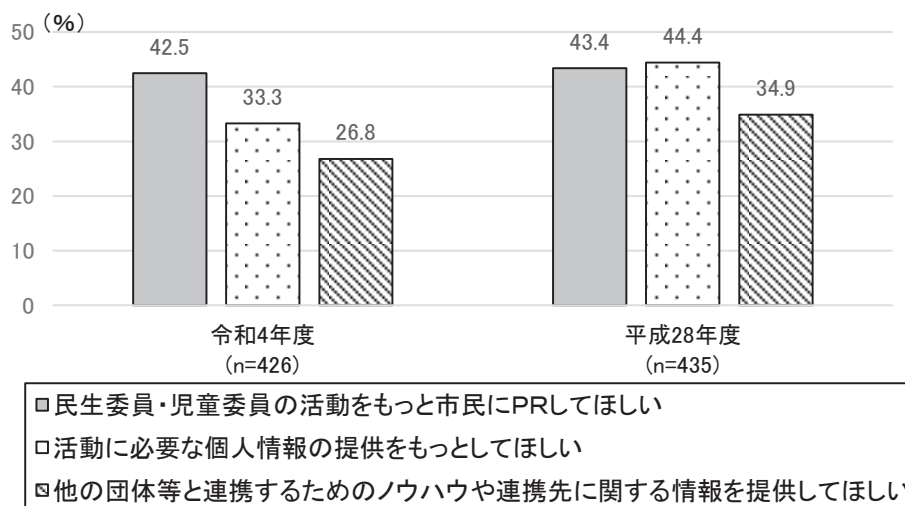
活動・所属地区別にみると、「民生委員・児童委員の活動をもっと市民にPRしてほしい」は「南部(48.6%)」、「活動に必要な個人情報の提供をもっとしてほしい」は「南部(39.3%)」、「個々の活動の質を向上させるような研修を充実してほしい」は「北部(37.6%)」が最も多くなっている。

図表 318 地域で活動を進めるうえで行政に対する要望・期待(活動・所属地区別)



経年でみると、「民生委員・児童委員の活動をもっと市民にPRしてほしい」、「活動に必要な個人情報の提供をもっとしてほしい」、「他の団体等と連携するためのノウハウや連携先に関する情報を提供してほしい」の全ての項目で減少している。

図表 319 地域で活動を進めるうえで行政に対する要望・期待(経年比較)

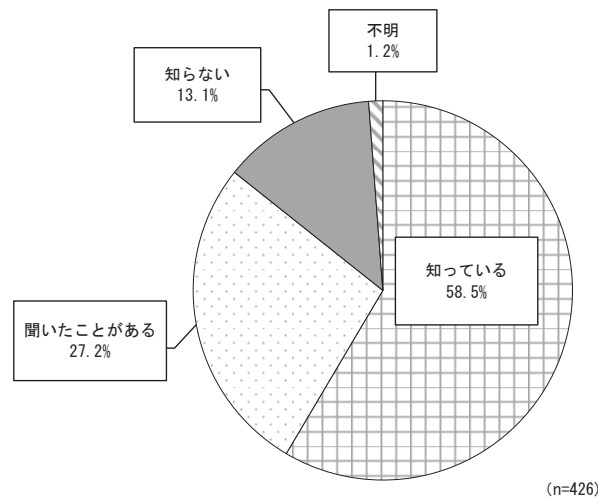


② 地域ケアシステムの認知度

問21 市川市では、安心して暮らし続けられる地域社会をつくるために、支え合いの地域づくり(地域ケアシステム)の取り組みを進めています。あなたは、そのことをご存知ですか。(〇は1つだけ)

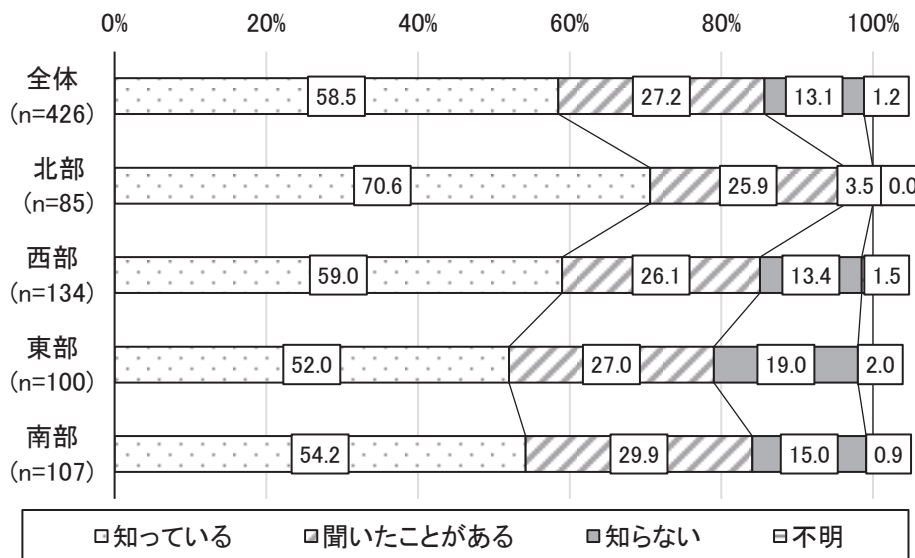
地域ケアシステムの認知度をみると、「知っている」が58.5%で最も多く、次いで「聞いたことがある」が27.2%、「知らない」が13.1%となっている。

図表 320 地域ケアシステムの認知度



活動・所属地区別にみると、「知っている」は「北部(70.6%)」、「聞いたことがある」は「南部(29.9%)」、「知らない」は「東部(19.0%)」が最も多くなっている。

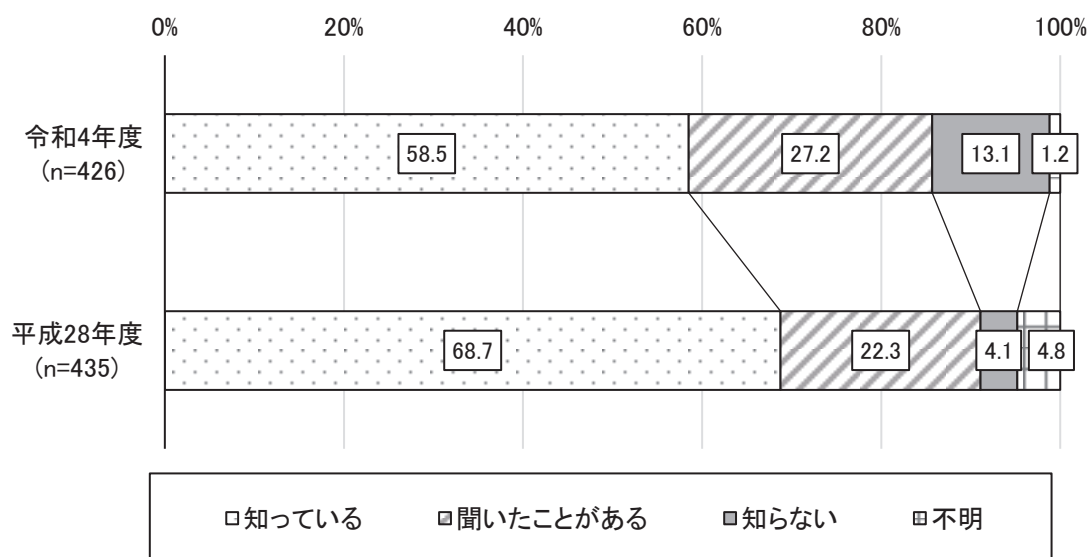
図表 321 地域ケアシステムの認知度(活動・所属地区別)



6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

経年でみると、「知っている」は減少しているが、「聞いたことがある」、「知らない」は増加している。

図表 322 地域ケアシステムの認知度(経年比較)

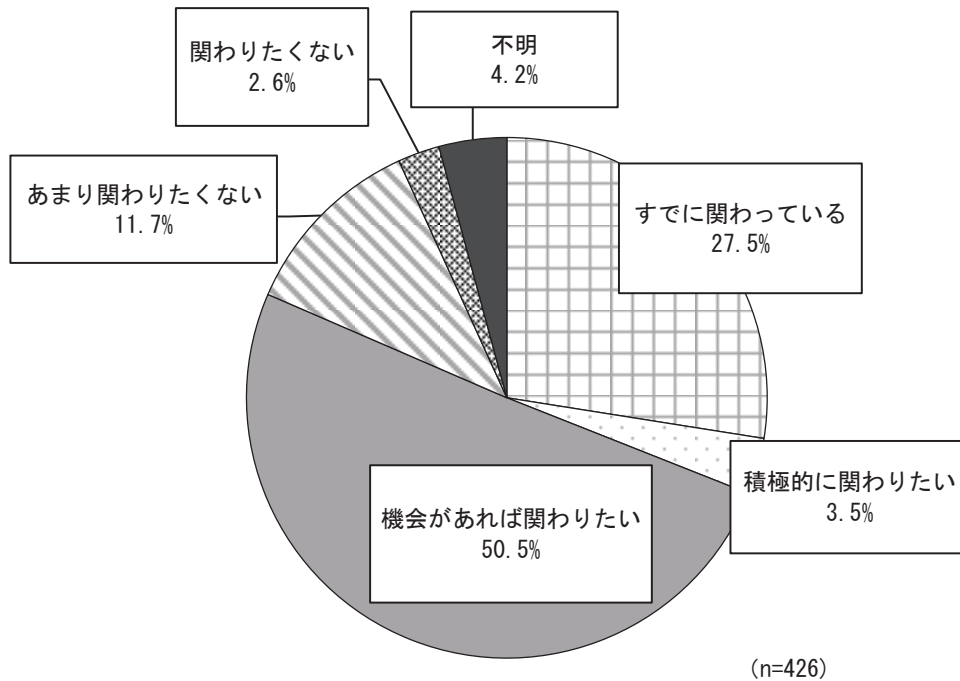


② 地域ケアシステムの活動への関与意向

問22 あなたは今後、地域ケアシステムの活動に関わりたいと思いますか。(〇は1つだけ)

地域ケアシステムの活動への関与意向をみると、「機会があれば関わりたい」が50.5%で最も多く、次いで「すでに関わっている」が27.5%、「あまり関わりたくない」が11.7%、「あまり関わりたくない」が11.7%となっている。

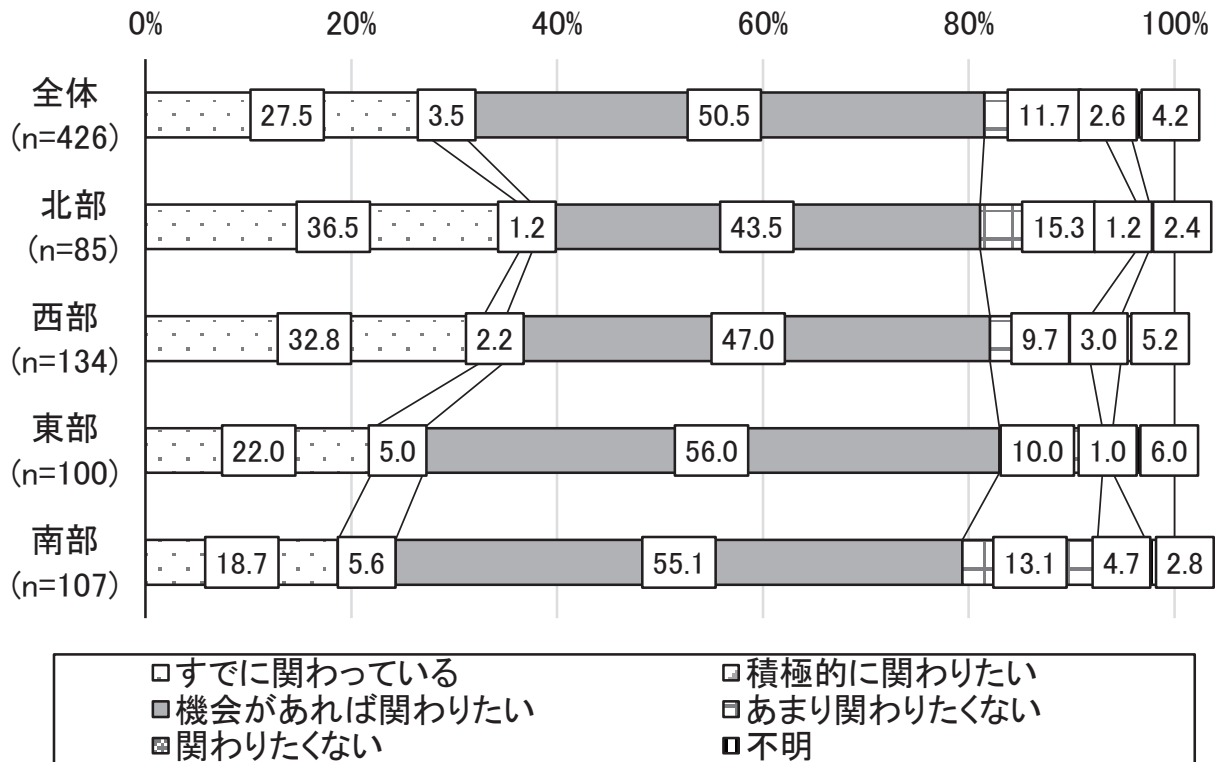
図表 323 地域ケアシステムの活動への関与意向



6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

活動・所属地区別にみると、「すでに関わっている」は「北部(36.5%)」、「積極的に関わりたい」は「南部(5.6%)」、「機会があれば関わりたい」は「東部(56.0%)」が最も多くなっている。

図表 324 地域ケアシステムの活動への関与意向(活動・所属地区別)



② 地域ケアシステムの活動への関与意向の理由

問22で「2. 積極的に関わりたい」、「3. 機会があれば関わりたい」、「4. あまり関わりたいくない」、「5. 関わりたいくない」と答えた方にお尋ねします。

問23 問22でそう思われた理由はなんですか。(自由記入)

(ア) 「2. 積極的に関わりたい」

主な意見
・ コロナ禍において、ネットワークが特に必要と考えたため。
・ 安心電話等、登録されている方はフォローできるが、高齢者の方も多く情報を伝える伝があるとい い。冷蔵庫に貼るマグネットシートはもっと配布できたらいいと思う。
・ 高齢者が増加しておりますので、これから必要性が多量になってくると思いますので理解してい かなきゃならないと思っています。
・ 声がかからない(直接携わることが無い為)。
・ 先日、認知症の方の件で相談を受け、すぐに高サポに相談に行きました。高サポの方は自宅訪 問してくださり、介護認定まで受ける事ができました。とても良かったと思っています。情報があれ ば関わりたいと思いました。
・ 地域で困っている人、相談したい人への関わり、支援をすすんでしていきたいと思っている。
・ 地域活動に参加して民生委員として色々な方と関わり、地域を活性化していきたい。
・ 父が脳出血で倒れた際に行徳支所の方が親身に話を聞いて下さったので、その後の生活がなん とかできました。同じようにお困りの方に恩返しがしたいです。

(イ) 「3. 機会があれば関わりたい」

主な意見
・ 「支え合い」は、地域の住民、民生委員の役割と考えるから。
・ 50年市川市に住んできましたが、近所のことを何も知らないことが多いことに驚きます。これか ら少しずつ地元へ貢献していきたいと思うからです。
・ あまり良く知らないため。
・ いずれは自分の身、できる事があればと・・・。
・ お役に立てれば嬉しいです。
・ お互いに協力しあっている。
・ お互いの助け合いの心は持っていたいと思うので。
・ お互い様の気持ちで私にできる事があれば。
・ お手伝いができたらいいと思う。
・ お手伝いできる事があればやりたい。
・ お役に立つ事があれば。
・ ケアシステムの情報(動向・実態)がない。

6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

<ul style="list-style-type: none"> ・ こちらから民生委員と言うと、実は・・・と相談されることが多い。人はなにかしら悩みを持っていると思ったので。
<ul style="list-style-type: none"> ・ この先、問題が起こったりした時にすぐに動けるようにしたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ これから自分や自分の家族が安心して住み続けられる様に。
<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの民生委員活動を何らかの形で生かしていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで関わった事が無く、民生委員として又は自分自身の為に関わってみたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナさえなくなれば、もう少し関わりたいと思うが、今は難しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナなどの状況がおちついてから、これからの事を進めていけるので、今はまだ無理だと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍で地域でも隣近所でも知らない方がいて、だんだん希薄になってしまう為、少しでもみんなを支え合って生きていきたいと思い、お手伝いをしたいと思っています。
<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍のせいもあり、近隣住民との関わりが今まで以上に希薄になっていると思うから。
<ul style="list-style-type: none"> ・ ささやかな社会貢献。
<ul style="list-style-type: none"> ・ サポートの内容をもっと知りたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ システム活動とはどのように活動するかを知る事。
<ul style="list-style-type: none"> ・ すべて勉強だと思っています。
<ul style="list-style-type: none"> ・ そのこと自体あまりよくわかっていないから。
<ul style="list-style-type: none"> ・ どこかで関わってみたいから。
<ul style="list-style-type: none"> ・ ベースとなるものだから。
<ul style="list-style-type: none"> ・ ほかの活動で忙しいので、毎回参加はできなくても、どのようなシステムか見学してみたい。また、民生委員を卒業したら関わってみたい。以前まで赤ちゃん・子ども集まれサロンに参加していたが、コロナや場所がなくなり消滅してしまい残念。
<ul style="list-style-type: none"> ・ まず地域を知る事が大切だと思っているので。
<ul style="list-style-type: none"> ・ まず内容を知りたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ よく知らないなので内容を知って役立てるなら関わっていききたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ よりよい地域社会を作るため。
<ul style="list-style-type: none"> ・ より交流や援助に役立つ。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 安心して暮らしていくには「孤独」「孤立」しないように社会とつながることが大切だと思うので。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 安心して暮らし続けるためには、民生委員が積極的に関わる事が大切と思うから。その活動は自分の身にもプラスになることにつながるから。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 安心して暮らせるようにしたいから。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 安心して暮らせる地域社会の必要性を感じるので、自分にできることは関わりたいと考えるから。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 以前、お声かけをいただきましたが、コロナや、新人なので、まだ参加しなくてもよいと先輩に言われていたため。機会があれば、参加してみたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 以前は相談員として参加したことがありましたが母の介護でできなくなりました。家庭の問題がなければ？
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動内容をよく知らないため。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 関心がある。

6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

<ul style="list-style-type: none"> ・ 気軽に話し合えることができ、ひとりぼっちにしないように。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 携わっている人とコミュニケーションを取ればと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、一人位の老人宅への訪問ですが、子供食堂とか福祉活動の情報に接したい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、仕事をしていて、日にち、時間に余裕がない為。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の生活の中で、どの位(その機会があった場合)関われるかわからない為。また、安心して暮し続けられるには支え合いの地域づくりには現在のシステムで良いのか疑問が残るため。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在は自営業に従事しながら民生委員をして多忙な日々を過しておりますが、生涯体力が続く限り、仕事とボランティアをしたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状、そのような機会が無い為。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉自体は聞いた事があるが、地域ケアシステムがどうゆうものかわからない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人に必要な情報や個人の状況の把握による年齢に応じたケアの構築のため。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 後期高齢者だから。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 御縁があれば生活する上で、必要である情報になり得るため。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 御近所の役に立ちたいと思うから。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流の仕方(人と人)。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢になればなるほど住み慣れた地域で住み続けたいと思うから。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者・障がい者が増えていく中で精神的にきついと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者のひとり住まいの人達を見守る大切さを大事だと思っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者問題に関わってみたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今のところ時間がとれない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今はまだ仕事をしていて、時間の余裕がない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今までの経験が活かされる面があればと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の活動の参考にしたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 困っている人がいたら声をかけたい気持ちはあります。でも積極的に行動しようとは思えません。自分の生活が忙しいので。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加のタイミングが難しそう。民生委員相互研修で取組みを知った上で、複数人で参加できる機会があればと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供達に関わる児童委員なので、他の情報を受けても良いと考えた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民が孤立しないで近隣の人々と助け合いながら暮らしたいから。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 私にもできることがあれば参加してみたいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間があれば関わりたいと思うが自身の老親たちに時間をとられることも多い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会長との信頼関係がないと自治会は自治会、民生委員は民生委員と位置づけられるので、特に我が地区の会長は感じます。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自身でよく知っているとは言えないし知りたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が関わってみないと人に教えられない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が高齢なのでどの程度関われるかわからない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分にできることがあればお手伝いしたいと思います。

6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分も今後安心して暮らしていきたいと思っているからです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分も歳なので中途半端になるような事はしたくない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分も年をとった時、不安だし、近くの方ならば。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分自身のため。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に今まで関わった事がないので、これからは少しでも、関われる機会が有るかもしれないので。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会で役に立てればと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 主任児童委員の選出に問題ありとして(自治会長の意見)主任児童委員は福祉委員にまれません。このことを見直されて児童・生徒を持つ家庭や子供達の役にたてればと思っている。地域には子育てをしながら働く母親も少なくありません。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民との関係構築のため。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 助けあっていくことが大事だと思います。昔はとなりの事はなんでもわかっていたが、今はとなりであってわからない事だらけで、何がおきてもわからない。支えあっていくことが大事。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 助け合いの社会作り。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 少しでもお役に立てればと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 少しでも地域の人々との支え合いができれば良いと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報があまり入ってこない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 色々な人がいる事を認識するために。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人の為に自分がお手伝いをできて役立つのであれば関わってもいいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人の役に立ちたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活している限り、お互い様という気持ちをもっているから。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 声かけしていただければ、いつでも協力はしたいと思っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 接点がなかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 前に参加したことがあるから。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談があった場合、対応できるようにしておきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 退職後でも関わってみたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 単独の行動より地域で支え合う方がより良いと思うし、行政と協同があれば力強いと感じたからです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当地域の住民とのコミュニケーションをもっと充実させることが主な業務と考えるから。ケアシステム活動はその後。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 知らない事を知ることができるからです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域ケアシステムに関われば、いろいろな情報などがもらえるから。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域ケアシステムに協力した事があるが、認知がはいる方だと顔を覚えてもらえない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域ケアシステムの活動をもっと知りたいから。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域ケアシステムの具体的な内容を知らないなので、知る機会ができて、かつ関わりたいと思う事例であれば関与してもよい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域ケアシステムは知らないのですが、民生委員の活動に活かせると思うので。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域ケアシステムは民生委員との関連があるのでは？
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域ケアシステムをよく知ったうえで活動したい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域ケアシステム活動の様子があまりよくわからない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域ケアの活動とはどのようなシステムなのか、広報が十分でないのでわからない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域ケアは地域福祉の拠点だと思うので。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域でできる事を貢献していきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に貢献したいから。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に高齢者の増加。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に役に立ちたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の情報が得られる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の方と、より関われると思うから。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の方ともっと関わりをもてる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域をみても「人と人の助け合い」「お互いさま」などの気持ちを感じられる場面が少ない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域社会に必要と思うので。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 町会の役員なので。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 町会の役員もしているので、時間がとれないこともある。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 独居の方以外の様々な方からお話を聞けると思ったから。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 内容が不明なので判断できない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 内容を知らない！
<ul style="list-style-type: none"> ・ 南行徳南部地区では、気軽に高齢者の集まる場所がない。サロンを南行中で行うが、そこまで行けない人も多い。居場所作りなどの方針があれば教えてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉委員・民生委員として、地域の行事(夏祭り・グリーン作戦・防災訓練等)には参加しているが、自身の健康面での心配もあり積極的には関われない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉関係の仕事をしており、あまり時間がない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本当に困っていて助けが必要な時には協力したいし、助けて欲しいと思うので……。でも民生委員とかぶる？両方必要？とも思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本当は5です。地域ケアの方が自分達は別ですとの態度があり、近寄りづらい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 民生・児童委員の退任後も地域に関わって少しでも役に立ちたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 民生委員(主任児童委員)としての活動の幅が広がると思うから。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 民生委員だから。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 民生委員としてできることがあれば関わっていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 民生委員としての活動とは違う分野なので、関わることにより、利用者の生活の質が上がると生きやすくなると思われるので。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 民生委員としての活動に必要なだと思うため。支援が必要な人にスムーズな援助ができるようになりたいので。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 民生委員として何かやれる事があれば関わりたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 民生委員の活動だけでなく、関わりのある横の繋がりにも目を向けてみたいと思ったから。

6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

・ 民生委員の活動とかかわりがあるので。
・ 民生委員の活動にプラス(+)になると思うから。
・ 民生委員の活動に必要な事だと思いますので。
・ 民生委員の仕事だけで手一杯になっているので、なかなか時間が取れない。でも機会があれば関わってみたい気はする。
・ 民生委員活動で色々な生活状況にある高齢者(独居登録していない人やできない人、どうすればいいのかわからないと悩んでいる人)がいる事を知りましたが、民生委員の任期があと一期で、何かできないかな、と思っている。
・ 役にたてたら、と思うから。
・ 役に立てることがあればお手伝いしたい。
・ 良い取り組みだと思ったから。
・ 隣近所の方と友人になりたい。
・ 老化していく自分にちょっと心配になっているので・・・。

(ウ)「4. あまり関わりたくない」

主な意見
・ 個人情報がある、地域の多くの方は、あまり関心をもつ人が少ない。
・ ゆったりと余生を過ごしたい(自身のために時間を使いたい)。
・ 以前、協力していましたが体力的にやめました。
・ 加齢と共に、いろいろなものに関わるのが、おっくう。
・ 活動は現状が精一杯だから。
・ 活動内容がわからない。
・ 業務が多忙であれば関わっても良いが、そうでもないので関わりたくない。
・ 現在は自分の家のことが大変だから、これ以上の仕事は無理です。
・ 現実的に地域ケアシステム(特に自治会の部分)が機能していないのでは？
・ 現状の民生委員活動が充実しているのでこれ以上時間がとれないと思うから。
・ 行政は仕組みを作っても現場方に投げる傾向があるから関わりたくない。まずは行政担当が仕組みを熟知してリーダー的に行動してほしい。
・ 高齢者が多いので関わりたくない。
・ 今まで知る限りでは、あまり必要性を感じない。
・ 今以上の活動は心理的に無理。
・ 仕事が増える。
・ 仕事もしているので、時間がない。
・ 私自身、74歳なので。民生委員はあと一期で次の方にバトンを渡したい。
・ 時間的に無理だと思うので。
・ 時間的に余裕がない為。
・ 自身の高齢化による。

・ 自分が高齢化で人の世話まで充分出来るとは思えない。
・ 自分が役にたてると思わない。
・ 自分の年齢から、これ以上が無理だと思った。
・ 主任児童員だけで活動は充分と思う。
・ 出来れば関わりたいが母が体の不自由で家に居る為、正直難しい所です。
・ 責任や負担が大きそうだから。
・ 相手の個人情報を知ることになると、お互いに慣れすぎてしまうから。
・ 相談内容が重く、負担になりそうに感じる。
・ 体調不良。
・ 地域ケアシステムを知らないです。
・ 定年の為。
・ 内容がわからない。
・ 年なので早く民生委員を辞めたい。
・ 友愛訪問で手いっぱい。

(エ)「5. 関わりたくない」

主な意見
・ 一部の人のおしゃべりの場であり、本当に手助けの必要な人に限り入りにくい雰囲気をもっている(他地区のシステム)。
・ 活動内容が不明だから。
・ 興味がない。
・ 仕事が忙しく時間をとれない。
・ 時間にゆとりがない。
・ 自治会活動で考えるべき。
・ 縦の関わりが多く横の連携がありませんので個々が多すぎる気がします。
・ 年齢的に無理です。
・ 民生訪問の意味がわからない。本人が入院しても連絡もなく、ケアマネージャーとの連携もなく、その所をもう少し考えてほしい。

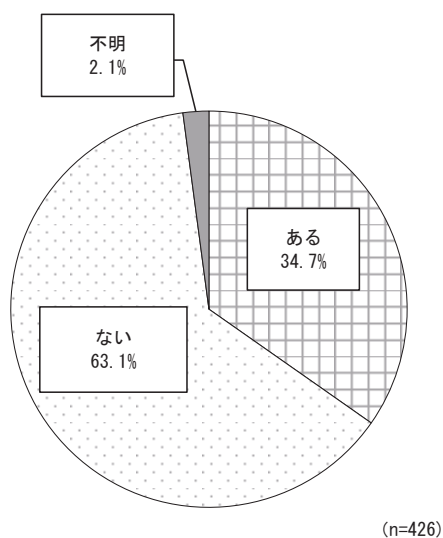
6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

④ 地域ケアシステムの会議への参加有無

問24 あなたは地域ケアシステムが関わる会議(地域ケアシステム推進連絡会、相談員会議等)に参加したことがありますか。(○は1つだけ)

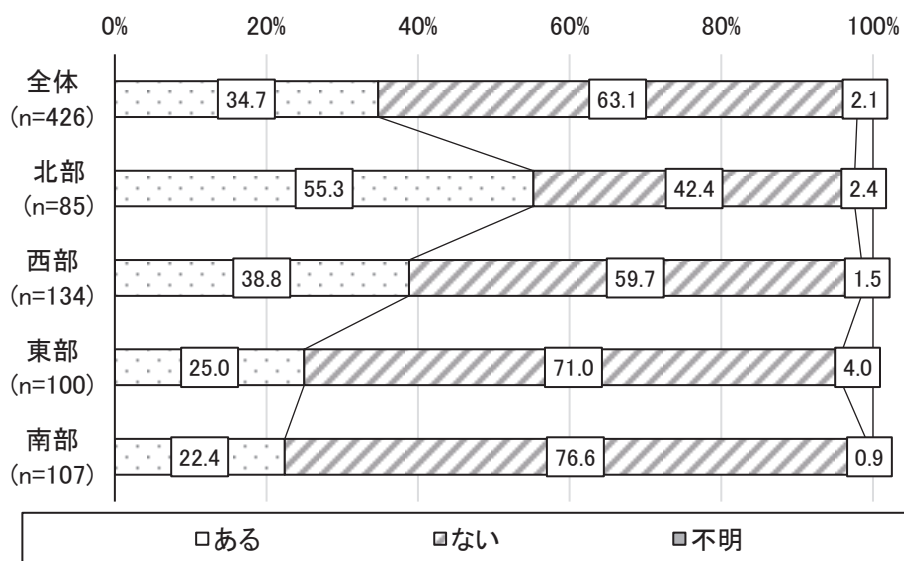
地域ケアシステムの会議への参加有無をみると、「ない」が63.1%で最も多く、次いで「ある」が34.7%となっている。

図表 325 地域ケアシステムの会議への参加有無



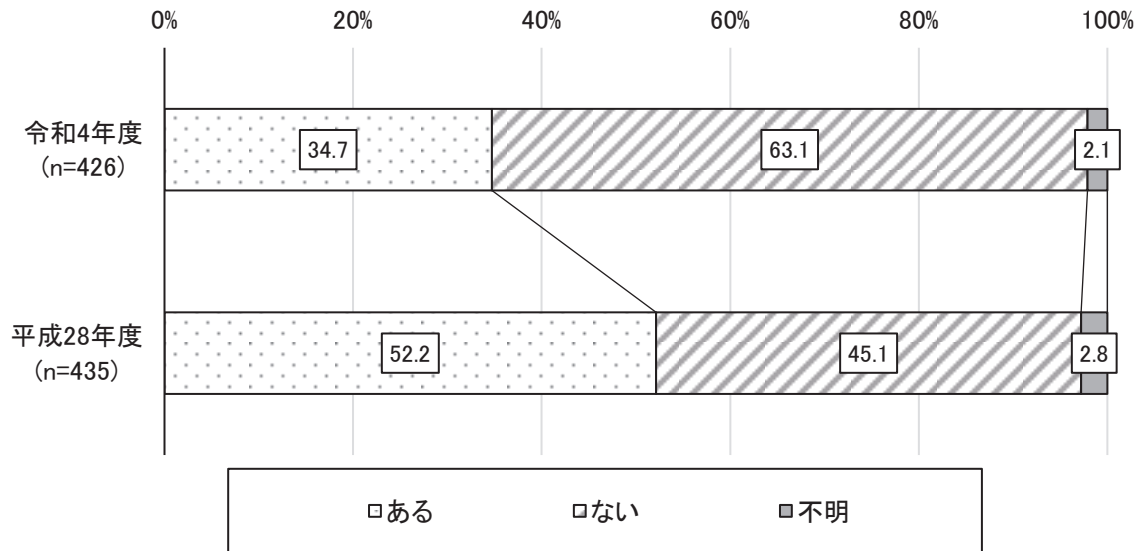
活動・所属地区別にみると、「ある」は「北部(55.3%)」、「ない」は「南部(76.6%)」が最も多くなっている。

図表 326 地域ケアシステムの会議への参加有無(活動・所属地区別)



経年でみると、「ある」は減少しており、「ない」は増加している。

図表 327 地域ケアシステムの会議への参加有無(経年比較)



6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

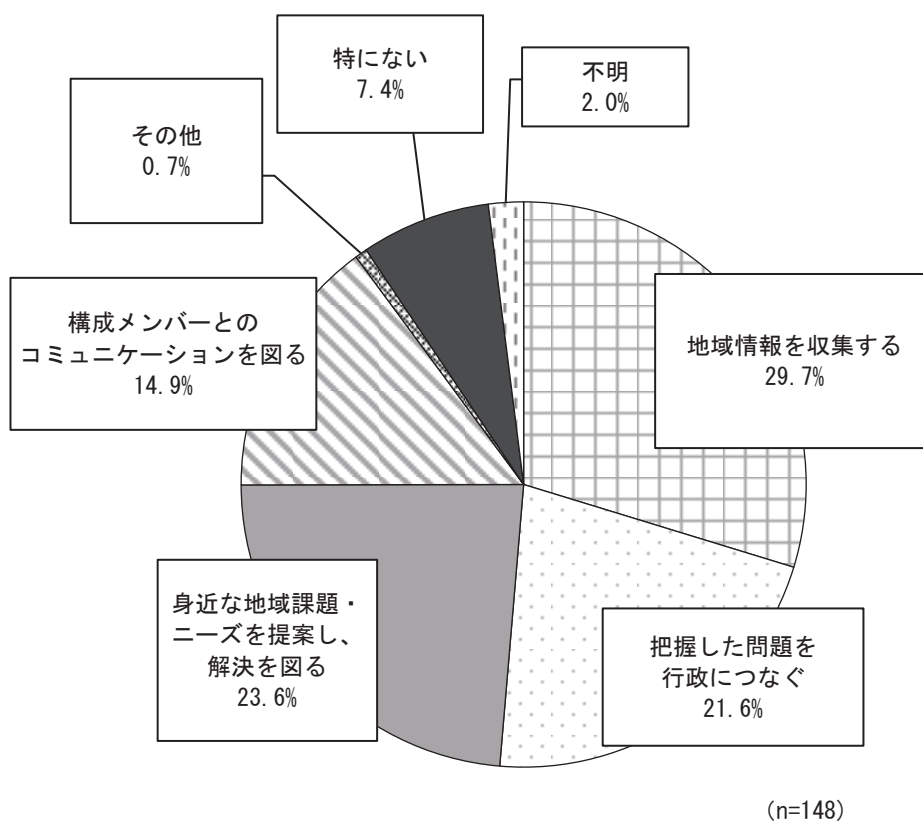
㊸ 地域ケアシステムの会議に参加して、今後充実させた方がよいと思う活動

問24で「1. ある」と回答された方にお尋ねします。

問25 支え合いの地域づくり(地域ケアシステム)の会議に参加して、あなたが今後充実していった方がよいと思うご自身の活動は何ですか。(〇は1つだけ)

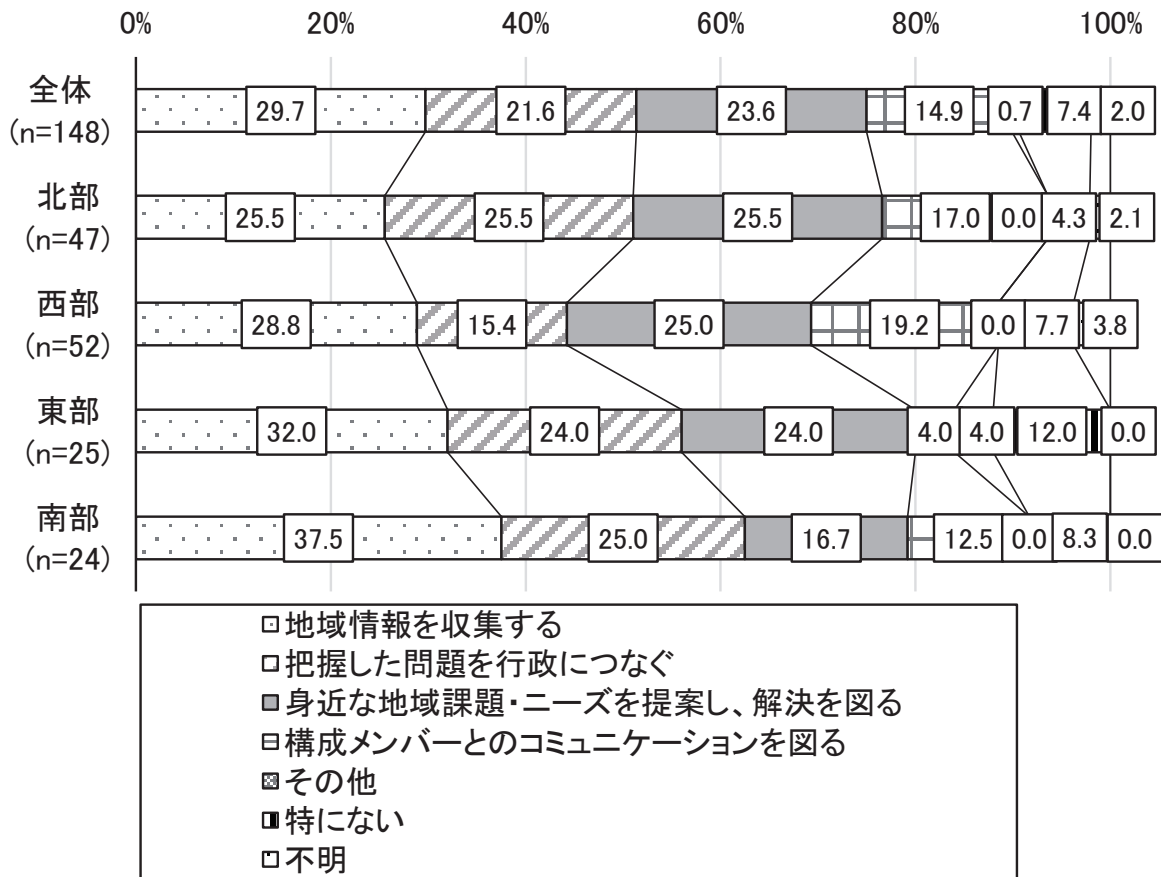
地域ケアシステムの会議に参加して、今後充実させた方がよいと思う自身の活動をみると、「地域情報を収集する」が29.7%で最も多く、次いで「身近な地域課題・ニーズを提案し、解決を図る」が23.6%、「把握した問題を行政につなぐ」が21.6%となっている。

図表 328 地域ケアシステムの会議に参加して、今後充実させた方がよいと思う活動



活動・所属地区別にみると、「地域情報を収集する」は「南部(37.5%)」、「把握した問題を行政につなぐ」は「北部(25.5%)」、「身近な地域課題・ニーズを提案し、解決を図る」は「北部(25.5%)」が最も多くなっている。

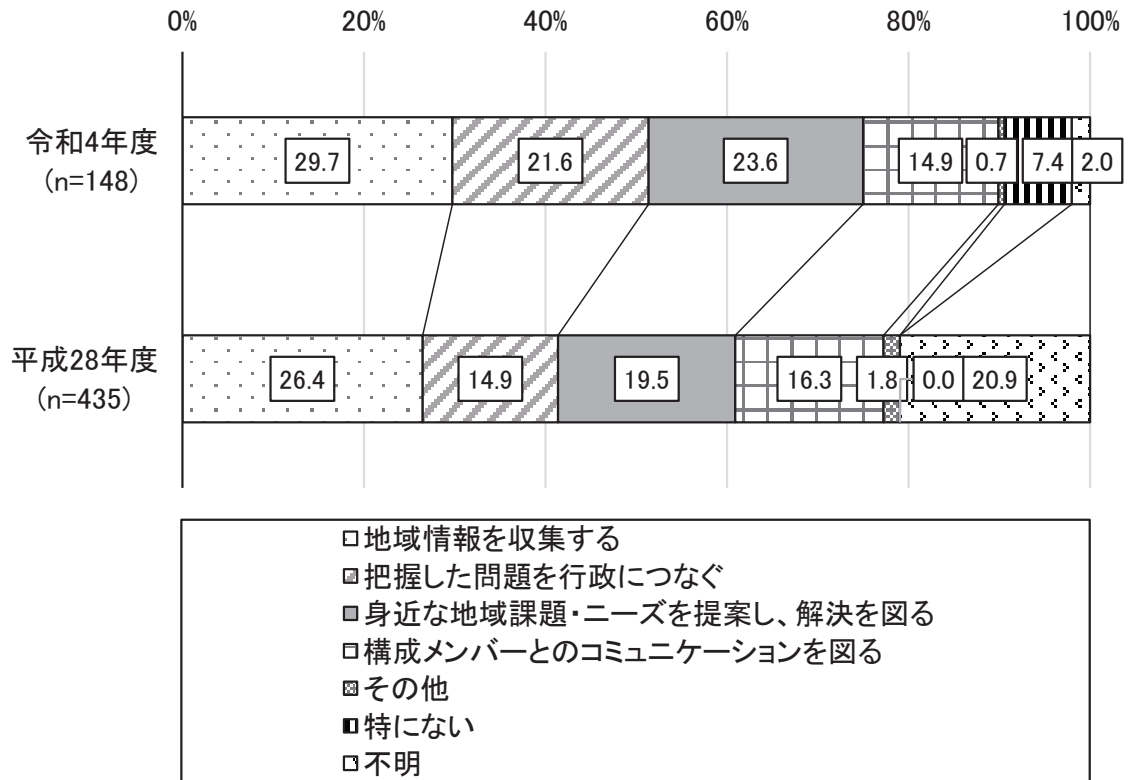
図表 329 地域ケアシステムの会議に参加して、
今後充実させた方がよいと思う活動(活動・所属地区別)



6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

経年でみると、「地域情報を収集する」、「把握した問題を行政につなぐ」、「身近な地域課題・ニーズを提案し、解決を図る」が増加している。

図表 330 地域ケアシステムの会議に参加して、
今後充実させた方がよいと思う活動（経年比較）

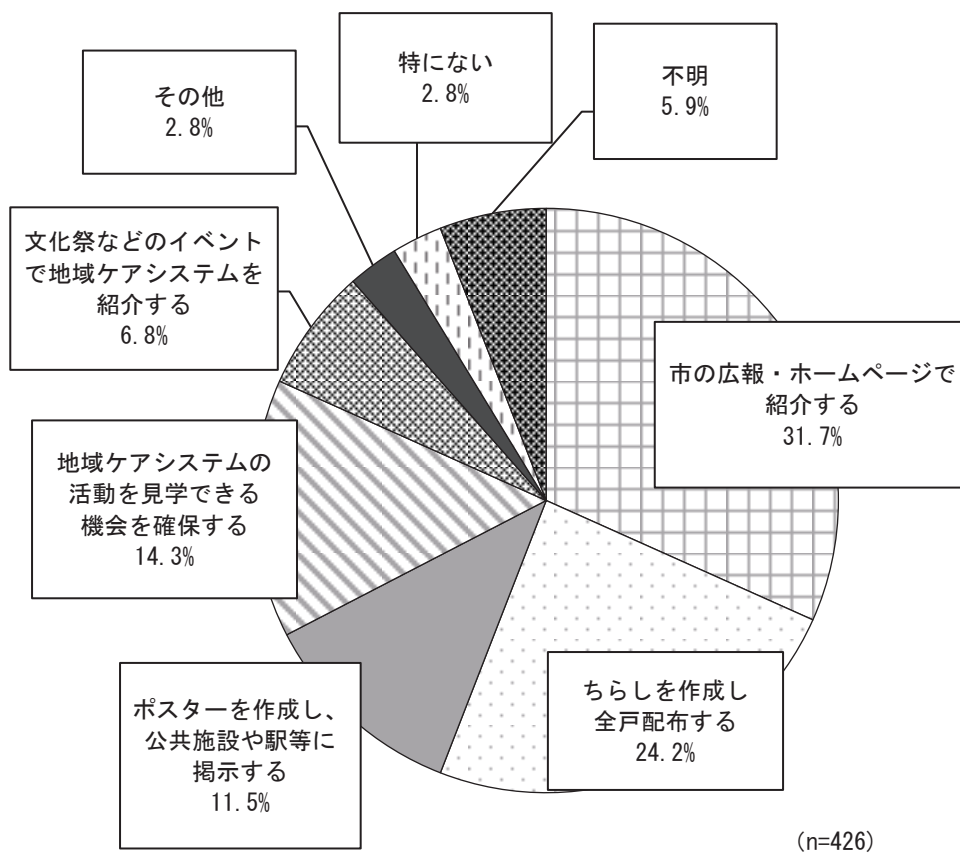


②⑥ 地域ケアシステムの周知に必要な取り組み

問26 市川市では、地域ケアシステムについて市民の皆さんに知ってもらいたいと考えています。あなたは、地域ケアシステムを市民の皆さんに知ってもらうにはどのような取り組みが必要だと思いますか。
(〇は1つだけ)

地域ケアシステムの周知に必要な取り組みをみると、「市の広報・ホームページで紹介する」が31.7%で最も多く、次いで「ちらしを作成し全戸配布する」が24.2%、「地域ケアシステムの活動を見学できる機会を確保する」が14.3%となっている。

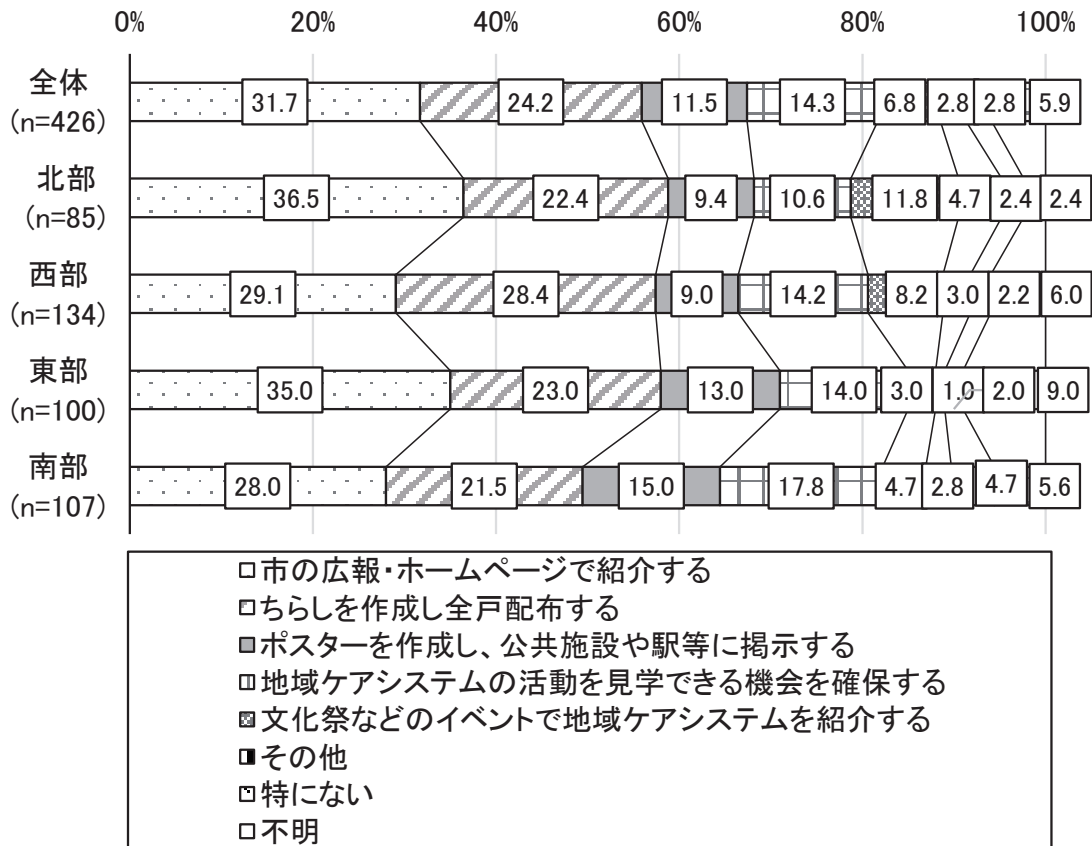
図表 331 地域ケアシステムの周知に必要な取り組み



6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

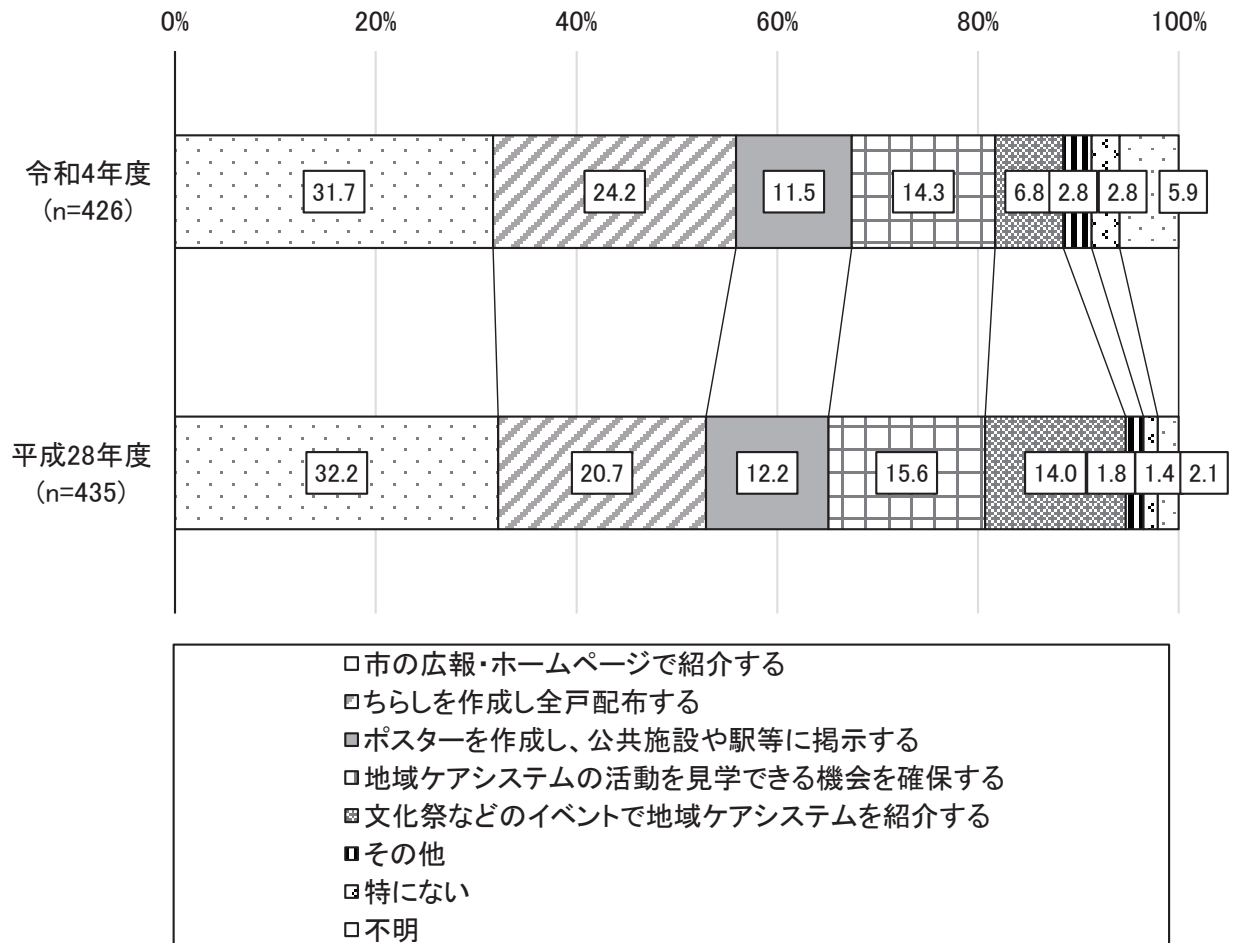
活動・所属地区別にみると、「市の広報・ホームページで紹介する」は「北部(36.5%)」、「ちらしを作成し全戸配布する」は「西部(28.4%)」、「ポスターを作成し、公共施設や駅等に掲示する」は「南部(15.0%)」が最も多くなっている。

図表 332 地域ケアシステムの周知に必要な取り組み(活動・所属地区別)



経年でみると、「ちらしを作成し全戸配布する」は増加しており、「市の広報・ホームページで紹介する」、「ポスターを作成し、公共施設や駅等に掲示する」は微減している。

図表 333 地域ケアシステムの周知に必要な取り組み（経年比較）



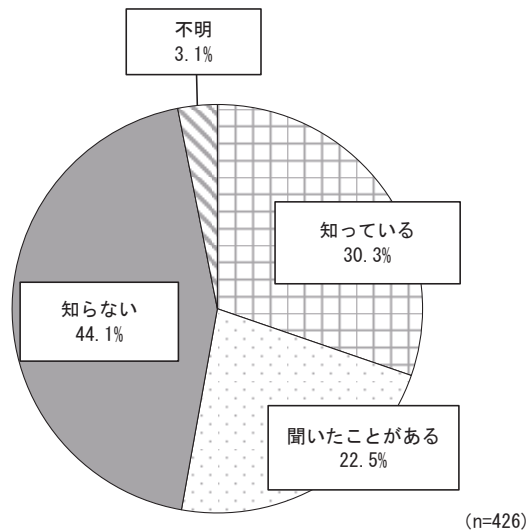
6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

⑦ コミュニティワーカー配置の認知状況

問27 市川市では、平成17年度から地域の福祉活動をお手伝いするために、コミュニティワーカーを配置しています。貴団体は、コミュニティワーカーが配置されていることをご存じですか。(〇は1つだけ)

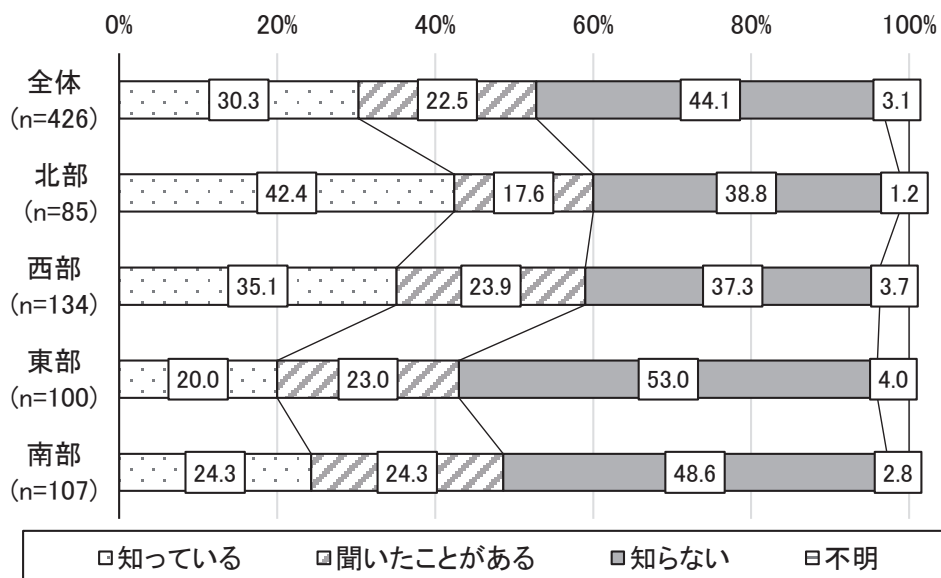
コミュニティワーカー配置の認知状況をみると、「知らない」が44.1%で最も多く、次いで「知っている」が30.3%、「聞いたことがある」が22.5%となっている。

図表 334 コミュニティワーカー配置の認知状況



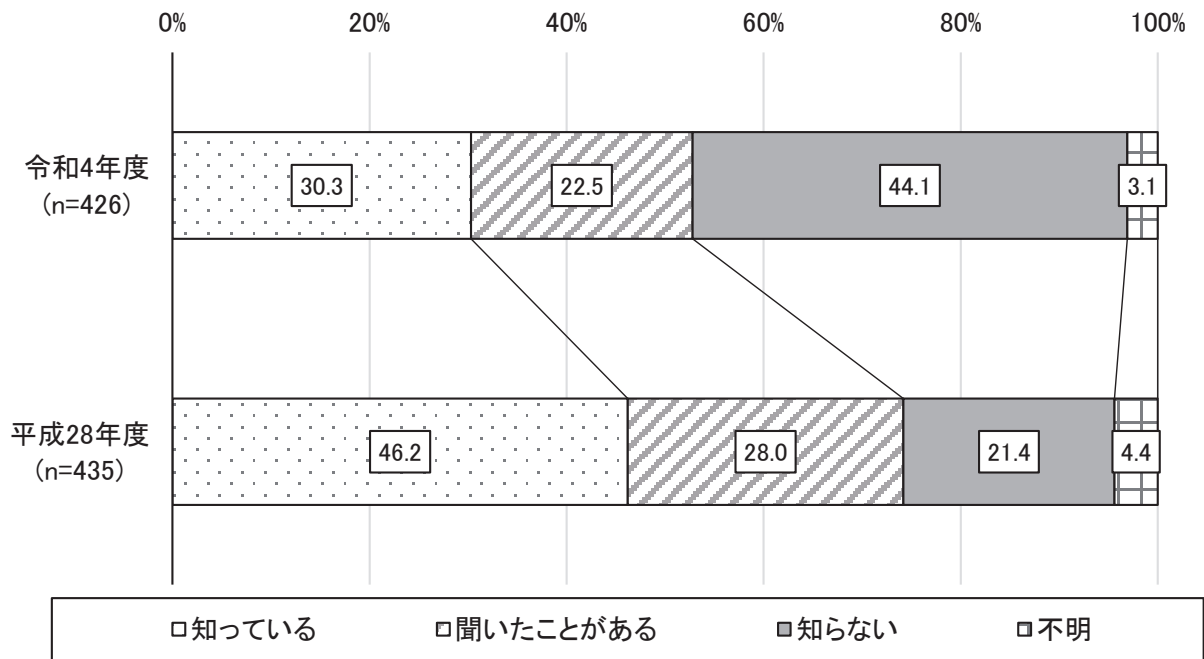
活動・所属地区別にみると、「知っている」は「北部(42.4%)」、「聞いたことがある」は「南部(24.3%)」、「知らない」は「東部(53.0%)」が最も多くなっている。

図表 335 コミュニティワーカー配置の認知状況(活動・所属地区別)



経年でみると、「知っている」、「聞いたことがある」が減少しており、「知らない」が増加している。

図表 336 コミュニティワーカー配置の認知状況(経年比較)



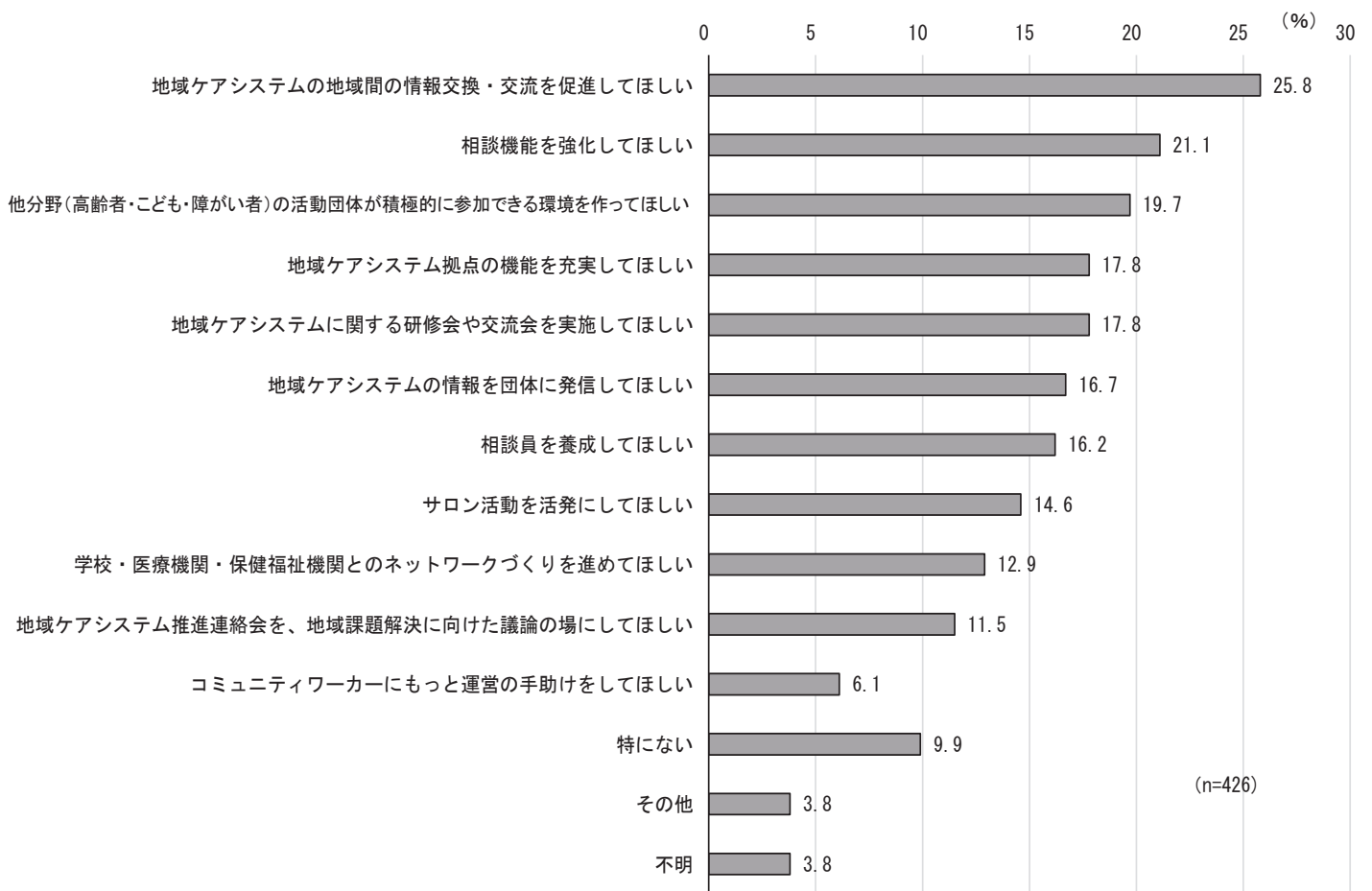
6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

㊸ 地域ケアシステムでやってもらいたいこと

問28 あなたが地域ケアシステムでやってもらいたいことはどのようなことですか。(〇は3つまで)

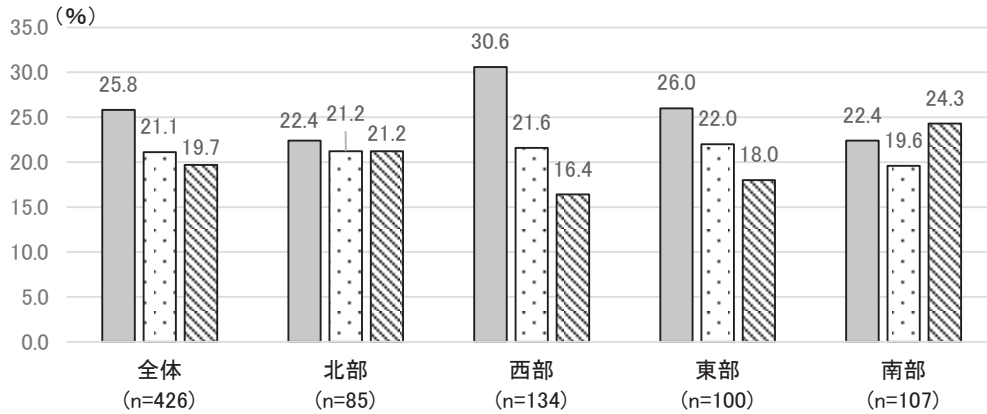
地域ケアシステムでやってもらいたいことをみると、「地域ケアシステムの地域間の情報交換・交流を促進してほしい」が25.8%で最も多く、次いで「相談機能を強化してほしい」が21.1%、「他分野(高齢者・子ども・障がい者)の活動団体が積極的に参加できる環境を作してほしい」が19.7%となっている。

図表 337 地域ケアシステムでやってもらいたいこと



活動・所属地区別にみると、「地域ケアシステムの地域間の情報交換・交流を促進してほしい」は「西部(30.6%)」、「相談機能を強化してほしい」は「東部(22.0%)」、「他分野(高齢者・子ども・障がい者)の活動団体が積極的に参加できる環境を作してほしい」は「南部(24.3%)」が最も多くなっている。

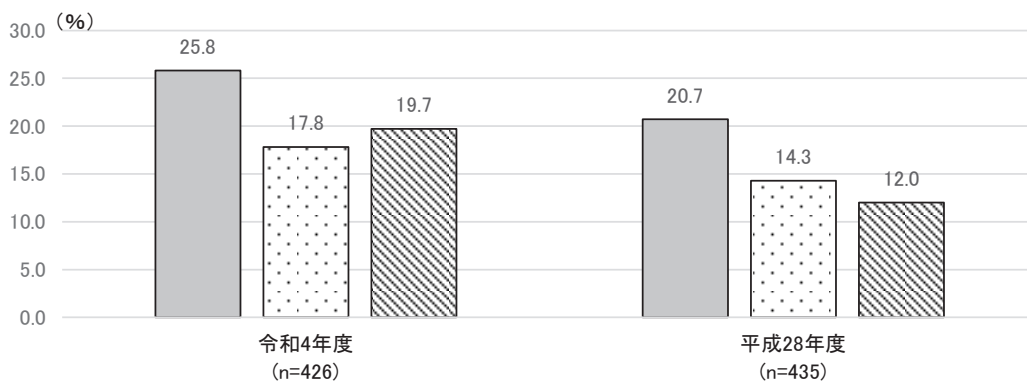
図表 338 地域ケアシステムでやってもらいたいこと(活動・所属地区別)



- 地域ケアシステムの地域間の情報交換・交流を促進してほしい
- 相談機能を強化してほしい
- ▨ 他分野(高齢者・子ども・障がい者)の活動団体が積極的に参加できる環境を作してほしい

経年でみると、「地域ケアシステムの地域間の情報交換・交流を促進してほしい」、「地域ケアシステム拠点の機能を充実してほしい」、「他分野(高齢者・子ども・障がい者)の活動団体が積極的に参加できる環境を作してほしい」の全ての項目が増加している。

図表 339 地域ケアシステムでやってもらいたいこと(経年比較)



- 地域ケアシステムの地域間の情報交換・交流を促進してほしい
- 地域ケアシステム拠点の機能を充実してほしい
- ▨ 他分野(高齢者・子ども・障がい者)の活動団体が積極的に参加できる環境を作してほしい

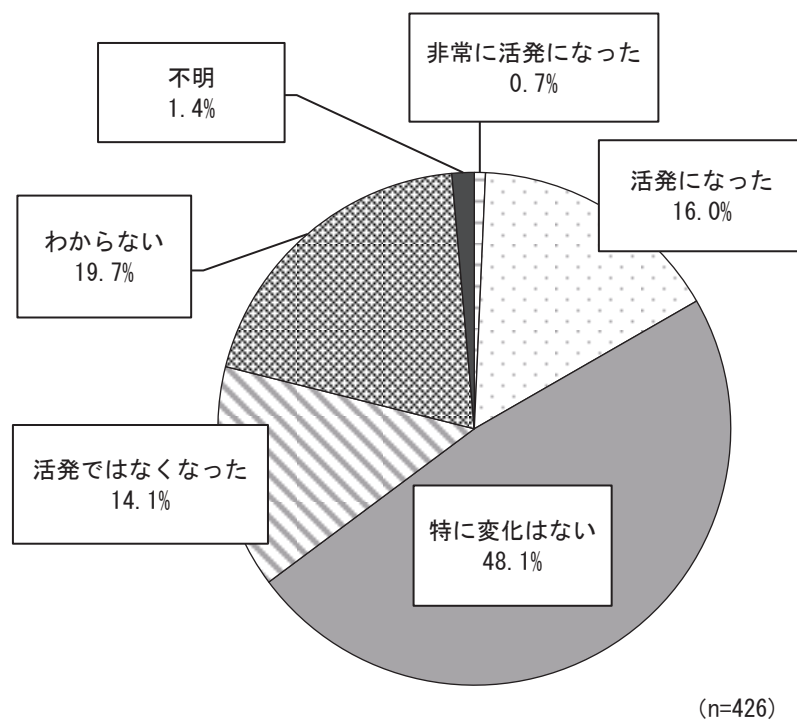
6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

㊸ 以前と比べた自身の活動地区における地域福祉の変化

問29 以前(平成28年頃)と比べて、ご自身の活動区域における地域の福祉活動はどのように変化しましたと感じますか。(〇は1つだけ)

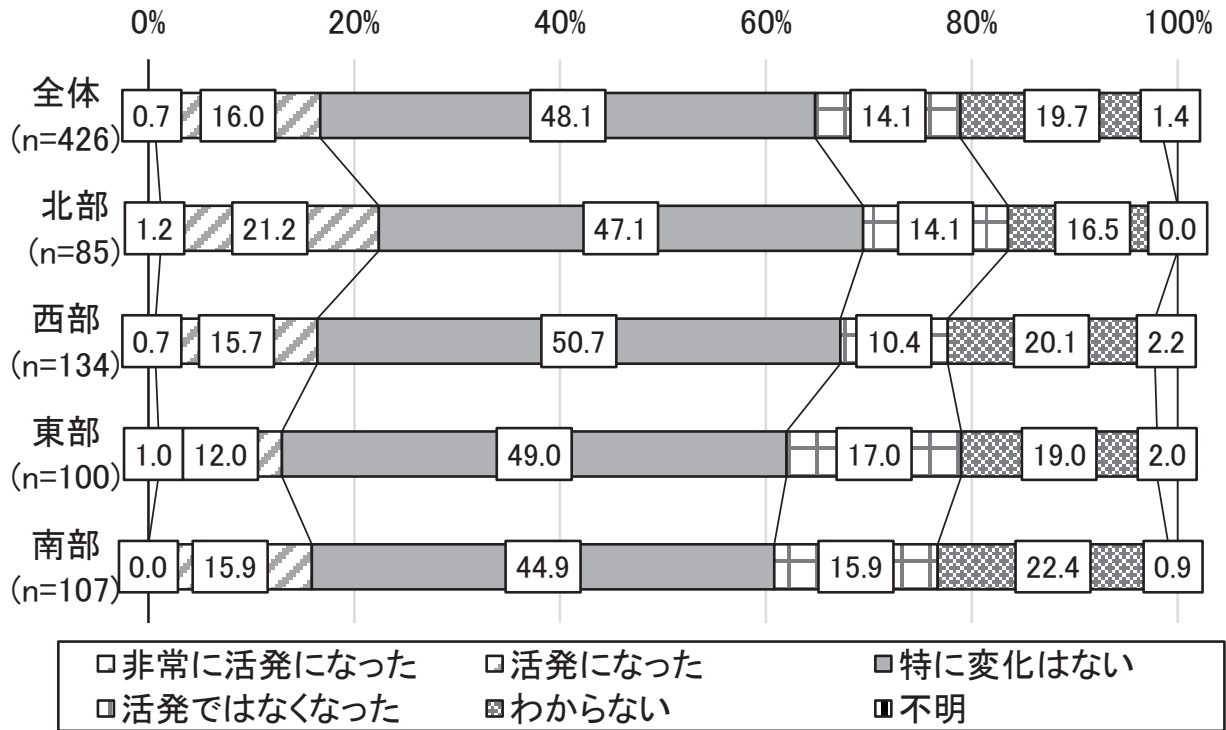
以前と比べた自身の活動地区における地域福祉の変化をみると、「特に変化はない」が48.1%で最も多く、次いで「わからない」が19.7%、「活発になった」が16.0%となっている。

図表 340 以前と比べた自身の活動地区における地域福祉の変化



活動・所属地区別にみると、「活発になった」は「北部(21.2%)」、「特に変化はない」は「西部(50.7%)」、「活発ではなくなった」は「東部(17.0%)」が最も多くなっている。

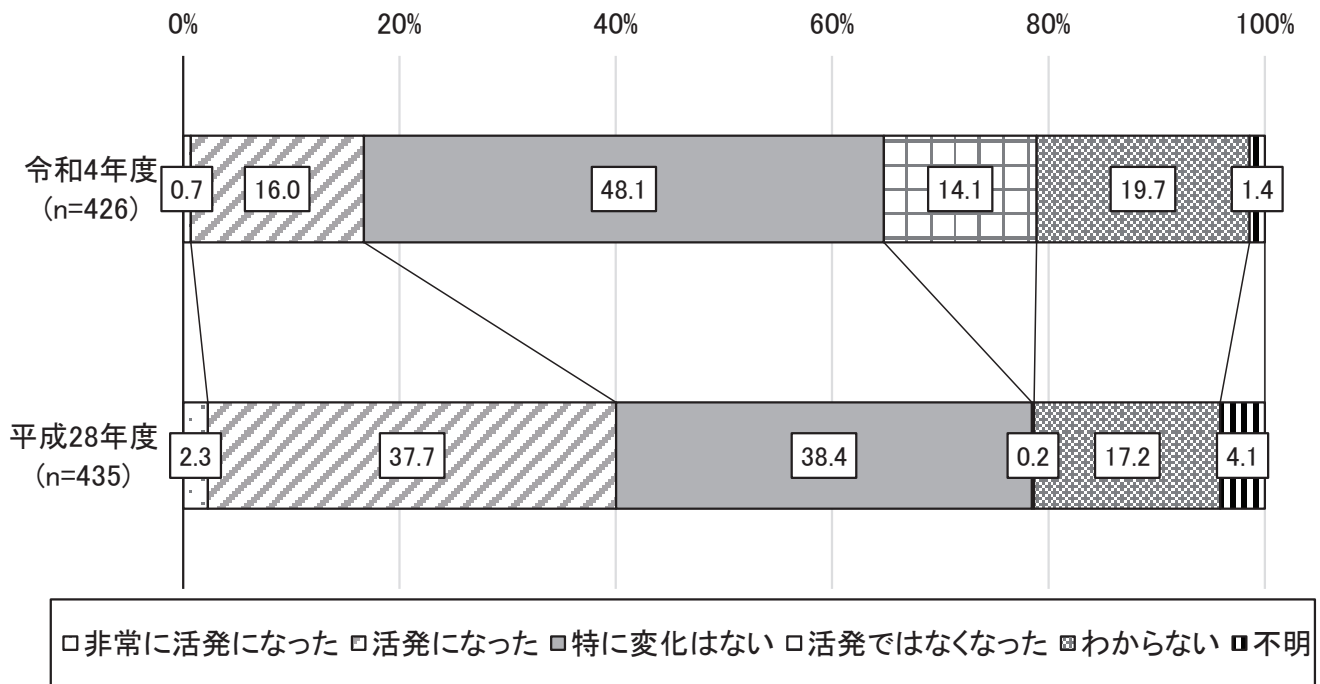
図表 341 以前と比べた自身の活動地区における地域福祉の変化(活動・所属地区別)



6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

経年でみると、「活発になった」は減少しており、「特に変化はない」、「活発ではなくなった」が増加している。

図表 342 以前と比べた自身の活動地区における地域福祉の変化(経年比較)

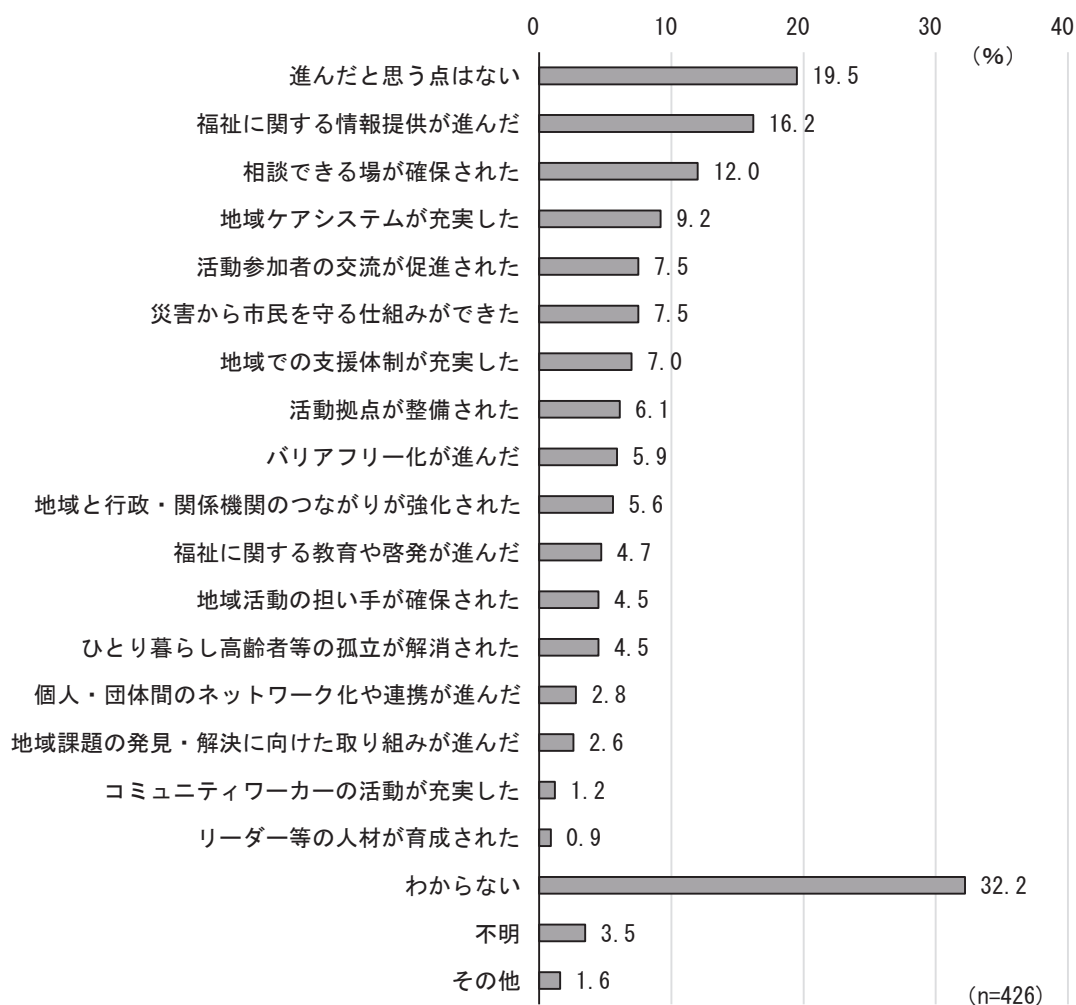


③ 以前と比べて活動地域において推進された地域福祉

問30 以前(平成28年頃)と比べて、日頃活動されている地域において、主にどのような点で地域福祉が推進されたと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

以前と比べて活動地域において推進された地域福祉をみると、「進んだと思う点はない」が19.5%で最も多く、次いで「福祉に関する情報提供が進んだ」が16.2%、「相談できる場が確保された」が12.0%となっている。

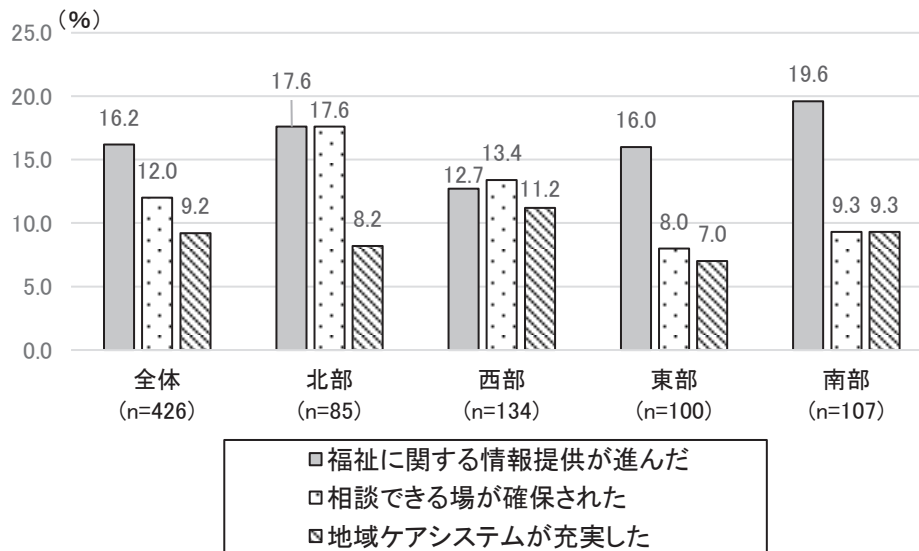
図表 343 以前と比べて活動地域において推進された地域福祉



6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

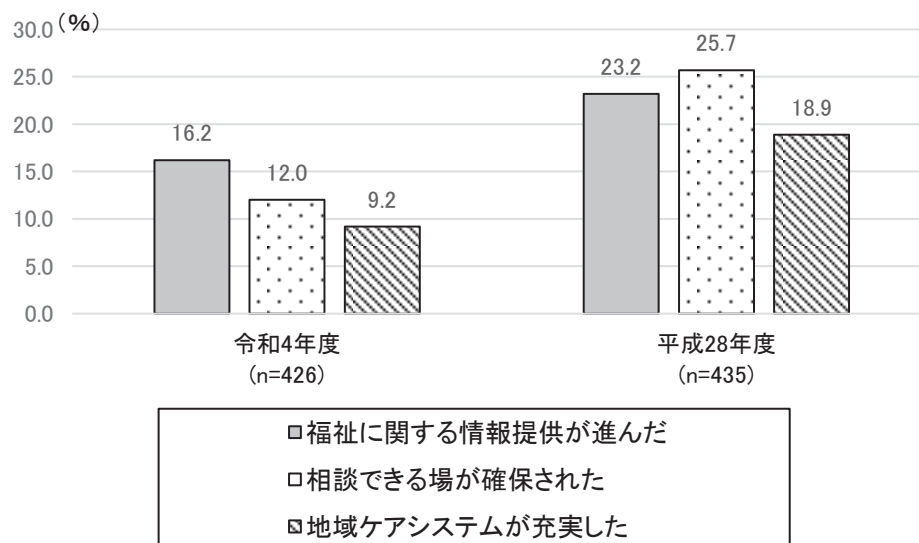
活動・所属地区別にみると、「福祉に関する情報提供が進んだ」は「南部(19.6%)」、「相談できる場が確保された」は「北部(17.6%)」、「地域ケアシステムが充実した」は「西部(11.2%)」が最も多くなっている。

図表 344 以前と比べて活動地域において推進された地域福祉(活動・所属地区別)



経年でみると、「福祉に関する情報提供が進んだ」、「相談できる場が確保された」、「地域ケアシステムが充実した」の全ての項目で減少している。

図表 345 以前と比べて活動地域において推進された地域福祉(経年比較)



③ コロナ禍で、集まって活動するための工夫

問31 コロナ禍において、集まって地域の福祉活動を実施できるように、工夫したことがありましたらご記入ください。(自由記載)

コロナ禍において、集まって地域の福祉活動を実施できるように工夫したことについて意見を求めたところ、実際に行った取組みとしては50件の意見が寄せられた。意見については、一回答者が複数の意見を記入している場合は、それぞれを1件として件数に加えている。主な意見を掲載しているが、主旨を尊重しながら表現をまとめるとともに誤字などを修正している。

項目別に見ると、「感染対策をした上での活動実施(27件)」が最も多く、次いで「イベントや交流会等の実施(7件)」、「自治会による話し合いの実施(4件)」が続いた。

多かった意見	件数
(ア) 感染対策をした上での活動実施	27
(イ) イベントや交流会等の実施	7
(ウ) 自治会による話し合いの実施	4
(エ) SNS等の活用	3
(オ) チラシやメモ、資料の配布	3
(カ) 電話による連絡実施	2
(キ) その他	4
合計	50

(ア) 感染対策をした上での活動実施

主な意見
・ サロン開催時、使用する部屋を定員枠の多い部屋に変更した。
・ サロン活動で密にならないように、全員前向きにして映画会を開いています。
・ ソーシャルディスタンスを保ちながらの協議会等。
・ マスク・フェイスシールド着用・手指の消毒・人数調整等。
・ マスクの用意、外出を控える。
・ マスク着用。
・ マスク着用と3密を避けたこと。
・ 間隔をあげ、マスクをかならずつける方法を取りました。
・ 距離をとって、直接顔を合わせた。
・ 参加者の人数制限、検温および消毒の実施。
・ 集まりを二つに分けて行った。
・ 集まる時間を短縮して外出する事に重きをおいた。
・ 集まる部屋を大きな部屋に変更し、健康に気をつけた。

6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

・ 出来る限りの感染防止対策を実施した。
・ 小人数にした会議を開き、再開活動方法を検討している。
・ 少人数で集まり、換気良く、短い時間体操した。
・ 消毒・換気・マスク。
・ 人員の制限、消毒等の充実を図った。
・ 人数制限。
・ 人数制限やマスクの着用。
・ 通常使用する会議室より広い会議室、人との間隔はできるだけあけ、十分な換気をした。
・ 定例会議も福祉活動とみなすのであれば、蜜を避けマスク着用手指消毒検温をして会議出席をした。
・ 部屋の換気、手の消毒、人との距離をあける。大声で話さない。
・ 野外での活動を充実しました。グランドゴルフ大会。健康ウォーク。
・ コロナ禍での外出機会が少なくなったため、感染に配慮しながら「健康教室」等住民のふれあいの場を作った。
・ イス・机など除菌に気をつけているので、時間がかかるようになった。
・ 感染拡大しないよう、行事のたびに配慮していること。

(イ) イベントや交流会等の実施

主な意見
・ コロナになって婦人会等で集まってお楽しみ会をした。以前は数回の行事があったが出来なく、安否確認のため第1回の交流会をした。
・ 月に一度、自宅にてよろず相談会をやっています。いらっしゃれる方はご自由に！
・ 講習会開催。
・ 子ども会の夏の集いで、自治会館の外庭でスイカ割りとヨーヨー釣りを開催し、親子で楽しんでもらいました。
・ 自治会の夏祭りを工夫して実施した。
・ 来所者と体操をしたり、一人世帯の方との茶話会等を行っています。
・ 自治会主催の体操の場を、なんとか続けてきました。

(ウ) 自治会による話し合いの実施

主な意見
・ 月次自治会にて、各リーダーと相談をしている(月1回以上、ほぼ2~3回)。
・ 災害時地区の要支援者の確認をどうするか自治会(防災会)との連携体制が整いつつある。
・ 自治会で災害時要支援者の見守りに関する話し合いがあり担当を決めた。
・ 自治会と民生委員の会議により、状況や課題が話し合えた。

(エ) SNS 等の活用

主な意見
・ LINEの活用。
・ QRコードを利用して、イベントなどに参加して下さる方を募った。
・ 集まれ無いから、リモートでしょう！SNS はかなり浸透しましたね。個人情報や詐欺に躊躇する方も多いですね。設問の答えとしては、連絡通知だけでもですかね！

(オ) チラシやメモ、資料の配布

主な意見
・ サロン等の開始までメモを配った。
・ チラシ配り。
・ 高齢者への情報提供(チラシで案内)等が、増えたと思う。

(カ) 電話による連絡実施

主な意見
・ 常に電話。
・ 電話連絡。

(キ) その他

主な意見
・ サークル活動や老人会等を通じて、コロナ感染対策や接種等の予約方法について助言。
・ 高齢者の一人暮らしの助け合いを立ち上げる準備をしているが、自治会の支援が得られず前に進めない。
・ 子供会の資源回収において、拠点に旗を立てそこに雑誌等置いてもらうようにしました。この時期は、当然子供たちは不参加で！
・ 自治会館をかさない。

6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

③ コロナ禍で、集まらずに活動するための工夫

問32 コロナ禍において集まらずに地域の福祉活動が実施できるように、工夫したことがありましたらご記入ください。(自由記載)

コロナ禍において、集まらずに地域の福祉活動を実施できるように工夫したことについて意見を求めたところ、実際に行った取組みとしては54件の意見が寄せられた。意見については、一回答者が複数の意見を記入している場合は、それぞれを1件として件数に加えている。主な意見を掲載しているが、主旨を尊重しながら表現をまとめるとともに誤字などを修正している。

項目別に見ると、「電話・手紙等による活動実施(23件)」が最も多く、次いで「オンライン(ZOOMやSNS等)の活用(15件)」、「感染対策をした上での活動実施(4件)」が続いた。

多かった意見	件数
(ア) 電話・手紙等による活動実施	23
(イ) オンライン(ZOOMやSNS等)の活用	15
(ウ) 感染対策をした上での活動実施	4
(エ) その他	12
合計	54

(ア) 電話・手紙等による活動実施

主な意見
・ 対面しないで電話で対応する。
・ お便りや電話が主になります。
・ アナログに手紙も使った。特に女性には好評だった。
・ お手紙と一緒に熱中症防止や、フレイル予防のパンフ類をポスティングした。
・ サロンの中止により定期的に電話連絡するようになった。
・ ポスティング、電話連絡。
・ 一人暮らしの該当者の住民に、手紙や関係書類をポスティングした。
・ 感染が不安で集まりはできず、電話でのやり取りしかできませんでした。
・ 自宅訪問から電話での訪問にする事で、お互いの安心感につながったように思う。
・ 主に電話での活動位しか出来ませんでした。
・ 主に電話での状況把握。対面では受け身の会話になりがちだが電話となると雄弁になり本音が出やすく、プライベートな話題も多くなり、こちらとしても色々参考になる事があった。
・ 手紙、電話等で福祉活動を実施しました。
・ 手紙やTELで対応している。
・ 書類を作って送ってもらいました。
・ 総会等は書面上にした。

・ 対面ではない、他の手段の実施(電話、FAX)。
・ 只今作成中(電話連絡確認表)。
・ 地域の方への情報提供をするべく、「コミュニティペーパー紙」の発行を多めに行った。
・ 電話での質問を多くし、状況を確認した。
・ 電話や手紙での安否確認。
・ 電話連絡を時々行う。
・ 訪問や制限されている時は電話やメールでやりとりをする以外はなにも出来ませんでした。ここに来てやっと高齢者クラブが活動開始した。
・ 民生委員児童委員の連絡事項を会長が一斉にメールや電話で流してくださった。

(イ) オンライン(ZOOM や SNS 等)の活用

主な意見
・ LINE での話し合い。
・ ZOOM などを利用して、オンライン会議をした(若手が実施)。
・ インターネットを利用した。
・ オンライン会議。
・ サークル活動の仲間にはラインを使って連絡。
・ ズーム、オンライン等の打ち合わせ。
・ ズーム会議(便利だと思った)。
・ ラインアプリを使って連絡が取りやすくなった。
・ 夏休みに社協さんとの協力により、親子クッキングコンテストをパソコンからの応募とした。
・ 使える方にはSNS使用。
・ 習志野市の社会福祉協議会にて、ZOOM を使ったオンライン講習会を開きました。
・ 集まって活動ができなかった分、ラインなどで連絡を取りあい情報交換を行って困っている人に対する支援を行った。
・ 対面ではない、他の手段の実施(Web)。
・ 地域の方と、LINE やショートメールなどで、連絡を取り合い、状況を把握していました。
・ 民生委員同士ラインで情報交換しました。

6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

(ウ) 感染対策をした上での活動実施

主な意見
・ 人数を半分にして二部制で開催している集会がある。
・ コロナ感染者が非常に多数の時は、すべての会議・友愛訪問等中止となりましたが、全体ではなく個々の分野での活動においては十分防備した上で取り組んだ。電話が聞こえにくい人もいて訪問したりもした。
・ マスクをして運動をした。歌をうたう。物の手渡しゲーム等は避けて活動をした(換気・お互いの距離を注意して)。
・ 参加者(出席者)の限定(1/2～1/3)。

(エ) その他

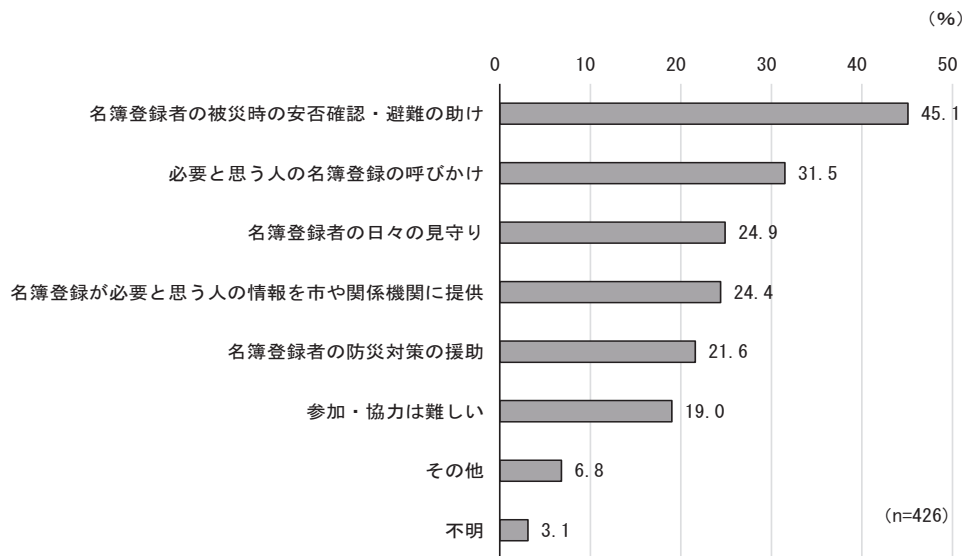
主な意見
・ PRに力を入れています。
・ どんな事で困っているかアンケートを実施する予定。
・ ラジオ体操のみやってみた。
・ 屋外で、午前中のみポップコーン店を開き、新田4丁目の松寿会と子ども会の方々に集まらず、自由に来てもらい無料でプレゼントしました。
・ 掲示板に貼りだす。
・ 敬老の日に会員全員にお便りをつけてお弁当を配布した。
・ 月次自治会にて、各リーダーと相談をしている(月1回以上、ほぼ2～3回)。
・ 公園の草花を見ながら体操、又、参加者の意見を聞こうとした。
・ 時々、高齢者宅へ団体役員が訪問し、見守りや注意喚起(コロナ等)をした。
・ 自宅にて課題を(プリント等)をしました。集まれた時、皆さんすばらしい作品(ぬり絵)が出来上がりました。
・ 早めのサロン活動をはじめた。
・ 地域の小学校の学童保育の補助をしながら子供の健全育成の手伝いをしている。

③ 「避難行動要支援者」に関連した活動への参加協力

問33 市川市では、高齢者や障がい者などの災害時に自力で安全な場所に避難することが困難ないわゆる「避難行動要支援者」の安全を守るため、地域の協力体制づくりを推進する目的として「避難行動要支援者名簿」を作成しています。あなたは次のような援助活動にご協力いただけますか。(あてはまるものすべてに○)

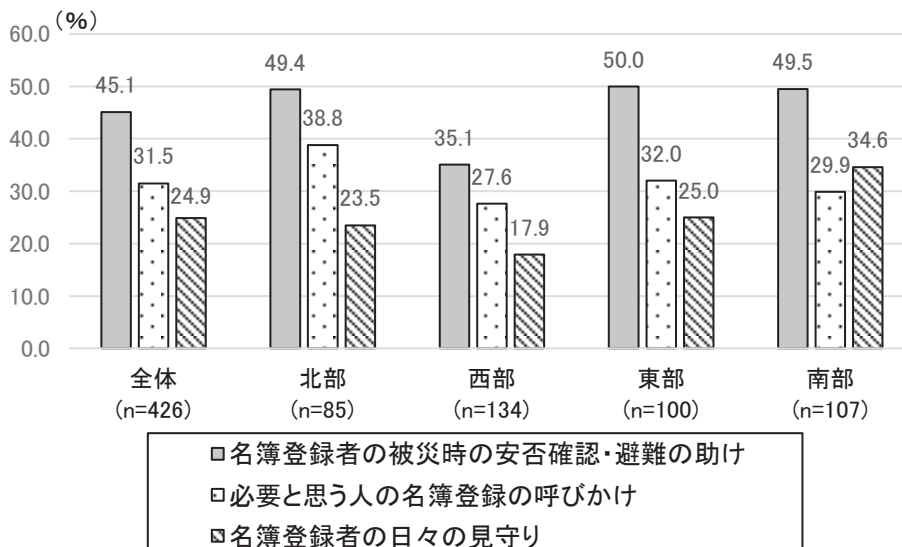
「避難行動要支援者」に関連した活動への参加協力をみると、「名簿登録者の被災時の安否確認・避難の助け」が45.1%で最も多く、次いで「必要と思う人の名簿登録の呼びかけ」が31.5%、「名簿登録者の日々の見守り」が24.9%となっている。

図表 346 「避難行動要支援者」に関連した活動への参加協力



活動・所属地区別にみると、「名簿登録者の被災時の安否確認・避難の助け」は「東部(50.0%)」、「必要と思う人の名簿登録の呼びかけ」は「北部(38.8%)」、「名簿登録者の日々の見守り」は「南部(34.6%)」が最も多くなっている。

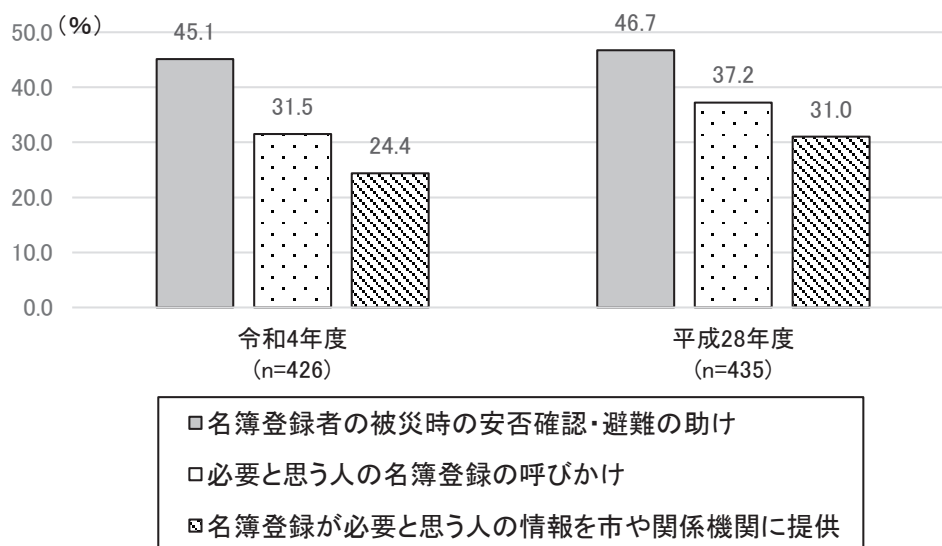
図表 347 「避難行動要支援者」に関連した活動への参加協力(活動・所属地区別)



6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

経年でみると、「名簿登録者の被災時の安否確認・避難の助け」、「必要と思う人の名簿登録の呼びかけ」、「名簿登録が必要と思う人の情報を市や関係機関に提供」の全ての項目が減少している。

図表 348 「避難行動要支援者」に関連した活動への参加協力(経年比較)

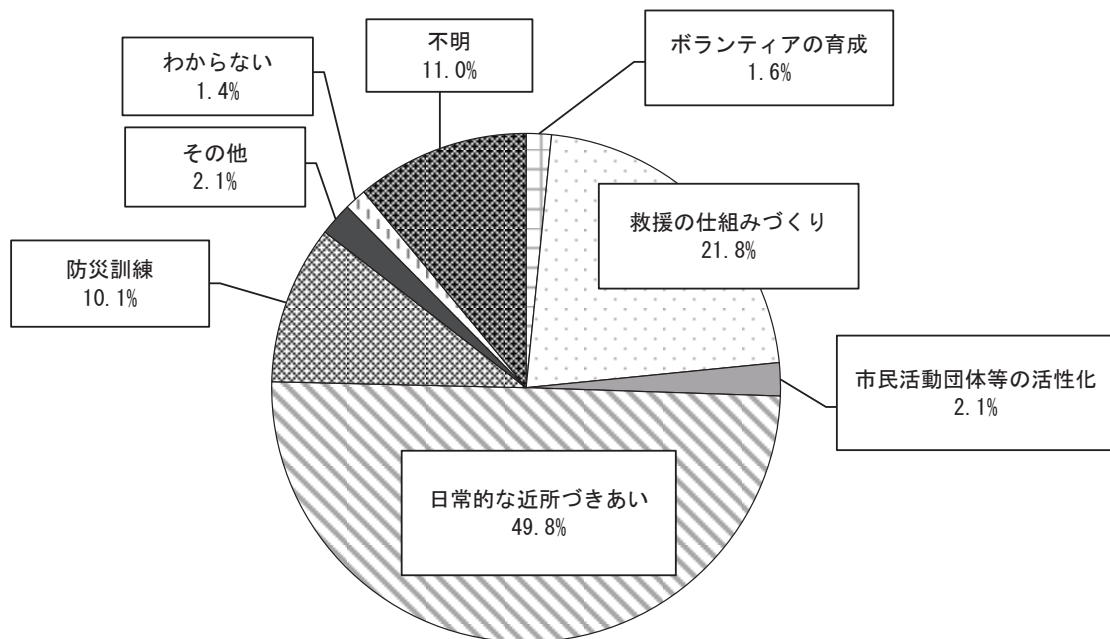


③ 災害時における助け合いのために必要な日常的取り組み

問34 災害発生直後には公的な援助はすぐに届かない場合が予想されます。災害時において、お互いを助けあうためには、日常的にどのような取り組みが必要だと思いますか。(〇は1つだけ)

災害時における助け合いのために必要な日常的取り組みをみると、「日常的な近所づきあい」が49.8%で最も多く、次いで「救援の仕組みづくり」が21.8%、「防災訓練」が10.1%となっている。

図表 349 災害時における助け合いのために必要な日常的取り組み

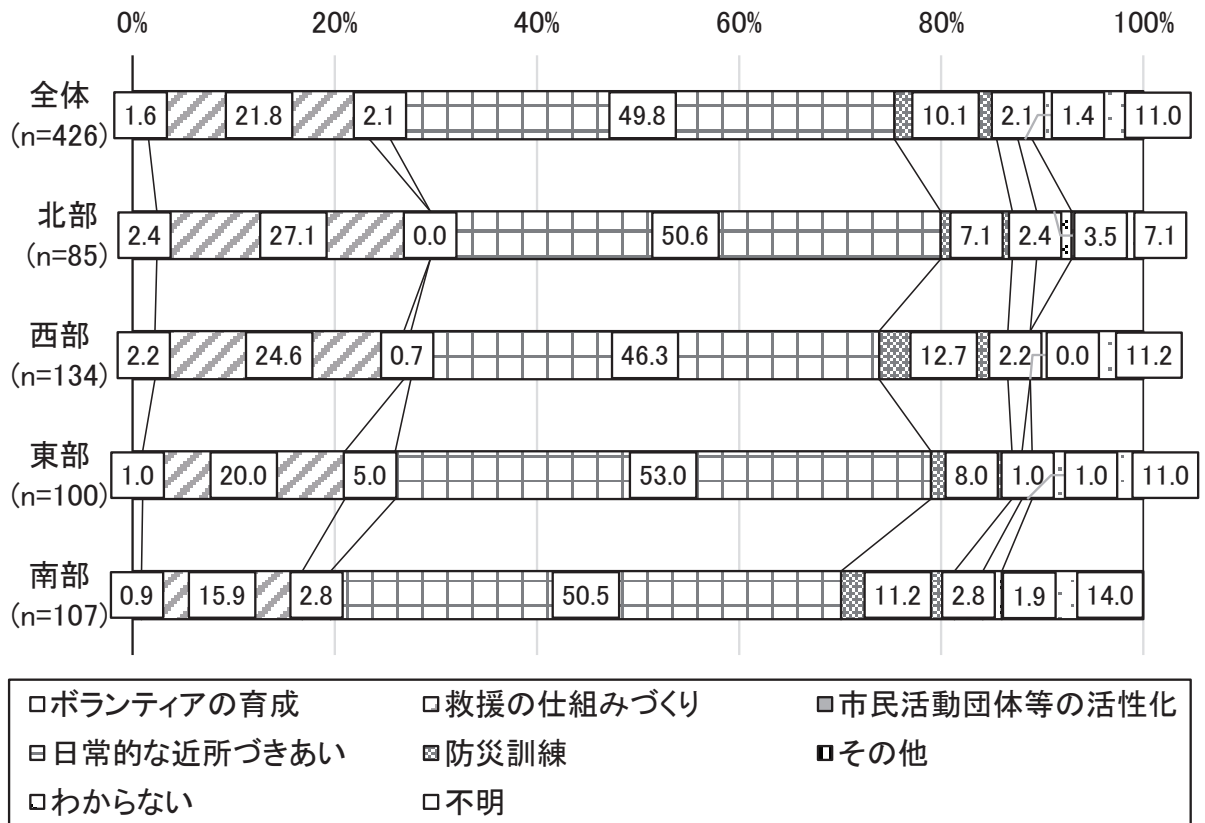


(n=426)

6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

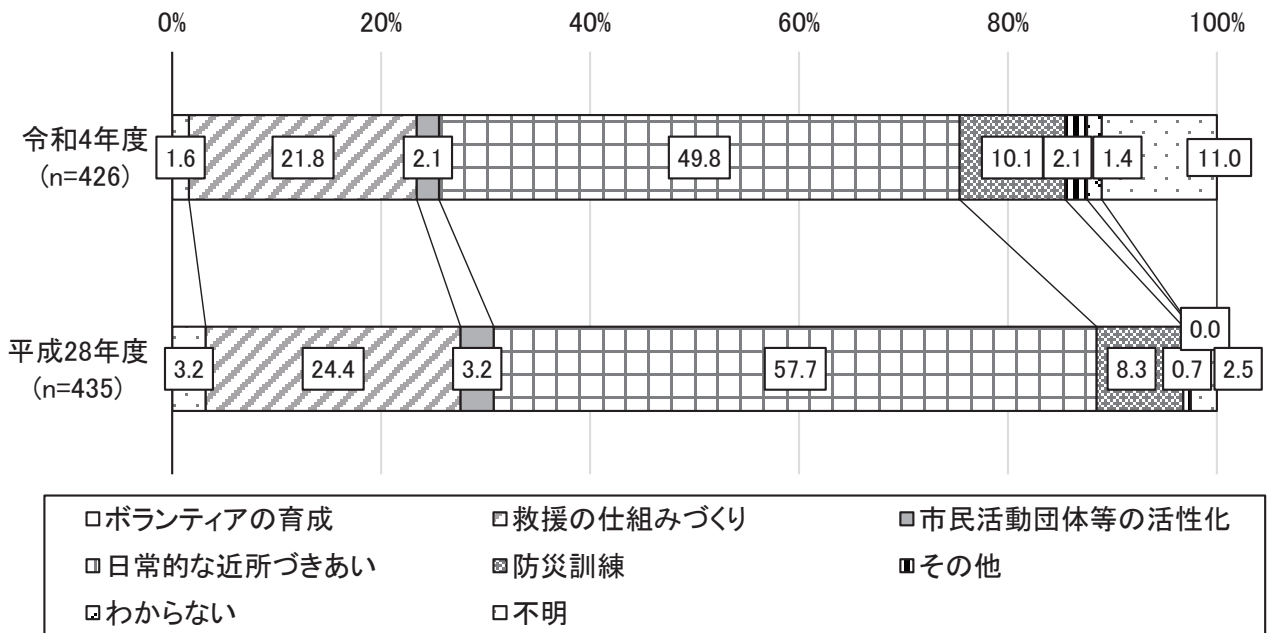
活動・所属地区別にみると、「救援の仕組みづくり」は「北部(27.1%)」、「日常的な近所づきあい」は「東部(53.0%)」、「防災訓練」は「西部(12.7%)」が最も多くなっている。

図表 350 災害時における助け合いのために必要な日常的取り組み(活動・所属地区別)



経年でみると、「救援の仕組みづくり」、「日常的な近所づきあい」などが減少しており、「防災訓練」は微増している。

図表 351 災害時における助け合いのために必要な日常的取り組み(経年比較)



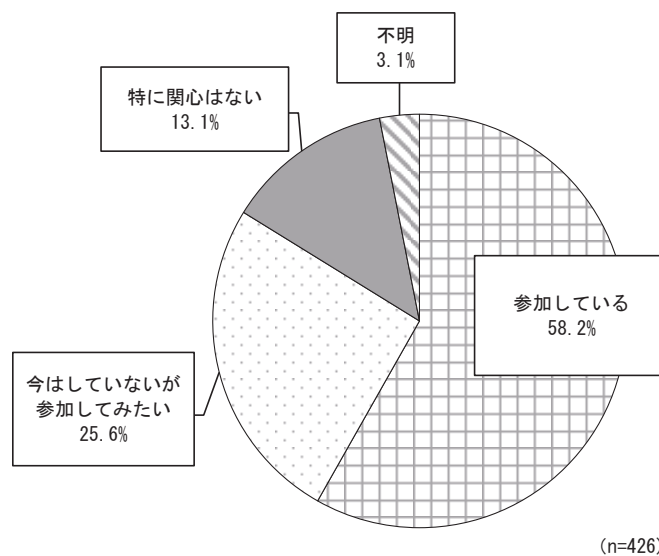
6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

㊸ 地域福祉活動活性化のための取り組みへの参加

問35 民生委員・児童委員活動の他に、地域福祉活動活性化のための取り組みに参加していますか。
(〇は1つだけ)

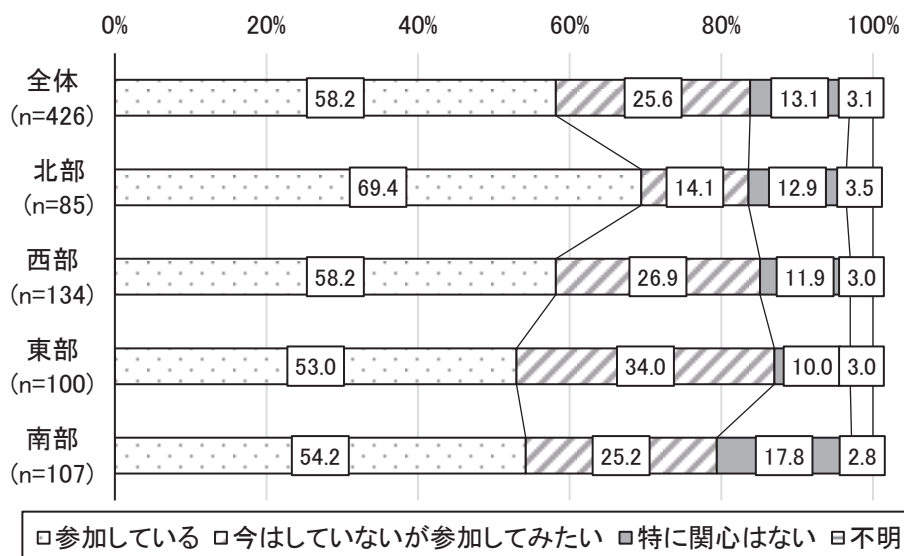
地域福祉活動活性化のための取り組みへの参加をみると、「参加している」が58.2%で最も多く、次いで「今はしていないが参加してみたい」が25.6%、「特に興味はない」が13.1%となっている。

図表 352 地域福祉活動活性化のための取り組みへの参加



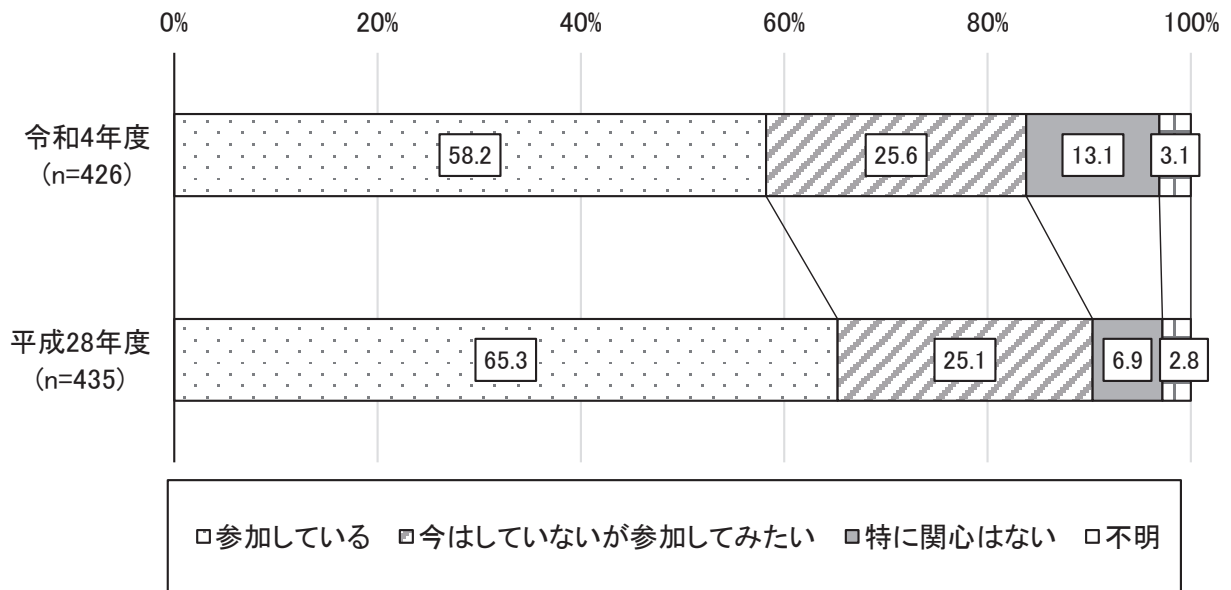
活動・所属地区別にみると、「参加している」は「北部(69.4%)」、「今はしていないが参加してみたい」は「東部(34.0%)」、「特に興味はない」は「南部(17.8%)」が最も多くなっている。

図表 353 地域福祉活動活性化のための取り組みへの参加(活動・所属地区別)



経年でみると、「参加している」は減少しており、「特に興味はない」は増加している。

図表 354 地域福祉活動活性化のための取り組みへの参加(経年比較)



6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

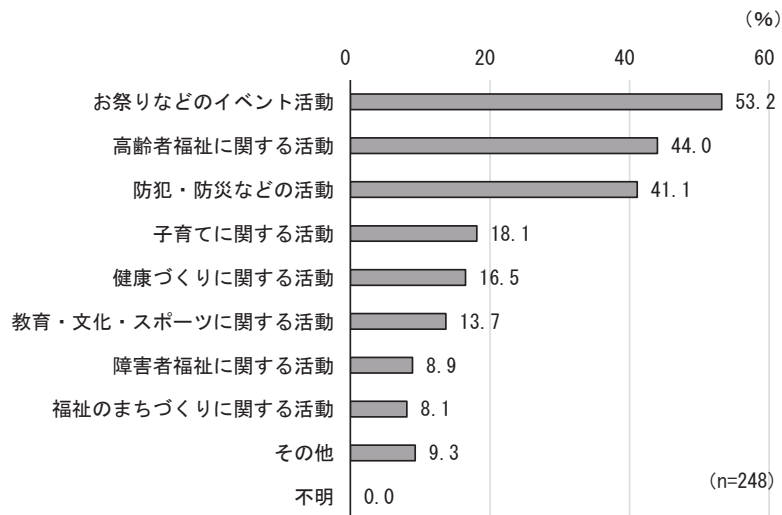
③⑥ 参加している取り組み

問35で「1. 参加している」と答えた方にお尋ねします。

問36 どのような取り組みに参加していますか。(あてはまるものすべてに○)

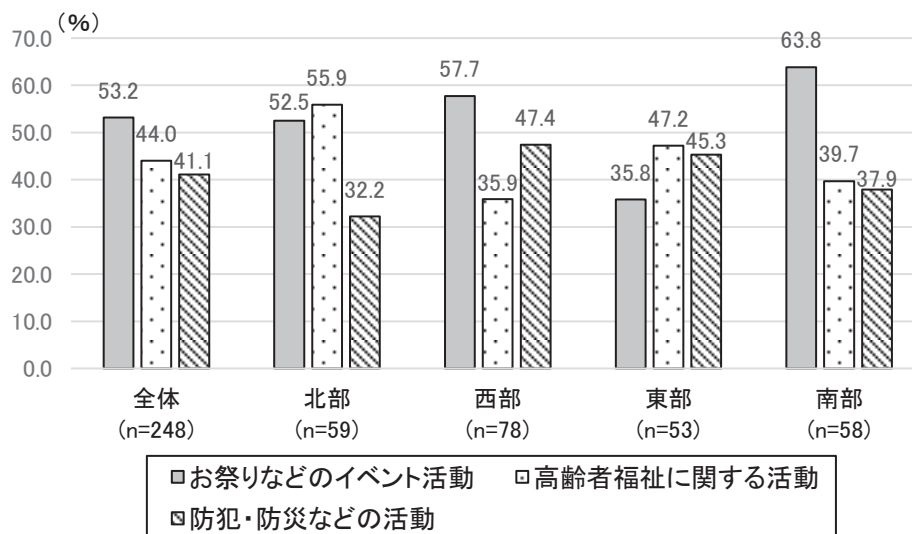
参加している取り組みをみると、「お祭りなどのイベント活動」が53.2%で最も多く、次いで「高齢者福祉に関する活動」が44.0%、「防犯・防災などの活動」が41.1%となっている。

図表 355 参加している取り組み



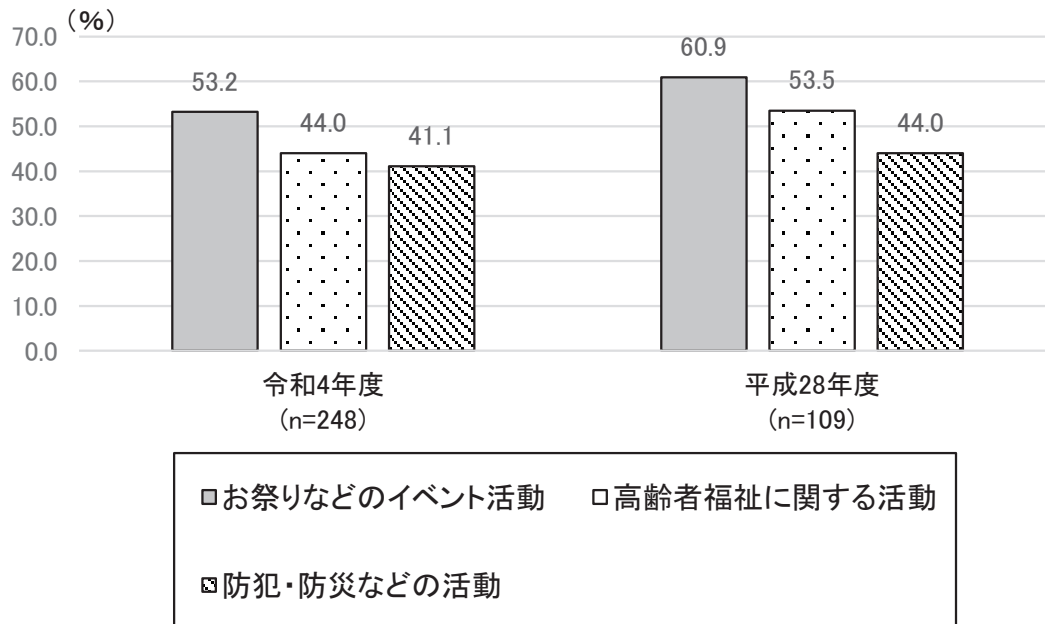
活動・所属地区別にみると、「お祭りなどのイベント活動」は「南部(63.8%)」、「高齢者福祉に関する活動」は「北部(55.9%)」、「防犯・防災などの活動」は「西部(47.4%)」が最も多くなっている。

図表 356 参加している取り組み(活動・所属地区別)



経年でみると、「お祭りなどのイベント活動」、「高齢者福祉に関する活動」、「防犯・防災などの活動」の全ての項目で減少している。

図表 357 参加している取り組み(経年比較)



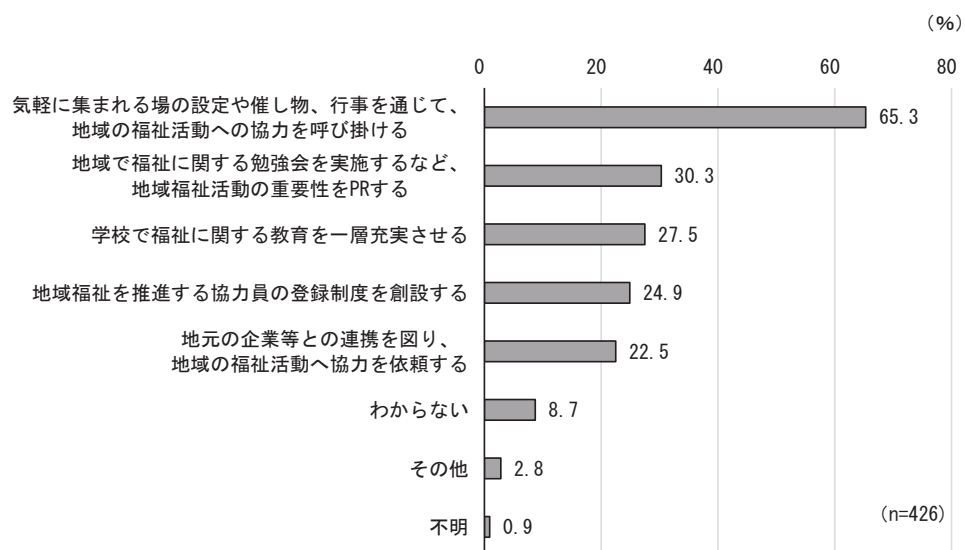
6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

③ 地域福祉を推進する地域の人材（担い手）を増やすために必要なこと

問37 地域福祉を推進する地域の人材(担い手)を増やすには、どのようにしたらよいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

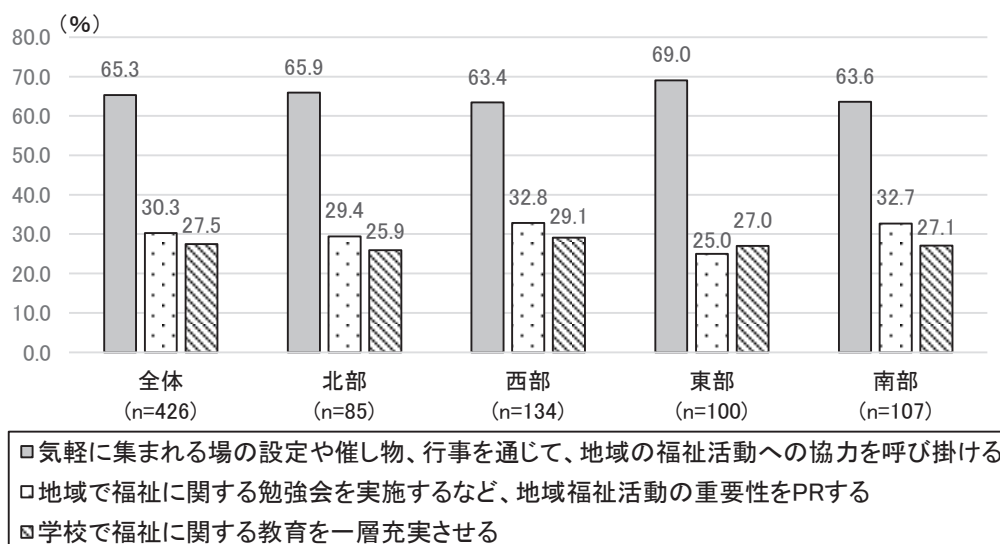
地域福祉を推進する地域の人材(担い手)を増やすために必要なことをみると、「気軽に集まれる場の設定や催し物、行事を通じて、地域の福祉活動への協力を呼び掛ける」が65.3%で最も多く、次いで「地域で福祉に関する勉強会を実施するなど、地域福祉活動の重要性をPRする」が30.3%、「学校で福祉に関する教育を一層充実させる」が27.5%となっている。

図表 358 地域福祉を推進する地域の人材(担い手)を増やすために必要なこと



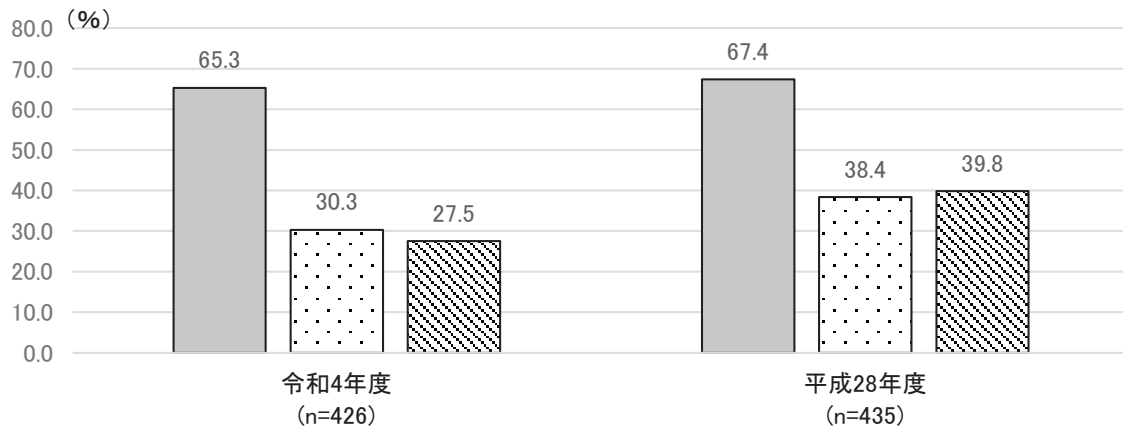
活動・所属地区別にみると、「気軽に集まれる場の設定や催し物、行事を通じて、地域の福祉活動への協力を呼び掛ける」は「東部(69.0%)」、「地域で福祉に関する勉強会を実施するなど、地域福祉活動の重要性をPRする」は「西部(32.8%)」、「学校で福祉に関する教育を一層充実させる」は「西部(29.1%)」が最も多くなっている。

図表 359 地域福祉を推進する地域の人材(担い手)を増やすために必要なこと(活動・所属地区別)



経年でみると、「気軽に集まれる場の設定や催し物、行事を通じて、地域の福祉活動への協力を呼び掛ける」、「地域で福祉に関する勉強会を実施するなど、地域福祉活動の重要性をPRする」、「学校で福祉に関する教育を一層充実させる」の全ての項目で減少している。

図表 360 地域福祉を推進する地域の人材(担い手)を増やすために必要なこと(経年比較)



- 気軽に集まれる場の設定や催し物、行事を通じて、地域の福祉活動への協力を呼び掛ける
- 地域で福祉に関する勉強会を実施するなど、地域福祉活動の重要性をPRする
- 学校で福祉に関する教育を一層充実させる

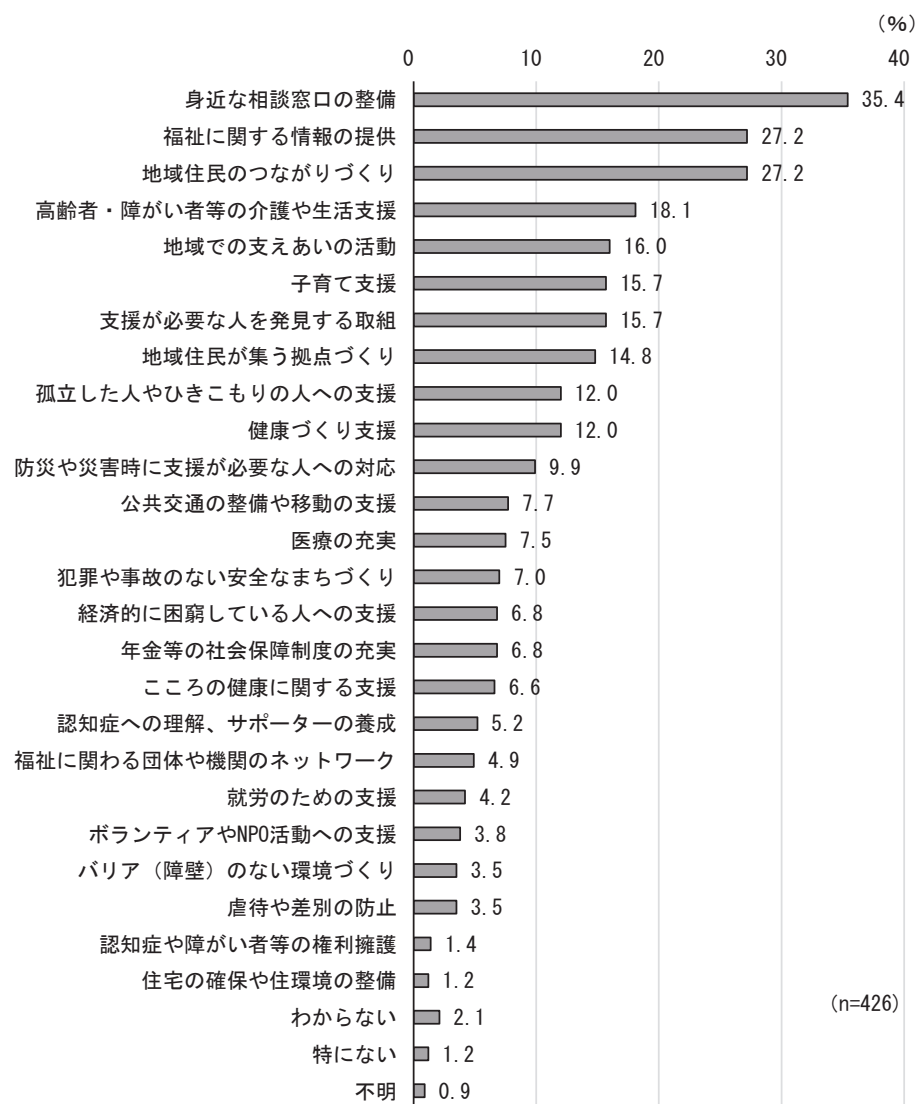
6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

⑳ 地域福祉の充実のため市が優先的に取り組むべきこと

問38 地域福祉を充実させるために、市川市はどのようなことを特に優先的に取り組むべきだと思いますか。(〇は3つまで)

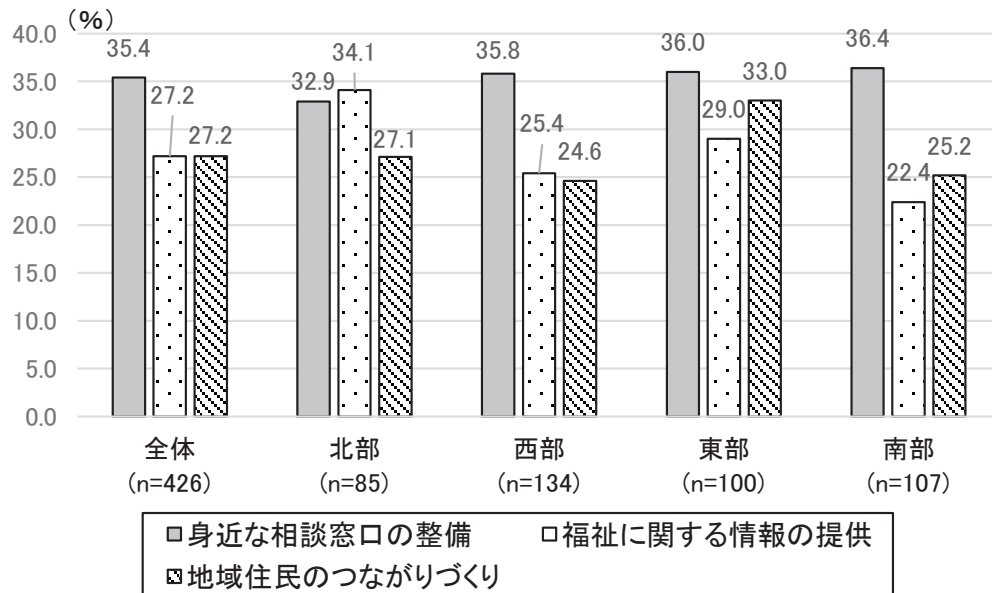
地域福祉を充実させるために、市が優先的に取り組むべきことをみると、「身近な相談窓口の整備」が35.4%で最も多く、次いで「福祉に関する情報の提供」と「地域住民のつながりづくり」が27.2%となっている。

図表 361 地域福祉の充実のため市が優先的に取り組むべきこと



活動・所属地区別にみると、「身近な相談窓口の整備」は「南部(36.4%)」、「福祉に関する情報の提供」は「北部(34.1%)」、「地域住民のつながりづくり」は「東部(33.0%)」が最も多くなっている。

図表 362 地域福祉の充実のため市が優先的に取り組むべきこと(活動・所属地区別)



6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

③ 地域や民間の団体・事業者等が積極的に取り組むべきこと

問39 地域や民間の団体・事業者等が積極的に取り組むべきだと思われることはありますか。(〇は3つまで)

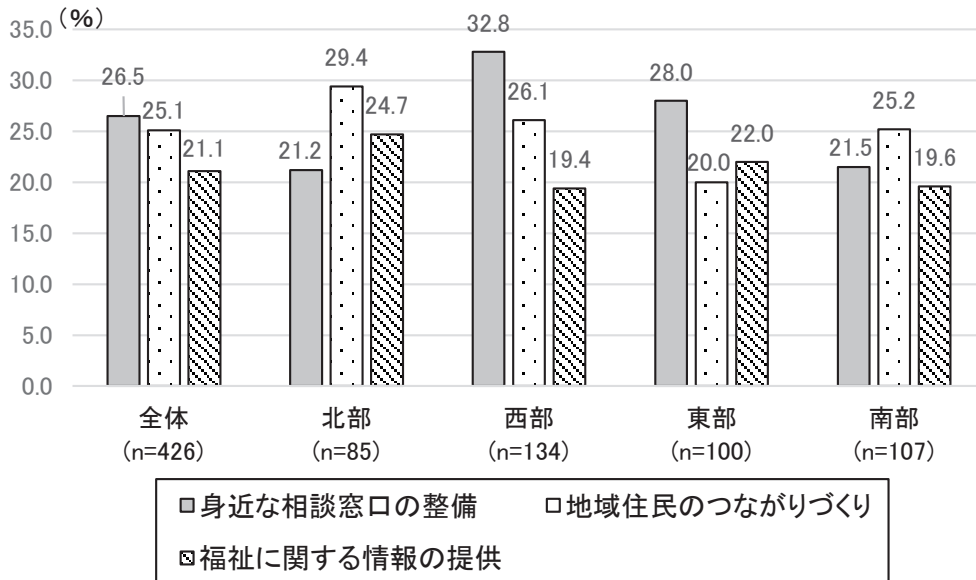
地域や民間の団体・事業者等が積極的に取り組むべきことをみると、「身近な相談窓口の整備」が26.5%で最も多く、次いで「地域住民のつながりづくり」が25.1%、「福祉に関する情報の提供」が21.1%となっている。

図表 363 地域や民間の団体・事業者等が積極的に取り組むべきこと



活動・所属地区別にみると、「身近な相談窓口の整備」は「西部(32.8%)」、「地域住民のつながりづくり」は「北部(29.4%)」、「福祉に関する情報の提供」は「北部(24.7%)」が最も多くなっている。

図表 364 地域や民間の団体・事業者等が積極的に取り組むべきこと(活動・所属地区別)



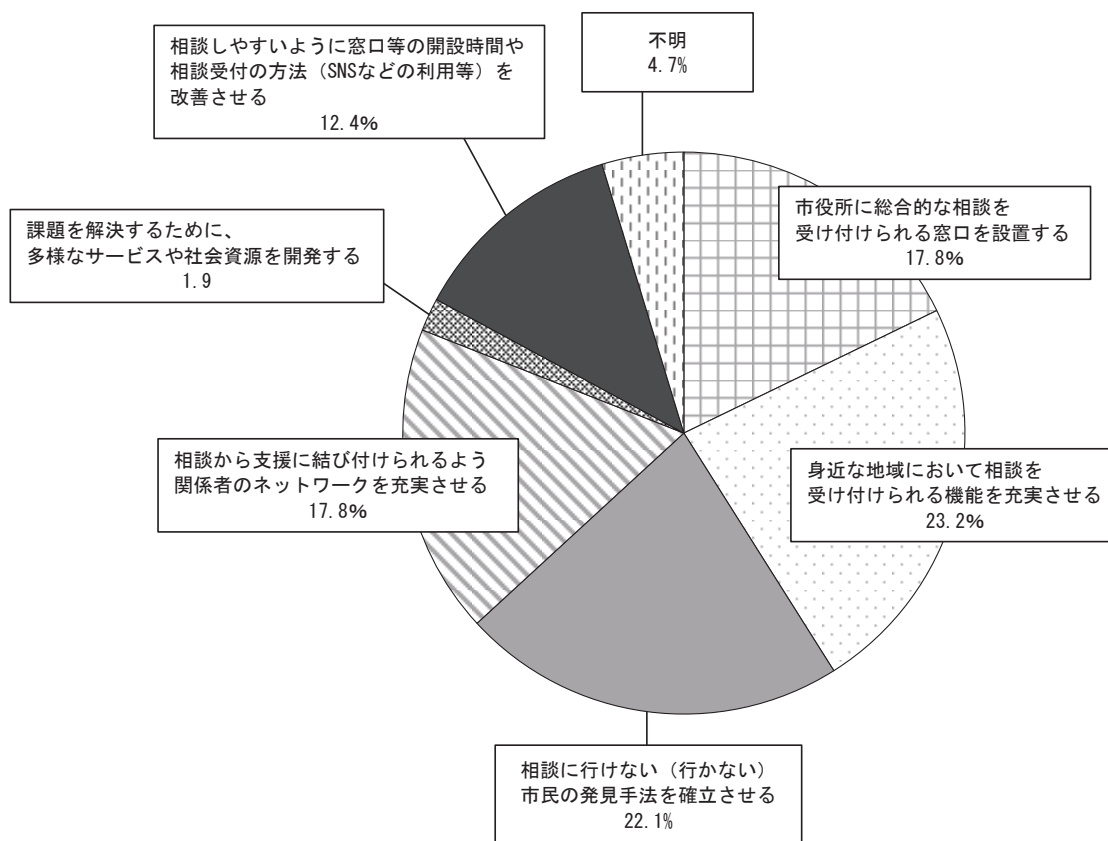
6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

④ 地域共生社会に向け市が力を入れて取り組むべきこと

問40 「地域共生社会」では、多様な生活課題に法制度の枠組みを超えて、横断的に対応する相談支援体制が求められますが、市川市ではこうした包括的な相談支援の仕組みを充実していくうえで、特に優先的に力を入れて取り組むべきことはどのようなことだと思いますか。(〇は1つだけ)

地域共生社会に向けて市が力を入れて取り組むべきことをみると、「身近な地域において相談を受け付けられる機能を充実させる」が23.2%で最も多く、次いで「相談に行けない(行かない)市民の発見手法を確立させる」が22.1%、「市役所に総合的な相談を受け付けられる窓口を設置する」、「相談から支援に結び付けられるよう関係者のネットワークを充実させる」が17.8%となっている。

図表 365 地域共生社会に向け市が力を入れて取り組むべきこと

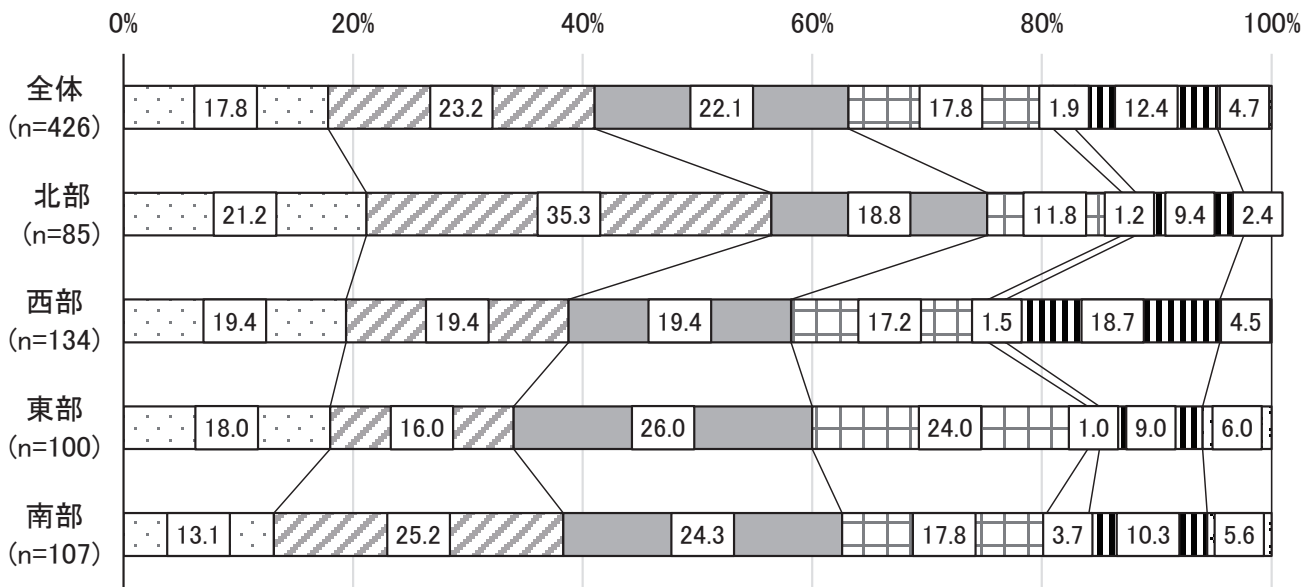


(n=426)

6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

活動・所属地区別にみると、「身近な地域において相談を受け付けられる機能を充実させる」は「北部(35.3%)」、「相談に行けない(行かない)市民の発見手法を確立させる」は「東部(26.0%)」、「市役所に総合的な相談を受け付けられる窓口を設置する」は「北部(21.2%)」、「相談から支援に結び付けられるよう関係者のネットワークを充実させる」は「東部(24.0%)」が最も多くなっている。

図表 366 地域共生社会に向け市が力を入れて取り組むべきこと(活動・所属地区別)



- 市役所に総合的な相談を受け付けられる窓口を設置する
- 身近な地域において相談を受け付けられる機能を充実させる
- 相談に行けない(行かない)市民の発見手法を確立させる
- 相談から支援に結び付けられるよう関係者のネットワークを充実させる
- ▣課題を解決するために、多様なサービスや社会資源を開発する
- 相談しやすいように窓口等の開設時間や相談受付の方法(SNSなどの利用等)を改善させる
- 不明

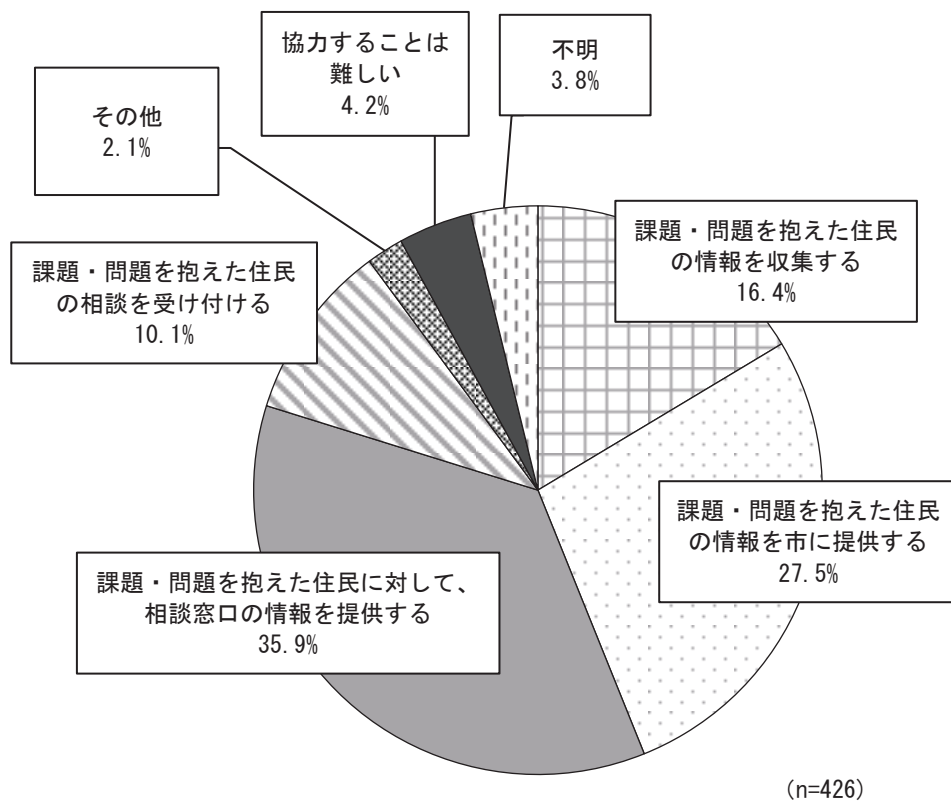
6.調査結果の詳細／民生委員・児童委員

④ 課題・問題を抱えた市民発見への協力

問41 相談支援体制を整備する中においては、課題・問題を抱えた市民を発見することも重要となります。民生委員・児童委員として協力できると考えられるものは何ですか。(〇は1つだけ)

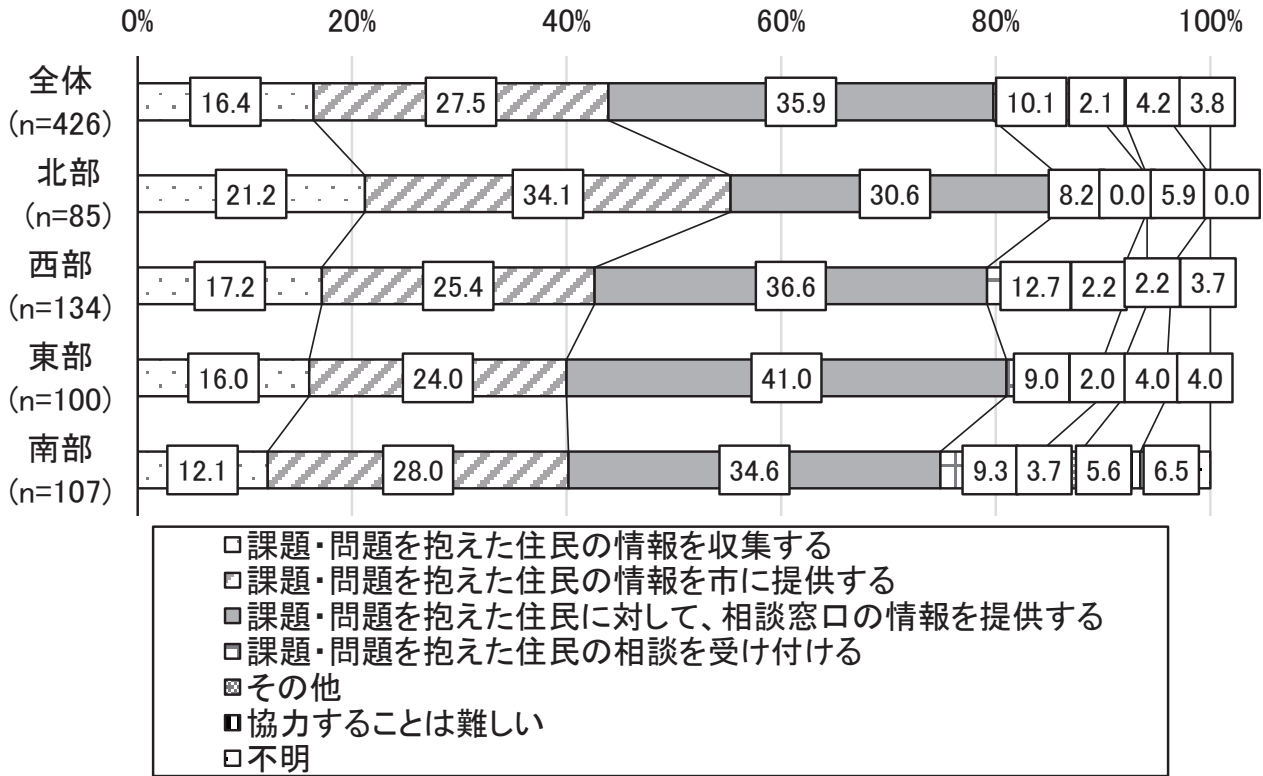
課題・問題を抱えた市民発見への協力をみると、「課題・問題を抱えた住民に対して、相談窓口の情報を提供する」が35.9%で最も多く、次いで「課題・問題を抱えた住民の情報を市に提供する」が27.5%、「課題・問題を抱えた住民の情報を収集する」が16.4%となっている。

図表 367 課題・問題を抱えた市民発見への協力



活動・所属地区別にみると、「課題・問題を抱えた住民に対して、相談窓口の情報を提供する」は「東部(41.0%)」、「課題・問題を抱えた住民の情報を市に提供する」は「北部(34.1%)」、「課題・問題を抱えた住民の情報を収集する」は「北部(21.2%)」が最も多くなっている。

図表 368 課題・問題を抱えた市民発見への協力(活動・所属地区別)



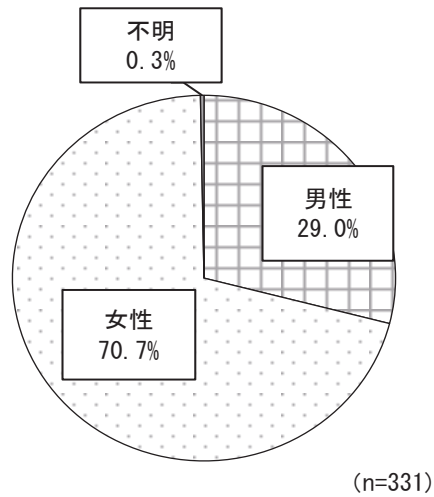
7. 調査結果の詳細／福祉委員

① 性別

問1 あなたの性別をお答えください。(○は1つだけ)

性別をみると、「男性」が29.0%、「女性」が70.7%、「不明」が0.3%となっている。

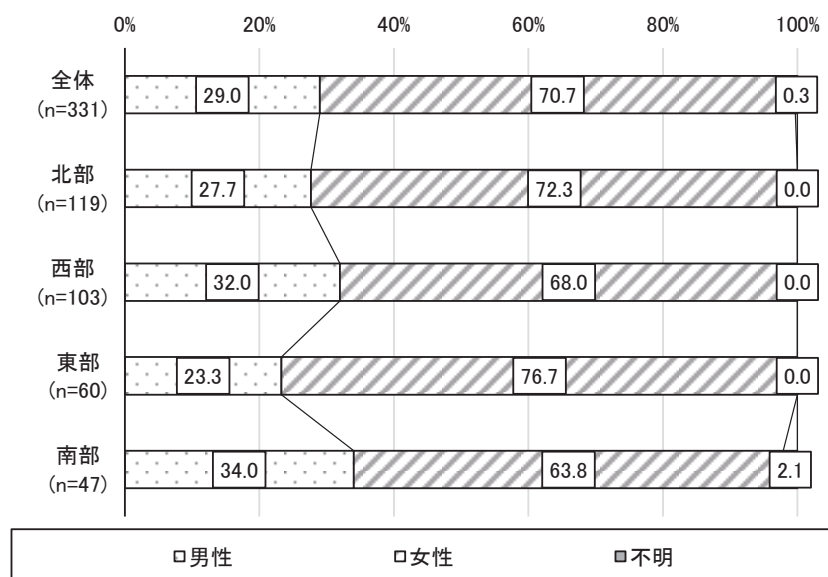
図表 369 性別



※「その他」、「回答しない」の回答者はなし

活動・所属地区別にみると、「男性」は「南部(34.0%)」、女性は「東部(76.7%)」が最も多くなっている。

図表 370 性別(活動・所属地区別)



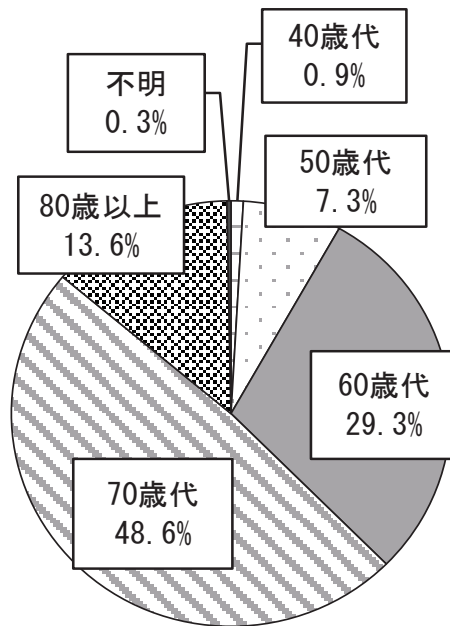
7.調査結果の詳細／福祉委員

② 年齢

問2 あなたの年齢をお答えください。(○は1つだけ)

年齢をみると、「70歳代」が48.6%、「60歳代」が29.3%、「80歳以上」が13.6%となっている。

図表 371 年齢

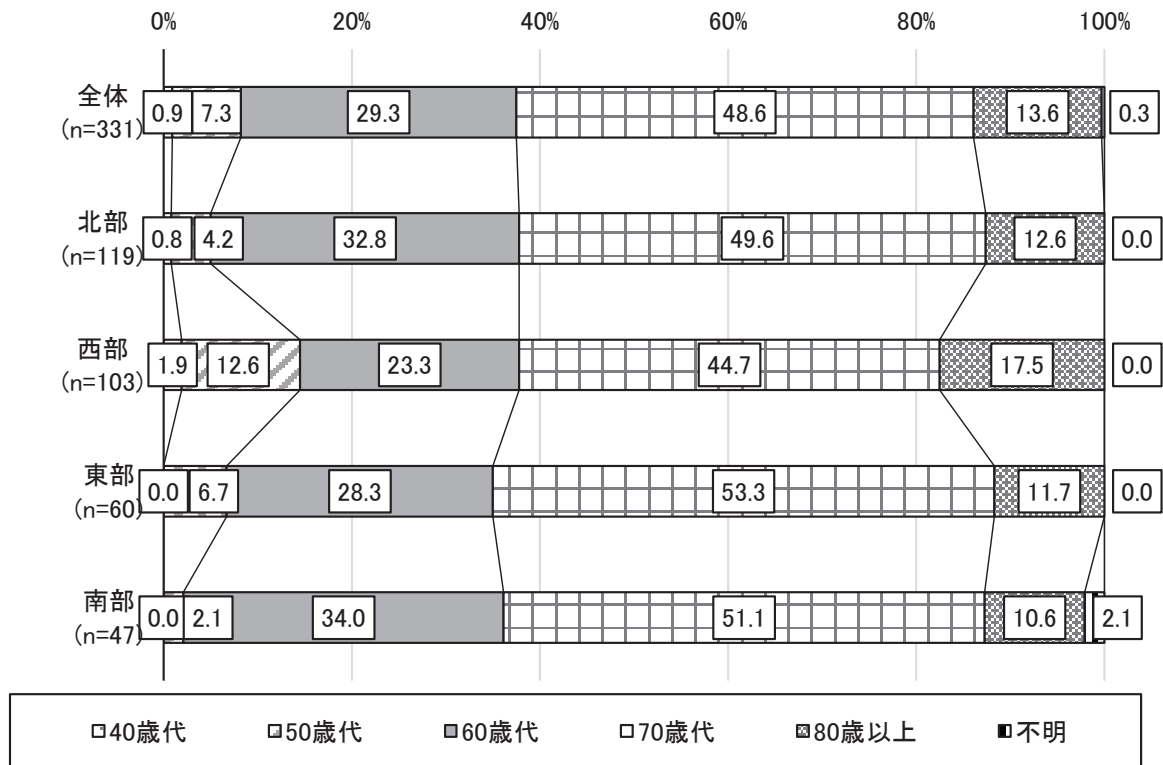


(n=331)

※「39歳以下」の回答者はなし

活動・所属地区別にみると、「70歳代」は「東部(53.3%)」、「60歳代」は「南部(34.0%)」、「80歳以上」は「西部(17.5%)」が最も多くなっている。

図表 372 年齢(活動・所属地区別)



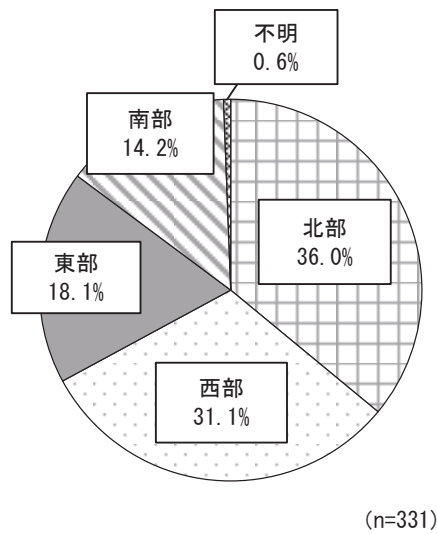
7.調査結果の詳細／福祉委員

③ 活動・所属地区

問3 あなたの活動する地区、もしくは、あなたの所属する地区は次のうちどれですか。(○は1つだけ)

活動・所属地区をみると、「北部」が 36.0%で最も多く、次いで「西部」が 31.1%、「東部」が 18.1%、「南部」が 14.2%となっている。

図表 373 活動・所属地区(地域別)



図表 374 活動・所属地区

(%)

北部				西部				
国分	曾谷	大柏	宮久保・下貝塚	国府台	市川第1	市川第2	真間	菅野・須和田
8.8	4.8	12.4	10.0	1.5	10.0	4.2	8.5	6.9

東部			南部		
八幡	市川東部	信篤・二俣	行徳	南行徳第1	南行徳第2
3.0	9.7	5.4	2.4	2.7	9.1

図表 375 地区の町丁

地区	地区の町丁
1. 国府台地区	国府台
2. 国分地区	国分、中国分、北国分、東国分、稲越、堀之内
3. 曾谷地区	曾谷
4. 大柏地区	大町、大野町、南大野、柏井町、奉免町
5. 宮久保・下貝塚地区	宮久保、下貝塚
6. 市川第1地区	市川、市川南(3・4丁目)、真間(1丁目)
7. 市川第2地区	市川南(1・2・5丁目)、新田、平田、大洲、大和田、東大和田、稲荷木
8. 真間地区	真間(2～5丁目)
9. 菅野・須和田地区	菅野、東菅野、須和田
10. 八幡地区	八幡、南八幡
11. 市川東部地区	北方町、本北方、北方、若宮、中山、高石神、鬼越、鬼高
12. 信篤・二俣地区	田尻、高谷、原木、二俣、二俣新町、東浜、上妙典、高谷新町
13. 行徳地区	河原、下新宿、本行徳、関ヶ島、伊勢宿、本塩、妙典、下妙典、富浜、塩焼、末広、宝、幸、加藤新田、高浜町、千鳥町
14. 南行徳第1地区	押切、湊、湊新田、香取、欠真間、相之川、広尾、新井、南行徳、島尻
15. 南行徳第2地区	行徳駅前、入船、日之出、福栄、新浜、塩浜

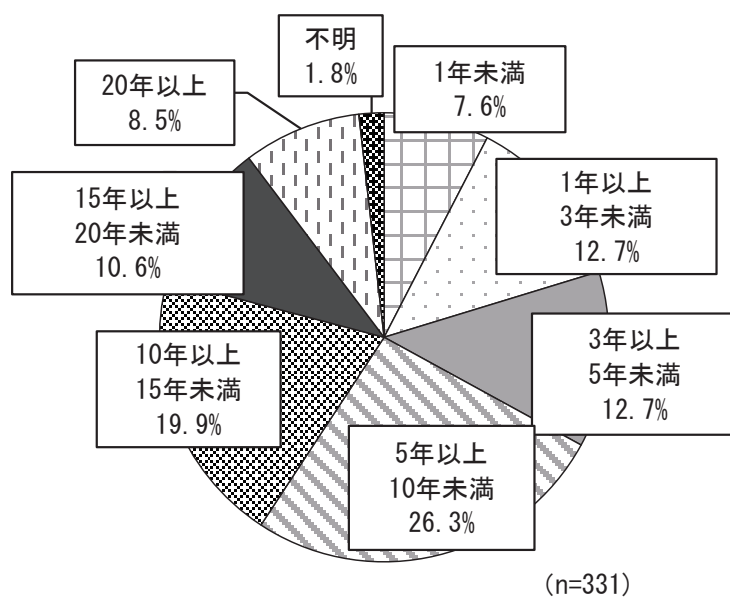
7.調査結果の詳細／福祉委員

④ 活動年数

問4 あなたは、福祉委員の活動をされてどのくらいになりますか。通算の年数でお答えください。(〇は1つだけ)

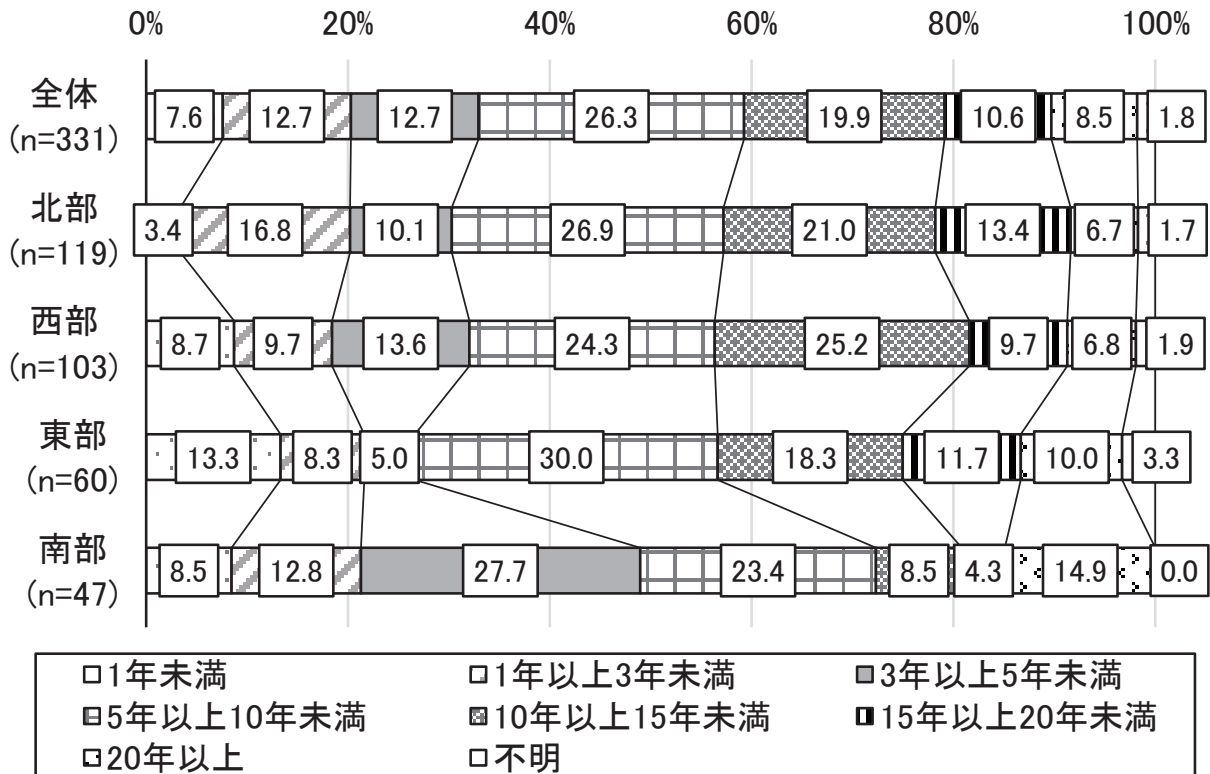
活動年数をみると、「5年以上10年未満」が26.3%で最も多く、次いで「10年以上15年未満」が19.9%、「3年以上5年未満」、「1年以上3年未満」が12.7%となっている。

図表 376 活動年数



活動・所属地区別にみると、「5年以上10年未満」は「東部(30.0%)」、「10年以上15年未満」は「西部(25.2%)」、「3年以上5年未満」は「南部(27.7%)」、「1年以上3年未満」は「北部(16.8%)」が最も多くなっている。

図表 377 活動年数(活動・所属地区別)



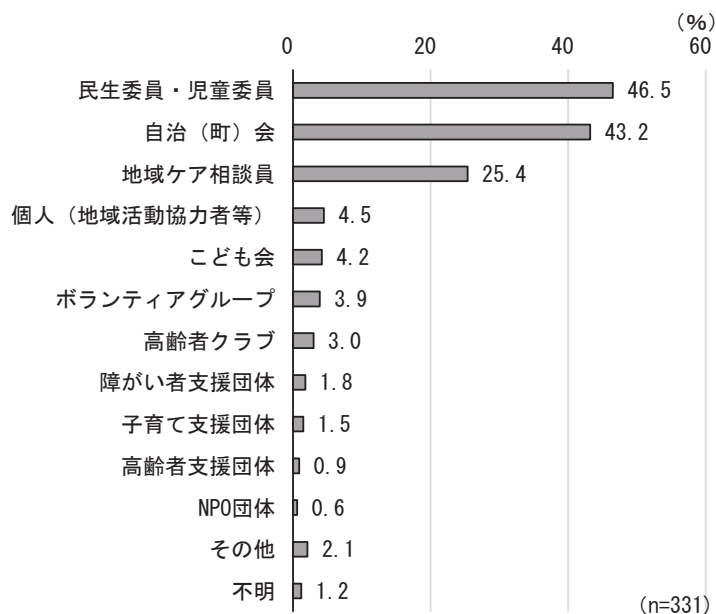
7.調査結果の詳細／福祉委員

⑤ 出身母体

問5 あなたの福祉委員としての出身母体は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

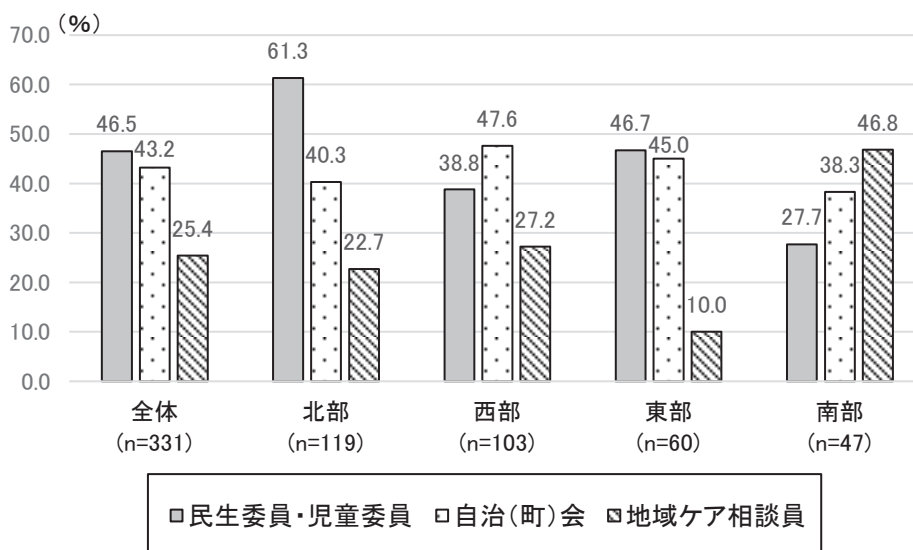
出身母体をみると、「民生委員・児童委員」が46.5%で最も多く、次いで「自治(町)会」が43.2%、「地域ケア相談員」が25.4%となっている。

図表 378 出身母体



活動・所属地区別にみると、「民生委員・児童委員」は「北部(61.3%)」、「自治(町)会」は「西部(47.6%)」、「地域ケア相談員」は「南部(46.8%)」が最も多くなっている。

図表 379 出身母体(活動・所属地区別)

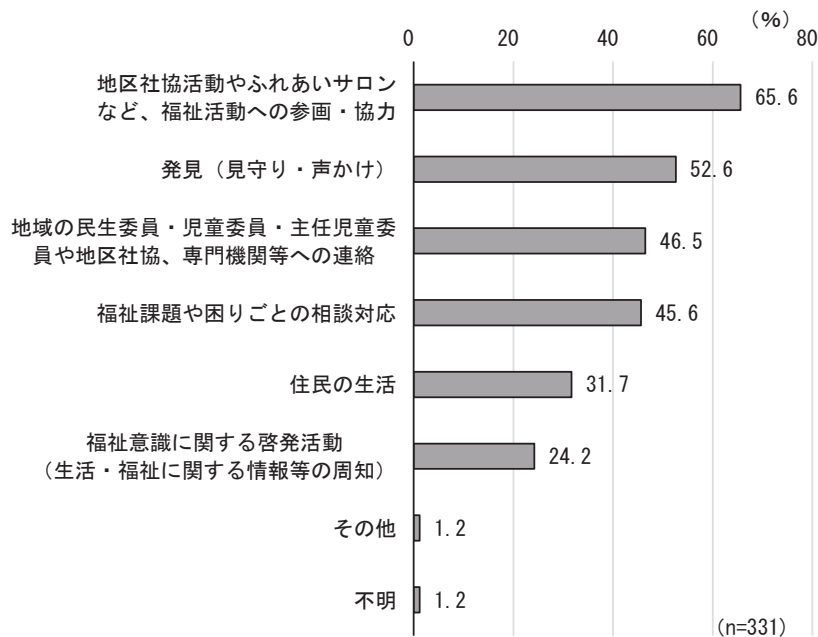


⑥ 福祉委員の活動として意識しているもの

問6 福祉委員の活動として意識しているものは次のどれですか。(あてはまるものすべてに○)

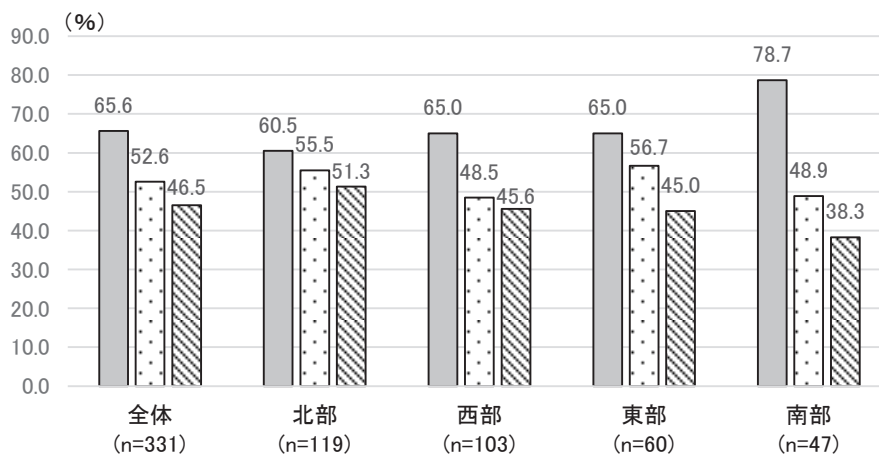
福祉委員の活動として意識しているものをみると、「地区社協活動やふれあいサロンなど、福祉活動への参画・協力」が65.6%で最も多く、次いで「発見(見守り・声かけ)」が52.6%、「地域の民生委員・児童委員・主任児童委員や地区社協、専門機関等への連絡」が46.5%となっている。

図表 380 福祉委員の活動として意識しているもの



活動・所属地区別にみると、「地区社協活動やふれあいサロンなど、福祉活動への参画・協力」は「南部(78.7%)」、「発見(見守り・声かけ)」は「東部(56.7%)」、「地域の民生委員・児童委員・主任児童委員や地区社協、専門機関等への連絡」は「北部(51.3%)」が最も多くなっている。

図表 381 福祉委員の活動として意識しているもの(活動・所属地区別)



■ 地区社協活動やふれあいサロンなど、福祉活動への参画・協力
 □ 発見(見守り・声かけ)
 ▨ 地域の民生委員・児童委員・主任児童委員や地区社協、専門機関等への連絡

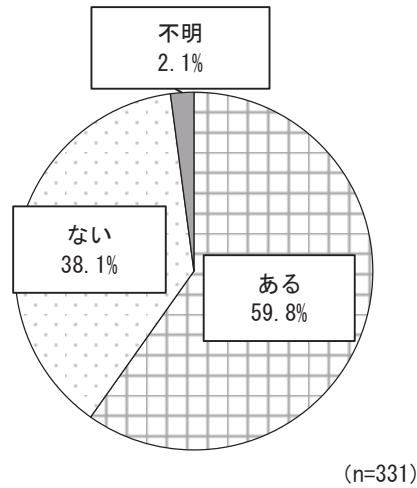
7.調査結果の詳細／福祉委員

⑦ 行政への相談や手助けの有無

問7 あなたは、地域の課題を解決するために、行政(市役所等)に相談したり、手助けを求めたことがありますか。

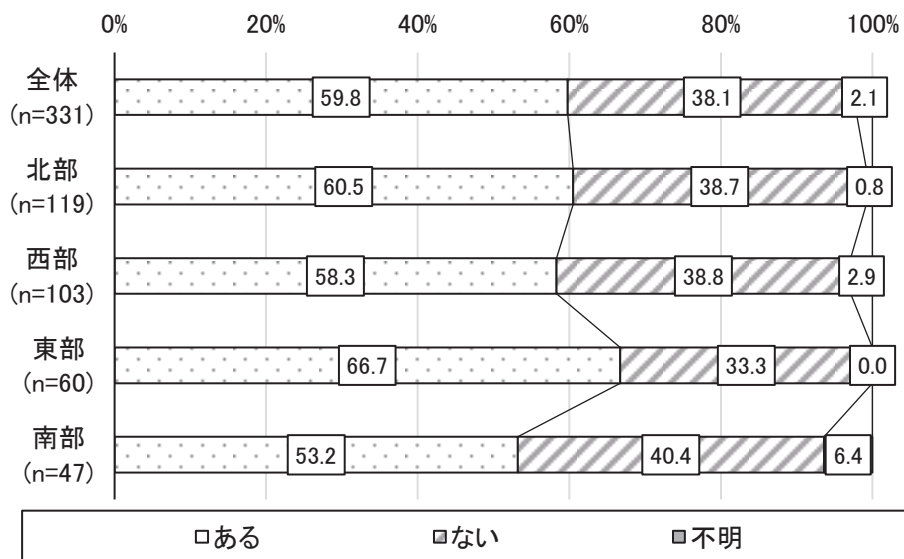
行政への相談や手助けの有無をみると、「ある」が59.8%、「ない」が38.1%となっている。

図表 382 行政への相談や手助けの有無



活動・所属地区別にみると、「ある」は「東部(66.7%)」、「ない」は「南部(40.4%)」が最も多くなっている。

図表 383 行政への相談や手助けの有無(活動・所属地区別)

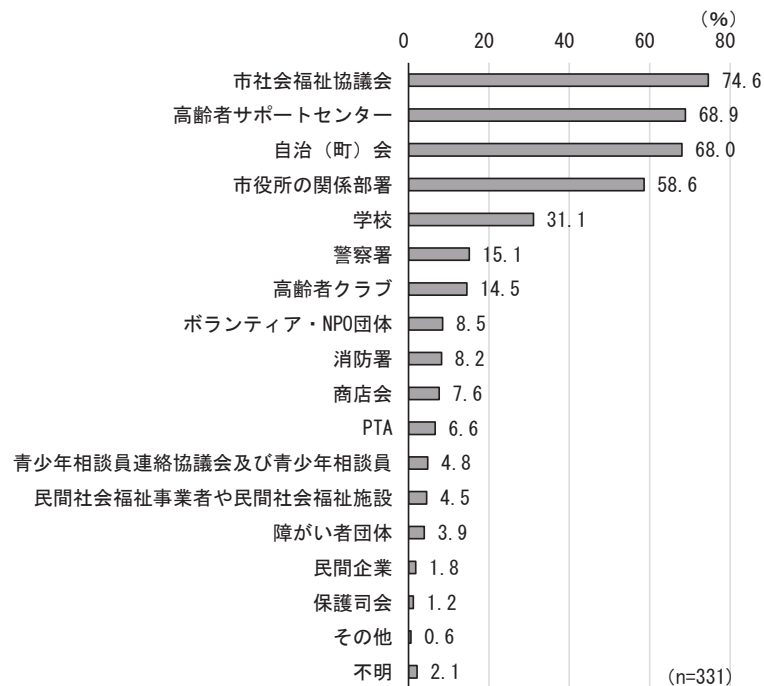


⑧ 地域での活動等の際の連携団体

問8 地域での活動の際に、どのような団体と連携して活動されていますか。(あてはまるものすべてに○)

地域での活動等の際の連携団体をみると、「市社会福祉協議会」が74.6%で最も多く、次いで「高齢者サポートセンター」が68.9%、「自治(町)会」が68.0%となっている。

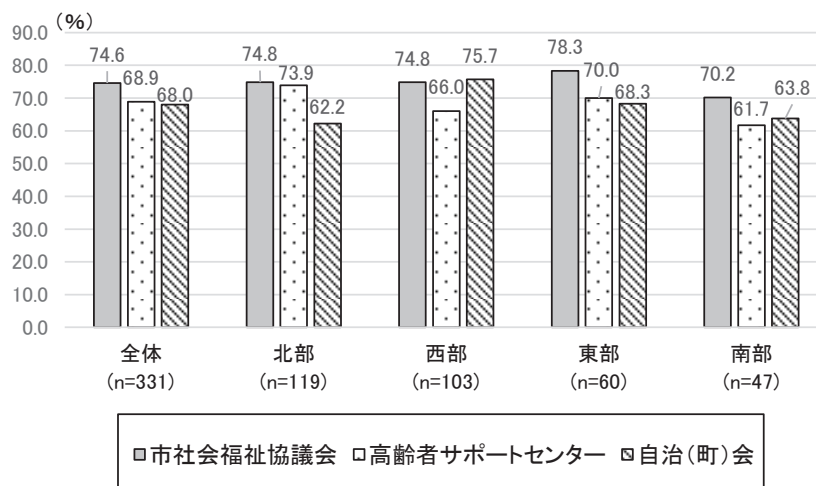
図表 384 地域での活動等の際の連携団体



※「連携することはない」の回答者はなし

活動・所属地区別にみると、「市社会福祉協議会」は「東部(78.3%)」、「高齢者サポートセンター」は「北部(73.9%)」、「自治(町)会」は「西部(75.7%)」が最も多くなっている。

図表 385 地域での活動等の際の連携団体(活動・所属地区別)



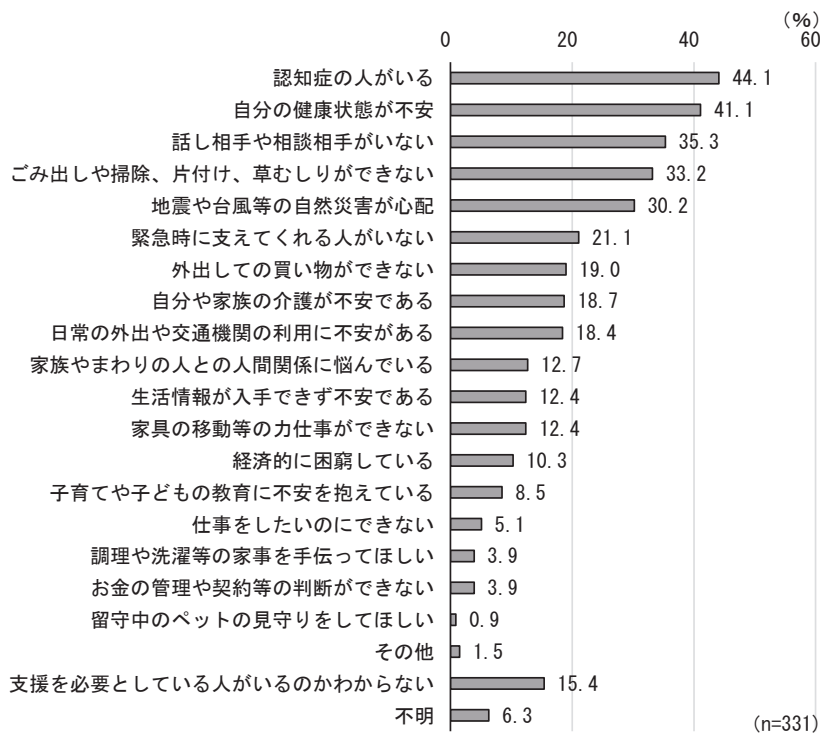
7.調査結果の詳細／福祉委員

⑨ 担当地区で困っている人の把握

問9 あなたの担当地区で、選択肢に当てはまる人を見たり聞いたりしたことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

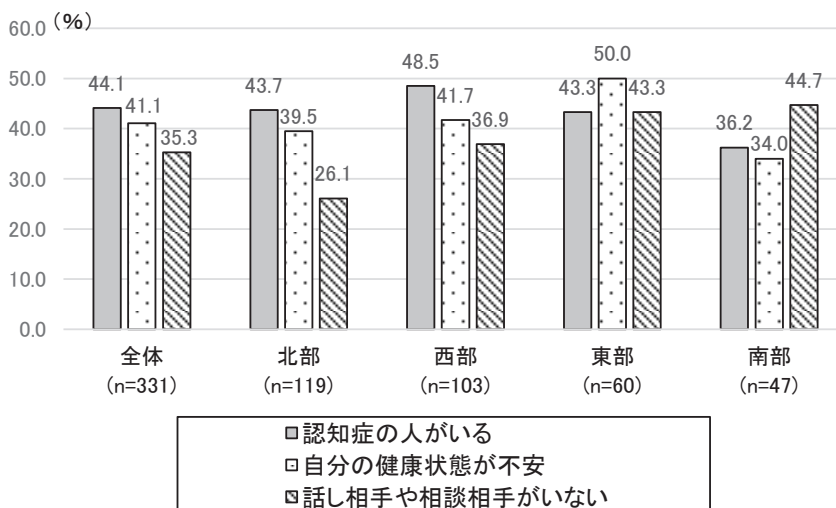
担当地区で困っている人の把握状況をみると、「認知症の人がいる」が44.1%で最も多く、次いで「自分の健康状態が不安」が41.1%、「話し相手や相談相手がいない」が35.3%となっている。

図表 386 担当地区で困っている人の把握



活動・所属地区別にみると、「認知症の人がいる」は「西部(48.5%)」、「自分の健康状態が不安」は「東部(50.0%)」、「話し相手や相談相手がいない」は「南部(44.7%)」が最も多くなっている。

図表 387 担当地区で困っている人の把握(活動・所属地区別)

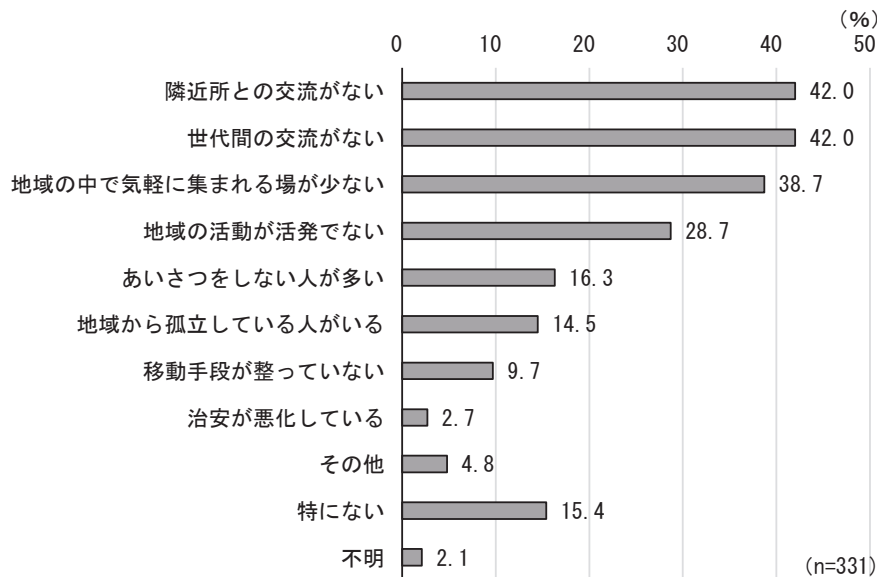


⑩ 担当地域での課題

問10 現在担当している地域の中で課題に感じることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

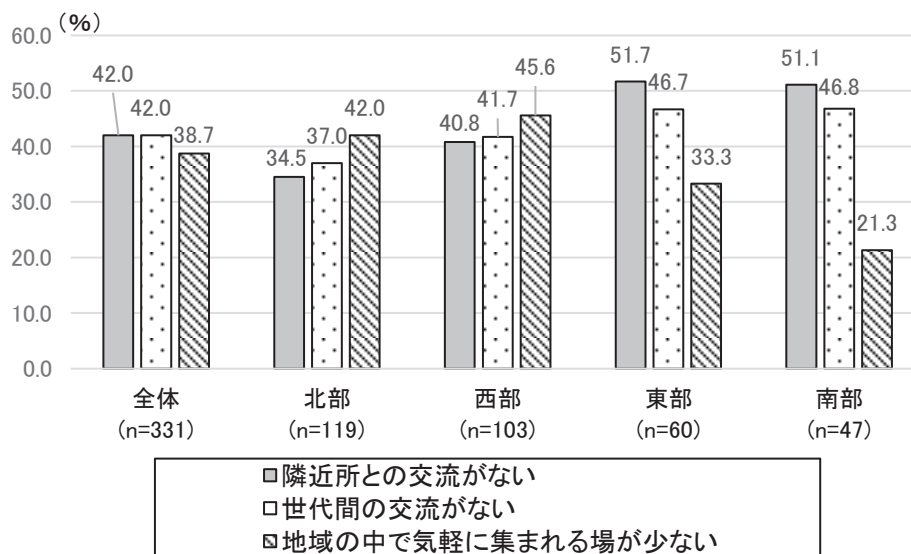
担当地域での課題をみると、「隣近所との交流がない」、「世代間の交流がない」が42.0%で最も多く、次いで「地域の中で気軽に集まれる場が少ない」が38.7%となっている。

図表 388 担当地域での課題



活動・所属地区別にみると、「隣近所との交流がない」は「東部(51.7%)」、「世代間の交流がない」は「南部(46.8%)」、「地域の中で気軽に集まれる場が少ない」は「西部(45.6%)」が最も多くなっている。

図表 389 担当地域での課題(活動・所属地区別)



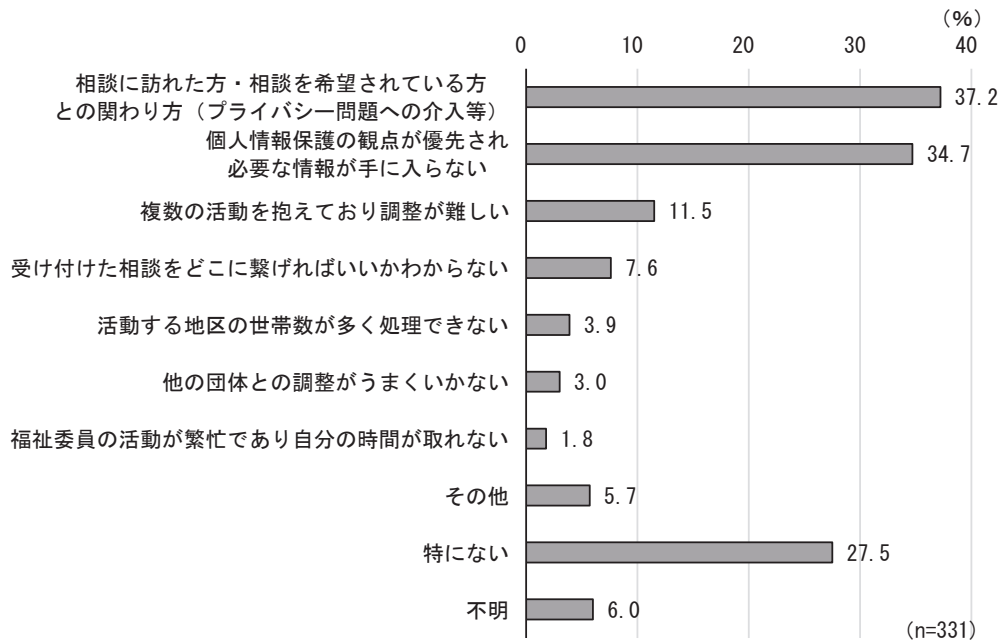
7.調査結果の詳細／福祉委員

⑪ 活動をする中で抱えている課題

問11 福祉委員として活動する中で抱えている課題は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

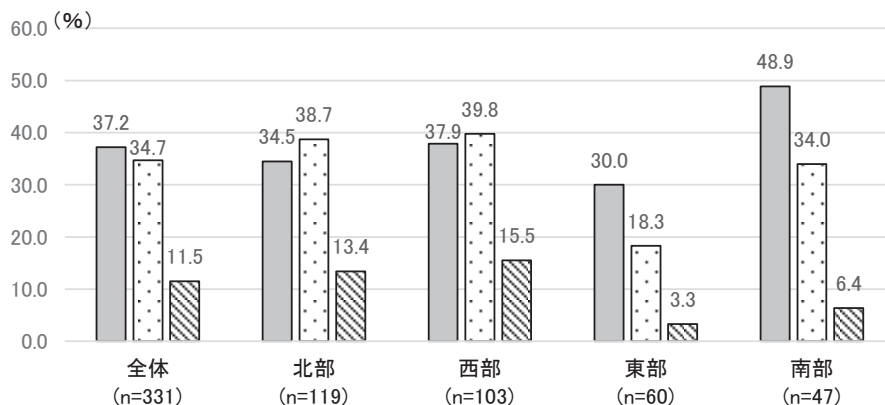
活動をする中で抱えている課題をみると、「相談に訪れた方・相談を希望されている方との関わり方(プライバシー問題への介入等)」が37.2%で最も多く、次いで「個人情報保護の観点で優先され必要な情報が手に入らない」が34.7%、「複数の活動を抱えており調整が難しい」が11.5%となっている。

図表 390 活動をする中で抱えている課題



活動・所属地区別にみると、「相談に訪れた方・相談を希望されている方との関わり方(プライバシー問題への介入等)」は「南部(48.9%)」、「個人情報保護の観点で優先され必要な情報が手に入らない」は「西部(39.8%)」、「複数の活動を抱えており調整が難しい」は「西部(15.5%)」が最も多くなっている。

図表 391 活動をする中で抱えている課題(活動・所属地区別)



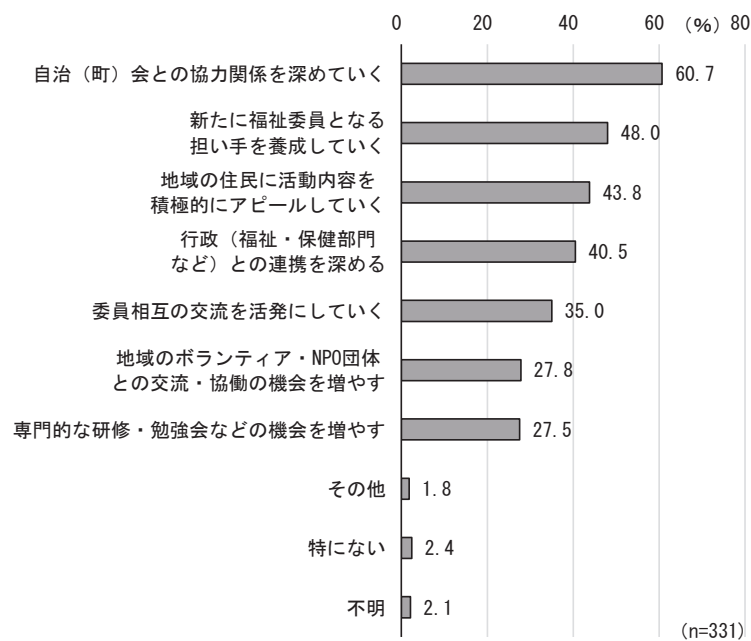
- 相談に訪れた方・相談を希望されている方との関わり方(プライバシー問題への介入等)
- 個人情報保護の観点で優先され必要な情報が手に入らない
- ▨ 複数の活動を抱えており調整が難しい

⑫ 今後、活動を活性化していくために、特に必要なこと

問12 今後、福祉委員としての活動を活性化していくために必要なことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

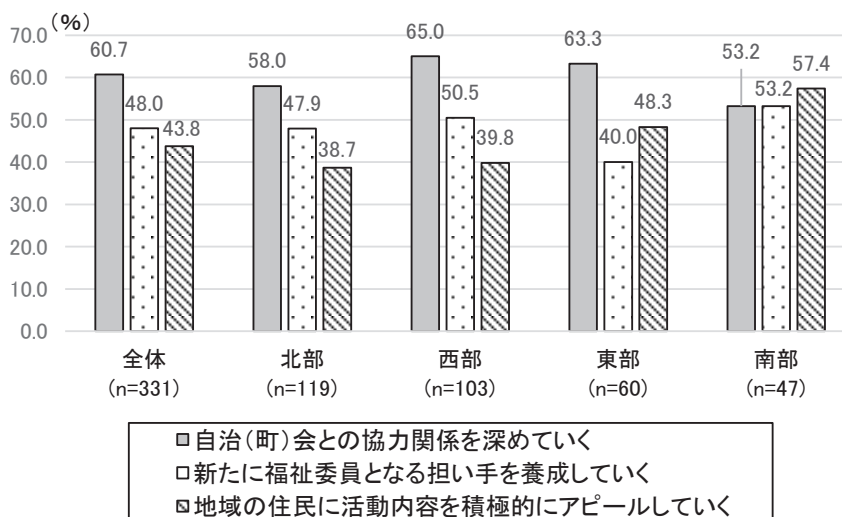
今後、活動を活性化していくために、特に必要なことをみると、「自治(町)会との協力関係を深めていく」が60.7%で最も多く、次いで「新たに福祉委員となる担い手を養成していく」が48.0%、「地域の住民に活動内容を積極的にアピールしていく」が43.8%となっている。

図表 392 今後、活動を活性化していくために、特に必要なこと



活動・所属地区別にみると、「自治(町)会との協力関係を深めていく」は「西部(65.0%)」、「新たに福祉委員となる担い手を養成していく」は「南部(53.2%)」、「地域の住民に活動内容を積極的にアピールしていく」は「南部(57.4%)」が最も多くなっている。

図表 393 今後、活動を活性化していくために、特に必要なこと(活動・所属地区別)



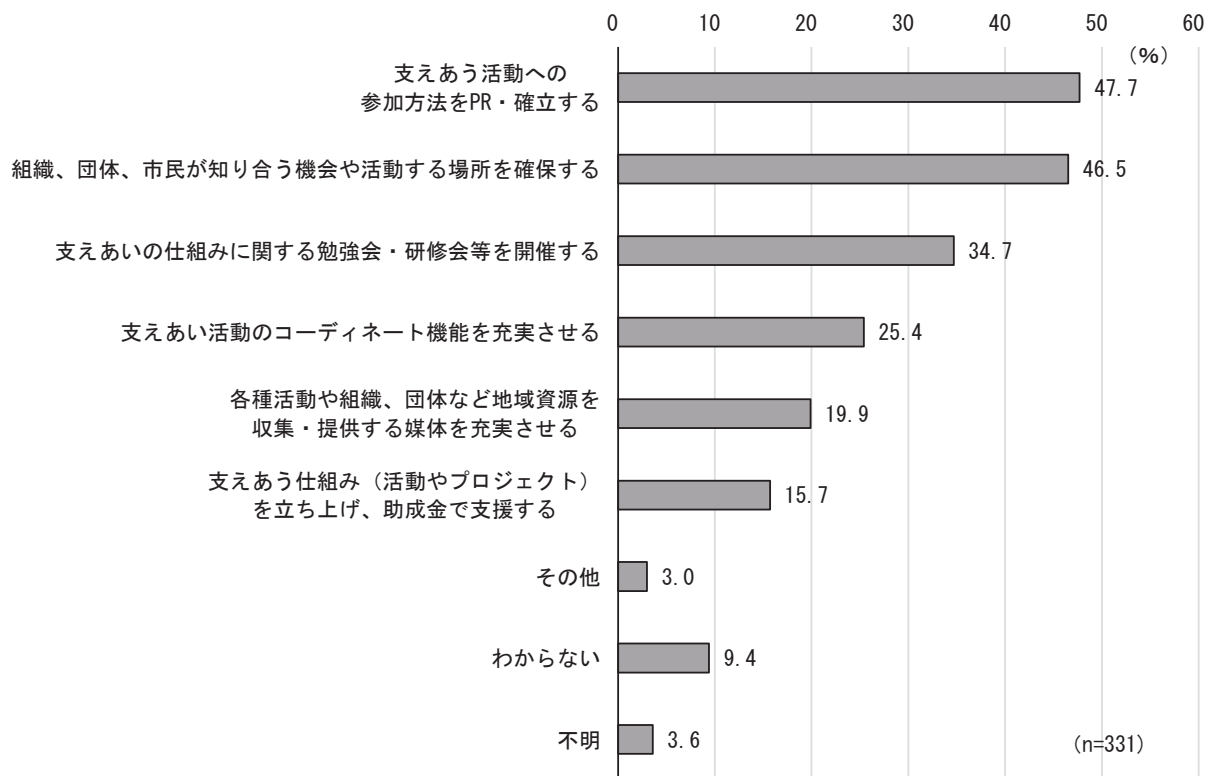
7.調査結果の詳細／福祉委員

⑬ 地域で支えあう仕組みづくりのため必要なもの

問13 地域で支えあう仕組みづくりをするために、市川市にとって特に必要を思うものは何ですか。
 (〇は3つまで)

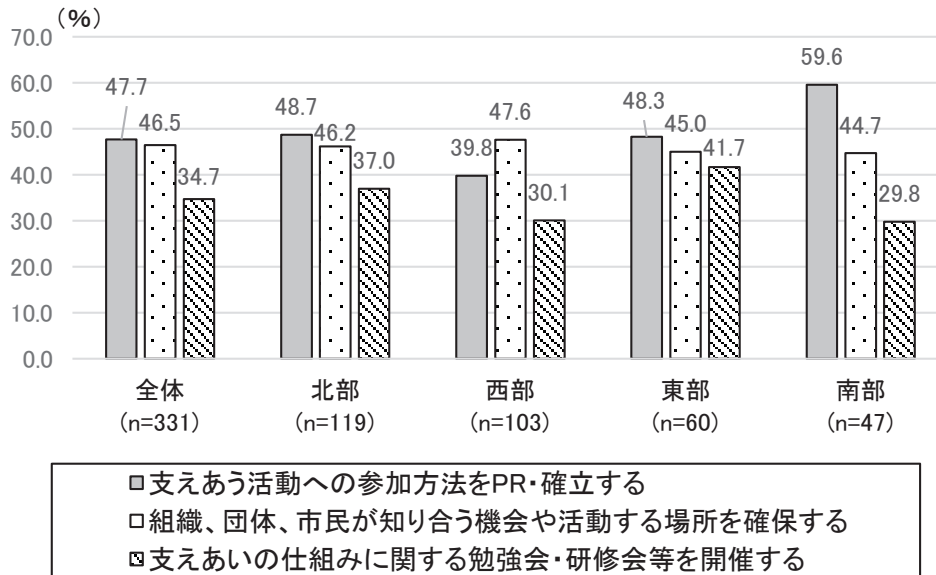
地域で支えあう仕組みづくりに必要なものを見ると、「支えあう活動への参加方法をPR・確立する」が47.7%で最も多く、次いで「組織、団体、市民が知り合う機会や活動する場所を確保する」が46.5%、「支えあいの仕組みに関する勉強会・研修会等を開催する」が34.7%となっている。

図表 394 地域で支えあう仕組みづくりに必要なもの



活動・所属地区別にみると、「支えあう活動への参加方法をPR・確立する」は「南部(59.6%)」、「組織、団体、市民が知り合う機会や活動する場所を確保する」は「西部(47.6%)」、「支えあいの仕組みに関する勉強会・研修会等を開催する」は「東部(41.7%)」が最も多くなっている。

図表 395 地域で支えあう仕組みづくりに必要なもの(活動・所属地区別)



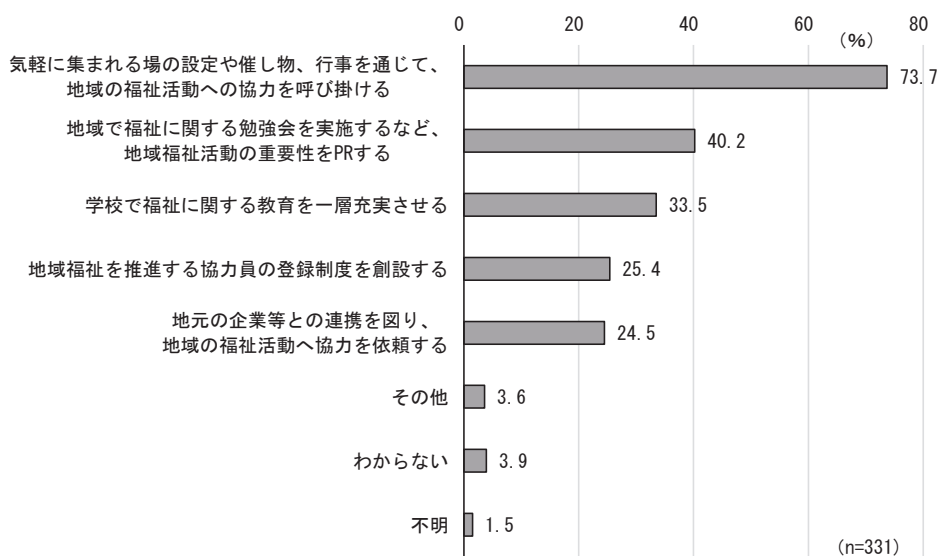
7.調査結果の詳細／福祉委員

⑭ 地域福祉を推進する地域の人材（担い手）を増やすために必要なこと

問14 地域福祉を推進する地域の人材(担い手)を増やすには、どのようにしたらよいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

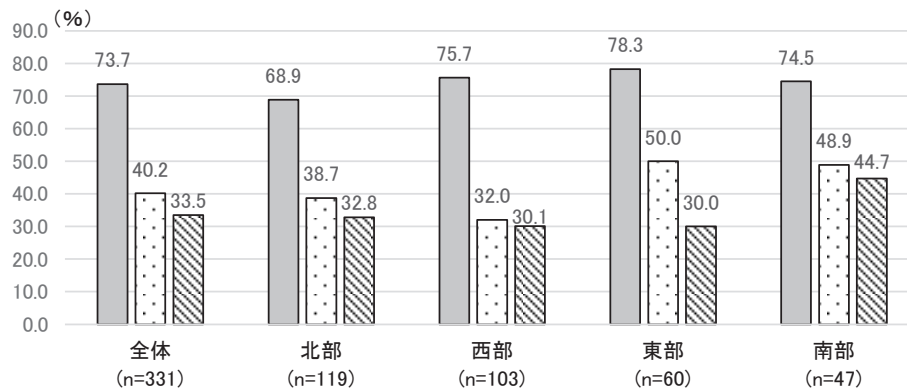
地域活動を推進する地域の人材(担い手)を増やすために必要なことをみると、「気軽に集まれる場の設定や催し物、行事を通じて、地域の福祉活動への協力を呼び掛ける」が73.7%で最も多く、次いで「地域で福祉に関する勉強会を実施するなど、地域福祉活動の重要性をPRする」が40.2%、「学校で福祉に関する教育を一層充実させる」が33.5%となっている。

図表 396 地域活動を推進する地域の人材(担い手)を増やすために必要なこと



活動・所属地区別にみると、「気軽に集まれる場の設定や催し物、行事を通じて、地域の福祉活動への協力を呼び掛ける」は「東部(78.3%)」、「地域で福祉に関する勉強会を実施するなど、地域福祉活動の重要性をPRする」は「東部(50.0%)」、「学校で福祉に関する教育を一層充実させる」は「南部(44.7%)」が最も多くなっている。

図表 397 地域活動を推進する地域の人材(担い手)を増やすために必要なこと(活動・所属地区別)



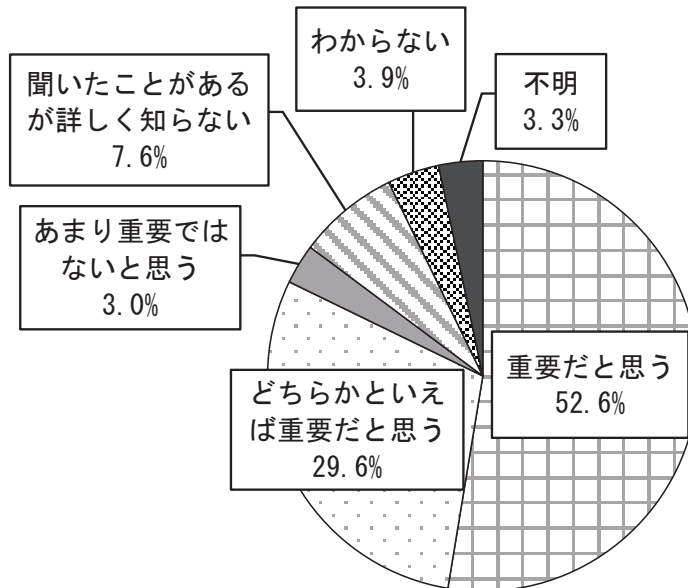
□ 気軽に集まれる場の設定や催し物、行事を通じて、地域の福祉活動への協力を呼び掛ける
 □ 地域で福祉に関する勉強会を実施するなど、地域福祉活動の重要性をPRする
 □ 学校で福祉に関する教育を一層充実させる

⑮ 地域ケアシステムの重要性

問15 市川市では、安心して暮らし続けられる地域社会をつくるために、支え合いの地域づくり(地域ケアシステム)の取り組みがありますが、この仕組みについてどう思いますか。(〇は1つだけ)

地域ケアシステムの重要性をみると、「重要だと思う」が52.6%で最も多く、次いで「どちらかといえば重要だと思う」が29.6%、「聞いたことがあるが詳しく知らない」が7.6%となっている。

図表 398 地域ケアシステムの重要性

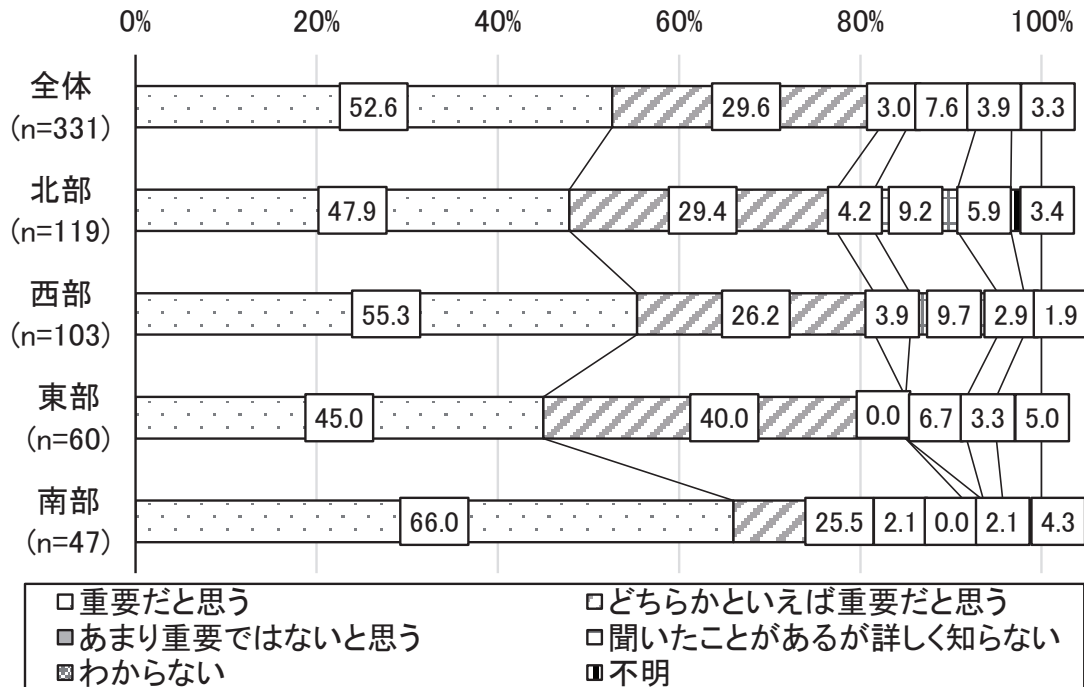


(n=331)

7.調査結果の詳細／福祉委員

活動・所属地区別にみると、「重要だと思う」は「南部(66.0%)」、「どちらかといえば重要だと思う」は「東部(40.0%)」、「聞いたことがあるが詳しく知らない」は「西部(9.7%)」が最も多くなっている。

図表 399 地域ケアシステムの重要性(活動・所属地区別)



⑩ 地域ケアシステムとはどのようなものか

問16 地域ケアシステムは、地域の支え合い・助け合いの仕組みのこととされており、活動の柱は、【(1)地域での支え合い(2)身近な場所での相談(3)行政の組織的な受け皿体制】とされていますが、あなたが思う地域ケアシステムとはどのようなものですか。

(自由記載)

地域ケアシステムへの考えについて意見を求めたところ、148件の意見が寄せられた。主な意見を掲載しているが、主旨を尊重しながら表現をまとめるとともに誤字などを修正している。

主な意見
・ (1)地域での支え合い。
・ (1)地域での支え合い。
・ (1)地域での支え合い。
・ (1)地域での支え合いはもちろんのことですが、担当地区以外の住民からの相談も多く、あまり地域を特定する必要もないのかとも思います。
・ (1)が理想ですが、行政が手助けをすることも大事だと思います。
・ (2)。
・ (2)身近な場所での相談です。
・ (3)行政の組織的な受け皿を柱に、身近な所にある青年会、高齢者クラブ、子供会等の横のつながりの関係を共有し、システム作りが出来たらと思っている。
・ (1)と(2)ですが、自分が若い時に子供会育成会の活動や、商店会の若い者の集まりの中で自然とそのような話題が出てきた。地域にそのような集まりが今は無い。
・ (2)(3)。
・ (1)行政サービスのはざままで、地域にうもれた課題をていねいにひろいあげ、各種サービスにつなげる。
・ (2)活動している住民同士がつながりあい難題解決へ向けて話し合う事で地域が活性化する。
・ (3)自治会はもっと関心持ってほしい。
・ (1)(2)(3)がバランスとれてまわっていくこと。特に必要としている人のところへの周知も必要と思われる。
・ (1)(2)(3)どれも大切なのでしょうが、地域ケアシステム(多くの人に知ってもらう)って「何」という人が多いのでは。
・ (1)(2)(3)の活動の柱の他に、現在のサロン活動に加え、子育て中の若い母親が気軽に集まり、談笑し、ストレス解消できるサロン等、老若男女気軽に立寄れるような心のオアシス的なシステムが出来ればいいなと思っています。
・ (1)～(3)の仕組が大事だと思います。
・ 上記の活動の柱(1)(2)(3)が実現されている地域社会。
・ 私も(1)(2)(3)だと思います。
・ 上記(1)(2)(3)+情報提供の場。

7.調査結果の詳細／福祉委員

<ul style="list-style-type: none"> ・ (1)～(3)の事柄が出来れば完璧ではないですか。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「地域ケア」なので、ご近所さんが助け合えるような環境づくりが必要なのだと思う。しかし。現代社会では、個人主義やプライバシーの考えからなかなか踏み込めない現状だ。井戸端会議のような気楽に話し合える場づくりができればいいのではないかと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 勉強会や研修会の開催により地域ケアシステムをPR。 ・ 1人でも多くの方に相談や来所されるよう施策を講じる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ お互いに支え合うことができる。遠慮しないで支えを要求できる環境整備。
<ul style="list-style-type: none"> ・ ここが起動してケアシステムと思いますが、なかなか相談する人がいないように思う。もっと行政が身近にあって欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍で現在は難しいですが、隣近所や身近な方との支え合いができればいいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ ご近所との会話、地域のコミュニティの上に社会福祉サービスがないとつながらない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ ご近所同士の支え合い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ ささいな事でも相談、話し合いのできる組織。
<ul style="list-style-type: none"> ・ ちょっと聞いて、と気軽に寄れる所。 ・ コロナ禍でお茶の提供が出来ない事。 ・ 時間が短いのが辛いところだと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ どこに住んでいても近くに相談する場所があること。
<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページから気楽に相談できて、すぐに支えてくれるケアシステム。
<ul style="list-style-type: none"> ・ まだまだ相談場所が少ないと思う。主に、高齢の方の利用が多く、もっと身近な場所を増やして行くことが大切だと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ もっと若い方に運営してもらえるような組織づくりが必要。考え方が古い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ よく分からない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ わからない。複雑すぎて。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 移動窓口の開設。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 一番、身近な地域での支え合いが必要かと！
<ul style="list-style-type: none"> ・ 一部の方々が動いているが末端には話がないのでわかりません。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 皆さんとの交流を深めてこそ地域の支え合いに、大きくは行政の組織の受け皿の体制となると信じ、近くのケアシステムの体制になると思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 街中の空店舗を利用しての拠点なので利用しやすいし、活動の①～③は、充実している。ただし、ご近所の方が利用されてないし利用者も固定化されている。身近な地域の方とのコミュニティがとれると良い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各自相談事を解決する糸口を見つけることが重要で、身近な場所ですので、地域で最も大切な場所であり続けたいと思っています。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各地区内で身近な範囲内で相互の助け合うシステムを充実させる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動内容が周知されていない。コロナ禍の中で、相談に来る方はいるのだろうか。各機関へ御紹介する事が多い様に思われる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的には地域での見守りと声かけではないかと思われる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 気楽に入っていける空間をつくりたいと思います。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 気楽に立ち寄れる場所である。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 気楽に立寄れるコミュニケーションを取れる場所が大切。それを入口に地域を把握し問題を行政にあげていくシステム。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 気軽に相談できる場所として、もっともっと周知されるとよいと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 気軽に相談できる身近な場所。内容によって行政につなげる場所。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 気軽に立ち寄れる住民の為の物であり、場所です。何でも相談出来る場所。その場所には、信用出来る人が居る事も大事。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 気軽に立寄れる場所が皆遠いので自分で行けない地域の方が多い。散歩がてら出かけられる場所に設けてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 気軽に話しが出来る場所であってほしい。そのための周知が必要と思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 宮久保地区での相談は数少なく、来訪者も誰かと会話をしたい方(話を聞いてもらいたい人)の雑談的な相談がありました。そういう会でいいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 拠点に車イスを借りに来た人、お茶を飲みに来た人、通りすがりの人、簡単になんでも話しが出来る場所にしたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 共助の精神をもって地域の支援をはかる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 近所のコミュニケーションをとり、その人の困り事を把握できれば良いと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 近年薄まりがちな地域的な人のつながりを主に福祉という切り口から作っていくための仕組み。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣住民での支え合いが重要だと思います。それが駄目なら行政の組織にお願いする方法がよいのではと思われます。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在コロナ禍ではありますが上手く地域ケアは役割をしていると思います。しかし、行政は地域ケアへ、もっと足を運び現状を見てほしいです。特に福祉政策は現場もみないで頭だけの考えでは本当にいいのでしょうか。アンケートも大事ですが相談員や福祉委員の話しにも耳を傾ける事が本当は大事ですよね。何の為、誰の為の福祉計画なのかを考えてほしいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在はまだ「家庭にいた主婦」の方々の参加が多い様になります(相談員の方のことです)。これからは「男女平等」の時代で育った人たちが担っていくことになるでしょうから、男性の関わりも期待したいと思います。行政との連携が必要です。高齢者サポートセンターとの連携がもっと必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在は西部公民館のみで場所的に遠い為、そこまで足を運ぶのが大変な人が多いので、2~3ヶ所設置されたら利用者も増え住民も利用しやすく手助けになると思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 限られたところでしか活用できていないのが実情。地域との連携を住民がきちんと理解して相互共助ができる体制にしないと、福祉活動をしていても、本当に必要な人たちまで声が届かないので、まずはどうしたら本当に必要な人たちとつながることができるのか？そのために地域ケアシステムがうまく一体化して必要な共助ができるようになるといい。そんな地域ケアシステムになるようにしたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 向こう三軒両隣の日常見守り。民生委員の個人情報枠を外して。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政が中心となること。自治会、町会によっては今後衰退して消滅する組織がでてくる予感がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政との連携を密にした支え合いの実施。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政の組織的な受け皿体制の強化。

7.調査結果の詳細／福祉委員

<ul style="list-style-type: none"> ・ 困り事が身近な人に相談できる地域での交流ができることが支え合いの始まりだと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 支え合い、助け合い(の仕組み)は、どなたでもできることであり、必要な時はどなたでもその輪の中に入れるということを知って欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会、民生委員、相談員を核として、多種多様な部門が結集した組織。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会の行事を増やし、隣、近所の人が集う場所を作る。地域ケアは、人の優しさが基本なので、優しさを持てる安心、安全な街づくりが必要。自治会の運営費をもっと補助して、自治会費を安くする。そのためには、無駄な税金を使わない。議員の定数を減らすなどして費用を捻出してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会や行政と連携があつてのシステム。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会役員が積極的に活動すること。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が住んでいる町会、自治会以外の方々とも知り合う機会を提供してくれるものであり、安心して生活できる要因ともなっている。更に学校関係者の方々とも連携することにより、いろいろな活動がより活発になると思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分だけで悩まず、他の意見がある事に気づいてほしい。助けを求める事が、恥ずかしい事ではないと解ってもらえる実力をつけたいと感じます。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 住み慣れた土地で最後まで自分らしく生活していく為にお互いに助け合いながら、行政でやってもらえる事をプッシュして行けるところ。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 助けが必要な方に確実につながれるシステムを作ること。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 上記のとおりだと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 上記の通り。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 真間地域には、いきいきセンター等、活動出来る施設がないので、行政として対処して欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近でおきた課題を相談員で話し合い、関係機関につないでいくスキルを身につけたいし、そうありたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な困りごとを地域ケアシステム等に相談して、それを行政に繋げてもらいたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な場所での仕組と連絡先。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な場所での相談。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な場所での相談。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な場所での相談だと思うが、実際には相談に訪れる人はほとんどいない。車椅子の貸し出しが多い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な場所での相談を充実させ、自治会、行政につなぎやすくし解決を早くする。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な場所で相談にのり、行政へつなげる事。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な場所に、介護福祉、子供福祉、障がい者支援、保健センター等専門職の方が日替わりで詰めていただければ、市民も相談に行きやすくなります。市民の中に入っていきることが地域の支え合いと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な場所に気軽に集まっておしゃべりできる場所、プラスその中から市等の公的な所につなげていけるシステム。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な場所に気軽に相談できる場所がある事が望ましいと思う。それには相談に答えられる人材の育成が必要と思う。

<ul style="list-style-type: none"> 身近な信頼できる拠り所。
<ul style="list-style-type: none"> 身近な人達が支え合う仕組みを整えて行く事が大切です。
<ul style="list-style-type: none"> 人が困っているときに、皆で協力して、解決できるシステム。
<ul style="list-style-type: none"> 人間が人間として生きていけるのが地域ケアシステムと思います。
<ul style="list-style-type: none"> 設問の通りだと思います。この3つの連携をいかに充実させ、活発に活動させるかを考えるべきだと思います。
<ul style="list-style-type: none"> 相談事では、専門の資格者が必要では？つまり、ワンストップソリューションが最高のケアではないでしょうか。
<ul style="list-style-type: none"> 大変な決断をしなければならない相談で真剣に一緒に考えました。何ヶ月にも渡り、やっと答えを出して自分で決めてくれました(私は、決断された答えにはどうしても駄目？と言った)。
<ul style="list-style-type: none"> 誰でもが気軽に話に来られる場所となる様。
<ul style="list-style-type: none"> 誰でも気軽に相談ができる。
<ul style="list-style-type: none"> 地域ケアシステムの現状・実態及び他の地域での成功例など告知、PRが不足。
<ul style="list-style-type: none"> 地域ケアシステムの存在を知らない人が多いと思う。隣近所、知人等へ相談しても、存在を知らなければそれ以上進まないの、PRの大切さを感じています。
<ul style="list-style-type: none"> 地域ケアシステムは、身近なシステムとして、非常に重要だと思います。しかし、地域の人達へのPR・周知が足りないと思います。そして、何より「気楽に行ける・相談できる」というPRが重要と思います。いわば「井戸端会議」の延長と考えてもいいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> 地域ケアシステムは地域の様々な内容を盛り込んで作成されており、何が一番大事なのか不明である。市川市としては、これも重要であると、具体的に示す必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> 地域ケアシステムを知っている人が何人居るのでしょうか。お飾り的な活動は必要でしょうか。
<ul style="list-style-type: none"> 地域ケア地域の中でもなくてはならないと思う。地域をつなぐ大きな役割を持っている。
<ul style="list-style-type: none"> 地域での支え合い。
<ul style="list-style-type: none"> 地域での支え合い。
<ul style="list-style-type: none"> 地域での支え合い。
<ul style="list-style-type: none"> 地域での支え合い←参加する意味をアピールする。
<ul style="list-style-type: none"> 地域での支え合いが、一番身近で分かり安いと思いますが、連携できる人達が必要と存じます。
<ul style="list-style-type: none"> 地域での支え合いがいいと思うが隣近所との交流が少ないこともあると思いますが独居者の把握が出来てない事を感じています。
<ul style="list-style-type: none"> 地域での支え合いが一番だと思います。
<ul style="list-style-type: none"> 地域での支え合いが大切と思いますが、身近な人に相談しにくい雰囲気があり、例えば相談を受けた時、担当の民生委員に相談するよう進めると知っている人には相談するのはイヤと言われ、知らない人だからここへ相談に来た、と言われた経験があるので、民生委員でもあまりに身近な人は適当でないことがある。
<ul style="list-style-type: none"> 地域での支え合いと言っても現状ではかなり難しい。地域が1つにまとまっているところほどのくらいあるのか？
<ul style="list-style-type: none"> 地域での支え合いの場と思っておりますが、近くにお住まいの方の利用で終わっているのが残念です。

7.調査結果の詳細／福祉委員

<ul style="list-style-type: none"> 地域での支え合い及び助け合いの相談は受けるが、答えは行政で考えてもらいたい。
<ul style="list-style-type: none"> 地域での集まりや行事を行う。近所で親しくなる。
<ul style="list-style-type: none"> 地域で困っている人の把握→支援の方策の検討→支援の提供(行政の窓口とも相談のうえ)。
<ul style="list-style-type: none"> 地域と行政との連携を密にして地域住民の日々の生活が円滑に行えるようにしたい。
<ul style="list-style-type: none"> 地域の協力。
<ul style="list-style-type: none"> 地域の支え合い、助け合いは日頃の近隣とおつき合いから広がると思います。そういう機会が少ないのが残念です(コロナ禍で仕方がない場合もあります)。
<ul style="list-style-type: none"> 地域の支え合い・助け合いの仕組みは、言葉の遊戯としないためにも行政(支え合い課・振興課)が主導して、地域担当の民生委員を支えて、普段未使用の多い自治(町)会館等で、自治(町)会の末端組織(グループ)の「御近所の集い」的な語らいの場(機会)を設けることが必要だと思います。災害時等のいざ援助が必要となった時、本当に助け合いができるのは御近所(互近所)の井戸端仲間だと思います。自治(町)会館を回覧資料の受け渡し場所や、自治会役員の飲み食いする場所にしてはならないと思います。自治(町)会館が有効活用されていないと思われます！！
<ul style="list-style-type: none"> 地域の支え合いと身近な助け合いをもっと活発にすること。
<ul style="list-style-type: none"> 地域の人にこのような場所がここにあるよ！と知ってもらおう事。
<ul style="list-style-type: none"> 地域の人々と日頃から交流し、お互いに話しやすい関係を築くこと。
<ul style="list-style-type: none"> 地域の誰もが気軽に立寄って息抜きのできる寄り合い処。その中で情報交換や相談があり地域での支え合いが出来たらと思う。
<ul style="list-style-type: none"> 地域の悩み事や相談事は、なかなか話せない。自由に出入りができて自由に話せる場所でも良いのではないかと思います。
<ul style="list-style-type: none"> 地域の方が安心して暮らせるよう良い相談相手になりたいと思うが、それにはまず声掛けや顔見知りになり気軽に話ができるようになることが大切かなと思います。信頼関係を作って行く事も大切、それが相談へとつながって行くような気がします。
<ul style="list-style-type: none"> 地域の方に寄り添い傾聴していく。
<ul style="list-style-type: none"> 地域支え合いの強化。
<ul style="list-style-type: none"> 地域住民が気軽に相談できる場所の提供と解決のための関係機関の紹介。
<ul style="list-style-type: none"> 地域住民が困った時に「助けて下さい」と手を挙げられる仕組作りが大切と思う。
<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の助け合いが大事です。しかし、プライバシー問題が出てくると思うように行かないのが残念。
<ul style="list-style-type: none"> 地元、自治会、子供会に参加・加入してお互い名前や家族構成等を知り合って、非常時には支え合う仕組みが理想です。
<ul style="list-style-type: none"> 町会単位で小さなお手伝い出来る人を見出し、出来る事をお手伝いする方が出てくると良いと思います。
<ul style="list-style-type: none"> 当該地域での相談事項の受付窓口とし、ケアシステムで解決できない案件等の中継場所であり、相談内容により関係機関へ取り次ぐ場所である。現時点では、まだ十分その機能を果たしてない感じがいたします。
<ul style="list-style-type: none"> 日々の生活の中で気軽に立ち寄りが出来、又、困った事を相談出来るところ。
<ul style="list-style-type: none"> 普段から顔見知りのご近所同士で支え合い、必要なサービスは専門職にお願いする。

7.調査結果の詳細／福祉委員

<ul style="list-style-type: none"> • 普通に元気に話せる(特に今はコロナで話し相手がいない)その中で、病気がちとかいろいろな話しが出来る事、グチ等を聞くだけでも本人は良い気持ちになる。
<ul style="list-style-type: none"> • 文京区がやっている「フミコム」のような活動が理想。
<ul style="list-style-type: none"> • 勉強会や研修会の開催により地域ケアシステムをPR。一人でも多くの方が相談を。
<ul style="list-style-type: none"> • 友人作り、自治会の活性化。
<ul style="list-style-type: none"> • 立派な構想だとは思いますが、現状は(私の知る範囲では)あまり機能していないように思います。地域住民=ボランティアに彼らの責任でやらせてもらおうという行政の姿勢がうかがえますが「田舎のおじさん、おばさん」という素人に丸投げされてもいろんな人が居るのでそうそう有効な活動はできないように思います。
<ul style="list-style-type: none"> • 隣近所とのコミュニケーション? プライバシー? ウワサ話しになりがちなことを考えると難しいと思う。民生委員のように守秘義務の活動を超えてしまうのは望ましくないと考える。
<ul style="list-style-type: none"> • 隣近所との交流。
<ul style="list-style-type: none"> • 隣近所の人々とのあいさつが初めの一歩だと思う。イベントを開催し、地域の方に協力、参加をお願いすることで堅苦しくないお付き合い、そして支え合い、助け合いに繋がるのではないかな。
<ul style="list-style-type: none"> • 隣人を知ることから始まると思う。隣人を知り、隣の家族を知り、地域の人たちを知る事、自分の事のように地域の課題を知り、何か出来る事を探す事が大事と考える。
<ul style="list-style-type: none"> • 連携情報共有が必要。民主、社協、自治会他の協力。
<ul style="list-style-type: none"> • 話し相手がほしい時、行事等予約なしにふらっと寄れることができる場所がほしい。

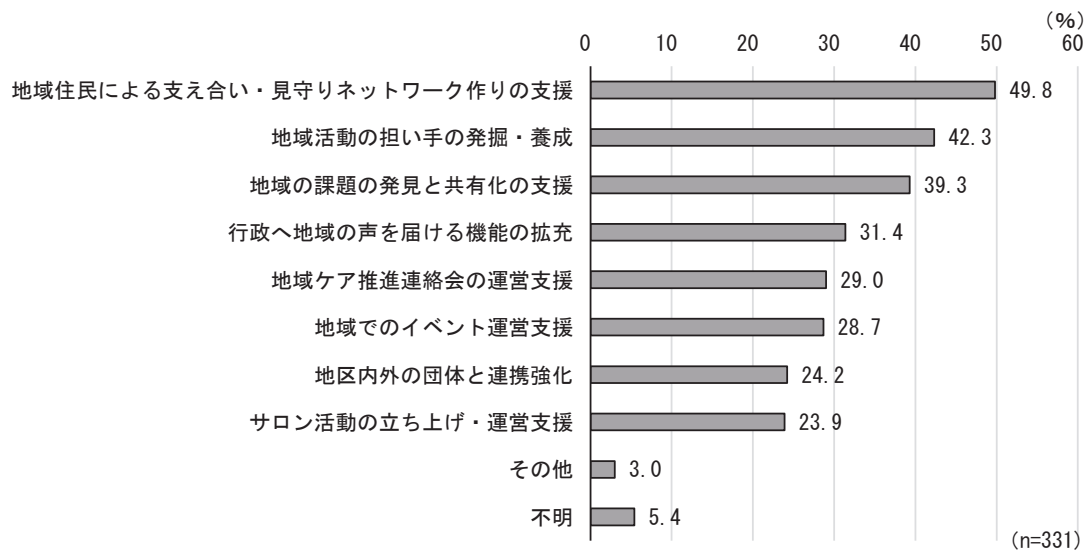
7.調査結果の詳細／福祉委員

⑰ コミュニティワーカーに期待する支援内容

問17 地域と地域のネットワーク支援や、地域と行政との連絡・調整等を行うコミュニティワーカー（市が市社会福祉協議会に委託）に今後期待するものは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

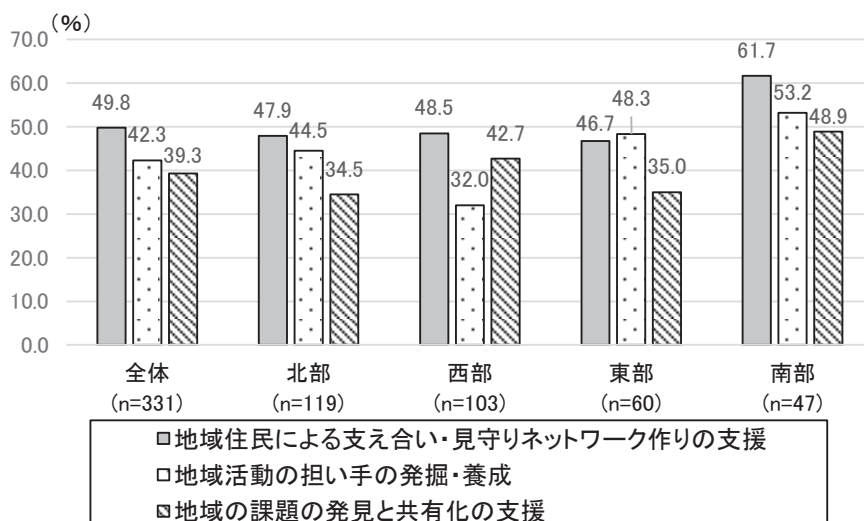
コミュニティワーカーに期待する支援内容を見ると、「地域住民による支え合い・見守りネットワーク作りの支援」が49.8%で最も多く、次いで「地域活動の担い手の発掘・養成」が42.3%、「地域の課題の発見と共有化の支援」が39.3%となっている。

図表 400 コミュニティワーカーに期待する支援内容



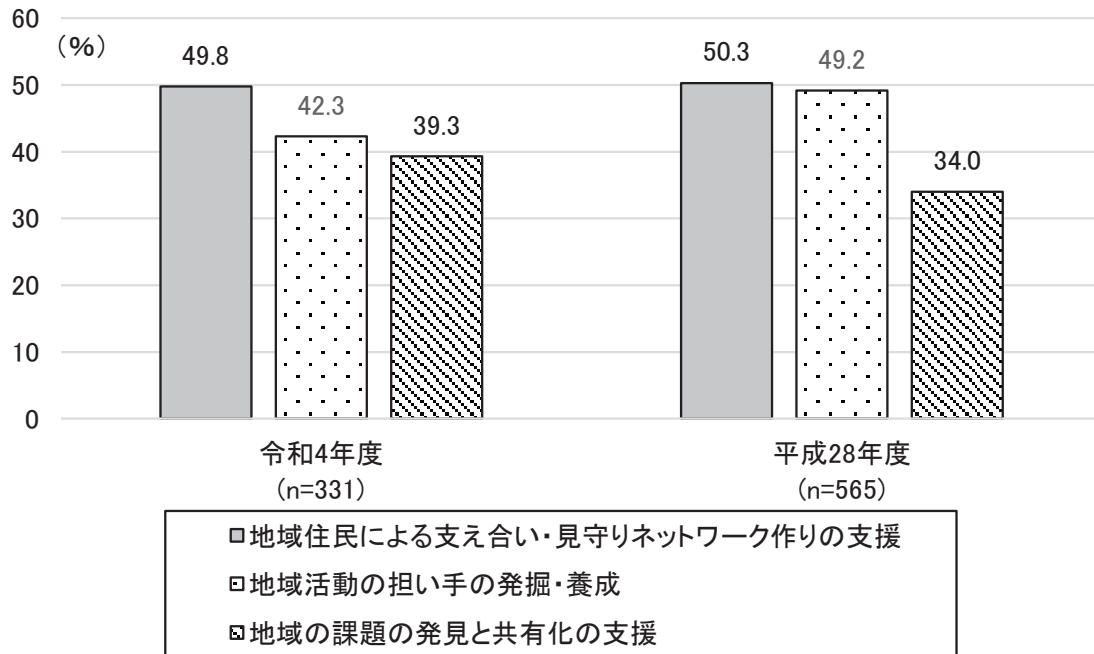
活動・所属地区別にみると、「地域住民による支え合い・見守りネットワーク作りの支援」は「南部(61.7%)」、「地域活動の担い手の発掘・養成」は「南部(53.2%)」、「地域の課題の発見と共有化の支援」は「南部(48.9%)」が最も多くなっている。

図表 401 コミュニティワーカーに期待する支援内容(活動・所属地区別)



経年でみると、「地域住民による支え合い・見守りネットワーク作りの支援」、「地域活動の担い手の発掘・養成」が減少し、「地域の課題の発見と共有化の支援」が増加している。

図表 402 コミュニティワーカーに期待する支援内容(経年比較)



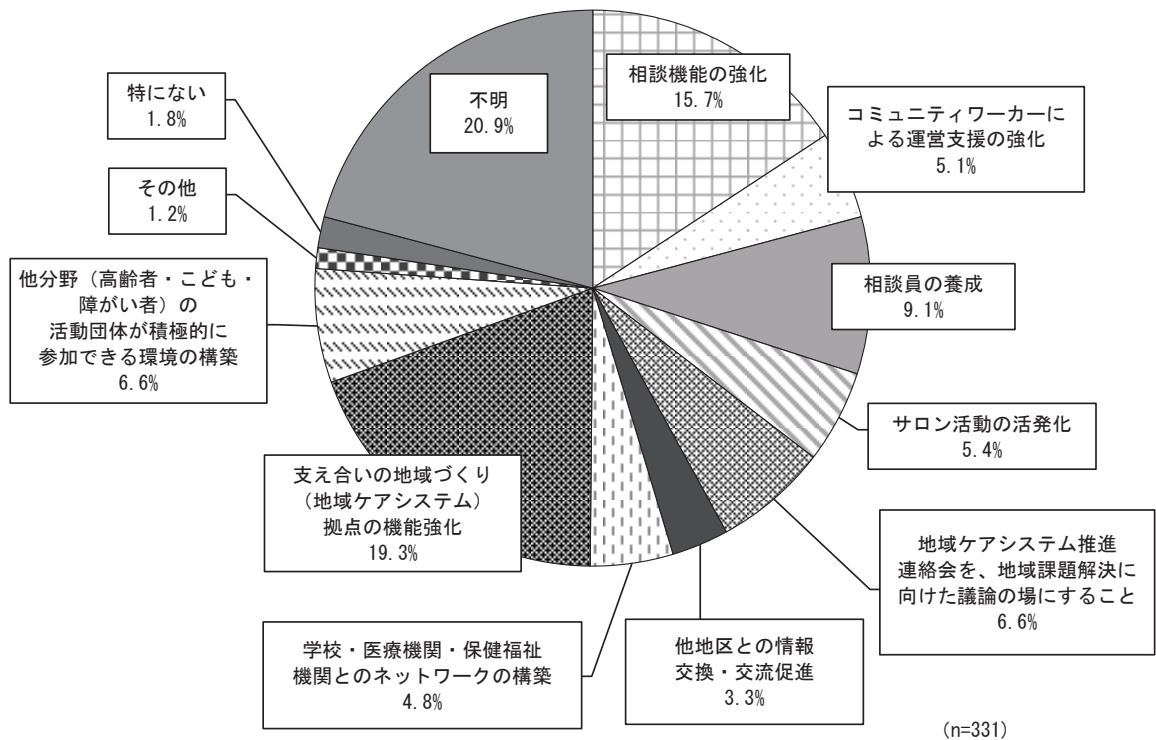
7.調査結果の詳細／福祉委員

⑱ 地域ケアシステムで今後重視すべきこと

問18 あなたは、地域ケアシステムで今後重視すべきことはどのようなことだと思いますか。(〇は1つだけ)

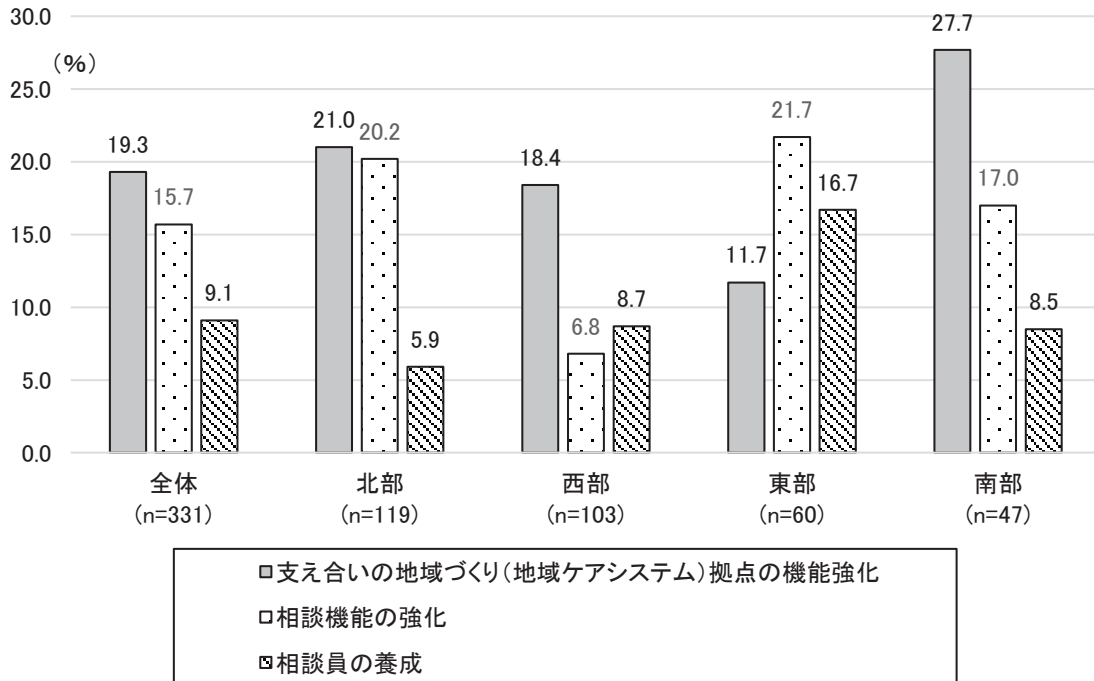
地域ケアシステムで今後重視すべきことをみると、「支え合いの地域づくり(地域ケアシステム)拠点の機能強化」が19.3%で最も多く、次いで「相談機能の強化」が15.7%、「相談員の養成」が9.1%となっている。

図表 403 地域ケアシステムで今後重視すべきこと



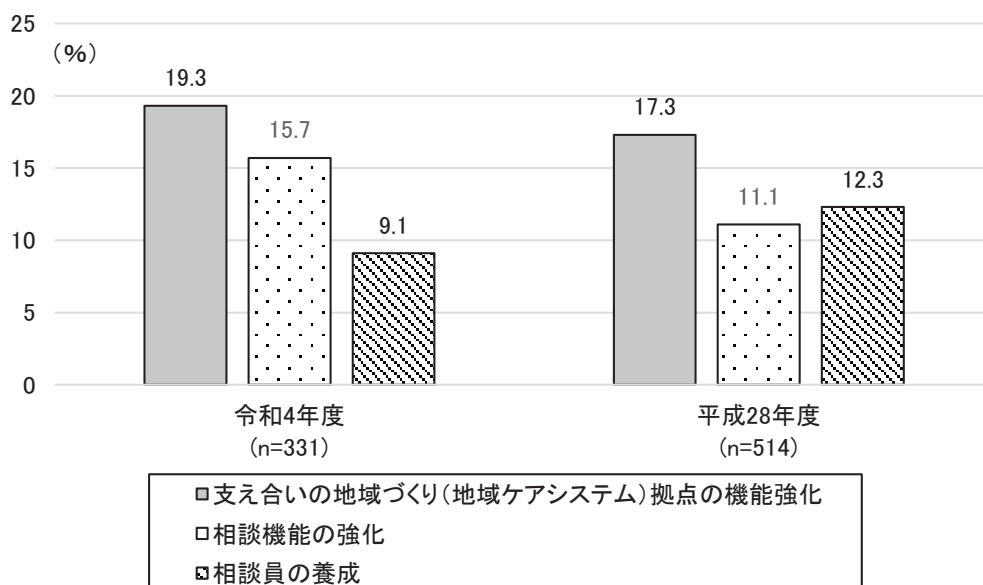
活動・所属地区別にみると、「支え合いの地域づくり(地域ケアシステム)拠点の機能強化」は「南部(27.7%)」、「相談機能の強化」は「東部(21.7%)」、「相談員の養成」は「東部(16.7%)」が最も多くなっている。

図表 404 地域ケアシステムで今後重視すべきこと(活動・所属地区別)



経年でみると、「支え合いの地域づくり(地域ケアシステム)拠点の機能強化」、「相談機能の強化」が増加している。

図表 405 地域ケアシステムで今後重視すべきこと(経年比較)



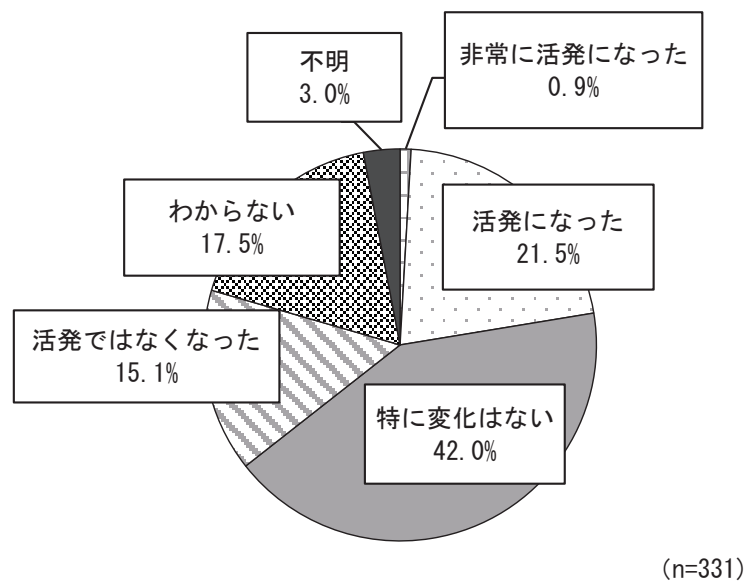
7.調査結果の詳細／福祉委員

⑱ 以前と比べた自身の活動区域における地域福祉の変化

問19 以前(平成28年頃)と比べて、ご自身の活動区域における地域の福祉活動はどのように変化したと感じますか。(〇は1つだけ)

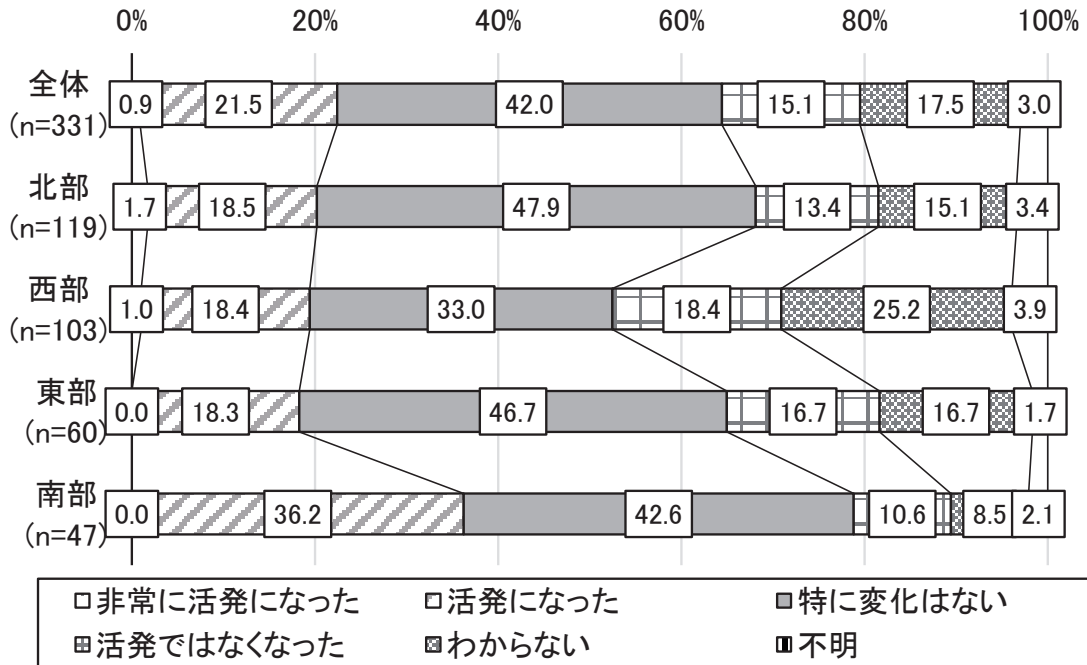
以前と比べた自身の活動区域における地域福祉の変化をみると、「特に変化はない」が42.0%で最も多く、次いで「活発になった」が21.5%、「活発ではなくなった」が15.1%となっている。

図表 406 以前と比べた自身の活動区域における地域福祉の変化



活動・所属地区別にみると、「特に変化はない」は「北部(47.9%)」、「活発になった」は「南部(36.2%)」、「活発ではなくなった」は「西部(18.4%)」が最も多くなっている。

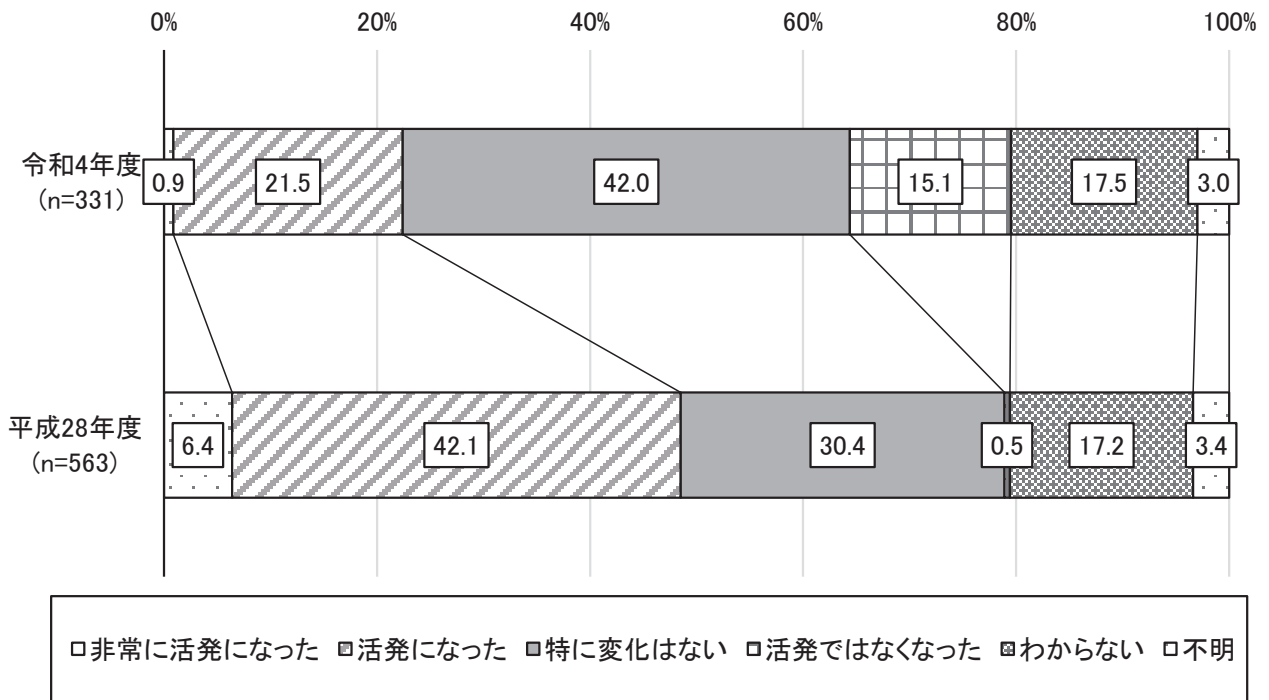
図表 407 以前と比べた自身の活動区域における地域福祉の変化(活動・所属地区別)



7.調査結果の詳細／福祉委員

経年でみると、「活発になった」は減少し、「活発ではなくなった」は増加している。

図表 408 以前と比べた自身の活動区域における地域福祉の変化(経年比較)

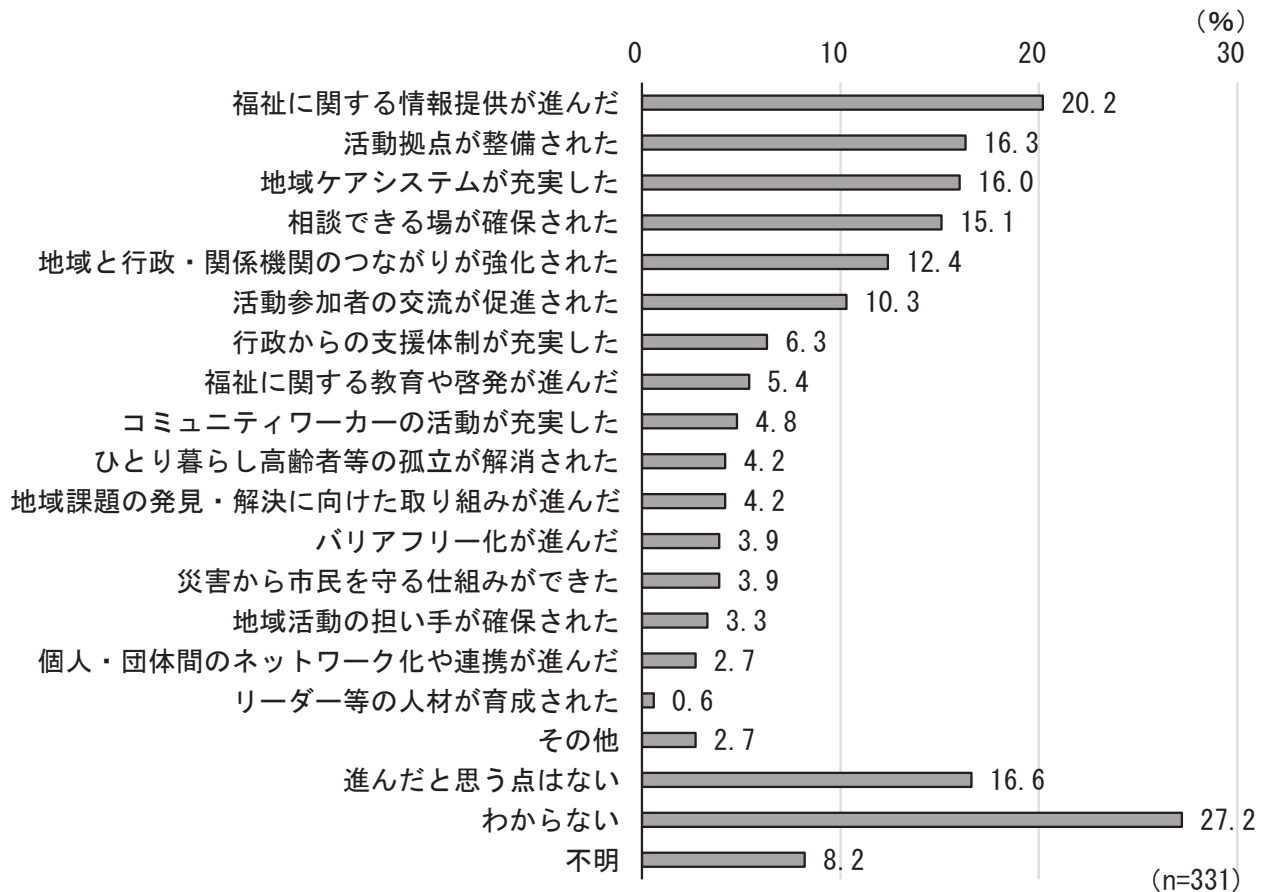


⑳ 以前と比べて活動地域において推進された地域福祉

問20 以前(平成28年頃)と比べて、日頃活動されている地域において、主にどのような点で地域福祉が推進されたと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

以前と比べて活動地域において推進された地域福祉をみると、「福祉に関する情報提供が進んだ」が20.2%で最も多く、次いで「活動拠点が整備された」が16.3%、「地域ケアシステムが充実した」が16.0%となっている。

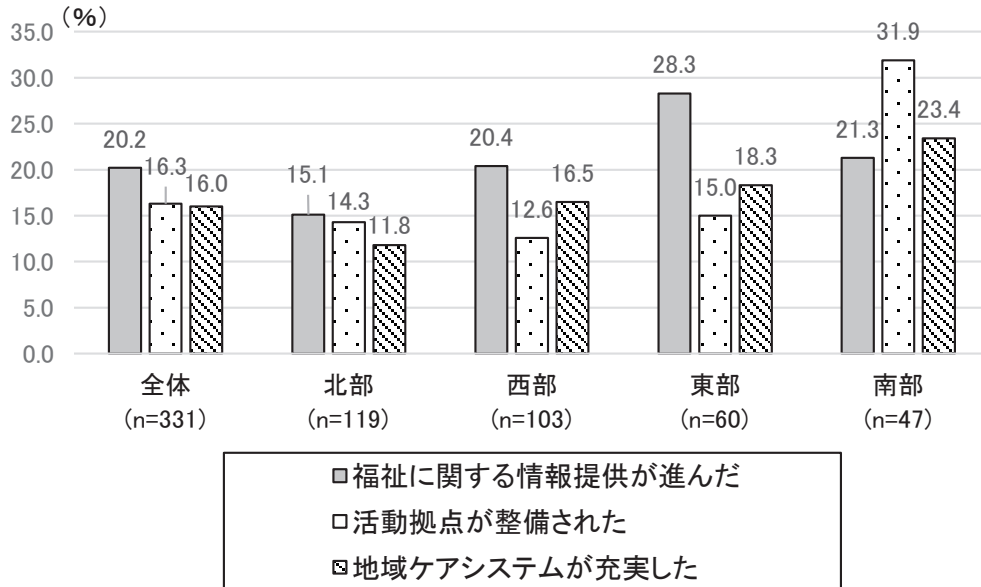
図表 409 以前と比べて活動地域において推進された地域福祉



7.調査結果の詳細／福祉委員

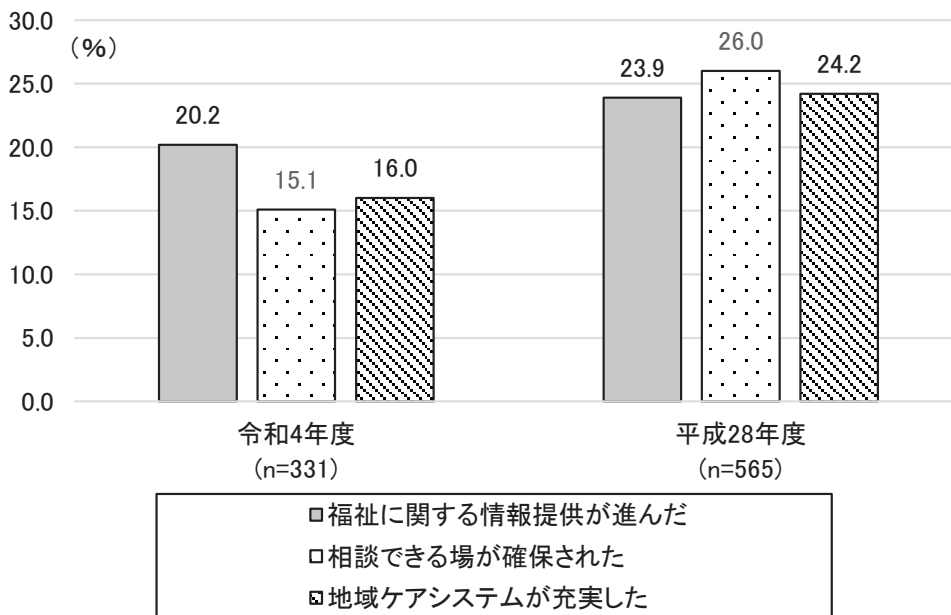
活動・所属地区別にみると、「福祉に関する情報提供が進んだ」は「東部(28.3%)」、「活動拠点が整備された」は「南部(31.9%)」、「地域ケアシステムが充実した」は「南部(23.4%)」が最も多くなっている。

図表 410 以前と比べて活動地域において推進された地域福祉(活動・所属地区別)



経年でみると、「福祉に関する情報提供が進んだ」、「相談できる場が確保された」、「地域ケアシステムが充実した」の全ての項目が減少している。

図表 411 以前と比べて活動地域において推進された地域福祉(経年比較)

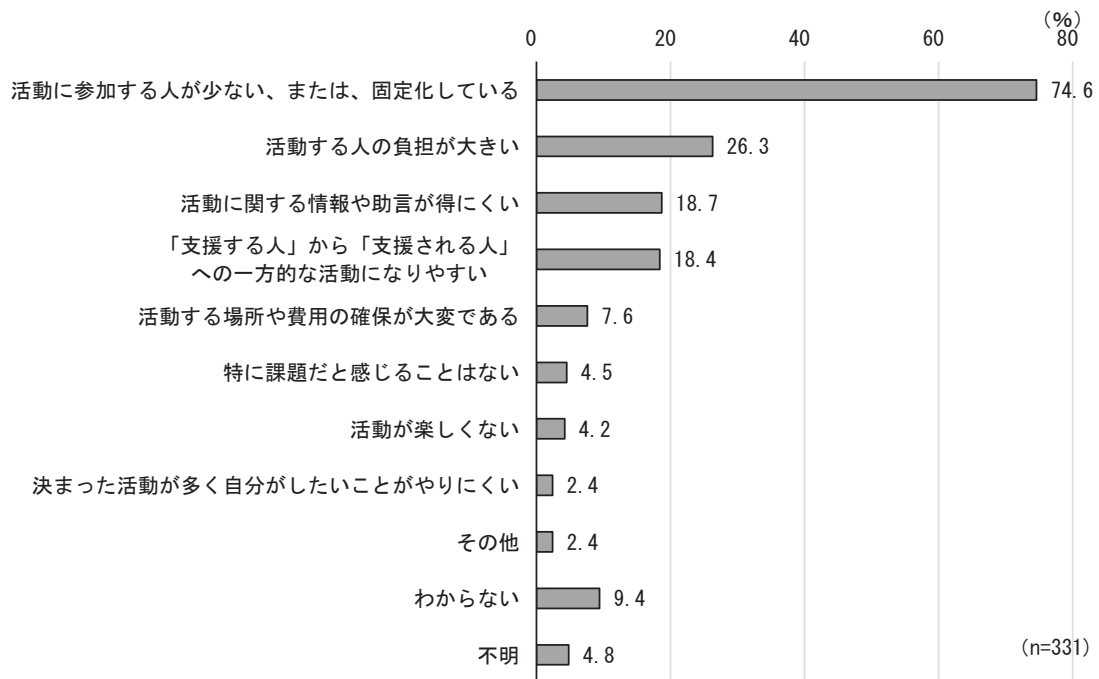


② 地域住民による地域福祉活動の課題

問21 地域住民による地域福祉の活動について、課題だと思いませんか。(あてはまるものすべてに○)

地域住民による地域福祉活動の課題をみると、「活動に参加する人が少ない、または、固定化している」が74.6%で最も多く、次いで「活動する人の負担が大きい」が26.3%、「活動に関する情報や助言が得にくい」が18.7%となっている。

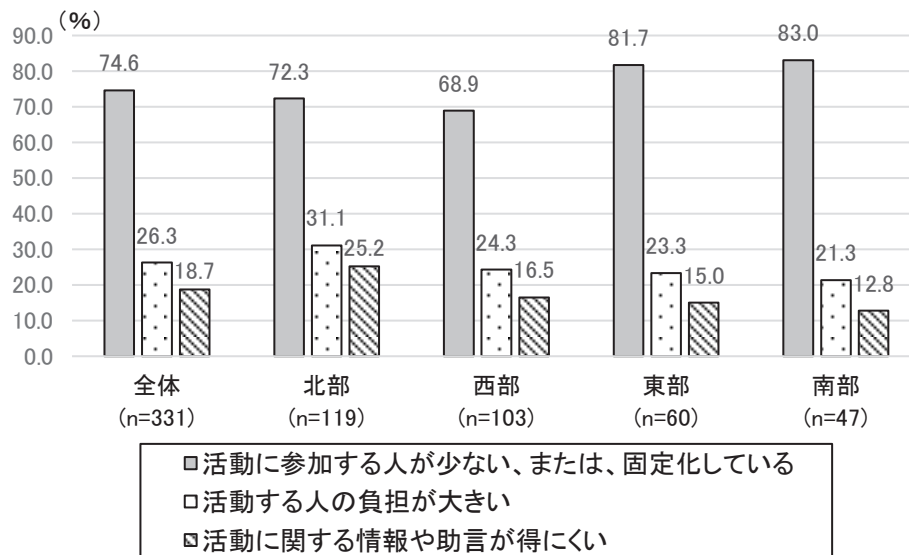
図表 412 地域住民による地域福祉活動の課題



7.調査結果の詳細／福祉委員

活動・所属地区別にみると、「活動に参加する人が少ない、または、固定化している」は「南部(83.0%)」、「活動する人の負担が大きい」は「北部(31.1%)」、「活動に関する情報や助言が得にくい」は「北部(25.2%)」が最も多くなっている。

図表 413 地域住民による地域福祉活動の課題(活動・所属地区別)

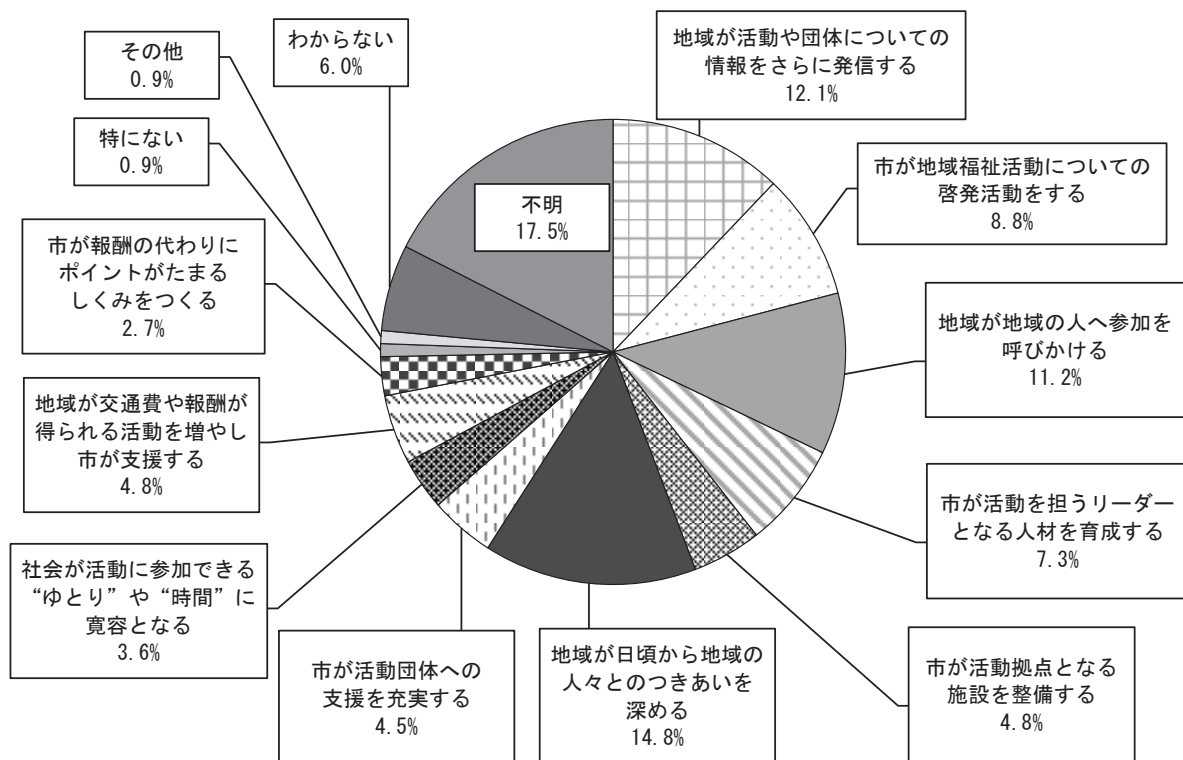


② 地域福祉活動への参加者を増やすのに必要なこと

問22 あなたは、地域福祉の活動に参加する人を増やすには、どのような取組を特に優先的に進めるのがよいと思いますか。(〇は1つだけ)

地域福祉活動への参加者を増やすのに必要なことをみると、「地域が日頃から地域の人々とのつきあいを深める」が14.8%で最も多く、次いで「地域が活動や団体についての情報をさらに発信する」が12.1%、「地域が地域の人へ参加を呼びかける」が11.2%となっている。

図表 414 地域福祉活動への参加者を増やすのに必要なこと

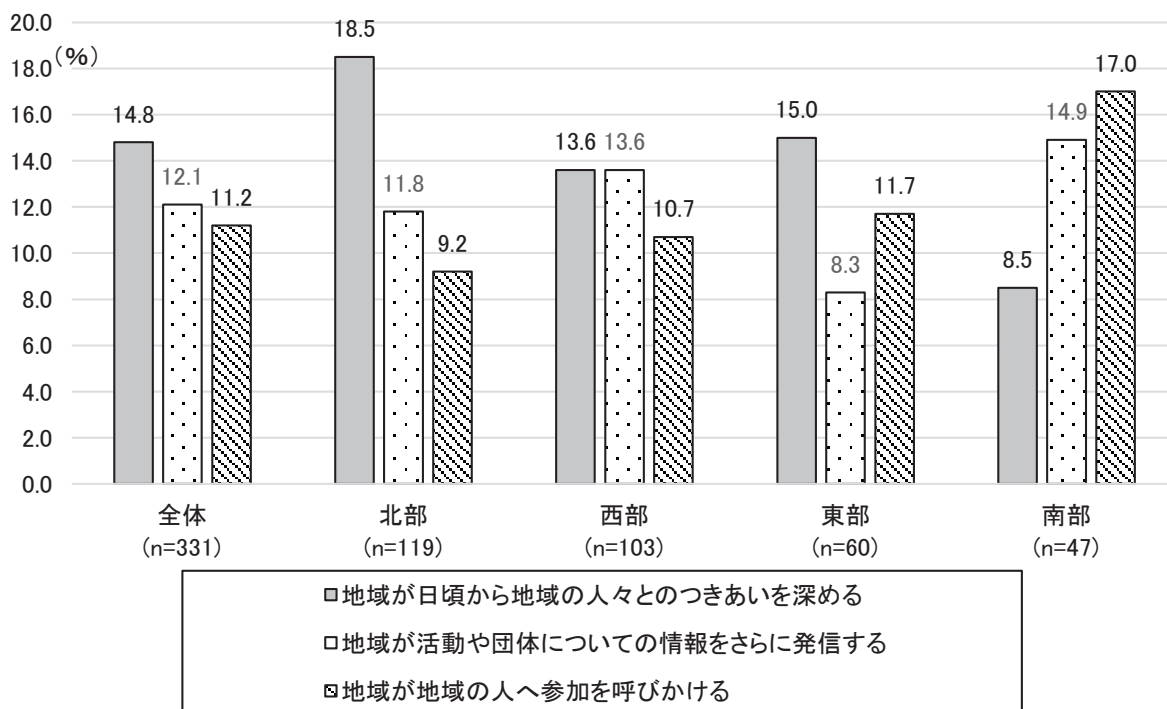


(n=331)

7.調査結果の詳細／福祉委員

活動・所属地区別にみると、「地域が日頃から地域の人々とのつきあいを深める」は「北部(18.5%)」、「地域が活動や団体についての情報をさらに発信する」は「南部(14.9%)」、「地域が地域の人へ参加を呼びかける」は「南部(17.0%)」が最も多くなっている。

図表 415 地域福祉活動への参加者を増やすのに必要なこと(活動・所属地区別)



③ コロナ禍で、集まって活動するための工夫

問23 コロナ禍において、集まって地域の福祉活動を実施できるように、工夫したことがありましたらご記入ください。(自由記載)

コロナ禍において、集まって地域の福祉活動を実施できるように工夫したことについて意見を求めたところ、実際に行った取組みとしては58件の意見が寄せられた。意見については、一回答者が複数の意見を記入している場合は、それぞれを1件として件数に加えている。主な意見を掲載しているが、主旨を尊重しながら表現をまとめるとともに誤字などを修正している。

項目別に見ると、「感染対策をした上での活動実施(40件)」が最も多く、次いで「SNS等の活用(5件)」、「イベントや交流会等の実施(5件)」が続いた。

多かった意見	件数
(ア) 感染対策をした上での活動実施	40
(イ) SNS等の活用	5
(ウ) イベントや交流会等の実施	5
(エ) 書面や電話等による連絡実施	2
(オ) その他	6
合計	58

(ア) 感染対策をした上での活動実施

主な意見
・ 時間短縮、人数制限。
・ 3密の徹底。
・ イス・机など除菌するので、いつもより時間がかかるようになった。
・ グランドゴルフ、健康ウォーク等。野外で行うことのできる行事を増やした。
・ こまめに換気をして密集を避けた。体温の計測とマスクの着用を心がけた。飛沫防止用仕切り板をした。
・ コロナ対策(マスク、消毒、検温、ビニール手袋使用等)。
・ サロンやカフェを人数制限や感染対策を充実させての開催など。
・ サロンをコロナ禍でも活動場所の人数制限内で早くに開催した。
・ サロン開催時、定員枠の多い部屋に移動した。
・ サロン活動で人数制限の中、人を集める難しさ。
・ サロン等の開所時間を減らしました。
・ ほとんど中止になったが、集まれる場所を探して換気、消毒、マスクの徹底で実施したこともあった。
・ ボランティア団体として高齢者の人数を制限して毎月元気つけの企画を行い、相談を受けた。

7.調査結果の詳細／福祉委員

<ul style="list-style-type: none">・ 小学校の中の地域の図書館でも子ども達の宿題を見たり、地域サポートセンター等とも連絡をとり高齢者の繋がりを持っている。サロン活動として人数制限とコロナ対策をした。
<ul style="list-style-type: none">・ マスク着用、距離感の徹底、飲食禁止、おしゃべりしない、活動時間は1時間以内、人数制限。
<ul style="list-style-type: none">・ 会館使用の人数制限もあり、小会議で開催。屋外行事を中心に企画するもコロナで予定通り行かず。
<ul style="list-style-type: none">・ 会議の時間を短縮するために前もってレジュメを配布した。
<ul style="list-style-type: none">・ サロンの人数も制限され、個別に声かけする事など工夫しながら地域活動をしてきました。
<ul style="list-style-type: none">・ 会話少なくして出来る行事＝室内での運動、手芸、折り紙、DVD鑑賞、外での体操、作業等。
<ul style="list-style-type: none">・ 外での体操やグランドゴルフ。
<ul style="list-style-type: none">・ 検温、マスク着用、手指消毒をして活動した。
<ul style="list-style-type: none">・ 参加者の人数を制限する。
<ul style="list-style-type: none">・ 参加人数の制限。消毒。検温。
<ul style="list-style-type: none">・ 室内で集まらないような活動で行事を行った。グランドゴルフやラジオ体操等。
<ul style="list-style-type: none">・ 出来る限りの感染症防止対策を行う。
<ul style="list-style-type: none">・ 少人数で時間を短くし、換気良くし、少しの体操をした。
<ul style="list-style-type: none">・ 少数の人々との集まりをした。
<ul style="list-style-type: none">・ 人数をおさえて、なるべく声かけをして、外出の機会を作ってあげる。
<ul style="list-style-type: none">・ 人数制限。
<ul style="list-style-type: none">・ 人数制限に従って集合した。
<ul style="list-style-type: none">・ 人数制限やマスク着用。
<ul style="list-style-type: none">・ 人数制限や消毒、マスク等で社協さんの協力、地域ささえ合い課、町会新聞で連絡、報告。
<ul style="list-style-type: none">・ 人数制限を行った事ぐらいしかしなかった事に残念に思いました。もっとネットワークとか、インターネットを利用した情報交換ができれば良かったと思いました。
<ul style="list-style-type: none">・ 世間で一般に注意している事を守り行えた活動あり。
<ul style="list-style-type: none">・ 声かけをして来所していただき、体操、茶話会などを人数制限しながら行った。
<ul style="list-style-type: none">・ 定員を守り、注意事項の遵守と消毒の徹底で乗り切る。
<ul style="list-style-type: none">・ 日頃は市の施設を利用しての活動です。規則の多い中での活動ですが、週一でサロンを開催。毎回14、5人の集まりです。
<ul style="list-style-type: none">・ 入室の人数を確認(人数制限を行う)。必ず手指アルコール、マスク、熱について確認。
<ul style="list-style-type: none">・ 入場人数の制限などで対応。
<ul style="list-style-type: none">・ 訪問する際、玄関先で2m以上離れてでも話の内容は以前と変わらないようにする。
<ul style="list-style-type: none">・ 密になることが悪だったので、集まる機会を最小限にした。

(イ) SNS 等の活用

主な意見
・ LINEを活用しています。
・ QRコードを利用してイベントに参加して下さる方を募ったり、集計したり。
・ ZOOM 会議の導入。ZOOM サロンの一部導入。小人数呼びかけ方式のサロンや演芸会の開催。
・ スマホ LINE を活用して連絡、情報交換を行った。また、対面ではアクリル板設置、換気の上時間短縮。
・ 会議やサロンは、ZOOM で行ったりしています。サロンの人数も制限され、個別に声かけする事など工夫しながら地域活動をしてきました。

(ウ) イベントや交流会等の実施

主な意見
・ 映画鑑賞会があった。老人会でなぞり絵や、七夕の折り紙があったことを聞いた。
・ コロナ禍で敬老祝いや子供会 100 周年記念等、記念品を配り、喜ばれました。
・ サロンを開いて人とのつながりを強くする。
・ 子供会の夏の集いで、自治会館の外庭でスイカ割りとヨーヨー釣りを開催し、親子で楽しんでもらいました。
・ 特に工夫はしませんでした。他の地区では休んでいたようですが、私たちのグループは毎回行っていました。皆様が喜んで待っていて下さるので。

(エ) 書面や電話等による連絡実施

主な意見
・ 書類を持って回答する。
・ 特になし。電話等で相談する。

7.調査結果の詳細／福祉委員

(オ) その他

主な意見
<ul style="list-style-type: none">3年間のコロナ時、イベントのない自治会費を福祉活動に使ってほしい(近隣の人達の意見があります)。
<ul style="list-style-type: none">あいさつの声かけ。
<ul style="list-style-type: none">コロナ禍で活動範囲が狭まったので、入会する気がなかったシニアクラブに入会しました。ボッチャー、輪投げ、体操、健康麻雀、囲碁、公園清掃など活発に活動しているので、一緒に楽しみ情報等をお知らせしたりしています。
<ul style="list-style-type: none">見守り等の参加を集める。
<ul style="list-style-type: none">相談員活動をしていて、車イスを借りに来る方が増えたと言う事は住民に少しずつ相談員の場所、仕事が広まってきていることと思う。
<ul style="list-style-type: none">頼まれた事、相談事は、誠実に対応する。普段のつきあい方を大切にし、信用してもらえる行動を相手に伝える。

⑭ コロナ禍で、集まらずに活動するための工夫

問24 コロナ禍において、集まらずに地域の福祉活動が実施できるように、工夫したことがありましたらご記入ください。(自由記載)

コロナ禍において、集まらずに地域の福祉活動を実施できるように工夫したことについて意見を求めたところ、実際に行った取組みとしては53件の意見が寄せられた。意見については、一回答者が複数の意見を記入している場合は、それぞれを1件として件数に加えている。主な意見を掲載しているが、主旨を尊重しながら表現をまとめるとともに誤字などを修正している。

項目別に見ると、「SNS等の活用(21件)」が最も多く、次いで「書面や電話等による連絡実施(15件)」、「イベントや交流会等の実施(9件)」が続いた。

多かった意見	件数
(ア) SNS等の活用	21
(イ) 書面や電話等による連絡実施	15
(ウ) イベントや交流会等の実施	9
(エ) 自治会を活用した活動実施	3
(オ) その他	5
合計	53

(ア) SNS等の活用

主な意見
・ LINEグループ等のSNSの活用。
・ LINEの活用。
・ SNSの利用、ラインなどで連絡を取る。
・ ZOOMアプリでの会議。
・ ZOOMでの会議や、ホームページの充実など、対面でなくてもできることにはチャレンジしたいと思います。
・ ZOOMで行う。
・ ZOOMなどを利用してオンラインで会議をしたり。
・ ZOOMによる会議。
・ ZOOMの利用。出来れば、このような活動に予算をつけてもらいたい。
・ ZOOMを活用した。
・ ZOOM会議の導入。ZOOMサロンの一部導入。
・ オンライン会議。
・ ズーム会議の勉強会を行ったが継続は出来なかった(個人出費が重なり)。市の方の援助等が必要。
・ ライン。

7.調査結果の詳細／福祉委員

・ ラインを使い情報交換を行い、困っている人に対して支援を行った。
・ ライン活用。
・ リモート参加。
・ 夏休みに社協さんと協力して、親子クッキングコンテストのパソコンからの応募、審査、そして、公民館の地域ケア内に結果展示しました(賞品あり)。
・ 夏休みに小学校でやっていたイベントをパソコンや携帯から応募して参加するコンテスト形式にした。
・ 対面でない手段(Web など)。
・ LINE 活用。

(イ) 書面や電話等による連絡実施

主な意見
・ お互いさま。東京などでは、連絡の無い方に安否確認の電話を入れた。
・ サロン、ケアシステム等の情報をポストインした。
・ ポスティング・電話連絡。
・ 一人暮らしで少し心配な人に電話にて話をする。
・ 近況報告等、手紙、TEL等でお知らせをした。
・ 個別にポスティングし、顔を合わせる。
・ 手紙・電話で福祉活動をしました。
・ 暑中見舞いのハガキを出し、近況を聞く。
・ 対面でない手段(Tel、FAX、手紙など)。
・ 地域ケアからの連絡事項は郵送にて行われた。
・ 電話、メモの活用。
・ 電話での対応です。
・ 電話や手紙での安否確認。
・ 文書での郵送。
・ 文書配布方式。

(ウ) イベントや交流会等の実施

主な意見
・ 「夏休み親子クッキングスクール」をメールによる「コンテスト」という形で実施した。
・ 「親子クッキングコンテスト」をそれぞれの家庭で作ったお菓子や料理を写真とレポートで募り、一緒に料理する楽しさをわかってもらった。
・ 一ヶ所で弁当配布して取りに来てもらい、ひとりひとりの元気確認会。
・ 屋外での交流。
・ 屋外で午前中のみポップコーン店を開き、新田4丁目松寿会と子ども会の方々に、集まらず自由に来てもらい、無料でプレゼントしました。
・ 月1回自治会の集まりが有り(35人)8月9月は中止にした。
・ 公園に集まっていたき体操や何がやりたいのか参加者と考える。
・ 小人数呼びかけ方式のサロンや演芸会の開催。
・ 特に工夫はしませんでした。他の地区では休んでいたようですが、私たちのグループは毎回行っていました。皆様が喜んで待っていて下さるので。常時だいたい同じ方が出席です。13～15名位。

(エ) 自治会を活用した活動実施

主な意見
・ 自治会員に防災用品を配布。
・ 自治会通信を出し、日頃の学校通信や子供会、神社の祭(神事のみ)紹介等、お知らせや報告を出している。
・ 自治会独自の広報を発行した。

(オ) その他

主な意見
・ 回覧板利用。
・ 散歩をした時に、マスクをしたまま塀の外から声がけをして顔を合わせる(特に近所のお年寄りに)。
・ 車イスの貸出しが有る為、最小限の人数にて行方。会話も必要事項のみにて対応。入室時は必ずアルコール、マスク、熱について確認(住所、氏名、TELも記入いただく)。
・ 人数、時間制限。
・ 頼まれた事、相談事は、誠実に対応する。普段のつきあい方を大切にし、信用してもらえる行動を相手に伝える。

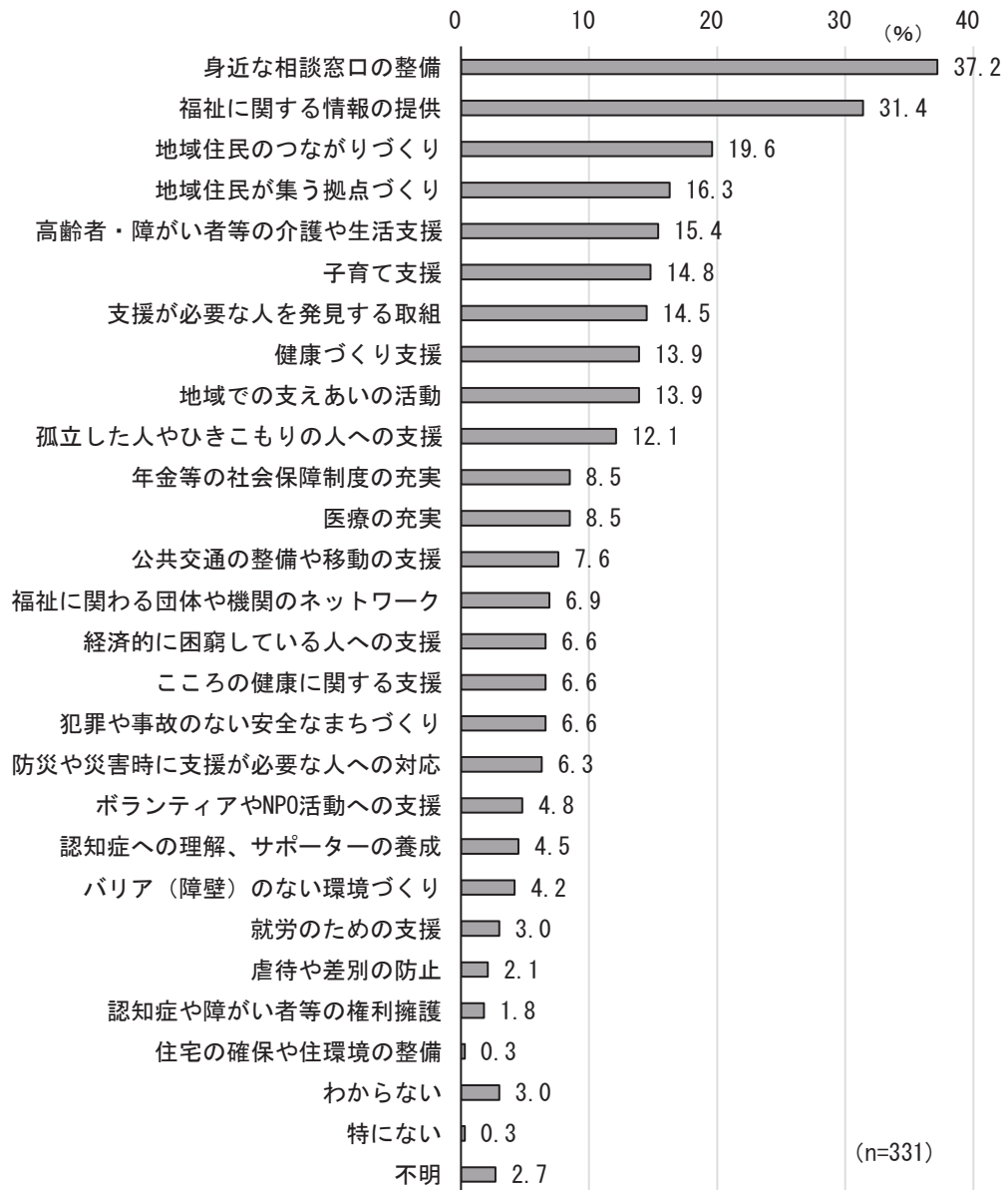
7.調査結果の詳細／福祉委員

㊸ 地域福祉の充実のため市が優先的に取り組むべきこと

問25 地域福祉を充実させるために、市川市はどのようなことを特に優先的に取り組むべきだと思いますか。(〇は3つまで)

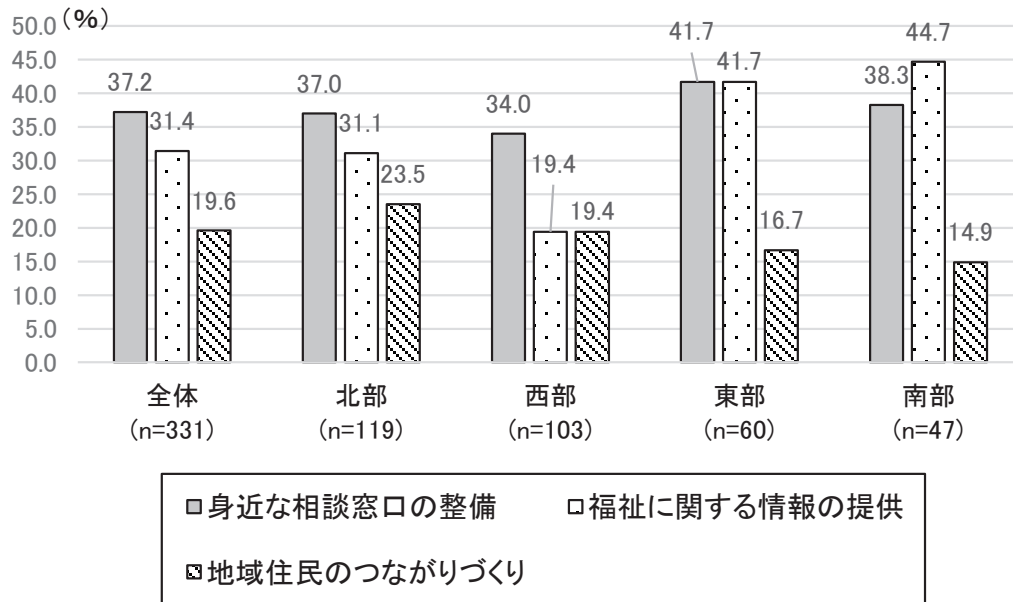
地域福祉を充実させるために、市が優先的に取り組むべきことをみると、「身近な相談窓口の整備」が37.2%で最も多く、次いで「福祉に関する情報の提供」が31.4%、「地域住民のつながりづくり」が19.6%となっている。

図表 416 地域福祉の充実のため市が優先的に取り組むべきこと



活動・所属地区別にみると、「身近な相談窓口の整備」は「東部(41.7%)」、「福祉に関する情報の提供」は「南部(44.7%)」、「地域住民のつながりづくり」は「北部(23.5%)」が最も多くなっている。

図表 417 地域福祉の充実のため市が優先的に取り組むべきこと(活動・所属地区別)



7.調査結果の詳細／福祉委員

㊫ 地域や民間の団体・事業者等が積極的に取り組むべきこと

問26 地域や民間の団体・事業者等が積極的に取り組むべきだと思いますことはありますか。(〇は3つまで)

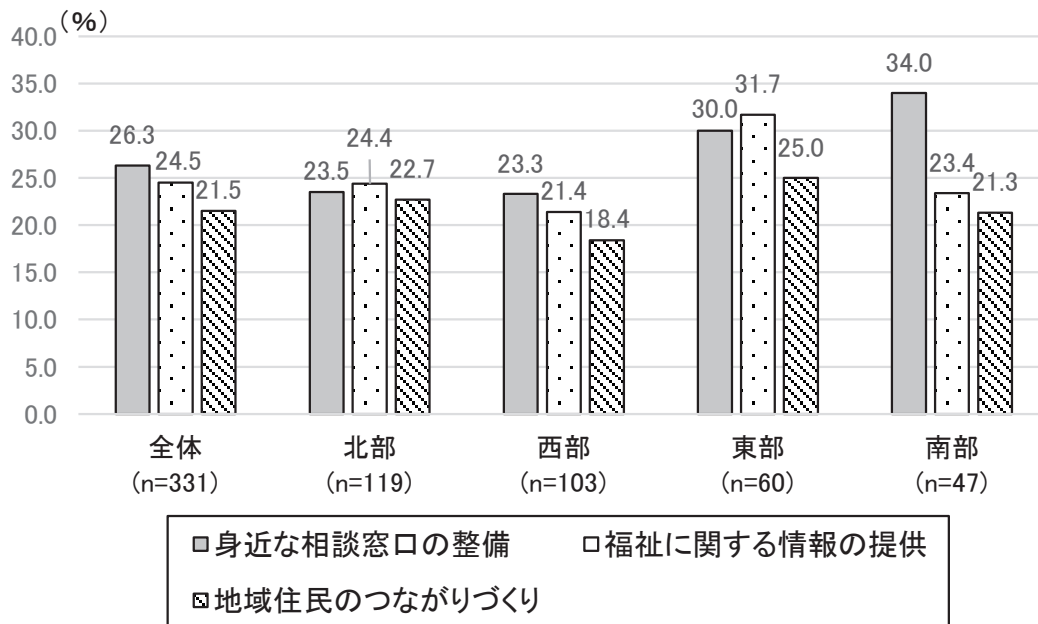
地域や民間の団体・事業者等が積極的に取り組むべきことをみると、「身近な相談窓口の整備」が26.3%で最も多く、次いで「福祉に関する情報の提供」が24.5%、「地域住民のつながりづくり」が21.5%となっている。

図表 418 地域や民間の団体・事業者等が積極的に取り組むべきこと



活動・所属地区別にみると、「身近な相談窓口の整備」は「南部(34.0%)」、「福祉に関する情報の提供」は「東部(31.7%)」、「地域住民のつながりづくり」は「東部(25.0%)」が最も多くなっている。

図表 419 地域や民間の団体・事業者等が積極的に取り組むべきこと(活動・所属地区別)



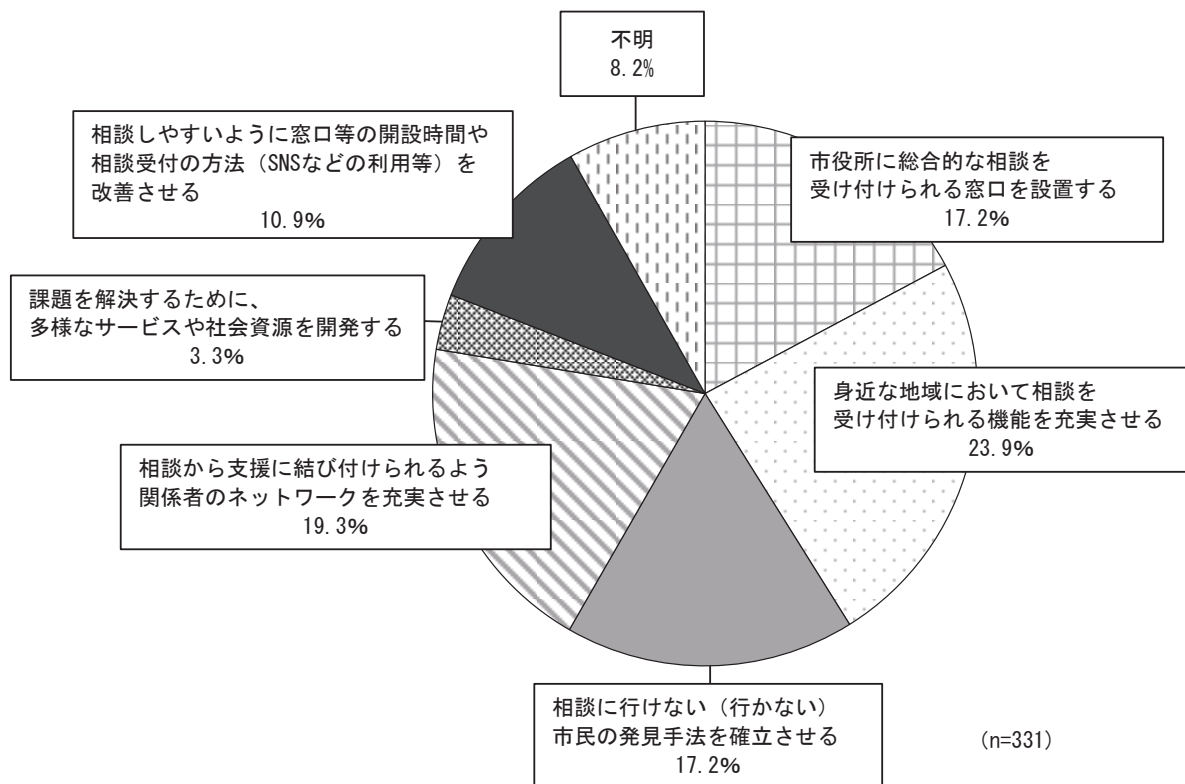
7.調査結果の詳細／福祉委員

㊦ 地域共生社会に向け市が力を入れて取り組むべきこと

問27 「地域共生社会」では、多様な生活課題に法制度の枠組みを超えて、横断的に対応する相談支援体制が求められますが、市川市ではこうした包括的な相談支援の仕組みを充実していくうえで、特に優先的に力を入れて取り組むべきことはどのようなことだと思いますか。(〇は1つだけ)

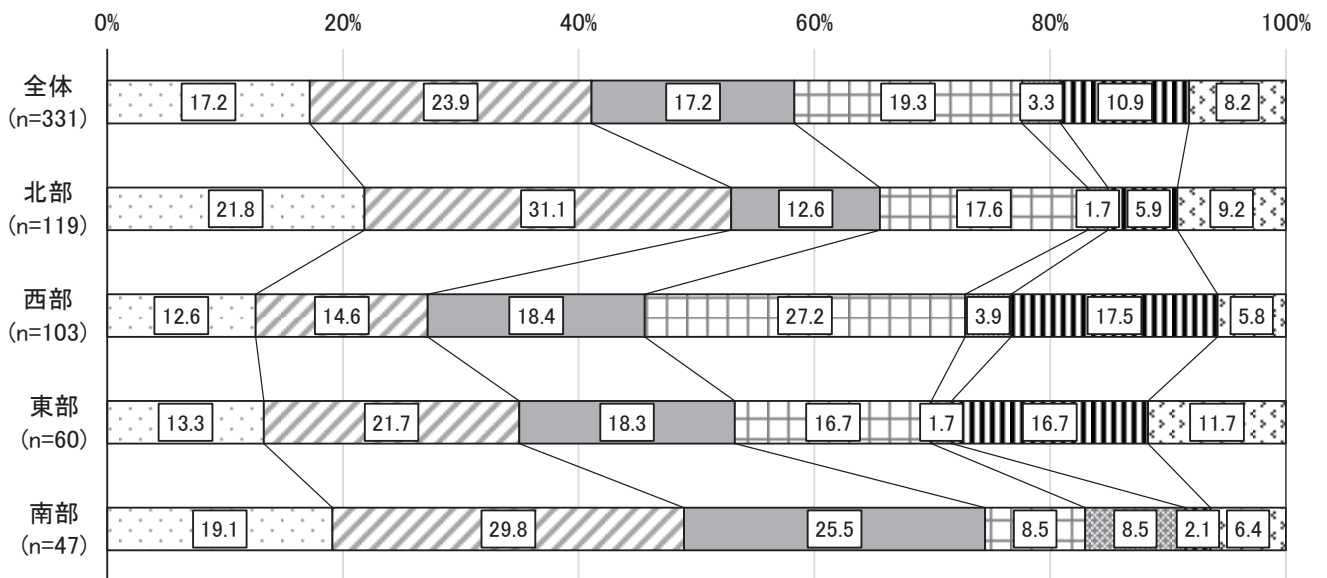
地域共生社会に向け市が力を入れて取り組むべきことをみると、「身近な地域において相談を受け付けられる機能を充実させる」が23.9%で最も多く、次いで「相談から支援に結び付けられるよう関係者のネットワークを充実させる」が19.3%、「市役所に総合的な相談を受け付けられる窓口を設置する」「相談に行けない(行かない)市民の発見手法を確立させる」が17.2%となっている。

図表 420 地域共生社会に向け市が力を入れて取り組むべきこと



活動・所属地区別にみると、「身近な地域において相談を受け付けられる機能を充実させる」は「北部(31.1%)」、「相談から支援に結び付けられるよう関係者のネットワークを充実させる」は「西部(27.2%)」、「市役所に総合的な相談を受け付けられる窓口を設置する」は「北部(21.8%)」、「相談に行けない(行かない)市民の発見手法を確立させる」は「南部(25.5%)」が最も多くなっている。

図表 421 地域共生社会に向け市が力を入れて取り組むべきこと(活動・所属地区別)



- 市役所に総合的な相談を受け付けられる窓口を設置する
- 身近な地域において相談を受け付けられる機能を充実させる
- 相談に行けない(行かない)市民の発見手法を確立させる
- 相談から支援に結び付けられるよう関係者のネットワークを充実させる
- 課題を解決するために、多様なサービスや社会資源を開発する
- 相談しやすいように窓口等の開設時間や相談受付の方法(SNSなどの利用等)を改善させる
- 不明

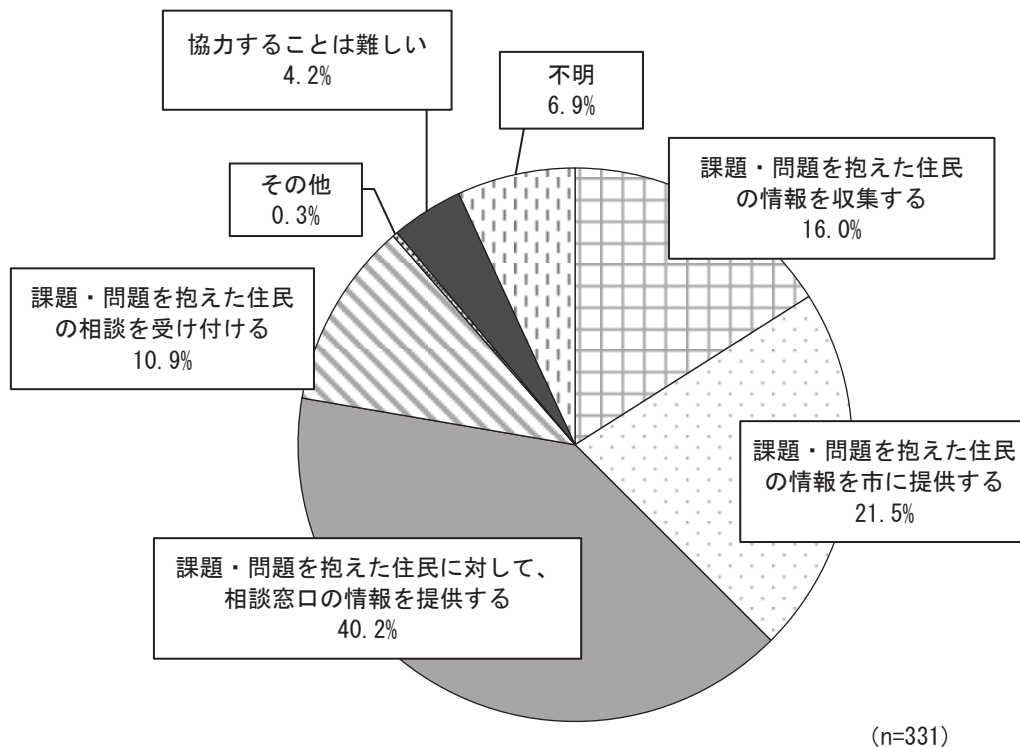
7.調査結果の詳細／福祉委員

㊸ 課題・問題を抱えた市民発見への協力

問28 相談支援体制を整備する中においては、課題・問題を抱えた市民を発見することも重要となります。福祉委員として協力できると考えられるものは何ですか。(〇は1つだけ)

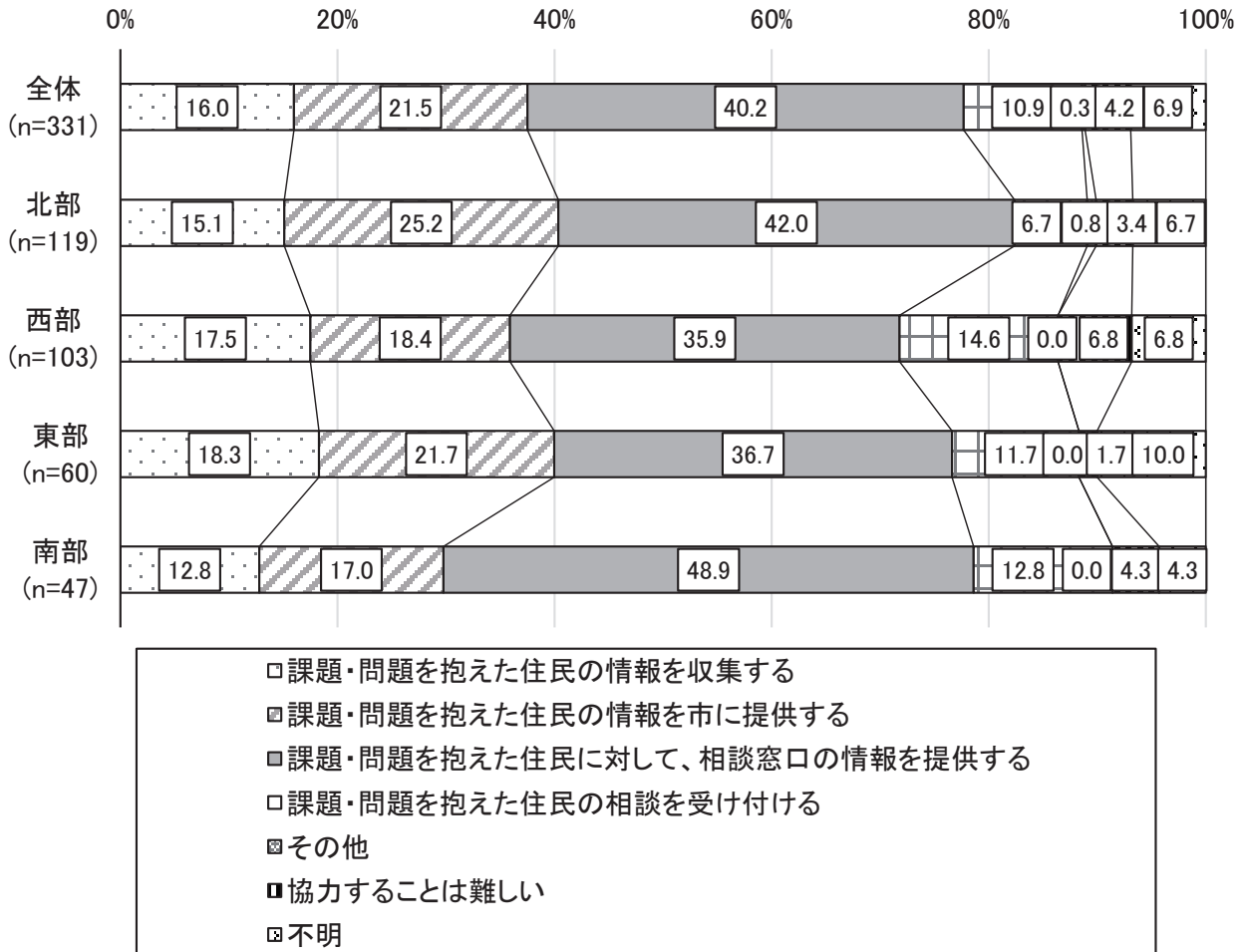
課題・問題を抱えた市民発見への協力をみると、「課題・問題を抱えた住民に対して、相談窓口の情報を提供する」が40.2%で最も多く、次いで「課題・問題を抱えた住民の情報を市に提供する」が21.5%、「課題・問題を抱えた住民の情報を収集する」が16.0%となっている。

図表 422 課題・問題を抱えた市民発見への協力



活動・所属地区別にみると、「課題・問題を抱えた住民に対して、相談窓口の情報を提供する」は「南部(48.9%)」、「課題・問題を抱えた住民の情報を市に提供する」は「北部(25.2%)」、「課題・問題を抱えた住民の情報を収集する」は「東部(18.3%)」が最も多くなっている。

図表 423 課題・問題を抱えた市民発見への協力(活動・所属地区別)



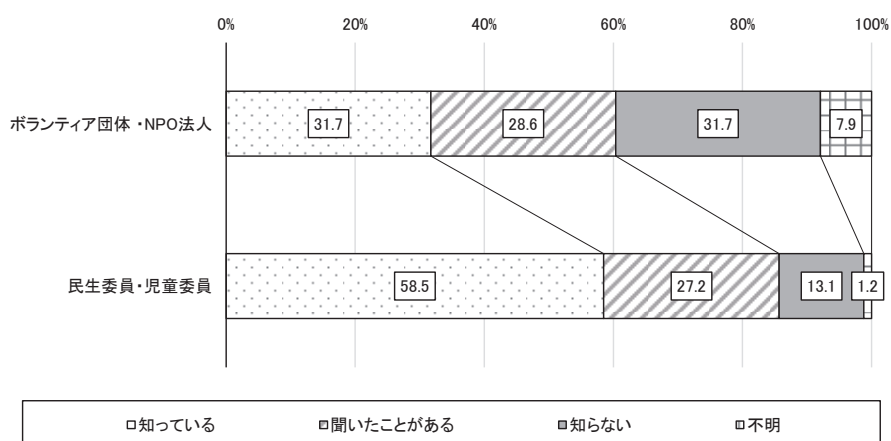
8. ボランティア団体・NPO 法人、 民生委員・児童委員、福祉委員の比較

8. ボランティア団体・NPO 法人、民生委員・児童委員、福祉委員の比較

ボランティア団体・NPO 法人、民生委員・児童委員、福祉委員を対象としたアンケートの中で、設問や選択肢が一致しているものについて比較を行った。

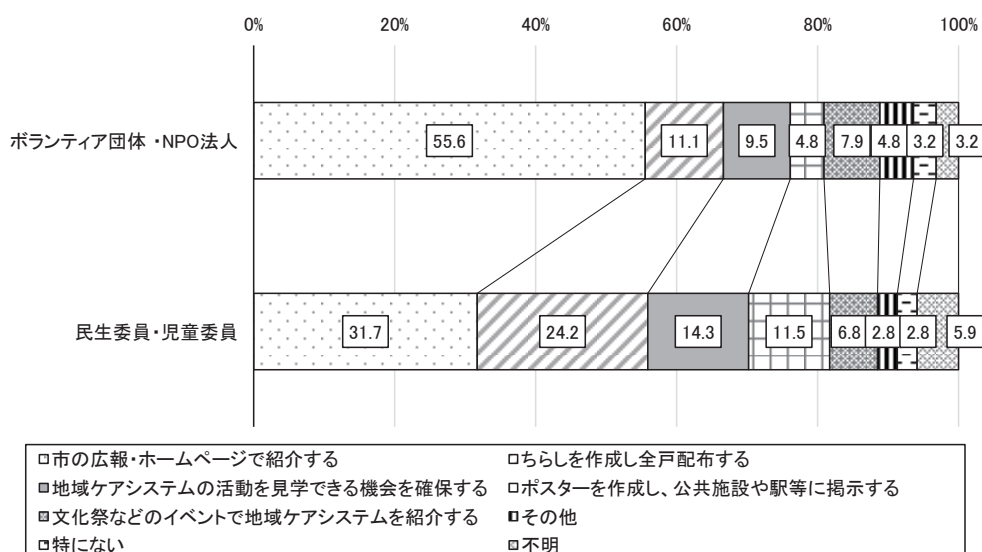
団体・法人	民生委員・児童委員	設問項目
問 19	問 21	地域ケアシステムの認知度

図表 424 地域ケアシステムの認知度(対象比較)



団体・法人	民生委員・児童委員	設問項目
問 23	問 26	地域ケアシステムの周知に必要な取り組み

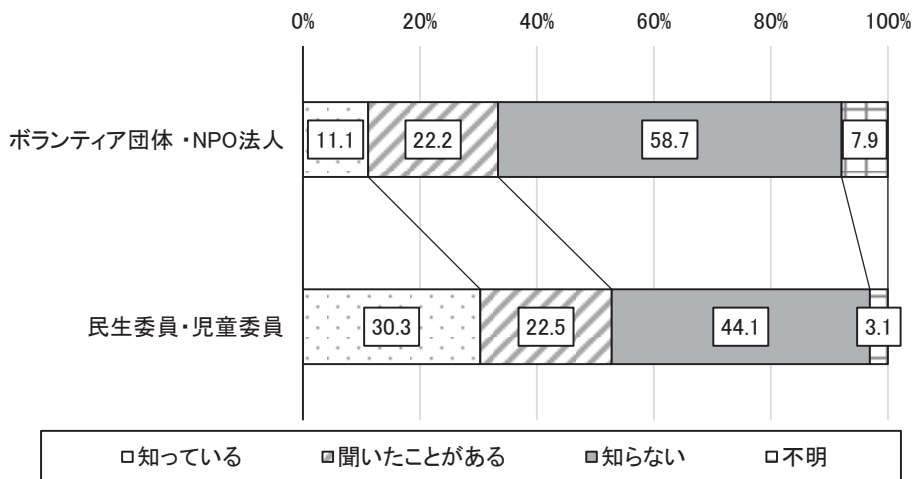
図表 425 地域ケアシステムの周知に必要な取り組み(対象比較)



8. ボランティア団体・NPO 法人、民生委員・児童委員、福祉委員の比較

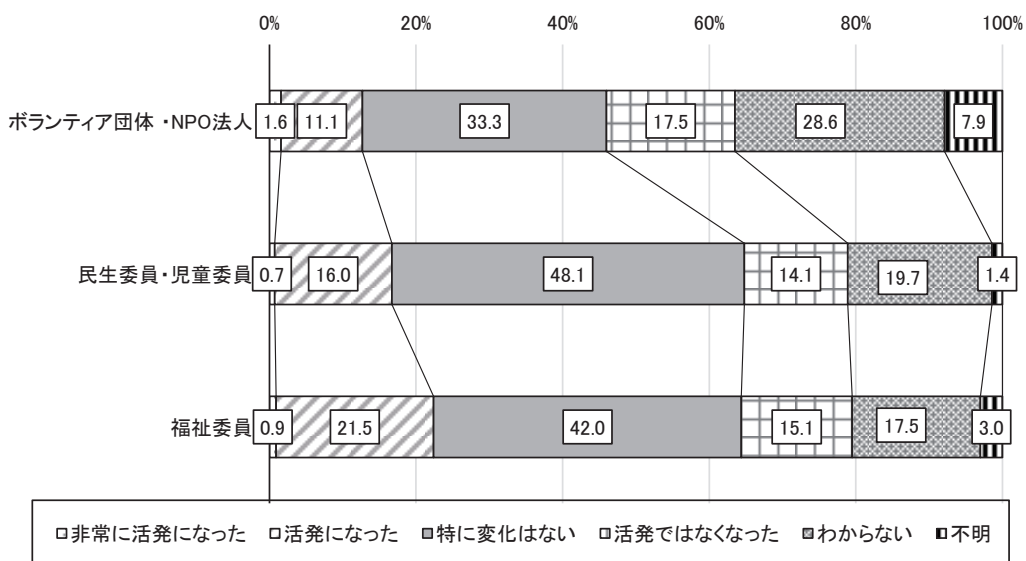
団体・法人	民生委員・児童委員	設問項目
問 24	問 27	コミュニティワーカー配置の認知状況

図表 426 コミュニティワーカー配置の認知状況(対象比較)



団体・法人	民生委員・児童委員	福祉委員	設問項目
問 26	問 29	問 19	以前と比べて自身の活動区域における地域福祉の変化

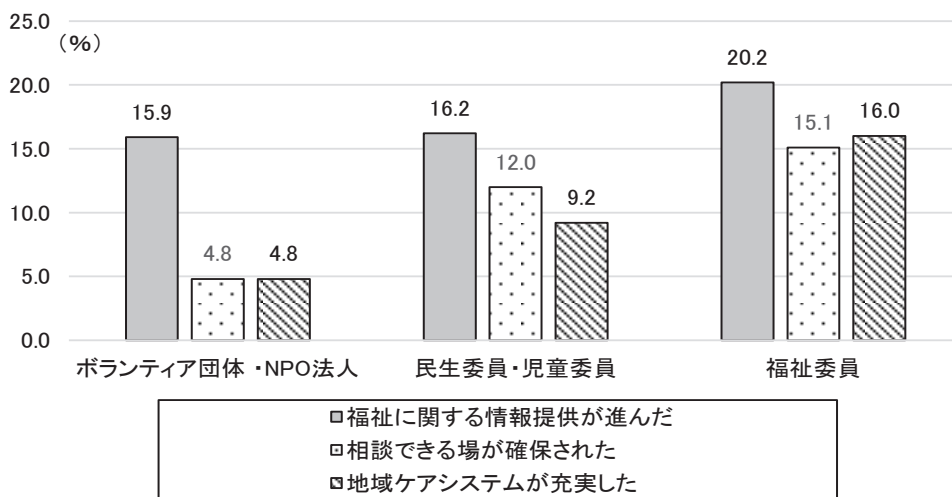
図表 427 以前と比べて自身の活動区域における地域福祉の変化(対象比較)



8. ボランティア団体・NPO 法人、民生委員・児童委員、福祉委員の比較

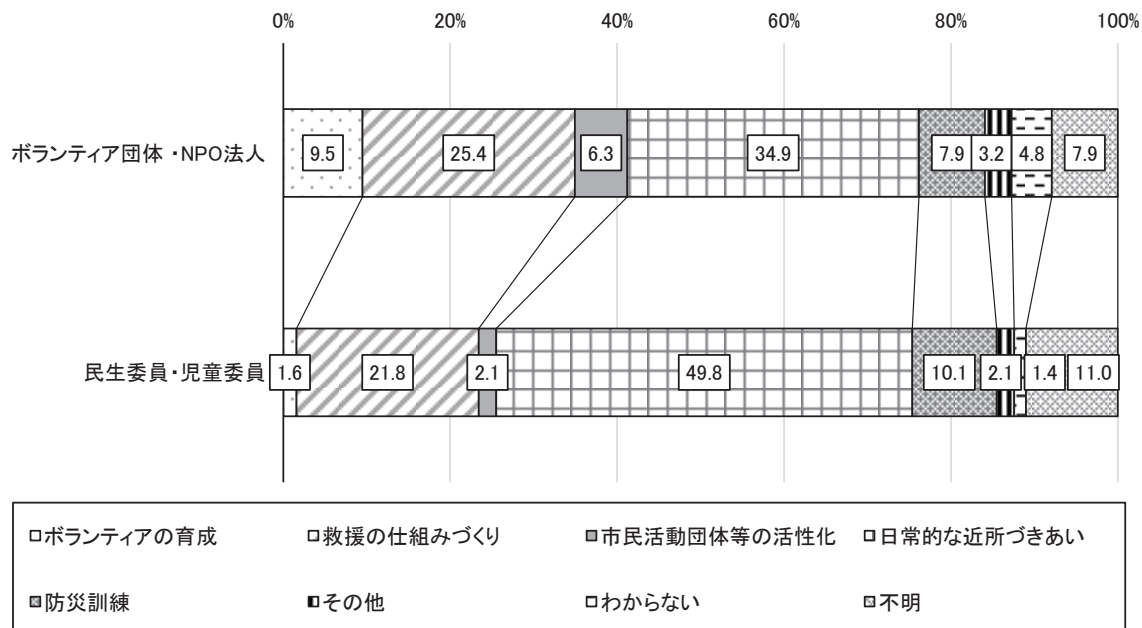
団体・法人	民生委員・児童委員	福祉委員	設問項目
問 27	問 30	問 20	以前と比べて活動地域において推進された地域福祉

図表 428 以前と比べて活動地域において推進された地域福祉(対象比較)



団体・法人	民生委員・児童委員	設問項目
問 29	問 34	災害時における助け合いのために必要な日常的取り組み

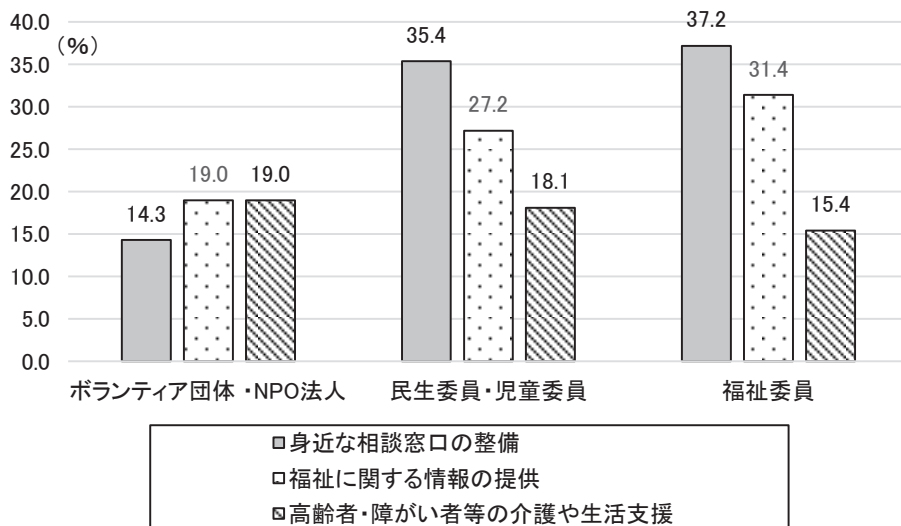
図表 429 災害時における助け合いのために必要な日常的な取組み(対象比較)



8. ボランティア団体・NPO 法人、民生委員・児童委員、福祉委員の比較

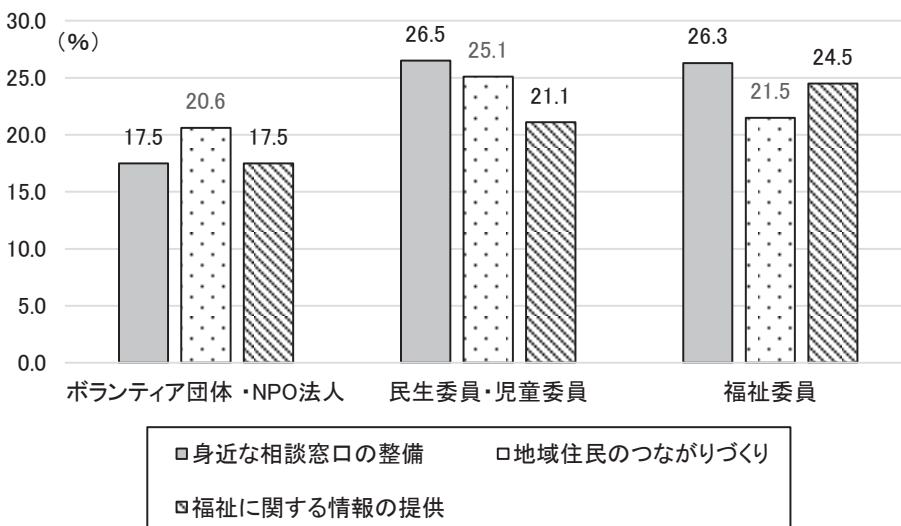
団体・法人	民生委員・児童委員	福祉委員	設問項目
問 30	問 38	問 25	地域福祉の充実のため市が優先的に取り組むべきこと

図表 430 地域福祉の充実のため市が優先的に取り組むべきこと(対象比較)



団体・法人	民生委員・児童委員	福祉委員	設問項目
問 31	問 39	問 26	地域や民間の団体・事業者等が積極的に取り組むべきこと

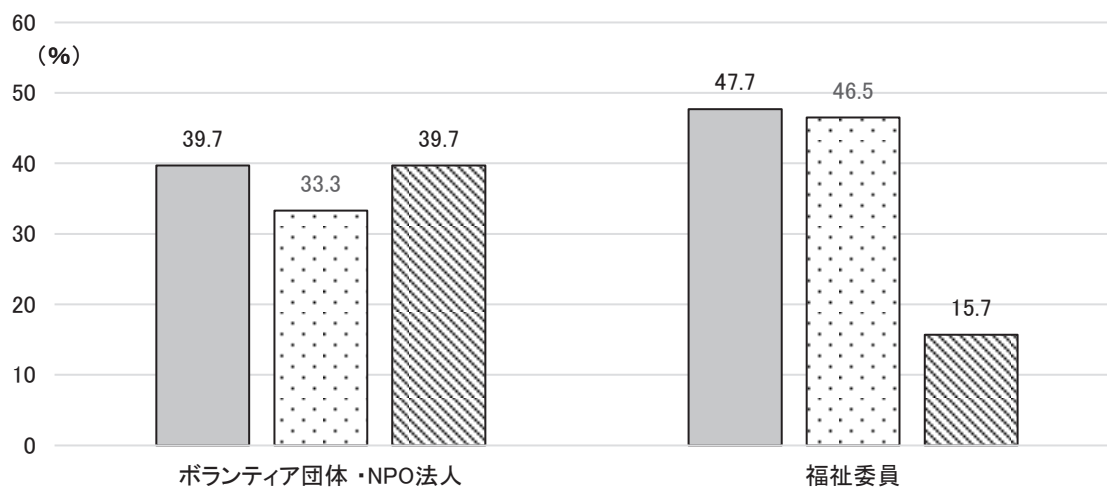
図表 431 地域や民間の団体・事業者等が積極的に取り組むべきこと(対象比較)



8. ボランティア団体・NPO 法人、民生委員・児童委員、福祉委員の比較

団体・法人	福祉委員	設問項目
問 32	問 13	地域で支えあう仕組みづくりのため必要なもの

図表 432 地域で支えあう仕組みづくりのため必要なもの(対象比較)

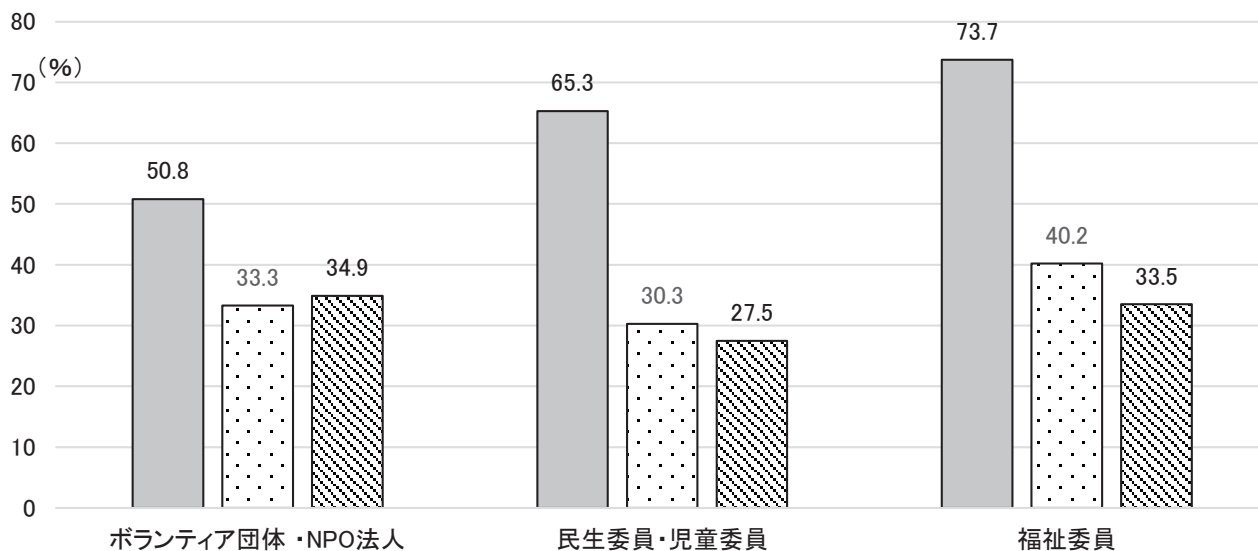


- 支えあう活動への参加方法をPR・確立する
- 組織、団体、市民が知り合う機会や活動する場所を確保する
- 支えあう仕組み(活動やプロジェクト)を立ち上げ、助成金で支援する

8. ボランティア団体・NPO 法人、民生委員・児童委員、福祉委員の比較

団体・法人	民生委員・児童委員	福祉委員	設問項目
問 33	問 37	問 14	地域福祉を推進する地域の人材(担い手)を増やすために必要なこと

図表 433 地域福祉を推進する地域の人材(担い手)を増やすために必要なこと(対象比較)

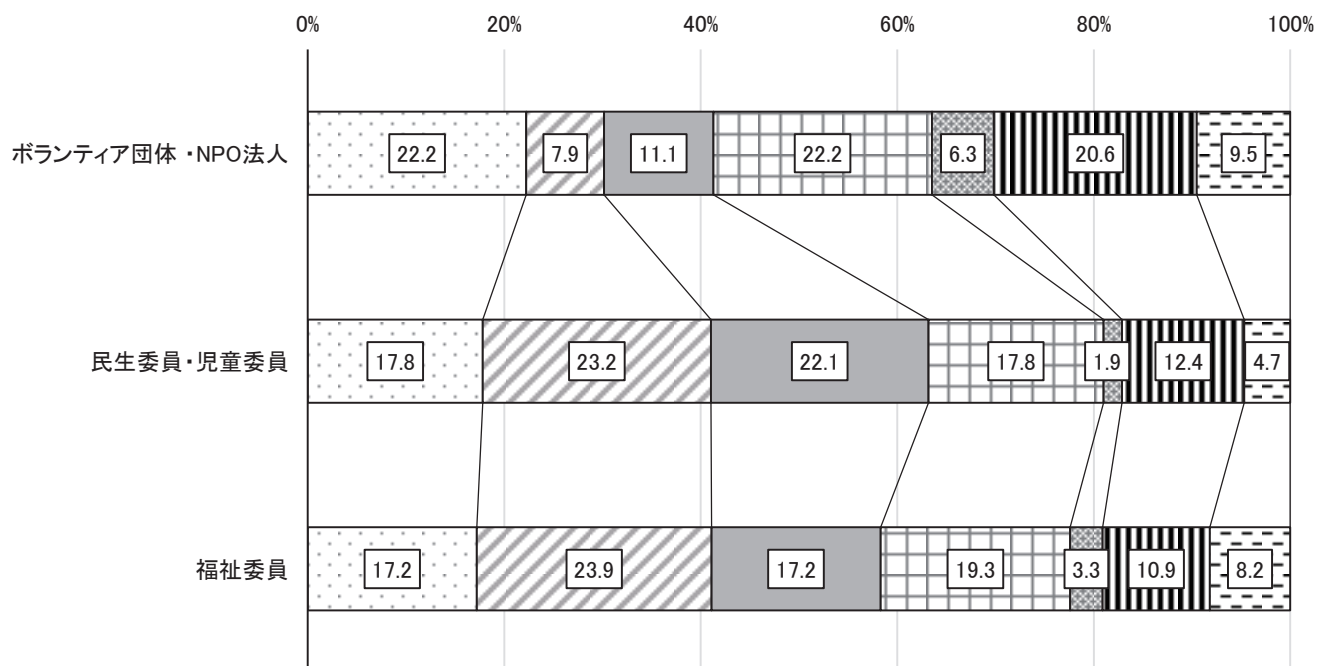


- 気軽に集まれる場の設定や催し物、行事を通じて、地域の福祉活動への協力を呼び掛ける
- 地域で福祉に関する勉強会を実施するなど、地域福祉活動の重要性をPRする
- 学校で福祉に関する教育を一層充実させる

8. ボランティア団体・NPO 法人、民生委員・児童委員、福祉委員の比較

団体・法人	民生委員・児童委員	福祉委員	設問項目
問 34	問 40	問 27	地域共生社会に向け市が力を入れて取り組むべきこと

図表 434 地域共生社会に向け市が力を入れて取り組むべきこと(対象比較)

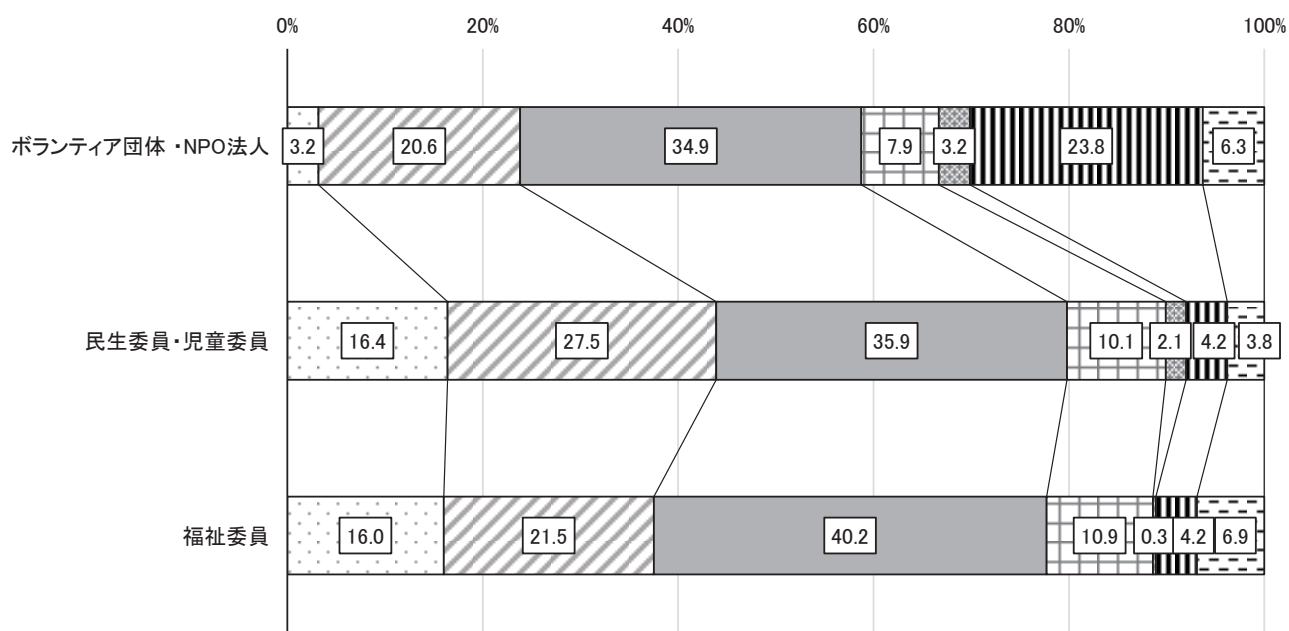


- 市役所に総合的な相談を受け付けられる窓口を設置する
- 身近な地域において相談を受け付けられる機能を充実させる
- 相談に行けない(行かない)市民の発見手法を確立させる
- 相談から支援に結び付けられるよう関係者のネットワークを充実させる
- 課題を解決するために、多様なサービスや社会資源を開発する
- 相談しやすいように窓口等の開設時間や相談受付の方法(SNSなどの利用等)を改善させる
- 不明

8. ボランティア団体・NPO 法人、民生委員・児童委員、福祉委員の比較

団体・法人	民生委員・児童委員	福祉委員	設問項目
問 35	問 41	問 28	課題・問題を抱えた市民発見への協力

図表 435 課題・問題を抱えた市民発見への協力(対象比較)



- 課題・問題を抱えた住民の情報を収集する
- 課題・問題を抱えた住民の情報を市に提供する
- 課題・問題を抱えた住民に対して、相談窓口の情報を提供する
- 課題・問題を抱えた住民の相談を受け付ける
- その他
- 協力することは難しい
- 不明

市川市地域福祉計画策定のためのアンケート調査報告書

発行 令和4年12月

発行者 市川市福祉部福祉政策課

〒272-8501 千葉県市川市八幡1丁目1番1号

電話 047-334-1111(代表)

FAX 047-712-8741

ホームページ <https://www.city.ichikawa.lg.jp/>

